新潟県埋蔵文化財調査報告書　第150集

上信越自動車道関係発掘調査報告書XVII

海　道　遺　跡
大　塚　遺　跡

２００５

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

上信越自動車道関係発掘調査報告書XVII

海道（かいどう）遺跡
大塚（おおつか）遺跡

２００５

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

上信越自動車道は、首都圏と上越地方を結ぶ幹線道路として、群馬県藤岡ジャンクションから分岐し、群馬県・長野県を経て新潟県上越市に至る全長203kmの高速自動車道です。平成11年10月には全線が開通しました。これによって、関越・磐越自動車道と並び、日本海側と太平洋側を結ぶ大動脈として、沿線地域の発展に多大な効果をもたらしています。

新潟県教育委員会は、昭和63年度から建設用地内の埋蔵文化財について調査を開始し、平成７年度には、長野県境～中郷インターチェンジ間の発掘調査を、平成９年度には上越ジャンクション～中郷インターチェンジ間の発掘調査を終了して、県内全線の調査業務を完了しました。

本書は、上信越自動車道建設用地内において、平成７・８年度に調査を行った海道遺跡と平成７～９年度に調査を行った大塚遺跡の発掘調査報告書です。海道遺跡は、山裾に営まれた古代と中世・近世集落遺跡で、断続するものの現代まで集落が営まれていたことがわかりました。また大塚遺跡は旧石器時代から中世に至る遺物が出土し、各時代によって遺跡の性格が異なっていることが明らかとなりました。特に縄文時代早期～前期にかけての遺構・遺物が多く、最近増加しつつある上越地域における当該期の知見に新たな資料を加えることができました。

今回の調査成果が、当地域の歴史を解明するための資料として広く活用され、埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に際して、多大なご理解とご協力を賜った上越市教育委員会をはじめ、日本道路公団新潟建設局（現、日本道路公団北陸支社）・同上越工事事務所に対して厚く御礼申し上げます。

平成17年８月

新潟県教育委員会

教育長　武　藤　克　己

例　　言

1　本書は新潟県上越市大字向橋字海道1031－1ほかに所在する海道遺跡と上越市大字灰塚字大塚834－1ほかに所在する大塚遺跡の発掘調査記録の合冊である。

2　発掘調査は上信越自動車道の建設に伴い、新潟県が日本道路公団から受託して実施したものである。

3　発掘調査は新潟県教育委員会（以下、県教委）が調査主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）が、平成７・８年度（海道遺跡）、平成７～９年度（大塚遺跡）にそれぞれ調査を実施した。

4　整理および報告に係る一連の作業は平成16年度に実施し、埋文事業団職員がこれにあたった。

5　出土遺物と整理に係る資料は全て県教委が保管・管理している。遺物の註記記号は海道遺跡が「カイ」、大塚遺跡が「オツカ」とし、出土地点・層位などを併記した。

6　両遺跡のグリッド杭の打設は有限会社中郷測量に委託した。また、海道遺跡の空中写真による遺構測量・地山面の地形測量は株式会社オリスに委託した。

7　本書で示す北方位は日本平面直角座標第Ⅷ系（旧座標）のＸ軸方向を示す。

8　作成した挿図・図版のうち、既存の図を使用した場合はそれぞれにその出典を記した。

9　掲載した遺物の番号は、全て通し番号（海道遺跡：１～382、大塚遺跡：401～909）とし、遺物の実測図版と写真図版の番号は一致している。

10　引用参考文献は、著者及び発行年を文中に［　　］で示し、巻末に一括して掲載した。

11　本書の執筆は高橋保（調査課整理担当課長代理）が担当したが、両遺跡の遺構各説については、発掘調査者の遺構カードに基づいた。

12　本書作成・編集作業の一部は株式会社セビアスに委託した。詳細は第１章に記す。

13　海道遺跡については、『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』［石川1997］［島田1998］、大塚遺跡につては、『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』［山田1997］［山崎1998］［杉田1999］にそれぞれ記載されているが、本書の記述をもって、正式な報告とする。

14　海道遺跡の遺物のうち、古代土師器・須恵器に関しては、笹澤正史氏（上越市教育委員会）、輸入陶磁器に関しては山本信夫氏（金沢大学）、珠洲焼に関しては、吉岡康暢氏、藤田邦雄氏・小島芳孝氏・岩瀬由美氏（以上石川県埋蔵文化財センター）、向井裕知氏（金沢市埋蔵文化財センター）、大安尚寿氏（珠洲市立珠洲焼資料館）、中世土師器に関しては水澤幸一氏（中条町教育委員会）、近世陶磁器に関しては渡邊ますみ氏（新潟市教育委員会）からそれぞれ土器の見方、年代観の指導を得、報告書に反映させた。なお、御指導いただいたのは遺物の一部であり、記載内容全体についての責任は高橋にある。

15　大塚遺跡の遺物のうち、縄文土器に関しては、小熊博史氏（長岡市教育委員会）・遠藤佐氏（上川村教育委員会）、弥生土器に関しては石川日出志氏（明治大学）からそれぞれ御指導を得、報告書に反映させた。なお、御指導いただいたのは遺物の一部であり、記載内容全体についての責任は高橋にある。

16　両遺跡の石器・石製品の石材については、竹之内耕氏（糸魚川市フォッサマグナミュージアム）から鑑定いただいた。

17　本書で使用している市町村名は平成16年段階のものである。

18　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大な御教示を賜った。厚く御礼申し上げる（敬称略五十音順）

石川日出志　岩瀬　由美　遠藤　佐　大安　尚寿　小熊　博史　小島　幸雄　小島　芳孝
笹澤　正史　竹之内　耕　藤田　邦雄　水澤　幸一　向井　裕知　吉岡　康暢　山本　信夫
渡邊ますみ

目　　次

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査及び体制 …… 2

A　海道遺跡 …… 2

1）二次調査の経過 …… 2　　2）調査体制 …… 2

B　大塚遺跡 …… 3

1）一次調査 …… 3　　2）二次調査の経過 …… 4

3）調査体制 …… 5

3　整理及び体制 …… 5

A　経　　過 …… 5

B　整理体制 …… 6

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　地理的環境 …… 7

2　高田平野及び関川流域の遺跡分布 …… 8

第Ⅲ章　海道遺跡

1　調査の概要 …… 12

A　グリッドの設定 …… 12

B　基本層序 …… 12

2　遺　　構 …… 14

A　概　　要 …… 14

B　遺構各説 …… 14

1）掘立柱建物 …… 14　　2）井　　戸 …… 15

3）土　　坑 …… 22　　4）溝 …… 25

5）Ⅶ層溝群 …… 27

3　遺　　物 …… 27

A　古代土器 …… 27

1）器種分類 …… 27　　2）遺構出土土器 …… 30

3）包含層出土土器 …… 31

B　中世土器 …… 32

1）器種分類 …… 32　　2）遺構出土土器 …… 34

3）包含層出土土器 …… 35

C　近世土器 …… 35

1）遺構出土土器 …… 35　　2）包含層出土土器 …… 36

D　石　製　品 …… 36

1）遺構出土 …… 36　　2）包含層出土 …… 37

E　木　製　品 …… 37

1）遺構出土 …… 37　　2）そ　の　他 …… 38

F　土製品・金属製品 …… 39

4　自然科学分析 …… 39
A　木製品の樹種 …… 39
1）試　　料 …… 39　2）分析方法 …… 39
3）結　　果 …… 40　4）考　　察 …… 42
B　種実遺体 …… 43
1）試　　料 …… 43　2）分析方法 …… 43
3）結　　果 …… 44　4）考　　察 …… 44

5　ま　と　め …… 48
A　遺　　構 …… 48
1）古　　代 …… 50　2）中　　世 …… 50
3）近　　世 …… 53
B　遺　　物 …… 53
1）古　　代 …… 53　2）中　　世 …… 55
3）近　　世 …… 58　4）井戸に廃棄された種実について …… 58

第Ⅳ章　大塚遺跡

1　調査の概要 …… 60
A　グリッドの設定 …… 60
B　基本層序 …… 60

2　遺　　構 …… 61
A　概　　要 …… 61
B　遺構各説 …… 61
1）縄文時代 …… 61　2）古代以降 …… 63

3　遺　　物 …… 64
A　旧石器時代 …… 64
B　縄文時代 …… 64
1）土　　器 …… 64　2）土　製　品 …… 68
3）石　　器 …… 68
C　古墳時代 …… 73
1）遺構出土 …… 73　2）包含層出土 …… 73
D　古　　代 …… 73
1）包　含　層 …… 73　2）97SK17（須恵器窯跡）…… 73
E　中　　世 …… 74

4　ま　と　め …… 74
A　遺　　構 …… 74
B　遺　　物 …… 75
1）土　　器 …… 75　2）石　　器 …… 78
3）有孔球状土製品 …… 79

《要　　約》 …… 80

《引用・参考文献》 …… 81

表　目　次

［海道遺跡］
第 1 表　古代土器器種分類表 ……28
第 2 表　中世土器器種分類表 ……32
第 3 表　木製品の時期別・器種別種類構成表 ……42
第 4 表　種実同定結果 ……44
第 5 表　出土遺物から見た遺構の年代 ……48
第 6 表　包含層遺物量集計表 ……49
第 7 表　井戸出土種実等一覧 ……59
［大塚遺跡］
第 8 表　縄文土器分類表 ……65
第 9 表　出土石器組成表 ……68
第10表　石材別石器組成表 ……69
第11表　石器の用途別構成 ……78

別　　表
［海道遺跡］
別表 1　海道遺跡　遺構一覧表
別表 2　海道遺跡　掲載遺物観察表（土器・土製品）
別表 3　海道遺跡　掲載遺物観察表（木製品）
別表 4　海道遺跡　掲載遺物観察表（石器・石製品・金属製品等）
［大塚遺跡］
別表 5　大塚遺跡　遺構一覧表
別表 6　大塚遺跡　掲載遺物観察表（縄文・弥生）
別表 7　大塚遺跡　掲載遺物観察表（石器）
別表 8　大塚遺跡　掲載遺物観察表（古墳以降）

挿図目次

［海道遺跡］
第 1 図　遺跡位置図 ……1
第 2 図　大塚遺跡一次調査トレンチ設定図 ……3
第 3 図　大塚遺跡各年度別調査区 ……4
第 4 図　遺跡周辺の地形 ……7
第 5 図　高田平野及び関川流域の遺跡分布 ……9
第 6 図　グリッド設定図 ……12
第 7 図　基本土層断面図 ……13
第 8 図　古代土器器種分類図 ……29
第 9 図　中世土器器種分類図 ……33
第10図　種実遺体 ……45
第11図　検出樹種の顕微鏡写真（1）……46
第12図　検出樹種の顕微鏡写真（2）……47
第13図　包含層出土土器量分布図（1）……51
第14図　包含層出土土器量分布図（2）……52
第15図　遺構資料からみた古代の土器 ……54
第16図　遺構資料から見た中世の土器 ……57
第17図　SE420出土クリ法量分布図 ……58
［大塚遺跡］
第18図　グリッド設定図 ……60
第19図　基本土層断面図 ……61
第20図　時期別出土土器分布図 ……65
第21図　周辺の沈線文系土器 ……75

図版目次

［図　面］
海道遺跡
図版 1　遺構全体図
図版 2　95年度遺構分割図1
図版 3　95年度遺構分割図2
図版 4　95年度遺構分割図3
図版 5　95年度遺構分割図4
図版 6　96年度Ⅵ層遺構分割図
図版 7　96年度Ⅶ層遺構分割図
図版 8　遺構個別図1　SB1～SB5
図版 9　遺構個別図2　SB9・SB10
図版10　遺構個別図3　SB6～SB8・SB11
図版11　遺構個別図4　SE50・SE100・SE130・SE346・SE347・SE385
図版12　遺構個別図5　SE420・SE430・SE456・SE476・SE487・SE490
図版13　遺構個別図6　SE496・SE550・SE560・SE580・SE590・SE600・SE610
図版14　遺構個別図7　SE620・SE630・SE650・SE660・SE670・SE900・SE1240
図版15　遺構個別図8　SE1110・SE1120・SE1241・SE1244～SE1246
図版16　遺構個別図9　SE1247～SE1250・SE1260・SK1261・SE1364・SE1365・SE1385
図版17　遺構個別図10　SE1386・SE1387・

SE1389・SE1390・SE1391・SE1500・SE1502～SE1504
図版18　遺構個別図11　SE1514・SE1711～SE1713・SE1717～SE1719
図版19　遺構個別図12　SE1720・SE1728・SE1731・SE1732・SK401・SK403・SK475・SK1130・SK1243
図版20　遺構個別図13　SK1384・SK1388・SK1392・SK1393・SK1505・SK1508・SK1510・SK1512・SK1515・SK1607・SK1706・SX1701
図版21　遺構個別図14　SX1702・SK1707・SK1708・SK1714・SK1715・SK1722・SK1723・SK1820・SK1821・SD480・SD700・SD1751・SD1752・SD1753
図版22　古代の土器1　遺構
図版23　古代の土器2　遺構
図版24　古代の土器3　遺構
図版25　古代の土器4　遺構
図版26　古代の土器5　遺構
図版27　古代の土器6　遺構・包含層
図版28　古代の土器7　包含層
図版29　中世の土器1　遺構
図版30　中世の土器2　遺構
図版31　中世の土器3　遺構・包含層
図版32　中世の土器4　包含層
図版33　近世の遺物1
図版34　近世の遺物2・石製品1
図版35　石製品2
図版36　木製品1　遺構
図版36　木製品2　遺構
図版37　木製品3　遺構
図版39　木製品4　遺構
図版40　木製品5　遺構他
図版41　木製品6　遺構他・土製品・金属製品他

大塚遺跡

図版42　遺構全体図
図版43　遺構分割図1
図版44　遺構分割図2
図版45　遺構個別図1　95SI1
図版46　遺構個別図2　96SK1・96SK2・97SK4・97SK8・97SK9・97SK12・97SK96・97SK110・97SK117
図版47　遺構個別図3　95SK2～95SK8・95SK10・97SK102
図版48　遺構個別図4　95SK11・96SK3・97SK98・97SK108・97SK109・96SD2・97SD13・97SD18
図版49　遺構個別図5　須恵器窯1
図版50　遺構個別図6　須恵器窯3・95SK9・97SK111・97SI10・97SI137
図版51　縄文土器1　遺構・包含層
図版52　縄文土器2　包含層
図版53　縄文土器3　包含層
図版54　縄文土器4　包含層
図版55　縄文土器5　包含層
図版56　縄文土器6　包含層
図版57　縄文時代の土製品・縄文時代の石器1
図版58　縄文時代の石器2
図版59　縄文時代の石器3
図版60　縄文時代の石器4
図版61　縄文時代の石器5
図版62　縄文時代の石器6
図版63　縄文時代の石器7
図版64　縄文時代の石器8
図版65　縄文時代の石器9
図版66　縄文時代の石器10
図版67　縄文時代の石器11・旧石器時代の石器
図版68　古墳時代以降の土器1
図版69　古墳時代以降の土器2
図版70　古墳時代以降の土器3

［写　真］

海道遺跡

図版71　95年度遺跡航空写真・96年度Ⅵ層遺跡完掘状況
図版72　96年度Ⅶ層遺跡完掘状況　SX1701
図版73　SE50・SE100・SE130・SE346
図版74　SE346・SE347・SE385・SE420
図版75　SE430・SE456・SE476
図版76　SE476・SE487・SE490・SE496
図版77　SE496・SE550・SE560
図版78　SE580・SE590・SE600・SE610
図版79　SE610・SE620・SE630・SE650
図版80　SE650・SE660・SE670・SE900
図版81　SE900・SE1110・SE1120・SE1240
図版82　SE1241・SE1244・SE1245・SE1246
図版83　SE1246～SE1250
図版84　SE1260・SE1364・SE1365・SE1385
図版85　SE1385～SE1387・SE1389
図版86　SE1390・SE1500～SE1502
図版87　SE1503・SE1504・SE1514・SE1711・SE1712
図版88　SE1712・SE1713・SE1717・SE1718

図版89　SE1719・SE1720・SE1728・SE1731
図版90　SE1731・SE1732・SK401・SK403
図版91　SK403・SK475・SK1130・SK1243・SK1388
図版92　SK1384・SK1388・SK1392・SK1393・SK1505・SK1508
図版93　SK1510・SK1607・SX1701
図版94　SX1701・SX1702
図版95　SK1706A・SK1707・SK1708・SK1714・SK1715
図版96　SK1715・SK1722・SK1723・SK1820
図版97　SK1821・SD480・SD700・SD1751
図版98　SD1752・SD1753・Ⅶ層溝群
図版99　古代の土器１　遺構
図版100　古代の土器２　遺構
図版101　古代の土器３　遺構
図版102　古代の土器４　遺構・包含層
図版103　古代の土器５　包含層　中世の土器１　遺構
図版104　中世の土器２　遺構
図版105　中世の土器３　遺構・包含層
図版106　中世の土器４　包含層　近世の遺物１
図版107　近世の遺物２・石製品
図版108　木製品１　遺構
図版109　木製品２　遺構
図版110　木製品３　遺構
図版111　木製品４　遺構他・土製品・金属製品
図版112　種実・ガラス製品
大塚遺跡
図版113　遺跡遠景、調査前状況
図版114　95SI1
図版115　97SK4・97SK8・97SK9・97SK12
図版116　97SK110・97SK117・96SK1
図版117　96SK2・97SK96・95SK3
図版118　95SK4・95SK7・95SK8・95SK10
図版119　95SK2・95SK5・95SK6・97SK102
図版120　97SK98・97SK108・97SK109
図版121　95SK11・96SK3・97SI10
図版122　95SK9・97SK111・97SK137・96SD2・97SD18
図版123　97SD13・97SD18・95全体完掘状況・97礫出土状況・97土器出土状況・97旧石器確認作業
図版124　97SK17（須恵器窯跡）
図版125　97SK17（須恵器窯跡）
図版126　97SK17
図版127　縄文土器１　遺構・包含層
図版128　縄文土器２　包含層
図版129　縄文土器３　包含層
図版130　縄文土器４　包含層
図版131　縄文土器５　包含層　縄文時代の土製品・縄文時代の石器１
図版132　縄文時代の石器２
図版133　縄文時代の石器３
図版134　縄文時代の石器４
図版135　縄文時代の石器５・旧石器時代の石器・古墳時代以降の土器１
図版136　古墳時代以降の土器２
図版137　古墳時代以降の土器３

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

上信越自動車道は、群馬県藤岡ジャンクションから新潟県上越ジャンクションの間、総延長203kmにわたる高速自動車道である。本路線は、関越自動車道と北陸自動車道とを結ぶ基幹輸送体系として、また、沿線地域の各種開発整備計画と関連して社会経済活動に大きな役割を果たすものとして期待された。

海道遺跡及び大塚遺跡のある上信越道第十一次施行命令区間（中郷村～上越市）は、昭和48年11月に基本計画が、平成元年１月に整備計画がそれぞれ決定され、平成２年に施行命令が出された。

それに伴い、県教育委員会は、日本道路公団からの依頼を受けて平成２年４月に当該区間の踏査を行った。その結果、周知の遺跡18・新発見遺跡10・遺跡推定地25か所を確認し、公団に通知した。

海道遺跡はこの時の新発見遺跡であり、平成３年度に周知化された。大塚遺跡は遺跡推定地No.13である。両遺跡は平成７年度の調査要望があり、発掘調査を実施した。

第１図　遺跡位置図

2　調査及び体制

A　海 道 遺 跡

海道遺跡は、先述のように踏査により発見され平成３年度に周知化された遺跡である。上信越道の一次調査、二次調査は道路公団要望に沿い順次行ってきたが、海道遺跡については、一次調査をまだ実施していない段階の平成６年度末に、平成７年度事業として急遽二次調査要望があがってきた。踏査段階で地形的に遺跡範囲がほぼ特定できたこと、深さについてもゴミ穴等からおよそ推定できたこと、時間的・人的余裕もないことから一次調査は実施せず最初から二次調査とし、平成７年４月～９月まで調査を実施した。調査面積は4,200m^{2}である。

平成８年度当初には、調査を終了した本線部分の脇に工事用道路を設置することが明らかとなり、そこの部分約600m^{2}も本調査を実施することとなった。

1）二次調査の経過

平成７年度

４月中旬までに諸準備を行い、４月24日から本調査に着手した。確認調査を行っていないこともあり、まずグリッドにあわせて４か所にトレンチを設定し、調査を行った。全てのトレンチで遺物が出土し、遺構確認面までの平均深度は30cmくらいと浅いことが確認された。その後、北側から順次表土、包含層掘削に入った。表土掘削には、重機も併用した。表土・包含層掘削は８月上旬に終了し、遺構発掘に入った。包含層掘削が終了した地点から遺構確認、遺構発掘に入ったが、全域にわたり柱穴・井戸が多く確認された。特に井戸が多かったことから調査に時間を要した。10月からは、次の得法寺跡の発掘調査が予定されており、遺構測量が追いつかないことが懸念されたことから、航空測量を導入することとし、９月19日に測量のための航空写真撮影を行った。調査は予定通り、９月22日に終了した。

平成８年度

平成８年度は、西側の工事用道路部分である。調査は６月５日から開始した。重機による表土剥ぎの後包含層掘削に入った。層序確認のトレンチ調査の結果、遺構確認面が２枚存在することが明らかとなった。両面ともに平安時代と思われた。層序に則り上面から調査を進めた。遺構は昨年度同様、柱穴・井戸が多く検出された。８月末には上面の調査を大方終了し、９月から下層の調査に着手した。下層の遺構は比較的少なく、柱穴のほかは畝状の小溝であった。調査は、遺構実測・写真撮影も含め、９月いっぱいで終了した。

2）調 査 体 制

以下のとおりである。

	平成７年度	平成８年度
調 査 期 間	４月24日～９月22日	６月５日～10月２日
調 査 主 体	新潟県教育委員会（教育長　平野清明）	同　左
調　　査	（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　平野清明）	同　左
総　　括	藍原　直木（事務局長）	同　左
管　　理	山上　利雄（総務課長）	同　左
庶　　務	泉田　　誠（主事）	同　左

調査総括	亀井　　功（調査課長）	同 左
調査指導	藤巻　正信（調査第１係長）	同 左
調査担当	石川　智紀（文化財調査員）	藤巻　正信（調査第１係長）
調査職員	橋谷田裕治（主任調査員）	村木　　弘（主任調査員）
	金子　泰之（文化財調査員）	島田　昌幸（文化財調査員）

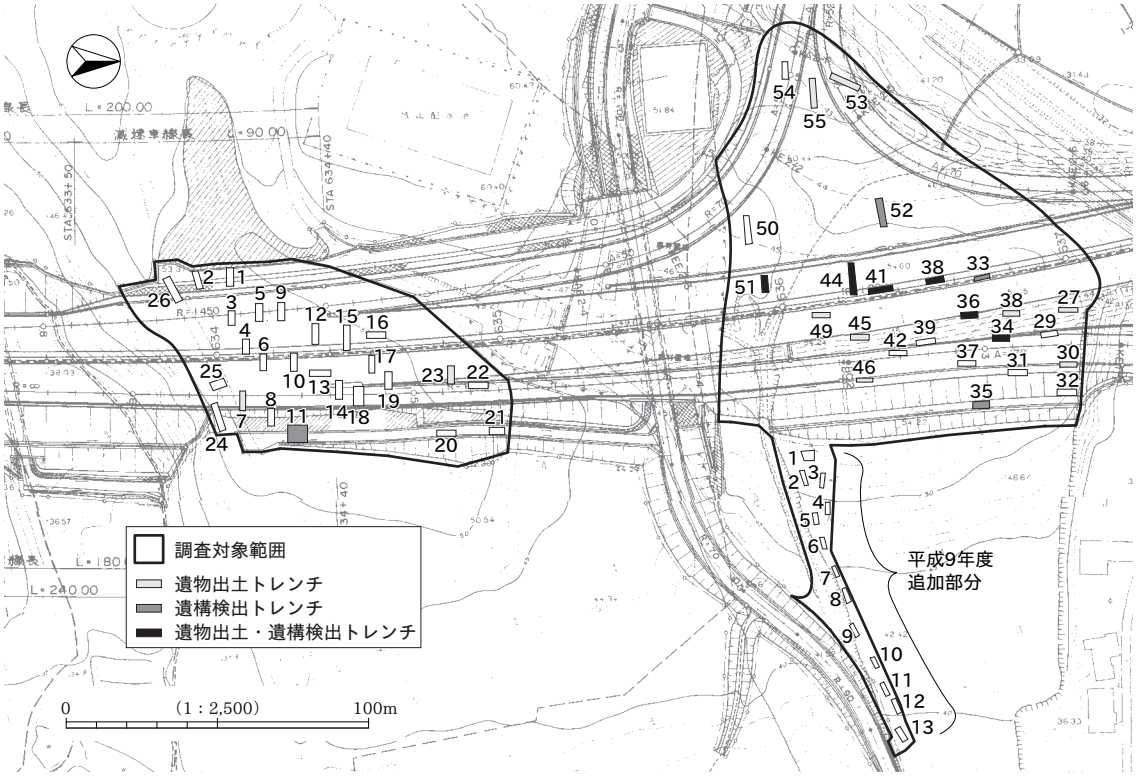
B　大塚遺跡

1）一次調査（第２図）

一次調査は、平成６年７月25日～８月10日の実質13日間行った。調査は、調査対象地20,800m^{2}に対して55か所の調査トレンチを設定して行った。合計の調査面積は1,040m^2（確認率５％）である。土層は比較的単純で、Ⅰ層：表土層、Ⅱ層：暗褐色～黒褐色土層、Ⅲ層：地山ローム層である。

当該地は、中央がやや低く鞍部となっており、大きくは南北に分かれる。南側で27か所のトレンチを調査したが、遺物は７トレンチで縄文土器２点・石器１点、23トレンチで土師器１点のみであった。11トレンチでは、ローム中に焼土らしきものを確認し、周辺を拡張したがほかに遺構、遺物を認めることはできなかった。

北側では、28か所のトレンチで調査を行った。調査の結果、半数以上のトレンチで遺構、遺物が確認された。遺構の確認されたのは33～35・38・44・47・48・51トレンチで、土坑、ピット等である。遺物は縄文時代の土器・石器、古墳時代の土師器、中世陶器、近世陶器等である。この一次調査の結果、北側については本発掘調査が必要と判断された。面積は約14,300m^{2}である。



第２図　大塚遺跡一次調査トレンチ設定図

2）二次調査の経過

平成７年度

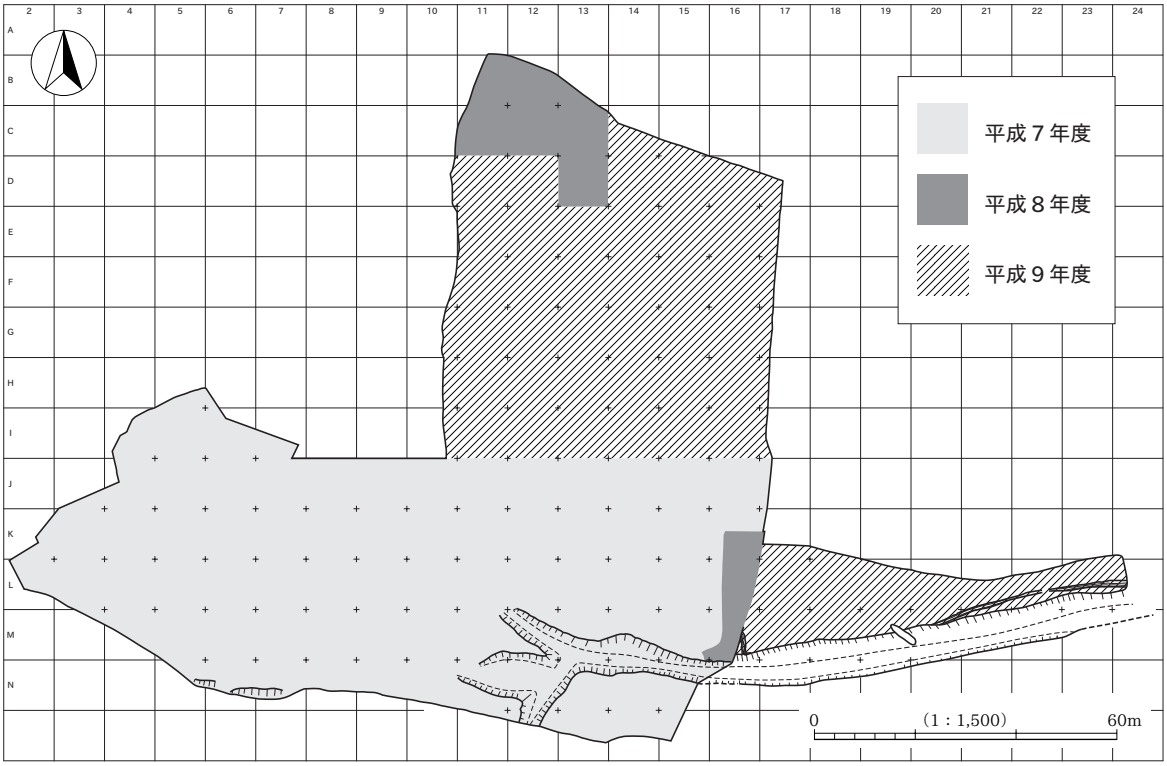
平成７年度の調査はＩ区より南側6,300m^{2}であった。８月に進入路の造成、伐木の処理等を行い、９月に入り、ユニットハウス、トイレの設置など諸準備を行った。本格的な調査は、13日から開始し、９・10M・Ｎ区から調査に入った。遺構は確認できず、遺物が限定的に出土したに過ぎない。９月後半には12～16J～Ｍ区の調査に入った。この調査区では縄文後期の竪穴住居や陥穴と考えられる土坑が検出された。10月も引き続き同区の調査を継続するとともに、一番西側の２～7H～Ｌ区の調査にも着手した。西側においても土坑が検出されたが、出土遺物は少なかった。10月後半にはほぼ発掘調査を終了し、全体写真・遺構実測を行って、11月10日に撤収した。

平成８年度

平成８年度は、調査面積712m^{2}と少なかった。調査は10月28日から開始した。調査区は２地区に分かれていたが並行して作業を進めた。北側（11～13B～Ｄ区）では、遺構遺物の出土は少なく、土坑が３基確認されたに過ぎない。南側（16K～Ｎ区）ではＬ字状に廻る溝が確認された。11月後半には調査を終了し遺構実測、写真撮影を行い12月４日に撤収した。

平成９年度

平成９年度には残りの5,710m^{2}を調査した。４月14日から調査に入った。当初予定になかった東側の迂回路が調査対象となったため、その部分の確認調査から入った。確認トレンチは13設定して行ったがいくつかのトレンチで遺構・遺物が検出されたため、ほぼ全域を本調査対象とした。本線部分に先行して、この迂回路部分の本調査を優先した。調査の結果、古代の住居跡や溝・土坑などを検出したが、97SK17



第３図　大塚遺跡各年度別調査区

とした土坑は、窯跡の可能性が強くなったため、調査員１名を増員し、その調査に当たった。調査の結果、古代の須恵器窯跡であることが判明し、調査はおよそ１か月、６月中旬に終了した。

本線部分は、７月からバックフォーによる表土剥ぎに入り、７月後半から人力による包含層掘削に移った。９月中旬には包含層掘削をほぼ終了し、遺構精査・発掘に入った。検出遺構はほとんどが縄文時代の土坑であったが、古代中世の遺物も出土している。遺構掘削、写真撮影、実測を順次行い、10月いっぱいでほぼ終了した。11月には旧石器時代を対象としたトレンチ調査を６日ほど行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。

3）調 査 体 制

以下のとおりである。

一次調査

	平成６年度
調 査 期 間	7月25日～8月10日
調 査 主 体	新潟県教育委員会（教育長　本間栄三郎）
調　　査	（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　本間栄三郎）
総　　括	藍原　直木（事務局長）
管　　理	渡辺　耕吉（総務課長）
庶　　務	泉田　　誠（主事）
調査総括	茂田井信彦（調査課長）
調査指導	藤巻　正信（調査第１係長）
調査担当	田海　義正（主任調査員）
調査職員	橋谷田裕治（主任調査員）

二次調査

	平成７年度	平成８年度	平成９年度
調 査 期 間	9月13日～11月10日	10月28日～12月4日	4月14日～11月14日
調 査 主 体	新潟県教育委員会（教育長　平野清明）	同左	同左
調　　査	（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　平野清明）	同左	同左
総　　括	藍原　直木（事務局長）	同左	須田　益輝（事務局長）
管　　理	山上　利雄（総務課長）	同左	若槻　勝則（総務課長）
庶　　務	泉田　　誠（主事）	同左	同左
調査総括	亀井　　功（調査課長）	同左	同左
調査指導	藤巻　正信（調査第１係長）	同左	同左
調査担当	小池　義人（主任調査員）	飯坂　盛泰（文化財調査員）	杉田　健一（主任調査員）
調査職員	山田　　聡（嘱託員）	滝沢　　誠（嘱託員）	吉澤　　環（主任調査員）
	清塚　則和（嘱託員）	山崎　忠良（嘱託員）	海津　　知（嘱託員）

3　整理及び体制

A　経　　過

両遺跡の出土遺物の水洗・註記作業は、各年度の発掘調査終了後に行った。しかし、海道遺跡の平成８年度分は、未註記であったため、平成16年度に委託して行った。また、大塚遺跡の土器、石器の実測作業の一部は、各調査年度に実施している。

整理作業は、平成16年度に埋蔵文化財センターにおいて実施した。２遺跡の合本であったため、下記の作業工程ごとに両遺跡の作業を行った。作業工程は以下の順である。①遺構図面整理、遺構写真整理

②遺構仮図版、遺構写真仮図版作成　③遺物の接合、復元　④遺物の実測　⑤遺物のトレース　⑥遺物仮図版作成　⑦遺物写真撮影　⑧遺物写真仮図版　⑨報告遺物番号註記等収納作業。

作業内容は以上のとおりであるが、版下作成を伴う一連の編集作業は、株式会社セビアスに委託した。

遺　　物　事業団職員が、接合・復元、実測遺物の選出・図化・トレース・写真撮影を行った。写真撮影にはデジタルカメラ（ニコンD100）を使用した。版組は株式会社セビアスである。

遺　　構　遺構の製図作業は、原図及び仮版作成を事業団職員が行い、トレース・版組は株式会社セビアスである。

版下作成　本文・図版を含む報告書全ての編集を行った後、編集委託業者（株式会社セビアス）からは、デジタルデータ（DTP）で納品を受けた。なお、当事業団は本文・図版のレイアウトを含む編集作業を行い、以下の資料をセビアスに支給した。

本文・挿図：テキスト形式・Microsoft社Excel形式データ、貼りこみ版下

遺構図面図版：原図コピー・レイアウト図案・文字データ

遺物図面図版：トレース図・レイアウト図案・拓影・文字データ

遺構写真図版：遺構写真のCD－R・レイアウト図案

遺物写真図版：遺物写真のネガ・MO・レイアウト図案

B　整理体制

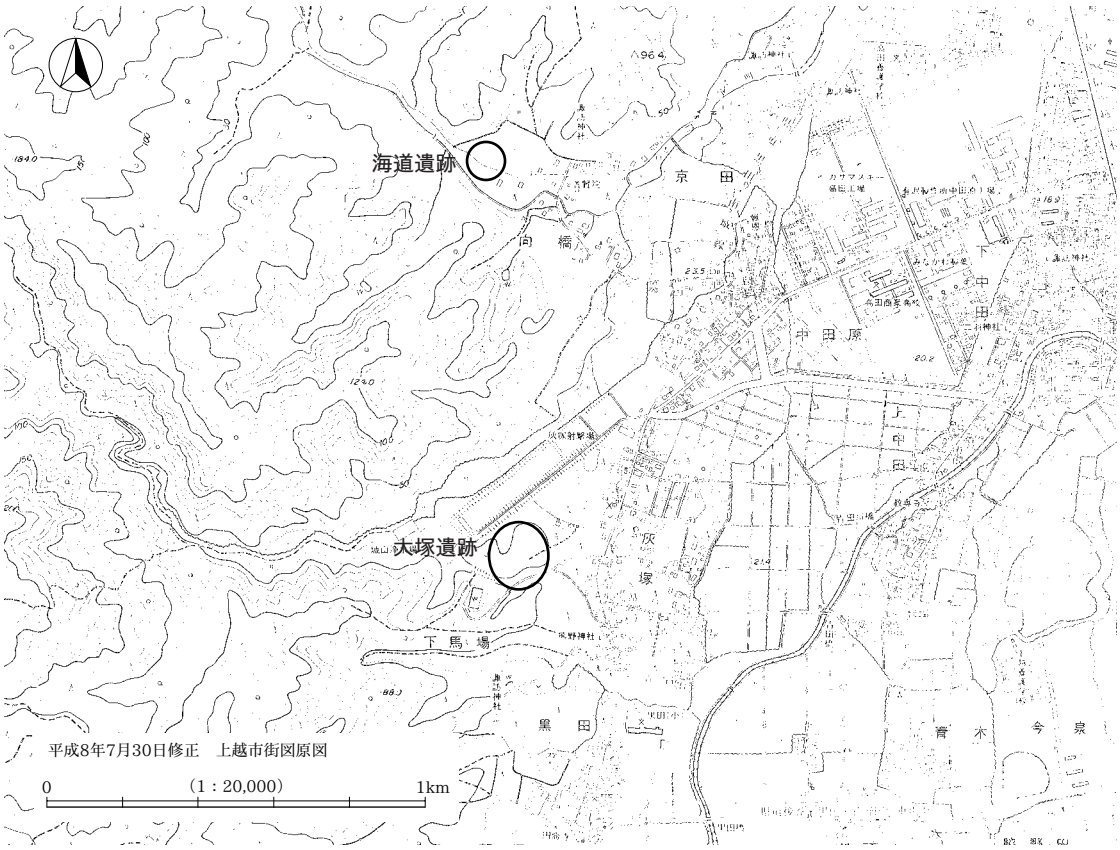
以下のとおりである。

整理期間	平成16年4月1日～平成17年3月31日
整理主体	新潟県教育委員会（教育長 板屋越麟一）
整理実施機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長 板屋越麟一）
総　　括	黒井幸一（事務局長）
管　　理	長谷川二三夫（総務課長）
庶　　務	高野正司（総務班長）
整理総括	藤巻正信（調査課長）
整理担当	高橋 保（調査課整理担当課長代理）
作　　業	小熊洋子　加藤祐子　木山京子　小林智美　島倉はるみ　鶴田須美子　東條シゲ子（以上嘱託）

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　地理的環境

今回報告する海道・大塚遺跡をはじめとする上信越道関連の遺跡が立地する高田平野は、新潟県の南西部に位置する堆積平野である。その北側を縁取るように海岸と平行して、上越市五智から柿崎町にかけて長さ約20kmに渡って潟町砂丘が発達し海岸と平野を区画している。潟町砂丘は幅平均１～1.5m、標高約10～50mを測る起伏に富んだ海岸砂丘で、上部は新期砂丘層によって、下部は潟町砂層と呼ばれる古期砂丘砂層によって構成される。北東部では、海から直接そびえる米山（993m）をはじめとする米山山地が柏崎平野との境をなしている。南東から北東部にかけては、菱ヶ岳（1129m）・天水山（1090m）・黒倉山（1289m）などのそびえる東頸城山地によって区画され、この山地の南西部が信越国境をなしている。東頸城山地は徐々に高度を下げながら北東方向に伸び刈羽郡に続いている。西側は姫川右岸から東に広がる西頸城山地がある。西頸城山地には、北から鉢巻山（412m）、南葉山（949m）、重倉山（1029m）、大毛無山（1429m）、容雅山（1499m）などの山々がそびえ、北から南にいくにしたがって次第に高度を増し、最高所は火打山の2462mである。東頸城山地、西頸城山地ともに大半が第三紀の堆積岩で形成され、この未凝結の地層のために山間地域は日本でも有数の地滑り地帯となっている。また、南側には活火山である妙高山（2446m）がそびえ立つ。



第４図　遺跡周辺の地形

高田平野には、これら三方を囲む山々から多くの河川が流入している。最大の河川は西頸城山地に源流を持つ関川である。関川は妙高山東麓をぬけて、片貝川・矢代川・正善寺川など西頸城山地西部から流れ出す河川を合流しながら北流して日本海へそそぐ。東頸城山地東部からは保倉川が流れ出し、西流して南東部から流れ出す飯田川と合流して河口付近で関川にそそぐ。南東部からは櫛池川・大熊川が流れ出し、平野南西よりの地域で関川と合流する。高田平野の南西部から南東部にかけては、飯田川・櫛池川・大熊川・関川・矢代川などの河川が運搬してきた堆積物によって形成される扇状地が発達している。これらの河川によって造られた高田平野は、その大部分が二段の沖積段丘によって形成されている。

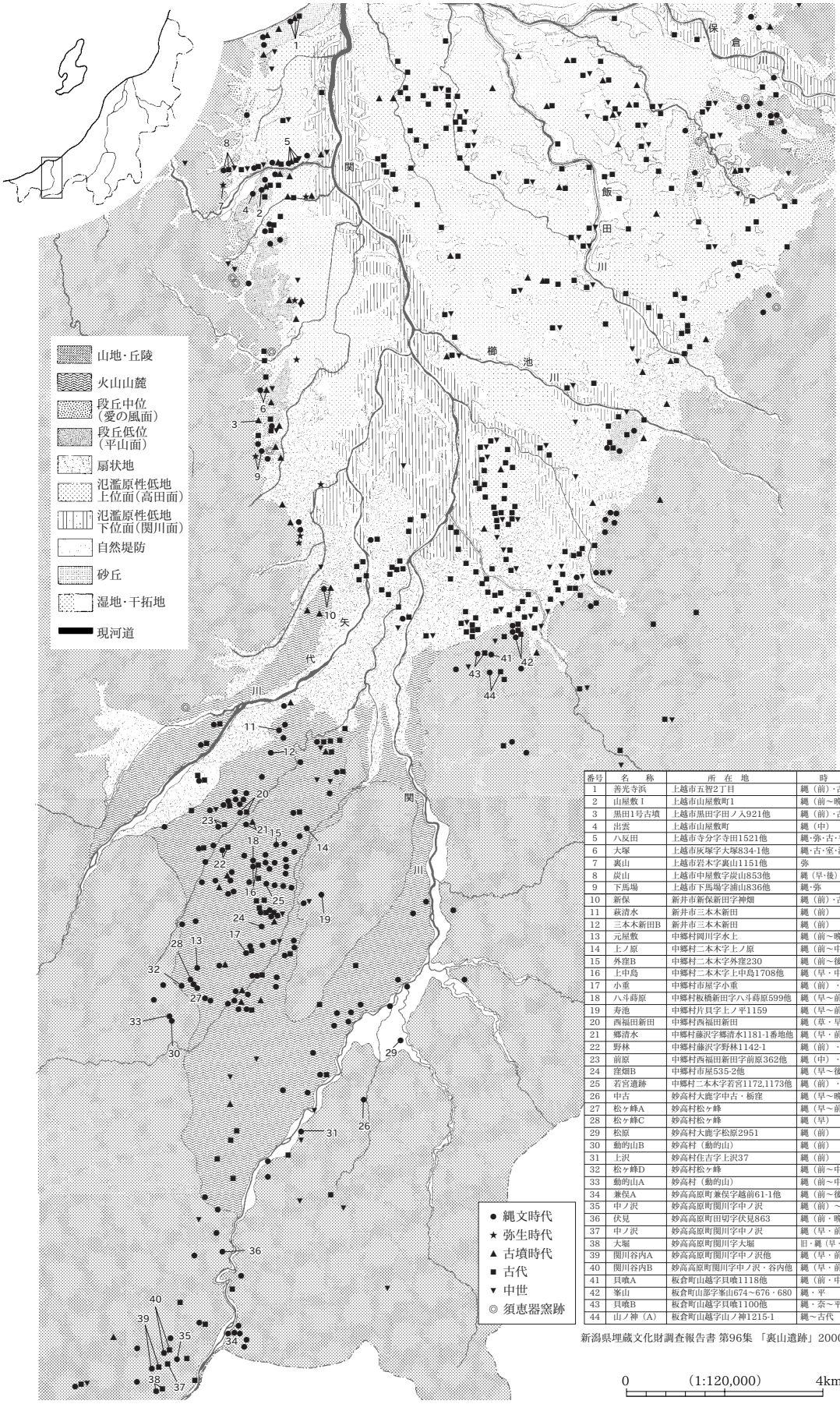
両者は段丘崖をもって上位の高田面と下位の関川面とに区分されている。この段丘崖は関川河口付近ではあまり明瞭には認められないが、南にいくにしたがって比高を増し、最大で約6mを測る。高田面は、礫層と砂層・シルト層の互層からなる高田層によって形成され、高田平野の大部分を占める。標高は約6～36mを測り、海岸部へ向って下降している。縄文海進時に内湾であったところに河川による堆積作用を受けて形成されたものと考えられている。現在においても平野北東部の大潟町JR信越本線潟町駅から上下浜駅の海岸砂丘背後には、旧大潟をはじめ朝日池・鵜ノ池などが潟湖として、その痕跡を残している。この周辺においては、縄文時代から断続的に古代に至るまでの遺跡が集中して分布し、天然の港として潟湖を利用する集落が営まれていたものと思われる。また、高田面上の河川沿いの地域や旧河道に沿った地域には、河川が繰り返し洪水を起こすことによって形成された自然堤防が発達している。特に飯田川や保倉川・保倉川旧河道に沿った地域に顕著である。関川面は関川やその支流が高田面を削って形成されたもので、関川やその支流に沿ってみとめられるに過ぎない。関川の氾濫原との比高は約1～2mを計る。関川面においても特に関川・矢代川の河道に沿った地域に自然堤防が発達している。

高田平野の東縁部から西縁部にかけた山地の麓には部分的に洪積台地があり、平野の一部をなしている。これは三段に区分されており、最上位の面からそれぞれ、飯喰沢面・愛の風面・平山面と呼ばれている。飯喰沢面は赤色土壌とローム層をのせ、浦川原村山本山山地の最高位面、板倉町飯喰沢～西貝屋の西側の山地、新井市濁川採石場の最上位などわずかにみられるにすぎない。赤色土壌とローム層を伴う粘土層と砂礫層をのせる愛の風面は、浦川原村山本山（標高140～190m）、板倉町山越（標高200～250m）、新井市濁川採石場（標高220～250m）などに見られる。砂礫層と粘土層のほかローム層をのせる平山面には、西縁部の灰塚・平山・岩木・山屋敷などの集落をのせる段丘や菅原神社をのせる段丘などがある。海道遺跡は、標高約24mの氾濫原堆積物上位高田面上にあり、大塚遺跡は標高約55mの低位段丘平山面上にある（この地理的環境は一の口遺跡東地区［高橋1994］より引用し、再掲載した）。

2　高田平野及び関川流域の遺跡分布

新潟県の南西部に位置する高田平野及び関川流域は、現在に至るまで日本海側は北陸及び東北方面からの、関川流域は信州・東海方面からの文化伝播経路として重要な位置を占めている。また、その接点として複雑な様相を呈している。今回報告の海道・大塚遺跡は、旧石器時代～近世に至る各時代の遺物が出土している。県教育委員会で発掘調査してきた北陸自動車道・上信越道・一般国道18号バイパス（上新・妙高野尻）関連遺跡はいずれも関川左岸に当たり、今まで不明であった当地域の各時代の様相が明らかになってきている。ここでは今報告に関連する時代の遺跡分布について簡単に触れておく。

大塚遺跡では旧石器が数点出土している。前述の道路関係の調査でも単品的に旧石器の遺物は確認され



番号	名　称	所　在　地	時　代
1	善光寺浜	上越市五智2丁目	縄（前）・古・平
2	山屋敷Ⅰ	上越市山屋敷町1	縄（前～晩）
3	黒田1号古墳	上越市黒田字田ノ入921他	縄（前）・古
4	出雲	上越市山屋敷町	縄（中）
5	八反田	上越市寺分字寺田1521他	縄・弥・古・平・中世
6	大塚	上越市灰塚字大塚834-1他	縄・古・室・江
7	裏山	上越市岩木字裏山1151他	弥
8	炭山	上越市中屋敷字炭山853他	縄（早・後）・平・中世
9	下馬場	上越市下馬場字浦山836他	縄・弥
10	新保	新井市新保新田字神畑	縄（前）・古
11	萩清水	新井市三本木新田	縄（前）
12	三本木新田B	新井市三本木新田	縄（前）
13	元屋敷	中郷村岡川字水上	縄（前～晩）
14	上ノ原	中郷村二本木字上ノ原	縄（前～中）
15	外窪B	中郷村二本木字外窪230	縄（前～後）
16	上中島	中郷村二本木字上中島1708他	縄（早・中～晩）
17	小重	中郷村市屋字小重	縄（前）・平
18	八斗蒔原	中郷村板橋新田字八斗蒔原599他	縄（早～前）
19	寿池	中郷村片貝字上ノ平1159	縄（早～前）
20	西福田新田	中郷村西福田新田	縄（草・早～前）
21	郷清水	中郷村藤沢字郷清水1181-1番地他	縄（早・前）古
22	野林	中郷村藤沢字野林1142-1	縄（前）・平
23	前原	中郷村西福田新田字前原362他	縄（中）・平
24	窪畑B	中郷村市屋535-2他	縄（早～後）
25	若宮遺跡	中郷村二本木字若宮1172,1173他	縄（前）・弥
26	中古	妙高村大鹿字中古・栃窪	縄（早～晩）
27	松ヶ峰A	妙高村松ヶ峰	縄（早～前）
28	松ヶ峰C	妙高村松ヶ峰	縄（早）
29	松原	妙高村大鹿字松原2951	縄（前）
30	動的山B	妙高村（動的山）	縄（前）
31	上沢	妙高村住吉字上沢37	縄（前）
32	松ヶ峰D	妙高村松ヶ峰	縄（前～中）
33	動的山A	妙高村（動的山）	縄（前～中）
34	兼俣A	妙高高原町兼俣字越前61-1他	縄（前～後）
35	中ノ沢	妙高高原町関川字中ノ沢	縄（前）～平
36	伏見	妙高高原町田切字伏見863	縄（前・晩）・弥
37	中ノ沢	妙高高原町関川字中ノ沢	縄（早・前）・平
38	大堀	妙高高原町関川字大堀	旧・縄（早・前）・平
39	関川谷内A	妙高高原町関川字中ノ沢他	縄（早・前）・平
40	関川谷内B	妙高高原町関川字中ノ沢・谷内他	縄（早・前）・平
41	貝喰A	板倉町山越字貝喰1118他	縄（前・中）
42	峯山	板倉町山部字峯山674～676・680	縄・平
43	貝喰B	板倉町山越字貝喰1100他	縄・奈～平
44	山ノ神（A）	板倉町山越字山ノ神1215-1	縄～古代

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第96集 「裏山遺跡」2000を改変

第５図　高田平野及び関川流域の遺跡分布

ているが、蛇谷遺跡ではまとまった接合資料が出土しており、生活関連として上越地方では初の遺跡となる。旧石器の分布はそちらに詳しいのでゆずる。

縄文時代早期～前期

最も海岸に近いのは上越市善光寺浜遺跡［中野・立木2003］である。海岸線から約100mはなれた海岸段丘上に位置し、縄文前期中葉から後葉のいわゆる刈羽式・鍋屋町式土器が出土している。石器も磨製石斧が十数点出土していることから集落のあった可能性が高い。海岸部では他に上越市東カナクソ谷遺跡［田海1987］がある。早期の押型文土器や前期初頭～中葉の北陸系土器が出土している。関川左岸の丘陵上には当該期の遺跡が連続する。裏山遺跡・炭山遺跡では早期後葉のいわゆる絡条体圧痕文土器がある。山屋敷Ⅰ遺跡［寺崎2003a］でも早期の絡状体圧痕文土器、前期後葉の土器が、また石器では草創期と思われる局部磨製石斧や片刃石斧・尖頭器が出土している。黒田古墳群の立地する丘陵でも前期中葉～末葉の土器が出土している。土器の様相は多様で、中部高地の有尾式、東北地方の大木2a式、北陸系、魚沼地方の根小屋式、鍋屋町式、下越地方の重稲場式、関東地方の十三菩提式、東北地方の大木6式等があり［寺崎2003c］、当地の特殊性である。

新井市から南の妙高山麓及び周辺では早期の遺跡が充実しており、およその編年体系が見て取れる。早期前葉では、表裏縄文系の土器が大堀遺跡［立木（土橋）1996］・中ノ沢遺跡［立木（土橋）1997b］・関川谷地遺跡［立木（土橋）2003］、西福田新田遺跡［立木（土橋）1999］で出土している。いわゆる関東地方の撚糸文系土器に平行する時期である。次の段階の押型文土器は、中ノ沢遺跡、関川谷地遺跡、八斗蒔原遺跡［坂上2004］で定量の出土があり、他の遺跡でも数点の出土は見られ、大塚遺跡でも4点の出土がある。信州地方の樋沢式・細久保式・賽の神式の段階に当たる。次の沈線文系土器もかなりの出土を見せている。いわゆる田戸上層式及びその段階である。特に八斗蒔原遺跡では押型文・田戸下層段階から前期初頭に至る土器（田戸上層式、条痕文系、羽状縄文系）が出土している。この沈線文系土器は、大塚遺跡でも一定の出土を見ており、最近では隣接の長野県信濃町貫ノ木遺跡［中島1998］、上山桑A遺跡［中村2004a］、東裏遺跡［中村2004b］等でも良好な資料が出土している。

条痕文系・絡状体圧痕文系も各地で出土を見る。妙高高原町大堀遺跡、萩清水遺跡［立木（土橋）1997a］、関川谷地A遺跡、窪畑B遺跡［立木（土橋）1999］、八斗蒔原遺跡等がある。

また、前期初頭の羽状縄文系土器も上記遺跡で出土している。妙高村中古遺跡［室岡・早津1986］では、前期前葉の羽状縄文や斜行縄文が出土している。前期後半のいわゆる諸磯段階では、新井市萩清水遺跡、妙高村松ヶ峰No.210遺跡、中郷村小重遺跡［小池ほか2002］がある。

縄文時代中期

上越市では、山屋敷Ⅰ遺跡、出雲遺跡［寺崎2003b］に中期初頭の資料が少数認められる。いずれも北陸系新保式であるが中部高地や中郷村和泉A遺跡［荒川1999］出土と類似の土器も出土している。和泉A遺跡は、中期初頭の環状集落で約半周が調査された。半隆起線による曲線文や格子目文、口縁部の把手が特徴的で、北陸地方の新保新崎系とは様相を異にし、長野県北信地域から妙高山麓地域に中心を持つ土器である。類似の土器は妙高村柿ノ木遺跡［親跡1992］や板倉町峰山B遺跡［秦・岡本1986］でも出土している。大塚遺跡出土土器は、これらより海岸に近いこともあり、北陸系と言える。

中期前葉以降も土器の様相は同様で、海岸に近い上越市では北陸系が主体を占め、その中に中部高地・

北信系が混在する。妙高山麓では逆に中部高地・北信系が主体を占め、それに北陸系が混在するという在り方である。集落としては、上越市山屋敷Ⅰ遺跡、新井市大貝遺跡［岡本ほか1967］、中郷村南田遺跡［親跡1988］・妙高村道添遺跡［室岡1994・1995］等がある。

縄文遺跡全般を見ると、関川左岸の丘陵部に多くの遺跡が認められ、特に妙高山麓に多い。関川右岸でも多くの遺跡が認められるが、上流部に多い。平野部で確認されている縄文遺跡は少ないが、最近の調査では、上越市下割遺跡の確認調査において、地表下3mから縄文時代後期の遺物が出土している［尾崎2003］。このことから、平野部にも多くの縄文遺跡が埋没している可能性は十分にある。

弥生・古墳時代

弥生時代の遺跡も総体としては少ないが、中期以前と後期以降では大きく様相が異なる。高田平野部については上越市史［品田2003］に詳しい。これによれば弥生前期後半～中期初頭の遺跡は中郷村和泉A遺跡［荒川1999］、籠峰遺跡［川村2000］のみである。中期前半は確認されておらず中期後半の遺跡として上越市吹上遺跡［笹澤2003a］、新井市上百々遺跡［高橋1985］があるに過ぎない。弥生文化の伝播を考える時、日本海側の北陸ルート、東海・信州ルートとして高田平野は重要な位置を占める。吹上遺跡は、中期後半から後期の遺跡で最近調査され注目されている大きな集落遺跡である。それにしても、確認されている遺数が余りにも少ないように思える。新潟県内全般を見回しても、前期～中期前半の西日本系土器の出土遺跡は少ない。高田平野にしてもこれが実態なのか、または平野部に多くの当該期遺跡が埋没しているのか今後注目される。後期から古墳時代前期にかけては様相を一変する。平野部においてもまたいわゆる高地性集落も多く存在するようになる。関川左岸の丘陵上では、海岸に一番近い位置に裏山遺跡［小池ほか2000］、その上流には下馬場遺跡［尾崎2005］、斐太遺跡群（百両山、上ノ平、矢代山）［駒井・吉田1962］がある。また、平野部には、吹上遺跡、細田遺跡［尾崎2005］、上百々遺跡が、また右岸には上越市中島廻り遺跡［小島1991］、子安遺跡［上越市教育委員会1993］、一の口遺跡東地区［鈴木1994］、下割遺跡［山崎2004］等多数ある。上流部では、中郷村籠峰遺跡、妙高村大洞原遺跡［三ツ井ほか1997］、小野沢西遺跡［立木（土橋）2004］等がある。古墳時代の遺跡は古墳を除くと、関川右岸にも多数存在するようになる。

古代・中世

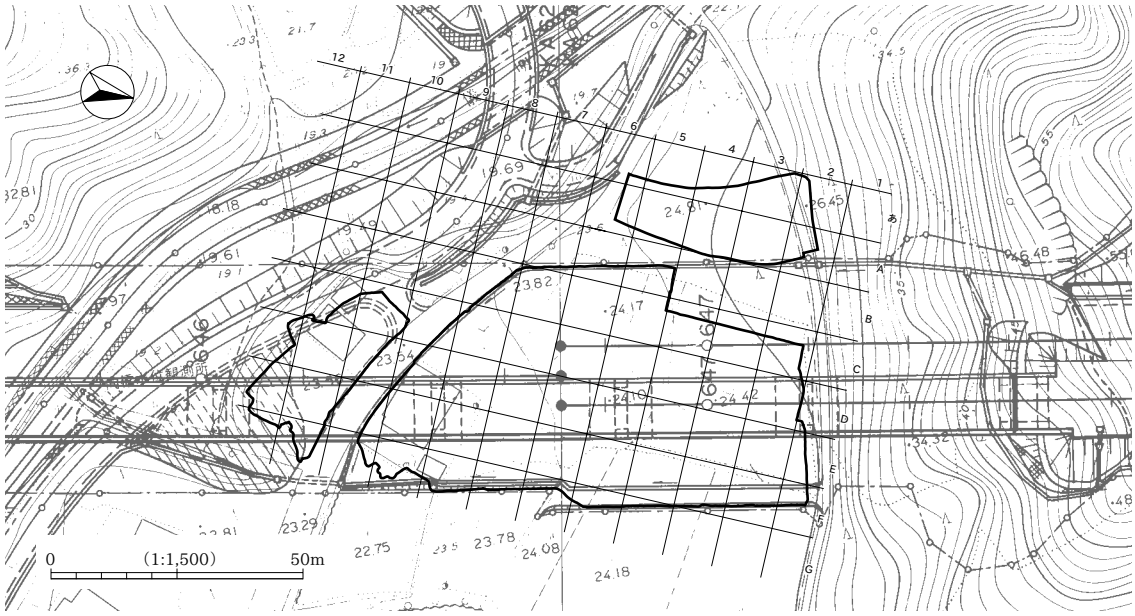
この時期の遺跡は特に多い。河川流域の自然堤防上、扇状地の扇端部等に目立つ。また、最近の道路関係調査で、丘陵上にも古代・中世の遺跡が多く存在することもわかってきた。

第Ⅲ章　海 道 遺 跡

1　調査の概要

A　グリッドの設定（第６図）

グリッドは国家座標系のＸ・Ｙ軸をもとに設定した。Ｙ軸方向が北を示す。10ｍメッシュを大グリッドとし、北から南に向って数字の１～、東西は西からアルファベットＡ～を付した。ちなみに、1A区北西隅のポイントはＸ軸：121420、Ｙ軸：24310である（旧座標）。しかし1996年度には、道路法線外も調査が必要となったことから、Ａからでは西側がカバーできなくなったため、Ａの西側からひらがな「あ～」を付すこととした。大グリッドの中は、2ｍメッシュの小グリッドとし、北西隅から東西に数字番号を付した。グリッドは6E15ように表記した。

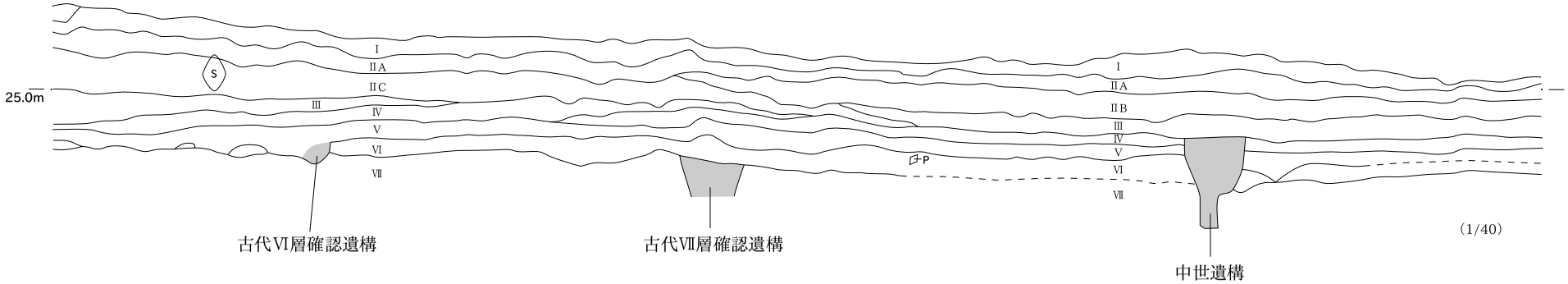


第６図　グリッド設定図

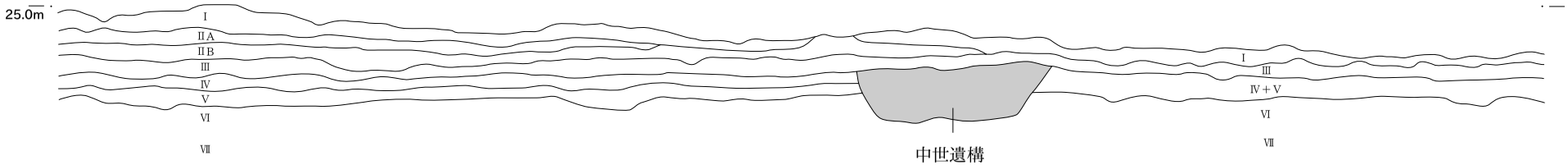
B　基 本 層 序（第７図）

1995年度と1996年度と調査区が異なるため、層序にも違いが見られる。層厚は北側（山側）では厚く、南側では薄い傾向が見られる。1996年度調査区の層序を見ると、Ⅰ層：表土層、Ⅱ層：Ａ～Ｃ層に細分されるが、盛土である。山側から押し出した整地層と考えられる。この盛土層は、4A区南側でなくなる。Ⅲ層：黒褐色土で、中世遺物包含層である。次のⅣ層を切り込んで中世遺構が認められる。しかし、このような層序が認められるのは山側の一部であり、実際の遺構確認は古代と同時確認となった。Ⅳ層は橙茶色土、Ⅴ層：青黒粘質土で古代遺物包含層。次のⅥ層を切り込んで古代の遺構が確認される。Ⅵ層：暗黄色土でやはり古代遺物包含層。次のⅦ層を切り込んで古代の遺構が確認される。Ⅶ層：地山の黄色土となる。1995年度調査区は、Ⅲ～Ⅴ層が明確でないが、（2）（3）層が相当し、後世の整地等で二次堆積したものと考えられる。（4）層はⅥ層に相当するであろう。

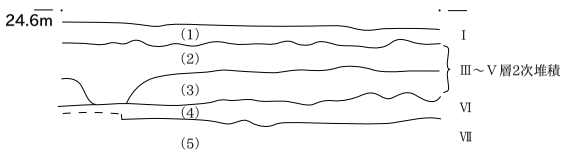
3A東壁セクション図（1996調査区）



4A東壁セクション図（1996調査区）



2D25-3D5東壁セクション図（1995調査区）



(1/40)

(1)　Ⅰ　：黒褐色土（表土・耕作土）
　　ⅡA：暗黄褐色土（盛土）
　　ⅡB：暗褐色土（盛土）
　　ⅡC：黄色土（盛土）
(2)～(3)　Ⅲ　：黒褐色土（中世遺物包含層）
　　Ⅳ　：橙茶色土
　　Ⅴ　：青黒粘質土（古代遺物包含層）
(4)　Ⅵ　：暗黄色土（古代遺物包含層）
(5)　Ⅶ　：黄色地山土

(1/40)

第７図　基本土層断面図

2 遺　　構

A 概　　要

調査面積は本線部分と工事用道路部分合わせて4,800m^{2}で、多数のピット・土坑・井戸・掘立柱建物跡・溝が検出された。確認している数は、井戸62基・土坑63基・溝53基・不明遺構16・掘立柱建物跡11基である。但し、掘立柱建物跡は調査時に認識したものでなく、整理段階で図上検討の結果建物としたものである。本線部分は中世12～13世紀の遺物を中心として出土しており、遺構群もその時期のものが多いと考えられる。また、平安時代も定量認められる。近世、近代遺物も多く認められ、その時期の遺構も考慮する必要がある。1996年度の工事用道路部分は、古代が主体を占める。

B 遺構各説

1）掘立柱建物

SB1（図版2・8）

1・2E・Fに位置する南北棟建物である。母屋桁行2間（6.3m）、梁間2間（3.6m）で東側に庇がつく。庇部分は東へ約1.3mである。母屋部分の柱穴は、径40～50cmで、深さは四隅が50～60cmと比較的深く、中柱はそれに比べて浅い。庇部分の柱の規模は、母屋に比べると小さい。長軸方位は、ほぼ真北を指す。庇部を合わせた床面積は約31.5m^{2}である。

SB2（図版2・8）

3Eに位置する東西棟建物である。桁行3間（4.0m）、梁間2間（2.5m）で両梁間が外に張り出す亀甲状を呈する。桁行は中央2間目が広く1.8m、両脇が1.1mである。柱穴の大きさは径約30cm、深さ30cm平均である。長軸方位はN85°Eである。床面積は約10m^{2}である。

SB3（図版2・8）

2・3Dに位置する南北棟建物である。桁行3間（6m）、梁間1間（3m）である。梁間は間に柱穴が確認できず、1間が広い。桁行の柱間間隔は、南側が広く約2.5mとなる。柱穴の大きさは、径約30cm、深さ30～60cmである。長軸方位はN12°Wである。床面積は約18m^{2}である。

SB4（図版2・8）

3C・Dに位置する東西棟建物である。南北4間（7m）、東西5間（8m）である。南北の柱間は中央2間が1.8mであるが、両端は1.5mとやや狭い。南北は西側1間（1.8m）を除いて、間隔は1.5mとなるが、柱が確認できていない地点が多くある。柱穴の大きさは、30～60cm、深さは50cm平均である。長軸方位はN82°Wである。床面積は56m^{2}である。

SB5（図版2・8）

4Cに位置し、SB4に隣接する東西棟建物である。東西2間（3.7m）、南北2間（3.4m）で南北がやや短い。柱間間隔は1.8m、柱穴規模は径30cm平均で、深さも30cm平均である。長軸方位はN80°Wである。床面積は12.6m^{2}である。

SB6（図版3・10）

5・6Eに位置する南北棟である。南北5間（9m）、東西1間（4.3m）である。柱間間隔は、南北1.8m、東西は2間分の広さを持つ。柱穴規模は、当遺跡内では、最も大きく、80cm前後、深さは0.6～1mで

ある。長軸方位はN83°Wである。床面積は38.7m^{2}である。

SB7（図版３・10）

６・7Cに位置する東西棟建物である。桁行３間（5.8m）以上、梁間１間（3.3m）となる。桁行の柱間間隔は、1.9m、梁間は２間分の広さを持つ。柱穴規模は径30cm平均、深さは30cm平均である。長軸方位はN17°W、床面積は19m^{2}以上となる。

SB8（図版３・10）

６・7Dに所在する南北棟建物である。桁行３間（6.5m）、梁間３間（3.7m）となる。柱間間隔は、桁行北から1.8～1.9m、2.8m、1.8mで、中央が広くなっている。梁間は短く約1.2m間隔である。柱穴規模は小さく径20～30m、深さ30cm前後である。床面積は約24m^{2}である。長軸方位はN3°Wである。

SB9（図版６・９）

3Aに位置する。桁行４間（7.6m）以上、梁間１間（4.7m）で、桁行両側面に１間の張り出しがある。梁間には中柱がない。桁は北西端から1.3m、2.0m、2.5m、1.8mと一定しないが、桁２列の間隔は同じ。北西側２間目に対称の張り出しを持つ。張り出しは、約1.5mである。柱穴の規模は、径約50cm、深さ1m前後である。床面積は36m^{2}以上となる。長軸方位はN50°Wである。北西側に近接して遺構SX1701がある。

SB10（図版６・９）

４・5Aに位置する。桁行３間（6m）以上、梁間１間（5.5m）で、SB9と同じく、桁両側に張り出しを持つ。梁間は通常の３間分あるが、明確な中柱は存在しない。桁は2m、2.4m、1.8mと一定しない。張り出し部はSB9と同様に北西側から２間目にある。規模はやや異なり南側がやや小さい。柱穴規模は径50cm前後、深さは60cm前後である。床面積は33m^{2}以上。長軸方位はN65°Wである。

SB11（図版６・10）

３・４あに位置する。桁行３間（5.8m）以上、梁間２間（3.8m）である。柱間間隔は、桁・梁ともに2m前後である。柱穴規模は径30cm前後、深さ50cm前後である。床面積は22m^{2}以上、長軸方位はN53°Wである。

2）井　　戸

井戸と認識したものは62基を数える。出土遺物から1995年度調査区は中・近世、1996年度は多くが古代と判断される。

SE50（図版２・11・73）

2D24、3D4に位置する円形の井戸。直径約1.05m、深さ1.95mを測る。最下層の青灰色粘土層からは、木製品が出土している。土器の出土がなく、時期不明。

SE100（図版２・11・73）

3D11に位置する楕円形の井戸。長軸1.5m、短軸1.1m、深さ1.85mを測る。下層には炭混じりの層があり有機物も多く混じる。中層の７～９層には、地山土の黄褐色土が堆積する。人為的埋め戻しが窺える。出土遺物は多く、中世珠洲焼、平安時代の土師器、須恵器、鉄滓、礫、木製品等がある。中世に埋められた井戸である。

SE130（図版２・11・73）

3C22・23、4C2に位置する円形の井戸であるが、西側1/3は調査区外である。南北で約2m、深さ

1.65mを測る。覆土は暗褐色土で下部は炭層を含む暗灰色土である。出土遺物は須恵器・土師器・珠洲焼で、14層からは漆容器の蓋に使われたと考えられる４つに折りたたまれた漆紙が出土しているが、文字は認められない。

SE346（図版２・11・73・74）

2E16に位置する円形の小形井戸である。直径0.9m、深さ1mである。浅いため井戸であったか明確でない。須恵器・土師器が出土しており、平安時代と考えられる。

SE347（図版２・11・74）

2E3に位置する円形の井戸。径約1m、深さ0.8mと浅い。覆土はほとんど１層で暗褐色粘質土である。下層から加工された角礫が２個出土している。

SE385（図版２・11・74）

4D7・8・12・13に位置する楕円形の井戸である。長軸1.8m、短軸1.2m、深さ1.8mを測る。上部から1mほどで段を有し、下部はやや小さくなる。覆土は上面が暗褐色土でそれ以下が黒褐色土または灰褐色土で炭を混入する。出土遺物は珠洲焼・青磁・中世土師器・須恵器・土師器・砥石等である。下部では丸木が数本出土した。

SE420（図版２・12・74）

3E23・24に位置する。長軸1.5m、短軸1.3mのほぼ円形を呈し、深さは約1.3mと浅い。断面形は長い逆台形である。覆土は上面が暗褐色土、下層が炭を多く含む暗黒色土である。出土遺物は珠洲焼、中世土師器で、中世土師器皿が目立つ。焼礫も10点ほど出土している。また、クリ・トキノキなどの種実も多く出土している。いずれも火を受け炭化している。

SE430（図版２・12・75）

4D14・15に位置する。長軸2.35m、短軸1.7mの不整形であるが、下部は楕円形を呈する。崩落のため不整形になったと考えられる。覆土は、下層に炭層や炭化木・植物繊維を多く含む黒色土層があり、上部は暗褐色土や黄褐色土をブロック状に含む層となっている。人為的に埋めている様子が窺える。出土遺物は多く、珠洲焼・中世土師器・青磁・須恵器・土師器のほか、箸・曲げ物などの木製品も出土している。

SE456（図版３・12・75）

4D19・24に位置する。径約0.85mの円形を呈し、ほぼ垂直に掘り込まれる。覆土は炭混じりの黄褐色土ブロックを含む暗褐色土で、下部にいくにしたがい黒味、炭含有率が高まる。珠洲焼・須恵器・土師器が出土している。また、土壌水洗でガラス製と思われる数珠玉３点が確認された（図版112）。

SE476（図版３・12・75・76）

5C15・20に位置する。１辺約1.2mの方形に近い。掘り方断面形は垂直で、深さは2.1mである。覆土は上層では、暗褐色土と黄褐色土が交互に交じり合い、下部では炭や植物質を多く含む層となる。珠洲焼・土師器・須恵器・木製品の曲げ物・杭等が出土している。

SE487（図版２・12・76）

4F1に位置する。径1mのほぼ円形を呈する。深さ0.8mと浅いため、井戸でない可能性もある。覆土は暗褐色土が主体でそれに黄褐色土がブロック状に混じる。中層に大きな礫が捨てられている。底にも石がある。

SE490（図版３・12・76）

5D1・6に位置する。長軸1.8m、短軸約1.2mの不整形で、深さは1.65mを測る。北西側と東側に膨

らみを持つが、この井戸に関連するものか、ほかの遺構が重複するのかは明確でない。断面形は中央がくびれる形状で下部が膨らむ。崩落によるものか。覆土は濃暗褐色土が主体であるが、下部に行うにしたがって炭や有機物が多くなる。出土遺物は多く、珠洲焼・中世土師器・須恵器・土師器があるが、特に中世土師質土器皿が一括して廃棄されている。また、木製品も多く椀・櫛・曲げ物などが出土している。

SE496（図版３・13・76・77）

5D14・19に位置する。一辺約1.2mの隅丸方形を呈し、深さは1.4mと浅い。断面形は、U字状に垂直となる。覆土は１層に暗褐色土で以下２～４層が灰色土・白色土・黄白色土が細かくブロック状に混じる土で、人為的に埋められた様子が窺える。出土遺物は少なく、珠洲焼・土師器・須恵器片である。

SE550（図版３・13・77）

5D13・14に位置する。長軸1.2m、短軸1.15mの略円形で、深さは2mを測る。壁面は垂直に落ちる。覆土は薄暗褐色土に黄色土、燈色土が縞状またはブロック状に入り、18層に植物質土、19層に炭が多く混入する。出土遺物は珠洲焼・土師器・須恵器である。

SE560（図版２・13・77）

3E22、4E2に位置する。長軸1.0m、短軸0.95mの略円形を呈し、深さは1.55mを測る。覆土の上半部は暗（灰）褐色土を中心に灰色・白色土のブロックが縞状に入る。中位の８層には炭層、９層にも炭を多く含む赤褐色土、10・11層にも炭が含まれる。遺物は上層から下層まで認められるが、８層以下で多くの中世土師器皿のほか、珠洲焼の壷・甕・鉢が出土している。木製品も多く、糸巻・曲げ物などがある。

SE580（図版３・13・78）

7C6・11に位置する。長軸1.2m、短軸1.05mの略円形で、深さは1.75mを測る。壁面は垂直に落ちる。覆土は青灰色粘土に暗褐色土が混じる。出土遺物は多くなく、青磁碗・珠洲焼・須恵器・土師器等がある。

SE590（図版３・13・78）

7C17に位置する。径約0.9mの略円形で、深さは2mを測る。上半部はほぼ垂直に落ちるが、下半部（6層付近）でやや膨らみを持つ。二次的な崩落によるものと考えられる。覆土は3、４層に黄白色、明褐色土ブロックが混入し、下部が黒褐色土となる。出土遺物は多くなく、土師器片が数点出土したに過ぎない。木製品は折敷底板等がある。

SE600（図版３・13・78）

7D16に位置する。長軸1.15m、短軸1mの不整形を呈する。深さは1.2mと浅い。壁面は垂直である。覆土は黄褐色土を中心に、粘性・しまりとも強い。出土遺物は少なく土師器の細片が数点出土したに過ぎない。

SE610（図版３・13・78・79）

5E12・17に位置する。径約1mの略円形を呈する。深さは1.85mを測る。壁は垂直に落ち、下半部でやや広がりを見せる。覆土は暗褐色土に明褐色土がブロック状に入る。下部の７層は青灰色土で植物遺体が多く、小石も混じる。出土遺物は近世の越中瀬戸・唐津・須恵器・土師器・木製品の部材等である。

SE620（図版３・14・79）

4F18・23に位置する。長軸、短軸ともに1mの不整形であるが下部は0.55×0.5mの長方形となる。深さは0.95mである。断面は逆台形で、下部が細くなる。覆土は上半が灰色土、下半が青灰色土になる。

SE630（図版３・14・79）

4F23に位置する。すぐ北隣にはSE620がある。長軸1.5m、短軸1.4mの不整形を呈し、深さは

1.8mである。壁は垂直に落ちるが、1m以上で袋状に大きく広がる。崩落の結果と考えられる。覆土は上面が黄褐色土、中層に炭を多く含む層があり、下部に有機質土がある。出土遺物は木製品が多く、曲げ物・下駄・部材等がある。ほかに珠洲焼・土師器などがある。

SE650（図版3・14・79・80）

6D24・25に位置する。長軸0.95m、短軸0.85mの円形を呈し、深さは1.5mである。壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は上層に褐色土、中下層に灰色土・白色土がある。出土遺物は少なく、土師器片数点に過ぎない。

SE660（図版3・14・80）

7D4・5に位置する。長軸0.95m、短軸0.85mの楕円形を呈する。深さ1.05mと浅い。壁面は垂直に落ちる。規模は小さい。覆土は暗褐色土に、黄褐色土ブロックが多く混じる。人為的に埋めた様子が窺える。珠洲焼が1点出土している。

SE670（図版3・14・80）

5D20に位置する。長軸1.1m、短軸0.95mの隅円方形を呈し、深さは1.8mとなる。壁面は垂直に落ちるが下半部で大きく膨らむ。崩落の結果と考えられる。覆土の遺物は近世越中瀬戸・磁器・須恵器・土師器で、木製品では箸や部材がある。

SE900（図版3・14・80・81）

6E13に位置する。長軸1.05m、短軸0.8mの楕円形を呈し、深さは1.7mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は上面黄（暗）褐色土で、7層以下に暗褐色土で腐植土混じりとなる。出土遺物は、近世陶磁器・珠洲焼・土師器・須恵器等各時代にわたる。木製品も板等がある。下部には焼礫が多数認められる。

SE1110（図版4・15・81）

8D4・9に位置する。径約1.4mの円形を呈し、深さ1.5mを測る。壁はほぼ垂直に落ちる。覆土は上面で灰色土をブロック状に含む黄褐色土で下部は褐色土で、最下層の20層では有機物を多量に含む。出土遺物は木杭などである。

SE1120（図版4・15・81）

8D14・19に位置する。長軸1.15m、短軸0.85mの不整形で、深さは1.75mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は上層6層までが、黒褐色土で以下灰色土・青灰色土等である。出土遺物は認められない。

SE1240（図版3・14・81）

5F20に位置する。長軸1.05m、短軸1.05mの不整形を呈する。深さは1.4mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちるが、下部では大きく膨らむ。崩落によるものと考えられる。覆土下部は青灰色粘土である。木製品曲げ物片が見られる。

SE1241（図版3・15・82）

5E6・11に位置する。長軸1.2m、短軸1.0mの不整形である。深さは1.65mを測る。壁面は中央部が膨らむ。崩落の結果と思われる。覆土は上面が灰燈色粘質土、下部が灰黒色腐植土である。出土遺物には木製品の曲げ物がある。

SE1244（図版3・15・82）

7D10・15に位置する。径0.95mの略円形で、深さは1.15mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちるが、下部でやや細くなる。覆土は暗褐色土に橙褐色土・灰色粘土がブロック状に混じる。遺物は上面から長さ25cmほどの扁平礫が出土したに過ぎない。

SE1245（図版４・15・82）

7D25に位置する。長軸0.9m、短軸0.85mの略円形を呈する。深さは1.15mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は褐色土に灰色土がブロック状に混じる。出土遺物はなく、中央に石が認められる。

SE1246（図版４・15・82・83）

8E11・16に位置する。長軸1.15m、短軸1.05mの不整形で、深さは1.8mを測る。壁面は底部に向ってやや狭くなる。覆土は灰褐色土・暗褐色土で、下部で灰色土となる。出土遺物はない。

SE1247（図版３・16・83）

6C11に位置する。長軸1.15m、短軸0.85mの略楕円形で深さは1.36mを測る。壁面は底部に向ってややすぼまる。覆土は灰色土に黄褐色土が混じる。出土遺物はない。

SE1248（図版３・16・83）

6C16に位置する。長軸1.42m、短軸1.07mで南側に張り出しを持つ不整形。深さは1.5mを測り、壁面は南側にテラスを持ち、そこから下ですぼまる。テラス部はほかの柱穴の可能性がある。覆土は上面壁側が黄褐色土で中央が暗褐色土となり下部が黒色粘質土である。出土遺物は木製品の皿が２点出土している。

SE1249（図版３・16・83）

7F6に位置する。長軸0.7m、短軸0.7mの不整形で、下部は円形となる。深さは0.8m以上で壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は上部が黄褐色土、下部が灰色土である。出土遺物はない。

SE1250（図版３・16・83）

5F24・25に位置する。長軸0.75m、短軸0.65mの隅円方形で、深さは1.1mとなる。覆土は濃青灰色粘土に褐色土がブロック状に混じる。出土遺物は焼礫のほか自然木、木製品の曲げ物がある。

SE1260（図版４・16・84）

8D7・12に位置する。SK1261を埋め戻したのち掘削されている。径1.4mの不整円形を呈し、深さは1.75mを測る。覆土は上面に暗褐色土、中層に黄褐色・白色粘土ブロック、下層に黒色腐植土層がある。出土遺物はない。

SE1364（図版４・16・84）

8G17・22に位置する。長軸0.95m、短軸0.9mの略円形を呈し、深さは1.3mと浅い。壁面は垂直に落ちる。覆土は褐色土・灰褐色土・灰色土・黄色土がブロック状に入り込み、９層は黒褐色土である。出土遺物はない。

SE1365（図版４・16・84）

9G6に位置する。長軸1.36m、短軸0.9mの不整形で、深さは1.3mと浅い。壁面は垂直に落ちる。覆土は灰色シルトを中心に褐色土、暗灰色土がブロック状に混じり込む。８・９層にやや黒い灰色土があり、そこに石が投げ込まれている。出土遺物はない。

SE1385（図版４・16・84・85）

7D25、8D5に位置する。長軸1.8m、短軸1.6mの不整形で、深さは1.3m以上。底部は小さく長さ0.6m前後である。壁面は上部で大きく開くロート状を呈する。覆土は褐色土に灰色土がブロック状に混じる。下部の７層には植物遺体が多い。底部に木が認められる。

SE1386（図版３・17・85）

7D13に位置する。径1.4mの円形を呈する。深さは1.65mを測る。壁面は上部で大きく開くロート状を呈する。覆土は暗褐色土に黄褐色土がブロック状に混入する。須恵器・土師器片が出土している。

SE1387（図版３・17・85）

6D10、6E6に位置する。長軸0.76m、短軸0.76mの隅円方形に近い。深さは1.47mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は４層までが明褐色土に黄色褐色土が混じり、以下は青灰色土に明褐色土ブロックが混入する。出土遺物には珠洲焼・土師器・木製品の下駄がある。

SE1389（図版３・17・85）

5E8に位置する。長軸1.0m、短軸0.95mの略円形を呈し、深さは0.95m以上である。壁面は下方でややすぼまる。覆土はほかの井戸と同様暗褐色土に黄色土または灰褐色土がブロック状に入る。底面には焼礫がまとまって出土した。出土遺物はない。

SE1390（図版３・17・86）

5E13・14に位置する。長軸1.0m、短軸0.95mの略円形を呈し、壁は上部がやや広く、以下はほぼ垂直に落ちる。底面がやや窪む。覆土は暗褐色土に黄褐色土がブロック状に入る。下部は青灰色粘土となる。五輪塔地輪部が２個出土している。

SE1391（図版４・17）

8D23に位置する。長軸0.8m、短軸0.73mの不整形を呈し、深さは1.15mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は褐色土及び灰褐色土で黄褐色土ブロックを含む。出土遺物はない。

SE1500（図版５・17・86）

10D13・18に位置する。長軸1.4m、短軸1.05mの細長い不整形を呈する。深さは2.45mと深い。壁面はほぼ垂直に落ちる。図の右側（南西側）にテラスが認められる。覆土断面図では、テラス部分で明らかに２つの井戸が重複していることがわかる。テラス側が古く、深い方が新しいことになる。覆土は類似するが、テラス側の方が、どちらかというと黒味がある。出土遺物は、須恵器・珠洲焼・近世陶磁器である。木製品・石製品砥石も出土している。

SE1501（図版５・17・86）

10D9・10に位置する。長軸0.9m、短軸0.85mの略円形を呈する。深さは1.35mである。壁面はほぼ垂直に落ちる。覆土は褐色土に灰色土、明褐色土がブロック状に入り、下部は灰色土・青灰色土となる。出土遺物はない。

SE1502（図版５・17・86）

10D9・14に位置する。径約0.8mの略円形を呈するが底部は楕円形となる。深さは1.25m。壁面は垂直に落ちるが、下部で膨らむ。覆土は黄色土に明褐色土ブロックが混じる。下部の３層は、暗灰色土となる。出土遺物はない。

SE1503（図版５・17・87）

10D8に位置する。径0.9mの円形を呈し、深さは0.7mと浅い。壁面は垂直に落ちる。底面は平らでなく南側がやや深い。覆土は、褐色土・灰色土・明灰色土がブロック状に入る。出土遺物はない。

SE1504（図版５・17・87）

10D5・10に位置する。径1.5mの円形を呈し、深さは1.05mを測る。覆土は暗褐色土に炭を多く含み、明褐色土がブロック状に入る。

SE1514（図版５・18・87）

11E9に位置する。長軸0.75m、短軸0.7mの略円形を呈し、深さは1.05mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちるが中位に周囲帯状にテラスがあり、再び垂直に落ちる。覆土は灰色土・褐色土で最下層に黒色腐

植土がある。出土遺物はない。

SE1711（図版６・18・87）

４あ４・９に位置する。径0.7mの円形を呈する。深さは2.55mと深い。覆土は４層まで暗褐色土を基調としレンズ状堆積で、下部は黄色地山土のブロックを主体とする。８層部分は調査途中で崩落し、はっきりしない。出土遺物は土師器が数点である。

SE1712（図版６・18・87・88）

４あ20に位置する。長軸1.0m、短軸0.7mの楕円形を呈し、深さは2.7mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちるが下部でやや南に歪む。覆土は上面が暗褐色土を基調とし、下部では黒味が増す。12層以下不明。中層以下では、珠洲焼・土師器・焼礫・板材等が出土している。

SE1713（図版６・18・88）

４あ25に位置する。径1.15mの円形を呈し、深さは2.2mまで確認したが、それ以上になる可能性がある。壁面はほぼ垂直に落ちるが下部でやや北側に歪む。覆土は黄褐色土と茶褐色土の互層であるが、炭、焼土粒を混入する。土師器が出土している。

SE1717（図版６・18・88）

4A1に位置する。径0.95mの円形で、深さは3.56mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちるが、部分的に凹凸が認められる。覆土上面は茶褐色土を中心に黄色土がブロック状に混じる。12層以下は湧水による崩落のため不明である。土師器が出土している。

SE1718（図版６・18・88）

4A16・21に位置する。長軸1.5m、短軸1.4mの略円形を呈し、深さは3.4mを測る。壁面は上面が広く、1m以下付近ですぼまり、以下垂直に落ちる。覆土は上部で暗褐色土に黄色土がブロック状に入り、下部にいくにしたがい、黒色土・青灰色土が多くなる。遺物は多く、珠洲焼・中世土師質土器・土師器・焼石・漆椀・曲げ物・石臼・五輪塔火輪部等がある。

SE1719（図版６・18・89）

4A16に位置する。長軸1.05m、短軸0.85mの略円形を呈し、深さは2.05mを測る。壁面は下部にいくにしたがってややすぼまり狭くなる。覆土は炭化物を含む暗褐色土と黄色土（ブロック）の互層で、８層に焼土粒を認める。遺物は珠洲焼・土師器で珠洲焼鉢は完形で出土した。

SE1720（図版６・19・89）

4A21に位置する。複数の大型遺構が重複する。径約1mの略円形で、深さ1.3mを測る。壁面はほぼ垂直に落ちる。底面は少し窪みが認められるが浅いため水溜施設とは考えにくい。覆土は上部が茶褐色土系、下部が灰色土系となる。下部の11層から土師器椀等の破片が出土している。断面を見るともう１基井戸が重複しているのがわかるが詳細は不明である。

SE1728（図版６・19・89）

５あ５に位置する。SK1729と重複するが、これに切られて古い。長軸1m、短軸0.9mの不整形を呈するが、もとは円形であったと考えられる。深さは2.3mである。壁は凹凸が激しく直線でないが、もとは垂直であったと考えられる。覆土は上位が暗褐色土、茶褐色土で下位にいくほど灰色・青灰色となっていく。出土遺物は土師器片が数点出土している。

SE1731（図版６・19・89・90）

5A4・５・９・10に位置する。長軸1m、短軸0.9mの略円形を呈し、深さは1.85mを測る。壁面は

ほぼ垂直に落ちるが、下半部でやや膨らむ。覆土は、茶褐色土や黒褐色土の間に黄色土ブロックが互層に入っている。出土遺物はない。

SE1732（図版６・19・90）

5A1に位置する。径約1.25mの略円形を呈し、深さは1.75mを測る。西側でSE1720と重複し、これに切られ古く、南側はSK1742を切って新しい。壁面は、下部に行くにしたがい若干細くなる。覆土は暗色土系と黄色土系の互層で、各層に炭化物を含んでいる場合が多い。出土遺物も多く、土師器椀・甕・須恵器壷等がある。

3）土　　坑

SK401（図版２・19・90）

3F16に位置する。径1.05mの略円形で、深さ0.2mと浅い。断面は浅い皿状を呈する。覆土は灰色シルトである。礫が２点出土している。

SK403（図版２・19・90・91）

1E25、1F21に位置する。SD349と重複し、これを切っている。長軸1m、短軸0.95mの隅円方形を呈し、深さは0.23mを測る。断面形は箱型に近い。覆土は暗褐色土で、２・３層に炭が入る。出土遺物はない。

SK475（図版３・19・91）

5B9・10に位置する。長軸1.3m、短軸1mの楕円形で、深さは0.15mである。断面形は浅い皿状を呈する。覆土は上層に黄色土があり、下層に薄く暗褐色土が入る。土師器片が数点出土している。

SK1130（図版３・19・91）

6E23、7E3に位置する。長軸1.15m、短軸0.95mの不整形で、深さは0.85mを測る。断面形はＶ字状に近い。覆土は黒褐色土が主体で、下部で青灰色土となる。断面では柱穴が重複する。出土遺物はない。

SK1243（図版３・19・91）

7D5・10に位置する。長軸1m、短軸0.83mの不整形で、深さは0.73mを測る。断面形はＵ字状で、中央がやや窪む。覆土は褐色土に黄色土・白色土がブロック状に混じる。出土遺物はない。

SK1388（図版４・20・91・92）

7G16・21に位置する。長軸1.1m、短軸0.65mの不整形で、深さは0.65m以上を測る。壁面はほぼ垂直に落ちると考えられる。覆土はレンズ状の堆積で、２層に炭を多く含む層がある。遺物はないが、下部から、焼礫が数点出土している。

SK1392（図版４・20・92）

8G1・２・６・７に位置する。長軸1.9m、短軸1.7mの不整形で、深さ0.35mを測る。断面形は浅い皿状であるが、中央がやや深くなる。覆土は中央に炭が厚く堆積する。出土遺物は礫数点のほか、須恵器・土師器・近世陶磁器がある。

SK1393（図版４・20・92）

9D3に位置する。調査区端のため全体を確認できない。長軸は1.55mで不整形で、断面形は北西側がほぼ垂直で、南東側が緩やかに立ち上がる。覆土は黄色土と黒色土で一部炭が混じる。出土遺物はない。

SK1384（図版３・20・92）

6D1・２・６・７に位置する。長軸2m、短軸1.64mの隅円方形に近い不整形で、深さは0.26mを測

る。断面形は浅い皿状である。須恵器・土師器・珠洲焼が出土している。

SK1505（図版５・20・92）

11E7・12に位置する。径約1.2mの略円形で、深さは0.35mを測る。断面形はＶ字状に近いが、中央でやや窪む。覆土は上部が褐色土、下部が灰色土である。土師器が１点出土している。

SK1508（図版５・20・92）

11E11に位置する。長軸1.63m、短軸1.51mの楕円形に近く、深さは0.94mを測る。断面形は箱型に近いが底面が水平でなく、東側が浅くなる。覆土は褐色土と黒褐色土がブロック状に混じる。遺物は土師器・珠洲焼・中世土師器が出土している。

SK1510（図版５・20・93）

11G6に位置する。長軸1.4m、短軸1.04mの楕円形で、深さは1.05mを測る。両壁はほぼ垂直に落ちるが、底面が一定しておらず、細かい階段状となる。覆土は暗褐色土に明褐色土・灰色土が混じる。出土遺物はない。

SK1512（図版５・20）

12F7に位置する。長軸0.98m、短軸0.85mの不整形で深さは0.62mを測る。断面形は南北に非対称で南側が緩く落込むのに対し、北側はほぼ垂直に落ちる。底面も平坦でない。覆土は褐色土系で下部にいくにしたがい黒味を増す。

SK1515（図版５・20）

11E1・６に位置する。径0.6mの円形で、深さは0.55mを測る。断面形はＶ字状に近いが、底面に窪みが見られる。覆土は褐色土・暗褐色粘質土である。出土遺物はない。

SK1607（図版５・20・93）

11F18に位置する。長軸1.05m、短軸0.83mの不整形で、深さは0.38mである。断面形は箱型に近い。覆土は自然堆積状況を示しておらず、中央に１層があり、それを囲むように２から６層がある。珠洲焼・土師器片が出土している。

SX1701（図版６・20・93・94）

2A21に位置する。遺跡の一番北側高位斜面にあり、近接してSB9がある。緩やかな斜面に長軸が並行するように構築されている。長軸1.4m、短軸1.1mの方形で深さは0.35mを測る。断面はＶ字状であるが、南側（斜面谷側）は立ち上がりが少なく緩やかである。底面は水平となる。覆土は１層が暗褐色土で土器を含む。２層は暗黄褐色土で、土器片を多量に含む。３層は灰と炭の層で焼土壁を含む。土器片は少ない。側壁は焼成により良く焼けており厚さ10cmほど変色・硬化している。山側奥壁（北側）も同様に焼成硬化しているが、手前（南側）は焼けていない。このことから、谷側を焚口にしていたことが考えられる。天井があったかどうかは判断できない。床面も大部分焼成による硬化、炭面が認められるが、奥壁側及び手前は顕著でない。

当初、土師器焼成遺構ではないかと考えられたが遺物の出土は谷側（南側）半分に偏っている。また出土状況は完形品が潰れた状況でなく、ばらばらであり、復元した結果でも完形品になるものはなく、壊れた一部を廃棄したことを物語っている。

SX1702（図版６・21・94）

３あ３に位置する。SX1701と同様調査区の一番北側、斜面部が平坦部に変換する境に位置する。長軸1.25m、短軸1.15mの不整形で、深さ0.25mを測る。断面形は浅い皿状を呈する。覆土は１・２層が炭

を多く含む層で、１層の黄褐色土は、焼けているようである。内黒土師器椀や土師器片・礫が出土している。以下は黒褐色土・暗褐色土・黄色土ブロックである。覆土を水洗した結果、鍛造剥片と見られる砕片が多数検出された。炭片が上部に認められる等からここで鍛冶を行ったのではなく、廃棄した場所と考えられる。

SK1706A（図版６・20・95）

3A19に位置する。長軸1.05m、短軸0.75mの楕円形に近く、深さは0.1mと浅い。断面形は浅い皿状である。覆土は黄茶褐色土である。出土遺物はない。

SK1707（図版６・21・95）

3A24に位置する。径約1mの略円形で、深さは0.3mを測る。断面形はＶ字状であるが、中央でやや窪む。覆土は４～６層で黄褐色土・黒褐色土である。出土遺物はない。

SK1708（図版６・21・95）

3A7に位置する。南西側がSD1748と重複しているため形状は明確でないが、およそ長軸1.1m、短軸0.8mの小判形に近いと考えられる。深さは約0.15mで断面形は浅い皿状である。覆土は黄褐色土で地山に近い。土師器が２点出土している。

SK1714（図版６・21・95）

４あ９に位置する。東側でSK1715と重複し、これに切られる。長軸1.15m、短軸0.95mの長円形で、深さは0.9mを測る。断面形はＵ字状に近い。土層断面図から、覆土の中に３つのピットが存在することがわかる。１・２層は炭化粒を含む褐色土で１つのピット、３～12層は褐色～暗褐色土が主で、炭粒を含む１つのピット、深さは0.7mになる。13・14層が青灰色土で１つのピットとなる。ほかが土坑の覆土である。黄褐色土を中心に炭化粒が混じる。土師器・須恵器が比較的多く出土している。

SK1715（図版６・21・95・96）

４あ９に位置する。長軸0.9m、短軸0.85mの不整形で、深さは0.22mを測る。断面形は浅い皿状を呈する。覆土は暗褐色土で柔らかく、炭化物粒を含む。土坑の中からは、大甕を中心にたくさんの須恵器、土師器片がバラバラの状態で廃棄されている。須恵器では甕・壷・有台杯、土師器では椀・甕等である。隣のSK1714と接合するものが多くある。

SK1722（図版６・21・96）

4A18に位置する。すぐ西側にはSD1748Aが走る。径約0.6mの略円形で、深さ0.3mを測る。断面形はＵ字状を呈する。覆土は暗色土に黄色土ブロックが混じる。出土遺物はない。

SK1723（図版６・21・96）

4A15に位置する。径約0.8mの略円形で、深さは0.3mを測る。断面形はＶ字状を呈する。覆土は暗褐色土に黄褐色土がブロック状に混じる。３層より土師器片が出土している。

SK1733A・B（図版６）

5A12に位置する。２基が重複し、ＡがＢを切っている。平面形は約0.8×0.6mの卵型を呈し、Ａは南北に、Ｂは東西に長い。深さはＡが約0.3m、Ｂは約0.45mである。Ｂは底にピットを持ち、深さは0.8mに達する。SB10の柱穴となった。Ｂからは、土師器・須恵器が出土している。

SK1734（図版６）

5A8に位置する。南北両側を溝で切られているため、全体はつかめないが、約1.3mの略円形であったと考えられる。断面形は皿状で、深さは約0.5m。覆土はレンズ状に堆積し、炭層が２枚確認される。

SK1736A・B・C・SK1737（図版６）

5A6・7・12に位置する。４基が重複する。新旧関係は、古い順にSK1736B、SK1737、SK1736Aとなるが、SK1736Cとの関係はつかめない。SK1736Aは長軸0.8m、短軸0.6mの隅円の長方形状を呈するものと考えられる。底面も長方形状を呈する。SK1736Bは断面観察で確認された。深さは約1.1mに達する。SK1737は径約0.5mの略円形で深さは約0.6m。SK1736Cは、径約0.5m、深さ0.1m程度と浅い。

SK1741（図版６）

5A4・５に位置する。平面略円形で、径約0.6m、断面形はＶ字状に近い。深さ約0.7mである。覆土は、炭化物を含む黄色土と暗色土の互層がレンズ状に堆積している。

SK1820（図版７・21・96）

Ⅶ層で確認された。4A19に位置する。長軸1.4m、短軸1.2mの不整形で、深さは0.22mを測る。断面形は、中央がやや窪む浅い皿状を呈する。覆土の１・２層はほかのピットの可能性がある。また３層もほかのピットであろうか。４～７層が土坑覆土である。黄（白）色粘土に暗褐色土が挟まれる。各層から土師器（椀・鍋・甕）片が出土している。

SK1821（図版７・21・97）

Ⅶ層で確認された。4A5に位置する。調査区の一番東側で遺構の半分が確認された。平面形は方形に近く、断面形は皿状である。覆土は褐色土で炭粒が混じる。土師器片が出土している。

4）溝

SD349（図版２）

2E～1Fに向って緩くカーブを描く。SB1・SK403と重複するが、新旧関係は不明。延長約7m、幅0.3～0.5m、深さ10cmほどの浅い溝である。土師器片が出土している。

SD479・480（図版２・21・97）

4E～4Fにかけて東西に並行して走る同規模の溝で、方位はN80°Ｗである。両溝とも長さ6.5m、幅0.5～0.8m、深さ0.3m前後で断面Ｕ字状に近い。覆土は褐色土に青灰色土が混じる。幅、深さともに一定しない。近世土器が出土している。

SD370（図版３）

4C～5Dにかけて東西に走る細い溝。延長約16m、幅0.3～0.5m、深さ10cm前後である。西側で調査区外に延びる。主軸方位はN82°Ｗであるが、東側でやや南に傾く。土師器細片が50点ほど出土している。SK510と重複し、SD370がこれを切っている。また、すぐ南側1mに同規模で並行して走る溝があるが、西側調査区外に延びるため、詳細は不明。

SD530（図版３）

5B・Ｃに位置する。幅0.5m前後、延長約6mで、深さ10～15cmである。主軸方向は78°Ｗである。

SD700（図版３・21・97）

6B・Ｃ・Ｄに位置する東西に走る溝。延長は途中途切れるものの約19mで西側調査区外に延びる。主軸方位は、N86°ＷでSD370と近い方位を示す。両溝間の間隔は約15mである。西半分では土坑、ほかの溝と考えられるものが重複する。幅は40cm前後であるが、ほかの遺構と重複する部分では広くなっている。SD700－１断面では、幅約45cm、深さ15cmの皿状で、覆土は褐色土。SD700－２はすぐ南側にあり、別の溝と考えられる。幅約1.2m、深さ0.5mのＵ字状で、覆土は、褐色土、黄褐色土で

ある。SD700－３部分は、上記２つの溝が合流している部分であるが、断面では２つの溝を認識できない。幅1.9m、深さ1.2mで断面は、U字状であるが、北側が垂直近く立ち上がる。覆土は中央が暗褐色土、周囲が黄褐色土ブロックを含む暗褐色土である。SD700－４では、幅が広く3.1mあるが、覆土はSD700－４と同じである。SD700－５では、覆土が異なり、別の土坑の可能性が高い。この部分では、長軸1.8m、短軸1.2mの楕円形を呈し、深さは0.8mである。覆土は暗褐色土を中心に黄褐色土・炭層が互層となる。遺構全体では、古代から近世まで各種遺物が出土している。

SD1743A・B（図版６）

3A8・9・14に位置する細い溝。Aは延長約4.5m、幅0.3m、深さ10cmの皿状である。覆土は暗褐色土。長軸方位はN40°Wである。出土遺物は土師器片が出土している。Bは同規模であるが、深さ5cmと浅い。Aと交わるが新旧は不明。長軸方位はN25°Wである。

SD1744（図版６）

3A21～4A20にわたって延びる延長約10mの溝。北側で東に向って緩くカーブし消滅する。南側は調査区外に延びる。途中確認できない部分がある。南東側で２本の溝が重複、近接するが同一の溝と考えられる。また、SD1784がこれを切っている。幅10～30cm、深さ10cmの浅い溝で長軸方向はN40～45°Wである。覆土は暗褐色土で青灰色粘土をブロック状に含む。土師器片１点が出土している。

SD1745（図版６）

３あAに位置する。延長約3m、幅15～30cm、深さ10cmで断面形はU字状である。土師器片が出土している。

SD1746（図版６）

SD1745に並行、近接して走る溝である。延長4.5m、幅20～40cm、深さ20cmで、断面形はV字状となる。覆土は褐色土系である。長軸方位は約N30°Wである。土師器片が出土している。

SD1747（図版６）

同じくSD1745、1746と並行して走る溝。SD1746とは約0.6m離れる。延長約6m、幅20～35cm、深さ約20cmで、断面形はV字状。土師器片が出土している。

SD1748（図版６）

３・４・5Aに位置し、北東から南西に向って緩やかに蛇行しながら走る溝。北東側は調査区外へ延びる。延長約20m、幅20～25m、深さ10cm、断面形U字状。覆土は褐色土である。SD1744・1751・1753と重複するが、新旧関係は不明。土師器片が二十数点出土している。

SD1749（図版６）

２・3Aに位置する。確認延長約2m、幅0.5～0.8m、深さ0.3mで断面形は浅い皿状となる。長軸方向はN45°Wであり、SB9と方位を同じくする。SB9柱穴と重複するが、柱穴が新しい。出土遺物はない。これに北西側から交差する溝（SD1749B）があるが新旧関係は不明。

SD1750（図版６）

4A11・12に位置する。延長2.8m、幅20cm、深さ５～10cm、断面形は一定しない。覆土は暗褐色土で、黄・白色粘土が混じる。長軸方向はN60°Wである。土師器・須恵器片が出土している。

SD1751（図版６・21・97）

５あ・Aに東西に走る溝で東西両端とも調査区外に延びる。確認延長9.2m、幅0.5m前後、深さ25cmで断面は逆台形を呈する。覆土は褐色土に黄褐色土が混じる。SK1736A・1734と重複するが、いずれ

も溝が切っている。長軸方向はN85°Eである。土師器細片が多数出土している。

SD1752（図版6・21・98）

5・6あ・Aに東西に走る溝で東西両端とも調査区外に延びる。規模位置からすると1995調査区のSD700とつながる可能性がある。確認延長8.5m、幅1.4m、深さ40cm前後で、断面形は中央が階段状に深くなっている。断面観察では3つの溝が重複している可能性がある。1995調査区では、2条が認められる。覆土は暗褐色土・黒褐色土である。土師器片が多く出土している。SD1753と交わるが新旧関係はつかめず、同時存在の可能性もある。

SD1753（図版6・21・98）

5・6Aに位置する。南北方向に緩く弧を描く溝。北東側、南側は調査区外に延びる。確認延長12～14m、幅0.7m前後、深さ0.4m前後、断面U字状を呈するが、北西側にはステップを有する。覆土は暗色土と黄色土の互層。2層には白色粘土を多く含む。SD1752と交差する部分はステップを有し広くなっている。その両側ステップ部分に各々浅い土坑が存在する。SD1752と交差した南側はまた通常の幅となっている。交差部分で広くなっていることはSD1752との同時性を示すものと考えられる。

5）Ⅶ層溝群（図版7・98）

3・4あAにおいて、いわゆる畝状小溝群が確認されている。北西から南東に向って地形コンタに直交する方向でほぼ並行に溝群がある。長軸方向はおよそN63°W前後である。幅8m、長さ12mの範囲である。溝幅は0.3～0.5m、深さ5～20cmくらいで浅い皿状を呈する。覆土は褐色土・黄褐色土である。溝内からは、土師器片が出土している。

3　遺　　物

遺物は古代から中・近世まで出土しており、出土量は平箱62箱である。土器については時代別に説明を加えるが、そのほかは一括する。

A　古代土器

古代の遺物は1996年度調査区を中心に、比較的多く出土している。

1）器種分類（第1表・第8図）

須恵器には、杯・有台杯・蓋・長頸壷・短頸壷・甕・横瓶がある。

杯は浅く、身がやや開く底部ヘラ切り底（杯Ⅰ類）と、やや深く、糸切り底（杯Ⅱ類）とに分類される。

有台杯は、底部糸切りで、口径11～12cm、底部と身部に明瞭な稜を持つもの（有台杯Ⅰ類）、口径13cm前後とやや大きく、底部と身部の稜が明瞭でなく、底部ヘラ切りのもの（有台杯Ⅱ類）、Ⅱ類と同様であるが、口径14cm以上で身のやや深いもの（有台杯Ⅲ類）に分類した。

蓋は口径16cm以下（蓋Ⅰ類）と16cm以上（蓋Ⅱ類）に分かれる。

長頸壷は体部上半がくの字に屈曲し、底部高台が高いもの（長頸壷Ⅰ類）、体部最大径が10cm以下と小さくやや胴長のもの（長頸壷Ⅱa類）、器形は同じであるが、体部最大径が10cm以上のもの（長頸壷Ⅱb類）、球体に近い体部で、最大径が10cm以上のもの（長頸壷Ⅲ類）、広口で、肩部に突帯が廻り、底部平底で、

高台のつかないのも（長頸壷Ⅳ類）とがある。

短頸壷・甕・横瓶は分類しない。

土師器には、椀・有台椀・有台盤・鍋・長釜・小釜がある。

椀は、口径及び器高指数によって分類した。Ⅰ類は口径13cm以下のこぶりのもので器高指数27～33をａ類、器高指数35以上をｂ類とした。Ⅱ類は口径15cm以上のもので器高指数30以下（ａ類）、30以上（ｂ類）とした。Ⅲ類は口縁が外反するもので、１点のみの出土である。

有台椀は体部に稜のあるもの（Ⅰ類）と浅い皿状のもの（Ⅱ類）とがある。

有台盤は１点のみ。

鍋は口径25cm以下のもの（Ⅰ類）と口径25cm以上のもの（Ⅱ類）に分類し、Ⅱ類は口縁部形態によりａ、ｂ類に２分した。

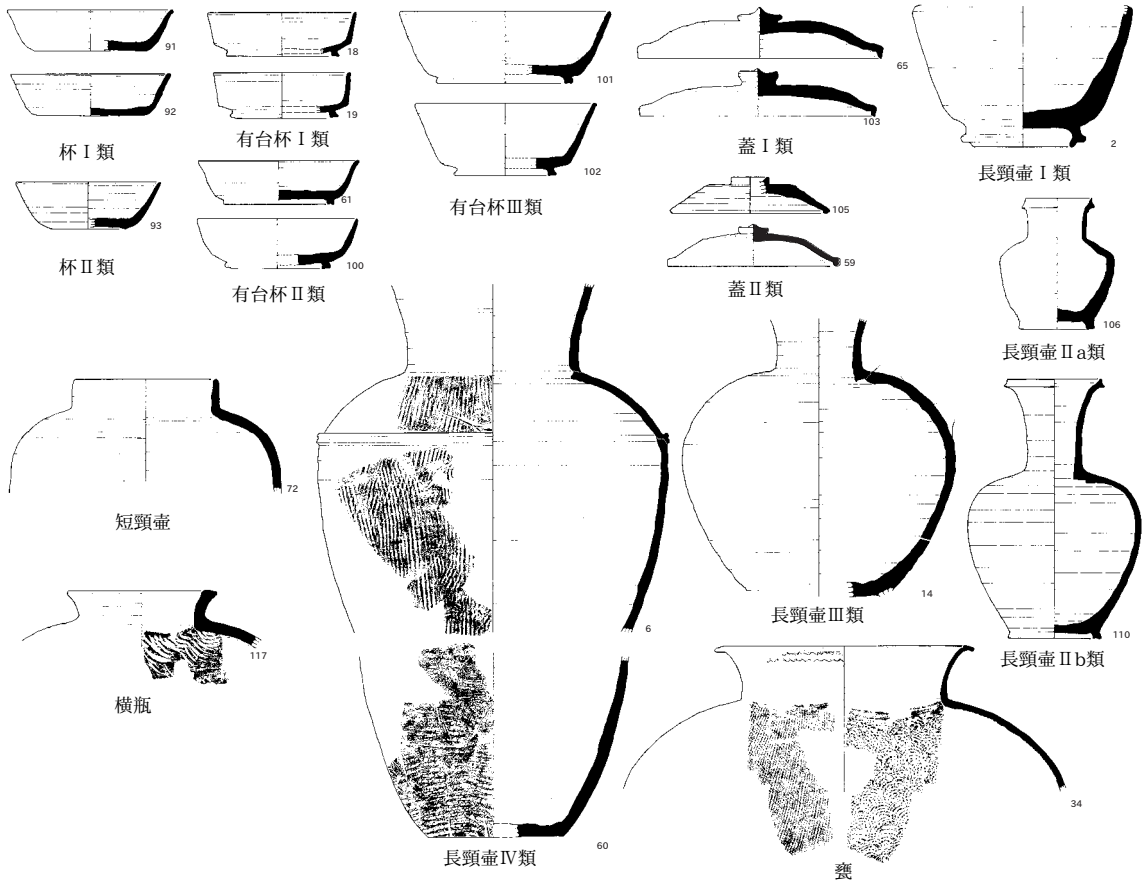
長釜は胴長（Ⅰ類）と球体（Ⅱ類）に分類した。Ⅰ類には、下半部ケズリ調整とタタキ調整とがある。

小釜は口径15cm以下のもので、口縁部形態によりⅠ・Ⅱ類に分類した。

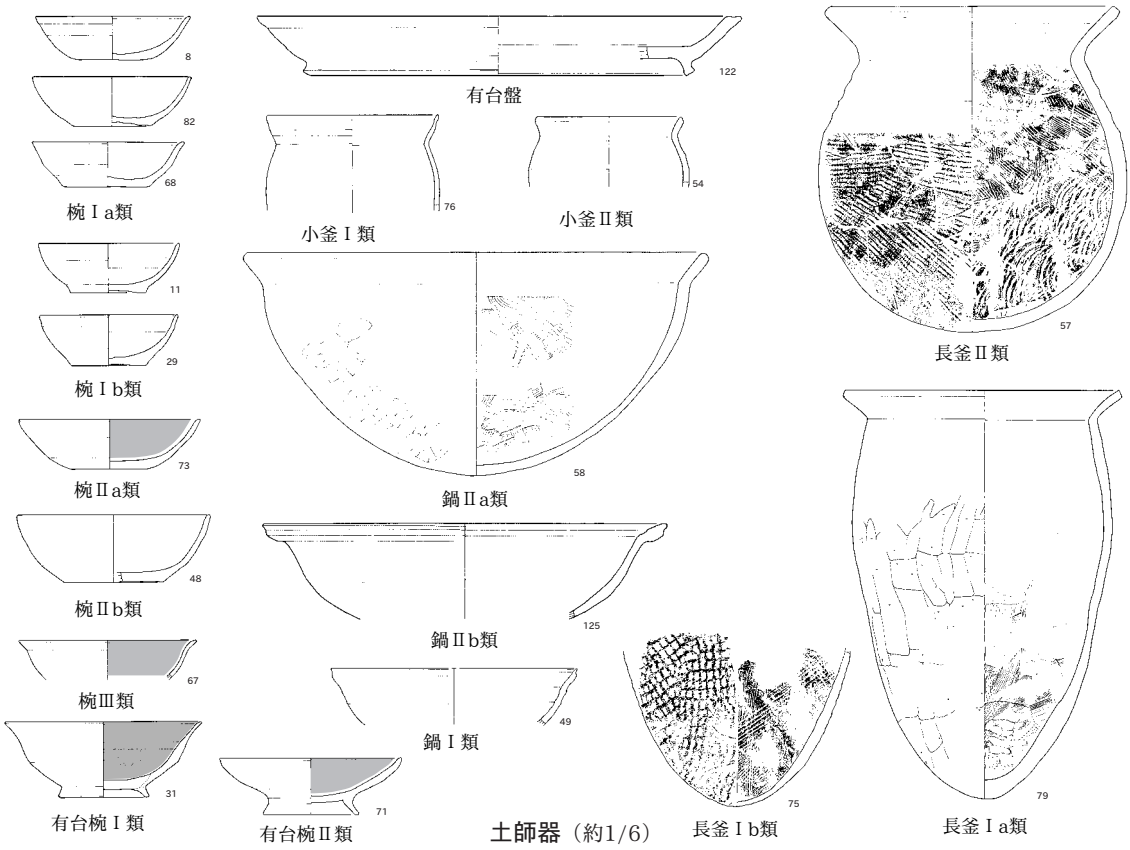
灰釉は壷底部である。

種　別	器　種	分　類		特　　徴
須恵器	杯	Ⅰ類		底部ヘラ切り
		Ⅱ類		底部糸切り
	有台杯	Ⅰ類		口径11～12cm、底部と身部に明瞭な稜を持つ、底部糸切り
		Ⅱ類		口径13cm前後、底部厚く篦切り
		Ⅲ類		口径14cm以上、底部ヘラ切り
	蓋	Ⅰ類		口径16cm以上、宝珠状つまみ
		Ⅱ類		口径16cm以下、宝珠状つまみ
	長頸壷	Ⅰ類		体部上半がくの字状に屈曲する。底部高台高い。
		Ⅱ類	a	体部最大径が上半にあり、10cm以下と小型。やや胴長となる。底部高台付
			b	体部最大径が上半にあり、10cm以上。やや胴長となる。底部高台付
		Ⅲ類		球体に近い体部で最大径10cm以上。底部高台付
		Ⅳ類		広口で、肩部に突帯が廻る。底部平底で高台はつかない。
	短頸壷			
	甕			
	横瓶			
土師器	碗	Ⅰ類	a	口径13cm以下、器高指数27～33、糸切り
			b	口径13cm以下、器高指数35以上、糸切り
		Ⅱ類	a	口径15cm以上、器高指数30以下
			b	口径15cm以上、器高指数30以上
		Ⅲ類		口縁緩く外反
	有台椀	Ⅰ類		体部に稜を持ち、深みのあるもの
		Ⅱ類		体部が皿状で浅いもの
	有台磐			
	鍋	Ⅰ類		口径25cm以下
		Ⅱ類	a	口径25cm以上、口縁くの字状に外反、下半ケズリ
			b	口径25cm以上、口縁くの字状に外反肥厚、下半ケズリ
	長釜	Ⅰ類	a	口径約20cm以上、下半ケズリ
			b	口径約20cm以上、下半タタキ
		Ⅱ類		口径約20cm以上、体部球体、下半タタキ
	小釜	Ⅰ類		口径15cm以下、口縁外反弱く、立つ
		Ⅱ類		口径15cm以下、口縁外反
灰　釉	壷			

第１表　古代土器器種分類表



須恵器（約1/6、34のみ約1/12）



土師器（約1/6）

第８図　古代土器器種分類図

2）遺構出土土器（図版22－1～図版31－204）

SE100（1）

甕口縁部破片である。口縁の外反はない。内外面タタキ。

SE1732（2～12）

壷が多いのが特徴。Ⅰ、Ⅱb、Ⅳ類がある。Ⅰ類の2は体部がくの字状屈曲する。Ⅳ類の6は広口で平底である。8～11は土師器椀、11が器高指数が大きくやや深い。

SK1705（13）

甕口縁部破片。端部が垂直に立つ。

SK1707（14）

体部球体の壷である。

SK1714・SK1715（15～35）

両土坑は近接、複合し、両土坑で接合する個体が多いため、一括して捉える。15は底部ヘラ切りの須恵器杯、16～20は須恵器有台杯でいずれもⅠ類で特徴的である。底部は糸切り。21～26は須恵器壷。大小あり、球体に近い24（Ⅲ類）、胴長のもの21・23（Ⅱb類）がある。25・26はⅣ類であるが、底部の造りに違いがある。25は、酸化焔焼成に近く、軟質。肩部に突帯が廻る。甕は多く、6個体を数える。いずれも大形であり、口縁部形態も異なる。34・35では口縁に波状文が廻る。29・30は土師器の椀で30は内黒、31は内黒の有台椀である。体部に稜を持つ。

SK1730（36）

長頸壷Ⅱa類の体部である。

SK1725（37）

土師器長釜の頸部である。

SK1734（38）

長頸壷Ⅱb類の体部上半である。

SK1820（39～52）

39～48は土師器の椀。48（Ⅱa類）を除いてすべてⅠa類である。49は小形の鍋で、口縁が直立する。50～52が小釜Ⅱ類である。

SK1736A（53・54）

肩部不明の長頸壷は、下半部に明瞭なケズリが見られる。54の小釜には、スス付着。

SX1701（55～58）

長釜3点と鍋1点が一括して出土したが、完形でなくまた各個体ばらばらの状態で出土した。55・56は長釜Ⅰaで、丸底、下半部ケズリとなる。 55は口縁くの字状に外反するが、やや反り気味で、胴下半部は直線的にすぼまる。56は口縁直線的に外反し、胴下半部にも丸みを持つ。57は長釜Ⅱ類でこれ1点のみである。くの字状に外反する口縁に球体の胴を持つ。外反する口縁は56に比べると長い。胴下半内外面タタキ調整。58は大形の鍋。同じく口縁くの字に外反する。胴部はケズリ、刷毛調整である。以上4点とも煮炊具にもかかわらず、その使用痕跡（被熱、炭化物等）が認められない。

SX1716（59）

Ⅱ類の蓋である。

SX1702（60）

底部平底となる長頸壷Ⅳ類である。外面にタタキ。

SD700（61～63）

SD700は中世以降も出土しているが、ここでは古代分を掲載する。61は有台杯Ⅱ類。底部ヘラ切りである。62の蓋は径16cmと小さい。63の長釜はⅡ類で球体に近い胴部である。

SD1744（64）

甕口縁部である。口縁端部上方につまみ上げられる。

SD1750（65）

口径20cm近い大形の蓋である。

SD1752（66・67）

67は内黒の土師器椀。口縁外反する

SD1753（68～71）

68～70は土師器椀。68・69はⅠa類、70はやや深みのあるⅠb類であろうか。71は浅い有台椀で内黒である。

SD1814（72・73）

73は椀Ⅱa類。72は短頸壷である。

ピット（74～90）

74～77はP4出土である。74は有台椀と思われる。身部は直線的に開く。77は盤と思われるが器種不明。76の小釜は口縁外反少なく、薄手である。79はP11出土。口縁くの字状に外反。胴下半部外面ケズリ、内面ハケ。下半部比較的厚手である。84～87はP26出土。鍋84・87はいずれもⅡa類で、くの字状に外反する口縁端部がやや肥厚する。88・89はP50出土。88は長頸壷Ⅳ類で、下半部縦のケズリが見られる。89は土師器椀Ⅰa類。90は灰釉壷底部と考えられる。

3）包含層出土土器

須恵器（図版27－91～図版28－117）

杯Ⅰ類（91～93）　91・92はⅠ類で底部ヘラ切り。器高指数低い。93はⅡ類で底部糸切りで、やや深身。

有台杯Ⅰ類（94～96）　94～96はⅠ類。底部と身部境に明瞭な稜を持つ。底部は糸切りを行った後、ナデを加える。底部内面やや丸み。97～100はⅡ類。Ⅰ類に比べ厚手で、底部ヘラ切り。101・102がⅢ類。大形の有台杯蓋（103～105）いずれも口径が異なる。103は大きく、これに対応する有台杯が認められない。

長頸壷（106～111）　106は小形で頸は短い。底部糸切り。110も底部糸切り。口縁端部は断面三角形でつまみ上げられる。111は球体のⅢ類である。

甕（112～116）　112は直線的に延びる口縁部で端部がつまみ上げられる。113～116は同一個体。外面細かい格子タタキ。内面上半は背面と同じ格子タタキ、下半は平行タタキである。

横瓶（117）　内面青海波タタキ。

土師器（図版28－118～129）

椀（118～121）　118・119はⅠa類であるが、口縁部形態に若干違いがある。120はやや深くⅠb

類になると考えられる。121は口径15cm以上でⅡａ類である。

有台盤（122）　１点のみである。浅く、口径は40cm近いと考えられる。

鍋（123～125）　123・124はⅡａ類であるが、口縁部の形態が異なる。125は口縁部大きく外反し肥厚する。

長釜（126・127）　口縁部形態がやや異なる。126は直線的に外反するのに対して、127は端部が直立する。

甑（128）　甑把手であろうか。

灰釉（129）　灰釉壷底部と考えられる。

B　中 世 土 器

1）器 種 分 類（第２表・第９図）

中世土器としては、珠洲焼・中世土師器・青磁・白磁・瀬戸がある。

珠洲焼には、甕・壷・鉢・片口鉢がある。

甕は全体を窺える完形品がないため、一括して扱うが、口縁部形態には違いが認められる。

壷には、外面にタタキを施す大形のＴ種と、ロクロ整形の小型Ｒ種がある。

鉢・片口鉢は、完形品でないと区別ができないため、一括して扱う。口径20cm以下で擂り目がなく、片口がつかないものをⅠ類とした。口縁は内湾気味に立ち上がる。Ⅱ類としたものは、口径20～30cmのものであるが、片口・摺り目のあるものも認められる。Ⅲ類としたものは口径30cm以上のものである。

Ⅱ・Ⅲ類ともに口縁部形態はⅠ類に近い。Ⅳ類としたものは、口縁端部が内側に削がれるものである。Ⅴ類は口縁端部が肥厚し断面三角形となり、内面に波状文がつくものである。Ⅵ類は口縁やや外反し、端部は薄く丸みを持つ。内面には波状文がつく。

中世土師器には皿と脚付皿がある。

皿は底部糸きりのロクロⅠ類と手づくねのⅡ類に分類した。Ⅰａ類はいわゆる柱状高台と呼ばれている

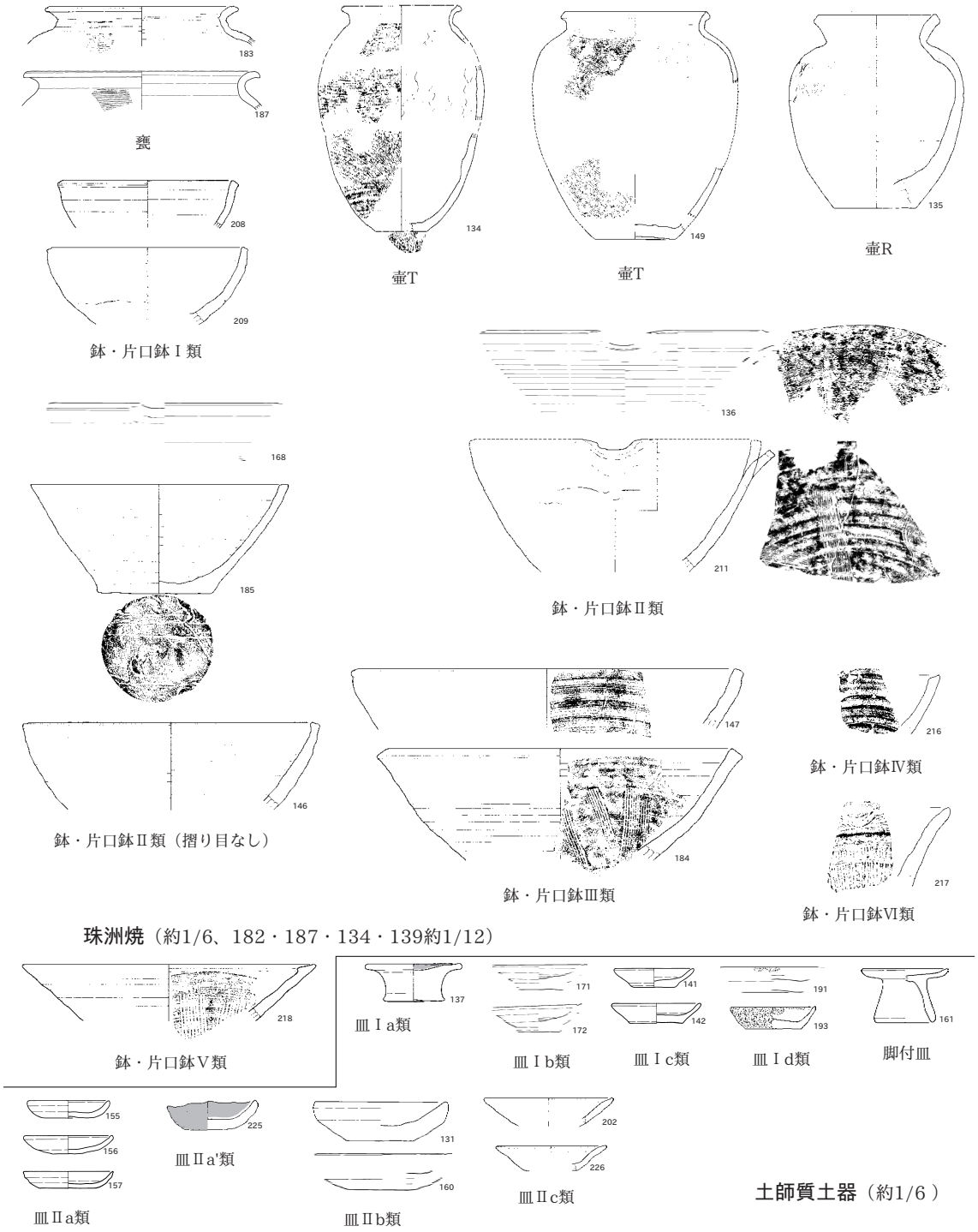
珠洲	甕			
	壷Ｔ			
	壷Ｒ			肩部櫛波状文
	鉢・片口鉢	Ⅰ類		口径20cm以下、擂り目なし、口縁内湾ぎみに立ち上がる。端部直角または外側に切られる
		Ⅱ類		口径20～30cm、口縁内湾ぎみに立ち上がる。端部直角または外側に切られる。 擂り目のあるものとないものがある
		Ⅲ類		口径30cm以上、口縁内湾ぎみに立ち上がる。端部直角または外側に切られる
		Ⅳ類		口縁端部が内側に切られる
		Ⅴ類		口径20～30cm、口縁内面端部断面三角形
		Ⅵ類		口縁端部が薄くなり丸みを持つ
土師器	皿	Ⅰ類	a	柱状高台糸切り
			b	口径７～8cm、底部厚く小さい、糸切り
			c	口径７～8cm、底部薄い、糸切り
			d	口径9cm以上、底部厚い、糸切り
		Ⅱ類	a	口径７～8cm、手づくね、薄手
			a	口径７～8cm、手づくね、厚手
			b	口径10cm以上、手づくね、厚手
			c	口径10cm以上、手づくね、薄手
	有台皿			
青磁				
白磁				
瀬戸・美濃				

第２表　中世土器器種分類表

ものである。Ⅰｂ類は、口径７～8cmの小型で底部厚く1cm前後あるもの。Ⅰｃ類は口径は７～8cmと同様であるが、底部が薄く大きいものである。Ⅰｄ類は口径9cm以上と大きく、底部厚く仕上られる。Ⅱａ類は口径７～8cmで底部も薄く仕上られる。Ⅱｂ類はａ類と同様であるが、底部が厚く仕上られるもの。Ⅱｂ類は口径10cm以上と大きく、厚手のもの。Ⅱｃ類は薄手のものである。

脚付皿は皿Ⅱａ類に足の長い脚を付けたものである。１点のみ。

青磁、白磁は椀と皿である。



第９図　中世土器器種分類図

2）遺構出土土器（図版29－130～図版31－204）

SE385（130～132）

130は柱状高台と思われる。132の青磁は底部厚く、見込みに文様がある。

SE420（133～144）

井戸一括で出土している。133・134は壷Ｔ種である。口縁はコの字状に近い。135は壷Ｒ種で、肩部に波状文が２段廻る。口縁くの字状に外反する。136の片口鉢は口縁内湾しながら立ち上がる。櫛目は細く、６～７本で、櫛目端部は揃えていない。137～142が土師皿である。いずれも底部糸切りでＩａ、Ｉｂ、Ｉｃ類がある。143・144は土師質の皿である。

SE430（145～148）

145～147が鉢である。146の口縁端部形態は136に類似する。147の櫛は太い１本単位である。145底部は静止糸切り。148の青磁は内面劃花文である。

SE476（149）

149は壷Ｔ種である。口縁くの字状に外反し、端部上方に延びる。内面に炭付着。

SE490（150～164）

土師皿は底部糸切りのＩ類、手づくねのⅡ類いずれも出土している。Ｉ類はｂ・ｃ類、Ⅱ類はａ・ｂ類である。161の脚付皿は類例がない。162は青磁碗で見込みに段を有する。163は底部の厚い皿。164は端反りの白磁である。

SE560（165～180）

165は壷Ｒ種肩部。波状文がある。166は甕である。内外面被熱によりはでている。口縁は外方に大きく反り、端部は下方に丸まる。167・168は鉢で167底部は回転糸切りである。169～180が土師皿である。多くがＩｂ類であるが、Ⅱ類も認められる（180）。

SE580（181）

181は青磁碗である。外面鎬の蓮弁、内面にも文様が見られる。

SE1504（182）

片口鉢である。櫛は７本単位で太い。口縁部は外方に開く。

SE1712（183・184）

183の甕は、口縁が外方に大きく開く。頸部内面ヨコナデが突帯状となる。端部では、沈線が廻る。184の鉢は口縁直線的に開く。櫛端部は揃えていない。

SE1719（185・186）

２点とも鉢である。185は口縁端部水平に切られる。擂目はない。186は端部やや太く、水平に切られる。擂目が施される。

SK1000（187・188）

187の甕は、口縁反るように大きく外反する。188の皿はⅡａ類である。

SK1721（189～191）

189の櫛目は太く端部を揃えていない。190・191の皿はＩｄ類で糸切りである。

SX48（192）

青磁碗底部。高台内露胎。

SX1508（193～195）

193は皿Ⅰc類。194・195は鉢で、擂目が認められる。

SD700（196・197）

196の皿はⅡc類。197は瓦器の壷と考えられる。頸部に浮文花文様が見られる。

SD1753（198）

擂り鉢で口縁部欠損する。

ピット（199～204）

各ピットから出土したものである。199は青磁で見込みに花文様がある。202は皿Ⅱc類で、類例は少ない。203は土師質で中央に円孔がある。器種不明。

3）包含層出土土器（図版31－205～図版32－234）

珠洲甕（205～207）

205は外面平行タタキ、内面同心円・平行タタキであるが珠洲焼と考えられる。206は頸部がほとんどない。207は線刻で「ゆ」が認められる。

鉢・片口鉢（208～218）

208・209は小型のⅠ類で口縁は内湾気味に立ち上がる。210・211は大形のⅡ類。211は波状の櫛目。216はⅣ類で口縁内側にそがれる。218は口縁断面三角形でⅤ類。217は口縁丸みを持ち、内面波状文が廻る。

土師器皿（219～226）

219～224は遺構出土のものと同じ。225は厚手で外面指押えが顕著。226はⅡc類で類例少ない。

内耳鍋（227）

耳部分である。中世と考えたが時期不明。

壷（228）

土師質である。肩部に波状の沈線が廻る。

青磁（229～232）

229・230は文様の無い碗。口縁外反する。232も碗。外面雷文、内面にも文様がある。231は皿。釉厚く、底部接着面内側まで釉かかる。見込みに花文様。

瀬戸（233・234）

233は内禿の碗。灰釉。234は波皿。越中瀬戸の可能性もある。

C　近 世 土 器

1）遺構出土土器（図版33－235～239）

SE610（235・236）

いずれも越中瀬戸小壷である。口縁やや肥厚外反する。体部に丸み。

SE670（237）

越中瀬戸小壷下半部である。

SK1507（238）

越中瀬戸小壷である。口縁部直立する。体部丸みなし。

ピット（239）

唐津擂り鉢。口縁内部が突帯状になる。櫛目は端部揃えず。口縁部に鉄釉。

2）包含層出土土器（図版33－240～図版34－267）

伊万里染付（240、241）

240は皿底部。低部外面に「冨貴長春」。見込みにも模様があるが詳細不明。241も皿。見込み蛇の目釉剥ぎ。唐草文。

唐津（242～246）

242は皿。胎止め。243は京焼き風の椀である。250は小振りの椀。下半部から低部を除いて鉄釉。244～246は擂り鉢。244・245は内面突帯が退化した形態。246は口縁端部玉縁。

越中瀬戸（247・248）

247は小杯。底部除き鉄釉。248の鉢も越中瀬戸と考えられる。

そ　の　他（249・251～257）

産地等不明のものである。249は灯明皿。見込み中央に芯受け。251は小型の底部。252は土師質の硬い焼。253は鉄釉のかかる甕。254は底部中空となる。257は軟質の甕。内外面鉄釉。255・256は瓦器。255は蓋であろうか。

瓦（258～266）

258～261は、丸瓦で、内面に布目痕を残す。262はイブシ瓦。265・266は軒丸瓦。連珠三巴文と思われる。

羽口（267）

径8cm程度と考えられる。

D　石　製　品

1）遺 構 出 土（図版34－268～図版35－276）

SK1365（268）

石鉢である。口径約30cm、深さ10cmと浅い。

SE1718（269・270）

269は五輪塔の火輪部分である。上部に空風部受け孔がある。三角稜線は直線に近い。270は、石臼の上臼である。目は粗く太い。回転は正常（反時計）である。

P429（271）

砥石である。

SE1390（273・274）

いずれも五輪塔地輪部で、ほぼ同規模である。

SE1500（275・276）

275は砥石と考えられる。276は半面欠損。用途不明。

2）包含層出土（図版34－272・図版35－277～288）

272は細長い硯。外周がかなり潰れている。277～284までは砥石である。角柱状と板状がある。285は皿状となっており、石皿であろうか。286は端部に抉りがある扁平な石である。287は滑石製で抉状耳飾りに近い。

石鏃（288）

縄文時代と考えられる小型の石鏃。平面三角形状で無基、無柄。

E　木　製　品

1）遺 構 出 土（図版36－289～図版40－374）

SE50（289）

植物繊維の撚った紐を２本にして結んだものである。幅は約10cmである。

SE100（290）

形状、製品名不明。直径1cmの穿孔あり。

SE130（291）

漆紙である。赤外線撮影では、文字は確認できていない。円形の漆紙を八つ折にしている。

SE420（292～295）

黒漆塗りの有台皿（292）、箸（294）、曲げ物側板（295）、不明容器（293）が出土している。293は浅い皿状を呈し、下部に細長い脚を作り出している。

SE430（296～300）

箸（296・297）、曲げ物側板（300）等が出土している。299は、品名不明であるが、釘穴が直交する２方向から打たれている。298は直径1.7cmと小さい円形を呈し、中央に径1mmの小穴がある。円周端部は薄くなる。用途不明。

SE476（301～303）

301・302はいずれも曲げ物側板で301は穿孔穴外側にボタン状の木が添えられている。

SE490（304～328）

中世土師器皿が多く出土した井戸で、祭祀を行った可能性が高い。多くの木製品が出土している。306～312は箸状木製品で、実測外も数点ある。304は黒漆の皿。318は側面に切り込みが不規則に認められる。火きり臼風であるが、一つ一つが小さく、斜めに切り込まれているのもあり、また回転摩擦痕跡も認められないことから、火きり臼の可能性は低い。314・316は薄い板状のもので多く出土しているが、用途は不明。319は白木の櫛。321は薄い板に切り込みを入れたもので、鳥や馬形に見えないこともない。326は棒状であるが、太い方が扁平となる。

SE560（329～336）

中世土師器皿が多く出土した井戸で、祭祀を行った可能性が高い。多くの木製品が出土している。329は曲げ物底板で木釘が残る。332・333は糸繰枠の軸部分で、大きさ、造りが同じことから、同一糸繰枠の部品と考えられる。336は端部鶏頭状に尖る板状で約１寸間隔で穴が穿たれる。

SE590（337～341）

338は折敷底板と考えられるが、非常に薄い。337は一端を細くした材で、中央を舟形状に窪めてい

るが用途不明。339は板材であるが不明。340は底板と考えられるが、詳細不明。

SE610（342～346）

342の椀は、身下部に丸みを持つ。外面黒、内面赤漆である。343は箱物部材であろう。

SE630（347～357）

347は半裁木を利用した一木造りの下駄である。廃棄のおり折損している。348は部材の一部。平面形は弧を描いており、断面形は外面丸みを持つ。端部は三角形状に尖っており、組み合わせ式であることがわかる。外面黒漆塗り。349～354はコモツチである。長さ20cm前後のものと、10～14cmのものとがある。いずれも丸木を利用し、切断面を調整している。中央のえぐりは全周せず、半周である。355・356は曲げ物底板、357は側板である。355・356は木取りが異なる。

SE670（358～361）

358・359箸状木製品。360・361は部材で用途不明。

SE900（362・363）

362は断面やや湾曲を持つ板材で周囲に木釘穴がある。丸い容器の側板または箱物であろうか。363は桶等の底板と考えられる。

SE1241（364）

364は曲げ物の側板であろうか。片面にススの付着を見る。

SE1248（365、366）

2点とも内外面黒漆塗りの皿。

SE1250（367）

板目材を使った曲げ物側板。樺皮による留め。

SE1387（368）

連歯である。廃棄の際、折損している。使用痕跡あまりなし。

SE1500（369）

曲げ物底板であるが、劣化著しい。

SE1717（370～372）

370は曲げ物側板、371・372は底板である。

P445（373）

丸木の柱根。

P927（374）

丸木の柱根。

2）そ　の　他（図版40－375・図版41－379）

375は樹皮。376は糸繰枠である。枠木は軸にはめ込み式で、木釘で留めている。軸は合わせ式で組んでいる。2つある軸の一方に小さい穴が穿たれる。377は曲げ物。内側一重半で木釘、樺皮留めし、その外側にもう一重巻いている。外側は、内側より低く蓋受けとしたと考えられる。底板は、外側から木釘留め。378は部材で両端に木釘穴がある。379はSE420出土の瓢箪である。

F　土製品・金属製品（図版41－380～382）

381は刀子。錆が著しく、原形を留めない。現況で長さ12.9cmを測る。間部分は、上にも段が認められることから両間と考えられる。382は鏃である。矢先端部中央にも突起が認められることから、山形と考えられる。断面は扁平で軸部分の断面は四角である。軸と矢部分の接部には段があり、軸受けとなっている。380は、小型の土錘である。長さ4cm、中央部が膨らみ、両端がすぼまる。

4　自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

海道遺跡は、新潟県上越市大字向橋に所在し、儀明川が開析した谷が埋没したと考えられる平坦面に立地している。本遺跡の発掘調査では、素掘りの井戸跡や土坑、土師器焼成遺構、溝跡、掘立柱建物跡等の遺構や、古代～中世の土師器・須恵器を主体とする遺物が多数確認されている。なお、上述した井戸跡内からは、木製品、鉄製品、加工材、種実遺体等が出土しており、これらの木製品や種実遺体の種類を調査することによって、当該期における植物資源利用が明らかになると期待された。そこで、本報告では、主として井戸跡内から出土した木製品や種実遺体の同定を行い、本遺跡における植物利用について検証する。

A　木製品の樹種

1）試　　料

試料は、井戸跡及び柱穴等から出土した等の木製品77点である。分析対象とした試料は、全て3断面の切片が採取された状態であったが、事前調査の結果、約半数の33点で断面の不足や切片の状態が不良であった。そのため、再試料採取が可能であった20点について、あらためて切片採取を行い、294は炭化した状態であったことから、実体顕微鏡で各断面を直接観察し、可能な範囲での同定を行うこととした。試料の詳細は結果とともに第3表に示す。なお、本分析で対象とした木製品のうち、出土状況等から帰属年代の明らかなものはSE420・560・1717から出土した木製品のみで、このほかの遺構では古代～中世の遺物が混在する状況が確認されている。そのため、前述の3遺構は出土遺物から得られた年代観を、このほかの遺構については調査所見に基づく埋没年代を示している。

2）分 析 方 法

上述したように試料は全て切片作成済の試料であった。なお、再度切片作成を行った木製品20点は、いずれもPEGによる保存処理後の状態であったため、切片作成か所に水を浸けてPEGを溶かし、剃刀を用いて3断面の切片を作成した。各試料の切片は、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。炭化材である294は、各断面を実体顕微鏡で直接観察し、その特徴から種類を同定する。

3）結　　果

結果を別表に示す。木製品は、針葉樹６種類（カラマツ・スギ・ヒノキ・サワラ・アスナロ・ヒノキ科）と広葉樹８種類（コナラ属コナラ亜属コナラ節・コナラ属アカガシ亜属・クリ・ケヤキ・モクレン属・アジサイ属近似種・キハダ近似種・トチノキ）に同定された。以下に、各種類の解剖学的特徴等を記す。

カラマツ（*Larix kaempferi*（Lamb.）Carriere）　　マツ科カラマツ属

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急で、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、柔細胞、仮道管、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。柔細胞の末端壁は数珠状となる。放射仮道管の有縁壁孔の断面は主としてカラマツ型。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、１分野に３～５個。放射組織は単列、１～20細胞高。

スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don）　　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞がほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、１分野に２～４個。放射組織は単列、１～15細胞高。

ヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*（Sieb. et Zucc.）Endlcher）　　ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、１分野に１～３個。放射組織は単列、１～15細胞高。

サワラ（*Chamaecyparis pisifera*（Sieb. et Zucc.）Endlcher）　　ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、１分野に１～３個。放射組織は単列、１～15細胞高。

アスナロ（*Thujopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.）　　ヒノキ科アスナロ属

試料は、いずれも柾目面と板目面のみで、木口面は観察できなかった。軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、１分野に１～４個。柔細胞内に樹脂が充填されているものが多くみられる。放射組織は単列、１～15細胞高。359は、放射組織内に樹脂が充填されていることからアスナロの可能性が高いが、分野壁孔が観察できないため、種類の同定には至らず、近似種とした。

ヒノキ科（*Cupressaceae*）

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、１～10細胞高。上記ヒノキ・サワラ・アスナロによく似ており、いずれかの可能性があるが、分野壁孔が観察できないために種類の同定には至らず、ヒノキ科とした。

コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus subgen. Lepidobalanus* sect. *Prinus*）　　ブナ科

環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合放射

組織とがある。

コナラ属アカガシ亜属（*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*）　　ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、接線方向に１個幅で、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高のものと複合放射組織とがある。

クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は２～４列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。308は木口面がなかった。サ139は年輪界及び早材部がなく、晩材部のみの観察であった。この２点については、観察が十分ではないため、近似種とした。

ケヤキ（*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino）　　ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、１～８細胞幅、１～60細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。304は、最初の切片が斜めであり、再切片作成では木口面の切片が作成できなかった。切片で断片的に観察できる特徴、木製品の用途、再切片作成時に遺物観察した際の特徴等からケヤキと考えられるが、断定には至らず、近似種とした。

モクレン属（*Magnolia*）　　モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では角張った楕円形～多角形、単独及び２～４個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性、１～２細胞幅、１～40細胞高。

アジサイ属近似種（cf. *Hydrangea*）　　ユキノシタ科

炭化しており、作成された切片では道管を有すること以外には組織の観察ができなかった。実体顕微鏡観察では、散孔材で、小径の道管が年輪界に一様にほぼ単独で散在する。道管の穿孔板の形態は観察できなかった。放射組織は異性、１～２細胞幅、１～30細胞高であるが、複列部は５～６細胞高前後で、単列部が長く伸びる。放射組織は時に上下に連結する。現生との比較では、アジサイ属のノリウツギに似ている。しかし、道管の穿孔板の形態等、同定に必要な組織の観察が十分ではないため、近似種とした。

キハダ近似種（cf. *Phellodendron amurense* Ruprecht）　　ミカン科キハダ属

環孔材で、孔圏部は２～５列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。また、大道管を中心に道管内に茶褐色の充填物質が認められる。放射組織は同性、１～５細胞幅、１～40細胞高。観察された特徴からキハダの可能性があるが、木口面の切片が斜めであり、小道管の配列状況などの観察が十分ではないために近似種とした。

トチノキ（*Aesculus turbinata* Blume）　　トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または２～３個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、１～15細胞高で階層状に配列する。

4）考　　察

分析対象とした木製品が出土した遺構の年代は、古代、中世、近世、時期不明に分類され、これらの遺構からは14種類の樹種が確認された。これら木製品の樹種は、スギが77点中39点とほぼ半数を占め、次いで、クリ（11点）、モクレン属・サワラ（6点）の順に多く、このほかの種類は1～3点といった傾向を示した（第3表）。これらの各種類の材質をみると、針葉樹のスギ、ヒノキ、サワラ、アスナロ、ヒノキ科は木理が通直で割裂性が高く、加工が容易で比較的耐水性も高い。カラマツは、木理が通直でないことが多く、捻れやすい欠点があるが、強度や耐朽性、耐水性が高い種類である。

一方、広葉樹のコナラ節、アカガシ亜属、クリ、ケヤキは、重硬で強度が高く、クリやケヤキでは耐朽性のある種類であり、モクレン属は日本産広葉樹では比較的軽い部類に入り、材は緻密で加工は容易な種類である。キハダも比較的軽い部類に入り、加工も容易であるが強度は高い種類であり、トチノキは、硬さは中庸で材は緻密であるが、加工は容易な種類である。アジサイ属のうち、ノリウツギは比較的重硬で強度が高い種類である。各時期の木製品の樹種の傾向をみると（第3表）、古代では曲げ物底板2点がヒノキとカラマツに同定された。ヒノキは、板状の加工を施すのに適していることから、曲げ物底板には適した木材の一つといえる。新潟県内における調査事例では、スギ材の利用が多く認められ、ヒノキの利用は曽根遺跡で確認例がある［川村1983］。

一方、カラマツは、曲げ物底板としての調査事例は少なく、新潟県内においても出土例はほとんど認められない。このような背景としては、材質的な選択性も考慮する必要があるが、カラマツは火山災害地等の裸地にいち早く生育する先駆植物であり、新潟県内では天然の分布があまり見られないが、上越市周辺ではカラマツの自生が確認されており［倉田1971］、本遺跡で認められたカラマツの

時期	種類＼樹種	カラマツ	スギ	ヒノキ	サワラ	アスナロ	ヒノキ科	コナラ節	アカガシ亜属	クリ	ケヤキ	モクレン属	アジサイ属近似種	キハダ近似種	トチノキ	合計
近世	桶側板				2											2
	曲げ物底板		1													1
	箸状木製品		1			1										2
	箱物部材		1													1
	板材		1	1												2
	部材？		1													1
	杭　板材									1						1
	用途不明									1						1
中世	曲げ物側板		8		1											9
	曲げ物底板		2		1		1									4
	椀										1					1
	箸状木製品		8							1			1			10
	底板？											1				1
	コモヅチ									4		2				6
	火きり臼		1													1
	下駄									1	1					2
	糸巻き		1		1											2
	荷物の台か？		1													1
	板片		1							1						2
	杭の柱									1						1
	部材		1													1
	不明		4				1		1			3			1	10
古代	曲げ物底板	1		1												2
不明	曲げ物		1													1
	曲げ物の一部　側板			1												1
	折敷底板		1													1
	木皿　漆器													1		1
	糸巻き		1													1
	柱根							1		1						2
	舟形木製品		1													1
	部材		1		1											2
	板材		1													1
	不明板材		1			1										2
合　計		1	39	3	6	2	2	1	1	11	2	6	1	1	1	77

1）近似種は、各樹種に含めた。
2）?が付された製品は、それぞれの製品に含めた。

第3表　木製品の時期別・器種別種類構成表

利用は地域的な植生が差異に起因する可能性がある。ただし、この点については、当該期の古植生に関わる調査事例を蓄積し、あらためて検討する必要がある。

中世と考えられる木製品は、曲げ物側板・底板、椀、箸状木製品、底板？、コモヅチ、火きり臼、下駄、糸巻き、荷物の台？、板、杭の柱、部材、用途不明品と多様である。曲げ物側板・底板は、いずれも全て針葉樹材であり、スギが多く、このほかにサワラ、ヒノキ科が認められた。これらの樹種の特徴を考慮すると、古代の曲げ物底板で認められたヒノキと同様に、割裂性が高く、板への加工が容易な種類を選択していると考えられる。火きり臼、荷物の台？、箸状木製品等でもスギが多く利用されており、当該期ではスギ材を多用する傾向が指摘される。本地域では、下割遺跡（上越市）や浦廻遺跡（白根市）で出土した中世の木製品にスギが多く用いられる傾向が認められている［パリノ・サーヴェイ株式会社2003a・b］。スギは、沖積低地や谷筋など、水分の多い環境によく生育し、現在でも本地域ではスギの自生が確認されている［倉田1971］。当該期における古植生は、詳細な調査例がなく言及することはできないが、スギ材が多く用いられる傾向を考慮すると、材質を考慮した選択性やスギの木材を容易に入手できる環境であったことが推測される。

一方、コモヅチは広葉樹材であり、クリとモクレン属が認められた。クリ及びモクレン属は、材質的には強度等は異なるが、6試料がこの2種類に集中することから、クリとモクレン属が選択・利用されていた可能性がある。下駄は、クリとケヤキであった。点数が少なく種類の選択性について言及することはできないが、履物として使用するため強度や耐朽性の高い樹種を利用していると考えられる。なお、上述した浦廻遺跡から出土した下駄では、クリやケヤキは用いずスギが用いられる状況が確認されている。

椀は、横木取であり、樹種はケヤキであった。ケヤキは、ブナ属やトチノキ等と共に椀に利用される樹種の一つであり、出土例も比較的多い［島地・伊東1988］。新潟県内では、浦廻遺跡でブナ属、クリ、カツラ、ハリギリとともにケヤキが椀に認められており［パリノ・サーヴェイ株式会社2003b］、本分析結果と調和する。このような椀や皿にケヤキが利用される例は、古代の蔵ノ坪遺跡（中条町）でも確認されている［パリノ・サーヴェイ株式会社2002］。

近世と考えられる木製品は、桶側板、曲げ物底板、箸状木製品、箱物部材、板、部材、杭、用途不明品が認められる。杭及び用途不明品にクリが認められたが、このほかは全て針葉樹材であり、スギ、ヒノキ科ヒノキ、サワラ、アスナロで構成され、特にスギが多く利用される傾向を示す。これらの樹種の材質をみると、割裂性が高く加工性が高い種類を利用していると考えられる。また、各器種の点数が少なく、器種ごとの木材利用の差異は不明であるが、桶側板がいずれもサワラであり、スギが利用されない点は注目される。

B　種実遺体

1）試　　料

試料は、2基の井戸跡（SE420（No.20）、SE590の5層（No.84））から検出された選別・分類済の種実遺体2試料である。

2）分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の形態的特徴を所有の現生標本及び原色日本植物種子写真図鑑［石川1994］、日本植物種子図鑑［中山ほか2000］等と比較し、種類を同定し、個数を数えた。同定後の

種実遺体は、乾燥剤とともに種類毎にビンに入れ、保管する。

3）結　　果

結果を第４表に示す。SE420（No.20）から検出された種実はトウガンの種子、SE590の５層（No.84）から検出された種実はヒョウタン類の種子に同定された。以下に、本分析によって得られた種実の形態的特徴を記述する。

トウガン（*Benincasa hispida*（Thunb. ex Murray）Cogn.）　　ウリ科トウガン属

SE420（No.20）から、種子が331個検出された。炭化個体26個を含む。淡～茶褐色、炭化個体は黒色。倒卵形でやや扁平。長さ10～12mm、幅５～5.5mm、厚さ2mm程度。基部は切形で楕円形の臍がある。種子両面の全周の縁には段差があり薄くなる。種皮は厚くやや堅い。

ヒョウタン類（*Lagenaria siceraria* Standl.）　　ウリ科ヒョウタン属

SE590の５層（No.84）から、種子が117個検出された。淡灰褐色。倒広皮針形でやや扁平。長さ10mm、幅6mm、厚さ2mm程度。頂部は角張り、基部には明瞭な臍と発芽口がある。種子表面はやや平滑で、両面外縁部の幅広く低い稜にある２本の縫線が明瞭な完熟種子である。

番号	遺構		時期	科名	種類名	部位	個数	備考
No.20	SE420		中世	ウリ科	トウガン	種子	331	炭化個体26個を含む
No.84	SE590	５層	不明	ウリ科	ヒョウタン類	種子	117	

第４表　種実同定結果

4）考　　察

中世と考えられるSE420からはトウガンの種子が331個、時期不明のSE590の５層からはヒョウタン類の種子が117個検出された。トウガン、ヒョウタン類は、古くから栽培のために持ち込まれた渡来種であり［南木1991］、トウガンは果実が食用に、ヒョウタン類は果実が容器や食用にそれぞれ利用される。

これらの栽培植物の可食部分である種実が、井戸跡内から土師器や木製品等とともに検出された状況を考慮すると、本遺跡に持ち込まれ利用された後の痕跡、すなわち、生活残渣等の可能性がある。また、トウガンの種子には炭化したものが含まれていることから、何らかの理由で火熱の影響を受けたことが推定される。

なお、中世の井戸跡や土坑から検出された種実遺体の調査事例では、栽培植物が多く検出される傾向が報告されている［金原ほか1992；金原1994など］。新潟県内における当該期の井戸跡の分析調査では、下前川原遺跡（豊栄市）の中世と考えられる井戸跡から、ウメ、スモモ、モモ、イネ、オオムギ、アサ、マメ類、メロン類、ヒョウタン類、ベニバナが検出された事例［パリノ・サーヴェイ株式会社2004］や、辛子田Ｂ遺跡（見附市）の中世と考えられる井戸跡から炭化した穀物類が検出された事例（未公表資料）が確認されている。

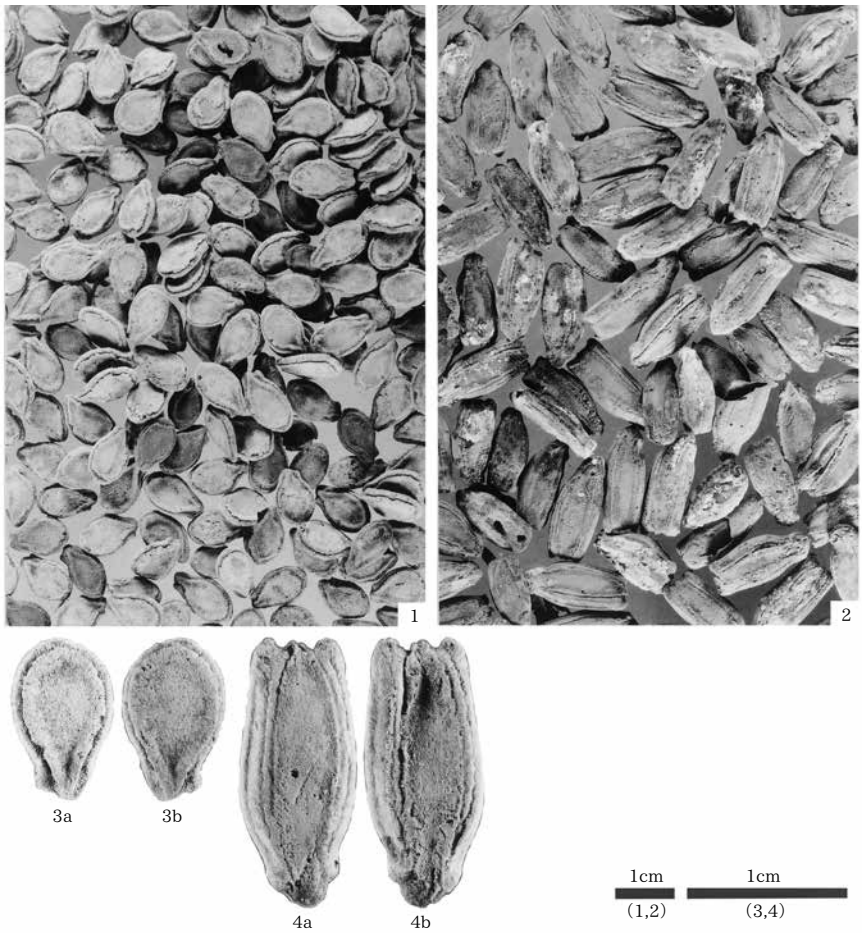
引用文献

石川茂雄　1994　『原色日本植物種子写真図鑑』 石川茂雄図鑑刊行委員会　p.328

金原正明・粉川昭平・寺沢薫　1992　「植物遺体による畑作の解析」『日本文化財科学会第９回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会　p.10-11

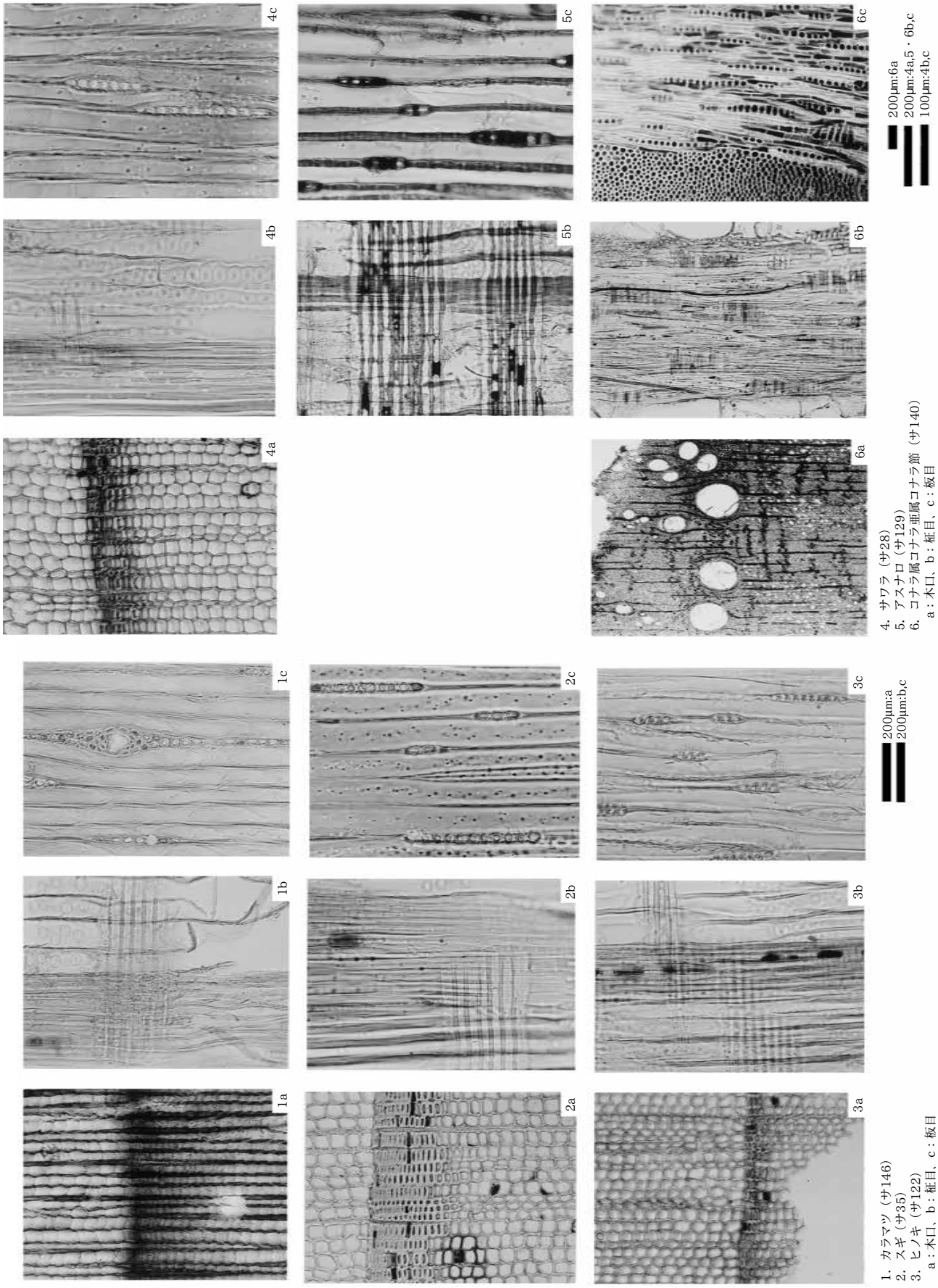
金原正明　1994　「植物遺体分析による農耕の復元について」『日本文化財科学会第11回大会研究発表要旨集』

日本文化財科学会　p.51-52
南木睦彦　1991　「古墳時代の研究 4 生産と流通Ⅰ」『栽培植物』 石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編　雄山閣　p.165-174
川村恵洋　1983　「曽根遺跡出土木材の識別」『新大演報』16　p.75-82
倉田　悟　1971　『原色日本林業樹木図鑑』第１巻（改訂版） 地球出版株式会社　p.331
中山至大・井之口希秀・南谷忠志　2000 『日本植物種子図鑑』 東北大学出版会　p.642
パリノ・サーヴェイ株式会社　2002 「蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集 一般国道７号 中条バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　p.45-59
パリノ・サーヴェイ株式会社　2003a 「木製品の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第120集 一般国道253号 上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅰ 下割遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　p.26-29
パリノ・サーヴェイ株式会社　2003b 「木製品の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第126集 一般国道８号白根バイパス関係発掘調査報告書 浦廻遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　p.45-51
パリノ・サーヴェイ株式会社　2004 「井戸出土種実遺体の自然科学分析」『下前川原遺跡 新潟県豊栄市下前川原遺跡発掘調査報告書』 豊栄市教育委員会　p.53-60
島地謙・伊東隆夫編　1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』 雄山閣　p.296



1. トウガン 種子（No.20;SE420）　2. ヒョウタン類 種子（No.84;SE590 5層）
3. トウガン 種子（No.20;SE420）　4. ヒョウタン類 種子（No.84;SE590 5層）

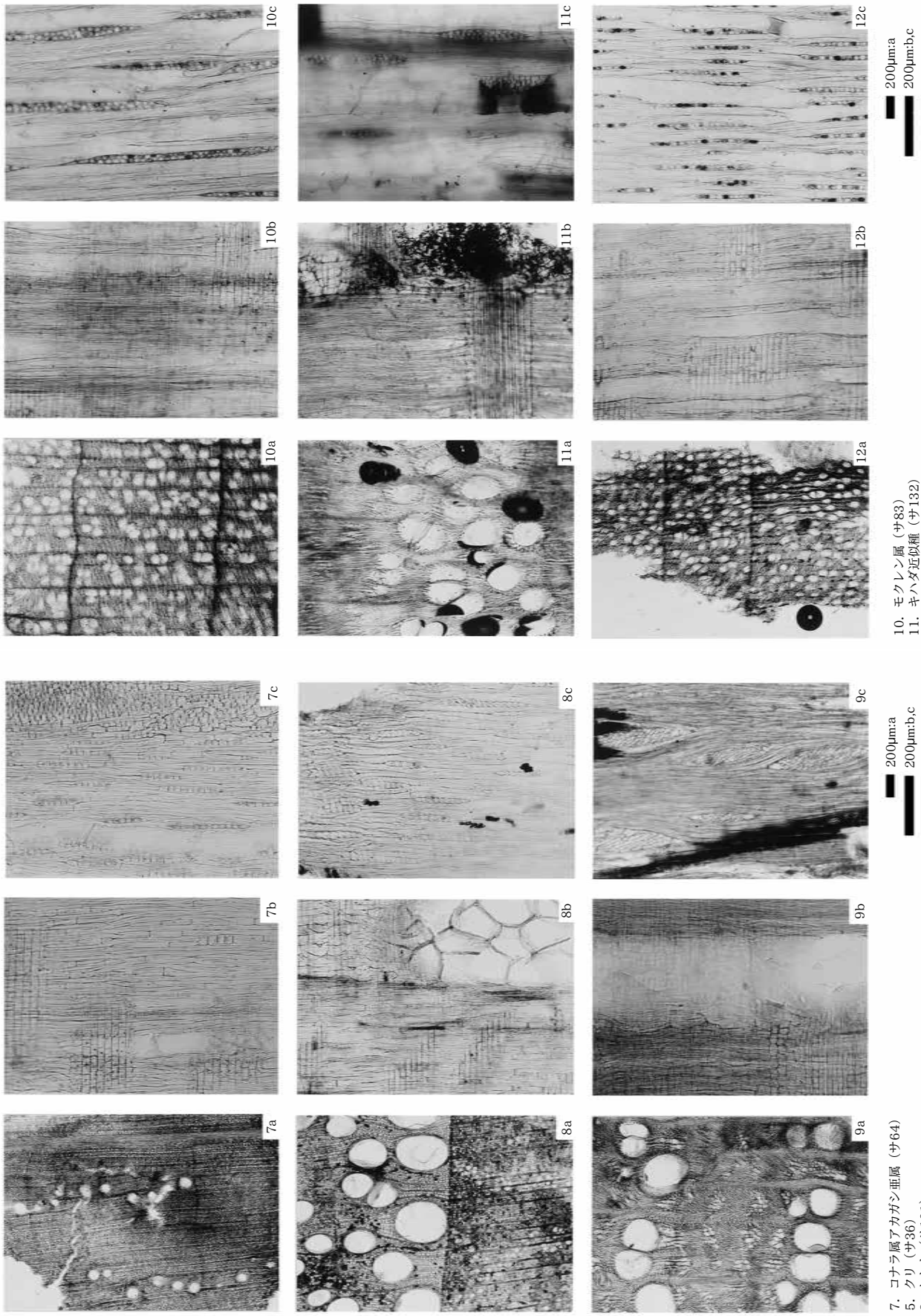
第10図　種実遺体



1. カラマツ（サ146）
2. スギ（サ35）
3. ヒノキ（サ122）
a：木口、b：柾目、c：板目

4. サワラ（サ28）
5. アスナロ（サ129）
6. コナラ属コナラ亜属コナラ節（サ140）
a：木口、b：柾目、c：板目

第11図　検出樹種の顕微鏡写真（1）



7. コナラ属アカガシ亜属（サ64）
5. クリ（サ36）
9. ケヤキ（サ101）
a：木口、b：柾目、c：板目

10. モクレン属（サ83）
11. キハダ近似種（サ132）
12. トチノキ（サ6）
a：木口、b：柾目、c：板目

第12図　検出樹種の顕微鏡写真（2）

5 ま と め

A 遺　　構

出土遺物からみると当遺跡は、平安時代・中世・近世にわたる。発掘調査時に層位による時期別調査が不可能であったこと、遺構覆土による時期相違判断がつかなかったことから、各時期における遺構の分布・規模等が明確でない。ここでは、遺構出土遺物から各時期の遺構分布を観察する。なお、遺構の中でピットは出土遺物が少なく、時期判別が難しいため、除外し、井戸・土坑・溝に限定した。遺構出土遺物は遺構一覧表のとおりである。また、出土遺物から見た遺構一覧は第５表のとおりであるが、出土遺物はあくまでもその時期の上限を示すものであり、遺構機能時期、埋没時期を示すものでないことを確認しておきたい。

	井　戸		土坑・SX			溝	
古代	SE346		SK570	SK1730	SK1820	SD349	SD1753
	SE347		SK1557	SK1733A	SK1821	SD370	SD1804
	SE1386		SK1715	SK1733B	SK1822	SD640	SD1806
	SE1711		SK1705	SK1734	SX26	SD1743A	SD1807
	SE1717		SK1707	SK1735	SX1701	SD1743B	SD1808
	SE1720		SK1708	SK1736A	SX1702	SD1744	SD1811
	SE1732		SK1709	SK1737	SX1710	SD1745	SD1812A
	SE1713		SK1714	SK1739	SX1716	SD1746	SD1813
			SK1723	SK1740A	SX1727	SD1747	SD1814A
			SK1724	SK1740B	SX1819	SD1748B	SD1815
			SK1725	SK1742		SD1750	SD1816A
						SD1751	
中世	SE100	SE560	SK1000			SD1748A	
	SE130	SE580	SK1150				
	SE385	SE630	SK1313				
	SE420	SE660	SK1384				
	SE430	SE1387	SK1508				
	SE456	SE1712	SK1607				
	SE476	SE1718	SX1507				
	SE490	SE1719					
	SE496	SE1728					
	SE550						
近世	SE610		SK500	SK1509		SD480	
	SE670		SK690	SK1703		SD700	
	SE900		SK1316			SD1752	
	SE1500		SK1392				

第５表　出土遺物から見た遺構の年代

遺構の時期検討に当たり、時期別包含層出土遺物分布を検討する。検討に当たっては、以下のことが留意点である。

①本来完形品であれば、個体数として分布が把握でき一番いい。しかし、ほとんどが破片であり、個体識別が困難なものが多く、個体数を算出するのは不可能である。数量比較の場合、口縁部残存率による個体数の算出、破片数の比較、重量の比較等がある。包含層遺物を観察したところ、細片が多く器種選別が困難なものが多く存在すること、口縁部破片が非常に少ないことから、口縁部残存率による比較はできないと判断された。重量による比較の場合、特に須恵器・珠洲焼等の甕となると、椀・皿類と非常に大きな差がでてしまうこと等から、破片数による比較とした。

②当初時期別、須恵器・土師器といった種別、壷・甕といった器種別に判別を試みたが、判別不可のものが多く、結局一覧表のような煮炊具・食膳具といった大分類となってしまった。

③砕片が多いため、判別不能のものも多く、厳格には分類は正確でない。また、約2cm以下のものは除外した。したがって数量は絶対的なものでなく、出土数量の相対的な比較として見ていただきたい。

	古代											中世							近世		
	土師器				須恵器				合計	灰釉	合計	珠洲焼				中世土師器	青磁	合計			合計
	椀類	内黒椀類	甕類	合計	杯類	蓋	壺類	甕類				壺R	壺T・甕	鉢・片口	合計				陶器	磁器	
1D				0					0		0				0			0			0
1E	11	1	21	33	3			10	13		46		1	2	3	4		7	2		2
1F				0		1		7	8		8		3		3			3		1	1
2あ				0					0		0				0			0			0
2A	22		27	49			1	3	4		53		116		116			116			0
2C	13		46	59	6		7	6	19		78		3	1	4			4	20	28	48
2D	35		80	115	5		7	21	33		148	1	22	12	35	4	1	40	17	23	40
2E	42	1	125	168	11	7	9	35	62	4	234	2	13	8	23	7	2	32	4	4	8
2F	29		86	115	5	8	9	18	40		155	1	1	3	5	2		7	8	4	12
3あ	160	17	127	304	6	1	16	36	59		363			2	2			2			0
3A	310	31	286	627	17	5	38	47	107	1	735				0			0	1		1
3C	50		56	106	4	1	7	35	47		153		4	1	5	4		9	9	8	17
3D	65	6	226	297		2	10	48	60		357		8	5	13	28		41	151	89	240
3E	18	1	48	67	4	3	6	14	27		94		20	7	27	6	3	36	141	77	218
3F	22		25	47	7	5		3	15		62		8	2	10	13	2	25	46	6	52
4あ	94		81	175	16	5	60	78	159		334		4	6	10	1		11			0
4A	446	7	375	828	42	10	63	110	225		1053	1	5	9	15			15			0
4B				0					0	1	1				0			0			0
4C	73		264	337	5	5	13	12	35		372		2	3	5	2		7	20	42	62
4D	36		88	124	6	4	16	9	35		159	2	10	6	18	1	1	20	108	84	192
4E	10		55	65	9	4	20	9	42	1	108	1	86	5	92	10	1	103	117	96	213
4F	20		6	26	2		2	4	8		34		8	4	12			12	56	30	86
4G				0	1				1		1		2		2			2	1	1	2
5あ	17		36	53			3	4	7		60			1	1			1			0
5A	105	4	143	252	17	1	14	21	53		305			1	1			1			0
5B	11		42	53	8	3	6	5	22		75		1	1	2	3		5	8	8	16
5C	51	2	115	168	12	3	9	6	30		198			1	1	2		3	5	21	26
5D	26	2	84	112	21	11	10	16	58		170		2	5	7	9		16	21	35	56
5E	22		32	54	3	1	7	2	13		67	1	3	1	5	13	1	19	21	6	27
5F	1		4	5	3		3	2	8		13		2	1	3	4		7	15	23	38
5G			1	1			2	1	3		4		5	3	8			8	5	4	9
6あ	16		3	19	1				1		20				0			0			0
6A	14			14			3	2	5		19		1		1			1			0
6B	12		60	72	1	5		5	11		83			1	1	9		10	8	1	9
6C	12		68	80	5	4	6	12	27		107	1	1	1	3			3	10	7	17
6D	49		195	244	32	12	13	16	73	2	319	1	7	8	16	2		18	37	23	60
6E	11		60	71	8	2	4	3	17		88		9	8	17			17	29	10	39
6F	3		6	9	3	1	5	5	14		23	1	4	4	9		1	10	48	27	75
6G	1		1	2			1	2	3		5		3		3		1	4	20	5	25
7B				0					0		0				0			0	2		2
7C	6		25	31	1	1	3	2	7		38		2		2		1	3	5		5
7D	20		42	62	7	1		7	15		77		2		2	1		3	5	8	13
7E	2		13	15		1	5	2	8	1	24		2	1	3	1		4	11	8	19
7F				0	2		3	2	7		7		5	3	8			8	12	12	24
7G			2	2	1	2	1	6	10		12		3	4	7			7	13	12	25
8C			3	3	1	1	1	1	4		7				0			0			0
8D	17	1	12	30			2		2		32		1	1	2			2	1	2	3
8E	17		6	23	3		3	2	8		31	1		1	2			2	5	2	7
8F	2	1		3	2		1		3		6		3		3			3	14	10	24
8G				0			1		1		1				0			0	3	2	5
9D				0			1		1		1				0			0			0
9E				0			1		1		1				0			0	1	5	6
9F				0				1	1		1				0			0	1	5	6
9G				0					0		0				0			0			0
10D			2	2				2	2		4				0	1		1	6	3	9
10E			1	1					0		1			1	1			1			0
10F				0					0		0				0			0			0
10G				0					0		0				0			0			0
11D				0					0		0				0			0			0
11E			3	3					0		3		21		21			21		1	1
11F	1		4	5	2		1		3		8			1	1			1	4		4
11G	2		2	4					0		4		1	1	2			2			0
12E				0					0		0				0			0			0
12F			2	2					0		2				0			0			0
12G			2	2					0		2				0			0			0

第６表　包含層遺物量集計表

1）古　　代（第13図）

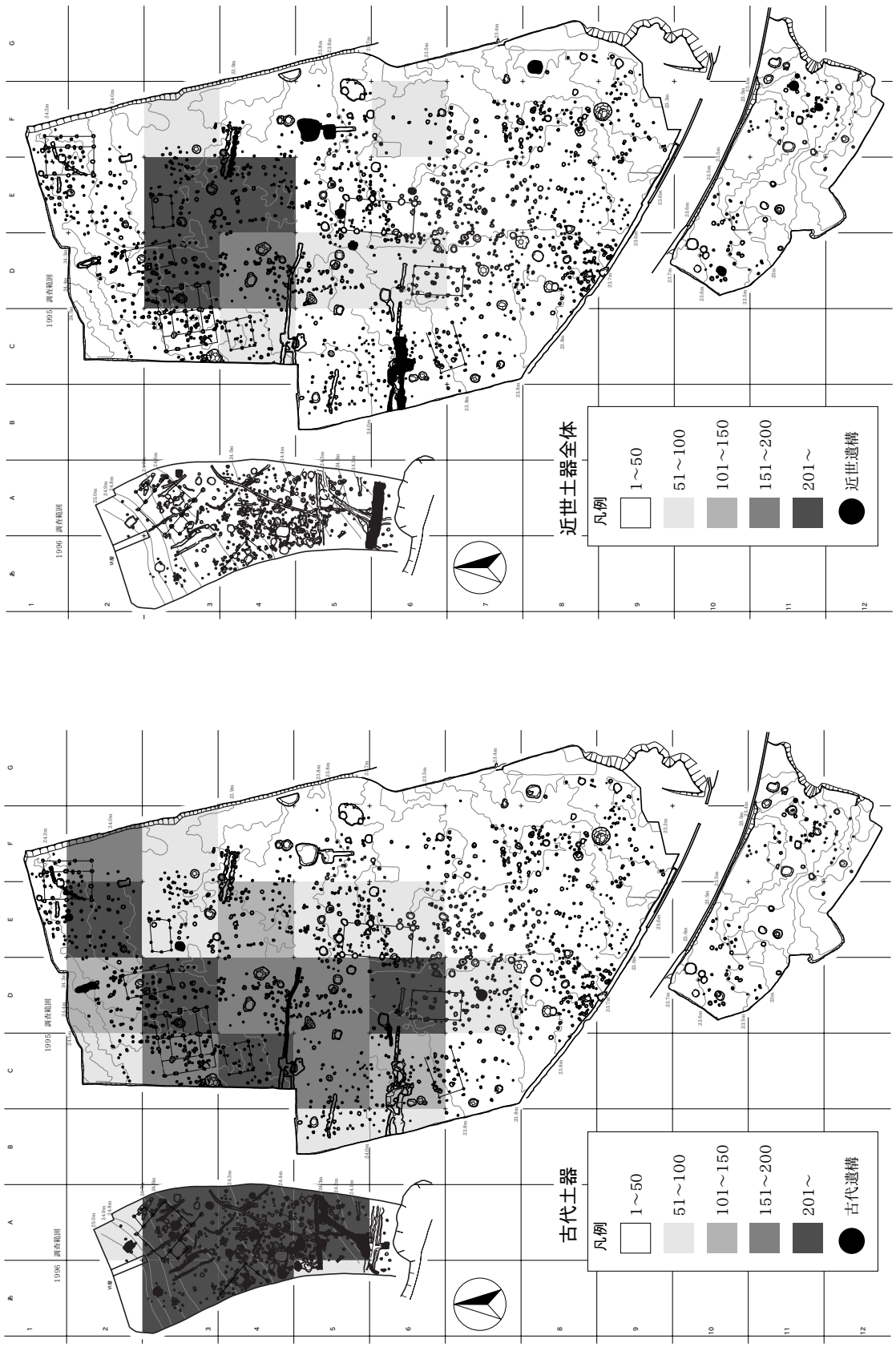
古代遺物が出土している遺構は、1996年度調査区のあ・A－2～6区に集中する。B区より東側で古代遺物のみ出土遺構はほとんどない。地形的には北西側が高位で南東側に徐々に下がる傾向を示し、山裾に近い位置に古代集落が営まれていたことが想定される。1996年調査区にある掘立柱建物（SB9・10・11）はいずれも長軸を北西方向に持ち、1995年度調査区では存在しない軸方向であり、これらも古代遺構の可能性が高い。発掘調査区が道路法線部に限定されているため全体の遺跡規模は把握できないが、山裾に沿って西側を中心に集落は広がっていたものと考えられる。

第13・14図は包含層出土遺物の分布を時期別に示したものである。点数で示しているが以下の前提で分布図を作成している。古代について全体遺物量の分布を見るとやはり1996年度調査区が多いことがわかる。また、1995年度調査区においてもC4・D3・E2のラインを中心として、その両脇に多いことがわかる。しかし、この地点において、古代遺構はほとんど確認されていない。遺物の多いラインは等高線にそった傾斜ラインであり、古代集落があったと思われる北西側から古代以降の土地開発に伴って土（包含層）を南東側に押し出した結果と考えられる。須恵器と土師器は、土師器数が圧倒的に多い。時期的に土師器の割合が多くなることもさる事ながら、甕破片の細片化による破片数の増加が大きな原因である。

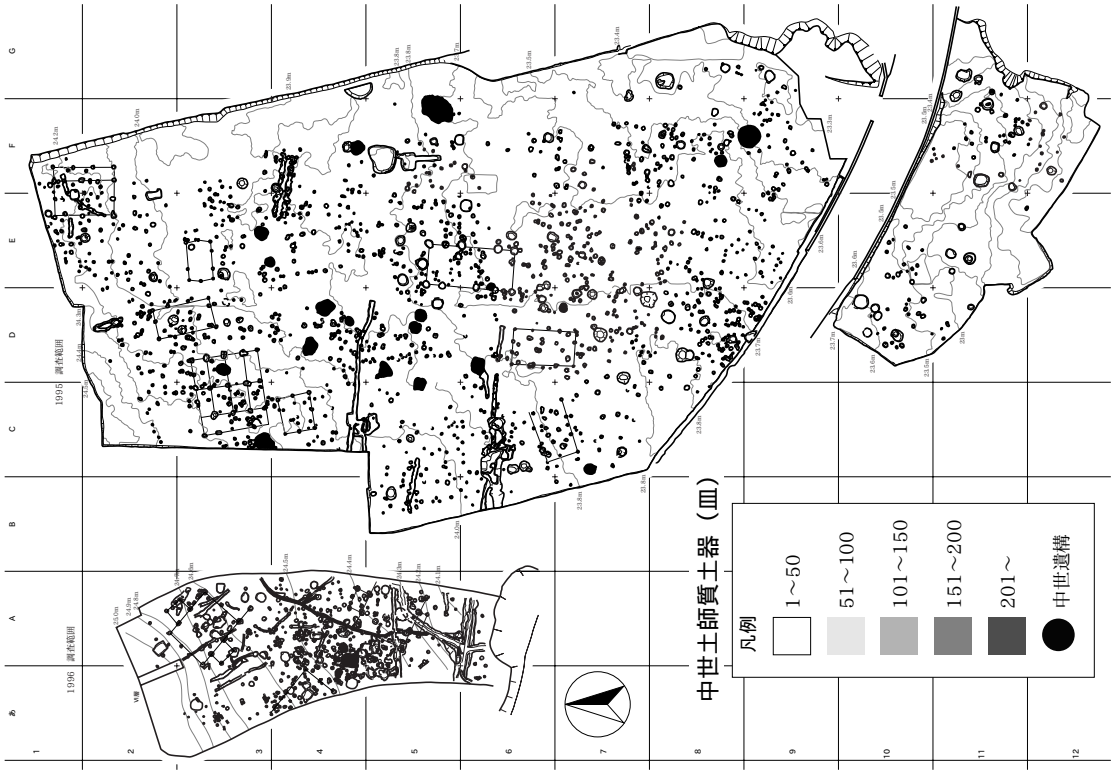
注目される遺構として、SX1701がある。土師器甕・鍋4個体が一括して出土した土坑である。これらは、個々の個体がまとまって出土したのではなく4個体の破片が混合した状態で出土している。このことは、この土坑に個体破片を廃棄したことを意味していると考えられ、この土坑の機能・用途と土器に関連性があるのかどうは検討を要する。出土の4個体は、全て煮炊具であるが、ススや炭化物といった使用痕跡が認められず、焼成時の不良品の廃棄と考えられる。この土坑そのものが、土師器焼成遺構かどうかは判断し得ないが、土坑の規模が小さく、平面形が方形であることなど、従来確認されている土師器焼成遺構とは異なることから、土師器焼成土坑である可能性は低いものと判断される。隣のSX1702では、鍛冶に関連する遺物が出土しており、それに関連した遺構の可能性もある。

2）中　　世（第14図）

中世の遺物量は、古代に比べると少ない。出土遺物からみた中世遺跡の分布は第14図のとおりである。確認できるのは井戸・土坑がほとんどである。1995年度調査区に散在する。1996年度調査区にも若干存在する。中世の井戸・土坑が20基程度確認できていることから、掘立柱建物は現場で確認できなかったため図上推定となったが、建物もいくつか予想され、復元建物の中のいくつかは中世のものであろう。遺物の分布を見ると1995年度調査区の中央（D・E2～6）を中心として、その周辺は少ない分布となっている。中世遺構の分布ともほぼ一致し、中世集落のほぼ中心を調査したことが窺える。このことは中世段階に整地し古代に比べ、やや低地に移動したことを物語っている。中世遺物で興味深いのは、包含層での土師器皿の出土が遺構に比べて非常に少ないことである。井戸等では一括して10点以上のところもあり、その差が著しいことがわかる。また、小型品のみであることも注意を要する。このことは、その用途に関係していると考えられる。古代の土師器椀は包含層でもかなりの出土量を示しているのとは異なっている。



第13図　包含層出土土器量分布図（1）



第14図　包含層出土土器量分布図（2）

3）近　　世

近世遺物の出土した遺構は少ない。SD700は複数の溝が重複しているようであるが、古代～近世までの遺物が出土している。ほぼ東西に近い溝で、約15m北側には平行して走るSD370がある。出土している遺物は古代であるが、近世の可能性がある。SD480からも近世遺物が出土しており、やはり東西に近い方向性を持っている。これらの溝に直交するようにSD1315があり、重複するSK1316・500からは、近世遺物が出土している。長軸が南北のほぼ東西棟で、SD700の東側延長ラインと南側梁間ラインとがほぼ一致するSB6も方位からすれば近世の可能性がある。このSB6の周辺にあるSE670・610・900はいずれも近世井戸である。明治時代の土地更正図を見ると、周囲には宅地も存在していたことがわかり、現在でも海道集落として存在する。

近世陶磁器は、江戸時代後半から明治に至るものが出土したが、遺物は一部掲載したのみである。集計の結果、近世遺物（陶磁器）の分布は第13図のようになった。これによると3・4D・E区に集中しその周辺は次第に少なくなっていることがわかる。先述の土地更正図では、遺物の一番多く出土している3・4D・E区に宅地が存在する。この宅地が江戸後期まで溯る可能性も十分あり、出土の陶磁器がこの宅地所有者のものである可能性は十分にある。

B　遺　　物

1）古　　代

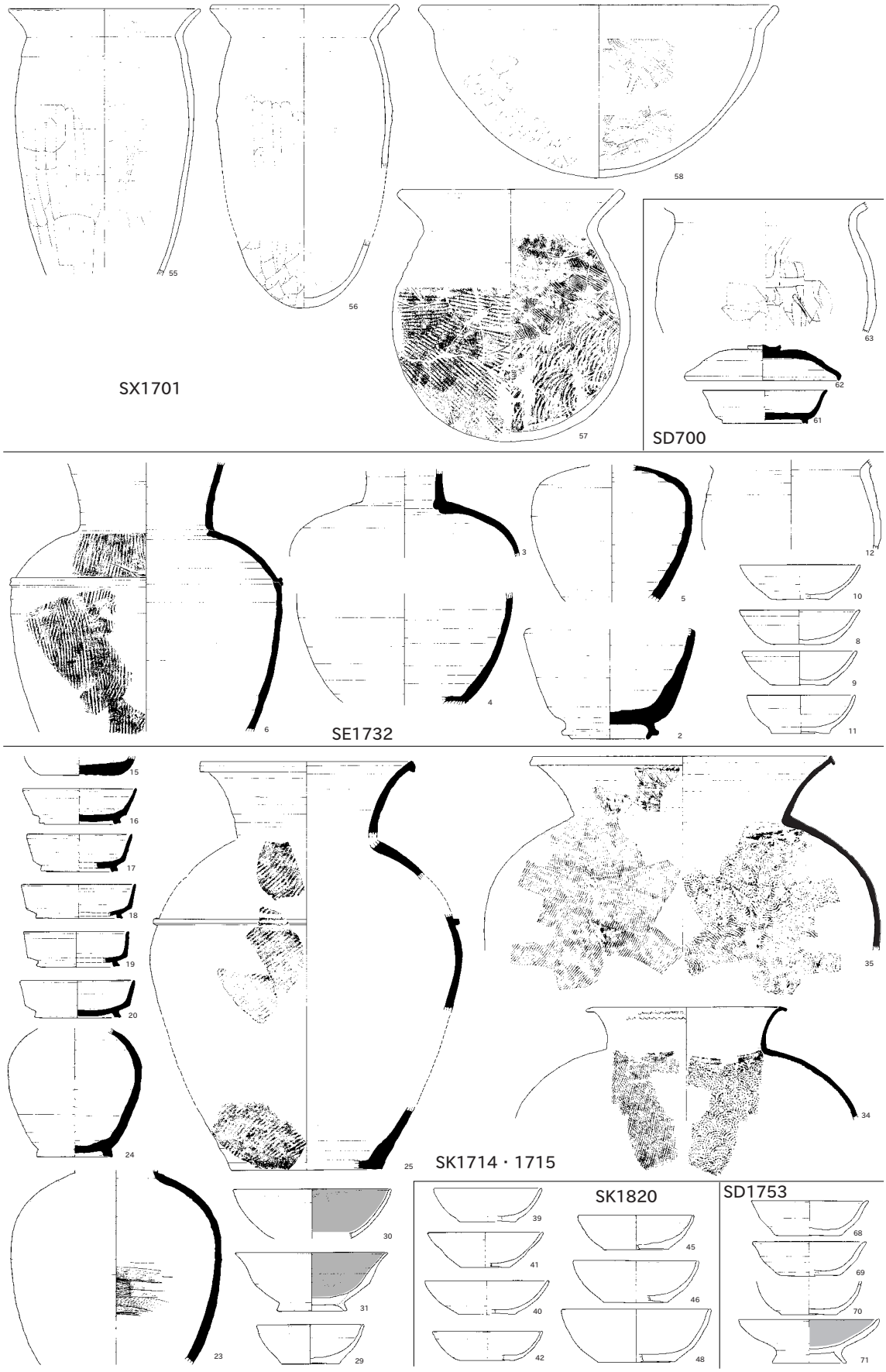
古代の遺物は、前述のように、1996年度調査区を中心に多く出土している。遺構出土土器を中心に土器の年代を検討する。なお、遺物の年代観、産地等は、上越市教育委員会笹澤正史氏の御指導による。

SX1701　煮炊具4個体の一括資料である。長釜2、鍋1、釜1である。長釜は口径に比して細身である。口縁は55が反りぎみに外反し、端部が細くなるのに対して、56は直線的に伸び、端部が面取りされる違いがある。調整はいずれも上半部ヨコナデ、下半部強い縦ケズリであり、薄く仕上げている。57の器形の類例は少ない。近い類例は、十日町市馬場上遺跡29号住居［阿部ほか2003］にあり、信州、北陸地域でも散見される。58の鍋も56と同じ口縁を持つ。57の釜を除いて、ケズリ調整で、薄く仕上げていることや、口縁が直線的で、端部つまみ上げ等の調整が認められないこと等から、9世紀までは降りず、8世紀後半段階の所産と考えられる。類似の長釜には79（P7）、83（P19）等がある。

SD700　63は丸みのある釜の可能性が高く、SX1701の57に近い器形をとるものと考えられる。61の有台杯は体部の開きが小さく、口縁端部が外反する。62の蓋は深みがあり、端部垂直に下りる。類似形態のものは、上越市今池SK103（市教委調査）にあり、8世紀末段階と報告されている。類似の杯には有台杯Ⅱ類とした包含層出土の97～100がある。

SE1732　井戸一括資料である。6は突帯付き4耳壷で、滝寺・大貫窯跡でも多く生産されていたことがわかったが［笹澤1998；小田2005］、特に信州方面で特徴的な器種である。笹澤氏によれば、この6は、籠峰遺跡出土［高橋2000］に胎土、整形技法等が類似しており、信州牟礼・豊野産の可能性が高いとのことである。土師器椀の8～10は器高指数30以下の浅いもので、底部は比較的大きく、体部に丸みがあり、9世紀前半の特徴を持っている。14の把手付き壷は滝寺産であり、これら一括資料は9世紀前半に位置づけてよいと判断される。

SK1714・1715　多くの一括資料が出土している。15は杯Ⅰ類で底部ヘラ切りであるが、厚手である



第15図　遺構資料からみた古代の土器

ことから、8世紀後半と考えられる。16～20は、有台杯Ⅰ類としたものである。底部と体部の境に明確な稜を持ち、立ち上がるものである。滝寺・大貫窯産である。この窯跡群は、8世紀末～9世紀中葉にかけて操業している。有台杯の特徴としては、古いもの（8世紀末）は浅くて径が大きいとされている。また、底部はヘラ切りと糸切りの両方が認められ、ヘラ切りの高台は内端接地、糸切りは外端接地となる［笹澤2003d］。当遺構出土のものは、底部ヘラ切りは認められず、糸切りである。高台部は、内端接地（16・17・19）と外端接地（18・20）の2者が認められる。明確な時期決定は難しいところであるが、9世紀初頭くらいであろうか。25の突帯付四耳壷や34も滝寺産である。図示した土師器は内黒2点あるが、1点はいわゆる稜椀である。土師器内黒稜椀は珍しい。口縁部がやや開いている。30の内黒も深みがあること、29の椀も同様で、9世紀前半までは溯らないものと思われる。したがって、SK1714・1715は9世紀初頭から中葉にかけての遺物が廃棄されていたことになる。

SK1820　土師器椀が多く出土している。40・45のように浅くて底径の大きいものが見られ、また全ての土師器が口縁部外反が認められず、内湾するのがほとんどである。41のみ新しい傾向のものが見られる。総じて、9世紀前半から中葉に収まってくるものと考えられる。

SD1753　土師器椀である。68・69は口縁外反が認められ、71は灰釉有台皿を模した内黒である。上越市縄手遺跡にも類似の皿が出土している。縄手遺跡［笹澤2003c］のものは内黒でなく、台部が三角形状で、71の台部が高く外に向くのと異なる。このことから、9世紀後半とされる縄手遺跡よりも若干古くなるものと考えられる。

このように遺構出土遺物は、概ね8世紀後半から9世紀中葉に収まってくるものと考えられる。このことは、佐渡小泊産須恵器がほとんど認められないことからも窺える。包含層出土土器では、須恵器杯Ⅰ類とした91・92が底部ヘラ切りで8世紀後半、Ⅱ類とした93は糸切りであるが、口縁は直線で開き気味に延びる。9世紀前半であろう。97～100は有台杯Ⅱ類。底部厚くヘラ切りで、8世紀後半。蓋の内、103は口径大きく、8世紀初頭まで溯る。土師器鍋の123・124は口縁端部面取されるが、125は肥厚する。125が新しい傾向を示す。

このほか、古代の遺物として、258～261の布目瓦がある。布目瓦を使用するような建物は確認できていないことから、持ち込んだものと考えられる。近くに布目瓦を焼いた向橋古窯跡［笹澤2003e］があることから、そこの瓦の可能性がある。

2）中　　世

中世の土器は、主に土師質土器皿・珠洲焼・青磁・白磁である。

SE560　ロクロ土師器皿Ⅰb類が一括して多く出土している。全て同形態で、口径も8～9cmに収まる。非ロクロ土師器は1点で、口径約8cmとほぼ同じ大きさである。これに珠洲焼165～168が伴う。166の甕は、口縁端部が引き出され下に垂下しており、古い形態を持つ。168の鉢は口縁が内湾気味に立ち上がり、擂り目が認められない。167の鉢は底部回転糸切りとなる。このような特徴は珠洲編年のⅠ期に認められるもので、12世紀後半代の年代が与えられる。したがって、土師器皿も12世紀後半ということになる。平安時代末～中世に至る時代の土師質土器は上越市至徳寺遺跡で多く出土しており、標識資料となっている［水澤・鶴巻2003］。また、検討も行われている［水澤・笹澤2001］。それによれば、11世紀後半には、饗宴に伴う土師器の一括廃棄遺構が出現する。皿型の小皿が増加し、柱状高台皿も定量確認できるようになる。12世紀前半には、小皿と無台椀（いずれもロクロ）の単純な組み合わせとなる。

そして、12世紀後半には、それまでのロクロ成形による土師器が激減し、京都系技法である手づくね成形の土師器皿が主体となる。としている。SE560の皿は底部が厚く、柱状高台のなごりを持つ。手づくね土師器皿は確かに出土しているものの、主体はまだロクロ土師器である。12世紀後半と考えられるが、至徳寺とは様相が異なる。当遺跡で出土している土師器皿は全て小型であり、大型が認められないことも一つの特徴である。

SE420　ここでは、ロクロ土師器皿Ⅰａ類（柱状高台）1点、ロクロ土師器皿Ⅰｂ類2点、ロクロ土師器皿Ⅰｃ類3点の出土がある。SE560にⅠａ類、Ⅰｃ類が加わったことになる。Ⅰａ類の柱状高台は、本来11世紀～12世紀前半に認められるものである。Ⅰｃ類は、Ⅰｂ類より口径が小さく7～8cm、底部もやや薄くなる。Ⅰｂ類からの変化が窺われ、手づくね皿の形状に近づく。ここでは手づくねは出土していない。珠洲焼は133～136の4点の出土がある。133・134は壷T種と考えられる。いずれも口縁部形態に古い特徴を持つ。133はコの字状で端部が面取りされる。ⅠまたはⅡ期であろう。135の壷は体部に波状文を持つ。136の片口鉢は、口縁は内湾気味に立ち上がり、櫛目は細く、間隔を持つ。珠洲焼Ⅱ期の典型で、13世紀初頭となる。

SE490　ここでは、土師質土器皿に輸入陶磁器が加わる。土師質皿は手づくねが主体を占める。ロクロ土師器では、依然としてⅠａ類、Ⅰｂ類、Ⅰｃ類が認められる。手づくねでは、Ⅱａ類、Ⅱｂ類がある。Ⅱａ類は総じて底部薄いが、159のように厚手のものも認められる。161はⅡａ類に高い脚を付けたもので、珍しい。輸入陶磁器は、白磁と青磁碗である。164の白磁碗は椀Ⅶ類でＤ期（12世紀中頃～後半）に当たる。163は龍泉窯系青磁碗Ⅰ４類でやはりＤ期である。163も同様青磁碗Ⅰ類でＤ期である。ここでは珠洲焼は伴っていない。SK1000ではⅡ期と考えられる珠洲焼甕（187）に手づくね皿（188）が伴っている。SE385では、青磁碗Ⅰ類（132）に柱状高台（130）、手づくねⅡｂ類（131）が伴う。このⅡｂ類は木崎分類のA4類に近く、当該期に伴ったかどうか問題が残る。このように海道遺跡では、輸入陶磁器が伴うのは手づくねⅡ類になってからである。同様のことは板倉町仲田遺跡［加藤2003］でも見られる。12世紀と考えられる輸入陶磁器はほかに、SE430でも出土している。龍泉窯系青磁碗Ⅰ２類で珠洲焼Ⅰ期（146）・Ⅱ期（147）の鉢が伴う。

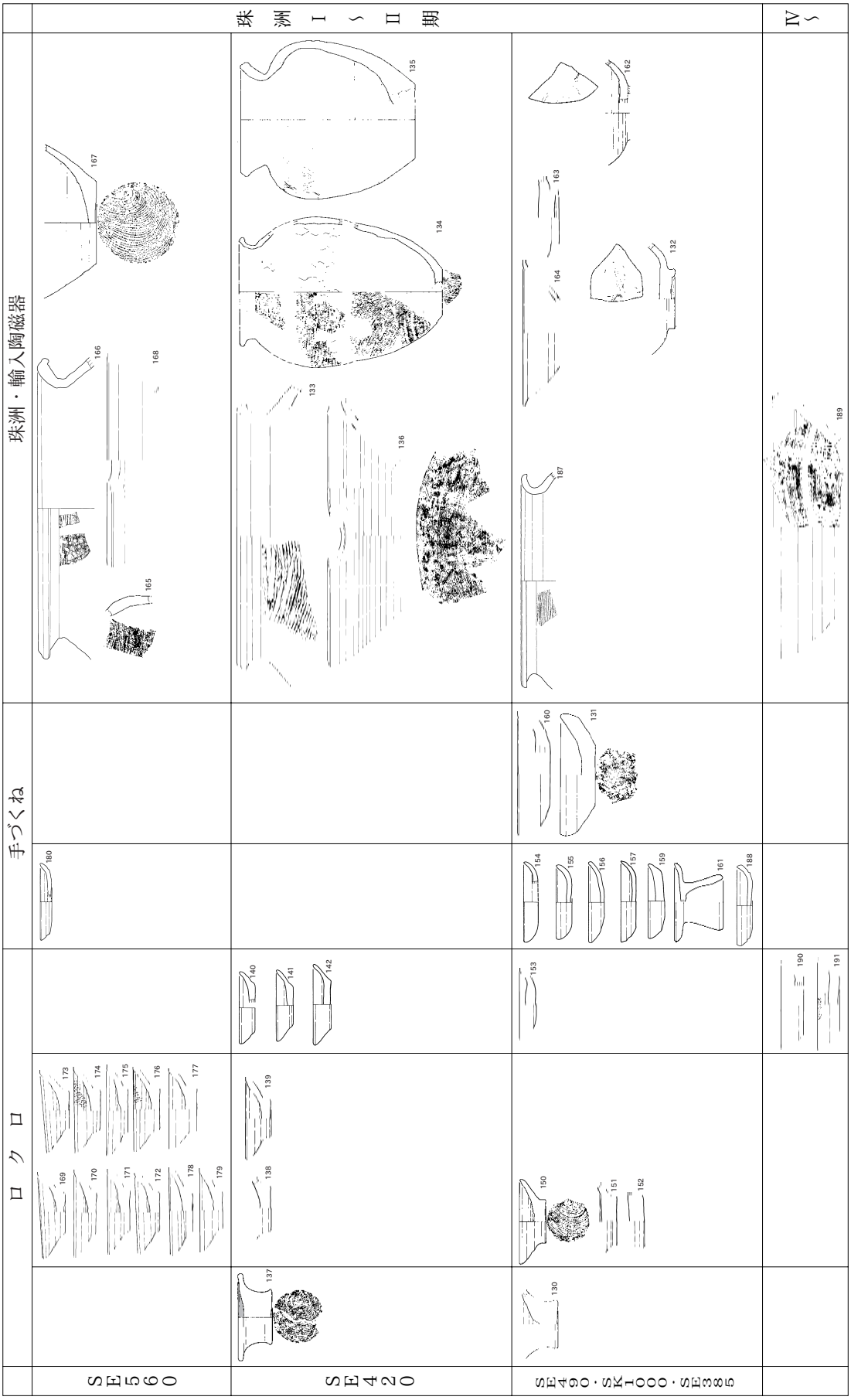
SE385　Ⅲ期以降と考えられる珠洲擂り鉢（189）にロクロ土師器皿Ⅰｃ類が伴うが、形態的には新しく、木崎山編年［春日1992］のB3類（14世紀末～15世紀）に近い形態を持つ。

このように、中世遺構からの出土遺物は珠洲焼Ⅰ・Ⅱ期に限定され、輸入陶磁器もＤ期に限られる。土師質土器皿の変遷ではロクロのⅠ類から手づくねのⅡ類への変化を考えるとSE560→SE420→SE490の変遷をたどれると考えられるが、いずれの遺構でもⅠｂ類の出土があり、時間差は少ないものと考えられる。輸入陶磁器は珠洲Ⅱ期（13世紀初頭）に伴うことから、流通・長期使用等を考慮する必要があろう。

その他、珠洲焼ではSE1719の鉢185には、櫛目がなく、内湾気味の器形から、ⅠまたはⅡ期ものと考えられるが、186はⅢ～Ⅳ期に降るであろうか。同様の時期と考えられるものに208～211がある。212はⅣ期、206・218はⅤ期、217がⅥまたはⅦ期くらいであろう。205の甕破片はタタキが特異で、珠洲・須恵器の区別が難しい。このように珠洲焼は、Ⅲ期以降存在するもの量は少ない。

土師質土器皿では、ほかに手づくねのⅡｃ類（202・226）がある。形態的には新しく15世紀代まで降る。

輸入陶磁器では、SE560の181の青磁碗が上田ＢⅢ類［上田1982］で15世紀、199・230の青磁は、



第16図　遺構資料から見た中世の土器

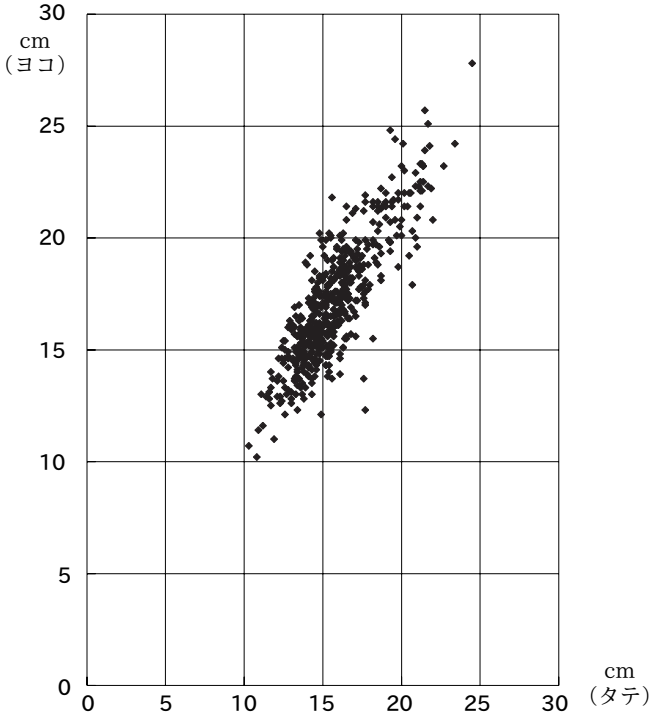
上田ＤまたはＥ類で14～15世紀、232は上田C2類で14世紀後半から15世紀前半である。229は白磁で、森田Ｃ類（森田）である。このように、輸入陶磁器は、12世紀～13世紀前半と、14～15世紀の2時期に分かれる。

3）近　　世

235～238の越中瀬戸壷は上越方面では多くの出土がある。明確な時期設定はできないが、［宮田1997］によれば17世紀後半～18世紀前半ということになる。擂り鉢４点（239・244～246）は肥前系で、239は口縁内部に突帯が廻るⅡ期（17世紀前半）の典型である［家田2000］。244・245はそれの退化形でⅢ期（17世紀後半）である。246は口縁が丸く肥厚する。Ⅲ期の後半である。242は砂土目の皿でⅡ期。243は京焼き風の椀でⅢまたはⅣ期。250も同様で、体部下半部に張りを持つことからⅣ期に当たる［盛2000］。240・241は伊万里皿。240の銘「冨貴長春」はⅣ期に認められる［大橋1993］。241はⅣ期後半の18世紀後半と考えられる［野上2000］。

4）井戸に廃棄された種実について

一覧表に示したとおり、井戸から多くの種実が出土している。主なものは、クリ・トチノキ・モモ・クルミ・トウガン・ヒョウタン・米（籾）である。クリ・トチノキ・米（籾）については全てが炭化しており、保存用として貯えていたものが、火災等により炭化してしまい、井戸に廃棄されたものと考えられる。SE420（13世紀初）では、2,220点余りのクリ、270点余りのトチノキ、トウガン種335点が出土している。いずれも食用種である。クリの多くは実のみであるが、元来皮付きで保存されていたのが被熱で剥けてしまったものと判断される。皮のついた540点について、その大きさを縦長さ、横幅の計測値で表わしたのが第17図である。縦長さ平均15.76cm、横幅平均17.18cm、厚さ平均は11.93cmとなる。今日のクリと比べると小ぶりで、いわゆる山グリサイズである。当時どのような環境で生育したものか明確でないが、貴重な食料源として扱われていたことが窺える。トウガン種子の中にも炭化したものがかなり含まれていたことから、食物残滓として廃棄されたものではなく、栽培用の種として保存されていた可能性もある。クルミ・トチノキは近世遺構でも出土しており、近世のこの地域でも救荒食料として扱われていたことが窺われる。SE430では、ブロック状になった炭化した籾が多く出土した。籾であるので、やはり保存用としたものが、火災で炭化した結果と思われる。同時期の仲田遺跡でも同様な状態で出土している。



第17図　SE420出土クリ法量分布図

遺構名	時代	種　実　等								
		クリ		トチノキ		モモ	クルミ	トウガン	ヒョウタン	炭化米（籾）
		皮付き	皮 無	皮付き	皮 無					
SE50	不 明					27（8）				
SE100	中 世					2（1）				
SE130	中 世		（1）	（1）		4				
SE385	中 世		17（44）	1	1（10）	2（4）				
SE420	中 世	540	1787	6	267	［3］		335		
SE430	中 世		9（37）	3	3（22）	15（14）				多 数
SE456	中 世		9（65）		（41）	6（3）		44	2	
SE476	中 世		1（1）	3	2（13）	2				
SE490	中 世									
SE550	中 世			1	4（93）	5（1）				
SE560	中 世	2	13（12）		3（29）	4（1）				
SE590	？					6（4）			117	
SE610	近 世	30	13（25）	3	（4）	2（2）	1（1）			
SE630	中 世			3						
SE900	近 世					1（1）				
SE1110	？						1			
SE1248	？					5				
SE1249	？					4（2）				

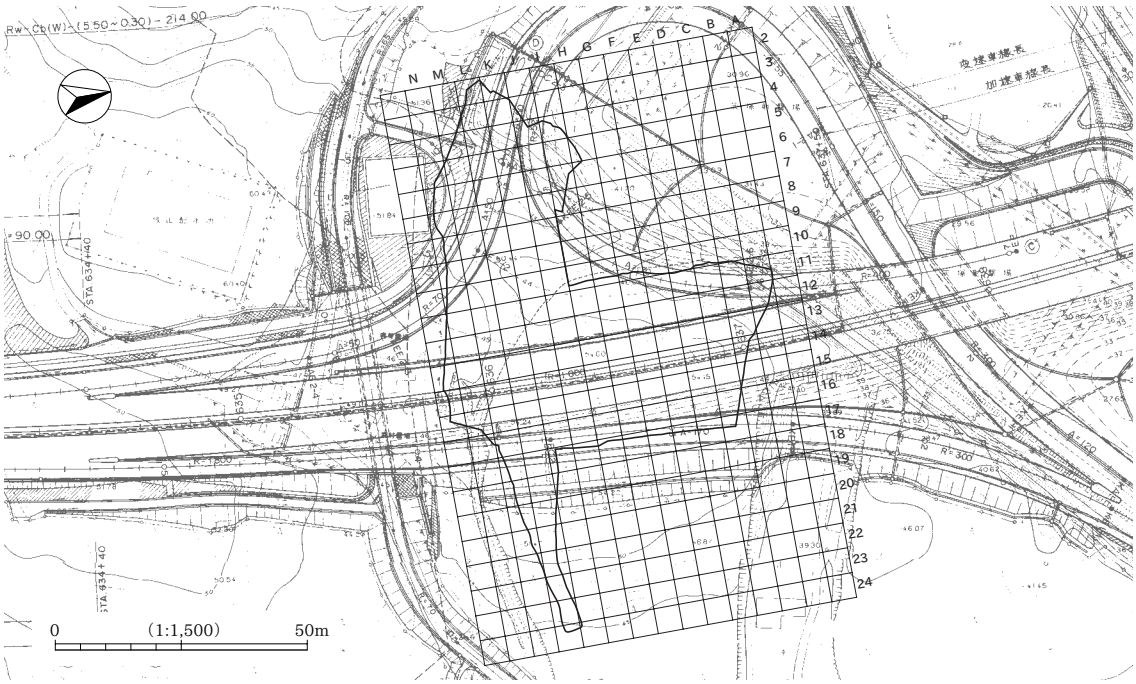
第７表　井戸出土種実等一覧

第Ⅳ章　大 塚 遺 跡

1　調査の概要

A　グリッドの設定

グリッドは、日本道路公団設定のセンター杭STA636（X120313.3589、Y24071.0421）とSTA636＋60（X120373.3561、Y24071.3164）を結ぶ線を基線とし、これに直交するラインで設定した。基線は真北方向を示し、磁北は6°50′西偏している。グリッドは10mメッシュを大グリッドとし、基線の東西方向を西から数字12…、南北方向を北からアルファベットABC…とした。また、大グリッドの中は、2mメッシュの25等分し、小グリッドとした。



第18図　グリッド設定図

B　基 本 層 序

当遺跡は、丘陵上にあることから、土層堆積も少なく、比較的浅い堆積状況を示している。基本層序は以下のとおりである（14L北壁東西ベルト、12J・13Jセクション写真）。

Ⅰ層　：表土（腐植土層）　平安時代遺物包含。

Ⅱ層　：褐色土　炭化粒まばらに含む。ほとんど無遺物層。

Ⅲ層　：暗褐色土　炭化物をまばらに含む。古墳・縄文時代遺物包含層。

Ⅳa層：にぶい黄褐色土　縄文～旧石器時代漸移層。

Ⅳ層　：明褐色土

なお、旧石器が確認されたことから、一部深掘りを行った結果、Ⅳ層以下は、次のようである。

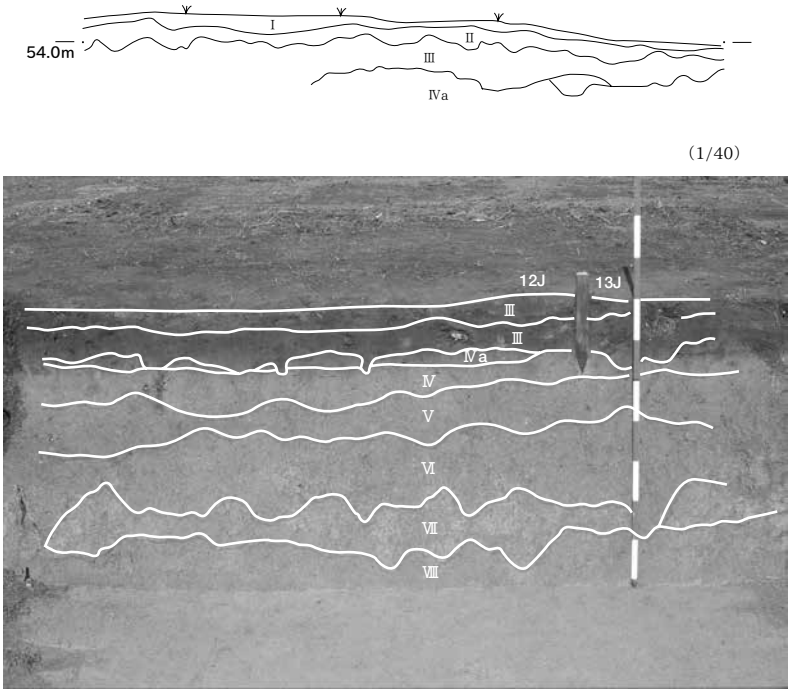
Ⅴ層　：褐色土

Ⅵ層　：明褐色土

Ⅶ層　：にぶい褐色土（橙褐色～黒色の微細粒子を含む）

Ⅷ層　：明褐色土

14L　1・2区北壁東西セクション図



Ⅰ　：表土層（平安時代遺物包含層）
Ⅱ　：褐色土層（ほとんど無遺物層）
Ⅲ　：暗褐色土層
（縄文・古墳時代遺物包含層）
Ⅳa　：にぶい黄褐色土層
（縄文～旧石器漸移層）
Ⅳ　：明褐色土層
Ⅴ　：褐色土層
Ⅵ　：明褐色土層
Ⅶ　：にぶい褐色土層
（橙褐色～黒色の微細粒子含む）
Ⅷ　：明褐色土層

第19図　基本土層断面図

2　遺　　構

A　概　　要

確認された遺構は比較的少なく、各時代散発的である。縄文時代では、後期と考えられる竪穴住居跡1軒、陥穴、フラスコ状土坑等が確認されている。古代では平安時代の須恵器窯跡1基、ほか中世以降の溝等がある。なお、遺構番号については調査年度毎に重複して用いたため、ここでは遺構番号の頭に調査年度の95、96、97を付した。

B　遺 構 各 説

1）縄 文 時 代

竪穴住居（95SI1）（図版43・45・114）

16J区で検出された。丘陵のやや西側最高部に位置する。長径約2m、短径約1.5mの楕円形で確認面からの深さ12cmと浅い。断面形は皿状を呈する。長軸方向は北北西を指す。覆土は中央が黒色または灰黒色土層で周囲にいくほど褐色土が強まる。炉周辺には焼土が認められる。中央には石組の炉がある。平面形はほぼ正方形で、1辺約25cmである。石は5cm前後の割り石で、砂岩及び安山岩である。被熱している。柱穴は確認されていない。床面では、後期前葉の土器、球状土製品、土偶、小型磨製石斧などが出土している。

フラスコ状土坑

フラスコ状土坑と認識したものは合計６基である。そのうち径1m以内、深さ0.5m前後の小形のものが５基、それ以上の大型のものが１基である。

小フラスコ状土坑（図版42・43・44・46・115・116）

97SK4　18L区に位置する。径約85cmの円形に近い。深さは約40cmである。現況で斜面西側は口部が広く立ち上がるが、東側はフラスコ状に下部が膨らむ。出土遺物はない。

97SK8　同じく18L区に位置する。長径約1m、短径約70cmの楕円形を呈する。深さは約40cmである。覆土は黒褐色土。現況で斜面南側は口部が開くが、北側はフラスコ状となる。出土遺物はない。

97SK9　18L区に位置する。長径約90cm、短径約70cmの楕円形を呈する。深さは約40cm。覆土は黒褐色土。現況では、斜面東側は口部が開くが、西側はフラスコ状となる。出土遺物はない。

97SK12　18L区に位置する。径約0.8mの円形を呈する。深さは西側で約0.4m、東側で約0.15mとなる。山側（西）のみがフラスコ状となる。出土遺物はない。

97SK117　13G区に１基単独で位置する。径約0.8mの円形で下部は径約0.9mとなる。深さは約0.5mである。覆土は黒褐色土。出土遺物はない。

大フラスコ状土坑（図版42・43・46・116）

97SK110　15I区に位置する。径約1.6mの円形。くびれ部で約1.4m、底部で約1.6mを測る。深さは1.1mである。覆土の堆積状況は、下部と上部で違いがある。下部は水平堆積しているのに対して、上部はそれを切るようにレンズ状堆積している。この堆積状況からすれば、いったん埋没した土坑を再び掘削したと考えることができる。覆土中からは、磨製石斧１点、磨石１点、縄文土器数点が出土している。

一般的土坑（図版42・43・46・116・117）

96SK1　遺跡の北側斜面13Bに位置する小土坑である。長軸0.7m、短軸0.5mの不整形。深さは0.3mで断面形はU字状を呈する。覆土は暗い褐色土、出土遺物はない。

96SK2　調査区の一番北側斜面11Bに位置する。長軸0.8m、短軸0.7mの不整形。深さは20cm程度と浅く、平らでない。覆土には炭片を含む。

97SK96　16Hに所在する不整形の土坑。長軸1.2m、短軸1.1m。断面は浅い皿状を呈し、中央深い部分で約0.3mとなる。覆土は黒及び黒褐色土で少量の炭化物を含む。中央部床面から約10cm浮いて、縄文土器底部が正立で出土した。

陥穴（図版42・43・47・48・117～120）

規模により、二つに分類することができる。長さ、深さともに1m以内で底部断面形が丸みを持つ小さいもの（A類）と、長さ、深さともに1m以上で底部断面形が直角に角張る大きいもの（B類）である。大小各々が列をなす。

A類　95SK3・95SK4・95SK7・95SK8・95SK10の５基である。形状は円に近いが、やや楕円形である。95SK10は深さが60cmと一番浅く、ほか４基が直線状に並ぶのに対してややずれる。覆土は、Ⅳ層土の二次堆積が主体となる。95SK8では、下部から縄文土器片が出土しているが時期は不明。

B類　95SK2・95SK6・95SK5・97SK102・97SK98・97SK108・97SK109の７基がある。覆土の堆積状況は、95SK2・95SK6・95SK5がU字状に堆積しているのに対し、ほかはブロック状の不自然な堆積状況を示している。ほぼ直線状に並ぶ。ほぼコンタレベルに沿った並び方である。これに対し

てＡ類は、コンタレベルに直交する配置をとっている。97SK109を除いて出土遺物はない。97SK109では、上面で焼礫がまとまって出土し、土器も２点含まれていた。土坑埋没後炉として利用したであろうか。

2）古 代 以 降

炭窯（図版42・48・121）

２基確認されているが、時代は不明。

95SK11　3L区、調査区の最西端に１基のみ存在する。0.9×0.8mの隅円方形を呈し、断面形はフラスコ状に下部が膨らむ。深さは0.3mと浅い。壁面は焼けており、底部にはサクサクした硬化炭が10cmほど堆積する。

96SK3　11C区、調査区の北側に位置する。2×1.4mの不整形である。深さは0.4mで、北側が浅くなる。95SK11とは形態が異なる。最下部に10cmほど炭が堆積する。

竪穴住居（図版42・44・50・121）

97SI10　19・20L・Mに位置する。方形の掘り込みから竪穴住居と判断した。斜面山側（北西側）で掘り込みを確認したが、反対側は認められない。１辺約4.4mを測り、深さは山側で約50cmである。覆土はしまりのない黒褐色土である。炉は明確でないが、中央付近で焼土が確認されている。柱穴も明確でない。覆土中より土師器が出土しているが、時期は明確でない。

土坑（図版42・43・50・122）

95SK9　11・12K区に位置する。隅円長方形の土坑である。長軸2.15m、短軸0.7m、深さ50cmを測る。掘り込みはほぼ垂直である。覆土は、しまりの弱い褐色土を中心とする。出土遺物はない。

97SK111　15I区に位置する略円形の土坑である。直径約1.8m、深さ15cmで皿状を呈する。覆土はしまりなく、パサパサした褐色土である。出土遺物なく性格不明。

97SK137　11G区に位置する。長軸1.5m、短軸1.1mの隅円方形で深さは約40cmである。断面Ｕ字状で掘り込みは明確である。覆土は暗～黒褐色で全体に炭を多量に含む。焼土も若干含む。全体にしまりはなく、下部には炭片が認められる。出土遺物なく性格不明。

溝（図版42～44・48・123）

96SD2　16K・Ｌ区に位置するＬ字状の溝。ほぼ東西南北に走る。溝幅約50cm、深さ20cmほどで浅い皿状を呈する。東西方向は調査区外に延びる。南北方向は約9m南で消滅する。覆土は暗褐色土でしまりはある。区画溝と考えられるが性格不明。

97SD18　16M区にある南北溝。北側は消滅するが、南側では調査区外に延びる。検出した長さ約4m、幅約70cm、深さ20cmほどで断面形皿状を呈する。覆土は明褐色土である。96SD2とは、規模、覆土に違いがある。出土遺物はない。性格不明。

97SD13　20～24LM区東西に現道に沿うように走る溝である。長さ約40mにわたって検出した。幅50～60cm、深さ25cmのＵ字状を呈する。覆土にはしまりがない。出土遺物はなく、時期、性格とも不明。

須恵器窯（97SK17）（図版42・44・49・50・124～126）

南向き斜面の中腹、標高45～47mに構築された登窯である。下半部は後世の道路掘削のため窯壁等はなく、底面のみ遺存していた。確認されたのは主体部分の燃焼部、焼成部である。窯上方に設けられる排水溝は確認されずまた、焚口は道の掘削で削平され、前庭部・灰原も削平されたか、あるいは法線外に

延びているものと考えられる。

遺存する部分の全長は7.05m、焼成部最大幅1.38m、燃焼部最大幅1.28mを測る。主軸はN45°Wを示す。燃焼部底面は約10°で南側焚口方向に傾斜している。焼成部は約23°で立ち上がっている。煙突部分は最上部で、当初土坑として調査していた部分であろう。明確に確認できる焼成面は1面のみである。

燃焼部　窯体の中で最も良く焼けており、底面の粘土層は還元され、ガリガリに硬化している。焼成部との境は、傾斜角の変換するセクションC付近と思われる。

焼成部　セクションC付近より上部である。上半部では厚さ5～10cmの整地層が認められる。焼成部の焼土は、上部ほど少なくなっている。比較的しっかりした窪みが3か所認められるほか、礫が65点出土している。また燃焼部も合わせて全面に甕の破片が認められた。これらの破片は酸化焔焼成し、二次被熱の痕跡も認められることから、礫と合わせて、焼台として用いられた可能性がある。

側壁　東側で特に良好に残存する。掘削の際に使用された工具痕が筋状に残存する部分もある。天井部（3層）ブロックには、スサを含んだものが認められる。

焼成遺物　焼台のほかは、杯1個体のみである。

3　遺　　物

出土遺物は、旧石器・縄文・弥生・古墳・古代・中世各時代のものが出土しているが、主体を占めるのは縄文時代早期・中期である。出土遺物は全体で浅箱26箱である。

A　旧石器時代（図版67－854～856）

旧石器時代と思われる石器も数点認められる。854はナイフ形石器である。すでに、上越市史［沢田2003］に紹介されていることから以下に引用する。「末端の尖った剥片を素材として基部側の両側縁に加工が加えられている。基部正面は全面が加工におおわれ、裏面は縁辺のみに加工が見られる。石材は無斑晶質安山岩である。石器の形態はいわゆるペン先形ナイフ形石器に類似しており、後期旧石器時代の古い段階からAT降灰直後頃のどこかに位置づけられると思われる。」。855は石刃・856は石核である。いずれも珪質頁岩または凝灰岩で、剥片も24点ほどある。確実な旧石器時代の判断は難しいが、855が縦長の剥片であること、当遺跡でこの石材が縄文時代の石器に用いられていないこと、隣接丘陵の蛇谷遺跡で同石質の旧石器時代遺物が多量に出土していること等から旧石器時代に属するものと考えた。855は断面三角形の縦長剥片で、調整は右側縁に一部あるのみである。856は石核。

B　縄文時代

1）土　　器

a　分　　類（第8表）

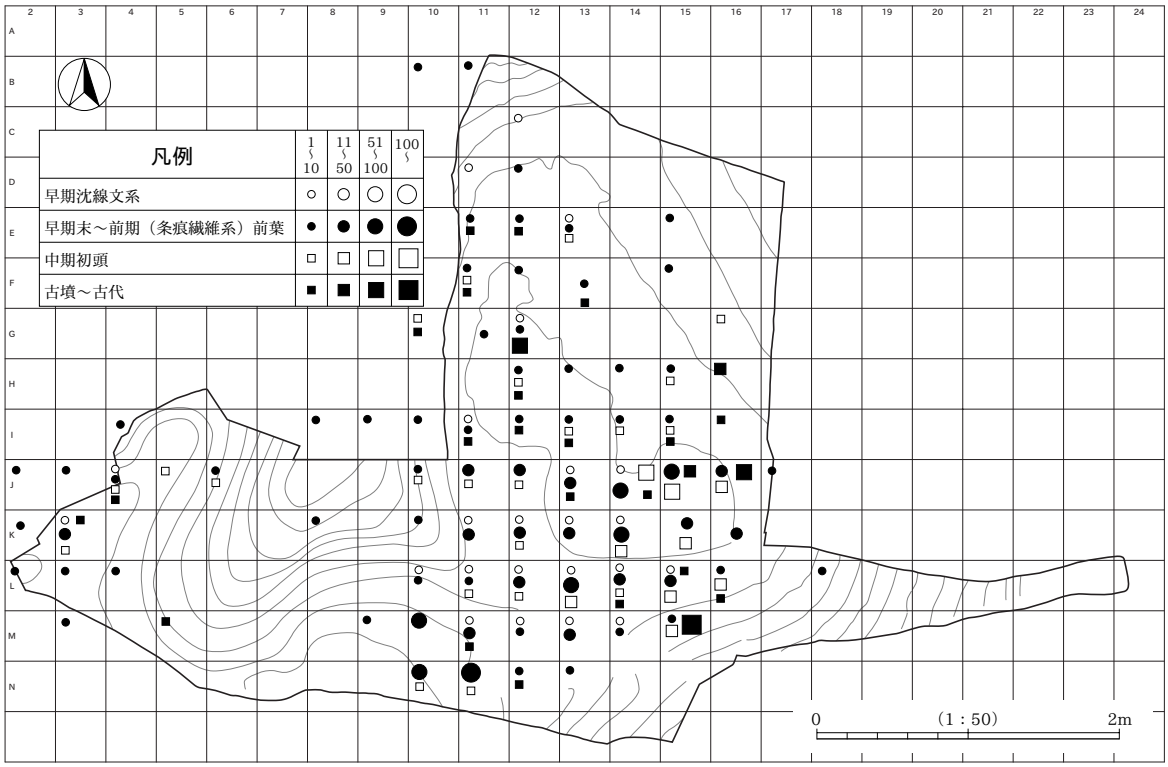
土器は早期・前期・中期・後期がある。早期はⅠ類－無文土器、Ⅱ類－押型文文系土器、Ⅲ類－沈線文系土器、Ⅳ類－条痕文（絡条体圧痕文）系土器に分類される。沈線文系は、文様区画や貝殻腹縁文の在り方などでa～e類、条痕文系土器は施文工具などでa～d類に分類した。前期は、繊維を含む胎土で前期前半である。中期は、いわゆる新保系の土器で前期末の朝日下層式を含む。全体の器形、文様構成を窺える資料がほとんどないため、細分は行わない。中期後半、後期は断片資料である。

早期	Ⅰ	無文土器		
	Ⅱ	押型文土器	a	山形
			b	楕円
	Ⅲ	沈線文	a	波状口縁が認められる。直曲線による幅広の区画。広い区画内に間隔を置いた貝殻刺突
			b	間隔の狭い２本沈線による横縦区画。区画内に貝殻沈線
			c	間隔の狭い２本沈線による横斜区画。区画内に貝殻沈線区画
			d	横沈線区画を主文様とし、波状文が加わる。沈線間には、刻みが付される
			e	横平行沈線、沈線間ヘラ刻み（貝殻刺突の可能性あり）
	Ⅳ	条痕文(絡条体圧痕)	a	格子目沈線を用いるもの
			b	ハの字状の刺突を用いるもの
			c	絡条体圧痕を用いるもの
			d	条痕・無文
前期				羽状縄文、胎土繊維
中期		初頭		朝日下層・新保
		中葉		
		後葉		
後期		中葉		

第８表　縄文土器分類表

b　分　　布（第20図）

土器の分布を見ると、各時代ともおよそ尾根部分に分布していることがわかる。早期沈線文系は11～14J～Mに集中域があり比較的狭い分布域を示す。早期末～前期前葉にかけての条痕・繊維系土器は10～16H～Nに集中域があり、より広い分布を示す。数量的にも多い。中期初頭は、13～16I～Lで狭い分布である。このように縄文土器ではいずれの時代も尾根に沿った分布を示し、時期別特徴はない。ちなみに古墳～古代の土器は12G・15J・16J・15Mに集中がありブロック状の分布を示し、縄文土器とは異なる在り方を示す。



第20図　時期別出土土器分布図

C　遺 構 出 土（図版51－401～418）

95SK2（401・402）

早期沈線文系と思われる。401は横沈線が2本走る。

95SK7（403～405）

やはり早期沈線文系土器である。403はa類で幅広の沈線間に貝殻腹縁文を充填する。404は細い沈線。405は無文である。

95SK8（406～411）

早期沈線文系土器である。406はやや太目の沈線で、口縁部には刻みが施される。407は細いクランク沈線。408・409はⅢa類である。410は細い縦横沈線。411は横沈線である。

95SK9（412）

早期沈線文系a類である。

97SK131（413）

早期条痕文系土器である。細かい絡条体圧痕が認められる。

97SK110（414・415）

中期初頭細集合竹管系土器である。414は口縁部破片。口縁断面三角形で口唇部に斜行連続竹管沈線を廻らす。外端部には撚糸圧痕。415くの字状竹管沈線。

96SD2（416）

中期初頭。竹管集合沈線による横及びV字状区画。

95SI1（417）

竪穴住居出土の鉢である。口縁部沈線区画により無文帯とし、以下縄文RL。

97SK96（418）

土坑中央に正立で出土。被熱により内外面はでる。時期は明確でないが、後期であろうか。

d　包含層出土（図版51－419～図版56－646）

早　期

Ⅰ類（419）　無文土器と考えられるが、口縁部の形状から早期と判断される。尖底になると考えられる。

Ⅱ類（420～423）　押型文土器である。山形（a類）と楕円（b類）がある。420・421は山形であるが、施文単位は明確でない。胎土に繊維を含む。422・423は楕円である。422は口縁部で端部外反が少ない。やはり単位は明確でない。胎土に繊維を含む。

Ⅲa類（424～441）　波状口縁または平口縁で、沈線と貝殻腹縁文の組み合わせである。平行する沈線は少なく、曲線を描くものが多い。貝殻腹縁文は間隔をあけて施文し、単位が長いものが多い。口唇部にも施される。427には円形刺突がある。胎土に繊維はほとんど認められない。

Ⅲb類（442～461）　比較的幅の狭い2本沈線で、縦横区画を行い、その中に貝殻腹縁文を充填するものである。施文原体の長さは短い。胎土内の繊維はほとんど認められない。442は薄手である。

Ⅲc類（462～468）　やや厚手の波状口縁で胎土が灰色に近く、繊維を含む。Ⅲ類の中で繊維を含むものはこの類のみである。間隔の狭い沈線を斜め、横、縦に配し、沈線内に貝殻腹縁文を充填する。特徴的である。

Ⅲｄ類（472～483）　間隔の狭い平行沈線に波状文が加わるものである。477・481～483には、細かい刻みが充填される。477～483は胎土が類似し、同一個体の可能性がある。

Ⅲｅ類（469～471）　横の平行沈線で区画し、その中をヘラ状工具による刻み（貝殻の可能性もあり）で充填するものである。胎土に繊維は含まない。

Ⅳａ類（484）　Ⅳ類は、いわゆる条痕文系土器である。厚手で繊維を含む。ａ類の484は上半部の破片で格子状の沈線文様。

Ⅳｂ類（485～494）　ハの字状の刺突を用いるものである。このうち485～487は刺突が小さく、胎土がａ類に類似することから、同一個体の可能性がある。胎土内に石英粒が顕著である。488～498も胎土に類似性があることから同一個体の可能性がある。491は口縁部破片。口縁に沿って、横ハの字状に刺突が廻る。490・493は縦長添付隆帯が認められる。498は尖底部。内外面に条痕文が認められるものがある。

Ⅳｃ類（503～506）　絡状体圧痕を有する土器である。503・504は口縁部破片。503は不規則に圧痕されるが、原体は不明。504はハの字状に圧痕される。原体は明確でない。505は横隆帯上及び両脇に圧痕される。506は太い横隆帯上に横に圧痕し、眼鏡状としている。

Ⅳｄ類（495～502・507～512）　495～498は、ｂ類の下半部と思われる。内外面条痕が認められる。502は尖底部。胎土に多量の白色粒を含む。509は縦長隆帯が添付される。いずれも胎土内に多くの繊維を含む。

前　期（513～530）

513～515は同一個体である。胴部にやや膨らみを持ち、口縁が緩く外反する。上半部に隆帯が廻る。隆帯に沿っては角押の連続刺突が廻り、下部に向って直線でおりる。隆帯上から口縁部は羽状縄文と思われる。516は表裏縄文。517・518・520・521は同一個体と思われる。口縁外側に連続角押刺突が廻る。519は口唇部に刻みが施される。522は円形刺突に見えるが、剥落と判断される。523は胎土に繊維を含まない。鋸歯状連続沈線が３段廻る。524は隆帯に沿って、連続角押刺突が廻る。525は結節回転文である。526～530は縄文のみである。527は尖底になるであろうか。

中期初頭（531～608）

細片が多く全体器形を窺えるものはないが、口縁がキャリパー状に開くもの（531～538）、口縁が直線的に開くもの（552～556）が認められる。口縁部文様としては、斜行右下り集合竹管沈線（533・536・538・544・550・556・560等）、ヘラ状沈線を加える格子目文（531・549・553・554・555等）、ハの字状沈線（543・551等）がある。特殊な突起もある（542・545・546・547・557）。これらには竹管円形刺突が加えられる。ヘラ沈線でなく、細い粘土紐で格子目文様を表現するものが認められる（532・535・548・576・577）。このうち532・548では下部に縦に細い粘土紐が添付される。また、548・576・577では隆帯状に細かい爪形文が認められる。口唇部の多くに絡状体圧痕が施されるが、唯一432のみが爪形文である。胴部文様も多くは、斜行、格子、ハの字である。569～571は胴部上半で、細い竹管沈線が縦に間隔をおいて施される。胴下半部では、563・583のように、Ｙ字状の区画もある。縄文では、綾繰文（594・595）、木目状撚糸文（598～605）がある。

606～608は底部である。隆帯及び横区画があることから、中期前葉に降る可能性がある。

中期後葉（609～613）

609・610は縦沈線と無文帯である。611～613は同一個体。縦隆帯が垂下する。

後　期（616～618）

後期と思われる。617は区画内無文で、ミガキを加える。

その他の縄文土器（614・615・619～631）

縄文土器であるが、時期の明確でないもの。614・616は隆帯の貼り付けである。中期と考えられる。619～622は口縁無文帯である。やはり中期であろうか。

時期不明土器（632～646）

時期の明確でないものである。632～634は沈線による文様である。632は口縁部。端部張り付隆帯に横ハの字沈線が廻る。633は頸部であろうか。635は大きく開く口縁部。口縁内側が少し窪む。外側には、弧状の集合沈線がある。636も類似の土器である。637はクランク状の沈線区画。壷頸部と考えられる。弥生土器の信州栗林系土器に類似する。638・639は櫛状工具による平行沈線が認められる。640～643は同一個体である。細い竹管状沈線で文様を描く。644～646も類似する。644はハの字状竹管沈線である。

2）土　製　品（図版57－647・648）

いずれも95SI1の出土。647は小形の土偶である。高さ7cm、幅6cm、厚さ2.8cmを測る。頭・腕・胴・足の接合部で剥離する。腹部に膨らみを持つ。頭は、目・耳ともに左右対称でない。裏から見ると、耳の表現も認められる。648は球状土製品。長さ10.1cm、中央最大径5cm、中央を貫通する穴径1cm。形状は略円筒形である。中央に最大径があり、両端に向ってややすぼまり、端部が括れを持ち、再び少し膨らむ。文様は沈線により横区画し、数本の沈線束で斜・弧状文様を充填する。タール状のものが一部付着する。

3）石　　器（図版57－650～図版67－853）

石器は、剥片・チップを含め約400点出土した。このうち遺構から出土したものは少数で、ほかは包含層出土である。出土土器等から、石器は旧石器・縄文早期・前期・中期・後期に当たると考えられるが、個々石器の時期判断が難しいため、器種ごとに一括して報告する。出土土器量・遺構から見れば、縄文早期・中期当たりの石器が多いと予想される。第9表に出土石器の組成を表した。これによると、磨石類が33％と圧倒的に多い。次いで磨製石斧、特殊磨石、不定形石器、石錘、石鏃と続く。また、石材は第10表のとおりである。

	実測個体数	未実測	合計	比率
石鏃	11	0	11	0.05
先尖器	1	0	1	0.00
両極石器	6	0	6	0.03
石匙	2	0	2	0.01
不定形石器	19	0	19	0.09
打製石斧	4	0	4	0.02
磨製石斧	32	0	32	0.15
石錘	18	0	18	0.08
磨石類	69	1	70	0.33
特殊磨石	24	0	24	0.11
石皿	3	0	3	0.01
砥石	11	10	21	0.10
台石	3	0	3	0.01
敲石	1	0	1	0.00
合計	204	11	215	1.00

第9表　出土石器組成表

a　石　　鏃（650～660）

未成品を合わせて11点出土している。以下のように分類した。

・分　類

A類　基部が凹状で、中茎が無いもの（650～654）である。このうち650は基部凹部が明瞭であるが、ほかは凹部が明瞭でなくB類に近く、650に比べて小さい。

B類　基部が平らで三角形状を呈するもの（655～658）である。いずれもきれいな二等辺三角形を呈さ

	実測個体数	未実測	合計	黒曜石	珪質頁岩または凝灰岩	頁岩	凝灰岩	無斑晶質安山岩	チャート	安山岩	砂岩	珪化岩	玉髓	白色蛇紋岩	蛇紋岩	碧玉	珪質頁岩	玄武岩	流紋岩	ハンレイ岩	合計
石鏃	11	0	11	5	2	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
先尖器	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
両極石器	6	0	6	0	0	0	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
石匙	2	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
不定形石器	19	0	19	0	1	0	0	9	0	5	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	19
石核（旧）	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
剥片	0	186	186	38	24	6	4	81	9	4	6	9	1	0	2	2	0	0	0	0	186
打製石斧	4	0	4	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
磨製石斧	32	0	32	0	0	1	2	0	0	3	0	1	0	20	1	0	0	1	0	3	32
石錘	18	0	18	0	0	0	4	0	0	8	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
磨石類	69	1	70	0	0	0	7	0	0	42	20	0	0	0	0	0	0	0	0	1	70
特殊磨石	24	0	24	0	0	0	1	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
石皿	3	0	3	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
砥石	11	10	21	0	0	0	0	0	0	1	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
台石	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
石刀（旧）	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ナイフ（旧）	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
敲石	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	207	197	404	43	29	7	21	96	15	88	57	10	1	21	3	2	4	2	1	4	404

第10表　石材別石器組成表

ず、また主要剥離面を残すものが多い。

C類　基部が凹状で、中茎を有するもので１点（659）の出土である。側縁が緩く湾曲し、優美な対称形をなす。主要剥離面を残す。

・分　布

集中して分布することなく、尾根頂部に散在する。

b　尖　頭　器（661）

１点のみの出土である。先端部のみで、ほかを欠損する。石質は無斑晶質安山岩。15J 出土。

c　石　　匙（662・663）

つまみ状の突起を一端につけ、刃部を持つものである。２点の出土があり、いずれも刃部が横に長いものである。662 は薄い剥片を利用しており、つまみ部は左上に来る。縦長剥片の側面を刃部とする。つまみ基部表裏両面から軽い抉りを作り出す。つまみ部も扁平である。95SI 付近で出土。663 は縦長剥片の側面を刃部とする。刃部反対側の側面裏側にも調整が加えられる。つまみ部は、右側にある。基部片側に大きく抉りを作り出しているが片側には認められず、定型的なつまみとなっていない。

d　不定形石器（664～682）

19 点と割合多く出土している。分類基準は［高橋保雄 1992］に従った。

・分　類

A類　中型スクレイパーで刃部外湾状となるもの（664～667）である。４点出土しているうち３点が無斑晶質安山岩で、１点は珪質頁岩である。664・665・667 は横長剥片の側縁に刃部を持つ。666 は縦

長剥片で、刃部の剥離は粗い。

B類　小型スクレイパーで、刃部外湾状となるもの（668～673）である。A類と同様縦長剥片の側縁に刃部を持つものと、横長剥片の側縁に刃部を持つものとがある。全て裏面にも調整が入る。671は尖頭状で、側縁に粗い剥離が入る。672は、円形状に近い。

D類　鋭利な先端部を持つもの（674・675）である。横長剥片の一端にのみ調整を加え、尖頭状としている。

F類　小型で不連続剥離を持つもの（676）である。

H類　背面に自然面を持ち、無加工のもの（678～682）である。小形の自然円礫を横剥ぎしたものである。

K類　両面加工である（677）。大きな剥離調整で、側面は波状となる。

・分　布

集中することはなく、尾根頂部に散在する。

e　両 極 石 器（683～688）

両端に刃部を持つものである。6点の出土がある。石錘と類似の形態を取るが、使用目的でなく、使用結果として現れた剥離痕を持つ物を両極石器と考えた。いずれも小形で長さ6cm以内である。剥離は、両端とも片面のもの（683）、両端とも両面のもの（684）、片面と両面の組み合わせ（685～688）がある。石質はチャート、砂岩、凝灰岩である。散在して分布する。

f　打 製 石 斧（689～692）

4点と少ない。［高橋保雄1993］分類にあわせると、B類の689（片面加工、浅角度剥離）、D類の690・691（両面加工、浅角度剥離）、F類の692（石篦に近似するもの）がある。692が珪質頁岩のほか、3点が無斑晶質安山岩である。

g　石　　錘（693～710）

扁平な自然転石で、両端に抉りのあるものを石錘としたため、用途は同じとは言えない。18点出土している。長さは5～8cm、重さ50～100gが圧倒的に多い。710のように厚味があり、断面球体形状を持つものもある。693は極端に小形で重さ10gに過ぎない。石質は砂岩、安山岩、凝灰岩である。ほとんどの両端、両面に剥離が認められるが、700のように片面のみのものもある。694では側面にタタキ、708では側面にタタキ、磨りが認められる。

h　磨 製 石 斧（711～742）

32点と多く出土している。

・分　類

A類　定角式磨製石斧である。正裏面と側面に稜を持ち、基部断面形が長方形または隅円長方形を呈するもの。7点出土している（711～717）。石質は、白色蛇紋岩、ハンレイ岩、凝灰岩である。711はほかのA類と比べるとやや対称性に欠ける。側面は自然面を残しているようにも見える。712～717は使用による破損と考えられる。

B類　両側面に明確な稜を持たない。全面に磨きが及ばない。表裏面で磨きの稜線が複数残るものである。24点と多く出土している（718～725・727～742）。このうち15点が白色蛇紋岩で、ほかは玄武岩、安山岩、凝灰岩、珪化岩、ハンレイ岩がある。718は大きさ、重量ともにほかを圧倒する。形状は短冊形であるが、基部の方が大きく、重い。側面は緩い湾曲を示し、中央での断面は台形様を示す。719は細長く片刃で断面かまぼこ状を示す。裏面は刃部側1/4が磨かれている。722も断面かまぼこ状。720・721は扁平な細長い自然礫を利用して、成品としているもので、形状は非対称である。いずれも刃部は尖る。723～727は、長さ約10cm以上の大型品である。723は短冊型で、まだ全面に剥離痕が残り、未成品と考えられる。一部磨きが認められるが、刃部も付けられていない。724・725・727は両端に丸みを持つ形状。全面に磨きが及ばず、剥離面が多く残る。刃部はいずれも尖るが、725・727は断面薄く、扁平である。724は断面やや丸みを持つ。長軸に沿って斜めに擦切り痕がある。728～733は中型である。いずれも部分的に剥離痕が残る。特に側縁部は磨き調整がない。全て扁平で、刃部は比較的平ら。片刃状を呈するものが多い。734～737は小型。734は側面に少し湾曲を持つ。片面に深い剥離痕を大きく残す。735は左右対称形をとる。きれいな片刃であるが刃の側面は直線でない。刃部使用による剥離が認められる。737は先端の丸い刃部である。736は95SI1出土。出土土器から縄文後期と考えられる。小形で、刃部は直線となる。739・740は刃部のみである。741のみ形状が異なる。きれいな側面を持ち、断面表面はやや丸みを持ち、裏面は直線で、面全体が平らできれいに磨かれている。刃部は両刃状で、特に裏面がきれいな稜を持って刃部に至っている。表面は緩やかに刃部に至る。刃部には使用による欠けや摩耗が認められる。742は磨きのあるものとして、一応磨製石斧に含めた。横剥ぎの扁平剥片を両面磨いているが、磨きの及ばない部分が多くある。基部は細く、刃部は広く丸みを持つ。頁岩。

C類　いわゆる局部磨製石斧状を呈す（726）。1点のみの出土。中央にやや膨らみを持ち、刃部側面はやや上向きに湾曲する。磨きは刃部付近のみである。

・分　布

やはり集中はなく、散在する。

i　磨　石　類（743～810）

68点と最も多く出土している。分類は［高橋保雄1992］によった。

・分　類

A類　磨痕のみ（743～747・812）。4点と少ない。845は大きいがこの類に含めた。石材は安山岩、凝灰岩、ハンレイ岩がある。812も適当ではないが一応ここに含めておく。両面に磨痕があり、両端から剥離が加えられている。

B類　磨痕＋凹痕（748～758）。11点出土している。安山岩が多く、ほかに凝灰岩、砂岩がある。円形の扁平礫を用いたものに748～752がある。凹が両面にくるもの（748・759）、片面のみのもの（750・751）、側面にも凹がくるもの（752）がある。磨痕は表裏側面いずれかに認められる。細長い自然礫を用いたものに753～756がある。凹が両面にくるものは754のみでほか3点は片面。磨痕は表裏側面。757・758は砂岩の板状素材を用いている。表裏面に凹痕がある。

C類　磨痕＋敲打痕（759）。1点のみの出土である。側面に一部敲痕がある。

D類　磨痕＋凹痕＋敲打痕（760～764）。5点出土している。砂岩と安山岩である。760・761は細長

い自然礫。両面に凹痕。側面に敲打痕がある。762・763は円礫。762は両面、763は片面凹痕である。764は角柱状の素材を用いている。全面利用している。

E類　凹痕（765～796）。32点と最も多く出土している。安山岩、凝灰岩、砂岩である。765～772が円形に近い素材を利用している。全て両面に凹痕を有する。773～793は細長い素材。多くは両面に凹痕があるが、素材が長くなるほど連続した凹数は多くなる傾向がある。785・786は側面にも凹痕を有する。792は、大きい素材の破片で、当類に分類するのは不適当かもしれない。794～976は砂岩の板状素材を用いている。形状はまちまち。

F類　凹痕＋敲打痕（797～807）。11点出土している。砂岩が多く、ほかは安山岩である。細長い素材を利用しているものが多い。基本的には表裏面に凹痕であるが、801～803のように側面にも凹痕があるものもある。敲打痕は表裏面、側面のほか、804～806のように端部に敲打痕の認められるものもある。

G類　敲打痕（808～810）。3点の出土である。810は両端部に敲打痕を認める。

・分　布

分布は、ほかの石器と同様、尾根の一番高位コンタに沿った地点に集中する（15Lから北西方向12Fにかけて）。また、離れて一番西側の2～4J～K付近にも集中域がある。

j　敲　　石（811）

1点のみである。白色蛇紋岩で、端部に敲痕を認める。

k　特殊磨石（813～836）

「三角形・四角柱・楕円形などの河原石（転石）を素材とし、その稜の部分に細長い機能面を有するもの」［北村1990］である。分類は［北村1990；土橋2003］によった。

・分　類

A類　稜線上の磨面のみのもの（813～820）。813・815は断面楕円形であるが、ほかは三角形状の素材である。818は稜2面に磨痕があるが、ほかは一面である。1点を除いて全て安山岩。

B類　稜上の磨面のほかに磨面があるもの（821～829）。全て安山岩。細長い素材で、長軸複数面の磨面を有する。822のように全周するものもある。また821のように両端部にも磨面を持つものがある。

D類　稜上の磨面のほかに、磨面・端部の敲打痕があるもの（830～832）。いずれも片面端部に敲打痕がある。全て安山岩。

E類　稜上の磨面のほかに、凹痕があるもの（833）。磨面は小さい。

F類　稜上の磨面のほかに、凹痕・磨面があるもの（834）。凹痕は小さい。

G類　稜上の磨面のほかに、凹痕・端部の敲打痕があるもの（835）。

H類　稜上の磨面のほかに、凹痕・磨面・端部の敲打痕があるもの（836）。

・分　布

ほかの石器と同様に、尾根頂上部分布する。また、西側3K区にも2点ほどある。

l　石　　皿（837～839）

定型的なものはない。837は丸い扁平礫で両面に磨痕がある。838は95SI1（縄文後期）出土。片面砥石状、片面石皿状であるが一応石皿に入れた。両面とも使用面は凹み、片面には筋状に稜が認められる。

被熱している。839は摩耗していて、磨面は明確でない。

m　台　　石（840～842）

凹や敲が認められるが、手持ちで使用しにくいと思われるものを台石とした。いずれも砂岩である。840・841では敲痕、842では凹痕がある。

n　砥　　石（843～853）

853を除いて全て砂岩である。破片化したものが多く、元形状をとどめない。843～845は滑らかな磨面を持つ。848～852は磨面に筋がある。筋断面は、鋭角状の鋭さはなく、どちらかと言えば丸みを持つ。853は838に類似し、片面には緩い稜線が認められる。同じく95SI1出土。

C　古墳時代

1）遺構出土（図版68－857～859）

97SI10（857・858）

ほとんど出土遺物がない。いずれも甕の破片。857は口縁部。くの字状に外反する。ヨコナデは顕著でなく、厚手である。858はハケ調整。後期くらいであろう。

97SK11（859）

甕である。内面ハケ調整。

2）包含層出土（図版68－860～875）

860は、甕または壷の底部で、小さい。861は高杯であろうか。862・863も甕または壷の底部。底部ケズリ調整。これらは、中期に入る可能性がある。864～870は甕である。864～866は口縁くの字状に開き、ヨコナデ。867は口縁開き小さい。869・870は底部。864・869は底部やや窪み。872・873は甑。872は多孔底になると考えられる。873は把手。871は、直線的に開く口縁で、ハケ調整。甑の上半部の可能性がある。874・875は内黒高坏。

D　古　　代（図版68－876～図版70－909）

1）包　含　層（図版68－876～図版69－891）

須恵器（876～887・889・890）

876～878は杯。876は薄手の底部でヘラ切り。877は底部ヘラ切りで丸みがある。878は糸切り。879・880は有台杯。いずれもヘラ切り。881～883は蓋。881は内面に丸みを持つ。884～886が長頸壷。885は肩に稜を持つ。887は広口壷。888は灰釉壷頸部。889は甕。口縁部で開きは大きくない。波状文が2段廻る。

土師器（890・891）

890は糸切りの杯。891は、潰れた状態で出土した。口縁の開きは少ない。上部カキメ。下半部タタキ。

2）97SK17（須恵器窯跡）（図版69－898～図版70－909）

全て甕破片で、焼台として使用したものと考えられる。898～900（図版50、須恵器甕A）は同一個体

で青灰色。901～909（図版50、須恵器甕B）が同一個体で、酸化により茶化している。特に901～909では、焼台として使用した時にできたと考えられる黒斑が多く認められる。

E 中　　世（図版69－892～897）

892は壷R種。頸部直立し、口縁の開きは小さい。893・894は壷T種。893は口縁部外反大きい。895・896は甕。895は口縁が小さい。897は擂り鉢である。

4 ま と め

A 遺　　構

大塚遺跡で検出された遺構は、縄文時代早期～前期、中期、後期、古墳時代後期、平安時代、近世以降と多期に渡る。しかし、各時期とも多くの遺構が存在するわけでなく、集落を形成したことはなかった。縄文早期～前期の遺構としては、いわゆる陥穴がある。遺構の項で述べたように、小型のA類と、やや大型のB類とがあり、A類は斜面に直交するラインで並び、B類はコンタに沿った平坦な並びを見せる。形状はいずれも井戸状に垂直断面を示す。新潟県内の陥穴状遺構は、［田海1999］によれば、A～Fの6類に分類されている。当遺跡の遺構はC類に分類される。この上越方面においても上信越自動車道の建設に伴う丘陵上の発掘調査が進展するにしたがい、陥穴状遺構の検出例も増加している。陥穴全体の中で、C類は類例が少なく、上越方面では糸魚川市原山遺跡［寺崎1988］、妙高高原町仲ノ沢遺跡、新井市萩清水遺跡等で検出されている。この遺構は通常列をなすのが一般的で、大きさや形状、設置場所・条件は、狩猟対象物によって異なっていたと考えられる。遺構の時期（早期）の遺物も比較的認められることから、狩猟サイト的性格の遺跡であり、住居を伴う居住地は別に構えていたであろう。

中期初頭も一定量の土器出土を見たが、明確な遺構は存在しない。

後期中葉の遺構として小型の竪穴住居1軒がある。やや細長い楕円形を呈し、柱穴はない。規模は4×3mと一般的である。中央の石囲炉の形状は方形に近い。当該期の炉は地床炉か円形の石囲炉が一般的で、方形は少ない。上越方面では、妙高高原町兼俣遺跡、中郷村籠峰遺跡に後期の住居跡が検出されているが、いずれも地床炉か円形石囲炉である。また、新潟県内においても後期になると円形炉が多数を占める。後期前半には方形炉も残ることから、その最終段階の炉と言える。

フラスコ状土坑は、時期が明確でない。小形は4基西側斜面にまとまって存在する。大形は97SK1101基のみであるが、SK111もその可能性がある。これは北側斜面にある。いずれも中央頂部の周囲に位置する。後期のSI1居住者に対応するものかもしれない。

古墳時代の遺構としては竪穴住居97SI10がある。斜面地に1軒のみの確認で、性格は明確でない。

古代の須恵器窯SK17は調査区内で1基のみの確認である。出土した須恵器は焼台として使用したと考えられる須恵器甕破片2個体分のみで、焼成不良品等は一切ない。削平のため下部の灰原部分が残存していないためかもしれない。壁面からは1回の焼成が確認され、また焼台として使用した須恵器甕には、焼成時に遺物をおいた部分の黒ずみが認められることから、少なくとも1回は焼成を行ったと考えられる。斜面地の調査が行われていないが、数基の存在も予想される。このように当遺跡はいずれの時代も居住地としての性格を持つものでなく、狩猟・生産・キャンプサイト的なものである。

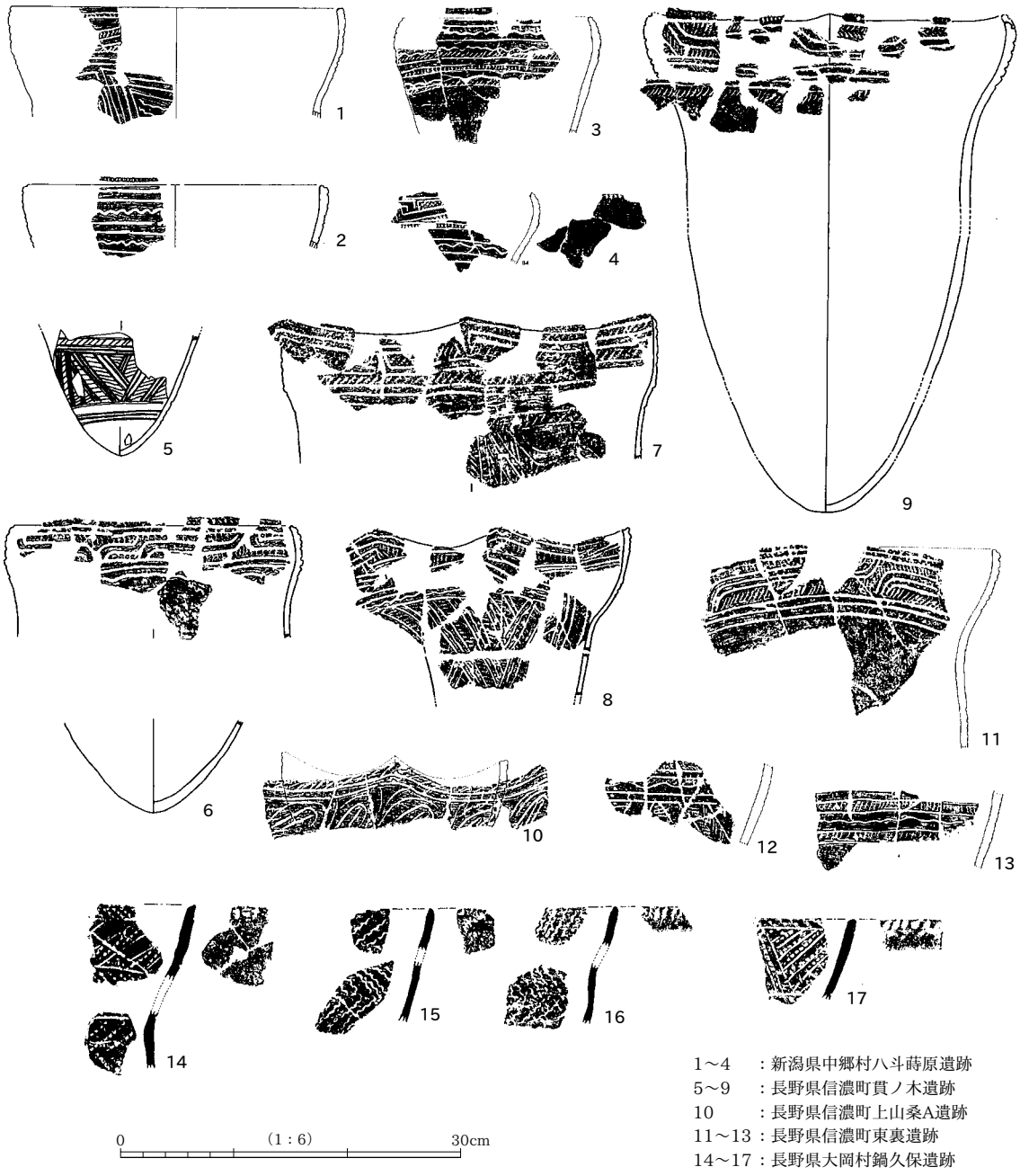
B　遺　　物

1）土　　器

a　縄文時代早・前期

上越地方における当該期の遺跡は、上信越道や国道バイパス関連の発掘調査によって近年増加し、次第にその様相が明らかになりつつある。早期の土器は、大きく撚糸文系（表裏縄文含む）土器→押型文系土器→沈線文系土器→条痕文（絡条体圧痕）系土器の変遷をたどる。

Ⅰ類とした無文土器は胎土・口縁部形態から早期と考えられる。口縁端部が緩く外反する器形は押型文土器以降にはあまり認められず、前段階の撚糸文系土器の流れを汲むものと判断される。



1～4　：新潟県中郷村八斗蒔原遺跡
5～9　：長野県信濃町貫ノ木遺跡
10　　：長野県信濃町上山桑A遺跡
11～13：長野県信濃町東裏遺跡
14～17：長野県大岡村鍋久保遺跡

第21図　周辺の沈線文系土器

Ⅱ類の押型文土器も４点の出土しかない。全て繊維を含んでおり、山形・楕円を密に施していることから押型文土器３期終わりの卯ノ木第Ⅱ類型［小熊1997a・2004］に当たるであろう。上越方面では、八斗蒔原遺跡［坂上2004］、松ヶ峯No202［小島1991］・No237［小島1993］等で出土している。

Ⅲ類としたものが一番多く出土している沈線文系土器であり、ほとんどに貝殻刺突が付加される。中郷村八斗蒔原遺跡にも良好な資料があり、そのうちＣ類に当たる。全体の器形、文様構成は判然としないが、口縁部は内湾ぎみに開くのが多い。この類は最近長野県でも資料が増加し、特に新潟県境に近い長野県上水内郡信濃町貫ノ木遺跡［中島1998］では、全体器形・文様構成のわかる資料が出土している。それによれば口縁は内湾ぎみに開き、底部尖底となる。口縁は平口縁と波状口縁とがある。また文様は上半部のみで、下部が無文になるもと、同下半にまで文様の及ぶものとがある。当遺跡出土Ⅲ類は、これらとの類似性が強い。また、同町東裏遺跡東裏団地地点［中村2004b］、上山桑Ａ遺跡［中村2004a］や関東地方の群馬県前橋市柳久保遺跡［笠懸野岩宿文化資料館2004］においても類似の土器が知られる。いわゆる田戸上層式と呼ばれる段階であり広範囲に分布している。

Ⅲａ類としたもののうち、424は八斗蒔原遺跡C3類に当たり、長野県で貫ノ木段階に後続するとされる新水Ｂ遺跡［福島1981］、鍋久保遺跡［笹澤ほか1976］に類似する。425・426は大きな波状となるもので、周辺地域では小波状口縁はあるもののあまり見られず、むしろ東北地方に求めることができる。また、口縁に沿った沈線が認められず、直接口縁端部から文様（沈線・貝殻刺突）が始まる文様構成は類例が少なく、先述の鍋久保遺跡や新水Ｂ遺跡、遠く福島県常世遺跡［芳賀1975］等で確認することができる。領塚正浩は、常世Ｉ式関連資料（並行型式）として、新水Ｂ・鍋久保両遺跡を挙げ、田戸上層式の新しい段階に並行するとの見解を示している［領塚1999・2005］。

Ⅲｂ類としたものは縦横区画で直線的文様構成である。この類は八斗蒔原遺跡、貫ノ木遺跡、柳久保遺跡で広く知られ、糸魚川市原山遺跡（未発表）、上川村北野遺跡［荒谷2003］でも認められる。461のようなハの字状刺突は東裏遺跡にある。Ⅲｃ類とした462～468は、表面が灰褐色で繊維を含みほかと異なる胎土を持つ。波状口縁で胴部上半斜平行沈線の区画で、貫ノ木遺跡出土土器に類似する。

Ⅲ類も破片資料であり、器形・文様構成ともに明らかでなく、一部文様の類似性の説明にとどまらざるを得ない。このⅢ類を細分する材料は持っていない。

Ⅱ・Ⅲ類を八斗蒔原遺跡と比較すると、次のようになる。

①八斗蒔原遺跡には押型文土器卯ノ木第Ｉ類型、太い沈線を用いる田戸下層式があるが、大塚遺跡では認められない。

②押型文土器卯ノ木第Ⅱ類型（大塚Ⅱ類）は両遺跡に存在する。

③八斗蒔原遺跡C3類、Ｄ類が大塚遺跡ではほとんど認められない。この３点から、八斗蒔原Ａ・Ｂ類とC1・２類とＤ類とは時期的な変遷であることが裏付けられた。ただし、C3類とＤ類との時期的関係は明確でない。なお、この類と長野県との関係は、八斗蒔原遺跡報告に詳しい。

Ⅳ類としたものは、いわゆる条痕文系土器である。出土量は少ない。このうち484～499は径2mm前後の石英粗粒を多量に含み、ほかと明確に区別される。口縁部にはハの字状の横連続刺突で490のように縦棒状浮文。また484のような斜格子沈線があり、底部は尖底となるが丸みがなく直線状で、接地面は少し平坦となる。内面には浅い条痕が認められる。類例はあまり認められないが、新井市萩清水遺跡の条痕文系土器の中に、ハの字状沈線や斜格子目を施したものがある。県外では、群馬県中棚遺跡［関根2000］、横川大林遺跡［関根2000］等に求められる。大きなハの字状刺突はあまり類例がない。時期的

には鵜ヶ島台段階～茅山段階とされている。

絡条体圧痕の認められる土器は５点と少なく全体を窺い知れない。SK131出土の413は細い原体で、条痕も認められない。細い原体は絡条体の中でも新しい後半期のものとされる［小熊2000］。新井市萩清水遺跡、関川谷内遺跡、大堀遺跡等類例は多い。一方、503～506は比較的太く、506は隆帯に圧痕しているため眼鏡状となる。隆帯上の圧痕は八斗蒔原遺跡にも類例がある。絡状体では古い方とされる。さて、これら絡条体圧痕文土器と前述の条痕文土器Ⅳａ・ｂ・ｄ類が共伴するかどうかであるが、その判断材料は今のところない。

前期としたもののうち、513～515は類例が見当たらない。口唇部のハの字状の細い沈線は布目式土器［前山1994b］に共通するが胴部の隆帯や刺突は見当たらない。515～522のような口縁に沿って刺突を施すものは、前期初頭とされる塚田式土器［下平1994］に認められ、また513の胴部隆帯も塚田式にある。このような共通性から513～522は前期初頭に位置づけられると考えられるが、その出自・系統は明確でない。525は関山段階と思われる。523・524は前期としたが、違う可能性もある。特に523は胎土が早期沈線文系土器に類似している。

ｂ　縄文時代中期

中期初頭は、比較的まとまっているが、復元できたものがなく、全体を窺い知ることはできないが、ほぼ同一時期の資料として捉えることができる。いわゆる朝日下層・新保式と呼ばれるもので、新潟県内では剣野Ｅ式［金子1967］とされているものである。文様に竹管を多用するのが特徴である。中期初頭第１期［高橋・寺崎1999］にあたり、堀之内町清水上初頭①期［寺崎1996］、見附市山崎Ａ遺跡［佐藤1991］、巻町豊原Ｖ群１期［前山1994a］が対応する。

器形の代表的なものはいわゆるキャリパー状の深鉢で531が典型である。口縁部文様帯は上下二つに分かれ、上半には半裁竹管と沈線による斜格子目文が一般的である。区画は縦区画で、和泉Ａ遺跡や信州地方山間部の曲線的な文様区画はない。この斜格子目を細い浮線文で描いているものが２点（532・535）ほどある。前期末の手法を受け継いでいる。胴部文様においても576・577に浮線文が用いられている。口縁部の多くに撚糸圧痕が認められるが、532では竹管による爪形を用いている。新潟県内において、爪形を口唇に用いる例は非常に少ない。格子目のほか、上半には斜行または矢羽状の沈線もある。口縁部下半は、531や565の斜行の沈線のほか、格子目（563・566）もある。また、569・570の縦沈線は、中期初頭３段階まで存続する。胴部と口縁部境の文様としては、563・565といった横沈線や、572・573といった斜格子がある。胴部文様は木目状撚糸文が多く、ほかは縦沈線である。563・583のようなＹ字状の文様も初頭の特徴である。

414・552～556といった、口縁が直線状に開き、端部が肥厚し内面に文様を有する器形は、ほかに類例が少ない。文様は前記と同じである。556は浮線の斜格子である。

上越地方の山間部ではいわゆる新保新崎様式と異なる文様構成を持つ土器（和泉Ａ遺跡、長野県松原遺跡）が存在するが、当遺跡は海岸部に近いこともあり、北陸や県内海岸部に近い土器構成であると言える。

時期不明とした632～646のうち、632・633・644は壷形であり、縄文早期・前期には認められない器形である。いずれもハの字状沈線で、考えられるのは弥生中期前半、栗林式以前の土器である。長野市塩崎遺跡群松節地点資料［石川2002］には、壷で沈線等によるハの字状の文様が多く認められ、それらに関連する可能性もある。また、637は筒状の器形のくびれ部と考えられ、群馬県新保富士塚式土器

［小野1993］との関連性を指摘できる。これらは、破片資料であり、胎土は縄文土器と類似することから、断定には至らず可能性にとどめておく。その他、沈線の土器も不明である。

2）石　　器

縄文時代の石器は一覧表のとおりである。全体で215点出土した。時期別出土量から言えば、一番多いのが縄文早期から前期前半、次が中期初頭である。したがって石器の多くは早期～前期前半と考えられる。組成を見ると、磨石類が33％、特殊磨石が11％で合計44％を占めることが特徴である。このことは、中郷村八斗蒔原遺跡［坂上2004］や関川谷内遺跡［立木2003］でも同様である。次いで磨製石斧が多いことも特徴と言える。中でもＢ類とした、側面に明確な稜を持たず、全体に磨きが及ばないものが多く、ほとんどが白色の蛇紋岩である。早期から前期の特徴的な石斧であろう。

上越地方での早期～前期の調査例は増加しているが、関川谷内遺跡Ⅰ報告において近接遺跡の石器組成の比較を行っている［江口1998］。それに最近の調査例を追加したのが、第11表である。この表は用途の区分［鈴木1996］別の割合を比較したものである。用途別に狩猟具（石鏃・尖頭器・石錘）、採集・加工具（打製石斧・磨製石斧・箆状石器）、調理具（磨石類・特殊磨石・石匙）に分類されるが、不定形石器や両極石器など、用途の明確でないもの、製作道具的石器は除外した。したがって、石器組成の全体ではない。鈴木［鈴木1999］によればブロック４とした上越地方では、岩野Ｅ遺跡［小池1986］（早期中葉～前期前葉）に代表されるように採集・加工具＞狩猟・漁労具＞調理具の順をとり、磨製石斧が高率の出土をみること、石錘の比率が高まることも特徴として挙げている。しかし、今回分析した上越地方山間部の遺跡は、逆に調理具が卓越しており、異なる結果が出ている。一方大塚遺跡では、磨製石斧が多いこと、石錘が多いこと等岩野Ｅ遺跡に共通する結果も出ている。ただ、大塚遺跡では早期のほか、前期・中期初頭・後期中葉も定量出土しており、単純な比較はできない。特に、石錘の出土が多く、前期の所産の可能性が大きい。調理具が卓越するのは、ブロック２とした下越地方、ブロック３とした中越地方山間部に共通する。

前期においても多くの遺跡で調理具が卓越する。

各遺跡ともに遺跡全体を調査しているわけでもはなく、調理具は遺跡内で使用する道具、採集具・狩猟具は遺跡外で使用する道具ということを考慮すると、この表から導き出せる生産活動の比較には難しいものがある。

		関川谷内 Ａ地点Ⅲ区		関川谷内 Ｂ地点Ⅰ区		中ノ沢Ｂ区 Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ層		大　堀		関川谷内 Ｂ地点Ⅱ区		八斗蒔原		大　塚	
		点数	比率(％)	点数	比率(％)	点数	比率(％)	点数	比率(％)	点数	比率(％)	点数	比率(％)	点数	比率(％)
狩猟具	石　鏃	2	3.9			6	13.6	15	30.6	17	10.8	11	9.5	11	6.8
	尖頭器							1	2.0	3	1.9			1	0.6
	石　錘							1	2.0			1	0.9	18	11.1
計		2	3.9	0	0.0	6	13.6	17	34.7	20	12.7	12	10.4	30	18.5
採加具	打製石斧	1	1.9	1	3.8			1	2.0			2	1.8	4	2.4
	磨製石斧	3	5.8			1	2.3			5	3.2	13	11.3	32	19.8
	箆状石器					6	13.6	1	2.0						
計		4	7.7	1	3.8	7	15.9	2	4.1	5	3.2	15	13.1	36	22.2
調理具	特殊磨石	35	67.3	16	59.2	15	34.2	13	26.5	65	41.4	28	24.3	24	14.8
	磨石類	11	21.1	10	37.0	13	29.5	16	32.6	67	42.7	56	48.7	70	43.2
	石　匙					3	6.8	1	2.0			4	3.5	2	1.3
計		46	88.4	26	96.2	31	70.5	30	61.2	132	84.1	88	76.5	96	59.3
合計		52	100.0	27	100.0	44	100.0	49	100.0	157	100.0	115	100.0	162	100.0

第11表　石器の用途別構成

3）有孔球状土製品

後期の住居跡から１点の出土がある。これについては、［小島1983・1991］、［岡本1989］に詳しい。それによると、有孔球状土製品の出現は縄文後期中葉または前葉で弥生時代までであるとされる。中央に孔が貫通することを条件に様々な形態が存在する。当遺跡出土のものは、細長い紡錘系で両端近くに少しくびれがある。類似の形態は、石川県米泉遺跡［岡本1989］等に認められる。文様単位は、最大径のある中央に対して上下対称の横区画で、その中を数本の沈線による弧状、直線模様を充填している。類似の文様構成は、先述の米泉遺跡、富山県早月上野遺跡［小島1983・1991］等で確認される。

有孔球状土製品の分布は現在のところ北陸を中心とした日本海側と関東東京湾沿岸に集中する。その用途については、弾み車、紡錘車、編物用の錘、漁具等あるが、いずれも定説となっていない。

要　　約

［海道遺跡］

1　海道遺跡は、新潟県上越市大字向橋字海道1031－1ほかに所在し、関川左岸の丘陵から平野部に入った標高約24mの沖積地高田面に位置する。現況は水田・山林であった。

2　調査は上信越自動車道の建設に伴い、平成７・８年度に実施した。調査面積は4,800m^{2}である。

3　調査の結果、古代・中世・近世の集落跡であることが明らかとなった。しかし、層位的に確認されたわけではなく、各遺構の帰属時期の明確なものは少ない。全体で検出された遺構には、掘立柱建物11、井戸62、土坑63、溝53などがある。

4　遺物は、各時代の土器、石製品、木製品等である。古代では８世紀後半～９世紀前半の土師器、須恵器、灰釉などがある。中世では珠洲焼、輸入陶磁器、中世土師器などである。また石製品五輪塔、石鉢などもある。井戸からたくさんのクリ、米（籾）が出土している。近世では、伊万里・唐津・越中瀬戸等がある。

［大塚遺跡］

1　大塚遺跡は上越市大字灰塚字大塚834－1ほかに所在し、関川左岸、標高約65mの段丘上に位置する。現況は山林であった。

2　調査は、上信越自動車道建設に伴い、平成７～９年に実施した。調査面積は14,300m^{2}である。

3　調査の結果、旧石器時代・縄文時代（早期・前期・中期・後期）・古墳時代・古代・中世各時期の遺物が出土した。

4　検出された遺構には、縄文時代の竪穴住居１（後期）・フラスコ状土坑６・陥穴状土坑12・土坑３、古代の竪穴住居１・須恵器窯１、中世の溝３等である。

5　旧石器時代ではナイフ形石器、縄文時代早期～前期の土器では、押型文土器・沈線文系土器・絡条体圧痕文系土器・条痕文系土器等がある。中期では初頭の新保系土器等がある。縄文後期の竪穴住居跡からは、土偶・有孔球状土製品が出土している。縄文の石器では、石鏃・打製石斧・磨製石斧・磨石類・特殊磨石・石錘・砥石などがある。特に蛇紋岩製の不定形な磨製石斧が目立つ。

6　古墳時代～中世では、土師器・須恵器・珠洲焼等がある。

引用・参考文献

荒川隆史ほか 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集 和泉Ａ遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

阿部恭平ほか 2003 『十日町市埋蔵文化財調査報告書第22集 馬場上遺跡発掘調査報告書』 十日町市教育委員会

荒谷伸郎 2003 「第Ｖ章遺物 ２土器・土製品」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第119集 北野遺跡Ｉ（下層）』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

家田淳一 2000 「肥前（佐賀県）の製品について 陶器の編年 2．擂鉢・鉢・片口・水差・茶入・土瓶・水注・灯火具」『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会

石川智紀 1996 「海道遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成７年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川日出志 2002 「栗林式土器の成立過程」『長野県考古学会誌99・100号』 長野県考古学会

上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No2 日本貿易陶磁研究会

江口志麻 1998 「第Ⅵ章まとめ １縄文時代 Ｂ石器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第90集 関川谷内遺跡Ｉ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

遠藤 佐 2005 「新潟県における沈線文土器の様相」『第18回縄文セミナー 早期中葉の再検討』 縄文セミナーの会

大橋康二 1993 『考古学ライブラリー55 肥前陶磁』 ニュー・サイエンス社

岡本郁栄ほか 2003 「第２編 通史 原始・古代」『板倉町史 資料編』 板倉町

岡本 勇ほか 1967 『大貝遺跡の調査』 立教大学考古学研究会

岡本恭一 1989 「第８章第３節 有孔球状土製品」『金沢市米泉遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター

小熊博史・北村 亮 1994 「新潟県における縄文早期末・前期初頭の土器様相」『第７回縄文セミナー早期終末・前期初頭の諸様相』 縄文セミナーの会

小熊博史 1997a 「卯ノ木遺跡出土土器の研究Ｉ－押型文土器の再検討－」『長岡市立科学博物館研究報告第32号』 長岡市立科学博物館

小熊博史 1997b 「新潟県における押型文系及び沈線文系土器群の様相」『押型文と沈線文 本編』長野県考古学会縄文時代（早期）部会

小熊博史 2000 「新潟県における絡条体圧痕文土器の様相」『第13回縄文セミナー 早期後半の再検討』 縄文セミナーの会

小熊博史 2004 「新潟県における縄文文化形成期の様相―縄文時代早期をめぐる諸問題―」新潟県考古学会 平成15年度 第３回研究発表会資料

尾崎高宏 2003 「上越地内（米岡地区・下割遺跡隣接地）試掘調査」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報平成14年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

尾崎高宏 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第152集 下馬場遺跡・細田遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

小田由美子 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第149集 上信越自動車道関係発掘調査報告書ⅩⅥ 滝寺古窯跡・大貫古窯跡』 新潟県教育委・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

小野和之 1993 『群馬県埋蔵文化財事業団調査報告第154集 新保富士塚遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団

笠懸野岩宿文化資料館 2004 『第39回企画展 底の尖った土器』

春日真実・北野博司・笹澤正史・高橋 勉 2003 「第５章古代 第２節 遺跡と遺物」『上越市史資料編２ 考古』 上越市

春日真実 1992 「第Ⅶ章 まとめ ２遺物 Ｃ中世」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第28集 木崎山遺跡』 新潟県教育委員会

加藤 学 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第128集 仲田遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

金子拓男　1967　「新潟県柏崎市剣野Ｅ地点遺跡出土遺物について」『信濃19－2』 信濃史学会
川村浩司　2000　「第Ⅲ章 弥生～室町時代の遺物 １弥生～飛鳥時代の遺物」『籠峰遺跡発掘調査報告書遺物編』 中郷村教育委員会
北林八洲晴ほか　1975　『青森県埋蔵文化財調査報告書第27集 千歳遺跡（13）』 青森県教育委員会
北村　亮　1990　「第Ⅲ章 岩原Ⅰ遺跡 ４遺物 Ｂ石器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第56集 岩原Ⅰ遺跡上林塚遺跡』 新潟県教育委員会
小池義人　1986　「第３章遺跡各説 Ｃ岩野Ｅ遺跡 ６まとめ ｂ石器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第45集 中原遺跡・岩野Ａ遺跡・岩野Ｅ遺跡』 新潟県教育委員会
小池義人ほか 1998　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第90集 関川谷内遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
小池義人ほか 2000　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第96集 裏山遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
小池義人ほか 2002　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第108集 小重遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
小島俊彰　1983　「有孔球状土製品」『縄文文化の研究９』 有山閣
小島俊彰　1991　「有孔球状土製品と硬玉製小珠」『縄文時代２』 縄文時代文化研究会
小島正巳　1991　「妙高山麓採集の押型文土器ー松ヶ峯No202・208遺跡ほか（17遺跡）－」『新潟考古学談話会会報 第７号』 新潟考古学談話会
小島正巳　1993　「妙高村松ヶ峯No.237遺跡の縄文早期土器」『新潟考古』第４号　新潟県考古学会
小島幸雄　1991　『新潟県上越市　中島廻り発掘調査報告書』 上越市教育委員会
駒井和愛・吉田章一郎　1962　『斐太』 慶友社
笹澤　浩ほか 1976　「長野県更級郡大岡村鍋久保遺跡の調査」『長野県考古学会誌第23・24号』 長野県考古学会
笹澤正史　1998　「上越市滝寺１号窯跡出土の凸帯付四耳壺」『上越市史研究第三号』 考古部会
笹澤正史　2003a　「第３章弥生時代 第２節７ 吹上遺跡」『上越市史資料編２ 考古』 上越市史編さん委員会
笹澤正史　2003b　「第５章古代 第１節時代概説」『上越市史資料編２ 考古』 上越市史編さん委員会
笹澤正史　2003c　「第５章古代 第２節28 縄手遺跡」『上越市史資料編２ 考古』 上越市史編さん委員会
笹澤正史　2003d　「第５章古代 第２節29 滝寺・大貫古窯跡群」『上越市史資料編２ 考古』 上越市史編さん委員会
笹澤正史　2003e　「第５章古代 第２節30 向橋古窯跡群」『上越市史資料編２ 考古』 上越市史編さん委員会
坂井秀弥　1984　「今池遺跡群における奈良・平安時代の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集 今池・下新町・子安遺跡』 新潟県教育委員会
坂上有紀　2004　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第129集 八斗蒔原遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
佐藤雅一　1991　「第５章まとめ Ａ埋没谷出土の縄文土器について」『山崎Ａ遺跡発掘調査報告書』 見附市教育委員会
沢田　敦　2003　「第１章 旧石器時代 ２大塚遺跡」『上越市史 資料編２ 考古』 上越市
品田高志　2003　「第３章弥生時代 第１節 時代概説」『上越市史資料編２ 考古』 上越市史編さん委員会
島田昌幸　1997　「海道遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成８年度』（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
下平博行　1994　「３塚田式の設定とその様相について」『塚田遺跡』 御代田町教育委員会
上越市教育委員会　1993　「小安遺跡」『新潟県上越市市内調査確認概要報告書』
杉田健一　1998　「大塚遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成９年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木俊成ほか 1994　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 上越春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木俊成　1996　「第Ⅶ章まとめ ３石器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第72集　清水上遺跡Ⅱ』　新潟県教育

委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木俊成　1999　「第２章 縄文時代 第５節 道具と技術 第２項 早期から晩期の石器組成」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
関根慎二　2000　「群馬県における早期後半の土器」『第13回縄文セミナー 早期後半の再検討』 縄文セミナーの会
高橋一功　1994　「第Ⅱ章 遺跡の位置と環境 1．地理的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 上越春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
高橋　保・寺崎裕助　1999　「第２章 縄文時代 第２節 縄文土器 第４項 中期」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
高橋　勉　1985　『昭和59年度 新井市遺跡確認調査報告書－上百々遺跡・高柳宮ノ本遺跡－』 新井市教育委員会
高橋　勉　2000　「第Ⅲ章 弥生～室町時代の遺物 2 奈良～室町時代の遺物」『籠峰遺跡発掘調査報告書遺物編』 中郷村教育委員
高橋保雄　1992　「第Ⅳ章 五丁歩遺跡 4遺物 B石器類」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第57集 五丁歩遺跡・十二木遺跡』 新潟県教育委員会
親跡　喬　1988　『図録 南田遺跡』 中郷村教育委員会
親跡　喬　1992　『図録 柿ノ木町遺跡』 妙高村教育委員会
立木(土橋)由理子ほか　1996　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第75集 大堀遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
立木(土橋)由理子ほか　1997a　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第83集 萩清水遺跡 三本木新田B遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
立木(土橋)由理子ほか　1997b　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第84集 中ノ沢遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
立木(土橋)由理子ほか　1999　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第94集　西福田新田遺跡・郷清水遺跡・上中島遺跡・上滝ノ沢遺跡・中の原D遺跡・窪畑B遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
立木(土橋)由理子　2003　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第124集 関川谷内遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
立木(土橋)由理子　2004　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第131集 小野沢西遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
寺崎裕助　1988　「第Ⅳ章 原山遺跡 3節 遺構 B その他の遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第50集 原山遺跡・大塚遺跡』 新潟県教育委員会
寺崎裕助　1996　「第Ⅶ章 まとめ 1 土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第72集 清水上遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
寺崎裕助　2003a　「第２章 縄文時代 第２節17 山屋敷Ⅰ遺跡」『上越市史資料編２ 考古』 上越市史編さん委員会
寺崎裕助　2003b　「第２章 縄文時代　第２節18 出雲遺跡」『上越市史資料編２ 考古』 上越市史編さん委員会
寺崎裕助　2003c　「第２章 縄文時代 第２節22 黒田古墳群」『上越市史資料編２ 考古』 上越市史編さん委員会
田海義正　1987　「東カナクソ谷遺跡 土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第47 宮ノ平遺跡ほか９遺跡』 新潟県教育委員会
田海義正　1999　「第２章 縄文時代 第４節 生業 第２項 狩猟」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
中郷村教育委員会　1996　『籠峰遺跡発掘調査報告書Ⅰ 遺構編』 中郷村教育委員会
中郷村教育委員会　2000　『籠峰遺跡発掘調査報告書Ⅱ 遺物編』 中郷村教育委員会
中島英子　1998　「第２章 貫ノ木遺跡」『財団法人長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書35 貫ノ木遺跡・西岡A遺跡』 建設省関東地方建設局・財団法人長野県埋蔵文化財センター
中野純・立木宏明　2003　「第２章 縄文時代 第２節８ 善光寺浜遺跡」『上越市史資料編２ 考古』上越市
中村由克　2004a　『上山桑A遺跡発掘調査報告書』 長野県信濃町教育委員会

中村由克　2004b 『東裏遺跡東裏団地地点・町道柴山線地点発掘調査報告書』 長野県信濃町教育委員会
西川博孝ほか 1984 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－No.7遺跡』 千葉県文化財センター
野上建紀　2000 「肥前（佐賀県）の製品について 磁器の編年 1．碗・小杯・皿・紅皿・紅猪口」『九州陶磁の研究』 九州近世陶磁学会
芳賀英一　1975 「常世遺跡の早期縄文土器に就いて」『遮光器第９号』
橋本　淳　2005 「北関東における沈線文土器の様相」『第18回縄文セミナー 早期中葉の再検討』 縄文セミナーの会
秦　繁治・岡本郁栄 1986 『峯山Ｂ遺跡』 板倉町教育委員会
福島邦雄　1981 『新水－長野県北佐久郡望月町新水A.B遺跡緊急発掘調査報告書』 望月町文化財調査報告第７集　望月町教育委員会
本間信昭・室岡　博 1976 『兼俣遺跡 新潟県中頸城郡妙高高原町兼俣遺跡発掘調査報告』 妙高高原町教育委員会
前山精明　1994a 「豊原遺跡」『巻町史資料編１考古』 巻町
前山精明　1994b 「布目遺跡」『巻町史資料編１考古』 巻町
水澤幸一・笹澤正史 2001 「伝至徳寺跡の遺物様相～中世前半を中心として～」『上越市史研究第６号』 上越市史専門委員会
水澤幸一・鶴巻康志 2003 「第１章 中世 第２節 遺跡と遺物 9 至徳寺遺跡」『上越市史叢書８ 考古－中・近世資料－』 上越市史専門委員会考古部会
三ツ井朋子ほか 1997 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第85集 大洞原Ｃ遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
宮田進一　1997 「越中瀬戸」・「越中瀬戸の変遷と分布」『中世の北陸』 桂書房
盛　峰雄　2000 「肥前（佐賀県）の製品について 陶器の編年 1．碗・皿」『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会
室岡　博・早津賢二 1986 『中古遺跡』 妙高村教育委員会
室岡　博　1986 『兼俣遺跡（Ｄ地区）』 妙高村教育委員会
室岡　博　1994 『道添遺跡Ⅰ』 妙高村教育委員会
室岡　博　1995 『道添遺跡Ⅱ』 妙高村教育委員会
山崎忠良　1997 「大塚遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報平成８年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
山崎忠良　2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第134集 下割遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
山田　聡　1996 「大塚遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報平成７年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
山本信夫　2000 『太宰府市の文化財第49集 大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』 太宰府市教育委員会
吉岡康暢　1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
領塚正浩　1999 「常世式土器の再検討～常世Ⅰ式土器の成立過程と編年的位置をめぐって～」『長野県考古学会誌87・88号』 長野県考古学会
領塚正浩　2005 「東北・北海道地方における早期中葉の土器編年」『第18回縄文セミナー 早期中葉の再検討』 縄文セミナーの会

別表１　海道遺跡　遺構一覧表

種別	No.	グリッド	形　状	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	時期	出　土　遺　物
1995年度								
SE	50	2D24、3D4	円	1.05	1.05	1.95	不明	
SE	100	3D11	楕円	1.50	1.10	1.85	中世	珠洲、須恵器、土師器、鉄宰、礫
SE	130	3C22・23、4C2		2.50	1.95	1.65	中世	珠洲、須恵器、土師器
SK	240	3D7	円	1.0	0.95	0.50		？
SE	346	2E16	円	0.88	0.90	0.10	古代？	須恵器、土師器
SE	347	1E23、2E3		1.0	0.92	0.80	古代？	須恵器
SK	348	1E19・20		0.70	0.70	0.35		
SE	385	4D7・8・12・13	楕円	1.80	1.20	1.80	中世	須恵器、珠洲細片、青磁、柱状高台、手づくね皿、砥石、土師器
SE	420	3E23・24	不整円	1.50	1.30	1.30	中世	珠洲、中世土師器
SE	430	4D14・15	不整円	2.35	1.70	2.10	中世	珠洲、中世土師器、青磁、須恵器、土師器
SE	456	4D19・24	円		0.85	1.80	中世	珠洲、須恵器、土師器
SE	476	5C15・20、5D11・16	不整	1.20	1.15	2.13	中世	珠洲、須恵器、土師器
SE	490	5D1・6	不整	1.80		1.65	中世	珠洲、須恵器、土師器
SE	496	5D14・19	隅丸方形	1.20	1.15	1.40	中世	珠洲、須恵器、土師器
SE	550	5D13・14	不整円	1.20	1.15	2.00	中世	珠洲、須恵器、土師器
SE	560	3E22、4E2	不整円	1.0	0.95	1.55	中世	珠洲、中世土師器
SE	580	7C6・11	不整円	1.20	1.05	1.75	中世	珠洲、青磁
SE	590	7C17	不整円	0.90	0.90	2.0	？	土師器
SE	600	7D116	不整	1.15	1.0	1.20	？	土師器
SE	610	5E12・17	不整	1.05	1.0	1.85	近世	越中瀬戸、京焼風、須恵器、土師器
SE	620	4F18・23	不整円	1.0	1.0	0.95	？	
SE	630	4F23	不整円	1.50	1.40	0.95	中世	珠洲、土師器
SE	650	6D24・25	円	0.95	0.85	1.50	？	土師細片
SE	660	7D4・5	楕円	0.95	0.85	1.05	中世	珠洲
SE	670	5D20	隅丸方形	1.10	0.95	1.80	近世	越中瀬戸、須恵器、土師器
SE	900	6E13	楕円	1.05	0.80	1.70	近世	唐津、珠洲、須恵器、土師器
SE	1110	8D4・9	円	1.40	1.40	1.50		
SE	1120	8D14・19	不整円	1.15	0.85	1.75		
SE	1240	5F20	不整円	1.05	1.05	1.40		
SE	1241	5E6・11	不整円	1.20	1.0	1.65	？	
SE	1244	7D10・15	円	0.95	0.95	1.15		
SE	1245	7D25	円	0.90	0.85	1.15		
SE	1246	8E11・16	不整円	1.15	1.05	1.80		
SE	1247	6C11		1.15	0.85	1.36		
SE	1248	6C16		1.42	1.07	1.50		
SE	1249	7F6	不整円	0.70	0.70	0.80		
SE	1250	5F24・25	隅丸方形	0.75	0.65	0.50		
SE	1260	8D7・12	不整円	1.40	1.40	1.75		
SE	1364	8G17・22		0.95	0.90	1.07		
SE	1365	9G6		1.36	0.90	1.08		
SE	1385	7D25、8D5	不整	1.80	1.60	1.30		
SE	1386	7D13	円	1.40	1.40	1.65	古代？	須恵器、土師器
SE	1387	6D10、6E6		0.76	0.76	1.47	中世	珠洲、土師器
SE	1389	5E8	円	1.0	0.95	0.95＋		
SE	1390	5E13・14	円	1.0	0.95	1.35		
SE	1391	8D23	不整	0.80	0.73	1.15		
SE	1500	10D13・18	不整	1.40	1.05	2.45	近世	近世皿、唐津
SE	1501	10D9・10	円	0.90	0.85	1.35		
SE	1502	10D9・14	円	0.80	0.80	1.25		
SE	1503	10D8	円	0.90	0.90	0.70		
SE	1504	10D5・10	円	1.50	1.50	1.0		
SK	350	3D7		0.75	0.60	0.55		
SK	401	3F16	円	1.05	1.05	0.20	？	
SK	403	1E25、1F21	隅丸方形	1.0	0.95	0.23	？	
SK	475	5B9・10	楕円	1.30	1.0	0.15	？	土師器
SK	500	5F2・3・7・8		3.45	3.20	0.28	近世	瓦、京風
SK	510	4C23・24	隅丸方形	1.25	1.0	0.20	？	
SK	570	3E11	不整	1.45	1.10	0.50	古代？	須恵器、土師器
SK	690						近世	珠洲、中世土師器、近世陶磁器
SK	1000	8F23・24、9F3・4		2.35	2.30	1.04	中世	珠洲、須恵器、中世土師器
SK	1130	6E23、7E3	不整	1.15	0.95	0.85	？	
SK	1140	4G21、5G1		約2.9		0.33		
SK	1150	5F20・25	不整	2.70	2.50		中世	珠洲、土師器、須恵器
SK	1180	6E7・8・12・13		0.85	0.80	0.66		

種別	No.	グリッド	形　状	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	時期	出　土　遺　物
SK	1243	7D5・10	不整円	1.0	0.83	0.73	？	
SK	1261	8D7・12	不整	0.90		1.10	？	
SK	1313	8F17	円	1.20	1.20	0.50	中世	珠洲
SK	1316	5F					近世	越中瀬戸、唐津
SK	1332	6E5	不整円	1.20	1.20	0.10		
SK	1384	6D1・2・6・7		2.02	1.64	0.26	中世	珠洲、土師器、須恵器
SK	1388	7G16・21	不整	1.10	0.65	0.4以上		
SK	1392	8G1・2・6・7	不整	1.90	1.70	0.35	近世	
SK	1393	9D3	不整	1.55		0.55		
SK	1509	11F15・12		1.30	1.25	0.59	近世？	土師器、瓦？
SK	1510	11G6		1.40	1.04	1.05		
SK	1511	12F5	円	0.75	0.65	0.45		
SK	1512	12F7		0.98	0.85	0.62		
SE	1514	11E9	円	0.75	0.70	1.05		
SK	1515	11E1・6		0.60	0.60	0.55		
SK	1557	11F21					古代？	土師器
SK	1606	11G7		1.75	1.30	1.06		
SK	1607	11F18		1.05	0.83	0.38	中世	珠洲
SX	26	2D8		1.50	0.50	0.31	古代？	土師器
SE	487	4F1	円	1.0	1.0	0.80		
SX	520	5C3・4		1.90	1.05	0.38		
SK	1505	11E7・12	円	1.20	1.20	0.35	？	土師器
SX	1506	11E2・7	不整	1.10	0.95	0.15		
SX	1507	11F24	不整	1.10	0.90	0.30	近世	越中瀬戸
SK	1508	11E11		1.63	1.51	0.94	中世	珠洲、土師器
SD	345	1E24		約2.0	0.50	0.10		
SD	349			6.45	0.40		古代？	土師器
SD	370	4C22		約16.0	0.60	0.30	古代？	土師器細片
SD	479	4E5		約3.05	0.60	0.30	？	？
SD	480	4F2・7		約5.55	0.80	0.28	近世	近世陶磁器
SD	640	6D6・10		約3.0	0.90	0.17	古代？	土師器
SD	700	6B6～9・1～14		14.40	3.30		近世	須恵器、土師器、珠洲、越中瀬戸、唐津
SD	1315	5F12・13		約4.9	1.95	0.32		
P	15	2D16	方形	0.40	0.38	0.31		土師器
P	16	2D12	楕円	0.36	0.26	0.28		土師器
P	17	2D17	楕円	0.58	0.30	0.28		土師器
P	18	2D17	方形	0.28	0.27	0.22		土師器、須恵器
P	20	8D7	円	0.25	0.25	0.21		土師器
P	28	2D21	楕円	0.34	0.27	0.29		土師器
P	31	2D22	円	0.30	0.30	0.45		土師器
P	33	2D23	円	0.37	0.33	0.33		土師器
P	35	2D13	円	0.46	0.41	0.23		土師器
P	37	2D18	楕円	0.40	0.30	0.30		土師器
P	40	2D19	円	〔0.4〕	0.35	0.15		土師器、礫
P	44	2D19	円	0.39	0.36	0.35		土師器
P	49	3C5	円	0.31	0.29			土師器
P	53	3C5	円	0.32	0.28	0.39		土師器
P	57	3C9	楕円	0.52	0.39	0.55		土師器
P	59	3D12	方形	0.48	0.36	0.41		土師器
P	63	3D2	方形	0.56	0.46	0.54		土師器
P	68	3C10	楕円	0.34	0.21	0.47		土師器
P	69	3C10	円	0.47	0.45	0.62		土師器
P	71	3D2	楕円	0.27	0.22	0.47		土師器
P	72	3C13	長方形	0.61	0.36	0.48		土師器
P	73	3C14	楕円	0.83	0.65	0.53		土師器、須恵器
P	74	3C13	円	0.40	0.34	0.45		土師器
P	75	3C19	円	0.39	0.36	0.26		土師器
P	76	3C14・19	楕円	0.51	0.40	0.52		須恵器
P	79	3C10	楕円	0.38	0.29	0.39		須恵器口縁
P	83	3D8	円	0.39	0.33	0.41		土師器
P	86	3D8・9	楕円	0.38	0.31	0.33		糸切り土師皿
P	88	3D9・10	楕円	0.41	0.32	0.06		糸切り土師皿
P	91	3D4	楕円	0.44	0.28	0.46		土師器
P	93	23D23	円	0.30	0.26	0.23		土師器
P	99	3D12	長方形	0.74	0.50	0.44		糸切り土師皿、珠洲壺
P	101	3D13	円	0.37	0.34	0.39		土師器

種別	No.	グリッド	形　状	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	時　期	出　土　遺　物
P	102	3D14	楕円	0.78	0.64	0.40		土師器
P	103	3D19	楕円	0.71	0.54	0.38		土師器
P	104	3D18	円	0.37	0.33	0.30		土師器
P	109	4D4	円	0.40	0.33	0.21		土師器
P	110	4D4	円	0.38	0.30	0.27		土師器
P	112	4D4	円	0.24	0.23	0.22		近世陶磁器
P	119	3D22	円	0.41	0.35	0.58		土師器
P	121	3C14	方形	0.50	0.44	0.59		土師器
P	124	3C17	楕円	0.37	0.30			土師器、糸切り椀
P	125	3C17	方形	0.32	0.27			土師器
P	126	3C17	方形	0.43	0.36	0.38		土師器
P	129	3C19	円形	0.35	0.28	0.43		土師器
P	131	3C19	方形	0.51	0.43	0.66		土師器、須恵器
P	154	4C12	楕円	0.36	0.32	0.24		土師器
P	156	4C12	楕円	0.43	0.40	0.52		土師器
P	161	4C13	楕円	0.35	0.28	0.24		土師器
P	162	4C13	楕円	〔0.14〕	〔0.1〕			土師器
P	167	4C15	円	0.40	0.39	0.35		土師器
P	169	4D16・21	楕円	0.42	0.32	0.31		土師器
P	188	4D18	方形	0.42	0.36	0.28		土師器
P	198	4D14	円	0.27	0.25	0.21		土師器
P	199	4D8・9	円	0.53	0.53	0.41		土師器
P	200	4D7	楕円	0.41	0.34	0.41		土師器（中世）
P	206	4D19	円	0.28	0.24	0.25		土師器
P	210	4D23	楕円	〔0.44〕	0.39	0.24		土師器
P	211	3D2	楕円	0.43	〔0.35〕	0.31		中世瀬戸？
P	212	3D2	円	0.27	〔0.25〕	0.24		土師器
P	213	3D3	円	〔0.57〕	0.50	0.53		土師器
P	214	3D3	楕円	〔0.46〕	0.30	0.51		土師器
P	216	3C15	円	0.48	0.41	0.53		土師器
P	217	3D21	方形	0.43	0.37	0.51		土師器
P	219	2D19	円	0.43	0.36	0.35		土師器
P	222	3C18	楕円	0.34	〔0.25〕			土師器
P	225	3C22	楕円	0.25	0.20	0.72		
P	229	3D12						土師器、須恵器
P	230	3D10	長方形	0.40	0.29	0.34		土師器
P	238	4D3	楕円	0.30	0.26	0.34		土師器
P	249	1E18・19	円	0.34	0.33	0.58		砥石
P	292	2E10	円	0.35	0.34	0.25		
P	312	3E1・2	円	0.28	0.25	0.31		土師器
P	324	2E5	長方形	0.28	0.18	0.18		土師器
P	341	3C15	楕円	0.23	0.19	0.26		青磁
P	351	1F16	円	0.56	0.51	0.59		
P	355	2F1	楕円	0.64	0.51	0.34		須恵器
P	379	4E1	円	0.25	0.24	0.18		土師器
P	392	2F1	円	0.23	0.21	0.13		須恵器
P	393	2F1	円	0.42	0.36	0.30		土師器
P	411	3C20	楕円	0.38	0.31	0.34		土師器
P	445	4F2	円	0.38	0.37	0.52		
P	462	4E7	方形	0.37	0.36	0.18		珠洲
P	484	3E3	円	0.67	0.59	0.70		
P	497	4E11	円	0.30	0.30	0.29		土師器
P	538	5D2	円	0.24	0.22	0.07		土師器
P	540	5C12・13	円	0.84	0.74	0.90		
P	540	5C12・13	円	0.85	0.75	0.89		土師器
P	567	5B8	円	〔0.22〕	〔0.19〕			土師器
P	568	5C8	楕円	0.36	0.29	0.16		土師器
P	576	5B14	円	0.21	0.18	0.17		土師器
P	585	5B14	楕円	0.40	0.26	0.21		土師器
P	587	5B14・19	楕円	0.37	0.35	0.12		土師器
P	589	5B15	不整形	0.46	0.45	0.20		土師器
P	596	5C16	円	0.27	0.26	0.28		土師器
P	601	5B19	円	0.27	0.23	0.25		土師器
P	604	5B25	楕円	0.24	0.18	0.09		土師器
P	607	5B5	長方形	0.59	0.42	0.25		土師器
P	611	5C18・23	楕円	0.29	0.22	0.11		土師器

種別	No.	グリッド	形　状	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	時期	出　土　遺　物
P	614	5C23	円	0.25	0.23	0.16		土師器
P	623	5D7	円	〔0.24〕	〔0.21〕			土師器
P	625	5D12	円	0.36	0.35	0.30		土師器
P	628	5D18	円	0.44	0.38	0.16		須恵器
P	631	5D18	方形	0.52	0.50	0.44		土師器
P	637	5D13	楕円	0.44	0.35	0.43		土師器
P	639	5D17	円	〔0.22〕	〔0.21〕			土師器
P	641	5B25	方形	0.54	0.47	0.16		土師器
P	653	6C1	円	0.27	0.24	0.37		須恵器、礫
P	664	5D17	楕円	0.36	0.29	0.24		土師器
P	679	6C13	楕円	0.32	0.25	0.15		土師器
P	681	6C18	楕円	0.28	0.21	0.14		土師器
P	686	6C14	楕円	〔0.24〕	〔0.2〕			土師器
P	691	5C24	楕円	0.34	0.24	0.28		土師器
P	697	6D7・12	円	0.23	〔0.2〕	0.13		土師器
P	698	6D7	楕円	0.48	〔0.37〕	0.17		土師器
P	764	7D22	楕円	0.30	0.24	0.23		土師器
P	782	7D1	方形	0.49	0.39	0.28		土師器
P	802	7D14	方形	0.39	0.36	0.22		土師器
P	803	7D13・14	円	0.62	0.53	1.68		
P	807	7D19	円	0.30	0.28	0.14		土師器
P	820	5E12	方形	〔0.42〕	〔0.34〕			土師器
P	828	5E22	楕円	0.80	0.67			土師器、珠洲、青磁
P	832	5E13・14・18・19	円	0.61	0.56	0.50		
P	833	5E18	楕円	1.00	0.74	0.75		須恵器
P	834	5E23	円	0.73	0.69	0.48		土師器、珠洲
P	838	5E4	楕円	0.30	0.19	0.11		土師器
P	845	5E24・25	方形	0.49	0.43	0.50		
P	855	5E15	楕円	0.22	〔0.18〕	0.13		土師器
P	860	5E25						珠洲
P	900	6E13	楕円	1.05	0.84	1.35		土師器、須恵器
P	909	6E23	楕円	0.34	0.25	0.27		土師器
P	930	6F23・24	楕円	1.08	0.90	0.36		土師器、越中瀬戸、礫、瓦
P	946	7E12	楕円	0.86	0.66	0.41		土師器、唐津擂り鉢
P	977	7F1	円	〔0.37〕	0.34	0.42		須恵器、瓦
P	979	7F6	楕円	0.42	0.33	0.13		瓦
P	986	7F7・12	長方形	0.56	0.45			
P	1001	7E25、7F21	円	0.41	0.35	0.17		須恵器
P	1023	8D16	楕円	0.59	0.25	0.27		土師器
P	1030	8D22	楕円	〔0.49〕	0.35	0.35		礫
P	1031	8D22	楕円	0.48	0.35	0.26		礫
P	1042	8D18	楕円	0.37	0.31	0.37		礫
P	1051	8D23	不整形	0.96	0.35	0.38		須恵器
P	1076	9D4	楕円	0.39	0.29	0.34		土師器
P	1085	8D10	円	0.31	0.27	0.22		
P	1093	8D20	楕円	0.50	0.24	0.32		土師器
P	1098	8D20	楕円	0.52	0.40	0.47		須恵器
P	1130	6E23、7E3	円	1.16	0.98	0.85		珠洲擂り鉢、須恵器
P	1136	8E7	楕円	0.33	0.26	0.28		土師器
P	1158	8E8・9	円	0.72	0.66	0.90		
P	1162	8E13	方形	0.56	0.53	0.37		須恵器
P	1171	8E23	円	0.24	0.23	0.17		中世土師器
P	1176	8E4	円	0.51	0.43	0.44		
P	1186	8E5	円	0.43	0.37	0.38		土師器、須恵器
P	1187	8E5・10	円	0.48	0.43	0.55		土師器、中世土師皿、珠洲、須恵器
P	1188	8E15	楕円	0.50	0.42	0.19		土師器、須恵器
P	1192	8E25	楕円	0.50	0.43	0.59		現代茶碗
P	1193	8E25	不整形	0.42	0.32	0.35		現代茶碗
P	1194	9E5	楕円	0.20	0.16	0.18		土師器
P	1197	9E10	円	0.38	0.33	0.17		土師器
P	1203	8F1	楕円	0.48	0.35	0.10		須恵器
P	1207	8F16	楕円	0.30	0.23	0.24		土師器
P	1211	8F16	円	0.25	0.22	0.28		土師器、須恵器
P	1233	8F8	円	0.26	0.22	0.25		土師器
P	1235	8F13	方形	0.29	0.25	0.04		京焼
P	1515	11E1・6	円	0.62	0.58	0.57		中世土師器？　底部穿孔

種別	No.	グリッド	形　状	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	時期	出　土　遺　物
P	1576	11F24	円	0.22	0.20	0.15		唐津播り鉢
P	1589	11G11	楕円	〔0.17〕	〔0.14〕			土師器
P	1605	11F6・7・11・12	楕円	0.67	0.31	0.06		土師器
P	1606	11G7・12	不整	1.75	1.33	0.87		珠洲播り鉢、須恵器
P	1273	9F16	円	0.31	〔0.28〕	0.36		
P	1274	9F16	円	〔0.33〕	0.31	0.37		
P	192	4D19	楕円	0.58	〔0.39〕	0.59		
P	193	4D19	楕円	0.44	〔0.34〕	0.30		
P	203	4D19	不整	0.27	〔0.26〕	0.19		
P	204	4D19	楕円	0.31	〔0.22〕	0.43		
P	551		円	0.45	〔0.37〕	0.54		
P	553		円	0.50	0.44	0.18		
1996年度Ⅵ層								
SE	1711	4あ4・9	円	0.70	0.70	2.55	古代	土師器、須恵器
SE	1712	4あ20	楕円	1.00	0.70	2.70	中世	珠洲、須恵器、土師器
SK	1715	4あ9	不整	0.90	0.85	0.22	古代	須恵器、土師器
SE	1717	4A1	円	0.95	0.95	3.56	古代	須恵器、土師器
SE	1718	4A16・21	円	1.50	1.40	3.40	中世	珠洲、中世土師器、須恵器、土師器
SE	1719	4A16	円	1.05	0.85	2.05	中世	珠洲、須恵器、土師器
SE	1720	4A21	円	1.00	1.00	1.30	古代	土師器、須恵器
SE	1728	5あ5	不整	1.00	0.90	2.30	中世	土師器、珠洲
SE	1731	5A4・5・9・10	円	1.00	0.90	1.85	?	
SE	1732	5A1	円	1.25	1.25	1.75	古代	須恵器、土師器
SK	1703	3A9・15	不整	1.00	0.80	0.10	近世?	土師器、近世陶器
SK	1704	3A8	不整	0.80	0.60	0.27	?	
SK	1705	3A12	円	0.50	0.50	1.28	古代	土師器、須恵器
SK	1706A	3A19	不整	1.05	0.75	0.10	?	
SK	1706B			0.73	0.68		?	
SK	1707	3A24	円	1.05	1.00	0.30	古代	須恵器
SK	1708	3A7	楕円			0.15	古代	土師器、須恵器
SK	1709	3A11	不整	1.10	0.85	0.22	古代	土師器、須恵器
SE	1713	4あ25	円	1.15	1.15	2.2＋	古代	土師器、須恵器
SK	1714	4あ9	楕円	1.15	0.95	0.90	古代	土師器、須恵器
SK	1722	4A18	円	0.65	0.60	0.30	?	
SK	1723	4A15	円	0.80	0.70	0.33	古代	土師器
SK	1724	4A12	隅円方形	1.25	0.75	0.50	古代	土師器
SK	1725	4A17	不整	1.40	1.00	0.75	古代	土師器
SK	1729A	5あ5・10	不整	1.70	1.20	0.50	?	
SK	1729B	5あ5・10	不整	1.20	0.85	0.75	?	
SK	1730	5あ10	不整	1.20	0.80	1.00	古代	土師器、須恵器
SK	1733A	5A12	楕円	0.80	0.55	0.30	古代	土師器、須恵器
SK	1733B	5A12	円	0.60	0.60	0.80	古代	土師器
SK	1734	5A8	円	1.30	1.30	0.45	古代	土師器
SK	1735	5A6	不整	0.75	0.35	0.14	古代	土師器
SK	1736A	5A6・7・12	不整	0.85	0.65	0.60	古代	土師器、須恵器
SK	1736B	5A6・7・12		0.65	0.45	1.10	?	?
SK	1737	5A6・7・12		0.55	0.40	0.10	古代	土師器
SK	1738	5A8	円	0.95	0.85	0.70	?	?
SK	1739	5A1	円	0.55	0.50	0.20	古代	土師器、須恵器
SK	1740A	5A1		0.53	0.52	0.37	古代	土師器、須恵器
SK	1740B	5A1		1.48	0.97	0.75	古代	土師器
SK	1741	5A4・5		0.57	0.56	0.70	?	?
SK	1742	5A2		0.96	0.70		古代	土師器、須恵器
SX	1701	2A21	方形	1.40	1.10	0.35	古代	土師器
SX	1702	3あ3	不整	1.25	1.15	0.25	古代	土師器、須恵器
SX	1710	3A13	不整	1.50	1.00	0.21	古代	土師器、須恵器
SX	1716	4あ15					古代	須恵器、土師器
SX	1726	4A4	不整	1.00	0.90	0.10	?	須恵器
SX	1727	4A16	楕円	1.05	0.85	0.35	古代	土師器
SD	1743A	3A8・9・14		4.50	0.30	0.08	古代	土師器、須恵器
SD	1743B	3A8・9・14		2.05	0.26		古代	土師器
SD	1744	3A21～4A20		1.54	0.20	0.06	古代	土師器、須恵器
SD	1745	3あ・A		2.15	2.30	0.16	古代	土師器
SD	1746	3あ・A		0.85	0.40	0.17	古代	土師器
SD	1747	3あ・A		0.35	0.25	0.19	古代	土師器
SD	1748A	3・4・5A		15.80	1.40	0.09	中世	土師器、珠洲

種別	No.	グリッド	形　状	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	時期	出　土　遺　物
SD	1748B	3・4・5A		1.80	1.20	0.14	古代	土師器
SD	1749A	2・3A		2.86	0.65	0.10	?	
SD	1749B	2・3A		1.30	0.50		?	
SD	1750	4A11・12		2.78	0.28	0.07	古代	土師器、須恵器
SD	1751	5A・あ		9.30	0.72	0.26	古代	土師器、須恵器
SD	1752	5・6あ・A		9.00	2.90	0.23	近世	土師器、須恵器、近世磁器
SD	1753	5A13・14・17・18・22		10.05	0.35	0.37	古代	土師器、須恵器
P	19a	4A23	円	0.53	0.53	0.54		土師器鍋、土師器椀、土師器釜、中世土師器、他破片
P	19b	4A23	楕円	0.40	0.30	0.50		土師器鍋、土師器椀、土師器釜、中世土師器、他破片
P	26	4A23	楕円	0.65	0.50	0.43		土師器鍋、土師器椀、土師器釜、中世土師器、他破片
P	34	4A23	楕円	0.36	0.19	0.59		土師器鍋、土師器椀、土師器釜、中世土師器、他破片
P	35	4A23	楕円	0.42	0.32	0.29		土師器鍋、土師器椀、土師器釜、中世土師器、他破片
P	4	5A3	楕円	0.64	0.47	0.57		土師器小釜、中世土師器、釜底部、椀、鉢底部
P	16	4A19	円	0.40	0.35	0.35		土師器椀
P	13	3A9	楕円	0.17	0.21	0.18		土師皿（中世）、中世土師器
P	7	3A8	不整	0.75	0.50	0.68		土師器椀
P	506(38)	4A13	楕円	0.51	0.34	0.23		須恵器壺底部、
P	62	4A7	円	0.44	0.43	0.66		灰釉壺底部
1996年度Ⅶ層								
SK	1820	4A19		1.40	1.20	0.22	古代	土師器
SK	1821	4A5		0.97		0.38	古代	土師器
SK	1822	4A22		0.93	0.64	0.73	古代	土師器
SX	1817	3あ24・25・19				0.04	?	
SX	1818			2.37	1.06	0.11	?	土師器
SX	1819	3A24				0.14	古代	土師器
SD	1801A	3A8～13				0.05	?	
SD	1801B	3A8～13				0.05	?	
SD	1802A	3A7～13				0.06	?	
SD	1802B	3A7～13				0.12	?	
SD	1803	3A					?	
SD	1804	3A					古代	土師器
SD	1805A	3あ～3A				0.04	?	
SD	1805B	3A					?	
SD	1806	3あ～3A				0.28	古代	土師器
SD	1807	3A				0.08	古代	土師器
SD	1808	3A				0.08	古代	土師器
SD	1809	3A～4B					?	
SD	1810A	3A				0.07	?	
SD	1810B	3A					?	
SD	1810C	4B					?	
SD	1811	3あ～3A				0.16	古代	土師器
SD	1812A	3A				0.05	古代	土師器
SD	1812B	4A				0.10	?	
SD	1813	4B				0.07	古代	土師器
SD	1814A	3あ					古代	土師器、須恵器
SD	1814B	4B				0.09	?	
SD	1815	3あ				0.07	古代	土師器
SD	1816A	3あ				0.09	古代	土師器、須恵器
SD	1816B	3あ						
SD	1823	5A11～14				0.16	?	
SD	1824						?	
P	62	4A7	円	0.50	〔0.43〕	0.68	古代	土師器
P	38	4A13	長方	0.74	0.44	0.21	古代	土師器
P	72a	4A16	楕円	0.36	0.26	0.45	古代	土師器
P	72b	4A16	円	0.35	0.32	0.34	古代	土師器
P	17	4A23	円	0.61	0.52	0.44	古代	土師器
P	39	4A13	楕円	0.52	〔0.32〕	0.47	古代	土師器
P	11	4A24・25	円	0.52	0.47	0.41	古代	土師器
P	41	4A2	円	0.24	0.22	0.16	古代	土師器
P	40	4A2	円	〔0.35〕	0.27	0.37	古代	土師器
P	30	4A14	円	0.23	0.18	0.07	古代	土師器
P	69	4A16	楕円	0.27	0.21	0.49	古代	土師器
P	33	4A8	楕円	0.68	0.58	0.27	古代	土師器
P	54	4A6	円	0.33	0.29	0.38	古代	土師器
P	20	4A18・19	円	0.33	0.24	0.19	古代	土師器
P	9	5A11	楕円	0.33	0.24	0.39	古代	土師器

種別	No.	グリッド	形　状	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	時期	出　土　遺　物
P	3	5A4	楕円	0.56	0.52	0.89	古代	土師器
P	13	4・9	楕円	0.36	0.27	0.35	古代	土師器
P	7	5A16	円	0.30	0.30	0.87	古代	土師器
P	10	5A14	楕円	0.62	0.50	0.35	古代	土師器
P	19	5A6・7	楕円	0.38	〔0.25〕	0.37	古代	土師器
5AP	4	4A23	楕円	0.64	0.46	0.65	古代	土師器
P	1	5A3、4A23	円	0.42	0.39	0.31	古代	土師器
P	6	5A13	円	0.58	0.57	0.66	古代	土師器
P	53	4A6	楕円	0.48	0.22	0.52	古代	土師器
P	8	5A12	方形	0.37	0.34	0.19	古代	土師器
P	26	5A1	長方	1.12	0.67	0.86	古代	土師器
P	22	5A8	円	0.50	0.42	0.42	古代	土師器
P	27a	5A1	円	0.32	0.31	0.08	古代	土師器
P	27b	5A1	円	0.25	0.22	0.09	古代	土師器
P	27c	5A2	円	0.27	0.24	0.28	古代	土師器
P	15	5A7	円	0.42	0.37	0.17	古代	土師器
P	5	5A14・19	円	0.57	0.56	0.64	古代	土師器
P	29	5A22	楕円	〔1.01〕	0.69	0.25	古代	土師器
P	18	3A9・10	不整	0.44	0.25	0.08	古代	土師器
P	25	5A19	不整	0.54	0.47	0.48	古代	土師器
P	24	4A22	円	0.18	0.16	0.20	古代	土師器
P	6	4あ15・20	不整	0.60	0.42	0.55	古代	土師器
P	13	4あ10	円	0.19	0.16	0.24	古代	土師器
P	5	4A16・19	楕円	0.43	〔0.32〕	0.23	古代	土師器
P	61	4A21	楕円	0.54	0.42	0.73	古代	土師器
P	26	4A23	楕円	〔0.65〕	0.50	0.40	古代	土師器
P	34	4A23	円	0.53	〔0.53〕	0.29	古代	土師器
P	18	4A24	方形	0.34	0.33	0.46	古代	土師器
P	29	4A2・3	円	0.54	0.49	0.14	古代	土師器
P	13	4A3	円	0.25	0.24	0.37	古代	土師器
P	56	4A2	円	0.31	〔0.26〕	0.14	古代	土師器
P	67	4A12・13	円	0.28	0.23	0.37	古代	土師器
P	2	4A11	楕円	0.43	0.34	0.83	古代	土師器
P	12	4A17	楕円	0.33	0.24	0.39	古代	土師器
P	4	4A16	円	0.30	0.29	0.32	古代	土師器
P	23	4A9・11	円	0.71	0.66	0.48	古代	土師器
P	79	4A21	円	0.27	0.23	0.34	古代	土師器
P	22	4A13・14・18・19	楕円	0.41	0.30	0.35	古代	土師器
P	19a	4A23	円	〔0.53〕	〔0.53〕	0.58	古代	土師器
P	19b	4A24	楕円	〔0.41〕	〔0.28〕	0.5	古代	土師器
P	25	4A6	不整	1.15	0.44	0.51	古代	土師器
P	45	4A13	円	0.40	〔0.38〕	0.26	古代	土師器
P	59	4A11	楕円	0.51	0.31	0.22	古代	土師器
P	70a	4A16	円	0.30	0.25	0.48	古代	土師器
P	70b	4A16	円	0.08	0.07	0.39	古代	土師器
P	9	4A3	不整	0.41	0.35	0.37	古代	土師器
P	3a	4A6	円	0.43	〔0.37〕	0.12	古代	土師器
P	3b	4A6	円	0.29	〔0.26〕	0.22	古代	土師器
P	1	4A6	楕円	0.54	0.33	0.50	古代	土師器
P	77	4A21	楕円	0.33	0.24	0.39	古代	土師器
P	6	4A8	楕円	0.39	0.32	0.13	古代	土師器
P	16	4A19	円	0.40	0.37	0.35	古代	土師器
P	1	2A23	楕円	0.40	0.33	0.27	古代	土師器
P	14	3A2・7	楕円	0.62	0.44	0.26	古代	土師器
P	11	3A7	円	0.57	0.51	0.14	古代	土師器
P	6	3A18	長方	0.72	0.57	1.21	古代	土師器
P	19	3A18・19	楕円	0.54	0.44	0.88	古代	土師器
P	10	3A6	楕円	0.55	0.45	0.95	古代	土師器
P	12	3A21	楕円	0.60	0.51	0.72	古代	土師器
P	9	3A6	楕円	0.56	0.43	0.48	古代	土師器
P	3	3A3・8	楕円	0.42	〔0.3〕	0.10	古代	土師器
P	7	3A13・8	楕円	0.75	0.52	0.65	古代	土師器
P	1	3A3	楕円	0.55	0.36	0.35	古代	土師器
P	16	3A9	円	0.37	0.32		古代	土師器
P	3AP15A	3A20	円	0.32	0.28	0.10	古代	土師器
P	15b	3A2	円	0.31	0.27	0.29	古代	土師器

別表２　海道遺跡　掲載遺物観察表（土器・土製品）

1．回転方向　順：時計回り、逆：逆時計回り　2．底部調整　糸切り：回転糸切り

報告No.	遺構	グリッド	層位	種類	器種	分類	高さ/口径	残存率/16	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	最大径（cm）	回転方向	底部調整	体部調整	備考
1	SE100	3D11、4E24	Ⅰ・Ⅲ 1－12	須恵器	甕	1			11.2				?		内外タタキ	
2	SE1732 P24	4あ5・10、3A4 4A6、5A2・6、6C4	Ⅰ～Ⅲ Ⅴ	須恵器	長頸壺	Ⅰ				8		18		?	ヨコナデ	内面剥落
3	SE1732	3あ15、3A12・16	Ⅵ	須恵器	長頸壺	Ⅱb									ヨコナデ	
4	SE1732	3あ（9）、3A5、 4A13	Ⅲ・Ⅵ 1～6	須恵器	長頸壺	Ⅱb								?	ヨコナデ	
5	SE1732 P12	3A21、3C9、 4A11・12	Ⅰ～Ⅲ	須恵器	長頸壺	Ⅱb						17			ヨコナデ	
6	SE1732 SX1818	3あ10、3A6・11・12、 4あ3・15、4A1・2・12	Ⅲ・Ⅴ Ⅵ上	須恵器	長頸壺	Ⅳ						〔28.7〕			タタキ	肩イッタイ
7	SE1732	3あ23、4A15	Ⅲ～Ⅵ	須恵器	甕										ヨコナデ	
8	SE1732		Ⅵ	土師器	椀	Ⅰa	0.28		12.6	5.2	3.5		?	糸切り	ヨコナデ	
9	SE1732		Ⅵ	土師器	椀	Ⅰa	0.28		12	6	3.4		順	糸切り	ヨコナデ	墨書
10	SE1732		Ⅵ	土師器	椀	Ⅰa	0.29		12.6	6	3.6		?	糸切り	ヨコナデ	
11	SE1732		Ⅵ	土師器	椀	Ⅰb	0.35		11.4	6.2	4		順	糸切り	ヨコナデ	
12	SE1720 SE1732		Ⅵ	土師器	長釜	Ⅰa									ヨコナデ	
13	SK1705	3A7・12、4あ15	Ⅲ・Ⅴ	須恵器	甕	1			25.6						ヨコナデ	口縁のみ
14	SK1707 SD1752 P14	3A4・12～15・ 18・19・24 4A4		須恵器	長頸壺	Ⅲ									ヨコナデ	内環把手１・自然釉
15	SK1714		Ⅵ	須恵器	杯	Ⅰ				9			順	ヘラ切り		
16	SK1714 SK1715	4あ1・4	Ⅵ・Ⅵ 上	須恵器	有台杯	Ⅰ			12	7.4	3.7		順		糸切り	
17	SK1715 SD1752		Ⅵ	須恵器	有台杯	Ⅰ			11	7	3.9		?		糸切り	
18	SK1715		Ⅵ	須恵器	有台杯	Ⅰ			12	9	3.5			?	ヨコナデ	
19	SK1715 SK1714 P1	4あ10	Ⅵ	須恵器	有台杯	Ⅰ			11	7.4	3.7			糸切り？	ヨコナデ	
20	SK1715	4あ5・10・15	Ⅲ・Ⅵ Ⅵ上	須恵器	有台杯	Ⅰ			12	9	3.8		順	糸切り	ヨコナデ	
21	SK1715 SK1732 P20	4あ（9）	Ⅵ	須恵器	長頸壺	Ⅱb									ヨコナデ	
22	SK1714	4あ14、4A12	Ⅲ	須恵器	長頸壺	Ⅱb									ヨコナデ	頸部有段
23	SK1714 SK1715	3あ14・15、4あ（9） 3A19・23～25、4A4	Ⅲ・ Ⅴ・Ⅵ	須恵器	長頸壺	Ⅱb						22.2			ヨコナデ	
24	SK1713 SK1714 SK1715 SK1719 P4・5	4あ3・5、4A7・11 5A3	Ⅲ・Ⅵ	須恵器	長頸壺	Ⅲ				7.8		14			ヨコナデ	
25	SK1715	4あ（9）	Ⅵ	須恵器	長頸壺	Ⅳ			28	18					タタキ	内面スス・酸化焼・平底
26	SK1715 SX1714	4あ15	Ⅵ上	須恵器	長頸壺	Ⅳ				8.8				?	ヨコナデ	底部・高台なし・底部ケズリ
27	SK1715	4あ（9）	Ⅵ	須恵器	甕	1			25						ヨコナデ	
28	SK1714 SK1715 SD1811	2A22 3A12	Ⅵ	須恵器	甕				12						ヨコナデ	
29	SK1714			土師器	椀	Ⅰb	0.37		11.1	6.1	4.1			糸切り	ヨコナデ	
30	SK1714			土師器	椀	Ⅱa	0.38		16.4	6.8	6.2				ヨコナデ	内黒
31	SK1714			土師器	有台椀	Ⅰ			15.8						ヨコナデ	内黒暗文
32	SK1715	4あ3・5・10・15 4A6	Ⅲ・Ⅵ Ⅵ上	須恵器	甕	1									タタキ	
33	SK1715	3あ25、4あ3（9） 4A24	Ⅳ・Ⅴ 表土	須恵器	甕	1									タタキ	
34	SK1715 SK1732	3A14、4あ（9）、4C14 4D1、5・6B・D	Ⅰ～Ⅲ Ⅵ・Ⅶ	須恵器	甕	1									タタキ	
35	SK1715 SK1732	2C19、4あ4（9）・ 10・15・20、 4A11・14、5A2	Ⅰ～Ⅲ Ⅵ・Ⅶ 1～6	須恵器	甕	1			62						タタキ	
36	SK1730			須恵器	長頸壺	Ⅱa						10			ヨコナデ	
37	SK1725			土師器	長釜	Ⅰa							?	?	ヨコナデ	
38	SK1734	4D23、4E21	Ⅰ・Ⅲ	須恵器	長頸壺	Ⅱb									ヨコナデ	
39	SK1740		Ⅵ	土師器	椀	Ⅰa	0.31		11.2	6	3.5		?	糸切り	ヨコナデ	
40	SK1740		Ⅵ	土師器	椀	Ⅰa	0.27		13	6	3.5		?	糸切り	ヨコナデ	
41	SK1742	5A2	Ⅵ	土師器	椀	Ⅰa	0.28		12.7	5.2	3.6			糸切り	ヨコナデ	
42	SK1742	5A2	Ⅵ	土師器	椀	Ⅰa	0.27		11.4	5.5	3.1			糸切り	ヨコナデ	
43	SK1742	5A2	Ⅵ	土師器	椀	Ⅰa				5.1			順？	糸切り	ヨコナデ	
44	SK1742	5A2	Ⅵ	土師器	椀	Ⅰa				6			順？	糸切り	ヨコナデ	
45	SK1820		1	土師器	椀	Ⅰa	0.30		12.1	6.9	3.6		?	糸切り	ヨコナデ	赤彩？
46	SK1820		1	土師器	椀	Ⅰa	0.33		12.9	6.6	4.3			糸切り	ヨコナデ	
47	SK1820		1	土師器	椀	Ⅰa				6.2				糸切り	ヨコナデ	
48	SK1820		1	土師器	椀	Ⅱa	0.35		15.5	8	5.5			糸切り→ ケズリ	ヨコナデ	

報告No.	遺構	グリッド	層位	種類	器種	分類	高さ/口径	残存率/16	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	最大径(cm)	回転方向	底部調整	体部調整	備考
49	SK1820		1	土師器	鍋	Ⅰ			20						ヨコナデ	
50	SK1820		1	土師器	小釜	Ⅱ			15						ヨコナデ	
51	SK1820		1	土師器	小釜	Ⅱ			13						ヨコナデ	
52	SK1820		1	土師器	小釜	Ⅱ				7.5				?	ヨコナデ	
53	SK1736A SD1745 SD1811	3A20、4あ4 4A3・4	Ⅲ・Ⅵ Ⅵ上	須恵器	長頸壺	Ⅱb			11.4	12.2				?	ヨコナデ	
54	SK1736A SK1737		Ⅵ	土師器	小釜	Ⅱ			11.6				?	?	ヨコナデ	口縁内側～外スス
55	SX1701	2A21	Ⅵ	土師器	長釜	Ⅰa			20						ヨコナデ 下半ケズリ	
56	SX1701	2A	Ⅵ	土師器	長釜	Ⅰa			19.4						ヨコナデ 下半ケズリ	
57	SX1701	2A	Ⅵ	土師器	長釜	Ⅱ			23		26.5				ヨコナデ タタキ	
58	SX1701		Ⅵ	土師器	鍋	Ⅱa			37		18.1				ヨコナデ 下半ケズリ	
59	SX1716			須恵器	蓋	Ⅱ			14		3.4		順		天井ケズリ	
60	SX1702	2A16・18・21 3あ2・4・9・10・15、3A5・11・23		須恵器	長頸壺	Ⅳ									外タタキ 内ヨコナデ	下半部
61	SD700	6C6	1・7	須恵器	有台杯	Ⅱ			12.8	8.8	3.5		順	ヘラ切り	ヨコナデ	
62	SD700	6C		須恵器	蓋	Ⅰ			16		3.7		?	?	ヨコナデ	内手持ナデ
63	SD700-5	6C13		土師器	長釜	Ⅱ						23.2		?	ヨコナデ	手づくね
64	SD1744 P4	3A21・22 4A3・16、4あ3	Ⅲ～Ⅵ	須恵器	甕										ヨコナデ	口縁のみ
65	SD1750		Ⅵ	須恵器	蓋	Ⅰ			19.8		4.1		順		ヨコナデ ケズリ	内面手持ナデ
66	SD1752 1753	5A6・21 6A1・4	Ⅲ・Ⅵ Ⅵ上	須恵器	長頸壺	Ⅲ						16			ヨコナデ	体部のみ
67	SD1752		Ⅵ	土師器	椀	Ⅲ	0.00		14.4				?	?	ヨコナデ	内黒
68	SD1753		Ⅵ	土師器	椀	Ⅰa	0.30		12.4	6.2	3.7		順	糸切り	ヨコナデ	
69	SD1753		Ⅵ	土師器	椀	Ⅰa	0.30		11.8	6	3.5		?	糸切り	ヨコナデ	
70	SD1753		Ⅵ	土師器	椀	Ⅰb				5.6			順	?	ヨコナデ	
71	SD1753		Ⅵ	土師器	有台椀	Ⅱ			16.6	7.8	4.6		?	?	ヨコナデ	内黒
72	SD1814	4C12、5A4	Ⅰ・Ⅱ Ⅵ上	須恵器	短頸壺				11.4						カキ目	
73	SD1814A		1・Ⅵ	土師器	椀	Ⅱb	0.27		14.8	6.2	4		?	糸切り	ヨコナデ	内黒
74	P4	4A24、5A3	Ⅵ	土師器	有台椀	Ⅱ			16.1						ヨコナデ	
75	P4	5A3		土師器	長釜	Ⅰb									外タタキ 内ハケ	
76	P4	5A3		土師器	小釜	Ⅰ			14				?	?	ヨコナデ	口縁内側スス
77	P4	5A3		土師器	?					19						
78	P7	3A8		土師器	椀	Ⅰa	0.29		12	6	3.5		?	糸切り	ヨコナデ	
79	P11	3A7		土師器	長釜	Ⅰa			22.3		〔33.4〕				外上ケズリ ヨコナデ 内ハケ	
80	P13	4A3	表土	須恵器	長頸壺	Ⅲ						15			ヨコナデ	自然釉・粒子
81	P13	3A9		土師器	椀	Ⅱa				4.7					ヨコナデ	
82	P16	4A18		土師器	椀	Ⅰa	0.31		12.7	6.2	3.9				ヨコナデ	
83	P19	4A		土師器	長釜	Ⅰa									ヨコナデ	下半ケズリ
84	P19・26 P34	4A		土師器	鍋	Ⅱa			33.2						ヨコナデ	ケズリ
85	P26	4A		土師器	椀	Ⅰa	0.31		13	6	4		?	糸切り	ヨコナデ	
86	P26	4A		土師器	小釜	Ⅱ				5.2			?	糸切り	ヨコナデ	
87	P26・35	4A13	Ⅵ	土師器	鍋	Ⅱa			28.8						ヨコナデ	ケズリ
88	P38 P50b	3A17 4A6・13	Ⅵ上	須恵器	長頸壺	Ⅳ				10.4					下ケズリ	
89	P50b	4A6		土師器	椀	Ⅰa	0.33		11.6	6	3.8		?	糸切り	ヨコナデ	
90	P62	4A7		灰釉	壺					11						
91		6E23	Ⅱ・Ⅲ	須恵器	杯	Ⅰ			13.2	9	3.2			ヘラ切り	ヨコナデ	
92		3F2	Ⅰ・Ⅱ	須恵器	杯	Ⅰ			13	9.2	3.3		順	ヘラ切り	ヨコナデ	
93		4A24、5A14		須恵器	杯	Ⅱ			11.6	6.1	3.8		?	糸切り	ヨコナデ	
94		Tr5A5～6A9		須恵器	有台杯	Ⅰ			12.4	7	3.8			糸切り→ ナデ	ヨコナデ	
95		4A13・15	Ⅲ・Ⅵ Ⅵ上	須恵器	有台杯	Ⅰ			12	6.8	3.8		順	糸切り→ ケズリ	ヨコナデ	
96		4A1・2	Ⅶ	須恵器	有台杯	Ⅰ			12	7.2	3.4			糸切り→ ケズリ	ヨコナデ	
97		4E13	Ⅲ	須恵器	有台杯	Ⅱ				8			順	ヘラ切り	ヨコナデ	
98		4E21	Ⅰ	須恵器	有台杯	Ⅱ			12.6	8.2	2.5		?	ヘラ切り	ヨコナデ	

別　　表

報告No.	遺構	グリッド	層位	種類	器種	分類	高さ/口径	残存率/16	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	最大径(cm)	回転方向	底部調整	体部調整	備考
99		6B5	Ⅰ・Ⅲ	須恵器	有台杯	Ⅱ				8.8			順	ヘラ切り	ヨコナデ	内面ナデ
100		2F2	Ⅰ～Ⅲ	須恵器	有台杯	Ⅱ			13	8.4	4		?	?	ヨコナデ	
101		2C9・24、3C9・19、3D7	Ⅰ・Ⅱ	須恵器	有台杯	Ⅲ			17	11	5.7		順	ヘラ切り	ヨコナデ	
102		5D25	Ⅰ・Ⅱ	須恵器	有台杯	Ⅲ			14.6	8.2	5.8		?	?	ヨコナデ	
103		6C7・12		須恵器	蓋	Ⅰ			19		3.9		順		ヨコナデ・ケズリ	内面手持ナデ
104		2F21、3E1		須恵器	蓋	Ⅰ			17				順		ヨコナデ ケズリ	ゆがみ・沈線
105		4A2		須恵器	蓋	Ⅱ			12.3		2.9				ヨコナデ	
106		5C10	Ⅰ	須恵器	長頸壺	Ⅱa			5.4	6	10.7		順			口縁～肩 自然釉
107		4C10・14・18 5A18、5B4	Ⅰ～Ⅲ・Ⅵ	須恵器	長頸壺	Ⅱb						22			ヨコナデ	
108		2E6、3A14	Ⅴ	須恵器	長頸壺	Ⅱb								糸切り	ヨコナデ	
109		3A16		須恵器	長頸壺	Ⅱb				8					ヨコナデ ケズリ	
110		4A12・13・17	Ⅲ・Ⅵ上	須恵器	長頸壺	Ⅱb			7.5	7.6	21.2		?	糸切り	ヨコナデ	
111		3A18・21、4A1・7・15	Ⅲ～Ⅵ	須恵器	長頸壺	Ⅲ						18.5			ヨコナデ	
112		Tr4あ3～13		須恵器	甕	1			30.6						ヨコナデ	
113		4あ10、4A2	Ⅴ・Ⅵ上	須恵器	甕										タタキ	同一個体(113～116)
114		2F17、3F18	Ⅰ・Ⅲ	須恵器	甕											同一個体(113～116)
115		3E5・12	Ⅱ	須恵器	甕											同一個体(113～116)
116		3E11	Ⅱ・Ⅲ	須恵器	甕											同一個体(113～116)
117		5D19	Ⅰ	須恵器	横瓶				10						内タタキ	
118		北東側端		土師器	椀	Ⅰa	0.30		12.4	5	3.7		?	糸切り	ヨコナデ	
119		5あ15	Ⅵ上	土師器	椀	Ⅰa	0.30		12.6	7.6	3.8			糸切り	ヨコナデ	内面使用痕
120		4A24		土師器	椀	Ⅰb				6.6			?	糸切り	ヨコナデ	
121		4A11集中	Ⅵ	土師器	椀	Ⅱa	0.34		15.6	7	5.3			糸切り	ヨコナデ	ハクラク
122		6C14	Ⅰ・Ⅲ	土師器	有台盤				39.6	30.6	4.8				ヨコナデ	
123		4A6	Ⅵ上	土師器	鍋	Ⅱa			37.2						ヨコナデ タタキ	
124		Tr4A18		土師器	鍋	Ⅱa			34.8						ヨコナデ ケズリ	
125		3A20	Ⅵ	土師器	鍋	Ⅱb			33						ヨコナデ タタキ	
126		4A11集中	Ⅵ	土師器	長釜	Ⅰa			24.5						ヨコナデ	
127		4C3	Ⅰ・Ⅱ	土師器	長釜	Ⅰa			19.8						ヨコナデ	
128		3D20	Ⅰ・Ⅱ	土師器？	コシキ？											把手？
129		2E23		灰釉	壺					14					ヨコナデ	
130	SE385	4D12・13		中世土師器	皿	Ⅰa				5			順	糸切り		柱状高台
131	SE385			中世土師器	皿	Ⅱb	0.30		12.5	6.4	3.7			手づくね？	口縁部ナデ	底部使用痕
132	SE385	4D12・13		青磁	碗					6				高台内ケズリ		見込み文様
133	SE420	3E23	4・6・7・9	珠洲	壺T				26.6						タタキ	
134	SE420	3C23・24、3E23・24	Ⅰ・Ⅱ・6	珠洲	壺T				21.4	10			?	?	タタキ	
135	SE420	2D3、2F21 3C19・23、3D5・12、3E22～24 4E4・5	4・6～9 Ⅰ～Ⅲ	珠洲	壺R				12	〔8.0〕	18.4	16.5			ヨコナデ	波状文2段
136	SE420	3C23、3E15・23・24、4E4	Ⅰ・Ⅱ・6～8	珠洲	鉢 片口鉢	Ⅱ			26.2						ヨコナデ	細かいクシ6～7本
137	SE420	3C23		中世土師器	皿	Ⅰa			8.8	5.8	3.6		逆？	糸切り	ヨコナデ	内黒
138	SE420	3C23		中世土師器	皿	Ⅰb				4.4			逆？	糸切り	ヨコナデ	
139	SE420	3E23・24	6	中世土師器	皿	Ⅰb	0.32		8.4	3.8	2.7		?	糸切り	ヨコナデ	
140	SE420	3C23		中世土師器	皿	Ⅰc	0.22		7.2	5	1.6		?	糸切り	ヨコナデ	
141	SE420	3C23		中世土師器	皿	Ⅰc	0.22		7.4	4	1.6		順	糸切り	ヨコナデ	
142	SE420	3C23		中世土師器	皿	Ⅰc	0.22		8.2	4.8	1.8		順	糸切り	ヨコナデ	
143	SE420	3C23、3E23	7・9	中世土師器	鉢				17						ヨコナデ	
144	SE420	3C23		中世土師器	鉢？					7.2			順	糸切り	ヨコナデ	
145	SE430	4D14・15	1～4	珠洲	鉢 片口鉢	Ⅱ				11.6			?	止 糸切り	ヨコナデ	
146	SE430	4D14・16	4	珠洲	鉢・片口鉢	Ⅱ			28				?	?	ヨコナデ	

報告No.	遺構	グリッド	層位	種類	器種	分類	高さ/口径	残存率/16	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	最大径（cm）	回転方向	底部調整	体部調整	備考
147	SE430	4D14・15		珠洲	鉢 片口鉢	Ⅲ			36						ヨコナデ	
148	SE430	14D14・15	1-5	青磁	碗				16							内面文様
149	SE476	5C15	14	珠洲	壺T				27.6						タタキ	内面炭
150	SE490			中世 土師器	皿	Ⅰb	0.32		8.7	4.6	2.8		逆	糸切り	ヨコナデ	
151	SE490			中世 土師器	皿	Ⅰb				5.3			?	糸切り		
152	SE490			中世 土師器	皿	Ⅰb				5.4			順	糸切り		
153	SE490			中世 土師器	皿	Ⅰc	0.23		7.4		1.7			糸切り		
154	SE490			中世 土師器	皿	Ⅱa	0.18		8.3		1.5			手づくね		
155	SE490			中世 土師器	皿	Ⅱa	0.21		7.8		1.6			手づくね		
156	SE490			中世 土師器	皿	Ⅱa	0.19		8.4		1.6			手づくね		
157	SE490			中世 土師器	皿	Ⅱa	0.18		8.5		1.5			手づくね		
158	SE490			中世 土師器	皿	Ⅱa								手づくね		
159	SE490			中世 土師器	皿	Ⅱa	0.22		7.7		1.7			手づくね		
160	SE490			中世 土師器	皿	Ⅱb	0.27		12.8		3.4			手づくね		
161	SE490			中世 土師器	有台皿				8	5.3 （脚）	5.1					
162	SE490			青磁	碗											見込み文様
163	SE490		6	青磁	皿					5.6(脚)						
164	SE490			白磁	皿				15.2							
165	SE560		9・10	珠洲	壺					8.6						波状文
166	SE560		9・10	珠洲	甕	1			39.4							内外面ハゲル
167	SE560	3E22	1	珠洲	鉢 片口鉢	Ⅱ							順	糸切り	ヨコナデ	内側自然軸
168	SE560		9・10	珠洲	鉢 片口鉢	Ⅱ			21.2							
169	SE560			中世 土師器	皿	Ⅰb	0.33		8.8	4.2	2.9		順	糸切り	ヨコナデ	内面スス
170	SE560			中世 土師器	皿	Ⅰb	0.27		9	4.5	2.4		順	糸切り	ヨコナデ	全面スス
171	SE560			中世 土師器	皿	Ⅰb	0.26		8.8	4	2.3		順	糸切り	ヨコナデ	内外面スス
172	SE560			中世 土師器	皿	Ⅰb	0.31		8.4	4	2.6		順	糸切り	ヨコナデ	全面スス
173	SE560			中世 土師器	皿	Ⅰb	0.36		8.6	4	3.1		順	糸切り	ヨコナデ	全面スス？
174	SE560			中世 土師器	皿	Ⅰb	0.32		8.7	4.2	2.8		逆	糸切り	ヨコナデ	内面スス
175	SE560			中世 土師器	皿	Ⅰb	0.25		9.2	4.5	2.3		順	糸切り	ヨコナデ	内面スス
176	SE560			中世 土師器	皿	Ⅰb	0.32		8.7	4.2	2.8		順	糸切り	ヨコナデ	内面スス
177	SE560		9	中世 土師器	皿	Ⅰb	0.35		8.4	4.4	2.9		順	糸切り	ヨコナデ	スス？
178	SE560		9	中世 土師器	皿	Ⅰb	0.28		8.8	4	2.5		順	糸切り	ヨコナデ	二次焼成
179	SE560		9	中世 土師器	皿	Ⅰb	0.28		8.5	3.8	2.4		順	糸切り	ヨコナデ	二次焼成
180	SE560			中世 土師器	皿	Ⅱa			〔8〕	〔6.8〕	1.2			手づくね	ヨコナデ	二次焼成　はじけ
181	SE580	7C3		青磁	碗				15							
182	SE1504		Ⅰ	珠洲	鉢・ 片口鉢	Ⅱ			28.6	1.5	10			静止糸切り	ヨコナデ	太いクシ７本
183	SE1712			珠洲	甕	1			34.6							
184	SE1712		Ⅵ	珠洲	鉢・ 片口鉢	Ⅲ			33						ヨコナデ	６本クシ
185	SE1719		10	珠洲	鉢・ 片口鉢	Ⅱ			24.5	10.6	10.4		逆	静止糸切り	ヨコナデ	
186	SE1719		Ⅵ・10	珠洲	鉢・ 片口鉢	Ⅱ			29.9							10本クシ
187	SK1000	9F3・4		珠洲	甕	1			42						タタキ	
188	SK1000	9F3・4		中世 土師器	皿	Ⅱa	0.18		8.2	5	1.5				ヨコナデ	手づくね
189	SK1721		Ⅵ	珠洲	鉢・ 片口鉢	Ⅱ			〔27.6〕							３本クシ
190	SK1721		Ⅵ	中世 土師器	皿	Ⅰd	0.24		9.6	6	2.3		?	?	ヨコナデ	
191	SK1721		Ⅵ	中世 土師器	皿	Ⅰd	0.24		9.6	5.4	2.3		順	糸切り	ヨコナデ	

報告No.	遺構	グリッド	層位	種類	器種	分類	高さ/口径	残存率/16	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	最大径（cm）	回転方向	底部調整	体部調整	備考
192	SX48	4F1		青磁	碗					6.1						底部高台内露胎
193	SX1508			中世土師器	皿	Ⅰc	0.25		8	5.1	2			糸切り	ヨコナデ	スス・灯明皿
194	SX1508			珠洲	鉢・片口鉢	Ⅱ										
195	SX1508			珠洲	鉢・片口鉢	Ⅱ										
196	SD700	6C6		中世土師器	皿	Ⅱc				6.4				手づくね	ヨコナデ	
197	SD700	6C6	11	瓦器	壷				18							頸部花模様
198	SD1753		Ⅵ	珠洲	鉢・片口鉢	Ⅱ										10本クシ
199	P3	4あ		青磁	碗					6						被熱・見込み・花弁・高台内露胎
200	P99	3D12	Ⅲ	中世土師器	皿	Ⅰb	0.31		8.1	3.7	2.5			回転糸切り	ナデ	
201	P1130			珠洲	擂り鉢											
202	P1187	8E5・10		中世土師器	皿	Ⅱc			12					手づくね	ナデ	
203	P1515	6C6		？	？					7.6				糸切り		底部穴
204	P1606			珠洲	鉢・片口鉢	Ⅱ			27							
205 a		2A6・15・17・21 4A4	Ⅲ～Ⅴ	珠洲	甕											
205 b		2A6・15・17・21 4A5	Ⅲ～Ⅴ	珠洲	甕											
206		4あ20	Ⅲ	珠洲	甕										タタキ	
207		4あ19		珠洲	甕											「ゆ」の字
208		1E25、2E7	Ⅰ・Ⅲ	珠洲	鉢・片口鉢	Ⅰ			16.2						ヨコナデ	
209		4D19	Ⅰ・Ⅱ	珠洲	鉢・片口鉢	Ⅰ			18						ヨコナデ	
210		4C14	Ⅰ・Ⅱ	珠洲	鉢・片口鉢	Ⅱ			26.4						ヨコナデ	
211		2D17	Ⅰ・Ⅱ	珠洲	鉢・片口鉢	Ⅱ			〔39.3〕						ヨコナデ	細かいクシ13本・縦波状
212		3D3	Ⅰ・Ⅴ	珠洲	鉢・片口鉢	Ⅱ			27.6						ヨコナデ	
213		4A3	Ⅲ	珠洲	鉢？					8				糸切り		
214		4A22	Ⅲ	珠洲	鉢・片口鉢	Ⅱ				12				静止糸切り		
215		5F25	Ⅲ	珠洲	擂り鉢										ヨコナデ	細かいクシ
216		8E18	Ⅰ・Ⅲ	珠洲	鉢										ヨコナデ	
217		10E1	Ⅰ	珠洲	擂り鉢										ヨコナデ	波状文・4本クシ
218		4A6	Ⅵ	珠洲	鉢・片口鉢	Ⅳ			28						ヨコナデ	8本クシ
219		4E23	Ⅰ・Ⅲ	中世土師器	皿	Ⅰa				5.5				回転糸切り	ナデ	
220		5E24	Ⅱ・Ⅲ	中世土師器	皿	Ⅰb	0.33		8.5	3.8	2.8			回転糸切り	ナデ	
221		5D1	Ⅲ	中世土師器	皿	Ⅰb	0.32		8.4	4.3	2.7			回転糸切り	ナデ	
222		2E8	Ⅰ・Ⅲ	中世土師器	皿	Ⅰb								回転糸切り	ナデ	
223		4あ10	Ⅲ	中世土師器	皿	Ⅰc	0.22		8.5	5.2	1.9		順	回転糸切り	ナデ	内外面スス
224		5E24	Ⅲ	中世土師器	皿	Ⅰc	0.21		6.2	4.4	1.3			回転糸切り	ヨコナデ	
225		5E3		中世土師器	皿	Ⅱa'	0.32		8.4	4.6	2.7				ナデ	内外面黒色
226		7D13	Ⅰ・Ⅲ	中世土師器	皿	Ⅱc	0.00		10.4					手づくね	ナデ	内スス
227		6D5	Ⅰ・Ⅲ	中世土師器	内耳鍋											
228		3D24	1・Ⅱ	中世土師器	壷？				17						ヨコナデ	太い波状文
229		2D21	Ⅰ・Ⅱ	青磁	碗				17							無文
230		3F9	Ⅰ・Ⅲ	青磁	碗				14.8							無文
231		2E12	Ⅱ・Ⅲ	青磁	皿				14.4	8	4.1					被熱・見込み・花弁・高台内露胎
232		3F4	Ⅱ・Ⅲ	青磁	碗											口縁なし・内外面無文
233		5F25		瀬戸？	？					5.4						灰釉？見込み内円形釉はぎ・すれ・まもう
234		6B6	Ⅰ・Ⅱ	瀬戸？	波皿				14							灰釉？見込み内円形釉はぎ・すれ・まもう
235	SE610			越中	壷				10						ヨコナデ	
236	SE610			越中	壷				11.2			17.8			ヨコナデ	
237	SE670	5D20		越中	壷					11			順	糸切り	ヨコナデ	

報告No.	遺構	グリッド	層位	種類	器種	分類	高さ/口径	残存率/16	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	最大径（cm）	回転方向	底部調整	体部調整	備考
238	SK1507	11F24		越中	壷				10.6			13.5	順			
239	P946	7E12		唐津	擂り鉢				31							
240		2D11	Ⅰ・Ⅱ	伊万里	皿											「冨貴長春」
241		4D20	Ⅰ・Ⅱ	伊万里	皿				13.4	6.8	2.6					見込釉剥
242		2F23	Ⅰ・Ⅱ	唐津	皿	Ⅰ期				4.2						胎止・絵唐津
243		3F20		唐津	椀					4.6						京焼風・口縁なし
244		4E25	Ⅰ・Ⅲ	唐津	擂り鉢				31.2							鉄釉
245		6D5	Ⅰ・Ⅲ	唐津	擂り鉢				34.4							
246		6D5	Ⅰ・Ⅲ	唐津	擂り鉢				23							
247		3E16	Ⅰ・Ⅱ	越中	小椀				6	4.2	3.3		順	糸切り		鉄釉・外下～底部胎露
248		4E1	Ⅰ・Ⅲ	越中？	鉢？				20.5	13.6	8			糸切り	ヨコナデ	
249		3E16	Ⅰ・Ⅱ	越中？	灯明皿									糸切り		内面つまみ・スス
250		6D5	Ⅰ～Ⅲ	？	小椀				7	3.5	5.1					灰釉？下半～底部露胎
251		5F14	Ⅲ	？	皿					3				？	？	高台付（小形）
252		4C12	Ⅰ・Ⅱ	？	？					7						高台付・赤い焼き？土師器？
253		4F21	Ⅰ・Ⅲ	？	甕				15.8							鉄釉
254		3F19	Ⅰ・Ⅱ	？	？					5.2						中空？
255		5F1	Ⅰ・Ⅱ	瓦質	？				7.2							円形？
256		4C18	Ⅰ・Ⅱ	瓦質	？				19.4							黒
257		6E5	Ⅱ層一括 Ⅱ・Ⅲ	近世土師器	甕				36				順			内外面鉄釉
258		5B8	Ⅰ・Ⅲ	瓦	布目											
259		3D16	Ⅰ・Ⅲ	瓦	布目											
260		4D22		瓦	布目											
261		5F11	Ⅲ	瓦	布目											
262		4E24	Ⅰ・Ⅲ	瓦	イブシ瓦											
263		8F21	Ⅰ・Ⅲ	瓦	軒丸											
264		6G21	Ⅰ・Ⅲ	瓦	軒丸											
265		4F2		瓦	軒丸											
266		5F20		瓦	軒丸											
267		7C10	Ⅲ		羽口											

別表３　海道遺跡　掲載遺物観察表（木製品）

報告No.	遺構	グリッド	種類	法量（cm）			樹種	備　　考
				長さ	幅	厚さ		
289	SE50		縄？紐	6.8	5.2	1.2		撚り紐を結んでいる
290	SE100	3D11	不明	11.9	5.65	2.3	トチノキ	形状不明。端部に径1cmの穿孔痕
291	SE130	3C22・23	漆紙	7.7	4.5	1.9		直径約15cmの円形と考えられる。中心で八つ折。文字なし
292	SE420	3E23	有台皿 漆器	（径）3.7				内外面黒漆、被熱、横木取
293	SE420		不明 足付き	14.85	14.6	2.6		片面下駄様の足。片面焼け焦げ
294	SE420		箸状木製品	3.8	0.7		アジサイ属近似種	炭化している
295	SE420		曲げ物側板	14.1	3.3	0.4	スギ	柾目利用、内面けびき
296	SE430	4D14・15・19・20	箸状木製品	19	0.7	0.6	スギ	両端尖る。中央部に赤茶付着物。血？
297	SE430	4D14・15・19・20	箸状木製品	6.8	0.4	0.4	スギ	先端やや細く
298	SE430	4D14・15・19・20	不明 ボタン状木製品	1.7	1.5	0.3		周囲薄く尖る。穴小さい
299	SE430	4D14・15・19・20	部材	14.35	1.1	0.8	スギ	材面に沿った穴（径3mm）とそれに直交する穴（径約7mm）がある。小穴間隔4.2cm、大穴間隔6cm
300	SE430	4D14・15・19・20	曲げ物側板	14.5	1.9	0.4	サワラ	柾目利用。木釘穴
301	SE476	5C5、5D11	曲げ物側板	3.1	8.5	0.8		内面けびき。外面穴、押え木（釣り手穴か）
302	SE476	5C5、5D11	曲げ物側板？	5.3	2.9	0.6	スギ	削り片？
303	SE476	5C5、5D11	杭の柱	11.7	5.1	4.8	クリ	片側から切断。杭とする
304	SE490	5D1～6	皿（黒漆）	（径）3.9		（高）1.35	ケヤキ近似種	底部を除く内外面黒漆、横木取
305	SE490	5D16	しゃもじ？杓子状木製品	13.6	3.5	0.4		柾目利用、左右非対称
306	SE490	5D16	箸状木製品		0.5	0.4	スギ	先端徐々に細くなる
307	SE490	5D16	箸状木製品	9.6	0.65	0.3	スギ	断面長方形
308	SE490	5D16	箸状木製品	6.9	0.9	0.92	クリ近似種	角柱状
309	SE490	5D16	箸状木製品	12.6	0.5	0.5	スギ	先端丸く尖る
310	SE490		箸状木製品	14.7	0.8	0.5	スギ	断面四角
311	SE490		箸状木製品	17.8	0.8	0.5	スギ	断面四角
312	SE490	5D16	箸状木製品	22	0.55	0.3	スギ	断面長方形
313	SE490	5D16	曲げ物側板	18.35	7	0.5	スギ	内面けびき、板目
314	SE490	5D16	不明木製品（板材）	31.7	3.3	0.4	スギ	端部こげ、柾目材
315	SE490	5D16	曲げ物側板	25.7	2.4	0.2	スギ	接着部段違え、留め穴、板目材
316	SE490	5D16	不明木製品（板状）	16.3	3.1	0.5	スギ	穴あり
317	SE490		曲げ物底板	25.7	5.3	0.5	サワラ	木釘跡、柾目

報告No.	遺構	グリッド	種類	法量（cm）			樹種	備　　考
				長さ	幅	厚さ		
318	SE490		火きり臼？	18.9	1.6	1.2	スギ	火きりの痕跡なし。刻み間隔狭く、大きさ一定せず
319	SE490	5D16	櫛	3.25	3	0.9		白木の櫛
320	SE490	5D16	底板（二次利用しているか）不明（半月形）	6.1	1.7	0.3		曲げ物底板。火による穴
321	SE490	5D16	不明木製品（板状）	7.5	1.8	0.5	スギ	両端にえぐり、切り込み（とり形？）
322	SE490	5D16	不明木製品（板状）	10.4	1.5	0.6	スギ	長軸中央部やや膨らみ、断面かまぼこ状
323	SE490	5D16	板片	11.55	4.5	0.3	スギ	柾目、両端切断、薄い
324	SE490	5D16	板片	8.2	4.6	0.9	クリ	全く不明
325	SE490		不明木製品（板材）	43.4	4.4	1	スギ	板目、端部斜め切り口
326	SE490	5D16	不明（棒状）	22.7	1.3	0.82	スギ	先端薄く、ヘラ状
327	SE490		不明（棒状）	24.2	1.3	1.1	ヒノキ科	割材利用、断面円形（火きり棒？）
328	SE490	5D16	不明	21.7	3.5	1.9	コナラ属アカガシ亜属	断面四角、片端部細身。えぐり
329	SE560	3E22、4E2	曲げ物底板	15.3	14.6	1.6	ヒノキ科	釘穴６箇所。内面付着物
330	SE560	3E22、4E2	曲げ物側板	7.2	3	0.3	スギ	柾目利用、けびき、木釘穴
331	SE560		板材	37.5	13.3	3.8	モクレン属	片面焼失
332	SE560		糸繰枠	15	14	2.2	スギ	●部分。正方形を呈し、四隅に枠木をはめ込むタイプ。少しえぐり込みが見られる。枠木を留める木釘が四隅に残る。中央に楕円形の軸穴（長軸3.5cm）がある他、一隅に径1.3cmの穴もある。柾目利用
333	SE560		糸繰枠	14.5	13.6	2.5	サワラ	
334	SE560		不明木製品（棒状）	17.7	3.3	2.8	モクレン属	割材調整、両端加工
335	SE560		不明	9.5	2.8	2.1	モクレン属	角柱状、割材加工
336	SE560	3E22・4E2	不明	8.5	1.95	0.48	モクレン属	端部鶏頭状、径5mmの連続穴（3.3cm間隔）
337	SE590		舟形状木製品	30.8	7.9	3.3	スギ	割材利用、粗い調整、未成品？
338	SE590		折敷底板	29.5	6.6	0.2	スギ	柾目、釘穴、非常に薄い
339	SE590		不明板材 桶側板	31.5	13	0.7	スギ	柾目、片面使用加工傷、断面厚味平均せず（ちょうな等削り）
340	SE590		部材	33	4	1	スギ	端部かまぼこ状丸み。端部多くの穿孔、径6mm、3mm、板目
341	SE590		板材	45	8.3	2.6	スギ	板目、端部薄くなる
342	SE610	5E12・17	漆器椀					外面黒、内面赤漆、横木取
343	SE610		箱物部材	13.3	4	0.8	スギ	四隅木釘穴。断面３箇所木釘穴。柾目板
344	SE610		樋側板？	15.4	5.85	1.3	サワラ	断面湾曲、下部箍による窪み
345	SE610		部材？	9.3	1.2	0.5	スギ	断面長方形、３個の穴（径２～3mm）
346	SE610		杭 板材	46.8	8.9	2.8	クリ	板状
347	SE630		下駄	21.2	12.2	6.45	ケヤキ	連歯、半裁木、親指窪み、左右不明、切断跡
348	SE630		箱物？	16.4	4.2	1.3	スギ	外面黒漆、外面端部丸み。内面平ら。端部三角形状に尖る
349	SE630		コモヅチ	19.2	4.3	3.8	モクレン属	丸木、半周のみ刃物垂直えぐり
350	SE630		コモヅチ	10.3	3.5	3.8	モクレン属	丸木、半周斜めにえぐり
351	SE630		コモヅチ	14	3.3	3.2	クリ	丸木、半周えぐり（中心よりややはずれる）
352	SE630		コモヅチ	21	3.7	3.6	クリ	丸木、半周えぐり。部分的に表皮あり
353	SE630		コモヅチ	11.6	3.5	3.4	クリ	丸木、半周のみ刃物垂直えぐり、えぐり反対側面取
354	SE630		コモヅチ	20	4.5	3.5	クリ	丸木、半周のみ刃物垂直えぐり、えぐり側面取
355	SE630		曲げ物底板	32.3	10.2	1.5	スギ	板目利用。釘６箇所
356	SE630		曲げ物底板	29.2	7.95	1.4	スギ	柾目利用、刃物跡、木釘跡なし
357	SE630		曲げ物側板	23.85	6.7	1.45	スギ	柾目利用
358	SE670		箸状木製品？	21.9		0.7	スギ	先端少し尖る。基部茶色付着物
359	SE670		箸状木製品	6.3	0.6	0.5	アスナロ近似種	先端欠損
360	SE670		用途不明	51.6	2.7	1.9	クリ	角柱状、長軸の１／３ほどにえぐり
361	SE670		板材	36.6	9.9	0.85	ヒノキ	一端切断痕、90°以上、板目
362	SE900	6E13	桶側板？	34.4	11.85	1.3	サワラ	上下左端に等間隔の釘穴。やや湾曲、端薄くなる。内面刃物傷
363	SE900	6E13	板材	31.8	8	1.7	スギ	板目材、両側木釘跡２個、桶等底板か
364	SE1241		不明板材 片面（スス付着）曲げ物側板？	8.2	2.7	0.3	アスナロ	やや内湾
365	SE1248		木皿 漆器	（底）7.1	（口）8.5	（高）0.9	キハダ近似種	内外面黒漆、底部白木、横木取
366	SE1248	6C16	皿	（底）7.3	（口）9.6	（高）1.3		内外面黒漆、横木取
367	SE1250	5F24・25	曲げ物の一部 側板	15.9	14.5	1	ヒノキ	大形曲げ物。内面けびき。樺皮による留め、板目材
368	SE1387	6D10、6E6	下駄	19.9	9.5	4.85	クリ	半割材使用。連歯。足跡なし。切損
369	SE1500		曲げ物底板	23.2	12	1.8	スギ	木繊維劣化
370	SE1717	4A	曲げ物側板	16.4	9.9	0.1		柾目板利用。端部木釘穴。非常に薄い
371	SE1717	4A	曲げ物底板	〔径〕22.1		1.8	カラマツ	柾目板利用。側面釘穴
372	SE1717	4A	曲げ物底板	〔径〕14.9		8	ヒノキ	板目、内面周囲付着物
373	P445	4F2	柱根	44.6	18.8	15.5	クリ近似種	丸木利用。底部調整
374	P927	6F18	柱根	25.1	11.6	8.4	コロナ属コロナ亜属コロナ節	丸木利用。
375				18.4	10.2	0.8		木表皮
376			糸繰枠	（高）30.5	19.1	19	スギ	軸受け部組み合わせ式。枠木差し込み。木釘による留め
377			曲げ物	（径）20.5		（高）12.3	スギ	内側１重半で木釘及び樺皮で留め。内面けびき。その外側にもう一重で木釘留め。外側約2.7cm低い（蓋がつくか）。底部外側から木釘留め。内面付着物
378			部材	30	4.6	0.9	サワラ	板状部材、両端に２個一対の穴。片面に刃物切り傷

別表４　海道遺跡　掲載遺物観察表（石器・石製品・金属製品等）

報告No.	遺構	グリッド	層位	種類	石質	長軸（cm）	短軸（cm）	幅（cm）	重さ（g）	備考
268	SK1365	8G7		石鉢		（口径）29.2	（器高）10	（底径）16.8	2,130	
269	SE1718	4A	10	五輪塔		26.1	24.9	（高）16	9,410	
270	SE1718	4A	S8	石臼		（径）31.3		14.3	12,040	
271	P249	1E18		砥石		8.5	3.9	3.7	147	
272		2E15	Ⅰ～Ⅲ	硯		12	4.3	1.4	130	裏面も使用
273	SE1390			五輪塔？		27.2	26.5	（高）21.4	22,500	
274	SE1390			五輪塔？		24	23.8	（高）20.3	18,620	
275	SE1500			砥石？		20.5	10	6.8	1,550	
276	SE1500			？		19.8	15.3	6.9	2,700	
277		4E19	Ⅰ～Ⅲ	砥石		9.6	3.1	3.5	180	
278		4D24	Ⅰ・Ⅲ	砥石		10.4	3.4	2.9	153	
279		4あ3、P9－Cソコ		砥石		6.2	3	2.9	70	
280		4F21	Ⅰ・Ⅲ	砥石		8.6	6.5	1.1	91	
281		3E16	Ⅰ・Ⅱ	砥石		7.6	5.5	1.2	79	
282		6F17	Ⅱ・Ⅲ	砥石		4.2	3.7	1.5	33	
283		6B10	Ⅰ・Ⅲ	砥石		6.2	5.9	2.2	112	
284		4D20	Ⅰ・Ⅱ	砥石		6	5.2	1.9	88	
285		4A11	Ⅵ層上	石皿？		10	9.1	5.2	630	
286		5F24		石錐？		（径）10.2		1.8	210	
287		3A15	Ⅴ	抉状耳飾？	滑石	（長）3	（厚）0.7	0.9	3	
288		4 E14	Ⅰ～Ⅲ	石鏃	黒曜石	2	1.8	0.5	1.27	
379	SE420			ひょうたん						
380		3A11	Ⅴ	土錘		（長）4	（径）1.2	（穴径）0.4	2	
381	SE1712	4あ		刀子	鉄	12.8	2.3	0.5	24.88	
382	SE130	3C22・23		山形	鉄	12.9	4.6	1.3	37.09	

別表５　大塚遺跡　遺構一覧表

1995（H7）

種別		グリッド	性格	時代	長径	短径	深さ	出　土　遺　物
95SI	1	16J	竪穴住居	縄文後期	2	1.5	0.12	土器・土偶・球状土製品・磨製石斧・砥石
95SK	2	14J	落し穴	縄文早期	1.35	1	1.2	土器
95SK	3	14J	落し穴	縄文早期？	0.9	0.78	0.95	
95SK	4	13K	落し穴	縄文早期？	0.92	0.9	0.92	特殊磨石・磨石類
95SK	5	13K	落し穴	縄文早期？	1.2	1.06	1.26	
95SK	6	12L	落し穴	縄文早期？	1	0.93	1.4	
95SK	7	13L	土坑	縄文	0.76	0.71	0.75	土器
95SK	8	13M	土坑	縄文早期	0.71	0.71	0.76	土器
95SK	9	11・12K	土坑	縄文早期	2.15	0.7	0.48	土器
95SK	10	14K	土坑		0.78	0.76	0.65	
95SK	11	3L	炭窯	古代以降	0.93	0.84	0.3	

1996（H8）

種別		グリッド	性格	時代	長径	短径	深さ	出土遺物
96SK	1	13B	土坑	縄文？	0.7	0.5	0.3	
96SK	2	11B	土坑	縄文？	0.9	0.67	0.3	
96SK	3	11C	炭窯？	古代以降	2.07	1.45	0.38	
96SD	2	16KL	方形区画溝	古代以降		0.4～0.6	0.1～0.2	

1997（H9）

種別		グリッド	性格	時代	長径	短径	深さ	出土遺物
97SK	4	18L	フラスコ？		0.85	0.85	0.4	
97SK	8	18L	フラスコ？		1	0.7	0.4	
97SK	9	18L	フラスコ？		0.9	0.7	0.4	
97SI	10	19・20LM	竪穴住居	古墳	4.4		0.5	土師器
97SK	12	18L	フラスコ？		0.8	0.8	0.4	
97SD	13	20～24LM	新しい溝	近世以降		0.6	0.25	
	17	19M	須恵器窯	平安	7.05	1.38		須恵器
97SD	18	16M	SD2続き？	古代以降		0.6	0.2	
97SK	96	16H	土坑	縄文	1.2	1.2	0.3	土器底部
97SK	98	16H	落し穴	縄文早期？	1.2	1	1.1	
97SK	102	17G	落し穴	縄文早期？	1.2	0.94	1.45	
97SK	108	15I	落し穴	縄文早期？	1	1	1.15	
97SK	109	15I	落し穴	縄文早期？	0.88	0.88	1	集石・土器
97SK	110	15I	フラスコ	縄文中期初	1.6	1.6	1.1	打製石斧・磨石・土器
97SK	111	15I	土坑		1.8	1.8	0.15	
97SK	117	13G	フラスコ		0.8	0.8	0.5	
97SK	131	？	？	縄文早期				
97SK	137	11G	土坑		1.5	1.1	0.4	

別表６　大塚遺跡　掲載遺物観察表（縄文・弥生）

1．繊維痕　×含有せず　○含有する　◎多く含有　2．色調　『新版 標準土色帖』［小山・竹原 1994］による。
3．胎土　石：長石、雲：雲母、角：角閃石、チャ：チャート、白：白色粒子、 断面等の観察により多く認められたものから列記した。

報告No.	グリッド	層位	遺構	種類	時期	器種	分類	口径（cm）	胎土	繊維	色調（表）	色調（裏）	文様	備考
401			SK2	縄文	？	深鉢	Ⅲｅ			×	灰黄褐	灰褐	２本沈線	
402			SK2	縄文	？	深鉢	Ⅲｅ		白	×	灰褐	褐灰	無文	
403			SK7	縄文	早期	深鉢	Ⅲａ			×	にぶい黄褐	橙	沈線 貝殻刺突	
404			SK7	縄文	早期	深鉢	？			×	橙	橙	細沈線	
405			SK7	縄文	？	深鉢	？		砂	×	明褐	褐	無文	
406			SK8	縄文	早期	深鉢	Ⅲ		白	×	にぶい黄橙	にぶい黄褐	口唇刻 沈線	
407			SK8	縄文	早期？	深鉢	Ⅲｂ			×	明褐	明赤褐	沈線	
408			SK8	縄文	早期	深鉢	Ⅲａ		砂	×	橙	橙	沈線、貝殻圧痕	
409			SK8	縄文	早期	深鉢	Ⅲａ		砂	×	橙	橙	沈線、貝殻圧痕	
410			SK8	縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ		白	×	にぶい黄褐	にぶい黄橙	半隆起線	
411			SK8	縄文	早期？	深鉢	Ⅲｅ			×	明赤褐	褐	横半隆起線	
412			SK9	縄文	早期	深鉢	Ⅲａ		砂	×	灰黄褐	灰黄褐	縦沈線、貝殻圧痕	
413			SK131	縄文	早期	深鉢	Ⅳｃ		砂	◎	灰褐	灰黄褐	内外無文	
414		5	SK110	縄文	中期初頭	深鉢			長	×	明褐	橙	口縁突起、半隆起線、折り返し	
415		7	SK110	縄文	中期初頭	深鉢			長	×	橙	灰黄褐	くの字状連続、半隆起線	
416	15L12	覆土	SD2	縄文	中期初頭	深鉢				×	明赤褐	赤褐	縦、横、斜Ｖ字区画・半隆起線	
417			SI1	縄文	後期	深鉢		16	赤	×	浅黄橙	黒褐	口縁部無文、横沈線、縄文RL	
418			SK96	縄文	？	深鉢	？		白	○？	赤褐色	赤褐	目立つ無文、うすい	被熱によるハデ 全面
419	14K	Ⅱ・Ⅲ		縄文	早期？	深鉢				×	にぶい黄橙	にぶい黄褐	無文	内面炭化物
420	15K	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅱａ			◎	にぶい黄褐	にぶい黄褐	山形押型文	
421	15K	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅱａ			◎	にぶい黄橙	にぶい黄褐	山形押型文	
422	15K	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅱｄ		白	○	にぶい黄橙	にぶい黄橙	楕円押型文	
423	3K	Ⅰ		縄文	早期	深鉢	Ⅱｄ		白	○	にぶい黄褐	にぶい黄橙	楕円押型文	
424	3K	Ⅰ		縄文	早期	深鉢	Ⅲａ			×	黒褐	灰黄褐	貝殻刺突	
425	14J3	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲａ		石	×	褐灰	にぶい黄橙	沈線、貝殻刺突	
426	14J3	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲａ		石	×	灰黄褐	にぶい黄橙	波状口縁	
427	11L			縄文	早期	深鉢	Ⅲａ		石	×	暗赤褐	暗赤褐	沈線、貝殻刺突	
428	12M	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲａ			×	にぶい橙	にぶい橙	沈線、貝殻刺突	
429	14M	Ⅱ・Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲａ			×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	平行沈線、貝殻刺突	
430	11F16			縄文	早期	深鉢	Ⅲａ		石	×	にぶ褐	褐	沈線、貝殻刺突	
431	11L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲａ			×	灰黄褐	にぶい褐	沈線、貝殻刺突	
432	11M、12L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲａ			×	にぶい黄褐	にぶい橙	沈線、貝殻刺突	432・455・461同一個体
433	13L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲａ		砂	×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	沈線、貝殻刺突	内面炭化物
434	14M	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲａ			×	にぶい黄橙	橙	沈線、貝殻刺突	
435	3K	Ⅰ		縄文	早期	深鉢	Ⅲａ			×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	沈線、貝殻刺突	
436	11D25	Ⅲ層下		縄文	早期	深鉢	Ⅲａ		石・長	×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	沈線、貝殻刺突	
437	13K	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲａ			×	にぶい黄橙	にぶい黄褐	沈線、貝殻刺突	
438	13K	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲａ			×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	沈線	
439	12L23	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲａ		白	×	にぶい黄橙	灰黄橙	沈線、貝殻刺突	
440	11J20			縄文	早期	深鉢	Ⅲａ		砂	？	にぶい橙	にぶい橙	横平行沈線、縦キザミ	
441	11J17			縄文	早期	？	Ⅲａ			×	にぶい黄橙	灰黄褐	沈線	
442	12M	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ			×？	にぶい黄褐	にぶい黄褐	沈線、貝殻刺突	
443	13M	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｄ		白	×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	横沈線・貝殻刺突	
444	12L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ			×	灰黄褐	にぶい黄褐	沈線、無文	
445	13L	Ⅲ		縄文	早期	？	Ⅲｄ			？	にぶい黄橙	にぶい黄橙	沈線	
446	12G11			縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ		白	×	灰黄褐	褐灰	沈線、貝殻刺突	
447	14L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ			×	にぶい黄橙	にぶい橙	沈線、貝殻刺突	
448	14L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ			×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	沈線、貝殻刺突	
449	12C22	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ			×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	沈線、貝殻刺突	
450	14M	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ		石・砂	×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	平行沈線間キザミ	
451	12K22	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ			×	にぶい橙	明褐	沈線、貝殻刺突	
452	14L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ			×	にぶい黄褐	にぶい黄褐	平行沈線間貝殻刺突	
453	13J21	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ		白	×	にぶい黄橙	にぶい黄褐	沈線間貝殻刺突	
454	14J3	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ			×	灰黄褐	灰黄褐	沈線間キザミ	
455	13L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ			×	にぶい黄褐	にぶい黄褐	沈線、貝殻刺突	432・455・461同一個体
456	13E２			縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ			×	にぶい黄褐	にぶい黄橙	沈線	
457	11N			縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ			×	にぶい黄橙	にぶい橙	沈線、貝殻刺突	
458	13L			縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ		石	×	にぶい黄褐	にぶい黄橙	沈線、貝殻刺突	
459	11M	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ		白	×	褐灰	黒褐	沈線、貝殻刺突	
460	12L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ		白	×	褐灰	褐灰	沈線、貝殻刺突	
461	12L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｂ			×	にぶい黄橙	にぶい黄褐	矢羽状貝殻刺突	432・455・461同一個体
462	13L・K	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲｃ			◎	灰黄褐	灰黄褐	平行沈線、沈線間貝殻刺突、波状口縁	464・467・462同一個体
463	13L			縄文	早期	深鉢	Ⅲｃ		白	◎	にぶい黄橙	にぶい黄橙	沈線、区画内貝殻刺突	

報告No.	グリッド	層位	遺構	種類	時期	器種	分類	口径（cm）	胎土	繊維	色調（表）	色調（裏）	文様	備考
464	13L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲc			◎	灰黄褐	にぶい黄橙	横平行沈線、区画内貝殻刺突	464・467・462同一個体
465	3K	Ⅰ		縄文	早期	深鉢	Ⅲc			○	褐灰	灰黄褐	沈線、円刺突、貝殻刺突	
466	13L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲc		白	◎	にぶい黄橙	灰褐	斜向沈線	
467	13L			縄文	前期？	深鉢	Ⅲc		白	◎	灰黄褐	にぶい黄橙	平行沈線	464・467・462同一個体
468	13L			縄文	早期	深鉢	Ⅲc		白	◎	灰黄褐	にぶい黄褐	沈線、貝殻刺突	
469	13L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲe		砂	×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	平行沈線、貝殻刺突	
470	12M	Ⅲ		縄文	早期？	深鉢	Ⅲe			×	褐灰	にぶい黄橙	沈線間キザミ	
471	11J20			縄文	早期	深鉢	Ⅲe		白	×	褐灰	にぶい黄橙	縦平行沈線・貝殻刺突	
472	14K	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲd		砂	×	にぶい黄褐	明赤褐	沈線、ヨコ平行線文、波状文	
473	13E 24			縄文	早期	深鉢	Ⅲd		雲・石 赤	×	褐	褐	平行沈線、山形沈線	
474	11J18-15			縄文	早期？	深鉢	Ⅲd		白	×	にぶい赤褐	にぶい黄褐	隆帯、沈線、波状文	
475	14L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲd			×	にぶい赤褐	明赤褐	沈線、貝殻刺突	
476	14L21	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲb		砂	×	橙	にぶい黄橙	沈線鋸歯	
477	11L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲd		石	×	黒褐	暗褐	波状、平行沈線、沈線間キザミ	
478	11L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲd		石	×	暗褐	橙	波状、平行沈線	
479	11L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲd		石	×	暗褐	橙	波状、平行沈線	
480	11L			縄文	早期	深鉢	Ⅲd			？	黒褐	暗褐	平行沈線	
481	11L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲd		石	×	黒褐	暗褐	沈線、キザミ	
482	11L	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲd		石	×	黒褐	赤褐	沈線間隆帯上にキザミ	
483	11K	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅲd			×	にぶい褐	にぶい褐	沈線間隆帯キザミ	
484	B1			縄文	早期	深鉢	Ⅳa		石	◎	黒褐	灰褐	格子状沈線	
485	10N8・9			縄文	早期	深鉢	Ⅳb		石	◎	黒	黒褐	縦列刺突（斜方向）	
486	10N8・9			縄文	早期	深鉢	Ⅳb		石	◎	黒褐	黒褐	縦列竹管刺突（斜方向）	
487	10N8・9	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅳb		石	◎	黒褐	黒褐	縦列刺突（斜方向）	
488	11N11			縄文	早期	深鉢	Ⅳb		石	◎	黒	にぶい橙	横八字状連続刺突	
489	?			縄文	早期	深鉢	Ⅳb		石	◎	黒	にぶい橙	横連続刺突・内面条痕	
490	11N17	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅳb		石	◎	黒	黒	縦隆帯・隆帯に沿った刺突	
491	11N17			縄文	早期	深鉢	Ⅳb		石	◎	黒	黒	口縁部 横八字状連続刺突	
492	?			縄文	早期	深鉢	Ⅳb		石	◎	黒	にぶい橙	縦隆帯・隆帯に沿った刺突	
493	?			縄文	早期	深鉢	Ⅳb		石	◎	黒	にぶい橙	縦隆帯・連続刺突 内面条痕	
494	10N8・9			縄文	早期	深鉢	Ⅳb		石	◎	にぶい赤褐	黒褐	横 斜刺突	
495	11N17			縄文	早期	深鉢	Ⅳb		石	◎	黒	にぶい橙	外面・横沈線・条痕	
496	11N17			縄文	早期	深鉢	Ⅳd		石	◎	黒	にぶい橙	内外面条痕	
497	11N17			縄文	早期	深鉢	Ⅳb		石	◎	黒	にぶい橙	内外面条痕	
498	11N17			縄文	早期	深鉢	Ⅳd		石（多）	◎	黒褐	にぶい橙	尖底部 内外面条痕	
499	11N11			縄文	早期	深鉢	Ⅳd		石	◎	黒	にぶい橙	内外面条痕	
500	10N8・9			縄文	早期	深鉢	Ⅳd		白・赤	○？	明黄褐	にぶい黄橙	外-条痕	
501	11N17			縄文	早期	深鉢	Ⅳd		石	◎	黒褐	にぶい橙	内外面条痕	
502	15K	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅳd		白	◎	黒褐	にぶい橙	尖底部	
503	11K	Ⅲ		縄文	前期	深鉢	Ⅳc			◎	灰黄褐	にぶい黄褐	絡条体圧痕	
504	14K16	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅳc		石	◎	にぶい黄褐	灰黄褐	絡条体圧痕	
505	13K	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅳc		白	◎	にぶい橙	にぶい褐	隆帯状・隆帯に沿って絡状体圧痕文	
506	16K	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅳc		石・赤	◎	明黄褐	にぶい黄褐	眼鏡状隆帯、絡条体圧痕	
507	B Ⅰ			縄文	前期	深鉢	Ⅳd			◎	にぶい黄橙	灰黄褐	無文	
508	11K	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅳd			◎	にぶい黄褐	灰黄褐	外-無文、内-条痕	
509	11N			縄文	早期	深鉢	Ⅳd		石・長 赤	◎	にぶい褐	にぶい赤褐	添付文、円形刺突、条痕	
510	11J18			縄文	早期	深鉢	Ⅳd		赤	◎	明褐	にぶい褐	無文	
511	15J6			縄文	早期	深鉢	Ⅳd		長	◎	にぶい橙	灰黄褐	縦・横-ハケ状工具	
512	10N8・9	Ⅲ		縄文	早期	深鉢	Ⅳd		石	◎	橙	にぶい褐	無文	
513	11N	Ⅲ		縄文	早期	深鉢			白・長	◎	にぶい黄橙	にぶい黄橙	口唇部キザミ・横隆帯・隆帯に沿って連続刺突・縄文RL?縦連続刺突	513・514同一個体
514	11N	Ⅲ		縄文	早期	深鉢			白・長	◎	にぶい黄橙	にぶい黄橙	口唇部キザミ・横隆帯・隆帯に沿って連続刺突・縄文RL?縦連続刺突	513・514同一個体
515	11N	Ⅲ		縄文	前期	深鉢				◎	褐灰	灰黄褐	外-縄文、竹官横引き、爪形？	
516	11N	Ⅲ		縄文	前期	深鉢			長	◎	灰黄褐	にぶい黄褐	縄文RL、表裏・口唇縄文	
517	11N17	Ⅲ		縄文	前期	深鉢				◎	にぶい褐	褐灰	口唇刻み、口縁外連続角押刺穴、縄文RL？	
518	11N17	Ⅲ		縄文	前期	深鉢			赤	◎	にぶい赤褐	灰褐	口縁部連続刺突、縄文RL、口縁三角形	
519	B	Ⅰ		縄文	前期	深鉢				◎	にぶい黄褐	にぶい黄褐	縄文LR？口唇部キザミ	
520	11N	Ⅲ		縄文	前期	深鉢			赤・雲	◎	にぶい褐	にぶい黄褐	口唇部連続刺突・縄文？	
521	11N11	Ⅲ		縄文	前期	深鉢	無文		赤	◎	にぶい黄橙	にぶい黄褐		
522	14J	Ⅱ・Ⅲ		縄文	前期	深鉢			白	○	橙	褐灰	縄文	
523	14・15K	Ⅲ		縄文	早期～前期	深鉢			赤・白	×	灰黄褐	にぶい黄橙	棒状工具鋸歯文３段	
524	15J	Ⅲ		縄文	早期	深鉢			白	○？	にぶい黄橙	にぶい黄褐	横隆帯・隆帯間連続角押	
525	3K	Ⅰ		縄文	前期	深鉢			石	◎	褐灰	褐灰	縄文RL、ループ文	
526	B	Ⅰ		縄文	前期	深鉢			砂	◎	黒褐色	褐灰	横羽状 RL・RL	
527	11N22・覆土	Ⅲ		縄文	前期	深鉢			長	◎	にぶい黄橙	にぶい黄橙	外-縄文	

報告No.	グリッド	層位	遺構	種類	時期	器種	分類	口径（cm）	胎土	繊維	色調（表）	色調（裏）	文様	備考
528	14L	Ⅱ・Ⅲ		縄文	前期	深鉢			長・白	◎	にぶい褐	にぶい褐	縄文？	
529	3K	Ⅰ		縄文	前期	深鉢			赤	×？	にぶい橙	橙	多条？	
530	3K	Ⅲ		縄文	前期	深鉢				◎	橙	にぶい褐	縄文RL	体部、内面炭化物
531	14K10	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			石・長	×	灰褐	にぶい褐	半隆起線・斜格子・絡状体圧痕	
532	16J	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢				×	にぶい橙	にぶい橙	口唇爪形文・斜半隆起線＋添付隆帯＝斜格子回文・縦添付隆帯	
533	4J	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			雲・石	×	赤褐	褐	斜向半隆起線文	
534	15L23	Ⅱ		縄文	中期初頭	深鉢			石	×	明赤褐	橙	口唇撚糸圧痕、細半隆起線	
535	12K	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			砂	×	灰黄褐	にぶい黄橙	沈線斜格子目文	
536	15J23			縄文	中期初頭	深鉢			雲	×	赤褐	赤褐	細半隆起線による斜向線文	
537	14K	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢				×	明赤褐	赤褐	口唇部撚糸圧痕、半隆起線	
538	15J4			縄文	中期初頭	深鉢				×	灰褐	灰黄褐	口唇撚糸圧痕、半隆起線（斜向）	
539	15I24			縄文	中期初頭	深鉢			小砂利	×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	半隆起線・爪形文	
540	15I12			縄文	中期初頭	深鉢			小砂利	×	にぶい橙	橙	半隆起線・隆起押引き爪形・隆帯上絡状体圧痕	
541	15J18			縄文	中期初頭	深鉢			砂	×	にぶい黄橙	灰黄褐	巾広半隆起線、隆帯瓜形、瓜形	
542	15K	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			石・雲	×	赤褐	褐	口縁刺突、半隆起線、竹管円形刺突	
543	15I20			縄文	中期初頭	深鉢			石	×	にぶい黄褐	にぶい黄橙	半隆起線・口縁絡状体圧痕	
544	16J	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			雲・長	×	赤褐	赤褐	斜向半隆起線文	
545	15M9	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			石・長	×	明黄褐	明黄褐	半隆起線文	
546	15K	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢				×	にぶい黄褐	橙	半隆起線・円形竹筒刺突・絡状体圧痕	
547	15K	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			石	×	にぶい黄褐	にぶい黄褐	口縁刺突？貼り付け隆帯、貼り付け円形浮文（タコ吸盤）	
548	14K	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			長・雲	×	赤褐	暗褐	沈線斜格子、爪形、タテ沈線	
549	15M8	Ⅰ		縄文	中期初頭	深鉢			雲・長	×	褐	赤褐	上斜格子、下縦半隆起線、縄文	
550	15J11			縄文	中期初頭	深鉢				×	明赤褐	にぶい黄橙	半隆起線文	
551	15J23			縄文	中期初頭	深鉢			石・長	×	灰褐	にぶい褐	半隆起線、くの字	
552	15J10			縄文	中期初頭	深鉢			雲・長	×	褐	褐	口唇肥厚、外-斜格子	
553	15J10			縄文	中期初頭	深鉢			長	×	橙	にぶい橙	口唇撚糸圧痕、内面肥厚、斜向沈線文	
554	15J16			縄文	中期初頭	深鉢				×	明黄褐	にぶい黄橙	口唇撚糸圧痕、内面斜格子	
555	15J4			縄文	中期初頭	深鉢			雲・石	×	灰褐	褐	口唇撚糸圧痕、爪形刺突、外-斜向半隆起線	
556	15L	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			白・石	×	にぶい褐	にぶい黄褐	外-半隆起線・斜ヘラ沈線・口唇絡状体圧痕 内-斜半隆起線＋添付隆帯＝斜格子回文	
557	15L	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢				×	褐	褐	外-半隆起線、内-半隆起線、円形竹管刺突	
558	15L	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			雲・長	×	赤褐	褐	口唇撚糸圧痕、外斜隆起線、縄文	
559	15L	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢				×	明赤褐	赤褐	斜向半隆起線	
560	14J16			縄文	中期初頭	深鉢			長	×	赤褐	褐	口唇部撚糸圧痕、斜向沈線	
561	15J16			縄文	中期初頭	深鉢			長	×	褐	暗褐	半隆起線、斜向	
562	14K	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			白	×	褐	褐	波状口縁、斜向沈線	
563	16J	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢				×	褐	褐	半隆起線・斜格子	
564	14J14			縄文	中期初頭	深鉢				×	赤褐	にぶい黄褐	口唇撚糸圧痕、斜向半隆起線	
565	15・16KL	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			小砂利	×	にぶい黄褐	にぶい黄橙	斜横縦半隆起線	
566	14J19			縄文	中期初頭	深鉢			白	×	にぶい黄褐	にぶい黄橙	横半隆起線、斜格子	566同一個体
567	15J24			縄文	中期初頭	深鉢			雲・石	×	にぶい黄褐	にぶい褐	斜向半隆起線	
568	15J11			縄文	中期初頭	深鉢			長・白	×	褐色	灰褐	半隆起斜格子、平行線	
569	14J3	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			白	×	褐	明褐	縦半隆起線文	
570	15K	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢				×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	縦細半隆起線	
571	16J	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			雲	×	にぶい赤褐	赤褐	縦半隆起線	
572	15J	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			角・白	×	赤褐	明赤褐	半隆起線・斜格子回文	573同一個体
573	15K	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢				×	明黄褐	明褐	半隆起線・斜格子	572同一個体
574	15K	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			赤	×	明赤褐	にぶい黄橙	平行半隆起線、斜格子目	
575	14K	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢				×	明赤褐	明赤褐	半隆起線、格子	
576	15K	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			雲	×	赤褐	にぶい赤褐	細半隆起線、爪形、半隆起線＋浮線斜格る	
577	14K	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			雲	×	赤褐	赤褐	細半隆起線、爪形文、半隆起線＋浮線文＝斜格子	
578	15J20			縄文	中期初頭	深鉢			赤・長・白	×	明赤褐	にぶい黄橙	半隆起線文	
579	14J14			縄文	中期初頭	深鉢			白	×	明褐	にぶい黄褐	斜向半隆起線	
580	15I13			縄文	中期初頭	深鉢			白	×	褐	明褐	斜向半隆起線	
581	14J17			縄文	中期初頭	深鉢			赤	×	にぶい褐	にぶい褐	斜向半隆起線	
582	15I2			縄文	中期初頭	深鉢			長	×	橙	にぶい橙	縦、横、斜半隆起線	
583	16L	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			長・小砂利	×	明黄褐	橙	半隆起線・逆Y字	
584	15I 22	Ⅰ		縄文	中期初頭	深鉢				×	にぶい黄褐	にぶい黄褐	斜横半隆起線	
585	15M13	Ⅰ		縄文	中期初頭	深鉢			白	×	にぶい黄褐	にぶい黄褐		
586	15・16K・L	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			砂	×	にぶい黄褐	明黄褐	半隆起線	
587	14K	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			白	×	明褐	にぶい黄橙	縦半隆起線束	
588	14J8	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			長・白	×	橙	褐	半隆起線文	
589	16J	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			雲	×	赤褐	明赤褐	細半隆起線、連続くの字状	
590	15L23	Ⅱ		縄文	中期初頭	深鉢			小砂利	×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	縦鋸歯状半隆起線	
591	15J4			縄文	中期初頭	深鉢				×	にぶい黄橙	にぶい黄褐	半隆起連続縦くの字	

報告No.	グリッド	層位	遺構	種類	時期	器種	分類	口径（cm）	胎土	繊維	色調（表）	色調（裏）	文様	備考
592	15・16K・L	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			雲	×	にぶい赤褐	明褐	縦連続くの字	
593	16J	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			石	×	褐	にぶい褐	細半隆起線、爪形、細い縦沈線文	
594	14J	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			赤・白	×	褐	褐	縄文LR、綾くり	
595	14L	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢				×？	にぶい褐	にぶい黄橙	縄文RL、綾くり２列	
596	15・16KL	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			雲・石	×	褐	にぶい橙	縄文無節？	
597	14K	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			石・長	×	にぶい褐	灰褐	横、縦半隆起線	
598	12D10	Ⅰ		縄文	中期初頭	深鉢			砂	×	にぶい褐	灰黄褐	木目状撚糸（L）	
599	表土			縄文	中期初頭	深鉢			砂	×	にぶい褐	にぶい黄橙	木目状撚糸（R）	600同一個体
600	T27			縄文	中期初頭	深鉢			砂	×	明褐	にぶい褐	木目状撚糸（R）	599同一個体
601	15・16K・L	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			白・砂	×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	木目状撚糸	
602	15J5			縄文	中期初頭	深鉢			赤	×	にぶい赤褐	灰褐	木目状撚糸文L・L	
603	12J			縄文	中期初頭	深鉢			砂	×	明褐	明黄褐	木目状撚糸文（L）	
604	16L	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			砂	×	にぶい黄橙	灰黄褐	木目状撚糸文（R）	
605	15M	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			白・砂	×	にぶい黄橙	にぶい橙	縦撚糸	
606	13L	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			白・赤	×	赤褐	にぶい黄褐	縦隆帯・ヘラ状工具横連続刺突	
607	16J	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢				×	褐	橙	横半隆起線	
608	13L	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			白	×	明赤褐	褐	横区画、横連続、縦刺突	
609	13H18			縄文	中期初頭	深鉢			長	×	にぶい黄橙	褐灰	縦沈線、縄文充填LR	
610	13I3			縄文	中期後葉	深鉢			白	×	にぶい黄橙	灰黄褐	縄LR・縦沈線・すり消し	
611	15J	Ⅲ		縄文	中期後葉	深鉢			白・砂	×	橙	灰黄褐	縦隆帯	
612	15J	Ⅲ		縄文	中期後葉	深鉢			白	×	にぶい橙	にぶい黄橙	縦隆帯	513同一個体
613	14J11			縄文	中期後葉	深鉢			砂	×	にぶい橙	にぶい黄橙	縦隆帯	612同一個体
614	13L	Ⅲ		縄文	前期	深鉢				×	にぶい黄橙	にぶい黄橙		615同一個体
615	15J16			縄文	前期	深鉢				×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	曲線隆帯	614同一個体
616	12J7			縄文	中期？	深鉢			白	×	にぶい黄褐	にぶい褐	無文	
617	16J	Ⅲ		縄文	後期	深鉢				×	赤彩	灰黄褐	すり消し縄文、無文、縄文RL	赤彩
618	12E15	Ⅱ		縄文	中期後葉	深鉢			石	×	浅黄橙	にぶい黄橙	口縁部無文帯・沈線・縄文LR	
619	14J	Ⅱ・Ⅲ		縄文	前期	深鉢			白	×	褐灰	灰黄褐	縄文LR	
620	14L	Ⅲ		縄文	中期？	深鉢			白	×	灰黄褐	灰褐	口縁肥厚・縄文LR	
621	14L	Ⅲ		縄文	中期後葉	深鉢			白	×	褐灰	褐灰	口縁部無文、沈線、縄文LR	
622	14L	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢				×	灰黄褐	褐灰	口縁肥厚、無文、下縄文	
623	2L	Ⅲ		縄文	後期？	深鉢			白・砂	×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	無文	
624	15L	Ⅱ・Ⅲ		縄文	？	深鉢			砂	×	橙	にぶい黄橙	縄文？	
625	10H8			縄文	？	深鉢			砂	×	にぶい褐	にぶい橙	縄文LR	
626	14L	Ⅱ・Ⅲ		縄文	前期	深鉢			白	×	灰黄褐	褐灰	縄文？	
627	15M	Ⅱ		縄文	前期	深鉢			白	×	にぶい黄橙	灰褐	縄文LR	
628	ハイド14K20	Ⅱ・Ⅲ		縄文	？	深鉢			小砂利	×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	縄文LR	
629	14L	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢				×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	底部網状底	
630	13L	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			小砂利	×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	底部網状底	
631	15L	Ⅱ・Ⅲ		縄文	中期初頭？	深鉢				×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	縄文RL？、綱代	
632	11E16	？		縄文	早期	深鉢			白	×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細沈線	
633	11I8	？		縄文	早期	深鉢				×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハ字状沈線	
634	10I17			縄文	後期	深鉢			白	×	にぶい黄橙	灰黄褐	斜沈線	
635	10F18			縄文	？	？				×	にぶい橙	にぶい黄橙	連弧状沈線	
636	11G8			縄文	早期	？				×	灰黄褐	にぶい黄橙	沈線	
637	11F17			縄文	中期後葉	深鉢			白	×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	U字状太い沈線区画、縄文RL	
638	12H20	？		弥生？		深鉢				×	橙	にぶい黄橙	櫛描平行沈線？、２段	
639	14H16			弥生						×	橙	にぶい黄橙	櫛描平行沈線（142と同一個体）	
640	12G8	？		縄文	早期	深鉢				×	にぶい橙	にぶい黄橙	沈線	
641	12G8			縄文	早期	深鉢				×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	沈線	
642	12G14	？		縄文	早期	深鉢				×	にぶい黄橙	明黄褐	沈線	
643	12G13	？		縄文	早期	深鉢			白	×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	沈線	
644	11I8	？		縄文	早期	深鉢			白	×	浅黄橙	灰黄褐	矢羽根状沈線	
645	10I17	？		縄文	？	深鉢				×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	条痕	
646	10I17	？		縄文	？	深鉢				×	灰黄褐	褐灰	条線	
			SI1	縄文	後期	筒状土製品			長	×	橙	褐灰	数本単位の弧線・直線	
			SI1	縄文	後期	土偶			白	×	黒褐	黒褐	耳あり	
	14J3	Ⅲ		縄文	早期	深鉢				○？	灰黄褐	にぶい黄橙	沈線、貝殻刺突	
	14J	Ⅲ		縄文	中期初頭	深鉢			雲・石	×	赤褐	褐	口唇撚糸圧痕、斜格子	

別表７　大塚遺跡　掲載遺物観察表（石器）

報告No.	遺構	グリッド	層位	石　材	形　態	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重（g）	備　　考
650		13I3		チャート	石鏃	A類	28.5	22.5	4.5	1	
651		14J	Ⅱ・Ⅲ	黒曜石	石鏃	A類	20	17	5	0.5	
652		15J	Ⅱ・Ⅲ	黒曜石	石鏃	A類	19.5	13	5	1	
653		13I9		黒曜石	石鏃	A類	20	16.5	4	1	
654		11I22－1		チャート	石鏃	A類	24	18	4.5	1	
655		12G7		黒曜石	石鏃	B類	19	15.5	5	1	
656		13K21	Ⅲ	珪質頁岩	石鏃	B類	23	18.5	6	2	
657		3L		黒曜石	石鏃	B類	18	14.5	3.5	0.8	茎部欠枝
658		10M	Ⅲ	チャート	石鏃	B類	18	16	4	1	
659		10J19		無斑晶質安山岩	石鏃	C類	32	24	5	2.4	中茎欠枝
660		13J14		珪質頁岩	石鏃		35.5	25	9.5	9	未成品
661		15J11		無斑晶質安山岩	尖頭器		41	34	10	14	
662		16J	Ⅲ	珪質頁岩	石匙		38.5	52	7	12	
663		10H22		チャート	石匙		30	46	9	13.37	
664		表土		無斑晶質安山岩	不定形石器	A類	44	61	12	28.5	
665		B	Ⅰ	珪質頁岩または凝灰岩	不定形石器	A類	110	46	18	97	
666		12E11	Ⅱ	無斑晶質安山岩	不定形石器	A類	59	28	9	17	
667		11I15		無斑晶質安山岩	不定形石器	A類	33.5	65	9	19	
668		10F4		珪質頁岩	不定形石器	B類	33	48	8	8.3	
669		14J23	Ⅱ	無斑晶質安山岩	不定形石器	B類	36.5	60	11	19	
670		3K	Ⅰ	無斑晶質安山岩	不定形石器	B類	31	43.5	9	11	
671		13K	Ⅱ・Ⅲ	無斑晶質安山岩	不定形石器	B類	48	30	13	18.5	
672	96SD2	15L18		安山岩	不定形石器	B類	58	64	18	60.2	
673		12G15		流紋岩	不定形石器	B類	63	38	12	25.58	
674		12J21		無斑晶質安山岩	不定形石器	D類	78	41	13	42	
675		15M7	Ⅱ	珪質頁岩	不定形石器	D類	40	25	12	9.5	
676		15J	Ⅱ・Ⅲ	無斑晶質安山岩	不定形石器	F類	27	46	9	12.5	
677		14L	Ⅱ	無斑晶質安山岩	不定形石器	K類	69	39	23	61	
678		11I3		安山岩	不定形石器	H類	125	85	14	146	
679		11J16		安山岩	不定形石器	H類	103	56	15	84	
680		11I15		玄武岩	不定形石器	H類	88	59	13	84	
681		13I5		安山岩	不定形石器	H類	81	49	16	58	
682		11I15		安山岩	不定形石器	H類	85	51	11	57	
683		13K	Ⅲ	砂岩	両極石器		50	32	14	33	
684		16J	Ⅱ・Ⅲ	凝灰岩	両極石器		59	46	21	51	
685		10M	Ⅲ	チャート	両極石器		40	30	14	22	
686		13J	Ⅲ	チャート	両極石器		41	32.5	14	23.8	
687		13M	Ⅲ	砂岩	両極石器		46	32	9	15	
688		12J21	泥岩	凝灰岩	両極石器		47	37.5	11	20	
689	97SK110			無斑晶質安山岩	打製石斧	B類	143	55	25	192	
690		14J8		無斑晶質安山岩	打製石斧	D類	85	64	25	138	
691		10H2		無斑晶質安山岩	打製石斧	D類	88	45	20	68	
692		10H13		珪質頁岩	打製石斧	F類	88	66	29	103	
693		12L	Ⅲ	凝灰岩	石錘		35	32	9	10	
694		12K22	Ⅲ	砂岩	石錘		52	44	14	43	タタキ有り
695		14J	Ⅱ・Ⅲ	砂岩	石錘		57	51	15	45	
696		12E19	Ⅱ	安山岩	石錘		59	50	13	50	
697		15J	Ⅲ	安山岩	石錘		64	42	13	52	
698		12L	Ⅲ	砂岩	石錘		65.5	52	18	70	
699		B	Ⅰ	安山岩	石錘		57	52	15	65	
700		20D13	Ⅱ	安山岩	石錘		81	68	21.5	149.6	
701		3K	Ⅱ	凝灰岩	石錘		57	52	18	74.5	
702		10M	Ⅲ	安山岩	石錘		72	56	22	119.5	
703		-	表土	安山岩	石錘		66	52.5	19	82	
704		15K	Ⅲ	安山岩	石錘		77	50	22	94	
705		14J	Ⅲ	安山岩	石錘		72	42	17	59	
706		14K	Ⅲ	砂岩	石錘		80	50	20	106	
707		10E20		砂岩	石錘		84	42	13.5	60	
708		13L	Ⅲ	砂岩	石錘		88	40	18	68	タタキ・スリあり
709		10H12		凝灰岩	石錘		80	51	22	109	
710		11D23	Ⅲ	凝灰岩	石錘		77.5	69	50	352	
711		12F1		ハンレイ岩	磨製石斧	A類	135	50	24	276	
712		13H18		白色蛇紋岩	磨製石斧	A類	32	54	13	47	
713		C	Ⅰ	白色蛇紋岩	磨製石斧	A類	103	33	21	114	

報告No.	遺構	グリッド	層位	石　材	形　態	分類	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重（g）	備　　考
714		13K	Ⅰ	白色蛇紋岩	磨製石斧	A類	19	49	14	24	
715		15G11		白色蛇紋岩	磨製石斧	A類	56	22	22	42	
716		－		ハンレイ岩	磨製石斧	A類	61	47	20	92	
717		12H8		凝灰岩	磨製石斧	A類	49	47	23	63	
718		10H17		安山岩	磨製石斧	B類	157	77	43	885	
719		15M3	Ⅰ	安山岩	磨製石斧	B類	15	35	16	130	
720		11G3		凝灰岩	磨製石斧	B類	110	41	14	93	
721		15L13		安山岩	磨製石斧	B類	113	50	19	148	
722		15K	Ⅲ	玄武岩	磨製石斧	B類	43	52	17	54	
723		11I5		白色蛇紋岩	磨製石斧	B類	133	66	29	410	
724		12J6		白色蛇紋岩	磨製石斧	B類	116	56	25	240	
725		10H12		白色蛇紋岩	磨製石斧	B類	133	56	25	214	
726		11H12		白色蛇紋岩	磨製石斧	C類	117.5	65	23	212	
727		12J16		白色蛇紋岩	磨製石斧	B類	96	52	16	84	
728		12I15		白色蛇紋岩	磨製石斧	B類	77	56	16	110	
729		15L23	Ⅲ	白色蛇紋岩	磨製石斧	B類	77	48	17	76	
730		2L	Ⅰ	白色蛇紋岩	磨製石斧	B類	74	44.5	15	75	
731		－		白色蛇紋岩	磨製石斧	B類	67	45	15.5	67	
732		14K	Ⅱ・Ⅲ	白色蛇紋岩	磨製石斧	B類	61	38	10	39	白色できめ細かい粒子（交代変成岩）
733		－		白色蛇紋岩	磨製石斧	B類	63	45	12	55	
734		10H7		珪化岩	磨製石斧	B類	53	39	15	44	
735		10I25		ハンレイ岩	磨製石斧	B類	60	31	11	31	
736	95SI1			白色蛇紋岩	磨製石斧	B類	31	31.5	6	9	
737		15J	Ⅲ	蛇紋岩	磨製石斧	B類	37	27	9	17	
738		11G1		白色蛇紋岩	磨製石斧	B類	17	33	11	60	
739		11N21・22	Ⅲ	白色蛇紋岩	磨製石斧	B類	31	28	8	65	
740		14K	Ⅱ・Ⅲ	白色蛇紋岩	磨製石斧	B類	36	29	7	60	
741			表土	白色蛇紋岩	磨製石斧	B類	62	40	9	78	
742		7F2		頁岩	磨製石斧	B類	42	27	6	5	小形
743		3K	Ⅰ	凝灰岩	磨石類	A類	103	94	41	570	
744	95SI1			安山岩	磨石類	A類	69	60	29	146	
745		4K	Ⅲ	安山岩	磨石類	A類	158	138	46	1449	
746		11D23	Ⅲ	安山岩	磨石類	A類	98	81	51.5	513	
747		12M	Ⅲ	ハンレイ岩	磨石類	A類	102.5	84.5	37	502	
748		3K	Ⅰ	安山岩	磨石類	B類	99	87	36.5	414	
749		2K	Ⅰ	凝灰岩	磨石類	B類	92	85	42	390	
750		-	Ⅰ	凝灰岩	磨石類	B類	91	67	34	265	
751		14I17		安山岩	磨石類	B類	94	82	45	494	
752		-		安山岩	磨石類	B類	71	62	38	201	
753		13F17		安山岩	磨石類	B類	135	69	38	471	
754		12G18		安山岩	磨石類	B類	112	52	29	221	
755		10H2		安山岩	磨石類	B類	89	45	35	170	
756		11L	Ⅲ	安山岩	磨石類	B類	80	52	37	205	
757		14J		砂岩	磨石類	B類	101	67	30	209	
758		3K	Ⅰ	砂岩	磨石類	B類	92	70	37	265	
759		12E	Ⅲ	安山岩	磨石類	C類	100	82.5	52	476	
760		12L	Ⅱ	砂岩	磨石類	D類	105	64	41	389	
761		11F22		安山岩	磨石類	D類	114	64	38	346	
762		14I17		砂岩	磨石類	D類	110	92	39	520	
763		B	Ⅰ	砂岩	磨石類	D類	105	99	66	955	
764		15L19	Ⅲ	安山岩	磨石類	D類	88	56	43	287	
765		B	Ⅰ	安山岩	磨石類	E類	71.5	61	32.5	171	
766		4J		安山岩	磨石類	E類	97	81.5	52	486	
767		11H11		安山岩	磨石類	E類	98	85	45.5	344	
768		3K	Ⅰ	凝灰岩	磨石類	E類	89	76	45	316	
769		12E3	Ⅲ	安山岩	磨石類	E類	104	86	50	449	
770		10H13		安山岩	磨石類	E類	100	79	46	426	
771		13J23		安山岩	磨石類	E類	91.5	79	32.5	274	
772		12E6	Ⅲ	安山岩	磨石類	E類	95	74	29.5	267	
773		11E11		安山岩	磨石類	E類	137	104	58	1030	
774		13J	Ⅲ	安山岩	磨石類	E類	100	80	30	304	
775		12F5		安山岩	磨石類	E類	102	62	41	309	
776		表採		安山岩	磨石類	E類	94.5	76	43	424	
777		15N	Ⅱ	安山岩	磨石類	E類	76	61	51	373	
778		13K	Ⅱ・Ⅲ	安山岩	磨石類	E類	119	74	29	330	
779		13F	Ⅱ・Ⅲ	安山岩	磨石類	E類	91	54	34	166	

報告No.	遺構	グリッド	層位	石　材	形　態	分類	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重（g）	備　　考
780		11H7		安山岩	磨石類	E類	116	64	45	367	
781		2K	Ⅰ	安山岩	磨石類	E類	95	48	34	195	
782		14I21		安山岩	磨石類	E類	109	77	50	481	
783		14L	Ⅱ	安山岩	磨石類	E類	97	54	32	201	
784	97SK110			安山岩	磨石類	E類	101	71	48	382	
785		A・K	Ⅰ	安山岩	磨石類	E類	81	41	35	128	
786		10I23		砂岩	磨石類	E類	94	59	38	188	
787		15I23		凝灰岩	磨石類	E類	90	56	31	204	
788		16L	Ⅱ・Ⅲ	安山岩	磨石類	E類	107	68	31	248	
789		12F5		安山岩	磨石類	E類	97	54	36	219	
790		3K	Ⅰ	安山岩	磨石類	E類	134	61	49	299	
791		10I3		凝灰岩	磨石類	E類	152	88	58	1110	
792		12J23		安山岩	磨石類	E類	117	107	70.5	1128	
793		10J20		安山岩	磨石類	E類	105	79	41	288	
794		12F5		砂岩	磨石類	E類	128	111	40	458	
795		10F6		砂岩	磨石類	E類	93	60	28	197	
796		11H12		砂岩	磨石類	E類	77	76	21.5	178	
797		10F18		砂岩	磨石類	F類	109	78	48.5	534	
798		6I		安山岩	磨石類	F類	136	83	33	461	
799		4K	Ⅰ	砂岩	磨石類	F類	59	53.5	20	86	
800		14I17		砂岩	磨石類	F類	170	75	66	773.78	
801		14J	Ⅱ・Ⅲ	砂岩	磨石類	F類	148	42	35	279	
802		B	Ⅰ	砂岩	磨石類	F類	102	50	41	290	
803		12L2		砂岩	磨石類	F類	128	70	29	289	
804		14J11		安山岩	磨石類	F類	118	80	46	622	
805		12E18	Ⅱ	砂岩	磨石類	F類	124	61	33	310	
806		B	Ⅰ	砂岩	磨石類	F類	106	73	50	377	
807		15J	Ⅰ	砂岩	磨石類	F類	101	49	31.5	178	
808	97SK4			凝灰岩	磨石類	G類	118	71	54	670	
809		4K	Ⅰ・Ⅱ	砂岩	磨石類	G類	82	81	34.5	248	
810		3J	Ⅱ	安山岩	磨石類	G類	72.5	93.5	66	590	
811		11K	Ⅲ	白色蛇紋岩	敲石		82	41	20	124	
812		3J	Ⅱ	安山岩	磨石類？		147	169	50	1640	
813		C	Ⅰ	安山岩	特殊磨石	A類	131	47	68	550	
814		16J	Ⅱ・Ⅲ	安山岩	特殊磨石	A類	130.5	58.5	70	610	
815		10J3		凝灰岩	特殊磨石	A類	155	50	73.5	850	
816		16K	Ⅱ・Ⅲ	安山岩	特殊磨石	A類	137	44.5	57	416	
817		11D23	Ⅲ	安山岩	特殊磨石	A類	140	49.5	58.5	572	
818		3K	Ⅰ	安山岩	特殊磨石	A類	155	80	58	840	
819		14J	Ⅲ	安山岩	特殊磨石	A類	163	76	49	810	
820		14K	Ⅱ・Ⅲ	安山岩	特殊磨石	A類	89	64	66	463	
821		14J16		安山岩	特殊磨石	B類	175	80	54	1150	
822		11J15	Ⅲ	安山岩	特殊磨石	B類	127	66.5	65.5	840	
823	97SK4			安山岩	特殊磨石	B類	121.5	56	37	322	
824			表土	安山岩	特殊磨石	B類	124	56	40	432	
825		B	Ⅰ	安山岩	特殊磨石	B類	85	68.5	48.5	370	
826		16K	Ⅱ・Ⅲ	安山岩	特殊磨石	B類	92	73	59	483	
827		C	Ⅰ	安山岩	特殊磨石	B類	83.5	67	78	514	
828		13L	Ⅲ	安山岩	特殊磨石	B類	77	73.5	59	390	
829		14I17		安山岩	特殊磨石	B類	81	62	40	212	
830		12K	Ⅲ	安山岩	特殊磨石	D類	175.5	71	46	730	
831		11I14		安山岩	特殊磨石	D類	167	73	62	925	
832		11N7	Ⅲ	安山岩	特殊磨石	D類	75.5	67	66.5	312	
833		16H12		安山岩	特殊磨石	E類	135	39	50	378	
834		11I14		安山岩	特殊磨石	F類	134	65	36	439	
835		6I	Ⅲ	安山岩	特殊磨石	G類	80	52	46	224	タタキあり
836		3K	Ⅰ	安山岩	特殊磨石	H類	86.5	65.5	46.5	374	
837		13K20	Ⅲ	安山岩	石皿		352	280	67	8860	
838	95SI1			安山岩	石皿		158	194	79	2460	被熱
839		11D23	Ⅲ	凝灰岩	石皿		327	354	74	11410	
840		12E3	Ⅲ	砂岩	台石		156	110	39	764	
841		10H7		砂岩	台石		141	89	44	443	タタキ
842		10I12		砂岩	台石		157	127	130	3153	クボミ
843		14J11		砂岩	砥石		141	129	43	610	
844		16J	Ⅱ・Ⅲ	砂岩	砥石		92	82	28	205	
845		11J22		砂岩	砥石		156	151	29	800	

報告No.	遺構	グリッド	層位	石　材	形　態	分類	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重（g）	備　　考
846		16K	Ⅲ	砂岩	砥石		190.5	77	56	670	
847		16J16		砂岩	砥石		101	69	40	332	クボミ・タタキ
848		15K	Ⅲ	砂岩	砥石		73	46	38	136	筋砥石
849		15L	Ⅲ	砂岩	砥石		64	58	21	91	筋砥石
850		11I15		砂岩	砥石		85	84	27	285	クボミ・タタキあり、筋砥石
851		A	Ⅰ	砂岩	砥石		229	238.5	62	3465	筋砥石
852		A	Ⅰ	砂岩	砥石		307.5	226	75	4780	筋砥石
853	95SI1			安山岩	砥石		292	315	116	10160	
854		－		無斑晶質安山岩	ナイフ		31	20	6	2.98	
855		14J11		珪質頁岩または凝灰岩	石刃		109	48	22	112.28	
856		B	Ⅰ	珪質頁岩または凝灰岩	石核		76	82	52	385	

別表８　大塚遺跡掲載遺物観察表（古墳以降）

報告No.	グリット	層位	遺構	種類	時期	器種	口径	底径	高さ	最大径	回転方向	低部調整	体部調整	備考
857	5I10		97SI10	土師器	古墳・後	甕							内外面ハケ	
858	5I10		97SI10	土師器	古墳・後	甕							内外面ハケ 内縦ミガキ	
859			95SK11	土師器	古墳・後	甕							内ハケ	
860	16J	Ⅲ		土師器	古墳・中	甕		2.4						底部
861	15M3	Ⅱ		土師器	古墳・中	高杯								
862	19I3			土師器	古墳・中～後	甕		5.4						底部ケズリ
863	16M	Ⅲ		土師器	古墳・中	甕		4.8						
864	15K	Ⅱ・Ⅲ		土師器	古墳・後	甕	19.5	8.3	〔23.4〕				内外-ハケ	底 外-ケズリ
865	15M13	Ⅰ		土師器	古墳・後	甕？	〔16.8〕						ヨコナデ	
866	15M13・B	Ⅱ		土師器	古墳・後	甕	12.7						口縁-ナデ	赤色粒含む
867	13F13			土師器	古墳・後	甕	14						口縁-ヨコナデ 内-ハケ	
868	13D4			土師器	古墳・後	甕							内外面ハケ	
869	B	Ⅰ		土師器	古墳・後	甕		7.4						底部内外面ケズリ
870	15M3	Ⅱ		土師器	古墳・後	？		5.8					ケズリ	
871	19D4			土師器	古墳・後	鉢	14						口縁外-ヨコナデ以下ハケ 内-ハケ	
872	19D4			土師器	古墳・後	コシキ？		5.8					内-ハケ	多穴底土器
873	C	Ⅰ		土師器	古墳・後	コシキ							ケズリ	把手
874	13L	Ⅲ		土師器	古墳・後	高杯		頸径3.6						
875	14J23	Ⅱ		土師器	古墳・後	高杯							ハケ	内黒
876	C・14L	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		須恵器	古代	杯		10.4			時計	ヘラ切り	ヨコナデ	
877	15L25	Ⅰ		須恵器	古代	杯	12.8	9.8	4.1				ヨコナデ 内外面使用によるスレ	
878	3K	Ⅰ		須恵器	古代	杯	11.5	8	3.6			糸切り	ヨコナデ	
879	16H12	Ⅰ		須恵器	古代	有台杯		10			時計		ヨコナデ	
880	3K	Ⅲ		須恵器	古代	有台杯		6.5			時計	ヘラ切り	ヨコナデ	
881	3K	Ⅰ		須恵器	古代	蓋	16.2						天囲ケズリ	天囲自然釉
882	16H12・10F13	4・5・6		須恵器	古代	蓋	15.3		2.15				天囲ケズリ	白色粒目立つ
883	16H12	1b・3		須恵器	古代	蓋					時計		ヘラケズリ	
884	3J	Ⅰ・Ⅱ		須恵器	古代	長瓶								
885	13F13・11E16・10G14	Ⅲ		須恵器	古代	長瓶				24	時計	ヘラ切り	ヨコナデ	
886	3K	Ⅰ		須恵器	古代	長頸瓶		13.2					ヨコナデ	内底釉
887	14L・15M・C・12G11・16H12・6J	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		須恵器	古代	甕	18.2	12	〔26.8〕				内外面タタキ・ヨコナデ	
888	2L	Ⅰ・Ⅱ		灰釉	古代	長頸瓶		頸径4.7						
889	133			須恵器	古代	甕							波状文２段	
890	12K	Ⅱ・Ⅲ		土師器	古代	杯	12.2	6	3.3		時計	糸切り	ヨコナデ	
891	13I4・13H23・24			土師器	古代	甕	22.4		34.5		時計		ヨコナデ タタキ	外上半部スス
892	12K	Ⅱ・Ⅲ		珠洲	中世	壷R	10.8						ヨコナデ	
893	16J	Ⅱ・Ⅲ		珠洲	中世	壷T	18.3						外-タタキ 内-ケズリ ヨコナデ	
894	C－Ⅰ			珠洲	中世	壺							外-タタキ	
895	C－Ⅰ			珠洲	中世	壺							外-タタキ	
896	14K	Ⅱ・Ⅲ		珠洲	中世	甕							外-タタキ	
897	14L	Ⅱ		珠洲	中世	擂り鉢		12				不明		
898			97SK17	須恵器	古代	甕							内外-タタキ	須恵器窯跡
899			97SK17	須恵器	古代	甕							内外-タタキ	須恵器窯跡
900			97SK17	須恵器	古代	甕							内外-タタキ	須恵器窯跡
901			97SK17	須恵器	古代	甕							内外-タタキ	須恵器窯跡
902			97SK17	須恵器	古代	甕							内外-タタキ	須恵器窯跡
903			97SK17	須恵器	古代	甕							内外-タタキ	須恵器窯跡
904			97SK17	須恵器	古代	甕							内外-タタキ	須恵器窯跡
905			97SK17	須恵器	古代	甕							内外-タタキ	須恵器窯跡
906			97SK17	須恵器	古代	甕							内外-タタキ	須恵器窯跡
907			97SK17	須恵器	古代	甕							内外-タタキ	須恵器窯跡
908			97SK17	須恵器	古代	甕							内外-タタキ	須恵器窯跡
909			97SK17	須恵器	古代	甕							内外-タタキ	須恵器窯跡

図　　版

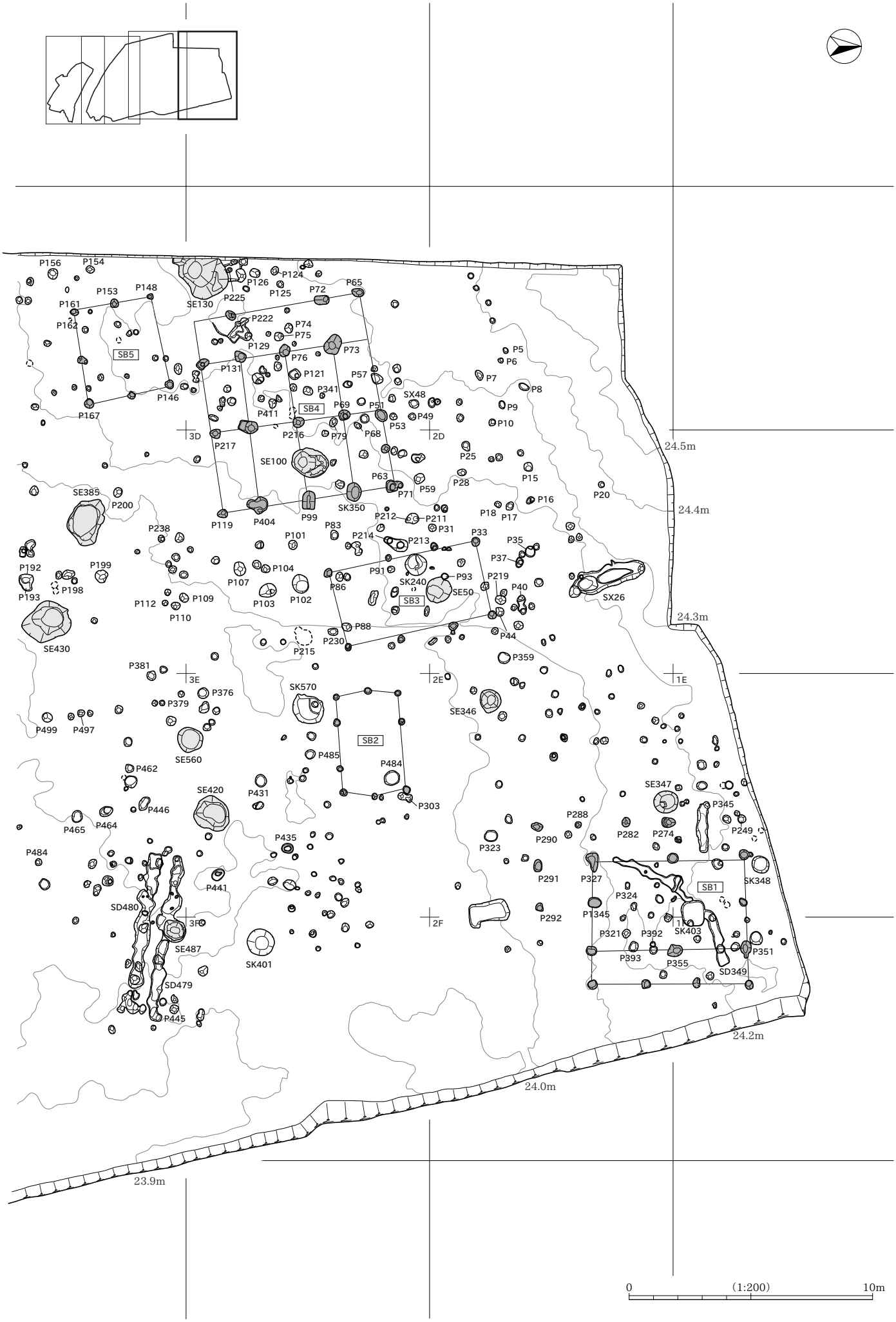
凡　　例

1　土器図版において断面黒つぶしは須恵器である。

2　大塚遺跡土器図版において、断面アミ掛けのあるものは胎土に繊維を含むことを示す。

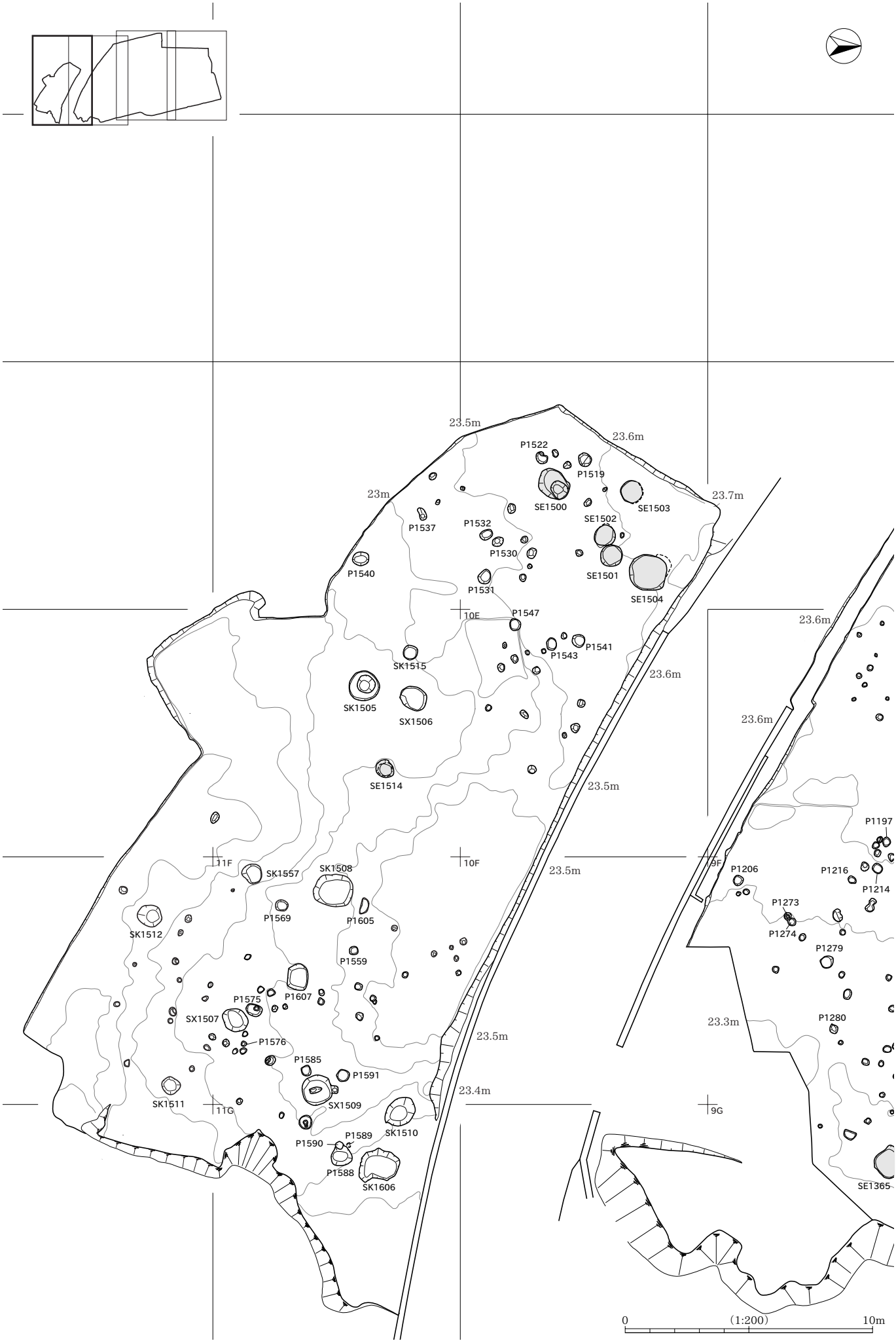
3　その他のアミ掛け等の凡例は各図版に示す。

1995 調査範囲
1996 調査範囲
Ⅵ層
小グリッドの配置
1 2 3 4 5
6 7 8 9 10
11 12 13 14 15
16 17 18 19 20
21 22 23 24 25
0
15m
(1：300)


P156
P154
P153
P148
P161
P162
SB5
P146
P167
SE130
P225
P126
P124
P125
P72
P65
P222
P74
P75
P129
P73
P76
P131
P121
P57
P341
P411
SB4
P69
P51
P53
P49
SX48
P5
P6
P7
P8
P9
P10
3D
P217
P216
P79
P68
2D
24.5m
SE100
P25
P15
P63
P28
P71
P59
P16
P20
SE385
P200
P119
P404
P99
SK350
P212
P211
P18
P17
24.4m
P238
P101
P83
P214
P213
P31
P33
P35
P192
P199
P198
P193
P107
P104
P91
P86
SK240
P93
P219
P37
P40
SX26
P112
P109
P110
P103
P102
SB3
SE50
24.3m
SE430
P88
P230
P215
P44
P359
P381
3E
P376
P379
SK570
2E
1E
SE346
P499
P497
SB2
SE560
P485
P484
P462
SE420
P431
P303
SE347
P345
P446
P465
P464
P435
P288
P290
P282
P274
P249
P323
P484
P441
P291
P327
SK348
SB1
P324
SD480
3F
2F
P292
P1345
SK403
P321
P392
SE487
SK401
P393
P355
P351
SD349
SD479
P445
24.2m
24.0m
23.9m
0
(1:200)
10m

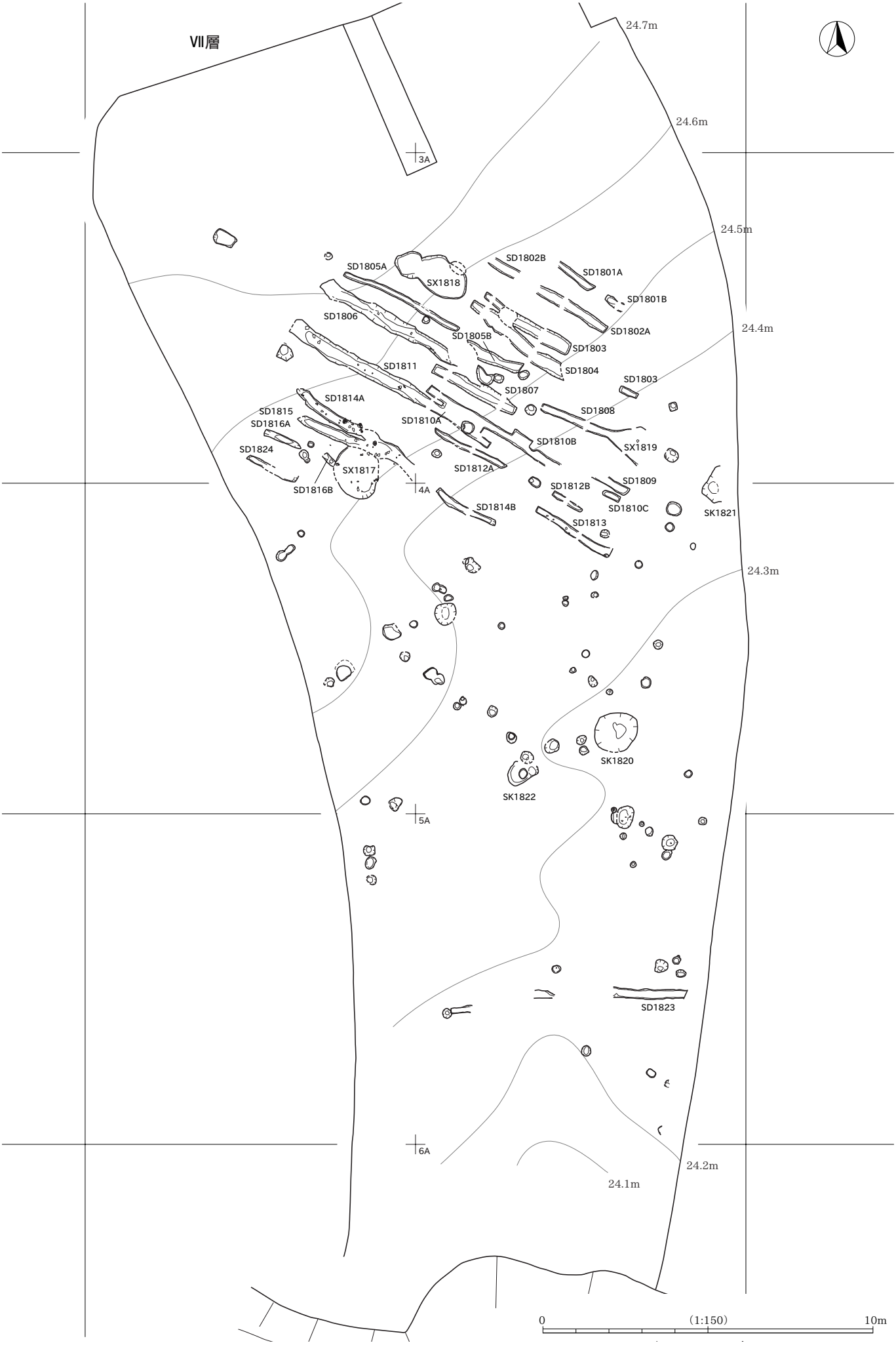
24.0m
23.8m
23.5m
23.7m
23.8m
23.8m
23.4m
0
(1:200)
10m
SD700-2
SD700-3
SD700-4
SD700
SD700-5
SD530
SD640
SD370
SD1315
SB7
SB8
SB6
SE580
SE590
SE1248
SE1247
SE600
SE1386
SE660
SE650
SE1244
SE1245
SE1249
SE476
SE490
SE550
SE496
SE670
SE1387
SE610
SE1241
SE1389
SE1390
SE900
SE385
SE456
SE430
SE630
SE620
SE1250
SE1240
SK475
SK1384
SK1243
SK1180
SK1130
SK1332
SK1316
SK500
SK1150
SK1140
SK1388
SX520
SK510
P716
P713
P1361
P1362
P724
P730
P681
P679
P686
P746
P752
P753
P789
P782
P702
P697
P698
P797
P793
P770
P803
P1337
P807
P802
P1334
P1333
P1319
P1320
P905
P1252
P1354
P1239
P1242
P1238
P898
P1190
P946
P940
P937
P909
P957
P828
P834
P1366
P833
P832
P838
P845
P855
P820
P864
P969
P967
P977
P979
P986
P983
P926
P990
P988
P927
P930
P1357
P1370
P1375
P880
P886
P887
P1343
P601
P585
P586
P587
P589
P576
P581
P607
P604
P641
P596
P653
P614
P611
P540
P567
P568
P691
P582
P639
P664
P623
P631
P628
P625
P637
P553
P551
P538
P188
P203
P192
P210
P193
P204
P206
P199
P198
P156
P154
P161
P162
P167
P169
P499
P497
P464
P465
P484

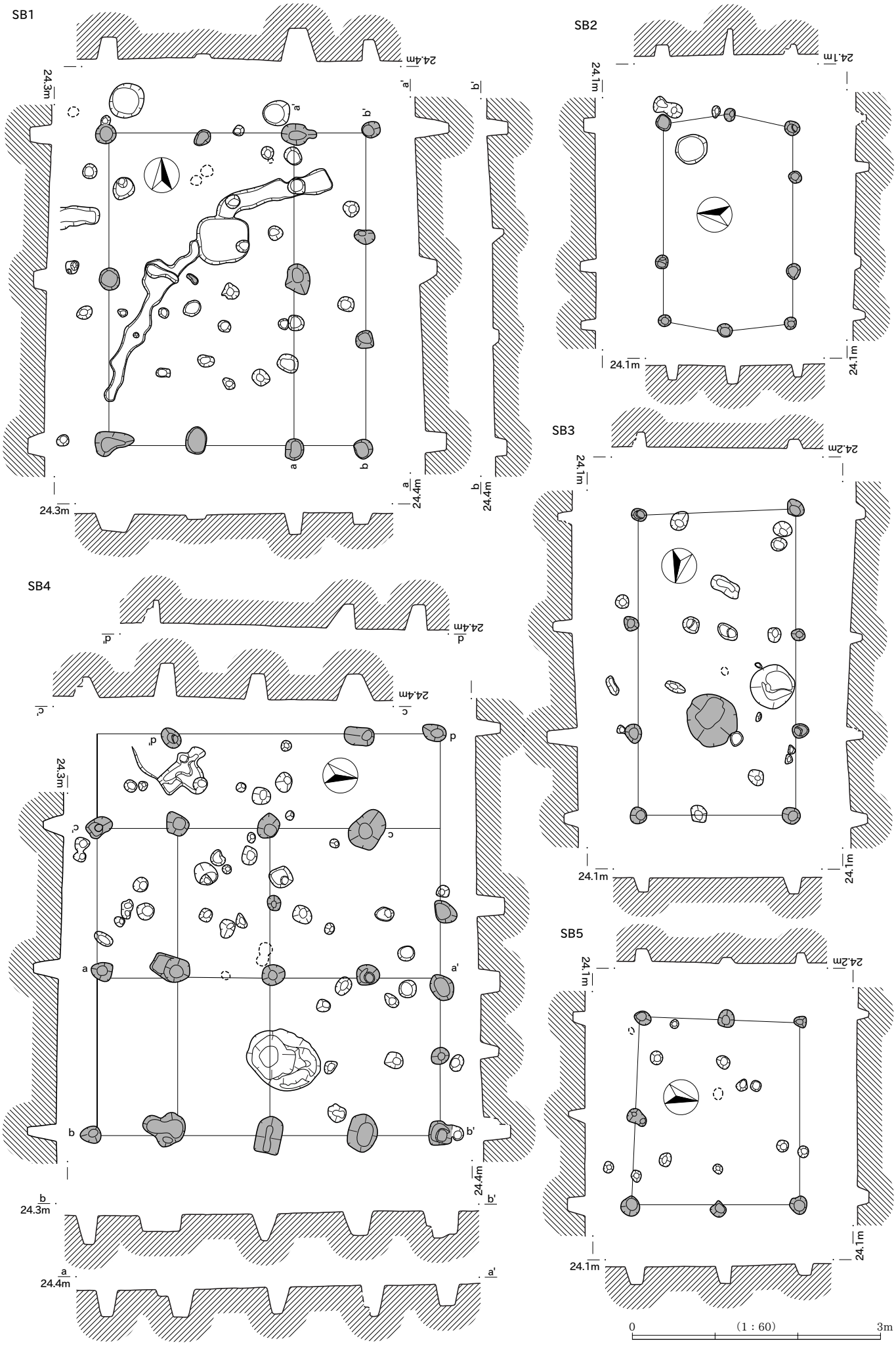
23.8m
23.8m
23.8m
23.7m
23.7m
23.6m
23.6m
23.6m
23.6m
23.5m
23.5m
23.3m
23.4m
SE580
SE590
P724
P752
P753
P1015
P1020
P1019
7D
SE600
P789
P1030
P1023
P1031
P1051
SK1261
SE1260
P797
P793
P1519
P764
SE1500
SE1503
SE1502
SK1393
SE1391
P1042
P1337
SE1386
P803
P770
SE1110
P807
SE660
SE1120
P1093
P802
SE1385
SE1501
P1085
P1098
P1334
SE1504
8E
7E
SE1245
P1333
SE1244
SK1243
SE1246
P1136
P1541
P1125
P946
P937
P940
P957
P1171
P1162
P1158
P995
P1182
P1176
P1194
P1186
P969
P1193
P1197
P1211
P1188
P1187
P1192
8F
7F
P1007
P977
P1206
P1214
P1204
P1216
P1207
P1203
SE1249
P1273
P1236
P979
P1274
P1013
SK1313
P986
P1279
P1357
P1338
P1233
P1235
P1230
P990
P1314
P1370
P1271
P1272
P1232
P1280
SK1000
P1349
9G
8G
7G
SK1388
SK1392
SE1365
SE1364
0
(1:200)
10m

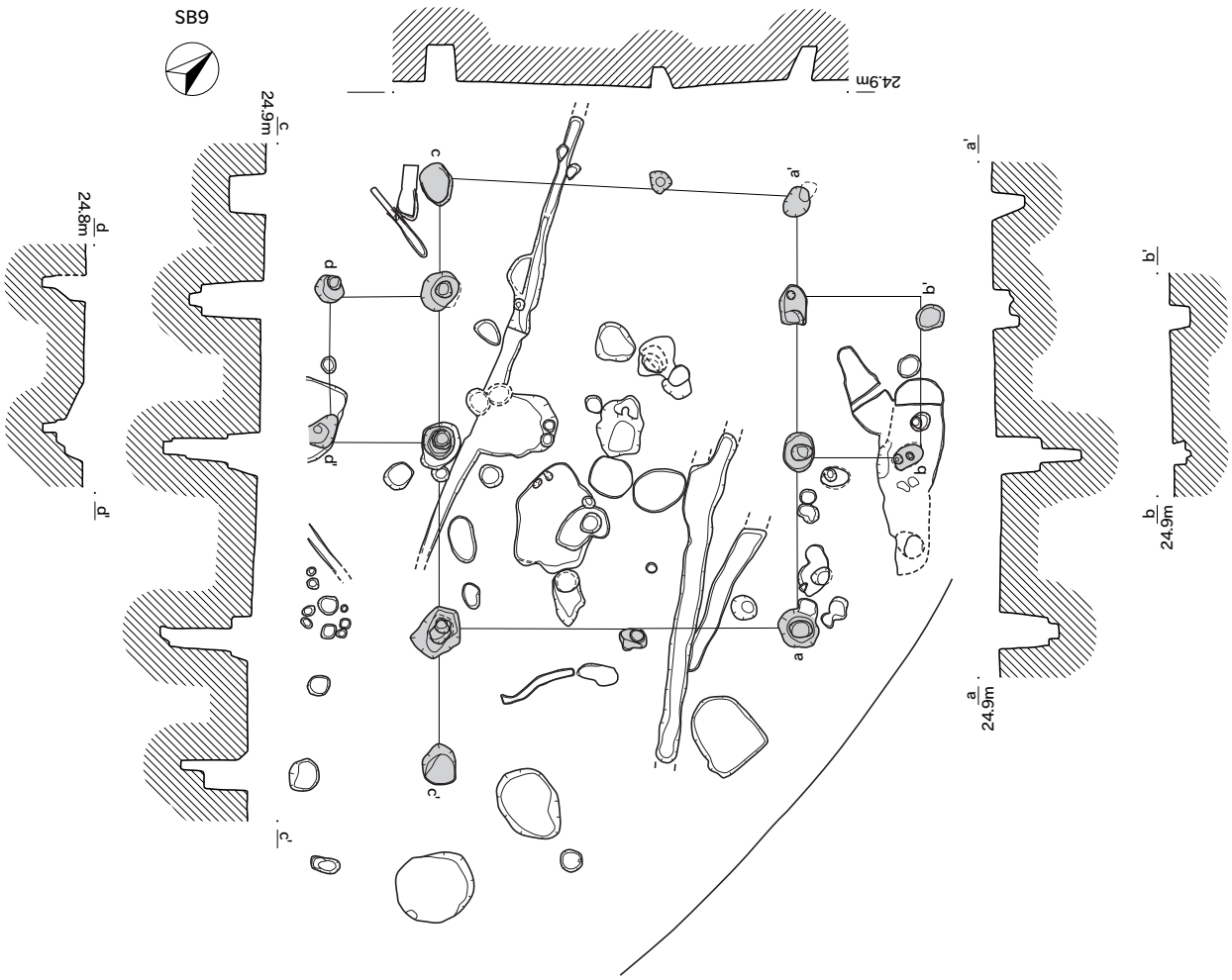

23.5m
23.6m
23m
23.7m
P1522
P1519
SE1500
SE1503
SE1502
P1537
P1532
P1530
P1540
SE1501
P1531
SE1504
10E
P1547
P1541
P1543
SK1515
SK1505
SX1506
23.6m
23.6m
23.6m
SE1514
23.5m
P1197
11F
SK1557
SK1508
10F
23.5m
9F
P1206
P1216
P1214
P1273
P1569
P1605
SK1512
P1274
P1279
P1559
P1607
P1575
SX1507
23.3m
P1280
P1576
23.5m
P1585
P1591
23.4m
SK1511
11G
SX1509
9G
SK1510
P1589
P1590
P1588
SK1606
SE1365
0
(1:200)
10m

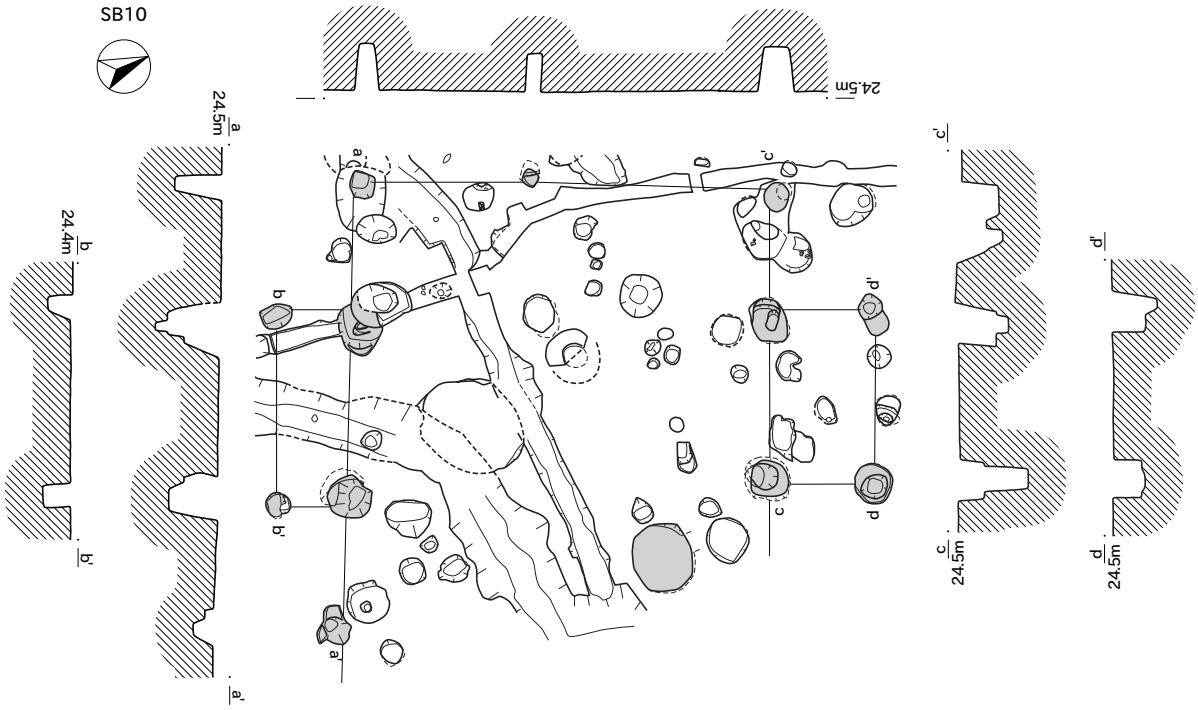
Ⅵ層
25.0m
24.9m
24.8m
24.7m
24.6m
24.5m
24.4m
24.3m
24.2m
24.1m
SX1701
SX1702
SX1726
SX1727
SD1749A
SD1749B
SD1743A
SD1743B
SD1744
SD1745
SD1746
SD1747
SD1748A
SD1748B
SD1750
SD1751
SD1752
SD1753
SB9
SB10
SB11
SK1703
SK1704
SK1705
SK1706A
SK1707
SK1708
SK1709
SK1710
SK1713
SK1714
SK1715
SK1722
SK1723
SK1724
SK1725
SK1729
SK1729 (A·B)
SK1730
SK1733A
SK1733B
SK1734
SK1735
SK1736A
SK1736B
SK1736C
SK1737
SK1738
SK1739
SK1740A
SK1740B
SK1741
SK1742
SE1711
SE1712
SE1713
SE1717
SE1718
SE1719
SE1720
SE1728
SE1731
SE1732
3A
3AP13
3AP7
4A
4AP50b
4AP62
4AP16
4AP19a
4AP19b
4AP35
4AP34
4AP26
5A
5AP4
6A
0
(1:150)
10m

海道遺跡　96年度Ⅶ層遺構分割図

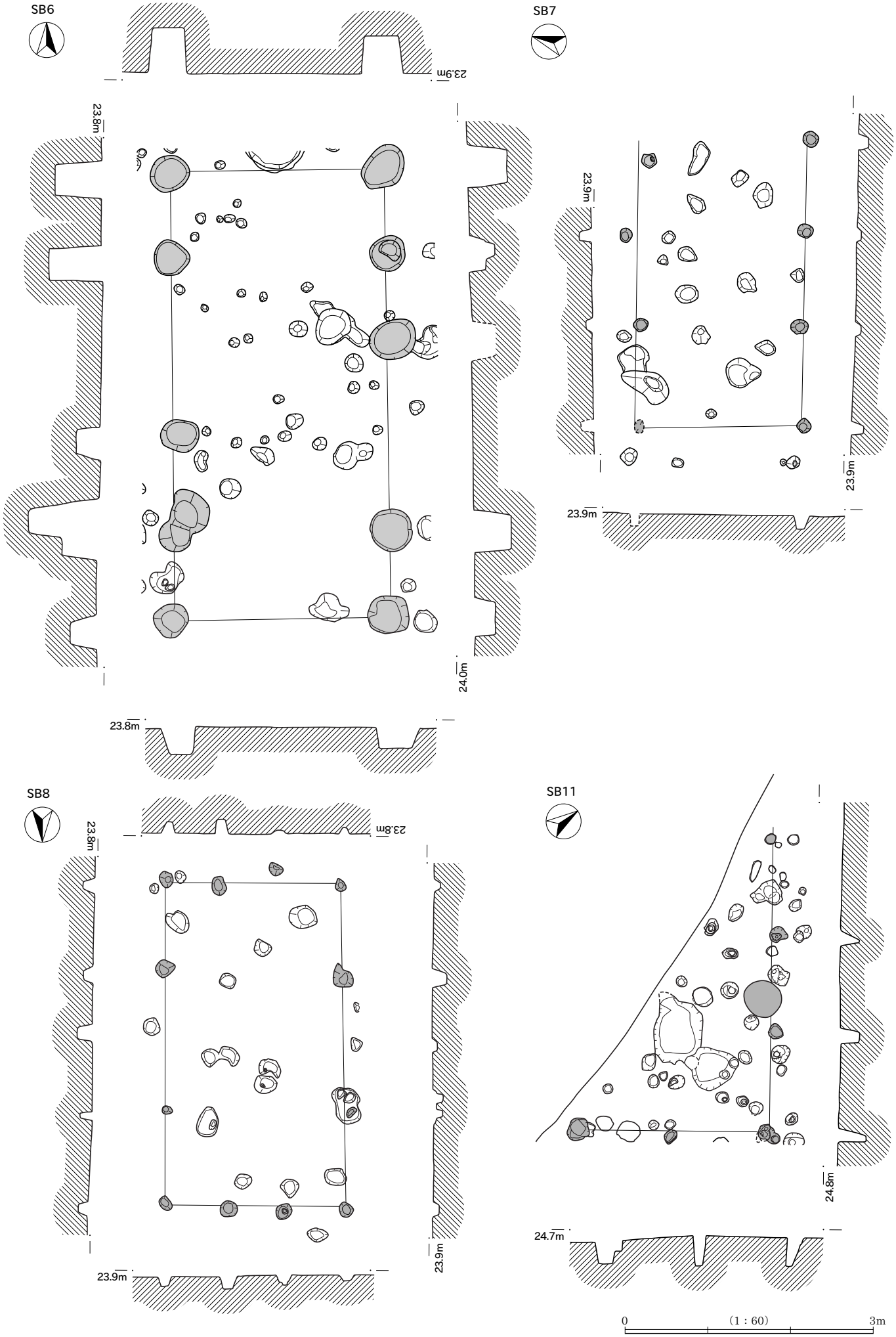



SB1
SB2
SB3
SB4
SB5
24.3m
24.4m
24.1m
24.2m
a
a'
b
b'
c
c'
d
d'
0
(1：60)
3m

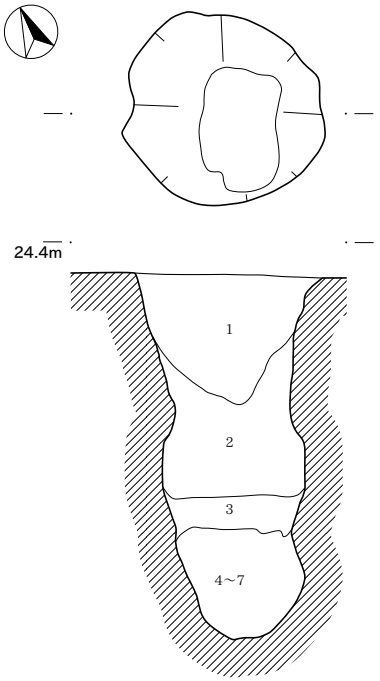

SB9
24.9m
a
a'
b
b'
c
c'
d
d'
24.9m
24.9m
24.8m
24.9m


SB10
24.5m
a
a'
b
b'
c
c'
d
d'
24.5m
24.4m
24.5m
24.5m

0　（1：60）　3m

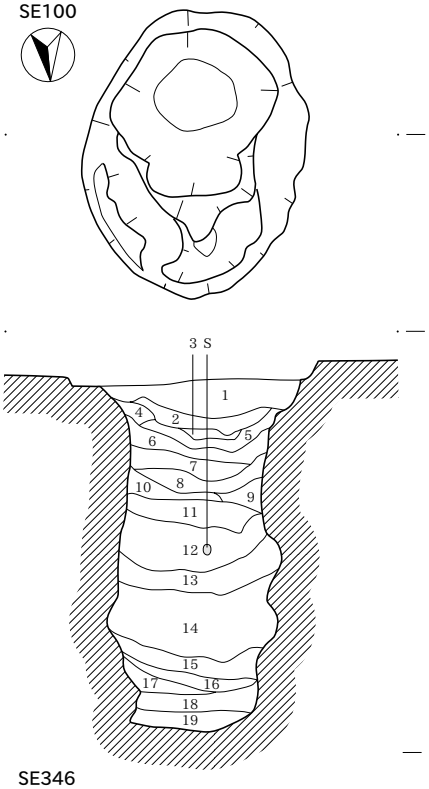

SB11
24.7m
24.8m
SB8
23.9m
23.8m
23.8m
23.9m
SB7
23.9m
23.9m
SB6
24.0m
23.8m
23.8m
23.9m
0
(1 : 60)
3m

SE50



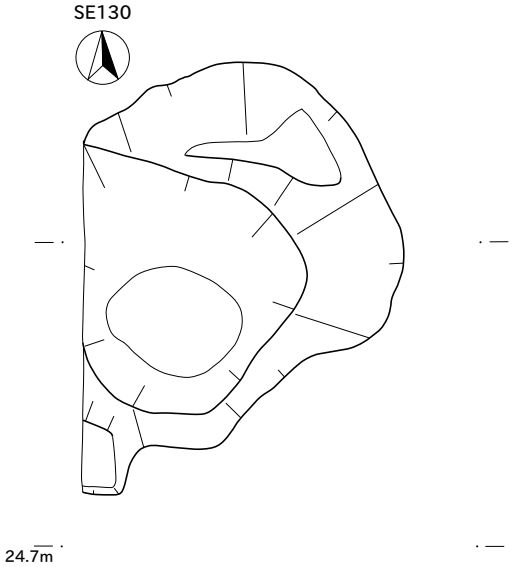
SE50
1　暗褐色土　粘性・しまりあり　炭化物含
2　暗褐色粘質土　しまり弱　炭化物含
3　赤褐色シルト質土　粘性・しまりあり　鉄分沈着
4　濃暗褐色（コゲ茶）　粘質土　しまり弱　鉄分含
5　青灰色粘質土（灰色強）　しまりなし　鉄分含
6　黒色炭層
7　黒青灰色粘質土（腐植土層）　しまりなし　鉄分含

SE100

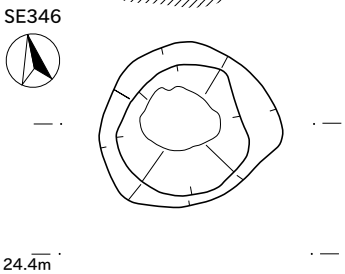


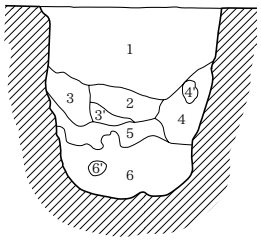
SE100
1　濃暗褐色土（黒色強い）　粘性・しまりあり　炭多
　遺物多量
2　暗褐色土＋黄褐色ブロック（炭層に近い）　粘性なし
　しまりあり　炭多
3　暗褐色土（2と同じ色調の炭層）　赤紫に変色した廃土
4　濃暗褐色土（1とほぼ同じ）
5　暗黄褐色ブロック土（1～3cm程の明黄色ブロック）
6　暗褐色土　（1cm程の明黄色ブロック）　炭含
7　暗黄褐色土　オリーブ灰
8　濃暗褐色土　大粒の炭
9　濃暗褐色土（8よりやや黄味がかっている）　大粒の炭
10　濃暗褐色土（7より茶色味強い）
11　濃暗褐色土（10にほぼ同じ）
12　濃黒褐色土（色調1に同じ）　粘性あり　しまりややあり
13　濃オリーブ褐色粘質土　しまりややあり
14　濃暗褐色粘質土　しまり弱　黒炭色（炭混じり）ブロック
15　濃青灰色粘土　しまり弱　炭混じる
16　暗青灰色粘土　しまり弱　鉄分多
17　青灰色粘土　しまりなし　暗褐色粘土ブロック混入
18　灰黒色粘土　しまりなし
19　灰黒色粘土（18より黒い）　しまりなし　未分解有機物多

SE130



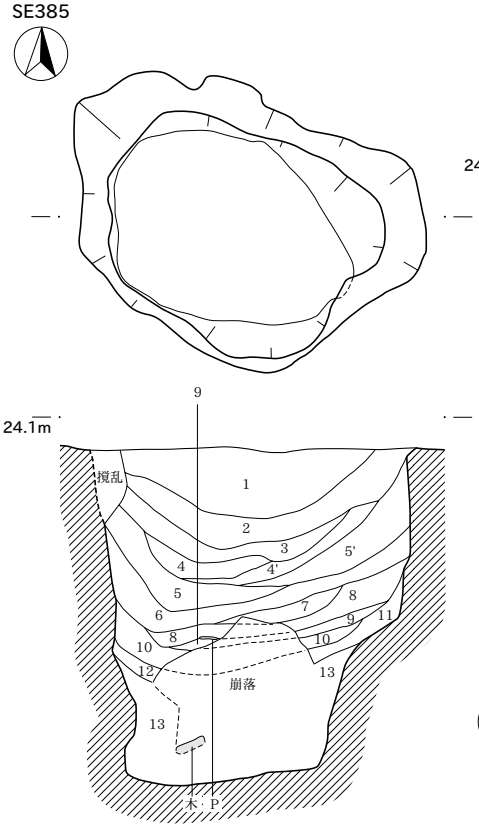
SE346





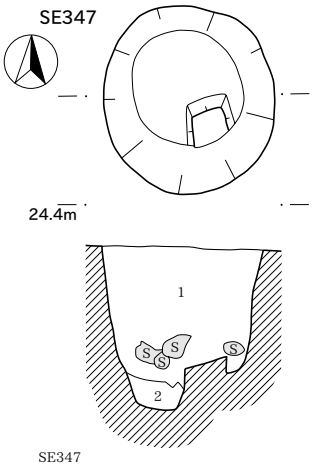
SE346
1　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり　炭少
2　濃暗褐色粘土　粘性・しまりあり　炭少
3　オリーブ灰色粘土　粘性・しまりあり
3'　明黄褐色粘土　粘性・しまりあり
4　暗褐色＋黄褐色ブロックシルト質土　粘性・しまあり
4'　濃青灰色粘土　粘性・しまりあり
5　濃暗褐色粘土（2より暗い）　粘性あり　しまりややあり
　炭少
6　濃灰色粘土　粘性あり　しまりややあり
6'　灰色粘土　粘性・しまりあり

SE385



SE385
1　暗褐色土　粘性少　しまりあり　炭化物少
2　暗褐色土（1よりやや暗）　粘性少　しまりあり　炭化物少
　1～3cm橙褐色ブロック
3　黒褐色土　粘性少　しまりややあり　炭化物・焼土少
4　黒褐色土　粘性ややあり　しまり弱　炭化物少
4'　黒褐色土（やや青み）　粘性ややあり　しまり弱
5　黒色土（灰の固まった感じ）　粘性少　しまり弱　炭化物少
5'　濃暗褐色土　粘性ややあり　しまり弱
6　灰色土＋黄白色土　粘性・しまりややあり　炭化物少
7　紫灰色土　粘性少　しまりややあり　炭化物少　小粒礫多
　に橙褐色粒含む
8　灰褐色土　粘性あり　しまり弱　炭化物少
9　黒色炭層　粘性あり　しまり弱　炭化物少
10　濃灰色土　粘性あり　しまり弱　炭化物少
11　濃灰色土　粘性あり　しまり弱　炭化物少　小粒礫多
12　茶黄褐色　粘性あり　しまり弱　炭化物少
13　青灰色粘土と濃暗褐色粘土のブロック　粘性あり
　しまり弱　炭化物少

SE347

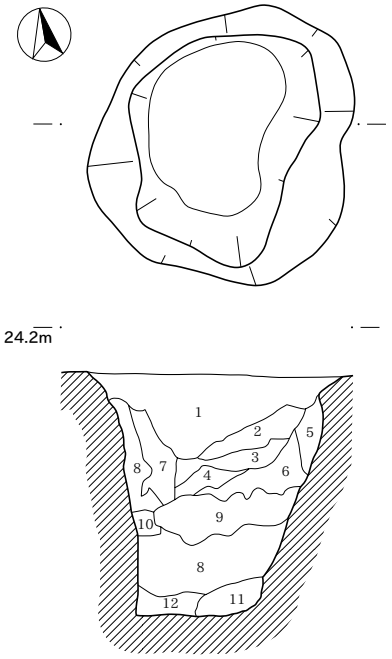


SE347
1　暗褐色粘質土　濃灰色粘土ブロック状　炭少
　粘性ややあり　しまり強
2　黄白色粘土ブロック　粘性あり　しまりややあり

SE130
1　暗褐色土（2よりやや薄い）　粘性ややあり　しまりあり
2　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり
3　薄暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり
3'　暗黄褐色土（オリーブ色）　粘性・しまりややあり
4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりあり
5　暗褐色土（2より明るい）　粘性・しまりややあり　黄褐色ブロック混入
6　暗灰色粘質土　粘性ややあり　しまりあり
7　暗褐色土　粘性・しまりややあり
8　暗褐色粘質土（2に近い色調）　粘性あり　しまり弱
9　濃暗褐色粘質土・炭層　しまり弱
10　暗褐色粘質土　しまり弱
11　濃暗褐色粘質土・炭層　しまり弱
12　暗褐色粘質土　しまり弱
13　濃暗褐色粘質土　しまり弱
14　黒色炭化層（砂質？）　粘性・しまりなし、漆紙出土
15　濃暗褐色粘質土　粘性あり　しまりなし
16　黒色炭化層　粘性あり　しまりなし
17　濃暗灰色粘土　しまりややあり

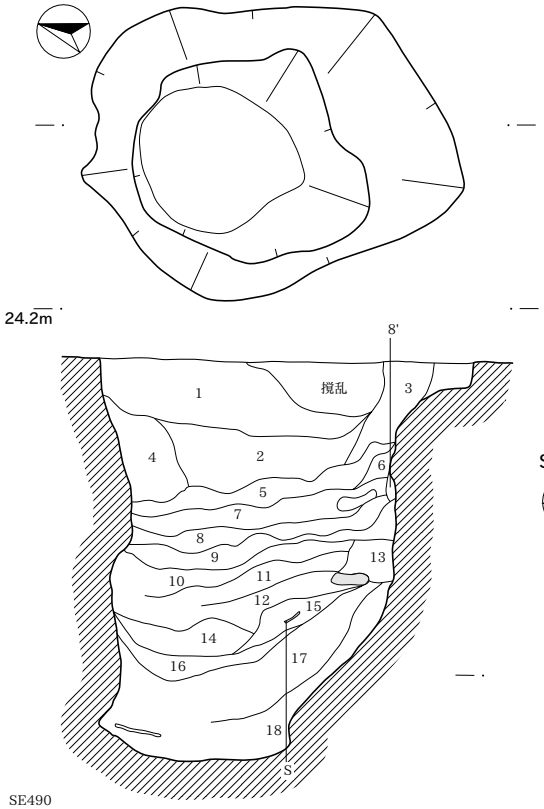
0　（1：40）　2m

SE420



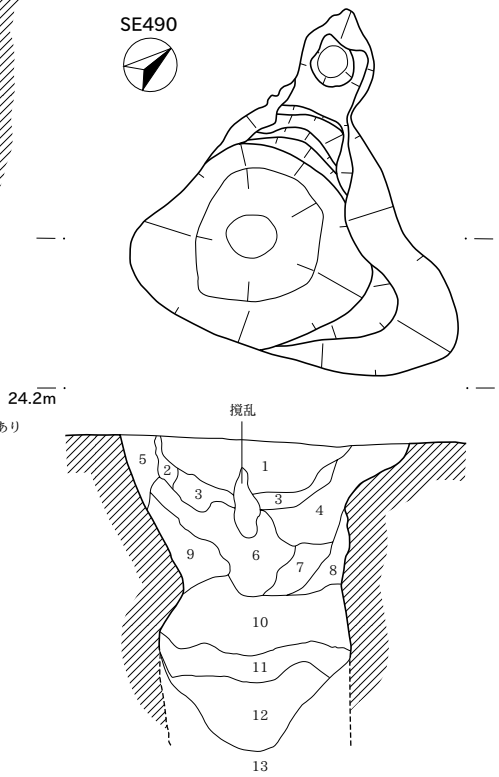
SE420
1　暗褐色　黄色粒少量　しまりあり
2　濃暗褐色　粘性少　しまりあり
3　暗褐色（灰）　粘性少　しまりあり
4　暗褐色（灰）　黄褐色ブロック　粘性・しまりややあり
5　暗褐色　粘性少　しまりあり
6　暗灰褐色　下部近くはマンガン粒　粘性少　しまりあり
7　暗褐色（黄）　黄褐色粒　粘性少　しまりあり
8　黒色炭灰＋暗褐色粘土　粘性少　しまりあり
9　黄褐色＋暗褐色＋灰色土ブロック　炭多　粘性・しまりややあり
10　暗褐色粘土　粘性・しまりややあり
11　灰色粘土　白色粘土ブロック　粘性ややあり　しまり弱
12　8にほぼ同じ　炭多　鉄分増　粘性・しあまりややあり

SE430



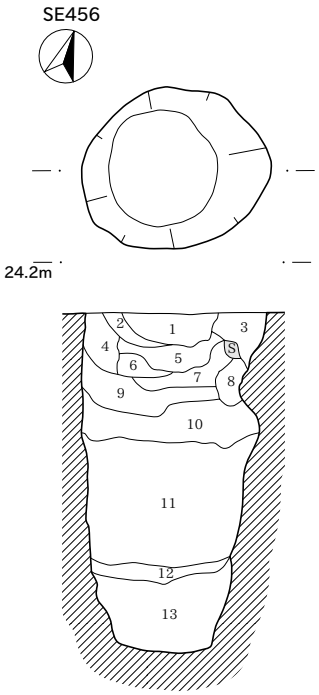
SE430
1　暗褐色　径1～8cm黄褐色土ブロック少量　粘性少　しまりややあり　大粒炭少量
2　暗褐色（灰）　粘性少　しまりややあり　大粒炭少量
3　暗褐色（1より濃い）　粘性少　しまりややあり　大粒炭少量
4　暗褐色（赤黒）　粘性少　しまりややあり　大粒炭少量
5　濃暗褐色土　粘性・しまりややあり　大粒炭少量
6　5＋黄白色のブロック　粘性・しまりややあり　大粒炭少量
7　黒灰色と黄白色の混合　粘性・しまりややあり　大粒炭少量
8　濃灰色
8'　灰色　粘性ややあり　しまり弱　大粒炭少量
9　黒色　粘性少　しまり弱
10　濃灰色　粘性あり　しまり弱　小粒炭少量
11　濃青灰色　粘性あり　しまり弱
12　翠褐色　粘性あり　しまり弱
13　赤褐色＋濃赤色　粘性・しまりややあり　鉄分多い
14　暗灰褐色　明青灰色粘土ブロック　炭化物多　粘性ありしまり弱
15　青灰色　粘性あり　しまり弱
16　黒色　粘性あり　しまりなし
17　暗灰褐色　植物腐植多　粘性少
18　濃暗褐色と濃青灰色のブロック　植物腐植多　粘性あり

SE490



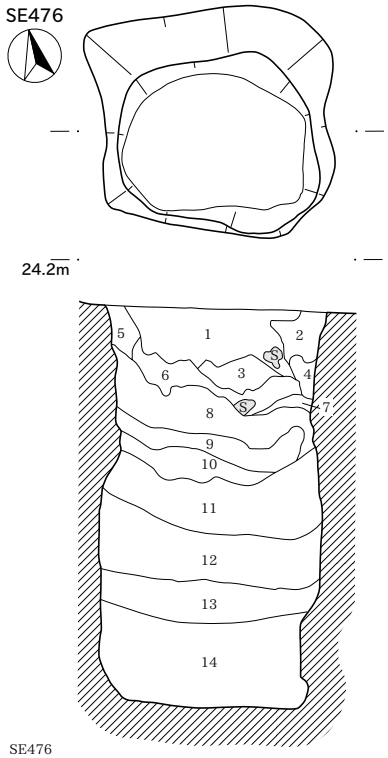
SE490
1　暗褐色　1～2粒の炭含　しまりあり
2　極薄暗褐色　拇大の黄褐色ブロック　大粒炭　しまりあり
3　濃暗褐色　拇大の黄褐色ブロック　底面に炭層
4　濃暗褐色　炭多　径3cm程の黄褐色ブロック　粘性少　しまりあり
5　黄白色＋薄暗褐色　しまりあり
6　濃暗褐色　粘土質を所々含　粘性少　しまりあり
7　濃暗褐色粘質土　粘性・しまりややあり
8　暗褐色（茶）　粘性少　しまりあり
9　濃暗褐色　黄白色ブロック多　粘性少　しまりあり
10　濃暗褐色　遺物・炭多　粘性・しまりややあり
11　暗褐色（炭）　大粒炭　粘性あり　しまりややあり
12　濃灰色＋白色粘土　大粒炭　鉄分含む　しまり弱
13　黒灰色（茶）　有機物多量に含　粘性あり　しまり弱

SE456



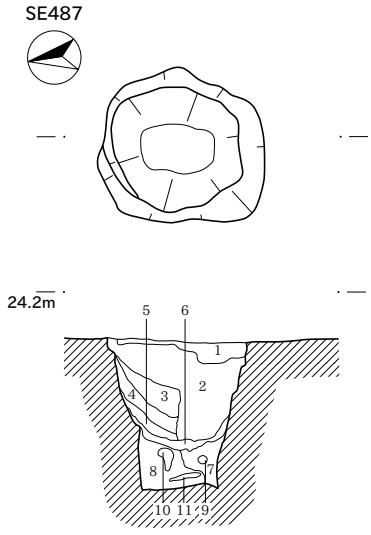
SE456
1　濃暗褐色土　粒炭・黄褐色粒　しまりあり
2　濃暗褐色土（黄）　大粒炭・黄褐色粒　しまりあり
3　濃暗褐色土（1より薄い）　しまりあり
4　茶褐色　粘性少　しまりややあり
5　黄白色＋暗褐色ブロック　粘性少　しまりややあり
6　濃暗褐色　炭多　粘性少　しまりあり
7　濃暗褐色（黄）　炭多　粘性少　しまりあり
8　濃暗褐色（1に近い）　大炭粒・黄白色粒　粘性少　しまりややあり
9　濃暗褐色（黒）　10層のブロック　炭多　粘性・しまりややあり
10　濃暗褐色（黄、7より濃い）
11　濃暗褐色（黒）　炭多＋灰色＋赤褐色
12　黒色炭層
13　青灰色＋黒色

SE476



SE476
1　暗褐色（黄）　黄褐色粒　炭化物少　しまりあり
2　黄褐色と薄暗褐色ブロック　しまりあり
3　明橙色　黄白色　暗褐色ブロック粒　粘性少　しまりあり
4　暗褐色（灰）　粘性少　しまりあり
5　薄暗褐色　黄白色　橙色粒　しまりあり
6　黄白色　薄暗褐色ブロック　粘性少　しまりあり
7　暗灰褐色　黄白色ブロック　炭　粘性少　しまりややあり
8　暗灰褐色　5に同じ　粘性少　しまりややあり
9　黄白色　シルト　粘性少　しまりややあり
10　青白色　粘性・しまりややあり
11　暗灰色と白色粘土のブロック　粘性・しまりややあり
12　暗灰色粘土　炭多　粘性ややあり　しまり弱
13　暗青灰色粘土　炭多　暗青灰色のブロック　粘性あり　しまり弱
14　黒灰色粘土　植物質多　粘性あり　しまり弱

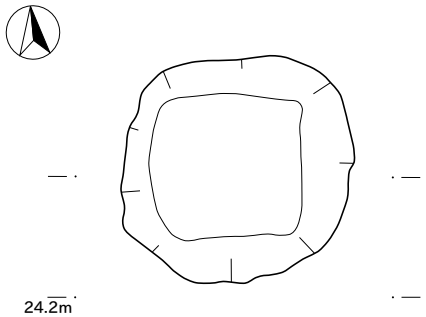
SE487

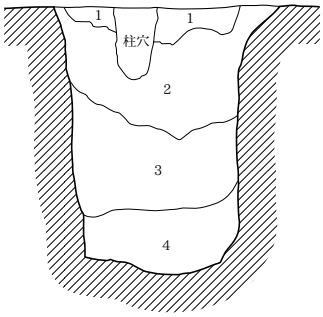


SE487
1　濃暗褐色　しまりややあり
2　濃暗褐色＋濃青灰色＋僅かに黄褐色　粘性少　しまりややあり
3　濃暗褐色＋黄褐色ブロック　粘性少　しまりややあり
4　濃青灰色＋僅かに濃暗褐色　粘性ややあり　しまり弱
5　黄褐色＋濃暗ブロック　粘性あり　しまり弱
6　濃青灰色土　粘性ややあり
7　淡青灰色土＋僅かに黄褐色土　粘性あり
8　黄褐色土＋僅かに淡青灰色　粘性ややあり　しまり弱
9　濃青灰色　粘性ややあり
10　濃青灰色　粘性ややあり　しまり弱
11　淡青灰色　粘性ややあり

0　（1：40）　2m

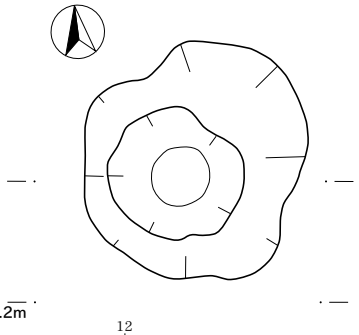
SE496

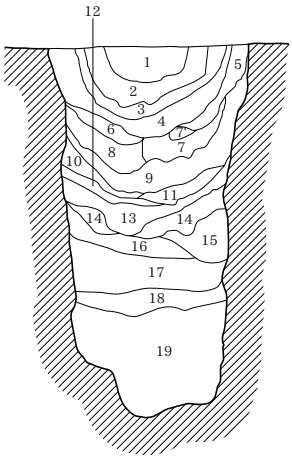




SE496
1　薄暗褐色＋濃灰色　しまりあり
2　濃灰色＋黄白色　しまりあり
3　灰色＋白色＋黄白色　粘性少　しまりあり
4　濃暗褐色＋灰色　炭　粘性・しまりややあり

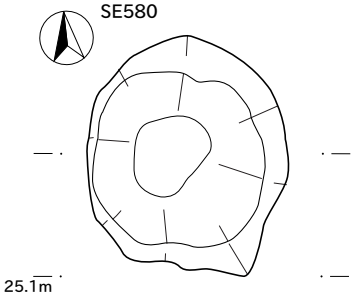
SE550

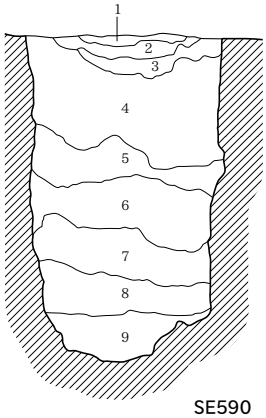




SE550
1　薄暗褐色（黒）　焼土粒　しまりあり
2　黒褐色　炭多　しまりあり
3　黄白色　しまりあり
4　薄暗褐色（黒）　焼土粒　粘性少　しまりあり
5　茶褐色　しまりあり
6　薄暗褐色（黄）　粘性少　しまりあり
7　薄暗褐色（黄）　6とほぼ同じ　大粒炭
7'　黄褐色
8　薄暗褐色（黄）　4と同じ　明橙色ブロック　大粒炭
9　薄黒褐色　大粒炭　粘性少　しまりややあり
10　黒色　炭混じり　粘性少　しまりややあり
11　薄灰褐色　粘性・しまりややあり
12　暗炭褐色粘質土　粘性・しまりややあり
13　黄色炭＋暗褐色（黒）　ブロック粘質土　粘性・しまりややあり
14　炭褐色　粘性少　しまりややあり
15　濃暗褐色　粘性・しまりややあり
16　濃灰色　粘性・しまりややあり
17　暗褐色＋赤褐色　粘性・しまりあり
18　濃青灰色　植物　炭　粘性あり　しまり弱
19　青灰色＋黒色混じり土　炭多　粘性あり　しまり弱

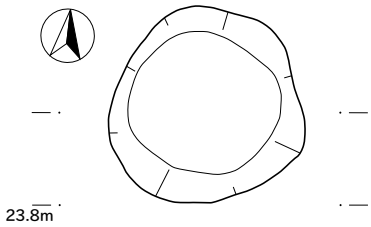
SE580

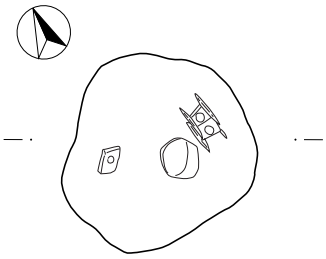


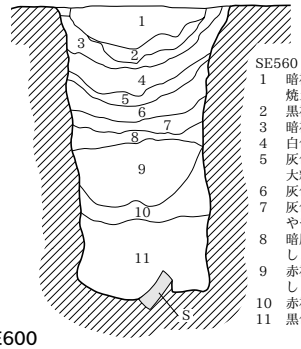


SE580
1　暗褐色土
2　青白色粘土（褐色土粒含）
3　青白色粘土（褐色土粒含）
4　暗青灰色粘土（暗褐色土と混合）
5　やや明るい暗褐色土（暗青灰＋褐色ブロック）
6　褐色土と暗青灰色の混合
7　暗青灰色粘土（褐色土ブロック）
8　明青灰色粘土
9　？

SE560

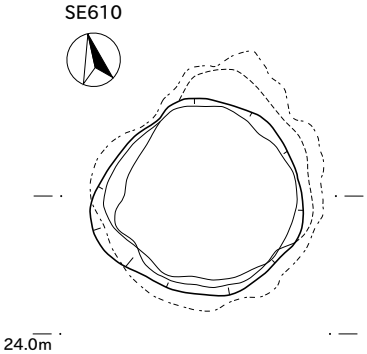


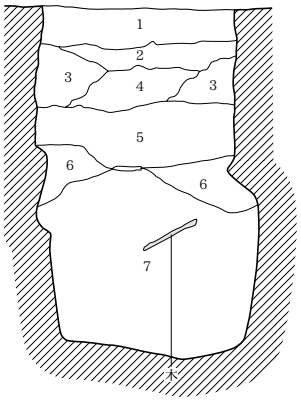




SE560
1　暗褐色　黄色粒　白色ブロック　大粒炭　焼土　しまりあり
2　黒褐色　大粒炭　白色粒　しまりあり
3　暗褐色（灰）＋白色の混じり　しまりあり
4　白色　粘性少　しまりあり
5　灰色　粒0.5～１cmの白色ブロック多　大粒炭　粘性少　しまりあり
6　灰色　粘性少　しまりあり
7　灰色　白色ブロック少量　粘性・しまりややあり
8　暗灰褐色（黒）　大粒炭　粘性ややあり　しまり弱
9　赤褐色　大粒炭　遺物多　粘性あり　しまりややあり
10　赤褐色＋黒色　粘性少　しまりややあり
11　黒色炭層粘質土をブロック状に含粘性少

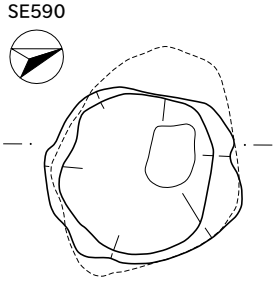
SE610

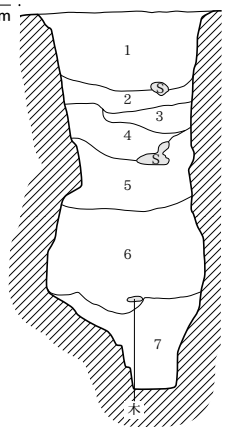




SE610
1　暗褐色土
2　褐色土　灰色・明褐色土少
3　褐色土　灰色・明褐色多
4　灰白色土　褐色・明褐色土・灰色
5　灰色（黒っぽい）　明褐色土多
6　灰色（黒っぽい）　明褐色土少
7　暗灰色＋青灰色　植物遺体　小石多　粘性あり

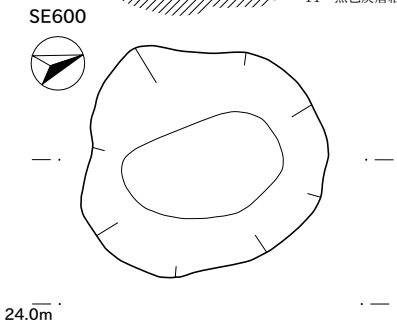
SE590

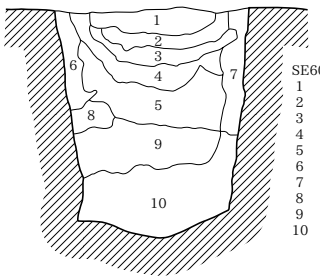




SE590
1　暗褐色（炭粒と黄白色ブック）
2　暗褐色（黄白色ブロック多）
3　黄白色ブロックと暗褐色
4　明褐色と暗褐色
5　黒褐色（粘性が強い）
6　黒褐色（やや青みがかった色）
7　？

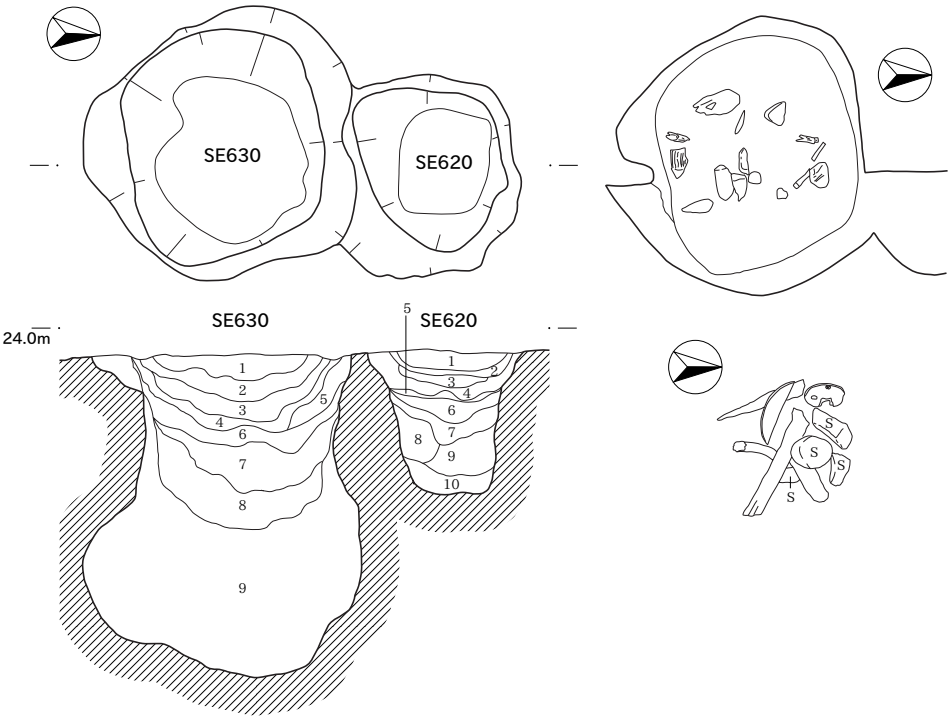
SE600





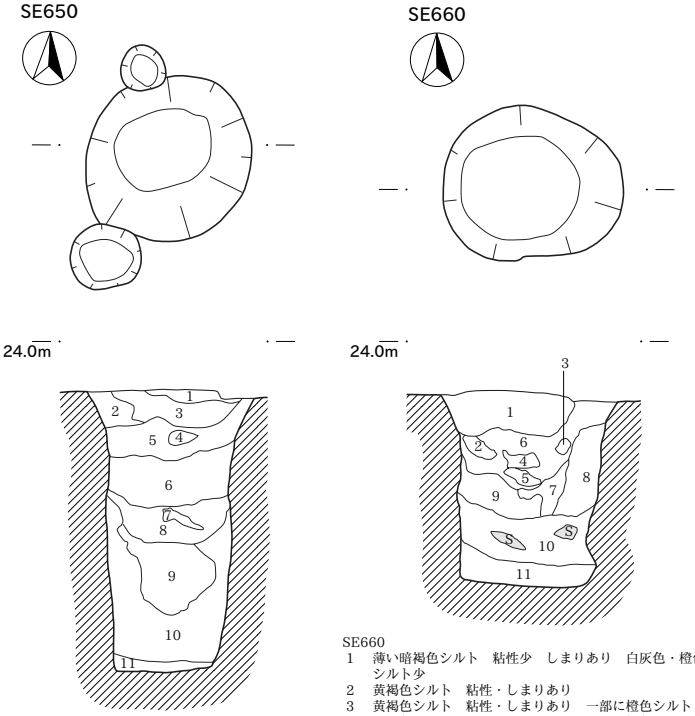
SE600
1　暗褐色土　粘性・しまりあり
2　うすい暗褐色土　粘性・しまりあり　炭少
3　暗褐色土　粘性・しまりあり　1より濃い
4　やや薄い暗褐色土　粘性・しまりあり
5　褐色土　粘性・しまりあり
6　黄褐色土　粘性・しまりあり
7　黄褐色土　粘性・しまりあり　6より濃い
8　褐色土　粘性・しまりあり
9　黄褐色土　粘性・しまりあり
10　黄褐色土　粘性・しまりあり　9より強い

0　（1：40）　2m



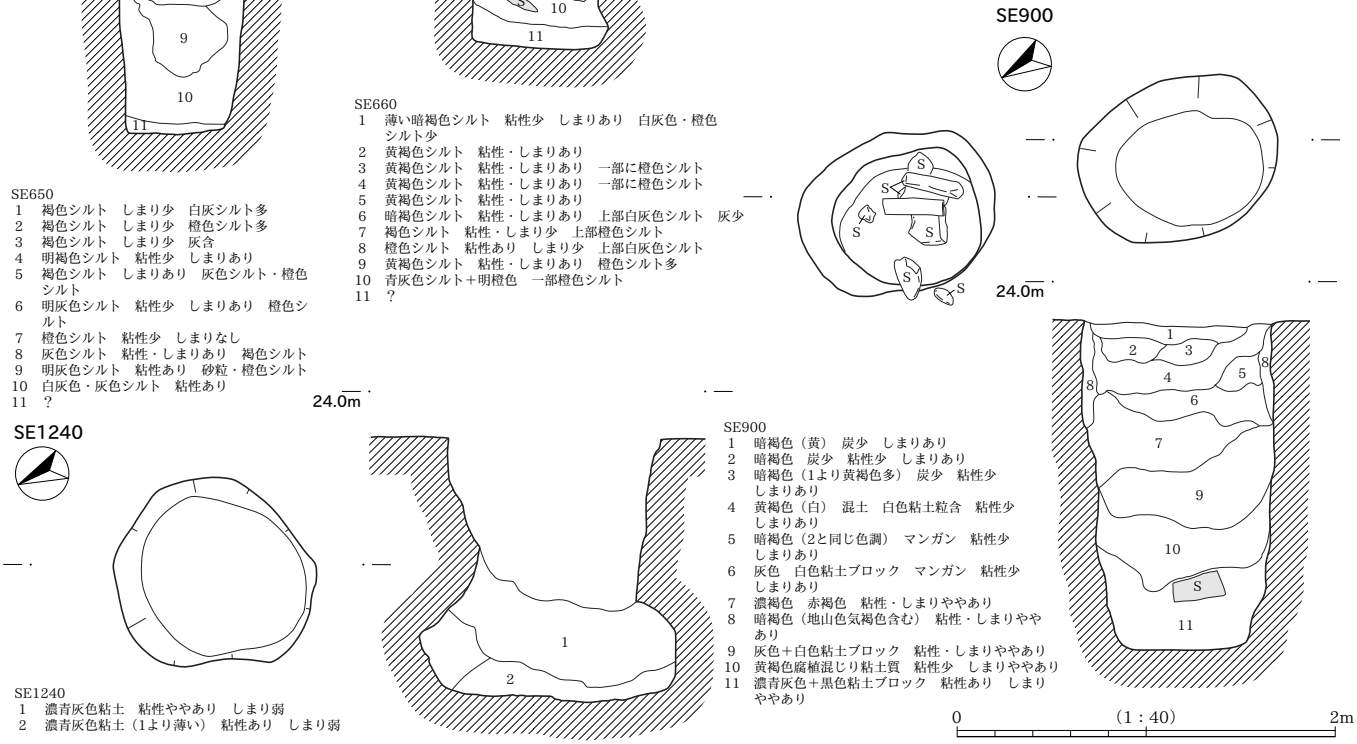
SE620
1　灰色（青）　炭少　しまりあり
2　灰色（青）＋黒色　炭多　しまりあり
3　灰色（橙）　炭多　粘性少　しまりあり
4　灰色　炭少　しまりあり
5　灰褐色（白）　炭少　粘性少　しまりあり
6　灰褐色　粘性ややあり　しまり弱
7　青灰色（灰）　粘性・しまりややあり
8　濃青灰色粘土　粘性あり　しまり弱
9　黄褐色＋濃灰色＋白色ブロック　粘性あり　しまり弱
10　濃青灰色（8より濃い）　粘性あり　しまり弱

SE630
1　灰色　炭少　しまりあり
2　黄褐色＋褐色（灰色ブロック）　炭少　粘性少　しまりあり
3　黄褐色＋褐色（2より褐色味強）　炭少　粘性少　しまりあり
4　灰褐色　炭少　粘性少　しまりややあり
5　薄黄褐色（白色ブロック）　炭少　粘性少　しまりややあり
6　濃灰褐色粘質　炭少　粘性・しまりややあり
7　濃灰褐色粘質　炭少　粘性ややあり　有機質遺物多
8　白色＋黄白色＋灰色ブロック粘質　炭少量　粘性ややあり　有機質遺物多
9　濃青灰色粘土＋黒色粘土（白色粘土ブロック）　粘性あり　有機質遺物多



SE650
1　褐色シルト　しまり少　白灰シルト多
2　褐色シルト　しまり少　橙色シルト多
3　褐色シルト　しまり少　灰含
4　明褐色シルト　粘性少　しまりあり
5　褐色シルト　しまりあり　灰色シルト・橙色シルト
6　明灰色シルト　粘性少　しまりあり　橙色シルト
7　橙色シルト　粘性少　しまりなし
8　灰色シルト　粘性・しまりあり　褐色シルト
9　明灰色シルト　粘性あり　砂粒・橙色シルト
10　白灰色・灰色シルト　粘性あり
11　？

SE660
1　薄い暗褐色シルト　粘性少　しまりあり　白灰色・橙色シルト少
2　黄褐色シルト　粘性・しまりあり
3　黄褐色シルト　粘性・しまりあり　一部に橙色シルト
4　黄褐色シルト　粘性・しまりあり　一部に橙色シルト
5　黄褐色シルト　粘性・しまりあり
6　暗褐色シルト　粘性・しまりあり　上部白灰色シルト　灰少
7　褐色シルト　粘性・しまり少　上部橙色シルト
8　橙色シルト　粘性あり　しまり少　上部白灰色シルト
9　黄褐色シルト　粘性・しまりあり　橙色シルト多
10　青灰色シルト＋明橙色　一部橙色シルト
11　？



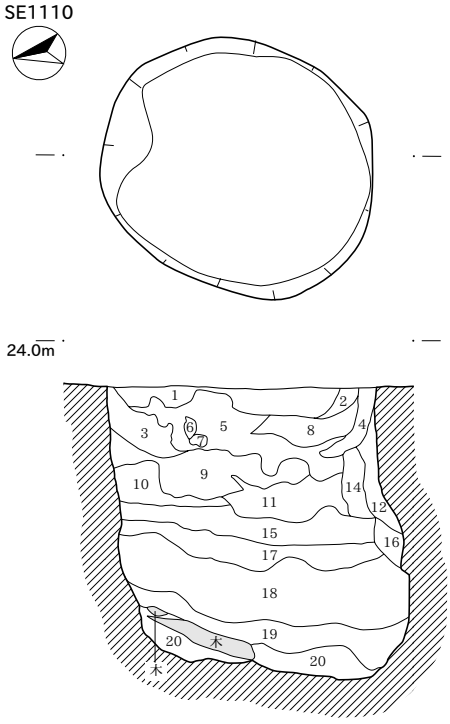
SE670
1～16　不明
17　濃青灰色粘土　粘性あり　しまり弱
18　青灰色粘土＋黒色粘土　粘性あり　しまり弱

SE900
1　暗褐色（黄）　炭少　しまりあり
2　暗褐色　炭少　粘性少　しまりあり
3　暗褐色（1より黄褐色多）　炭少　粘性少　しまりあり
4　黄褐色（白）　混土　白色粘土粒含　粘性少　しまりあり
5　暗褐色（2と同じ色調）　マンガン　粘性少　しまりあり
6　灰色　白色粘土ブロック　マンガン　粘性少　しまりあり
7　濃褐色　赤褐色　粘性・しまりややあり
8　暗褐色（地山色気褐色含む）　粘性・しまりややあり
9　灰色＋白色粘土ブロック　粘性・しまりややあり
10　黄褐色腐植混じり粘土質　粘性少　しまりややあり
11　濃青灰色＋黒色粘土ブロック　粘性あり　しまりややあり

SE1240
1　濃青灰色粘土　粘性ややあり　しまり弱
2　濃青灰色粘土（1より薄い）　粘性あり　しまり弱

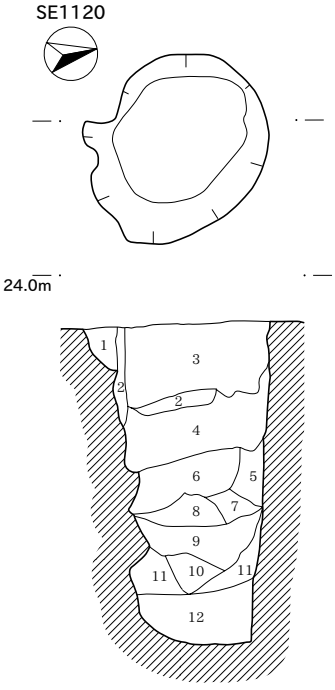
0　（1：40）　2m

SE1110



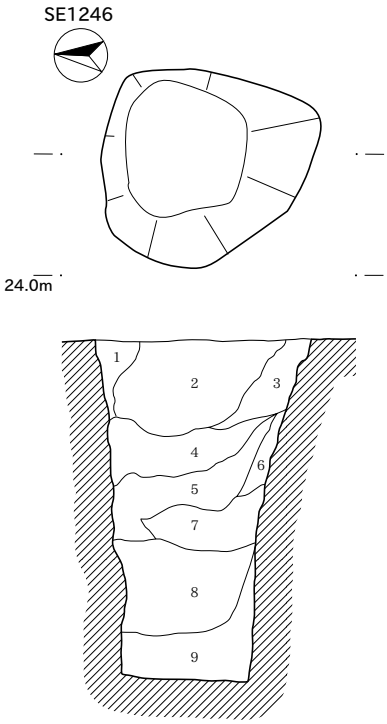
SE1110
1　暗褐色土　しまりあり　炭少
2　暗褐色土　しまりあり
3　黄褐色土　しまりあり
4　黄褐色土　しまりあり　3より薄い
5　灰色土　しまりあり
6　黄褐色土　しまりあり　3より濃い
7　灰色土　しまりあり　5より薄い
8　暗褐色土　しまりあり　1・2より濃い
9　灰色土　しまりあり　6より若干薄い
10　灰色土　しまりあり
11　灰色土　しまりあり　9より薄い
12　黄褐色土　しまりあり　4より薄い
14　黄褐色土　しまりあり　3より濃い
15　灰色土　しまりあり　9に近い
16　褐色土　しまりあり
17　褐色土　しまりあり　18より薄い
18　褐色＋灰色＋白色のブロック　しまりあり　粘性ややあり
19　白色粘質土　粘性・しまりあり　灰色ブロック状に混じる
20　暗灰色粘土　粘性あり　しまりややあり　有機物多量

SE1120



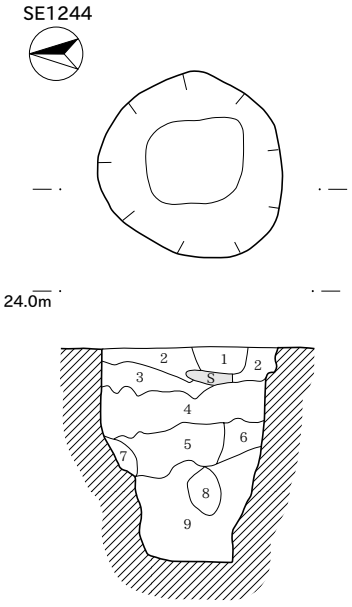
SE1120
1　黒褐色粘質土　しまりあり　下部灰多
2　黄褐色粘質土　しまりあり
3　黒褐色粘質土　1と同質土　一部灰
4　黒褐色粘質土　粘性・しまりややあり
5　黒褐色粘質土　粘性・しまりややあり　黄褐色シルト多
6　黒褐色シルト　粘性・しまりあり　黄褐色シルト少
7　灰褐色シルト　粘性・しまりあり
8　灰褐色シルト　粘性・しまりあり　7よりも褐色強
9　褐色シルト　粘性・しまりあり　黄褐色シルト少
10　黒色砂質土　粘性・しまりあり
11　灰色シルト　粘性・しまり強い　白灰色シルト少
12　青灰色シルト　粘性・しまり強い　黄褐色シルト多

SE1246



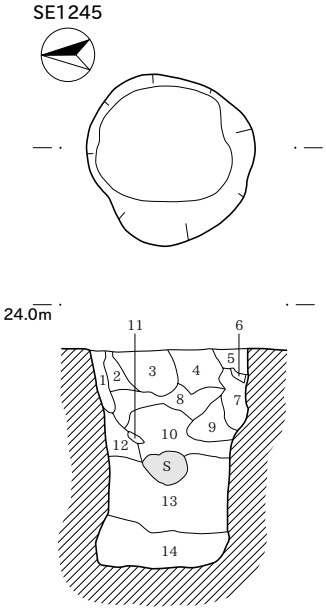
SE1246
1　薄暗褐色　炭　しまりあり
2　灰褐色（褐色）　粘性少　しまりあり
3　暗褐色（黄）　灰色ブロック　粘性少　しまりややあり
4　灰褐色（灰）　粘性少　しまりあり
5　暗褐色　灰色・黄褐色ブロック　粘性少　しまりややあり
6　灰色　粘性少　しまりあり
7　灰色（6よりやや濃い）　粘性少・しまりややあり
8　灰色　粘性・しまりややあり
9　濃灰色粘土　粘性あり　しまりややあり

SE1244



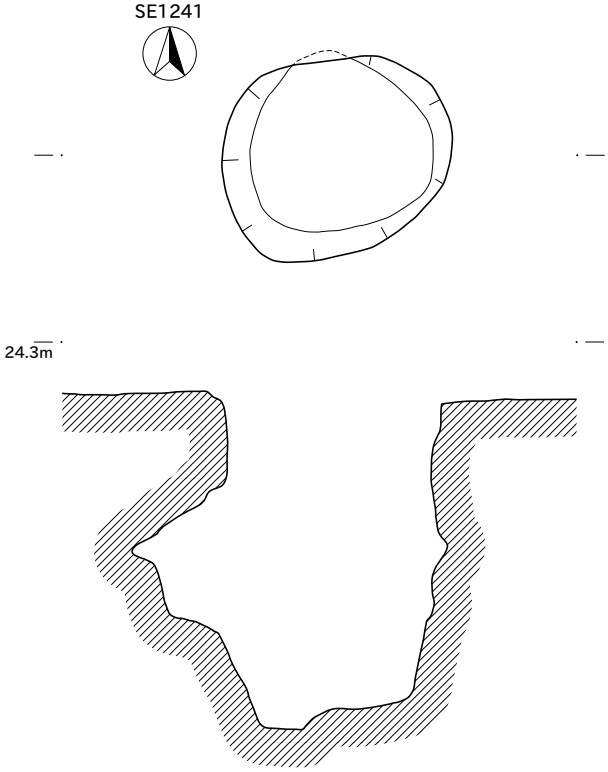
SE1244
1　濃暗褐色土＋淡黄褐色土ブロック　しまりあり
2　濃暗褐色土　しまりあり
3　薄黄褐色土＋淡暗褐色土　しまりややあり
4　濃暗褐色土＋薄黄褐色土ブロック　粘性なし　しまりあり
5　淡橙褐色土＋濃暗褐色土＋灰色粘土　粘性少　しまりややあり
6　濃暗褐色土＋淡橙灰色土　粘性少　しまりややあり
7　濃暗褐色土（濃赤褐色粒多含）＋淡灰色粘土　粘性・しまりややあり
8　淡橙褐色土＋黒灰色土　粘性ややあり　しまり弱
9　黒灰色粘土＋淡灰色粘土　粘性ややあり　しまり弱

SE1245

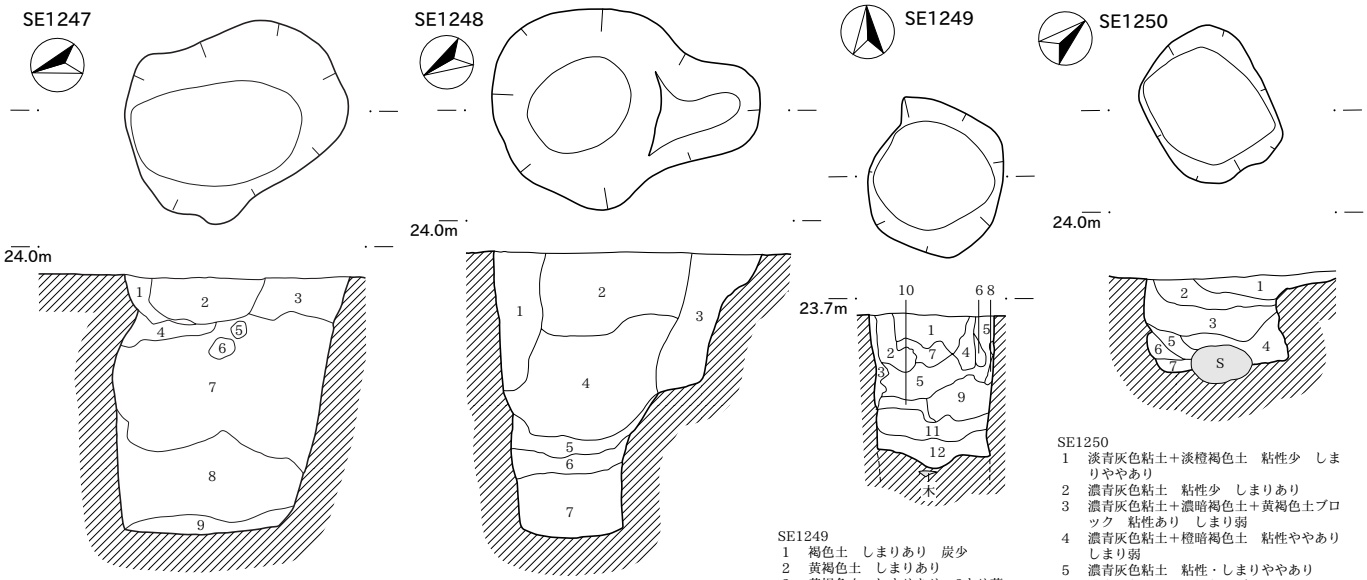


SE1245
1　黄褐色土　粘性あり
2　褐色土　粘性あり
3　灰褐色土　炭・砂ブロック
4　褐色土　砂ブロック
5　灰褐色土（3と同じ）
6　黄褐色土　粘性少
7　褐色土　粘性少（6を含む）
8　褐色土　黄・灰色シルトブロック
9　黄褐色土　灰色シルトブロック
10　灰褐色土　炭・灰色シルトブロック
11　黄褐色土　粘性少
12　灰褐色土　粘性あり
13　灰色土　粘性あり
14　暗灰色土　粘性あり

SE1241



0　（1：40）　2m

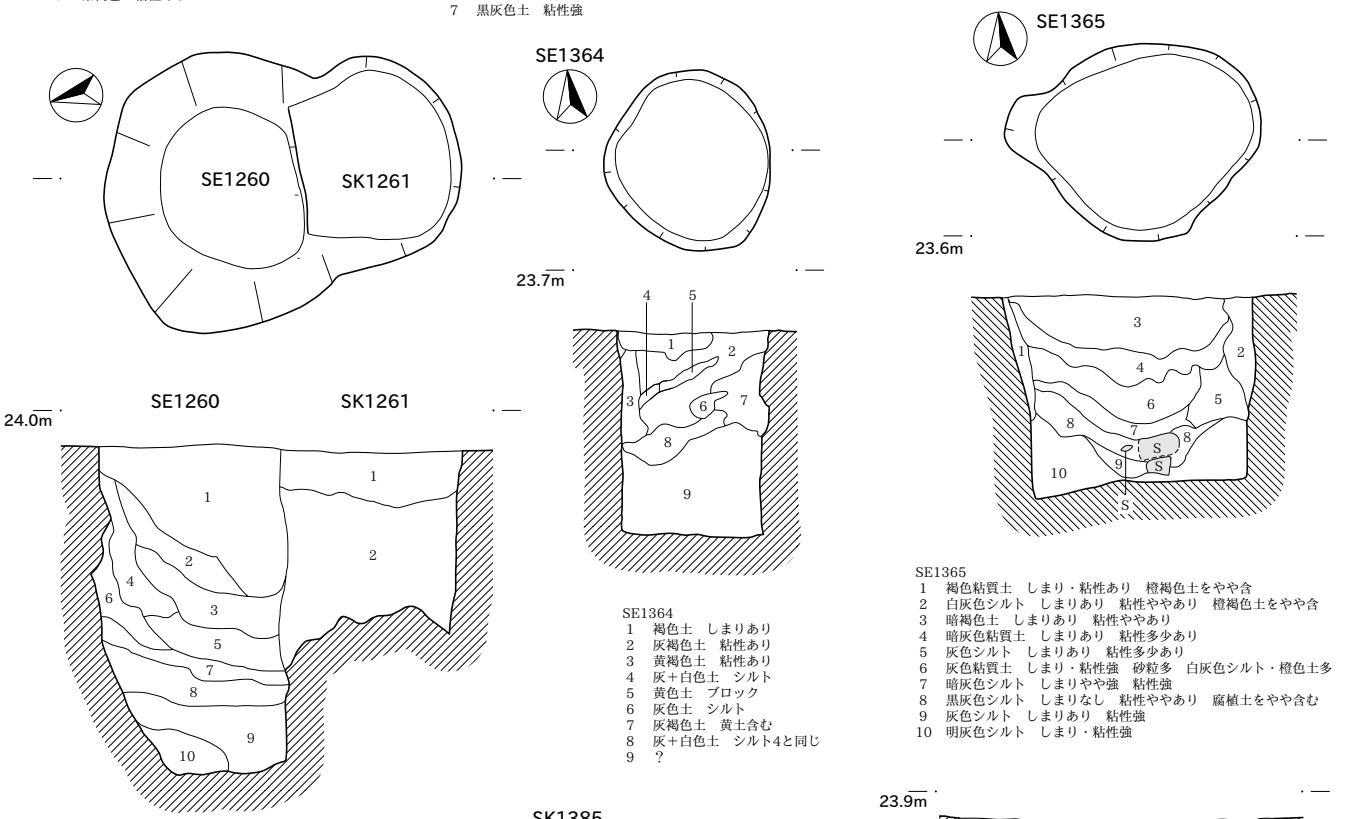


SE1247
1　黄褐色土　粘性あり
2　黄褐色土混じりの灰色土　粘性ややあり
3　暗褐色土　粘性なし
4　黄褐色土混じりの灰色土　粘性あり　2よりも灰色強
5　黄褐色土混じりの灰色土　粘性あり　2よりも黄色強
6　黄褐色土混じりの灰色土　粘性あり　2よりも黄色強
7　灰色土混じりの黄褐色土　粘性あり
8　黄褐色土と灰色殿混じり　粘性あり
9　茶褐色　粘性あり

SE1248
1　黄褐色土　粘性ややあり
2　暗褐色土　粘性なし
3　黄褐色土　やや粘性あり　1より黄色強
4　暗褐色土　粘性なし　炭化物含む　1より濃い
5　黒色土　粘性なし
6　茶褐色土　粘性ややあり
7　黒灰色土　粘性強

SE1249
1　褐色土　しまりあり　炭少
2　黄褐色土　しまりあり
3　黄褐色土　しまりあり　2より薄い
4　黄褐色土　しまりあり　2より薄い
5　灰色土　しまりあり　炭少
6　黄褐色土　しまりあり　4より薄い
7　黄褐色土　しまりあり　2より若干薄い
8　黄褐色土　しまりあり　3より薄い
9　灰褐色　しまりあり　5より薄い
10　褐色土　しまりなし　1より薄い
11　灰色土　しまりなし　9より濃い
12　灰色土　しまりなし　11より濃い

SE1250
1　淡青灰色粘土＋淡橙褐色土　粘性少　しまりややあり
2　濃青灰色粘土　粘性少　しまりあり
3　濃青灰色粘土＋濃暗褐色土＋黄褐色土ブロック　粘性あり　しまり弱
4　濃青灰色粘土＋橙暗褐色土　粘性ややあり　しまり弱
5　濃青灰色粘土　粘性・しまりややあり
6　濃青灰色粘土＋黄褐色土ブロック　粘性・しまりややあり
7　濃青灰色粘土　粘性・しまりややあり



SE1364
1　褐色土　しまりあり
2　灰褐色土　粘性あり
3　黄褐色土　粘性あり
4　灰＋白色土　シルト
5　黄色土　ブロック
6　灰色土　シルト
7　灰褐色土　黄土含む
8　灰＋白色土　シルト4と同じ
9　？

SE1365
1　褐色粘質土　しまり・粘性あり　橙褐色土をやや含
2　白灰色シルト　しまりあり　粘性ややあり　橙褐色土をやや含
3　暗褐色土　しまりあり　粘性ややあり
4　暗灰色粘質土　しまりあり　粘性多少あり
5　灰色シルト　しまりあり　粘性多少あり
6　灰色粘質土　しまり・粘性強　砂粒多　白灰色シルト・橙色土多
7　暗灰色シルト　しまりやや強　粘性強
8　黒灰色シルト　しまりなし　粘性ややあり　腐植土をやや含む
9　灰色シルト　しまりあり　粘性強
10　明灰色シルト　しまり・粘性強

SE1260
1　暗褐色　黄褐色ブロック　炭化粒　しまりあり
2　暗褐色（黄）　黄褐色ブロック　炭化粒　しまりあり
3　暗黄褐色　暗褐色ブロック　粘性少　しまりあり
4　黄褐色　白色
5　暗黄褐色　白色ブロック　粘性少　しまりややあり
6　暗褐色（灰）　粘性少　しまりややあり
7　白色＋灰色ブロック粘土　粘性・しまりややあり
8　青灰色＋白色ブロック粘土　炭　粘性・しまりややあり
9　黒色腐植層　有機物多　しまり弱
10　濃青灰色＋黒色粘土　粘性あり　しまり弱

SK1261
1　褐色＋黄褐色＋白色ブロック　粘性少　しまりあり
2　褐色＋灰色＋白色＋赤褐色ブロック　粘性少　しまりややあり

SE1385
1　褐色土に灰色土　明褐色土少　しまりあり
2　灰色土に褐色土　明褐色土少　しまりあり
3　やや明るい褐色土に褐色土少
4　灰白色土に明褐色土・灰色土
5　灰色土（やや暗い）に褐色土少
6　暗灰色土に明褐色土少
7　暗褐色土　植物遺体多　粘性あり

SE1386

23.9m

SE1386
注記不明

SE1387

23.9m

SE1387
1　黒褐色土に黄土色のブロックが入る
2　薄青灰色土に炭の小さな粒が混じる
3　明褐色土に黄土色の層混じる
4　薄青灰色土に明褐色土ブロック混じる
5　青灰色土に明褐色土のブロック混じる　炭のブロックも混じる
6　青灰色土に明褐色土のブロック混じる　粘性強
7　青灰色土

SE1389

24.0m

SE1389
1　濃暗褐色土＋黄褐色土ブロック
2　濃暗褐色土
3　灰色がかった濃暗褐色土
4　灰色がかった濃暗褐色土（3よりも濃い）
5　灰色がかった濃暗褐色土（4よりも濃い）
6　濃灰色土
7　濃橙褐色土
8　濃青灰色粘土
9　濃青灰色粘土+淡橙褐色粘土ブロック
10　濃青灰色粘土+淡黄褐色粘土

SE1390

24.0m

SE1390
1　灰暗褐色土＋淡黄褐色土ブロック　しまりあり
2　濃暗褐色土　しまりあり
3　濃暗褐色土＋淡黄褐色土　粘性少　しまりあり
4　濃暗褐色土　粘性少　しまりあり
5　濃暗褐色土＋淡黄褐色土　粘性少　しまりややあり
6　濃青褐色土＋淡黄褐色土　粘性少　しまりあり
7　淡青灰色土＋淡黄褐色土ブロック　粘性少　しまりややあり
8　濃青灰色土＋濃黄褐色土　粘性・しまりややあり
9　濃黄褐色土　粘性ややあり　しまり弱
10　濃青灰色粘土　粘性・しまりややあり
11　青灰色粘土　粘性ややあり　しまり弱

SE1391

24.0m

SE1391
1　灰褐色土＋黄土ブロック　しまりあり
2　褐色土＋黄土ブロック　しまりあり
3　灰褐色土＋黄土ブロック　粘性あり
4　灰色土＋黄土ブロック　粘性あり

SE1500

23.8m

SE1500
1　赤褐色土
2　黒褐色粘質土　炭
3　やや明るい暗褐色土　炭
4　黒褐色粘質土＋黄褐色のブロック　炭
5　黒褐色粘質土
6　暗灰色粘質土　炭
7　灰白色土＋明褐色土
8　褐色土
9　暗灰色土＋明褐色土　炭多
10　灰色土＋明褐色・褐色土
11　明褐色土＋灰色土
12　灰色土＋明褐色土・暗褐色土
13　灰色土＋明褐色土
14　暗灰色土＋灰色・明褐色土
15　暗灰色土＋明褐色土

SE1501

23.8m

SE1501
1　褐色土
2　褐色土＋明褐色土
3　褐色土＋灰色
4　褐色土＋灰色　粘性あり
5　褐色土＋明褐色土
6　黒褐色土＋明褐色土・灰色土
7　灰色＋明褐色土・黒褐色土　粘性あり
8　青灰色＋明褐ブロック

SE1502

24.9m

SE1502
1　黄土色
2　黄土色＋明褐色ブロック
3　暗灰色＋明褐色

SE1504

24.8m

SE1504
1　暗褐色土＋明褐色土　炭ブロック

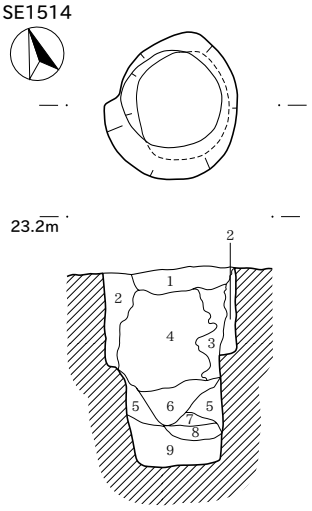
SE1503

24.8m

SE1503
1　褐色土＋灰色土・灰色・明褐色土　粘性あり
2　灰白色度＋灰色・明褐色土

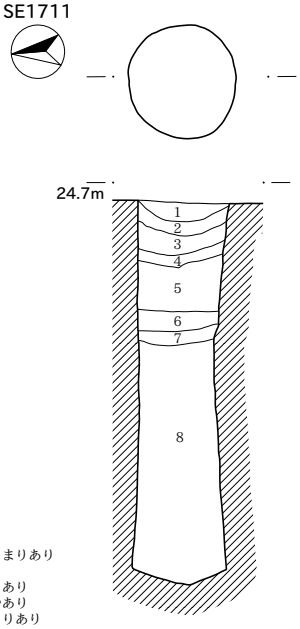
0　(1：40)　2m

SE1514



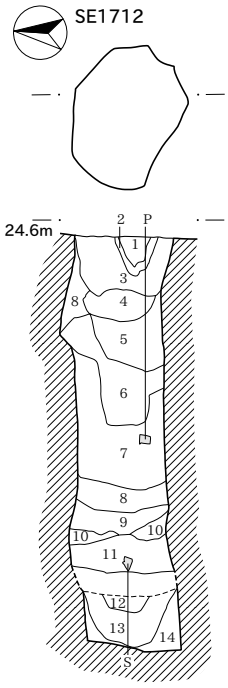
SE1514
1　褐色粘質土　橙褐色シルト　粘性ややあり　しまりあり
2　褐色土　しまりあり
3　褐色土　明褐色シルト　粘性ややあり　しまりあり
4　灰色シルト　橙褐色シルト　粘性・しまりややあり
5　褐色粘質土　灰色シルト　粘性ややあり　しまりあり
6　灰色シルト　粘性・しまりあり
7　黄褐色シルト　粘性・しまりやや強い
8　灰色シルト　粘性・しまり強い
9　黒色腐植土　粘性・しまりなし　植物遺体層

SE1711



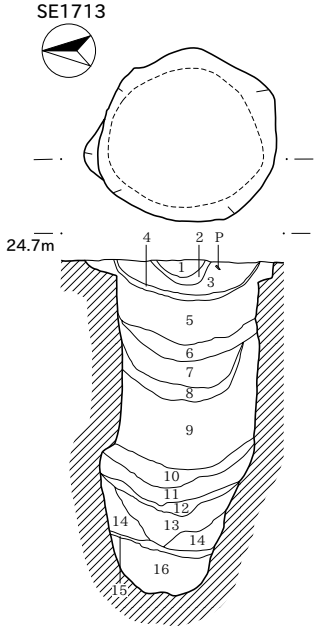
SE1711
1　暗茶褐色土　炭化物
2　暗茶褐色土　炭化物多
3　茶褐色土
4　黄茶褐色土　黄色地山ブロック
5　暗褐色土　礫
6　黒褐色土　しまりなし
7　黄色地山ブロック　5層類似土
8　不明（落盤）

SE1712



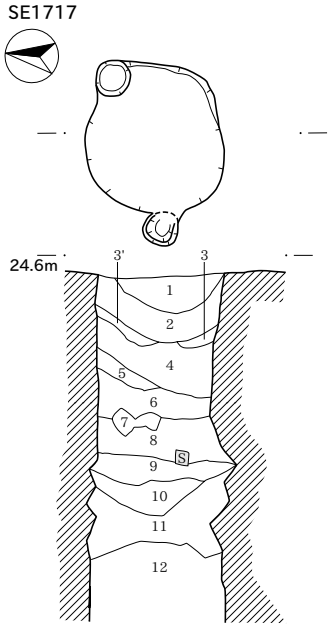
SE1712
1　褐色土
2　黄色ブロック　褐色土
3　暗褐色土　炭化物
4　暗黄褐色土
5　茶褐色土
6　暗茶褐色土
7　暗黄褐色土
8　黄褐色土
9　灰色粘土粒混入　青黒色粘土
10　黒茶色土
11　青黒色粘土（礫出土）
12～14　不明

SE1713



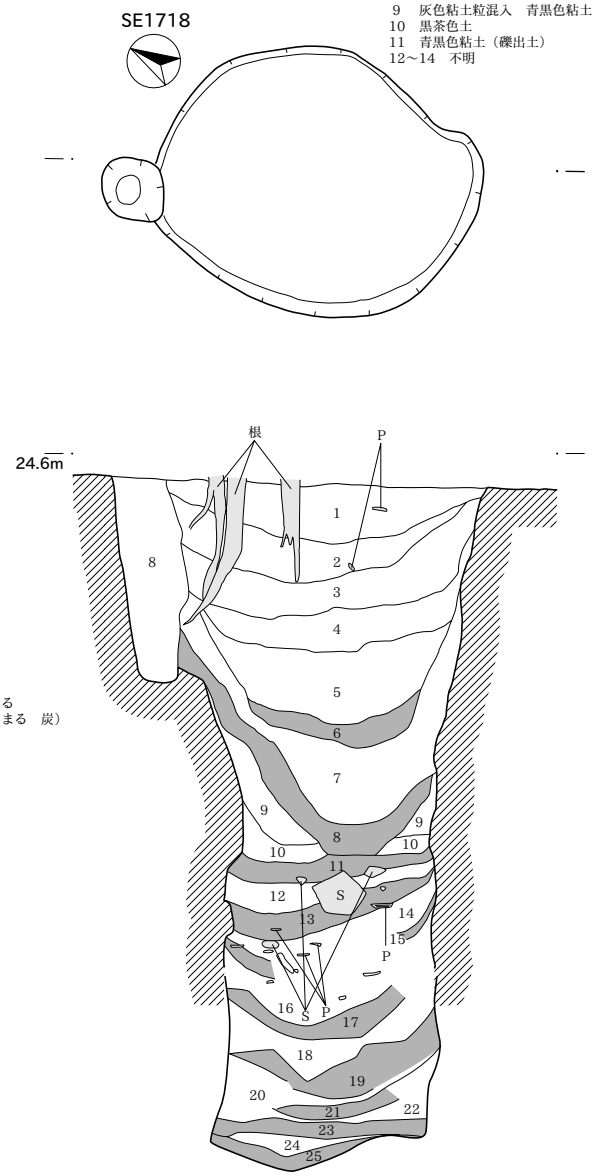
SE1713
1　茶褐色土　炭・焼土粒
2　黄色砂粒混入　茶褐色土　炭・焼土粒
3　茶褐色土（炭多）
4　黄褐色土ブロック混入　茶褐色土　炭・焼土
5　茶褐色土（下半な6層漸移）　炭・焼土
6　黄褐色ブロック　炭・焼土
7　茶褐色土（5層漸移）　炭・焼土
8　黄褐色ブロック　炭・焼土
9　茶褐色土　しまりなく柔らかい　炭・焼土
10　黄褐色ブロック混入　茶褐色土　炭・焼土
11　暗褐色土　炭・焼土
12　黄褐色ブロック　炭・焼土
13　黒褐色土　炭・焼土粒
14　黄色土混入　黒褐色土　炭・焼土粒
15　黄褐色土　炭・焼土粒
16　黒褐色土　炭・焼土粒

SE1717



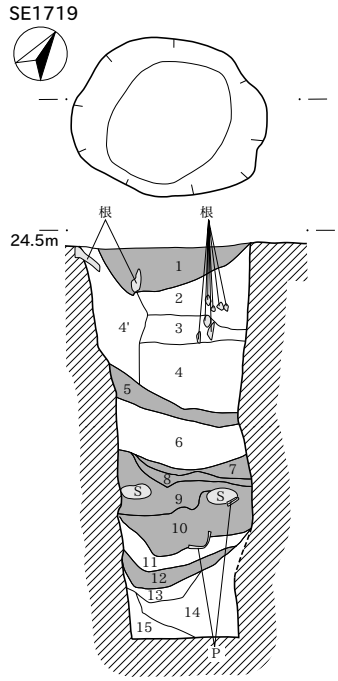
SE1717
1　黄茶褐色土
2　茶褐色土　炭少
3　黄色土ブロック〈軟質〉
3'　黄色土分が少なく2層・4層より黄色が強い
4　2層に似る　茶褐色土（黒味が強い）
5　黄灰茶色土
6　灰茶色土　よくしまる
7　黄色土　よくしまる
8　灰茶褐色粘土　炭　固くよくしまる
9　黄色土ブロック　灰茶色粘土　炭　固くよくしまる
10　黄緊色土ブロック　青黒灰茶褐色土（固くよくしまる　炭）
11　黄茶色土　黒茶褐色土　しまりあり
12　黒茶褐色粒質土

SE1718



SE1718
1　暗茶褐色土　固くよくしまる
2　黄色粘土層（ブロック粒）
3　黄色ブロック　茶褐色土　柔らかい
4　黄色土多　茶褐色土　しまりなし
5　茶褐色土　茶褐色土
6　黒褐色土　炭灰
7　黄褐色土（4・5・6・に比べてよくしまる）
8　黄褐色土　黒褐色土　炭
9　橙黄褐色土　炭
10　黄色土　炭　固くよくしまる
11　暗青黒粘質土
12　白黄色粘土
13　暗青黒粘質土（中世皿）
14　白褐色粘土
15　暗青黒粘土（漆椀）
16　白褐青灰粘土
17　暗青黒粘土
18　白褐青灰粘土
19　暗青黒粘土（曲物底板）
20　暗青灰色粘土
21　暗青黒色粘土
22　青灰色粘土
23　黒灰色粘土　炭
24　青灰色粘土
25　黒灰色粘土　炭

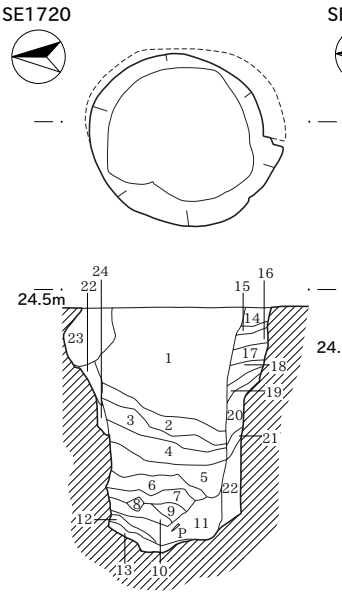
SE1719



SE1719
1　黒褐色土　炭多　固くよくしまる
2　黄色土ブロック　黒褐色土　炭多　固くよくしまる
3　黒褐色土　黄色土ブロック（炭少　よくしまる固い）
4　黄色土ブロック　黒褐色土（炭・土師器　柔らかめ）
4'　4より黒く黄色土ブロック
5　黒褐色土　黄色土ブロック　炭　柔らかめ
6　黄色土ブロック　暗茶褐色土
7　暗茶褐色土　黄色土ブロック　炭
8　暗茶褐色土　炭　焼土　土師器
9　黒色炭層（扁平円礫含む）
10　9層より黒色炭多
11　灰色粘土粒　橙褐色粘土
12　暗灰色粘土　橙褐色粘土
13～15　不明

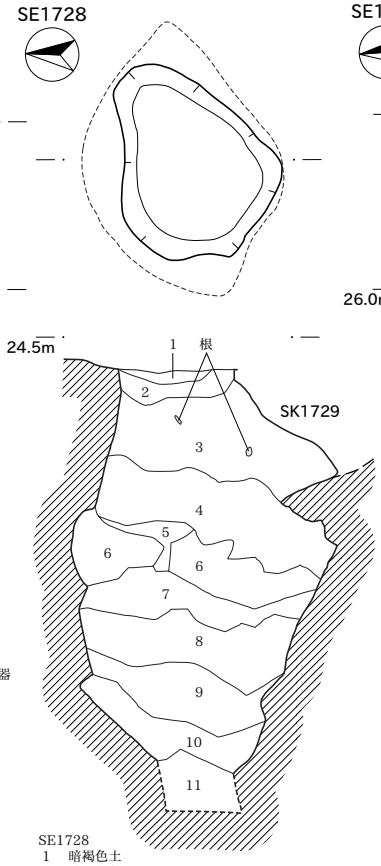
0　(1：40)　2m

SE1720



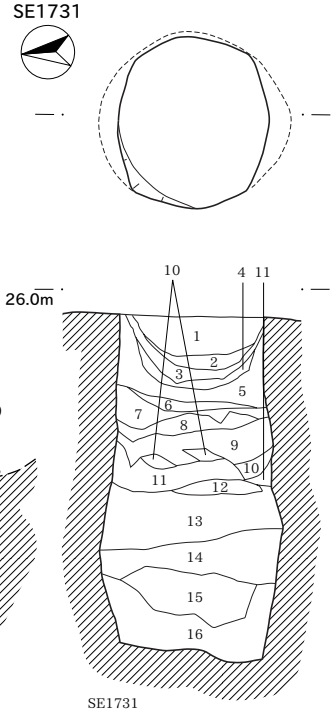
SE1720
1　茶褐色土　しまりあり　炭・土師器
2　茶褐色土　明黄白色粘土ブロック
3　茶褐色土　明黄橙色粘土ブロック多
4　茶褐色土　明黄橙色粘土ブロック　炭・土師器
5　明黄橙色粘土ブロック主体　炭
6　茶褐色土　黄橙色粘土ブロック
7　明黄白色粘土
8　暗灰褐色土
9　灰褐色土　明黄白色粘土
10　橙褐色土と明黄白色粘土
11　明灰褐色粘土と明黄白色粘土　炭・土師器
12　明黄白色粘土
13　明橙色粘土
14　褐色土
15　明黄白色粘土
16　褐色土＋明黄白色粘土
17　明黄橙色粘土　赤茶褐色ブロック
18　暗褐色土＋黄橙色土　炭
19　明黄褐色粘土
20　明灰褐色粘土　赤茶褐色ブロック　炭
21　明黄白色粘土　炭
22　明黄白色粘土　炭
23　明黄白色粘土
24　明黄白色粘土　23よりやや暗い

SE1728



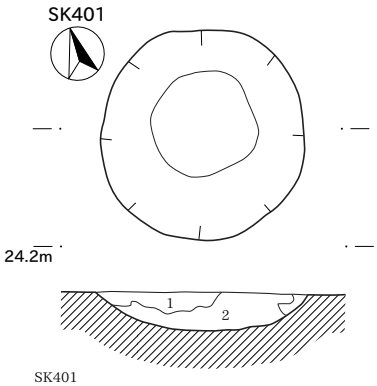
SE1728
1　暗褐色土
2　暗黄褐色土
3　茶褐色土　炭少
4　茶褐色土（3より少し青っぽい）炭少
5　灰褐色シルト
6　橙褐色シルト
7　青灰褐色粘土
8　灰褐色粘土（橙色土を含む）
9　青灰褐色土（7より橙色土を含む）
10　青黒褐色粘土
11　灰褐色土

SE1731



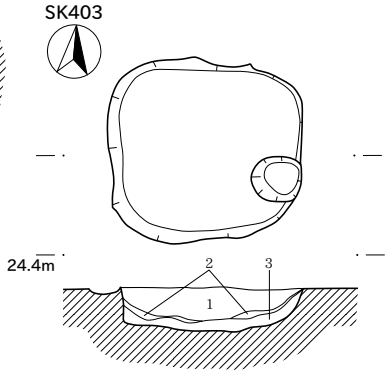
SE1731
1　茶褐色土　炭
2　茶褐色土　黄色土ブロック
3　茶褐色土
4　茶褐色土　黄色土ブロック
5　茶褐色土　炭
6　黄色土ブロック層
7　暗茶褐色土（9層ブロック含む）
8　黄色土ブロック層
9　黒灰色粘質土
10　黄色土ブロック
11　黒青色粘質土
12　黄色土ブロック
13　黒青色粘質土　黄色土ブロック
14　黄色土層
15　黒青色粘質土　灰色土
16　暗黄色土層（14より少し黒い）

SK401



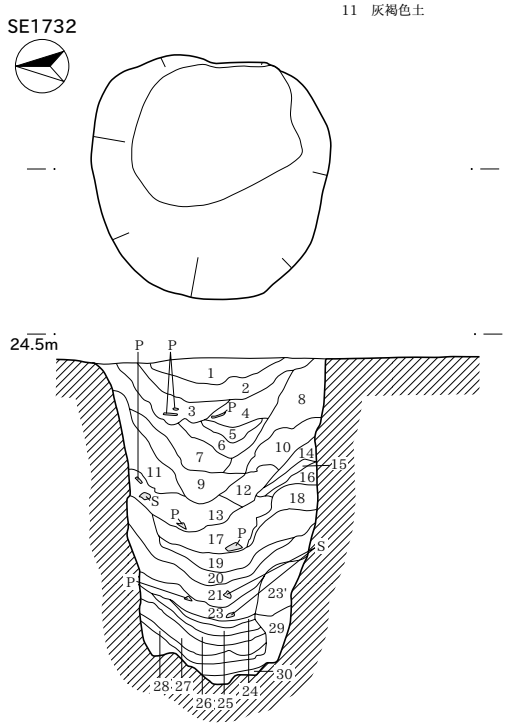
SK401
1　暗褐色シルト質土　しまり強　鉄分・マンガン多
2　青灰色シルト質土　粘性ややあり　しまりあり

SK403



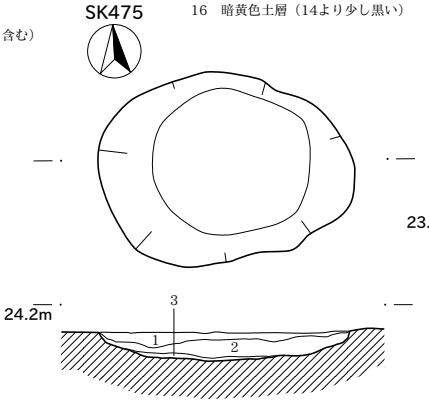
SK403
1　薄暗褐色（灰色・黄色土小ブロック混じる）粘性なし　しまり強
2　濃暗褐色粘質土＋炭層　粘性・しまりあり
3　暗褐色（炭）粘質土　粘性・しまりあり

SE1732



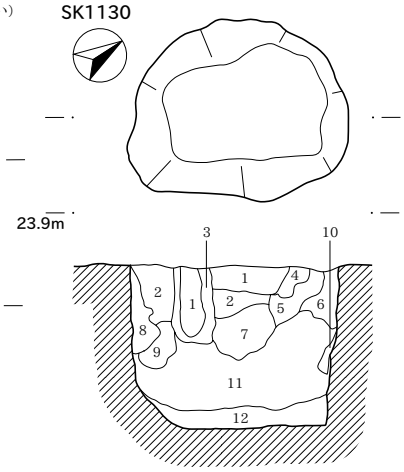
SE1732
1　褐色土　炭
2　明黄褐色土　暗褐色土ブロック
3　暗灰茶褐色粘質土　炭
4　暗褐色土　炭
5　暗褐色土　黄褐色土ブロック　炭
6　暗茶褐色土　炭
7　暗灰褐色粘質土　炭・土師器
8　茶褐色土暗黄褐色土ブロック　炭・土師器
9　灰褐色粘質土　橙褐色粘質土ブロック　炭
10　暗茶褐色土　炭
11　灰褐色粘質土　炭
12　暗茶褐色土＋灰褐色シルト質土　炭
13　暗褐色粘質土　炭
14　褐色土　黄褐色土ブロック　炭
15　黄褐色粘質土　炭
16　暗黄褐色粘質土　炭
17　暗黄褐色粘質土　青灰白色粘土ブロック　炭
18　明黄褐色粘質土　27よりややくすんだ感じ
19　褐色粘質土　青灰白シルトブロック　炭
20　黄灰色粘質シルト
21　黄灰色粘質シルト　炭
23　黄灰白色粘質シルト　礫・須恵器
23'　23より濁りがない
24　暗黄灰色粘質シルト　炭
25　暗黄灰色粘質シルト　炭
26　暗黄灰色砂質シルト　炭
27　黄灰白色砂質シルト　炭
28　暗黄灰色粘質シルト　炭
29　黄灰白色砂質シルト
30　黄灰白色粘質シルト　炭

SK475



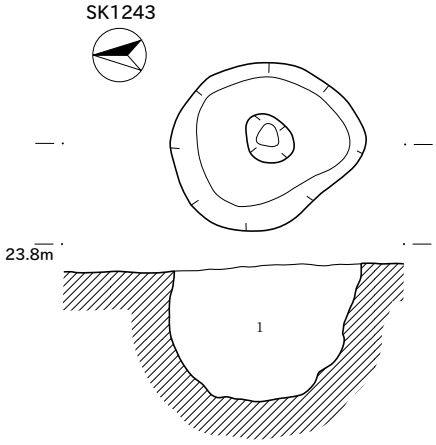
SK475
1　黄灰色　大粒炭少量含む　しまりあり
2　黄褐色（白）小粒炭少量含む　しまりあり
3　薄暗褐色　しまりややあり

SK1130



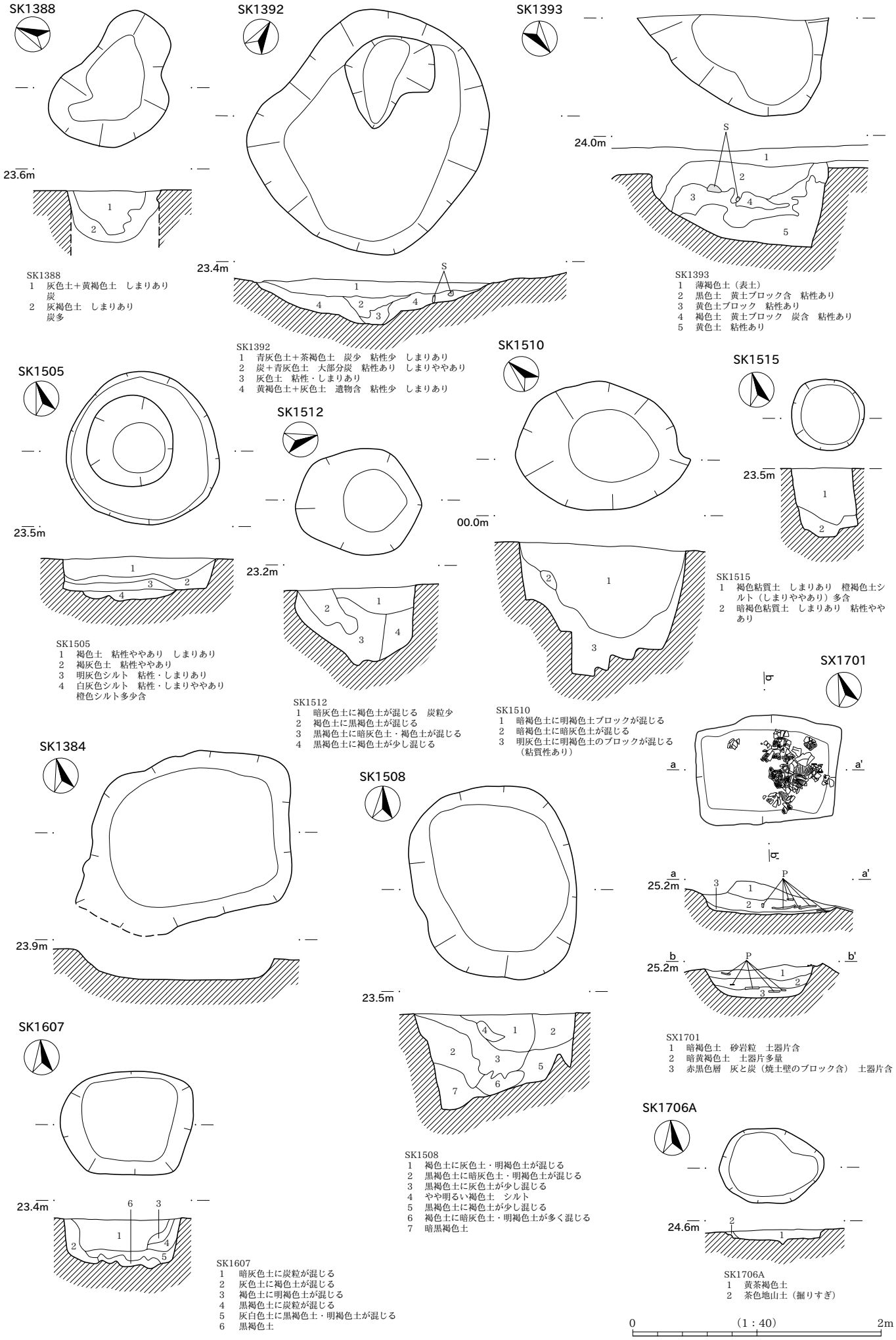
SK1130
1　黒褐色土
2　黒褐色土（炭の小ブロックが少々混じる）
3　黒褐色土（灰白色のブロックが多く混じる）
4　黒褐色土（明褐色のブロックが混じる）
5　黒褐色土（明褐色のブロックと炭のブロックが混じる）
6　明褐色土（黒褐色土ブロックが少し混じる）
7　黒褐色土（黄土色の大ブロック2・3片と明褐色チップが多数）
8　黒褐色上に明褐色土のブロックが混じる
9　黒褐色上に明褐色土のブロックが混じる（8より粘性が強い）
10　明褐色土に黒褐色土ブロックが少し混じる（6に付着も粘性が強い）
11　青灰色土（強粘性）
12　青灰色土（明褐色土のチップが多数混じる。強粘性）

SK1243

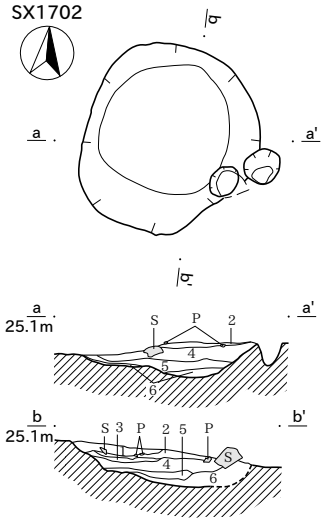


SK1243
1　黄+白+褐色土　しまりあり

0　(1：40)　2m

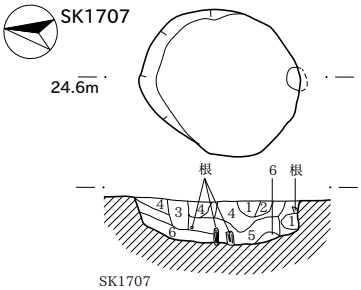

SK1388
23.6m
SK1388
1　灰色土＋黄褐色土　しまりあり
　　炭
2　灰褐色土　しまりあり
　　炭多
SK1392
23.4m
SK1392
1　青灰色土＋茶褐色土　炭少　粘性少　しまりあり
2　炭＋青灰色土　大部分炭　粘性あり　しまりややあり
3　灰色土　粘性・しまりあり
4　黄褐色土＋灰色土　遺物含　粘性少　しまりあり
SK1393
24.0m
SK1393
1　薄褐色土（表土）
2　黒色土　黄土ブロック含　粘性あり
3　黄色土ブロック　粘性あり
4　褐色土　黄土ブロック　炭含　粘性あり
5　黄色土　粘性あり
SK1505
23.5m
SK1505
1　褐色土　粘性ややあり　しまりあり
2　褐灰色土　粘性ややあり
3　明灰色シルト　粘性・しまりあり
4　白灰色シルト　粘性・しまりややあり
　　橙色シルト多少含
SK1512
23.2m
SK1512
1　暗灰色土に褐色土が混じる　炭粒少
2　褐色土に黒褐色土が混じる
3　黒褐色土に暗灰色土・褐色土が混じる
4　黒褐色土に褐色土が少し混じる
SK1510
00.0m
SK1510
1　暗褐色土に明褐色土ブロックが混じる
2　暗褐色土に暗灰色土が混じる
3　明灰色土に明褐色土のブロックが混じる
　　（粘質性あり）
SK1515
23.5m
SK1515
1　褐色粘質土　しまりあり　橙褐色土シルト（しまりややあり）多含
2　暗褐色粘質土　しまりあり　粘性ややあり
SX1701
SX1701
1　暗褐色土　砂岩粒　土器片含
2　暗黄褐色土　土器片多量
3　赤黒色層　灰と炭（焼土壁のブロック含）　土器片含
SK1384
23.9m
SK1508
23.5m
SK1508
1　褐色土に灰色土・明褐色土が混じる
2　黒褐色土に暗灰色土・明褐色土が混じる
3　黒褐色土に灰色土が少し混じる
4　やや明るい褐色土　シルト
5　黒褐色土に褐色土が少し混じる
6　褐色土に暗灰色土・明褐色土が多く混じる
7　暗黒褐色土
SK1607
23.4m
SK1607
1　暗灰色土に炭粒が混じる
2　灰色土に褐色土が混じる
3　褐色土に明褐色土が混じる
4　黒褐色土に炭粒が混じる
5　灰白色土に黒褐色土・明褐色土が混じる
6　黒褐色土
SK1706A
24.6m
SK1706A
1　黄茶褐色土
2　茶色地山土（掘りすぎ）
0　（1：40）　2m

SX1702



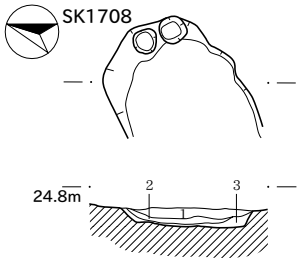
SX1702
1　黄茶色粘質土　土師器・炭
2　炭化物層　黒い木炭層
3　黒褐色土
4　暗褐色土　赤色ブロック　炭
5　黄色土ブロック層　赤色ブロック
6　暗褐色土

SK1707



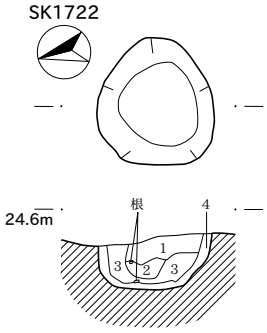
SK1707
1　灰褐色粘土質（ピット）
2　黄色地山質土（ピット）
3　灰色粘土+黄色土（ピット）
4　灰色粘土ブロック　黄褐色土
5　暗黄褐色土　黒褐色土
6　暗灰色粘質土

SK1708



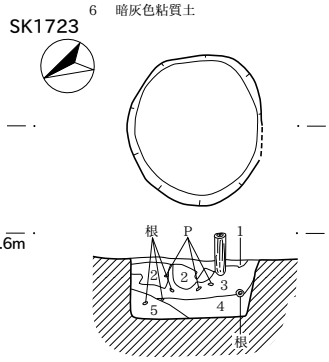
SK1708
1　暗黄褐色土　炭
2　暗黄褐色土
3　黄褐色土　地山層に近似

SK1722



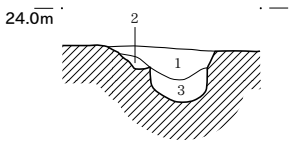
SK1722
1　黒茶褐色土（焼土・炭）
2　粒質暗褐色土
3　黒褐色土黄色土ブロック
4　黄色土黒褐色土ブロック

SK1723



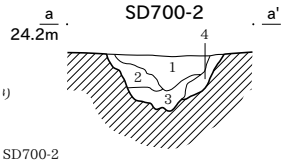
SK1723
1　黒褐色土（焼土・炭・土師器）
2　黄色ブロック土（土師器）
3　暗褐色土（土師器・炭）
4　暗黄褐色土（黄色土ブロック）
5　黄色ブロック土

SD480



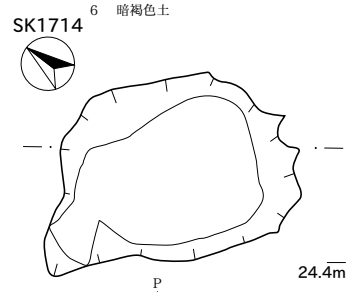
SD480
1　淡青灰色土＋橙褐色土　しまりややあり
2　淡青灰色土＋黄褐色土　粘性少　しまりややあり
3　淡青灰色土　粘性ややあり　しまり弱

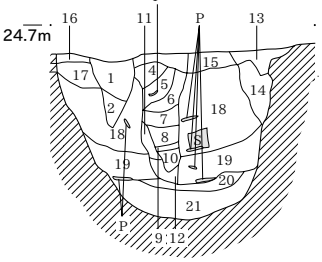
SD700-2



SD700-2
1　薄暗褐色（黄）　下部灰色ブロック　しまりあり
2　薄黄褐色＋薄暗褐色ブロック　粘性少　しまりあり
3　暗褐色（灰）＋灰色ブロック　粘性少　しまりややあり
4　黄褐色＋薄暗褐色ブロック　白黄褐色ブロック

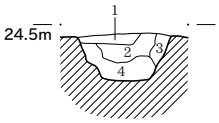
SK1714





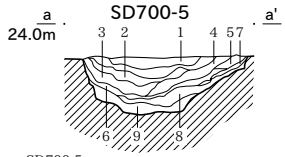
SK1714
1　褐色土　炭
2　明黄褐色粘土　炭
3　黄褐色土混入　褐色土　炭
4　暗褐色土　炭
5　褐色土混入　黄褐色土　炭
6　褐色土　炭
7　褐色土＋黄褐色土
8　暗褐色土　しまりなし
9　暗褐色土　しまりややあり
10　暗褐色土　しまりなし
11　褐色土＋黄褐色土　炭
12　青灰色粘土＋周辺に黄橙色粘土　炭
13　青灰色粘土＋褐色土　粘性なし　炭
14　青灰色粘土＋明黄褐色土　上部に炭
15　褐色土　粘性なし　炭
16　褐色土　炭
17　暗褐色土　炭
18　明黄褐色土　炭
19　暗黄褐色土　底部は炭ブロック
20　暗茶褐色土（炭層）
21　黄灰褐色土　炭

SD1751



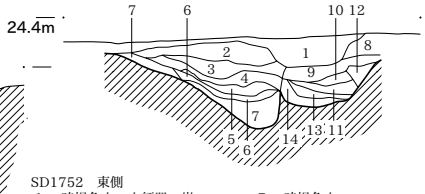
SD1751
1　褐色土　炭
2　褐色土　黄褐色土ブロック　炭
3　灰褐色土
4　黄褐色土　褐色ブロック　炭

SD700-5



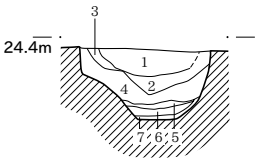
SD700-5
1　暗褐色土　上半部灰褐色　しまりあり
2　薄暗褐色（黄）　しまりあり
3　暗褐色　黄褐色ブロック多　炭多　粘性少　しまりあり
4　薄暗褐色　粘性少　しまりあり
5　黒褐色　しまりあり
6　黒褐色灰層　粘土ブロック　しまりあり
7　橙薄暗褐色　粘性少　しまりあり
8　黄褐色　粘性少　しまりあり
9　黄褐色＋暗褐色　粘性少　しまりあり

SD1752　東側



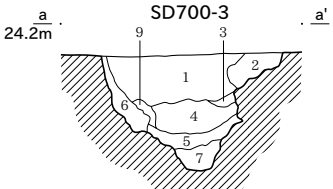
SD1752　東側
1　暗褐色土　土師器・炭
2　暗褐色土　黄色土ブロック　土師器
3　暗褐色土　土師器
4　暗褐色土　黄色土ブロック
5　暗茶褐色土
6　暗褐色土　黄色土ブロック
7　暗褐色土
8　暗黄茶褐色土
9　暗茶褐色土　土師器
10　黒褐色粘質土　黄白色ブロック　炭
11　黒褐色粘質土　炭
12　黒褐色粘質土＋白灰色シルト質土
13　白灰色シルト質ブロック
14　黒褐色粘質土　炭化物

SD1753



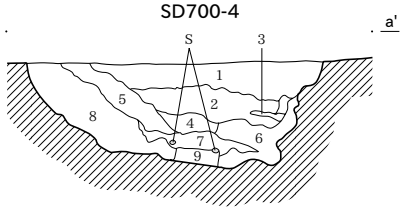
SD1753
1　黒青灰色シルト質土
2　灰色シルト質土
3　暗茶褐色土
4　黄灰褐色シルト質土
5　暗灰褐色土
6　黄灰褐色シルト質土
7　暗褐色土

SD700-3



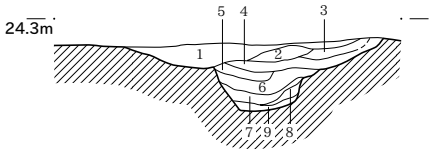
SD700-3
1　薄暗褐色（黄）　黄褐色粒　炭少量　しまりあり
2　薄暗褐色＋白色シルトブロック　しまりあり
3　薄暗褐色（黄）＋黄褐色＋白色ブロック　しまりややあり
4　暗褐色（灰）＋灰色ブロック　大粒炭　粘性・しまりややあり
5　黄褐色＋暗褐色ブロック　大粒炭　粘性・しまりややあり
6　黄褐色　暗褐色のシミ有り　炭少量　粘性・しまりややあり
7　暗褐色＋薄黄白色砂（地山）　粘性ややあり　しまり弱
8　薄暗褐色粘質土　粘性・しまりややあり
9　暗褐色＋黄褐色　粘性少　しまりあり

SD700-4



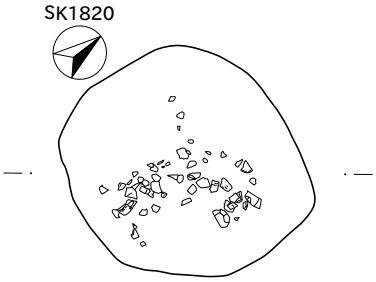
SD700-4
1　薄暗褐色（黄）　黄褐色　白色シルトブロック　炭　しまりあり
2　薄暗褐色（灰）　しまりあり
3　薄黄褐色＋白色ブロック　しまりややあり
4　暗褐色（灰）＋灰色　黄白色ブロック　しまりあり
5　2同じか灰色濃い　大粒炭　しまりあり
6　黄褐色＋暗褐色＋黄白色粘質土　粘性少　しまりややあり
7　5と6の混合　粘土ブロック　拳大礫　粘性・しまりややあり
8　白色シルト　薄暗褐色礫　炭少　粘性少　しまりややあり
9　黄褐色＋薄暗褐色ブロック土　粘性・しまりややあり

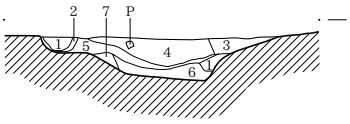
SD1752　西側



SD1752　西側
1　茶褐色土　土師器
2　黄褐色土ブロック＋茶褐色土
3　茶褐色土（炭）
4　黄色土ブロック＋茶褐色土
5　暗茶褐色土　土師器
6　暗茶褐色土　黄色土ブロック
7　暗茶褐色土　土師器・炭
8　暗黄茶褐色土
9　暗灰色シルト質　炭

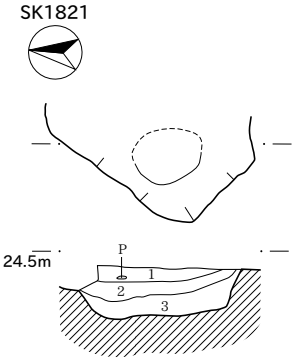
SK1820





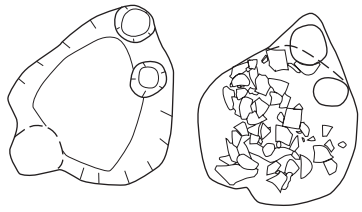
SK1820
1　暗茶褐色土
2　青灰色粘土
3　黄灰色粘土　炭　土師器
4　白色粘土粒　暗褐色土　炭多　土師器
5　暗褐色土　白色粘土　炭多　土師器
6　黄白色粘土　炭　土師器
7　黄色粘土

SK1821

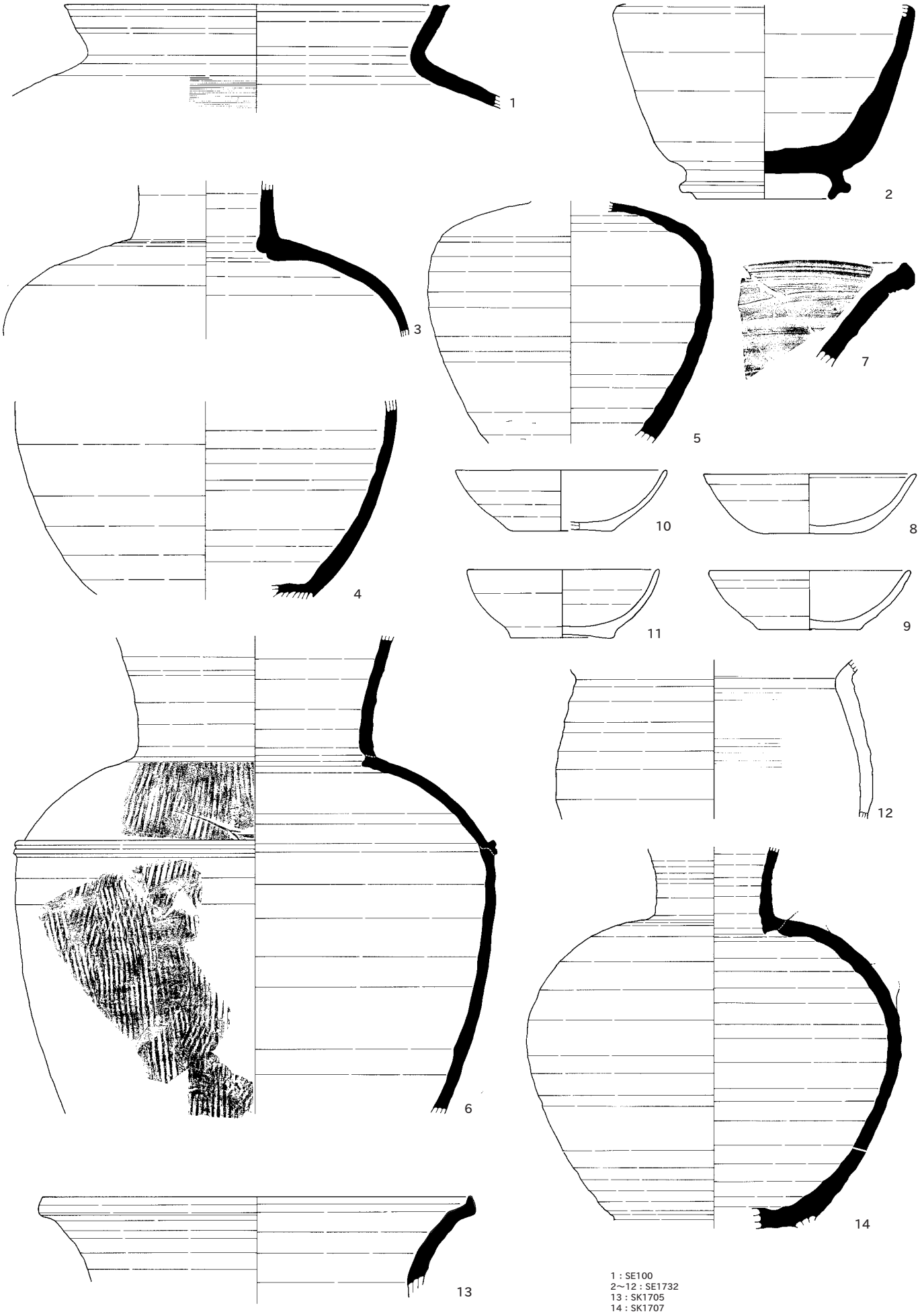


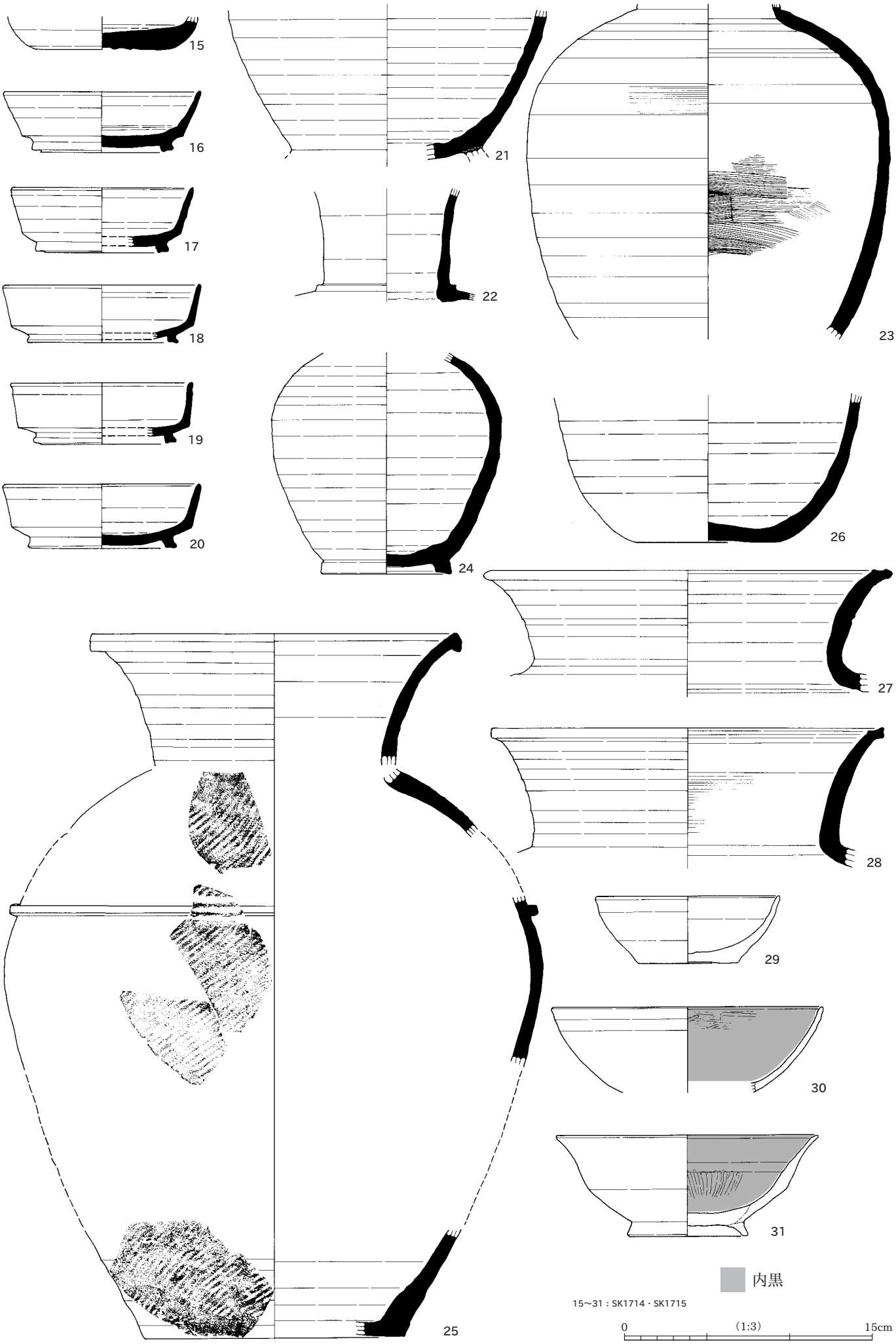
SK1821
1　褐色土　土師器・炭
2　暗褐色土　炭
3　明褐色土　炭

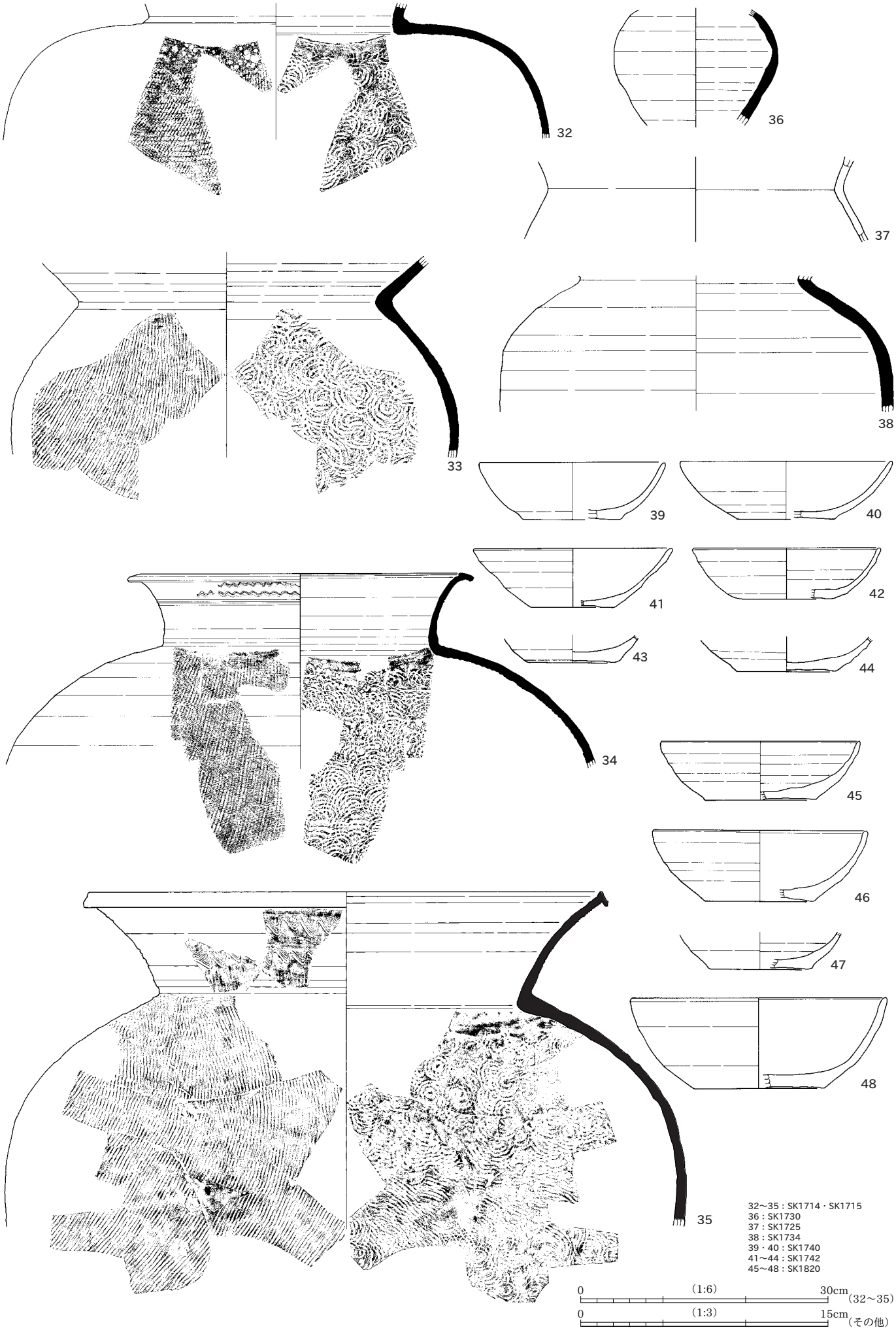
SK1715

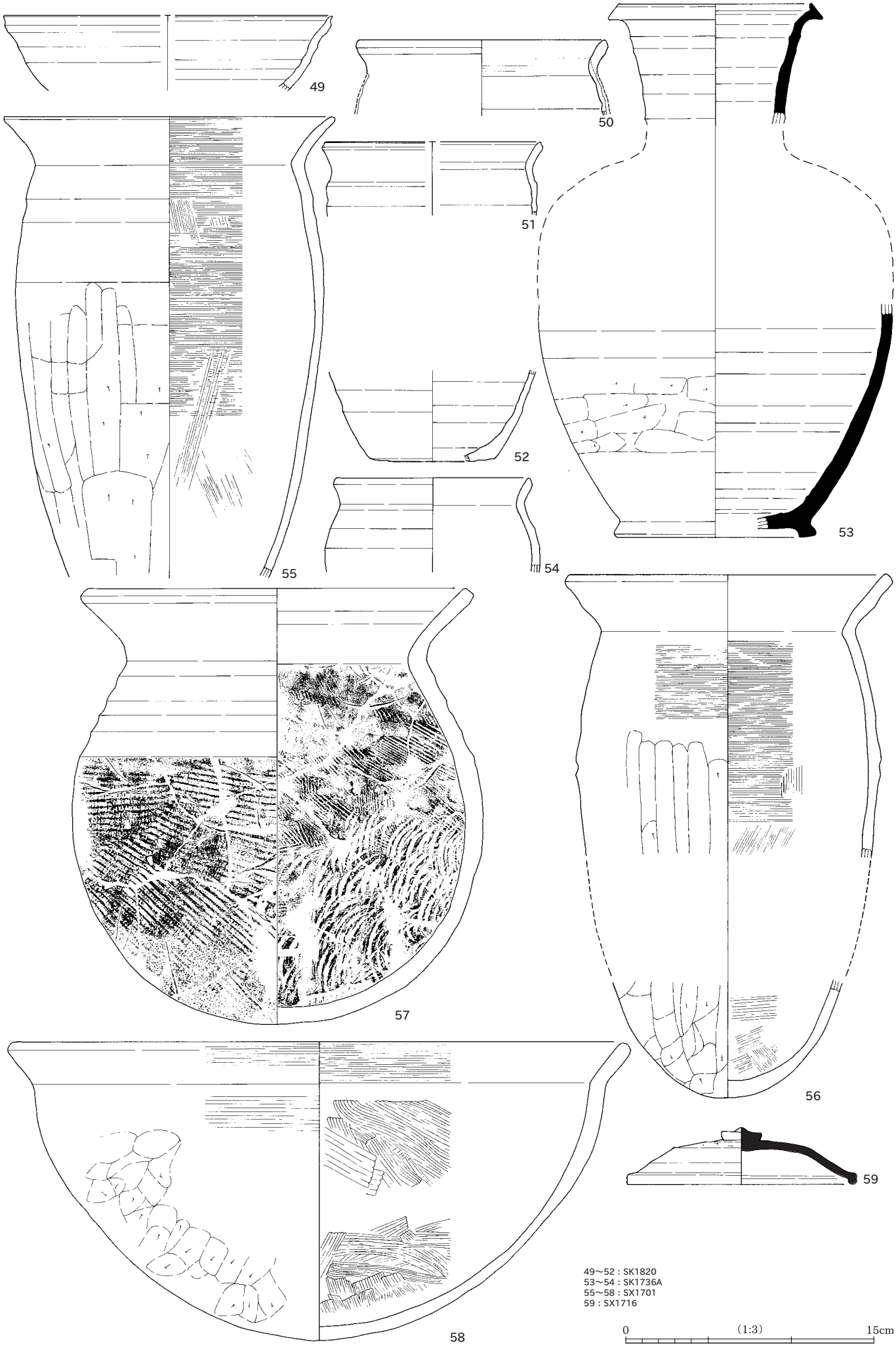


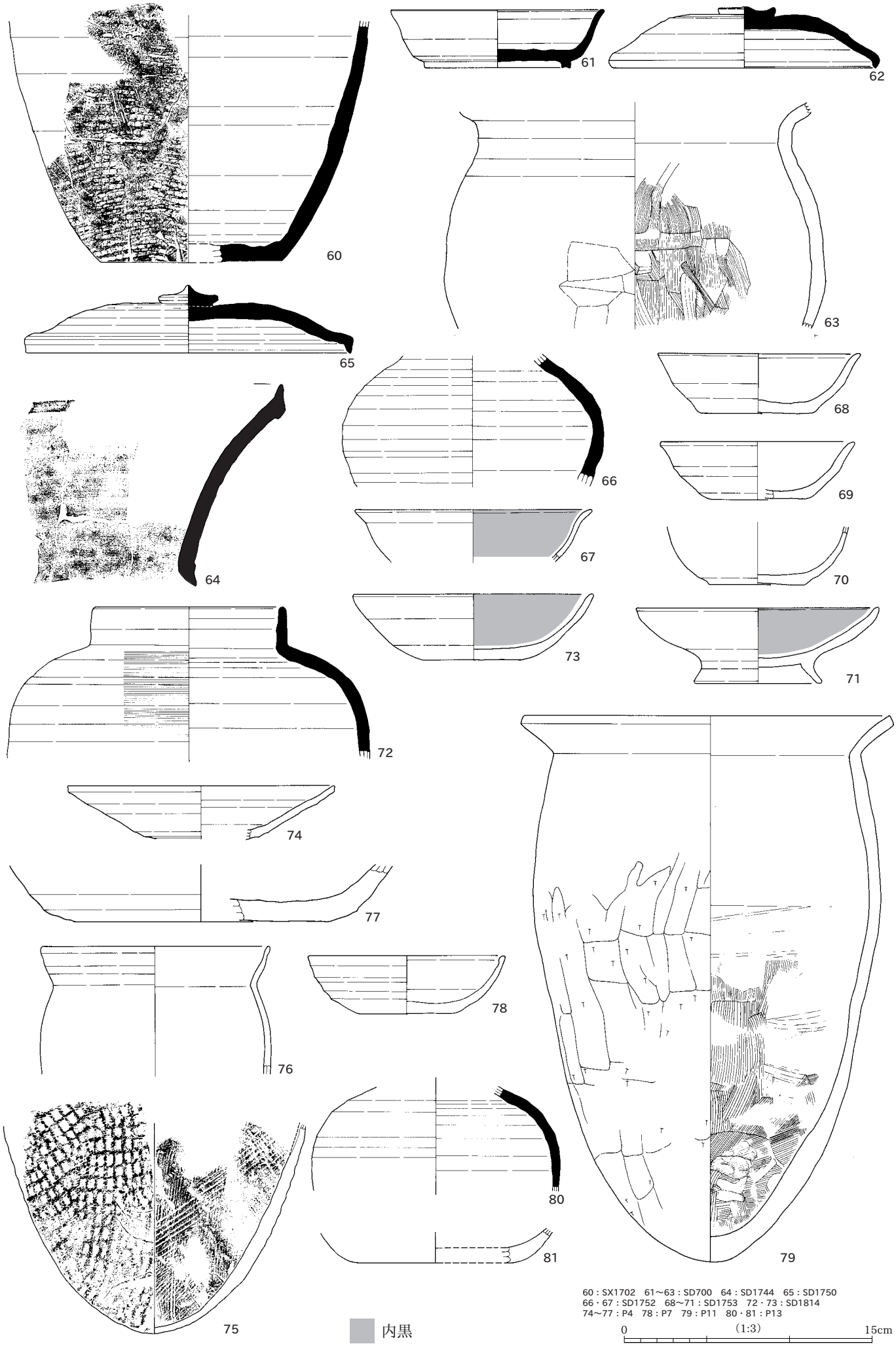
0　(1：40)　2m


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
1：SE100
2～12：SE1732
13：SK1705
14：SK1707
0
(1:3)
15cm


15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
内黒
15～31：SK1714・SK1715
0
(1:3)
15cm

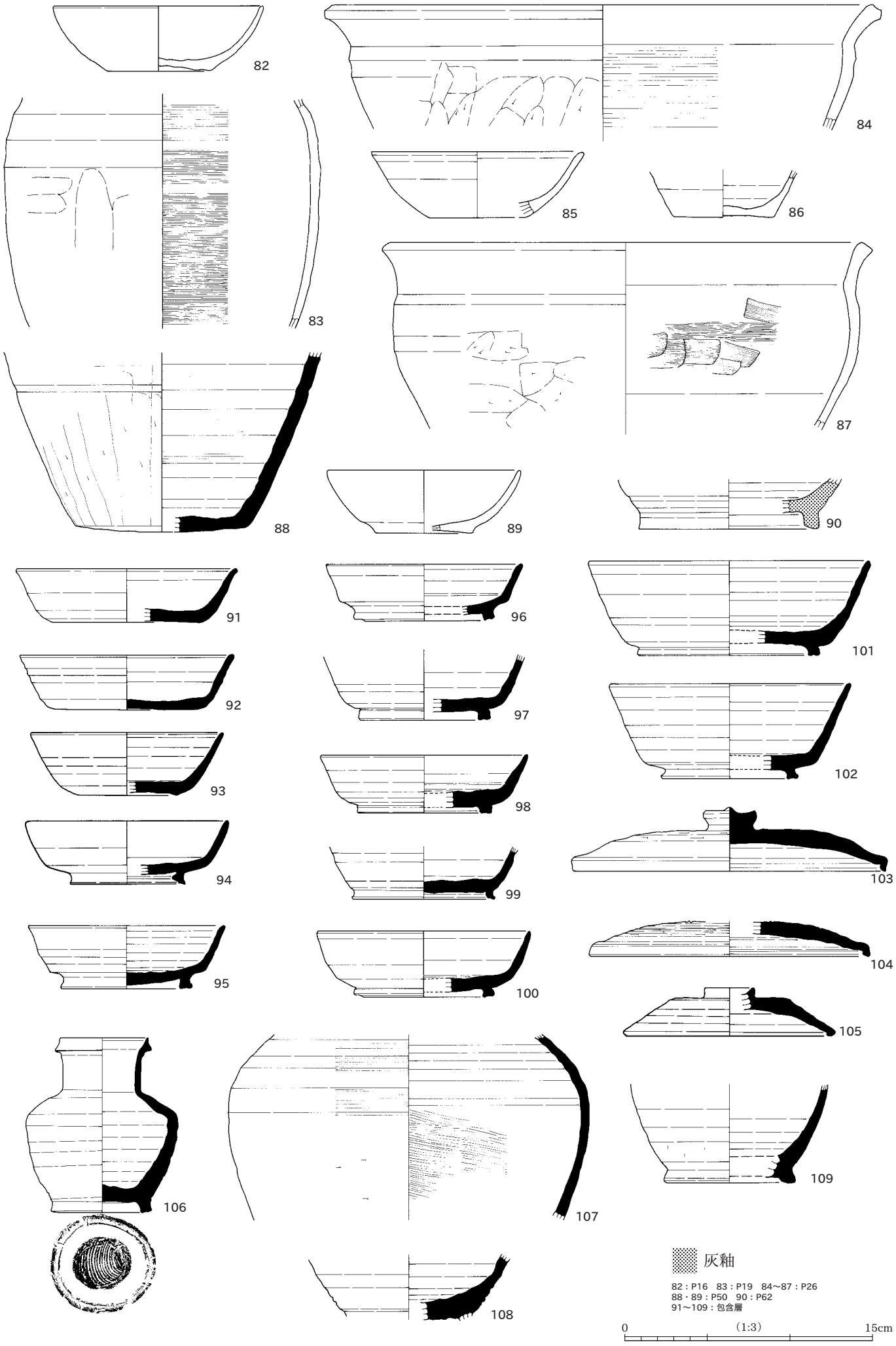

32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
32～35：SK1714・SK1715
36：SK1730
37：SK1725
38：SK1734
39・40：SK1740
41～44：SK1742
45～48：SK1820
0 (1:6) 30cm (32～35)
0 (1:3) 15cm (その他)

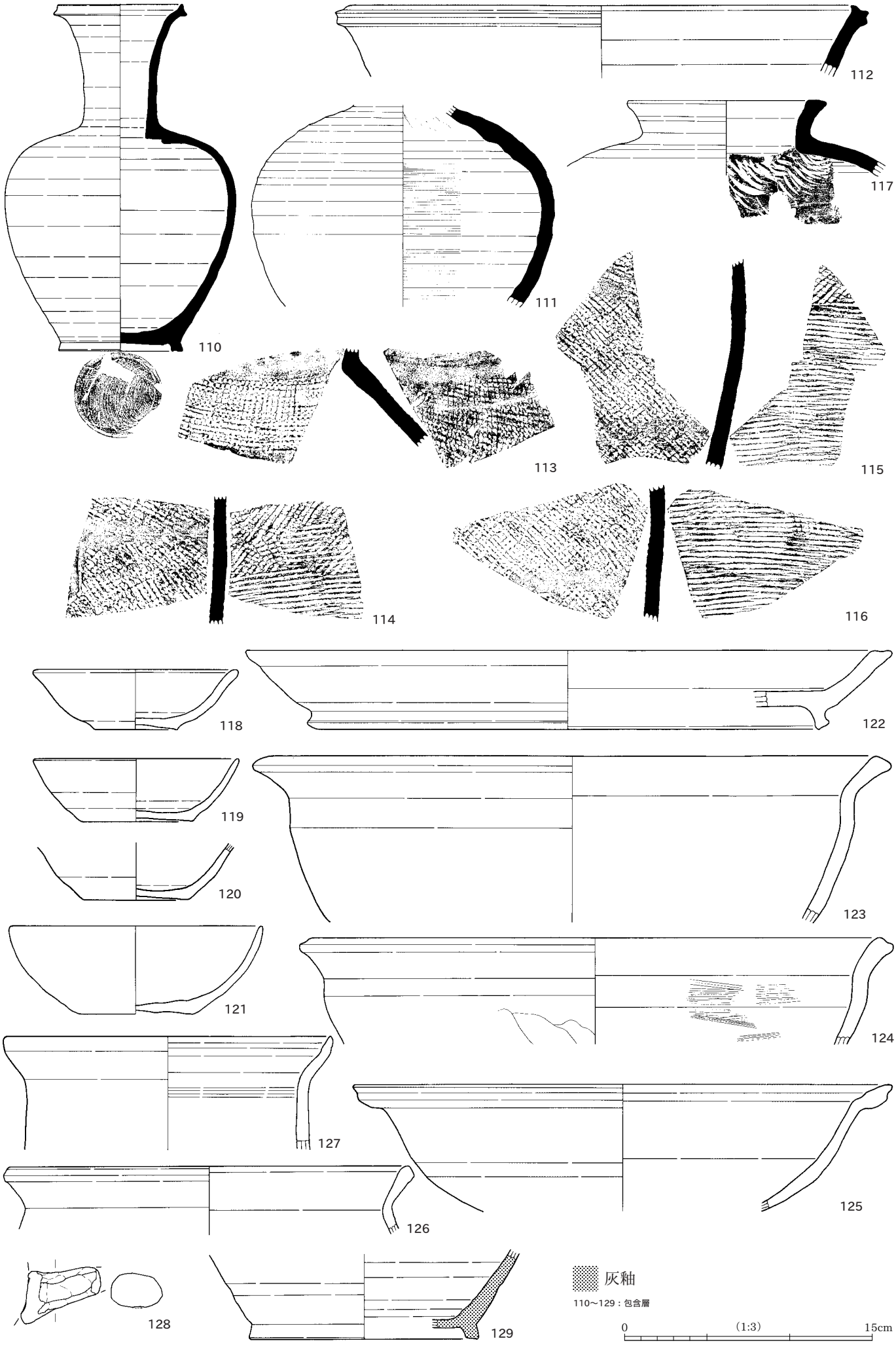

49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
49～52 : SK1820
53～54 : SK1736A
55～58 : SX1701
59 : SX1716
0
(1:3)
15cm

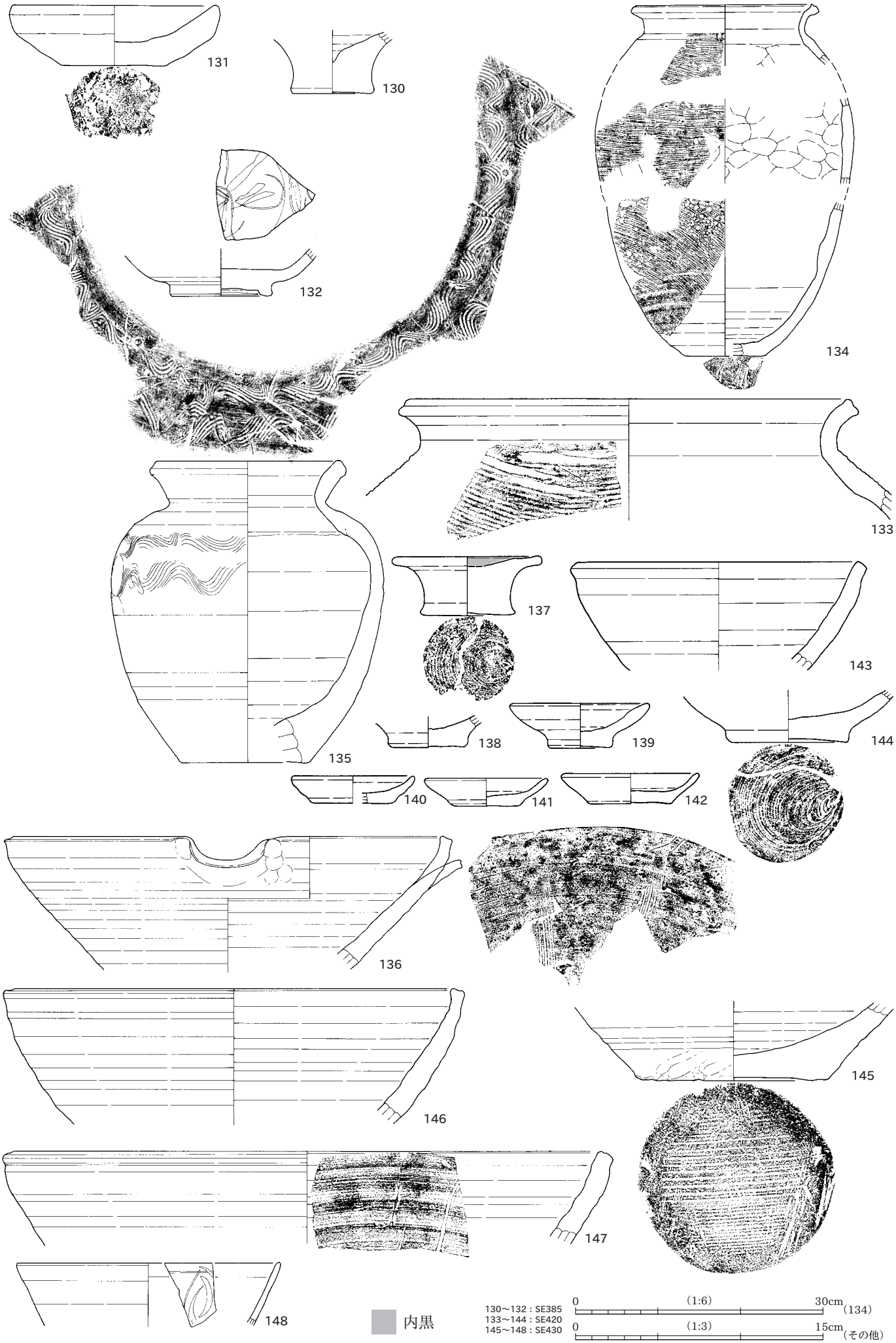


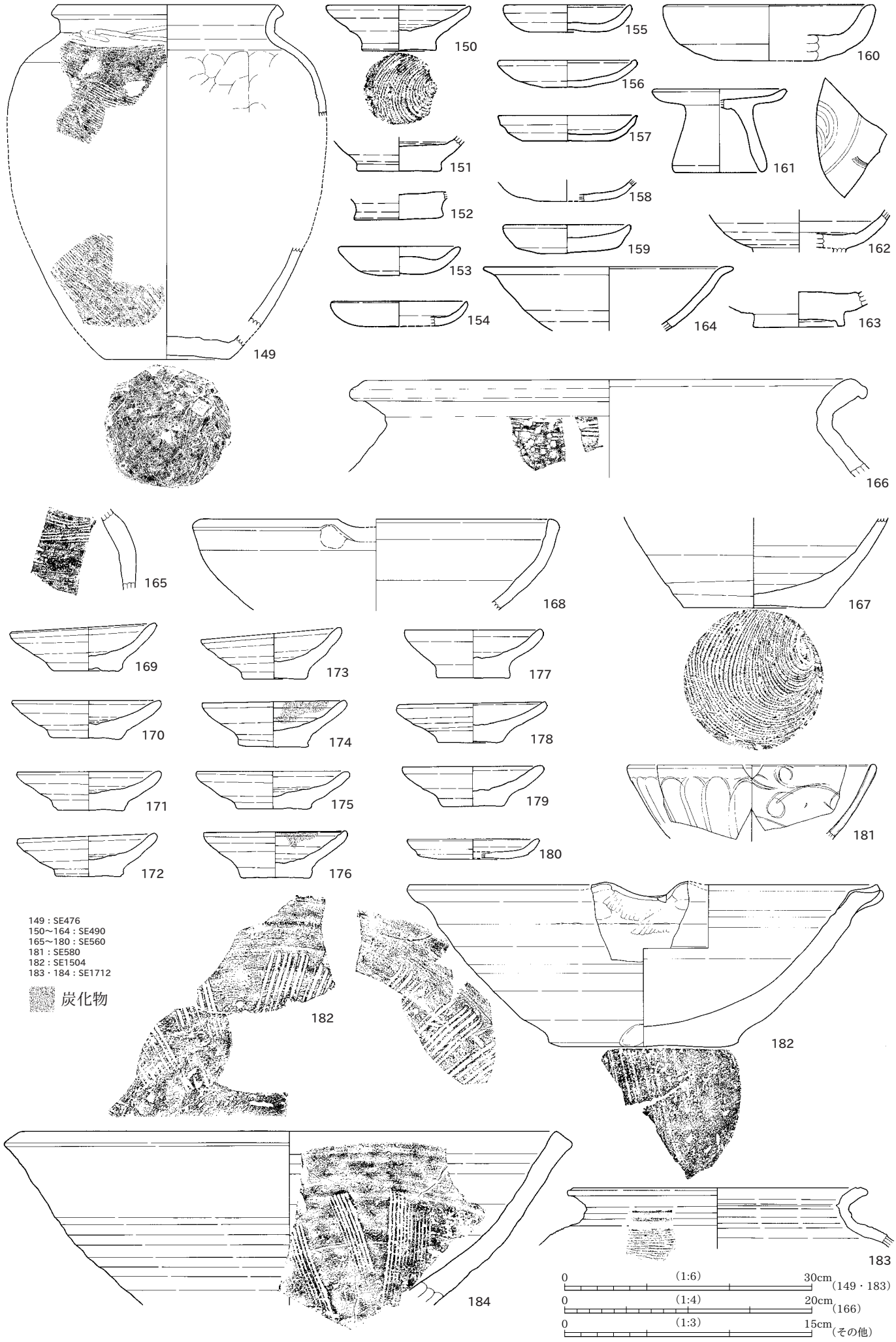
60：SX1702　61～63：SD700　64：SD1744　65：SD1750
66・67：SD1752　68～71：SD1753　72・73：SD1814
74～77：P4　78：P7　79：P11　80・81：P13

0　(1:3)　15cm

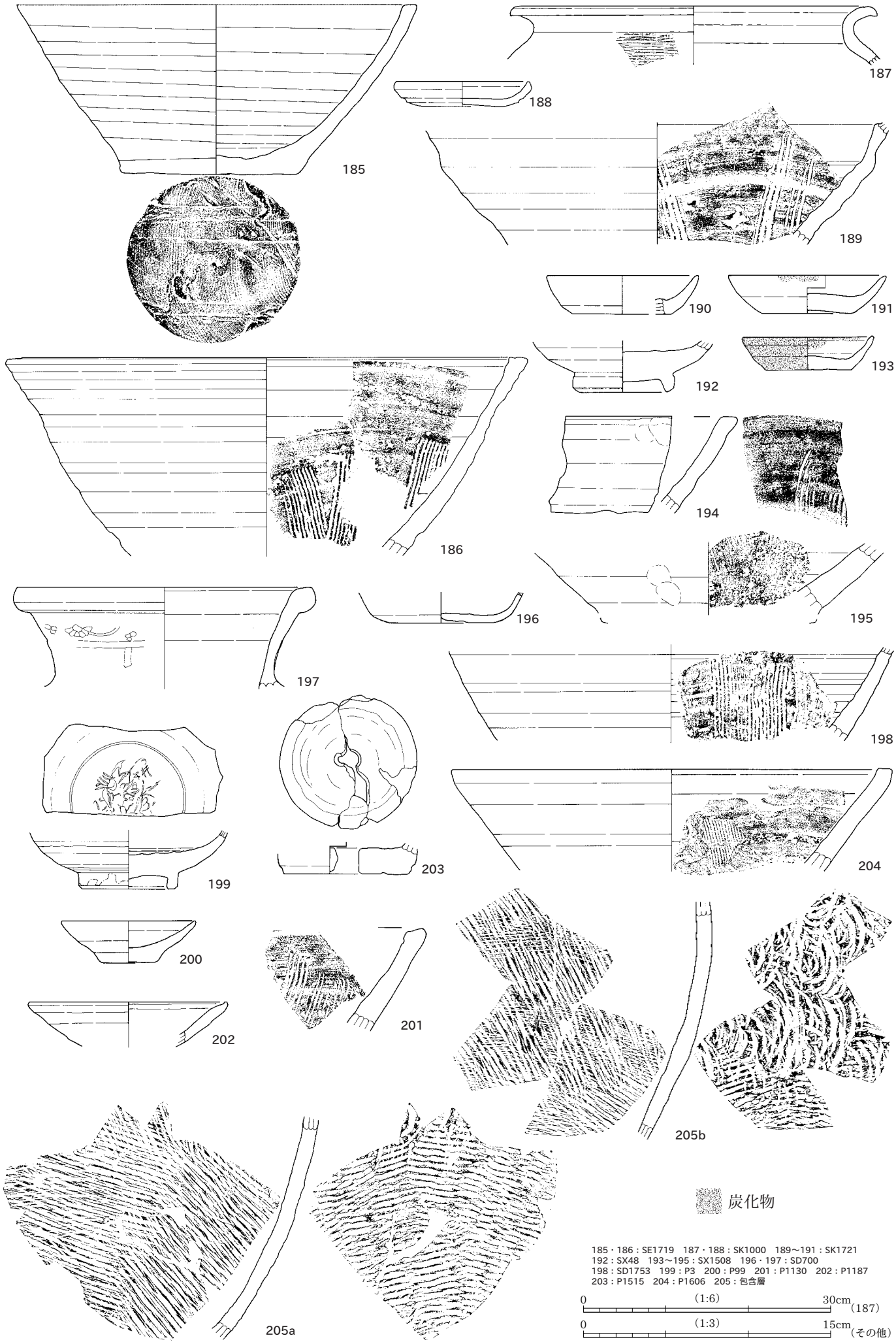

82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
灰釉
82：P16　83：P19　84～87：P26
88・89：P50　90：P62
91～109：包含層
0
(1:3)
15cm

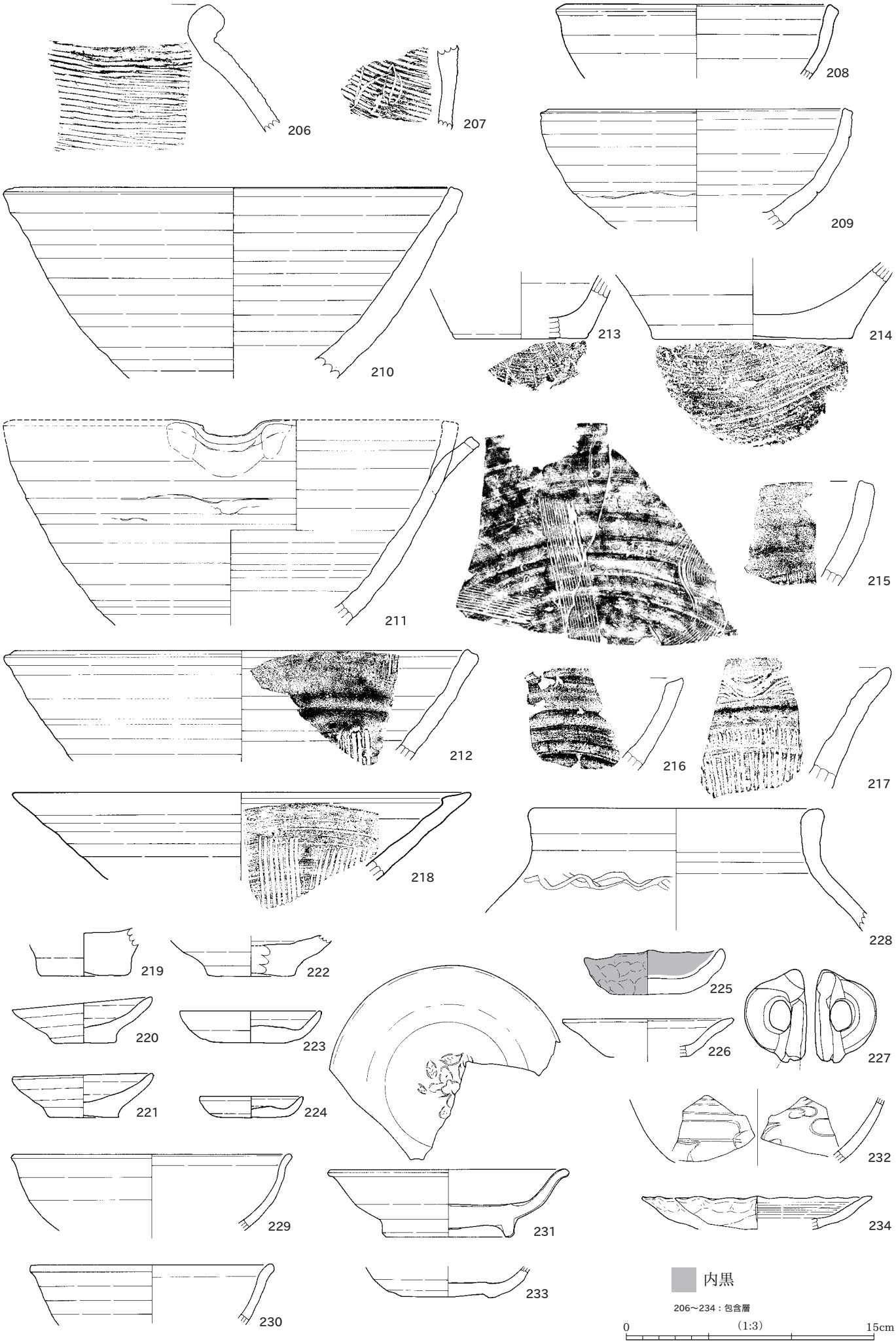

110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
灰釉
110～129：包含層
0
(1:3)
15cm

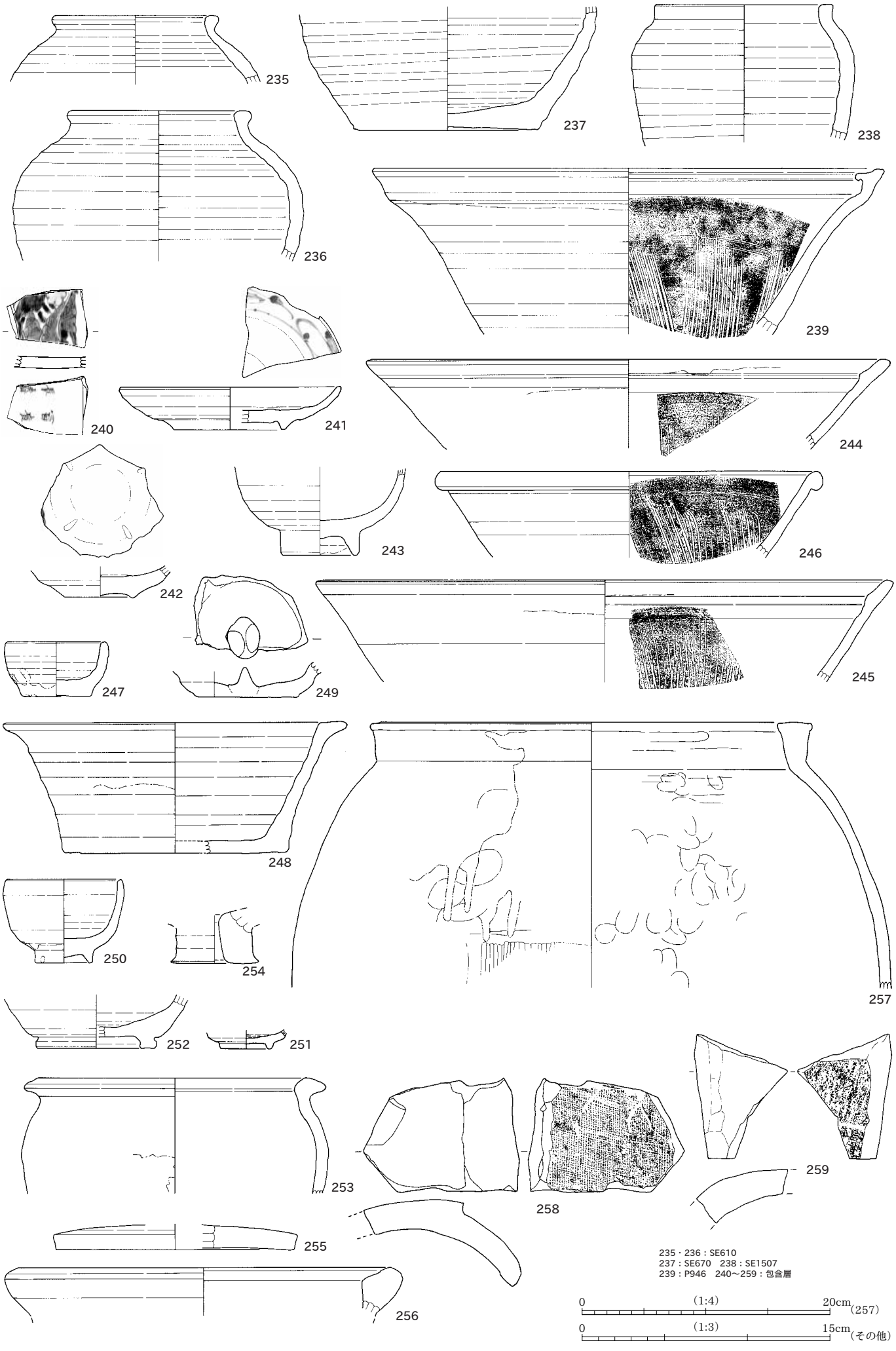

131
130
132
134
133
135
137
143
138
139
144
140
141
142
136
145
146
147
148
内黒
130～132：SE385
133～144：SE420
145～148：SE430
0
(1:6)
30cm
(134)
0
(1:3)
15cm
(その他)



149 : SE476
150～164 : SE490
165～180 : SE560
181 : SE580
182 : SE1504
183・184 : SE1712

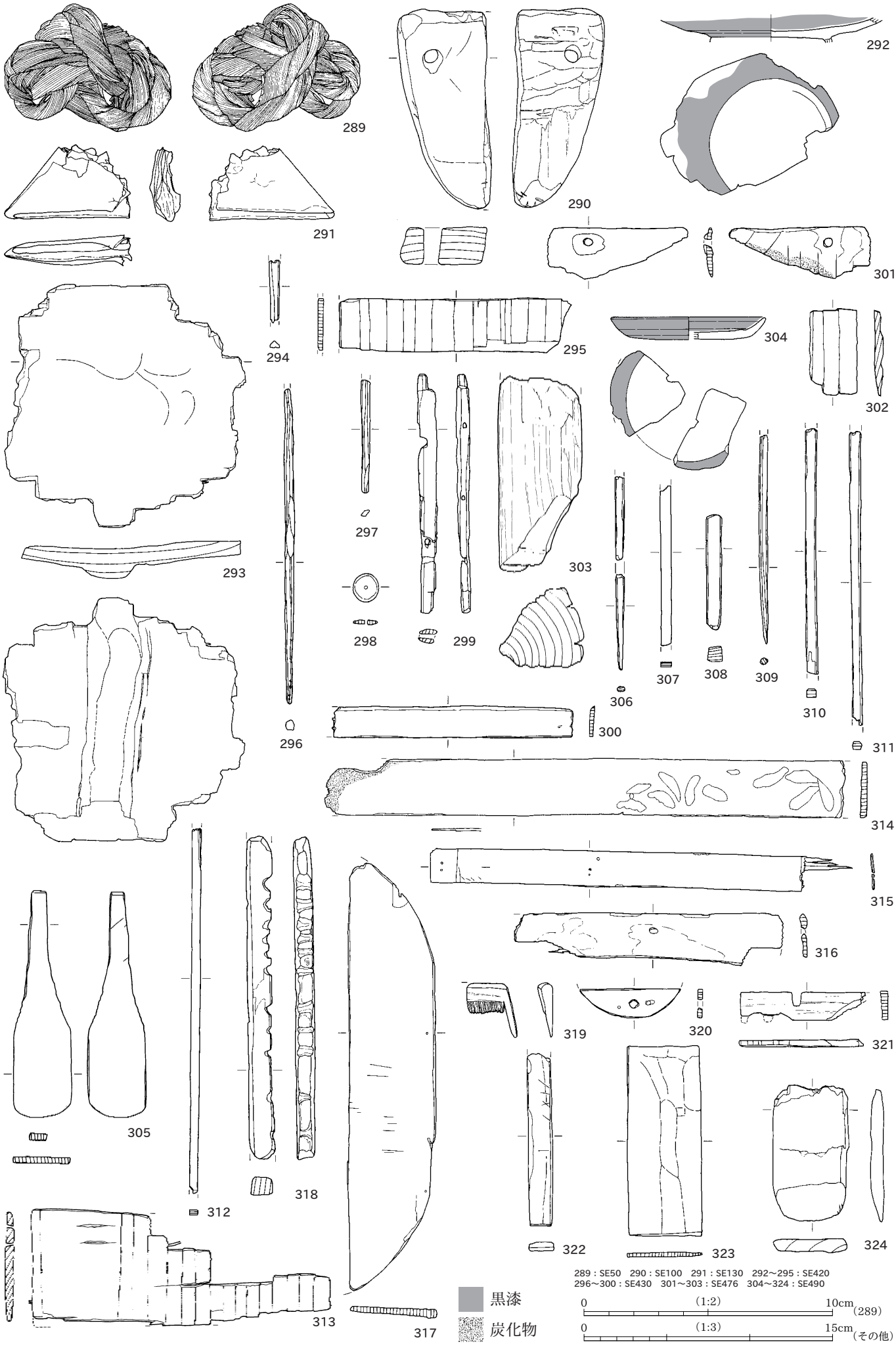

185
187
188
189
190
191
192
193
186
194
196
195
197
198
199
203
204
200
201
202
205b
205a
炭化物
185・186：SE1719　187・188：SK1000　189～191：SK1721
192：SX48　193～195：SX1508　196・197：SD700
198：SD1753　199：P3　200：P99　201：P1130　202：P1187
203：P1515　204：P1606　205：包含層
0　(1:6)　30cm (187)
0　(1:3)　15cm (その他)

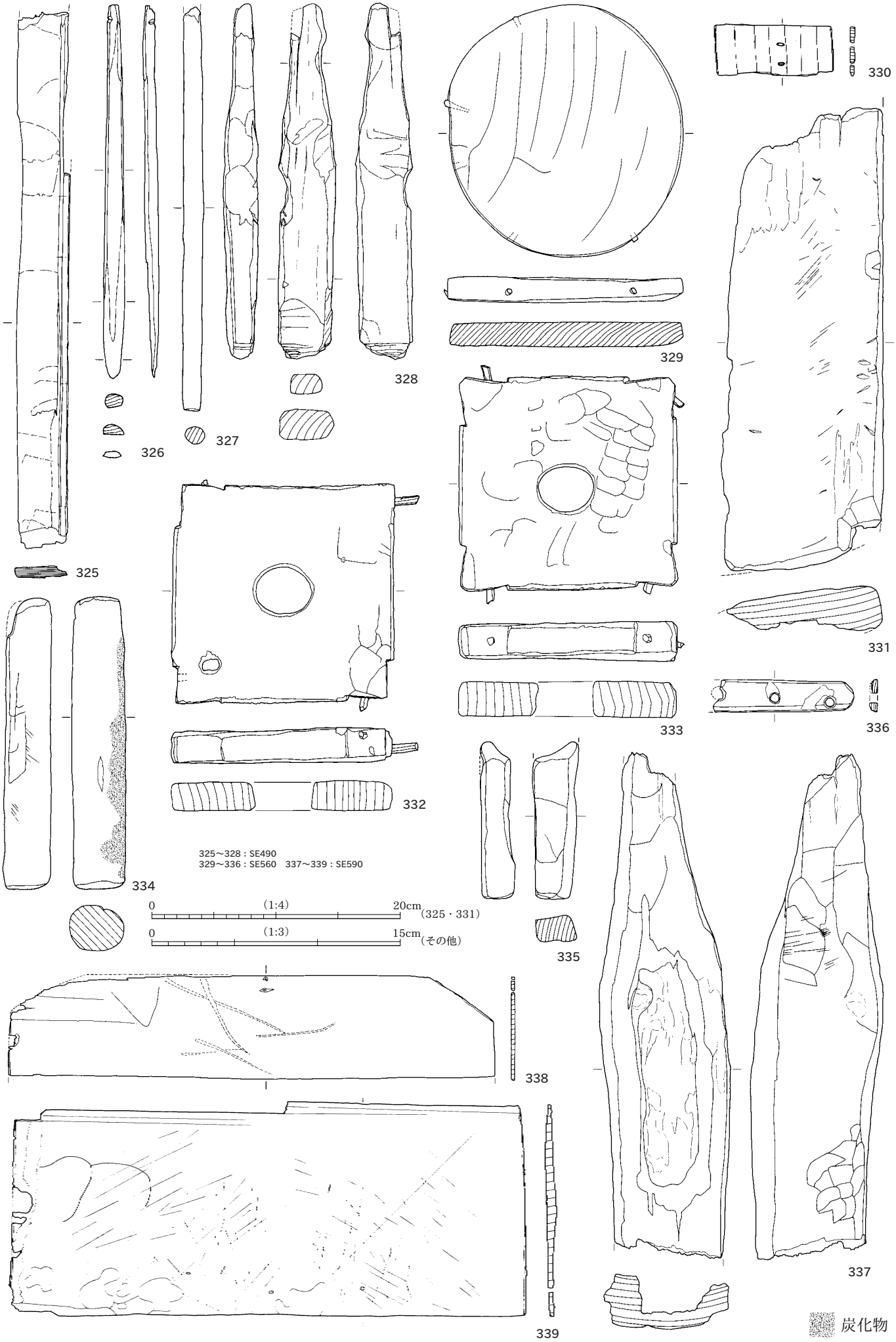

206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
内黒
206～234：包含層
0
(1:3)
15cm

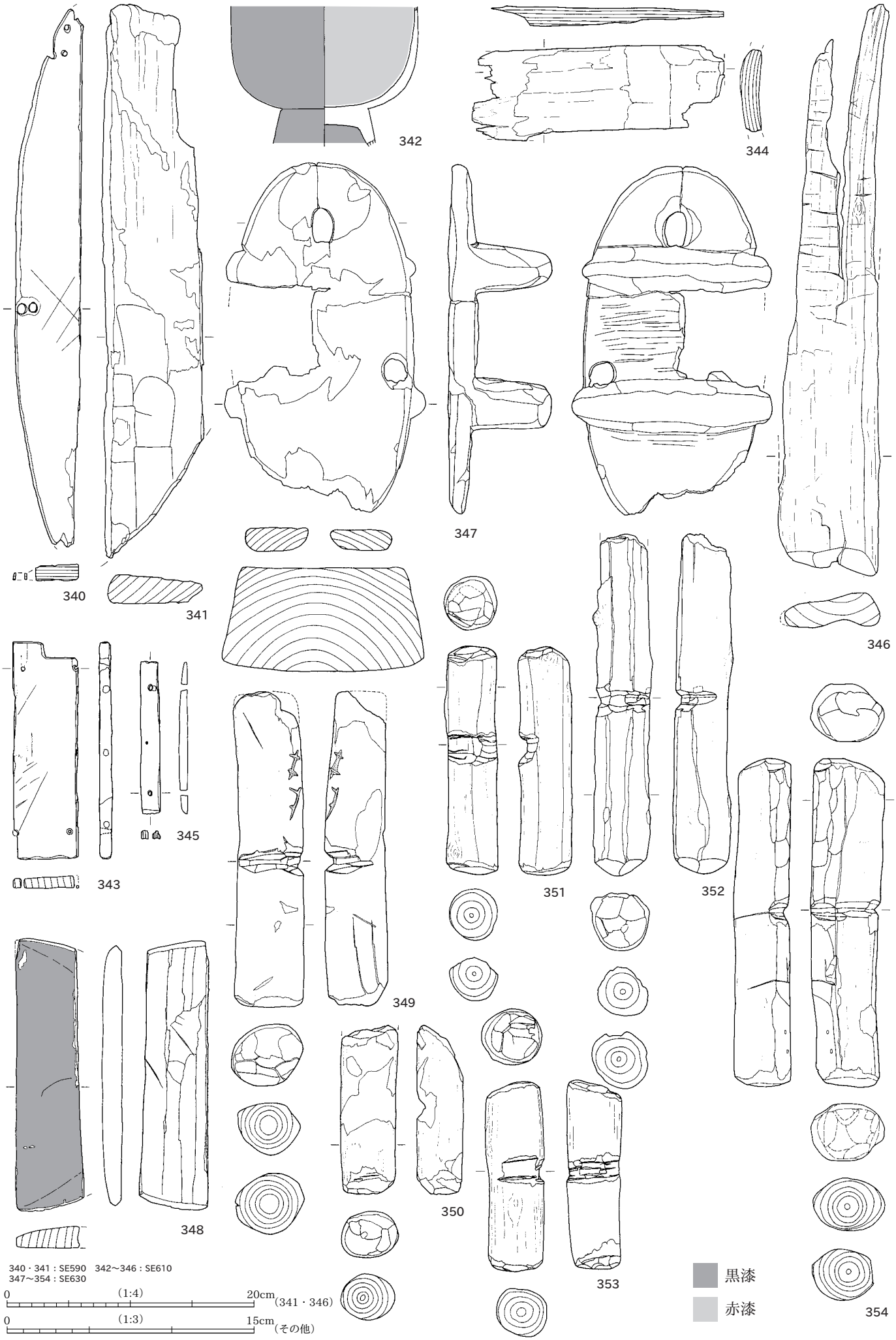

235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
235・236：SE610
237：SE670　238：SE1507
239：P946　240～259：包含層
0　(1:4)　20cm (257)
0　(1:3)　15cm (その他)

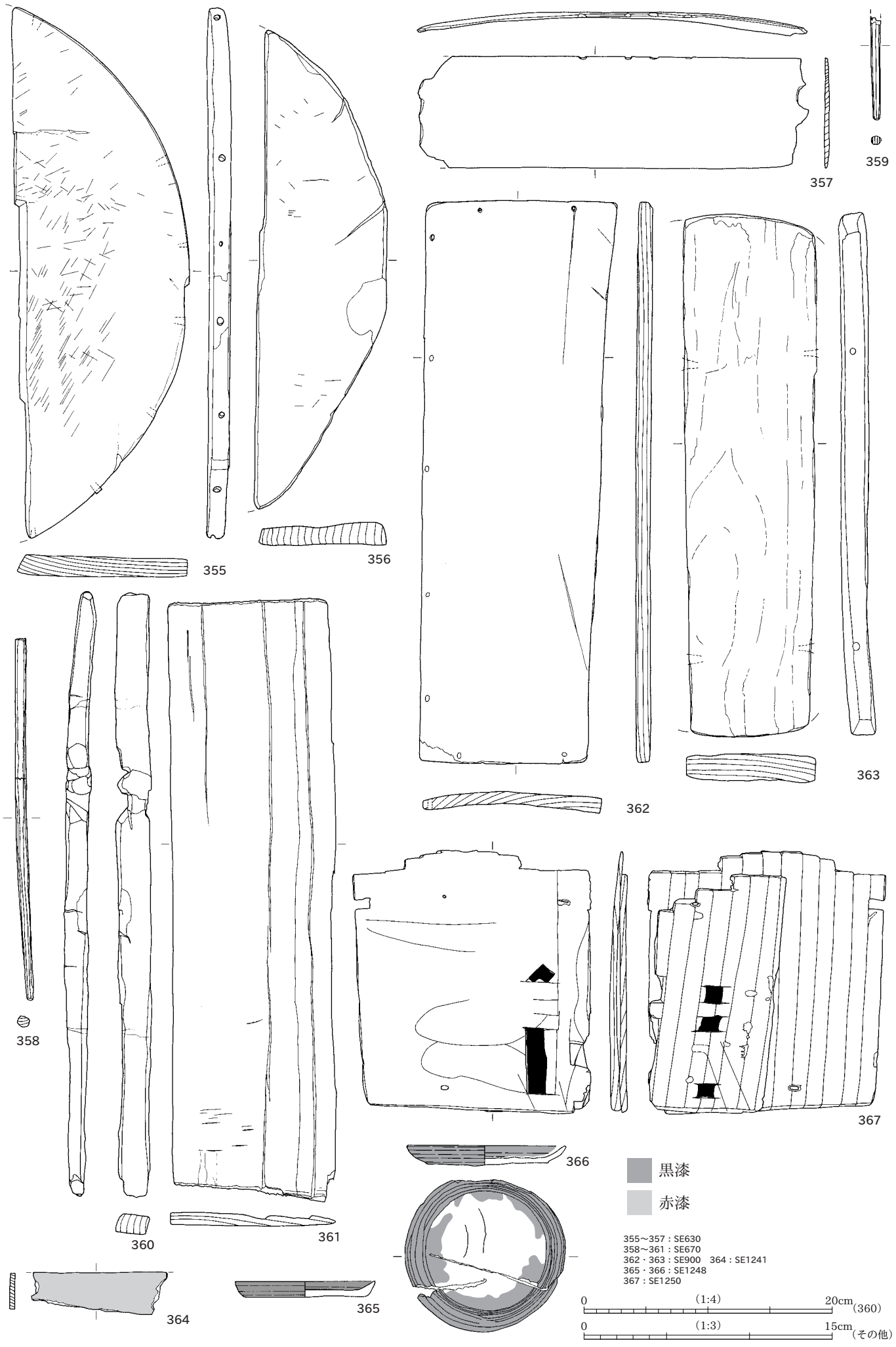
260～267・272：包含層
268：SK1365
269・270：SE1718
271：P249

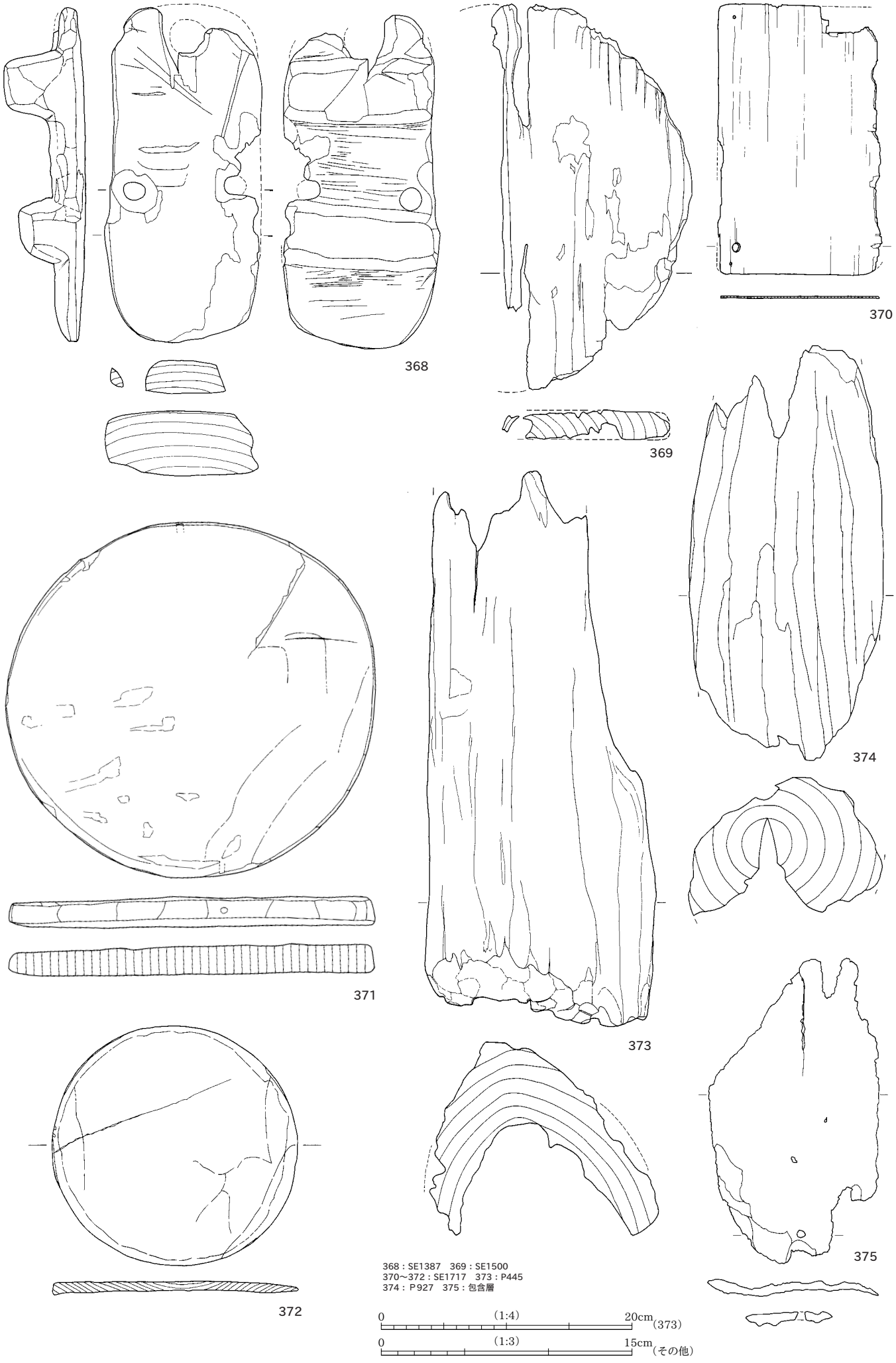
273
275
287
288
276
274
277
278
280
281
282
279
285
284
283
286
273・274：SE1390
275・276：SE1500
277～288：包含層
0 (1:5) 20cm (273・274)
0 (1:4) 20cm (275・276)
0 (1:3) 15cm (その他)

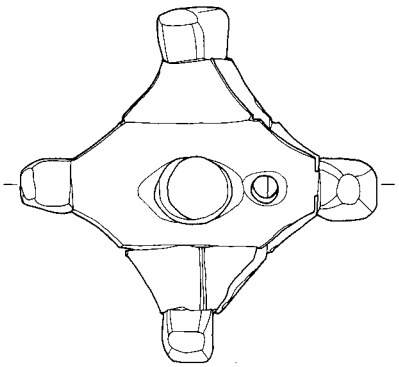

289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
黒漆
炭化物
289：SE50　290：SE100　291：SE130　292～295：SE420
296～300：SE430　301～303：SE476　304～324：SE490
0　(1:2)　10cm（289）
0　(1:3)　15cm（その他）

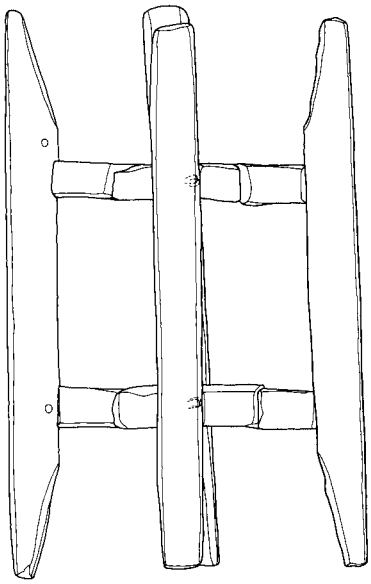

325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
325～328：SE490
329～336：SE560　337～339：SE590
0　(1:4)　20cm（325・331）
0　(1:3)　15cm（その他）
炭化物


342
344
347
340
341
346
345
343
351
352
349
350
348
353
354
黒漆
赤漆
340・341：SE590　342～346：SE610
347～354：SE630
0 (1:4) 20cm (341・346)
0 (1:3) 15cm (その他)

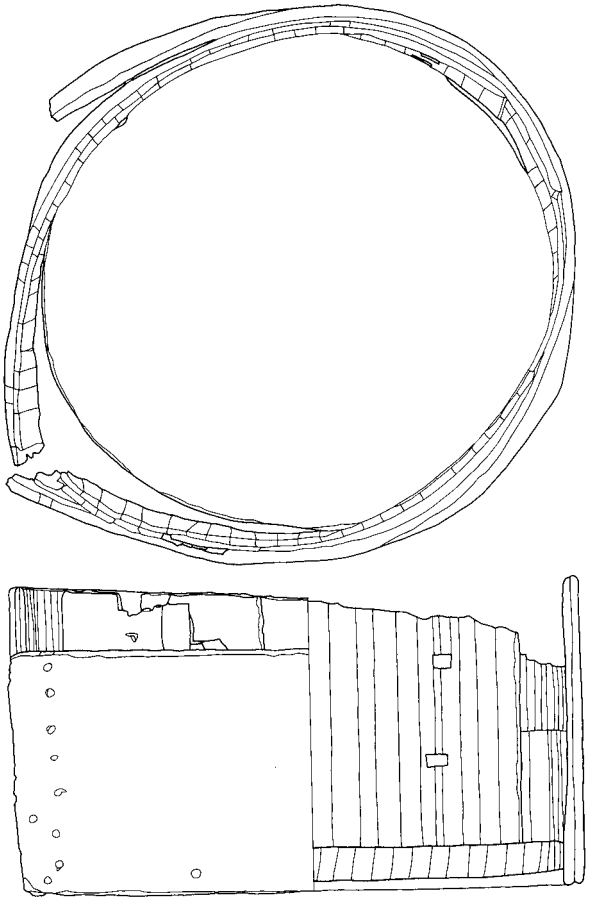

355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
黒漆
赤漆
355～357：SE630
358～361：SE670
362・363：SE900　364：SE1241
365・366：SE1248
367：SE1250
0
(1:4)
20cm
(360)
0
(1:3)
15cm
(その他)


368
369
370
371
372
373
374
375
368：SE1387　369：SE1500
370～372：SE1717　373：P445
374：P927　375：包含層
0　(1:4)　20cm (373)
0　(1:3)　15cm (その他)

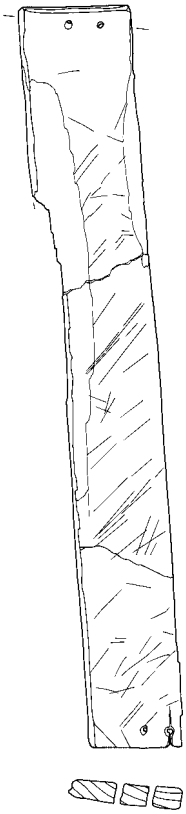




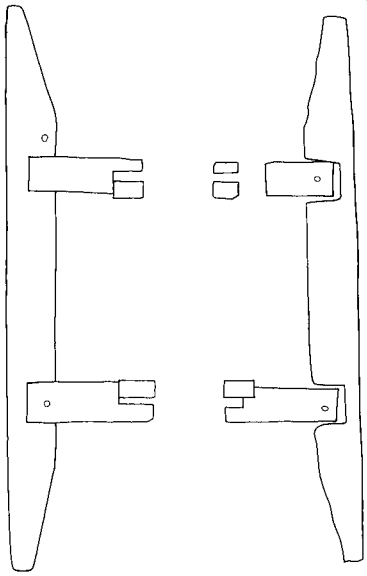
376

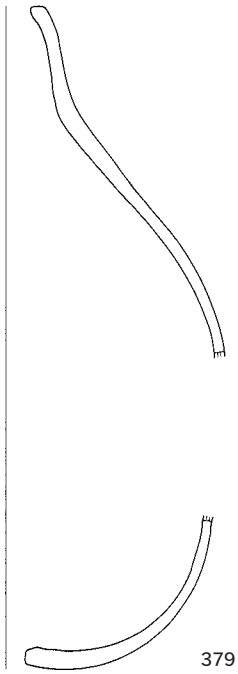


377



378

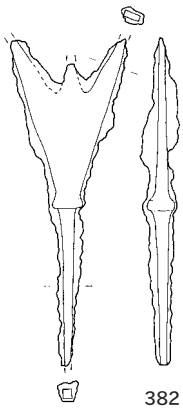




379

380

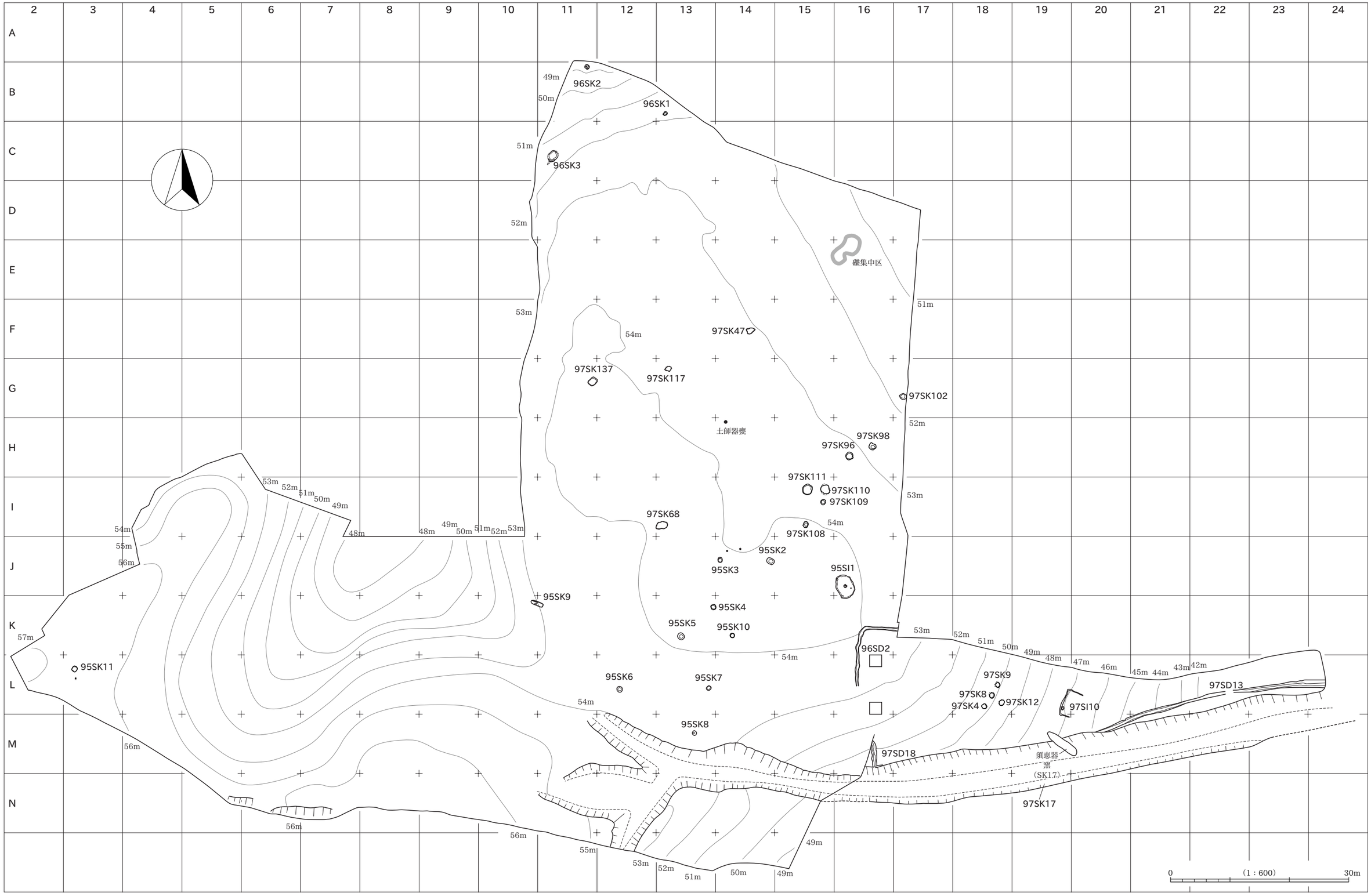
381

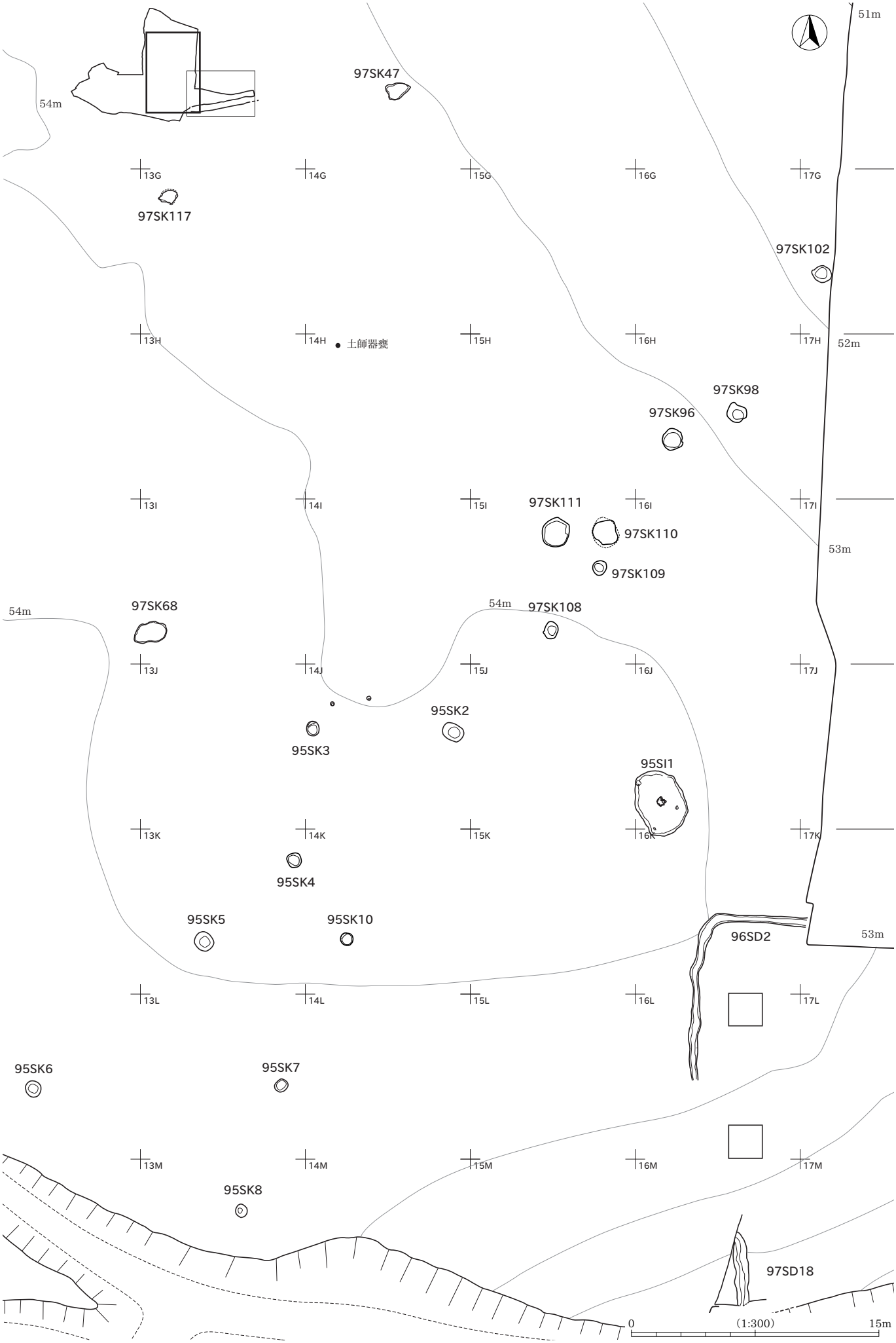


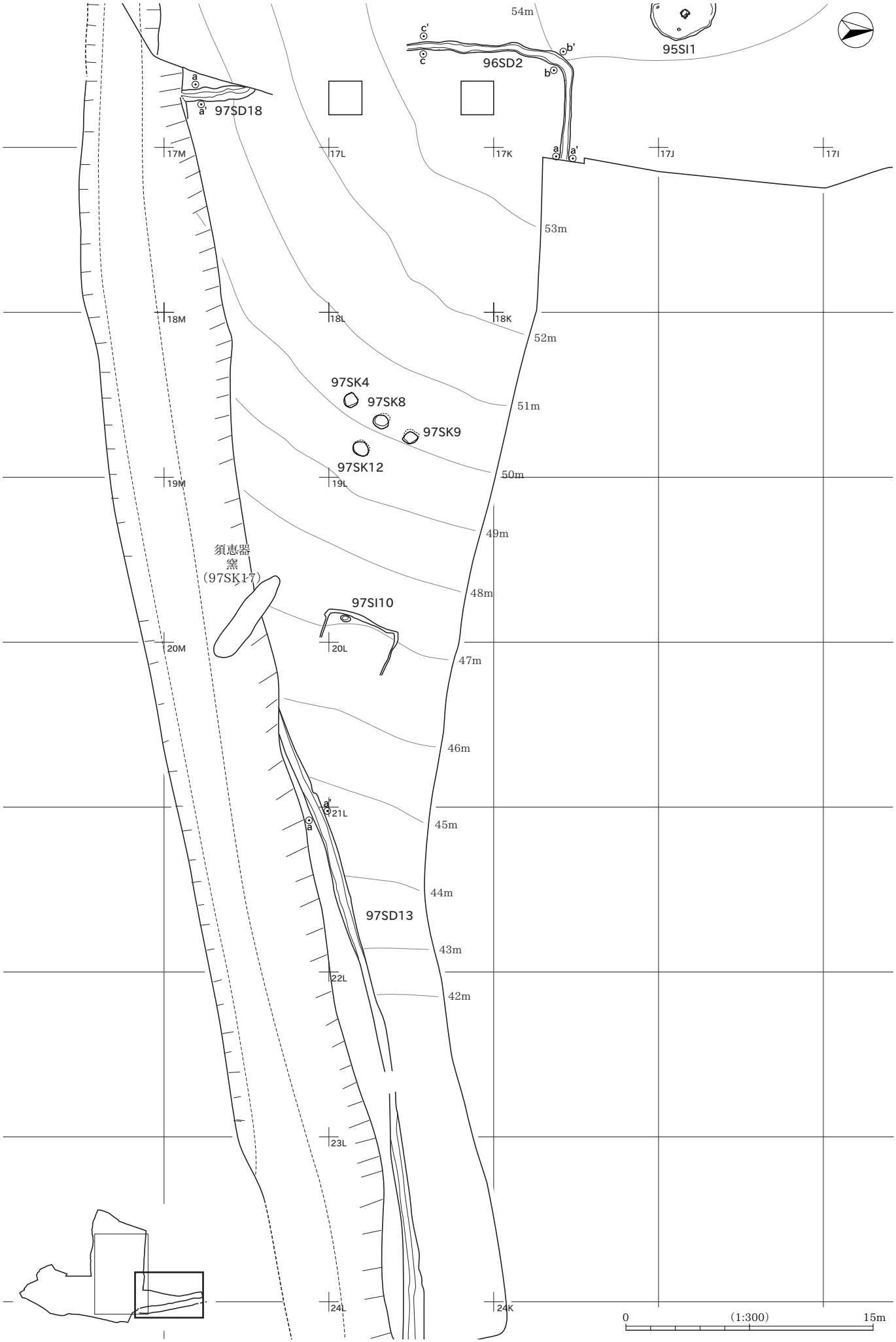
382

376・377：SE560
379：SE420
380：SE1712

0　(1:2)　10cm (381)
0　(1:3)　15cm (その他)
0　(1:4)　20cm (376)


96SK2
96SK1
96SK3
礫集中区
97SK47
97SK137
97SK117
97SK102
土師器甕
97SK98
97SK96
97SK111
97SK110
97SK109
97SK68
97SK108
95SK2
95SK3
95SI1
95SK9
95SK4
95SK5
95SK10
96SD2
95SK11
95SK6
95SK7
97SK9
97SK8
97SK4
97SK12
97SI10
97SD13
95SK8
97SD18
須恵器
甕
(SK17)
97SK17
0
(1：600)
30m

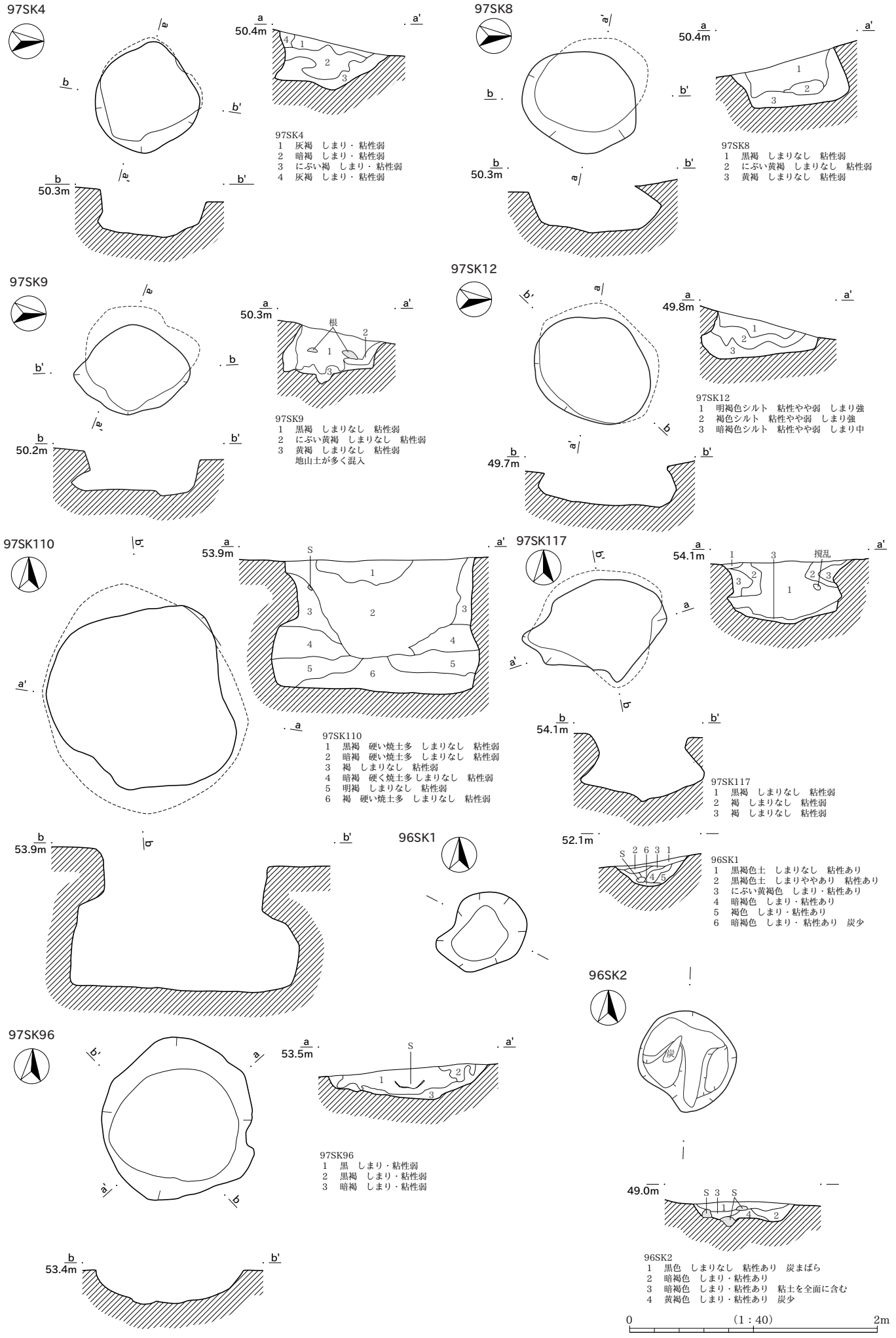

51m
54m
97SK47
13G
14G
15G
16G
17G
97SK117
97SK102
13H
14H
土師器甕
15H
16H
17H
52m
97SK98
97SK96
13I
14I
15I
97SK111
16I
17I
97SK110
53m
97SK109
54m
97SK68
54m
97SK108
13J
14J
15J
16J
17J
95SK2
95SK3
95SI1
13K
14K
15K
16K
17K
95SK4
95SK5
95SK10
96SD2
53m
13L
14L
15L
16L
17L
95SK6
95SK7
13M
14M
15M
16M
17M
95SK8
97SD18
0
(1:300)
15m


54m
95SI1
96SD2
97SD18
17M
17L
17K
17J
17I
53m
18M
18L
18K
52m
97SK4
97SK8
97SK9
51m
97SK12
19M
19L
50m
49m
須恵器
窯
(97SK17)
48m
97SI10
20M
20L
47m
46m
21L
45m
44m
97SD13
43m
22L
42m
23L
24L
24K
0
(1:300)
15m

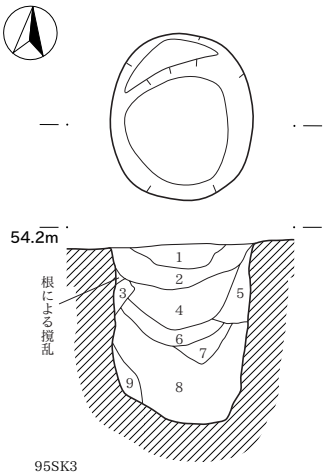
95SI1
1　灰黒色土層　焼土粒
2　褐色土層　炭
3　暗褐色土層　焼
4　明褐色土層　炭
5　黒色土層　焼土
6　黒褐色土層（混入物は5層とほぼ同じ）
7　暗褐色土層　焼多　炭少
8　黄褐色土層
9　褐色土層　炭
10　褐色土層（9層とよく似る）
11　明褐色土層
12　褐色土層
13　灰黒色土層　炭多
14　黄褐色土層　焼土・炭多
15　灰黒色土層（13層によく似る）
16　褐色土層
17　暗褐色土層　炭
18　黄褐色土（Ⅳ層土を主とする）
19　褐色土層（Ⅳ層土を多く含む　炭を少量）
20　灰黒色土層
21　褐色土層

炉
1　黒色土層焼土多く　しまり弱
2　橙褐色土層　焼土粒・焼土塊を主とし　黒色土少量　しまり弱

0　(1:30)　1.5m

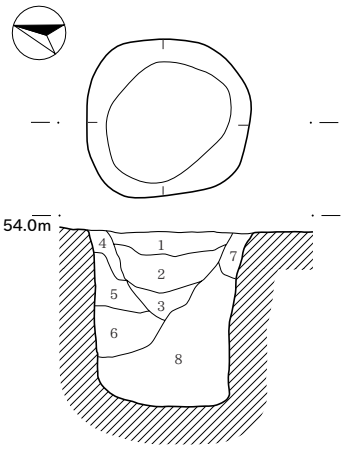

97SK4
a 50.4m a'
b 50.3m b'
97SK4
1　灰褐　しまり・粘性弱
2　暗褐　しまり・粘性弱
3　にぶい褐　しまり・粘性弱
4　灰褐　しまり・粘性弱
97SK8
a 50.4m a'
b 50.3m b'
97SK8
1　黒褐　しまりなし　粘性弱
2　にぶい黄褐　しまりなし　粘性弱
3　黄褐　しまりなし　粘性弱
97SK9
a 50.3m a'
b 50.2m b'
根
97SK9
1　黒褐　しまりなし　粘性弱
2　にぶい黄褐　しまりなし　粘性弱
3　黄褐　しまりなし　粘性弱
地山土が多く混入
97SK12
a 49.8m a'
b 49.7m b'
97SK12
1　明褐色シルト　粘性やや弱　しまり強
2　褐色シルト　粘性やや弱　しまり強
3　暗褐色シルト　粘性やや弱　しまり中
97SK110
a 53.9m a'
b 53.9m b'
S
97SK110
1　黒褐　硬い焼土多　しまりなし　粘性弱
2　暗褐　硬い焼土多　しまりなし　粘性弱
3　褐　しまりなし　粘性弱
4　暗褐　硬く焼土多 しまりなし　粘性弱
5　明褐　しまりなし　粘性弱
6　褐　硬い焼土多　しまりなし　粘性弱
97SK117
a 54.1m a'
b 54.1m b'
撹乱
97SK117
1　黒褐　しまりなし　粘性弱
2　褐　しまりなし　粘性弱
3　褐　しまりなし　粘性弱
96SK1
52.1m
S 2 6 3 1
96SK1
1　黒褐色土　しまりなし　粘性あり
2　黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
3　にぶい黄褐色　しまり・粘性あり
4　暗褐色　しまり・粘性あり
5　褐色　しまり・粘性あり
6　暗褐色　しまり・粘性あり　炭少
97SK96
a 53.5m a'
b 53.4m b'
S
97SK96
1　黒　しまり・粘性弱
2　黒褐　しまり・粘性弱
3　暗褐　しまり・粘性弱
96SK2
炭
49.0m
S 3 S
96SK2
1　黒色　しまりなし　粘性あり　炭まばら
2　暗褐色　しまり・粘性あり
3　暗褐色　しまり・粘性あり　粘土を全面に含む
4　黄褐色　しまり・粘性あり　炭少
0　(1：40)　2m

95SK3



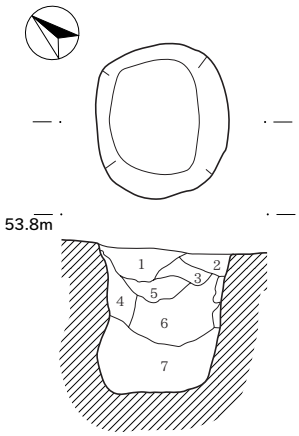
95SK3
1　褐色土（Ⅳ層土少）
2　褐色土（Ⅳ層土多）
3　明褐色土（Ⅳ層土多）
4　暗褐色土（炭少　Ⅳ層土多）
5　明褐色土（Ⅳ層土を多　3層よりⅣ層土の混じり多）
6　明褐色土（炭僅かに含）
7　褐色土（Ⅳ層土多）
8　暗褐色土（炭少　Ⅳ層土多）
9　黄褐色土（Ⅳ層土を主とする）

95SK4



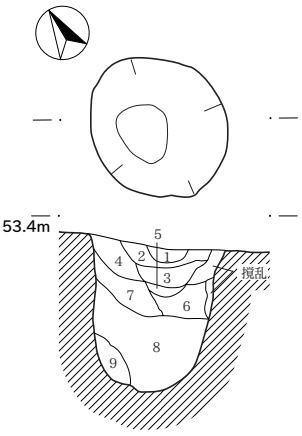
95SK4
1　灰黒色土（Ⅳ層土僅かに含）
2　灰黒色土（1層よりやや濃い）
3　暗褐色土（炭僅かに含　Ⅳ層土少　Ⅳ層土ブロック）
4　明褐色土（Ⅳ層土多）
5　明褐色土（Ⅳ層土多　混じりは4層より多）
6　明褐色土（炭多）
7　黄褐色土（Ⅳ層土を主とする）
8　褐色土（Ⅳ層土　炭多）

95SK7



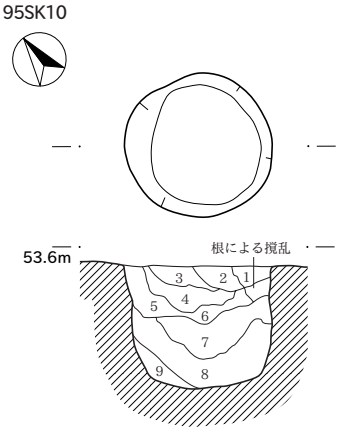
95SK7
1　暗褐色土　炭少
2　明褐色土　Ⅳ層土少
3　暗褐色土　炭少
4　黄褐色土　混入物なし
5　灰黒色土　炭少
6　褐色土　炭少
7　暗褐色土　炭多

95SK8



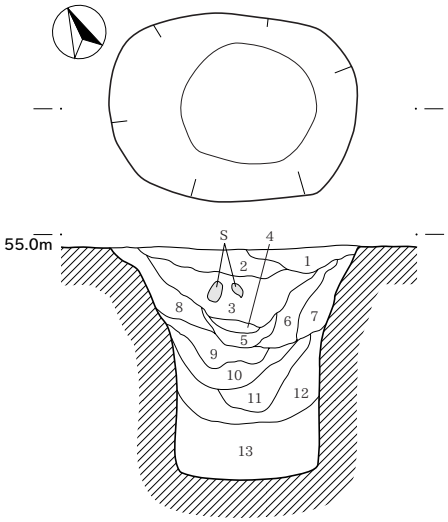
95SK8
1　暗褐色土（焼土多）
2　褐色土（焼土少）
3　暗褐色土（焼土多）
4　明褐色土（Ⅳ層土多　焼土少）
5　暗褐色土（焼土少）
6　暗褐色土（焼土少）
7　褐色土（焼土少）
8　明褐色土（Ⅳ層土多く混じる　土器片含）
9　褐色土（Ⅳ層土混じる）

95SK10



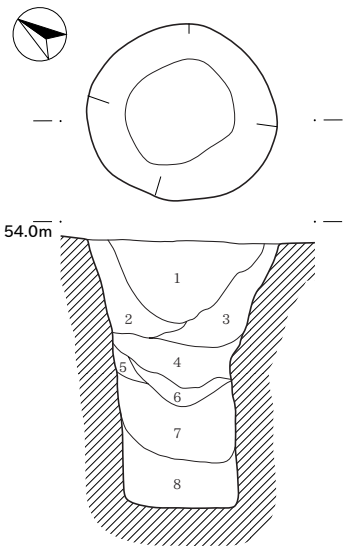
95SK10
1　褐色土　しまりはよい
2　灰褐色土　硬化したⅣ層土多　炭　しまりはよい
3　暗褐色土　硬化したⅣ層土多　炭少　しまりはよい
4　褐色土　硬化したⅣ層土・焼土多 炭　しまりはよい
5　明褐色土　硬化したⅣ層土少
6　暗褐色土　硬化したⅣ層土少
7　黒褐色土　硬化したⅣ層土・焼土多　しまり弱
8　褐色土　硬化したⅣ層土多　しまり弱
9　黄褐色土　Ⅳ層土を主とする

95SK2



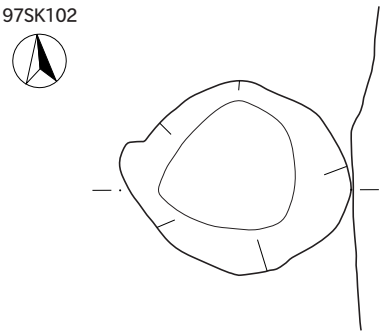
95SK2
1　暗褐色土（Ⅳ層土粒多）
2　灰黒色土（Ⅳ層土粒多）
3　灰黒色土（Ⅳ層土粒多　焼土少）
4　明褐色土（Ⅳ層土多）
5　暗褐色土（焼土多）
6　暗褐色土（焼土特多　Ⅳ層土多）
7　明褐色土（Ⅳ層土を主とし　焼土少）
8　明褐色土（Ⅳ層土多）
9　明褐色土（8層に似ている）
10　暗褐色土（Ⅳ層土粒僅かに含）
11　黄褐色土（Ⅳ層土を主とする）
12　褐色土（Ⅳ層土少）
13　11とほぼ同質の黄褐色土

95SK6

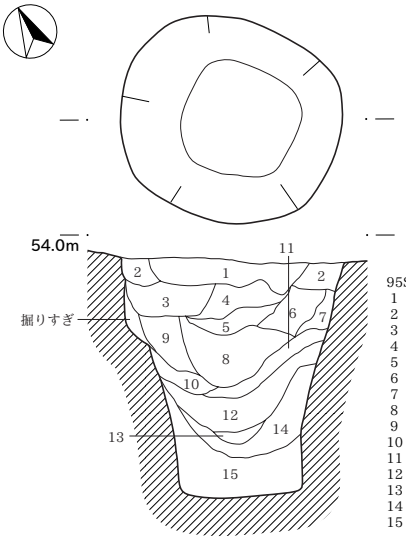


95SK6
1　灰黒色土　炭少　Ⅳ層土を僅かに含
2　褐色土　炭多　Ⅳ層土粒及びⅣ層土を含
3　明褐色土　炭多　焼土少
4　暗褐色土　炭を少　Ⅳ層土粒を多
5　黄褐色土　Ⅳ層土を主体
6　明褐色土　炭少　Ⅳ層土混じる
7　暗褐色土　炭多　しまり弱
8　黄褐色土　しまり弱　Ⅳ層土　物

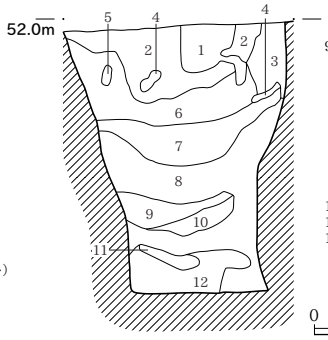
97SK102



95SK5

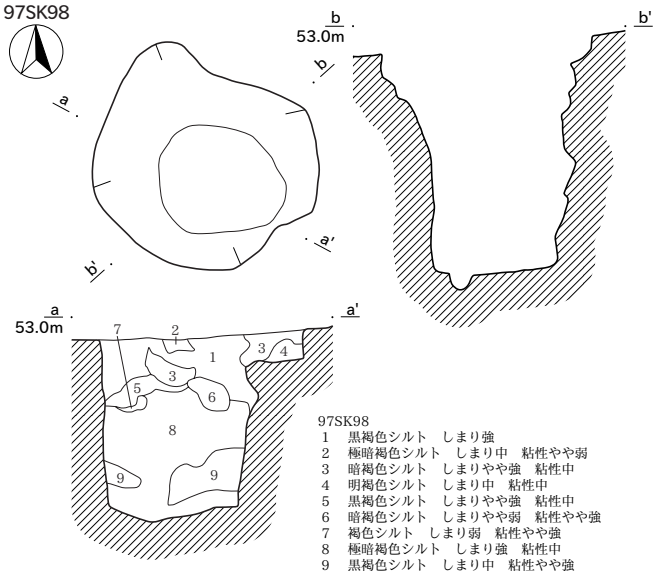


95SK5
1　暗褐色土（Ⅳ層土多）
2　褐色土（暗褐色土　Ⅳ層土斑状）
3　暗褐色土（焼土・炭少）
4　灰黒色土（焼土・炭少）
5　暗褐色土（Ⅳ層土粒多）
6　暗褐色土（黒色土とⅣ層土斑状）
7　褐色土（Ⅳ層土主）
8　黒褐色土（Ⅳ層土　炭を特多）
9　暗褐色土（炭少）
10　褐色土（Ⅳ層土を主　炭少）
11　黄褐色土（Ⅳ層土）
12　暗褐色土（Ⅳ層粒少）
13　黒色土（炭化土を主）
14　褐色土（Ⅳ層土と黒色土が斑状　炭多）
15　黄褐色土（しまり弱のⅣ層土）

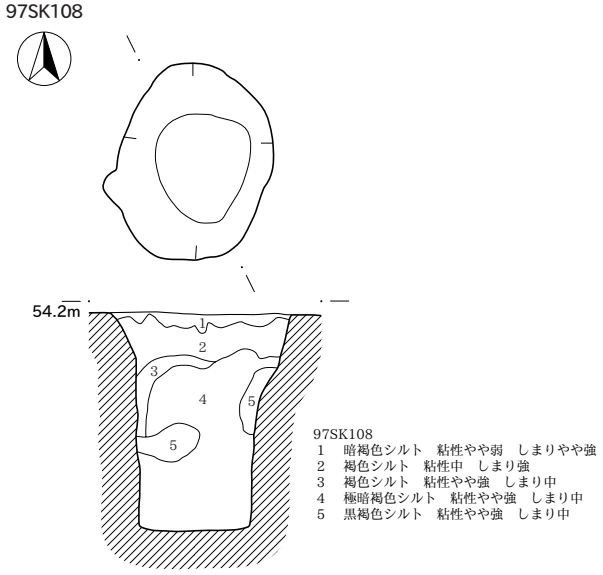


97SK102
1　極褐色シルト　粘性中　しまりやや強
2　黒褐色シルト　粘性やや強　しまりやや強
3　褐色シルト　粘性中　しまり中
4　黄褐色シルト　粘性中　しまり中　黄と黒のまじりあり
5　黒褐色シルト　粘性やや弱　しまり弱　やわらかい
6　黒色シルト　粘性中　しまりやや強
7　暗褐色シルト　粘性やや強　しまり中
8　褐色シルト　粘性やや強　しまりやや弱
9　黒褐色シルト　粘性中　しまり中
10　褐色シルト　粘性やや強　しまりやや弱
11　褐色シルト　粘性やや強　しまりやや弱
12　黒褐色シルト　粘性やや強　しまりやや弱

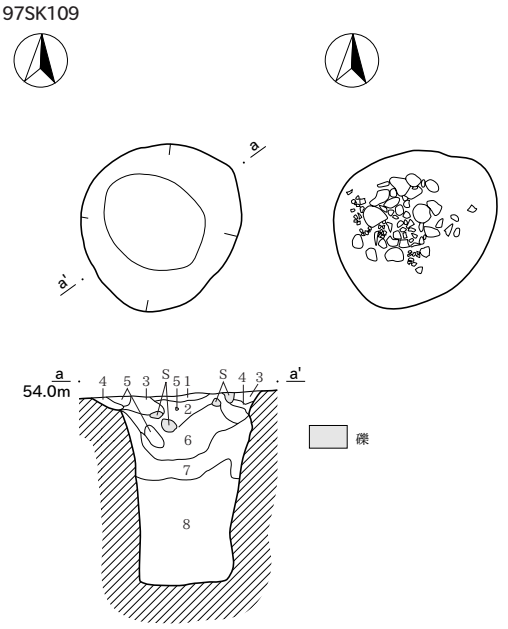
0　（1：40）　2m



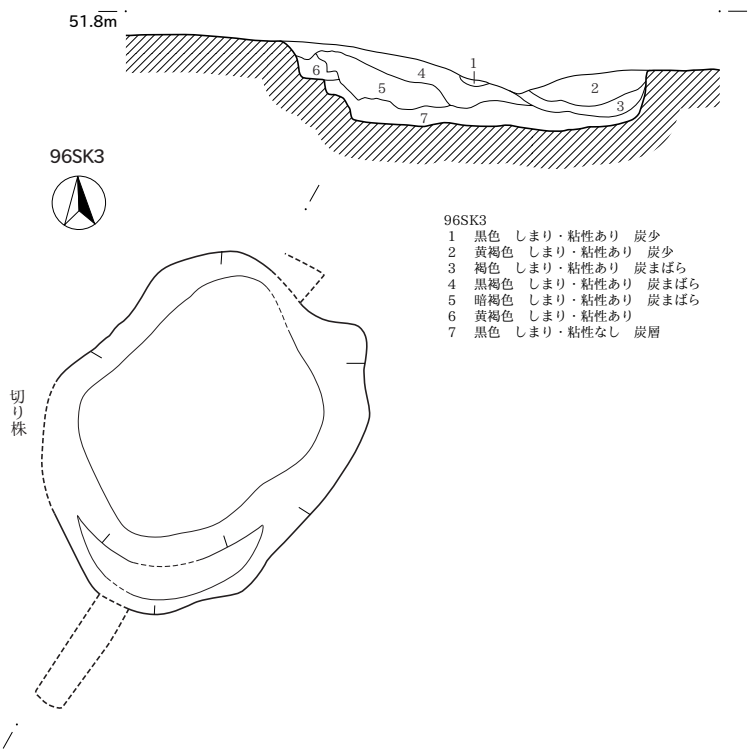
97SK98
1　黒褐色シルト　しまり強
2　極暗褐色シルト　しまり中　粘性やや弱
3　暗褐色シルト　しまりやや強　粘性中
4　明褐色シルト　しまり中　粘性中
5　黒褐色シルト　しまりやや強　粘性中
6　暗褐色シルト　しまりやや弱　粘性やや強
7　褐色シルト　しまり弱　粘性やや強
8　極暗褐色シルト　しまり強　粘性中
9　黒褐色シルト　しまり中　粘性やや強



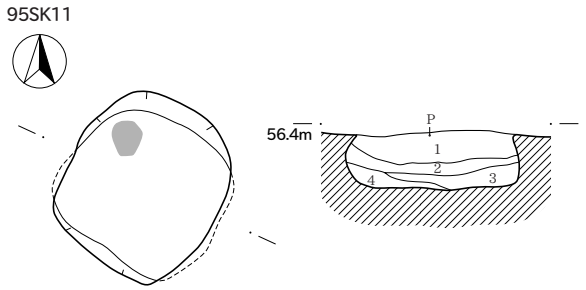
97SK108
1　暗褐色シルト　粘性やや弱　しまりやや強
2　褐色シルト　粘性中　しまり強
3　褐色シルト　粘性やや強　しまり中
4　極暗褐色シルト　粘性やや強　しまり中
5　黒褐色シルト　粘性やや強　しまり中



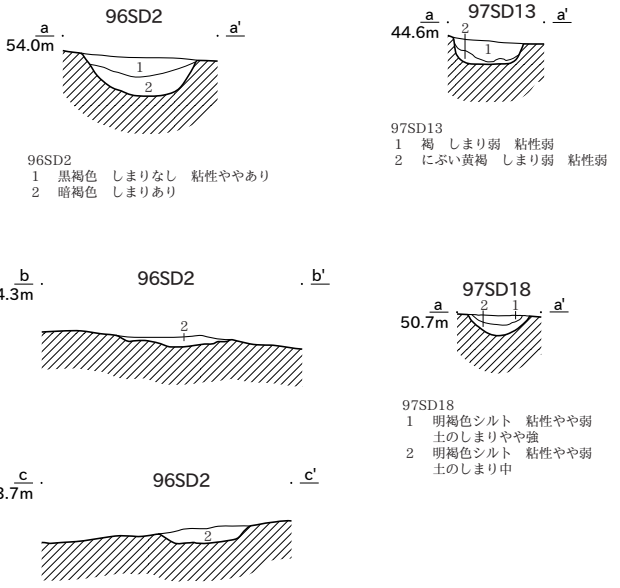
97SK109
1　暗褐色シルト　粘性やや弱　しまり中
2　極暗褐色シルト　粘性やや弱　しまり強
3　褐色シルト　粘性中　しまり中　褐色の
　中に明褐色の混じりあり
4　褐色シルト　粘性中　しまり中
5　明褐色シルト　粘性やや弱　しまりやや強
6　灰褐シルト　粘性やや弱　しまり中
7　褐灰シルト　粘性やや弱　しまり中
8　黒褐シルト　粘性弱　しまり中



96SK3
1　黒色　しまり・粘性あり　炭少
2　黄褐色　しまり・粘性あり　炭少
3　褐色　しまり・粘性あり　炭まばら
4　黒褐色　しまり・粘性あり　炭まばら
5　暗褐色　しまり・粘性あり　炭まばら
6　黄褐色　しまり・粘性あり
7　黒色　しまり・粘性なし　炭層



95SK11
1　茶褐色土層　炭多　焼土・硬化したⅣ層土少　しまり弱
2　黒色土層　炭化土・炭化材を主とする　焼土多　しまり弱
3　黒褐色土層　炭化材多　焼土少　しまり弱
4　黒色土層　炭化土からなる　焼土多　しまり弱



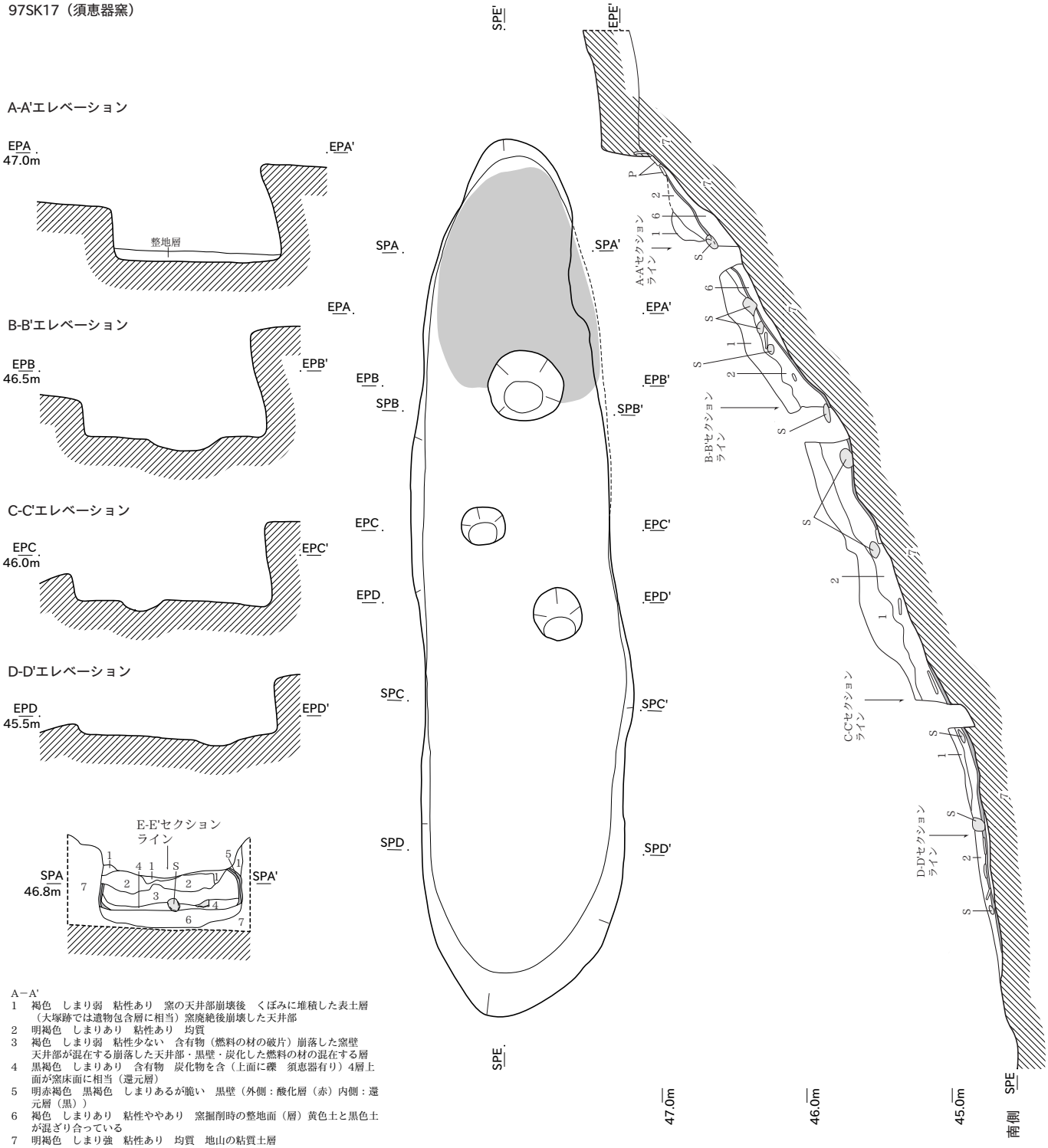
96SD2
1　黒褐色　しまりなし　粘性ややあり
2　暗褐色　しまりあり

97SD13
1　褐　しまり弱　粘性弱
2　にぶい黄褐　しまり弱　粘性弱

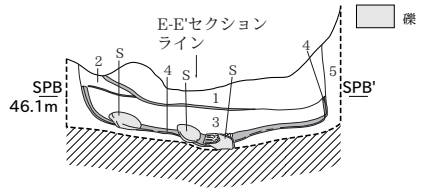
97SD18
1　明褐色シルト　粘性やや弱
　土のしまりやや強
2　明褐色シルト　粘性やや弱
　土のしまり中

0　(1：40)　2m

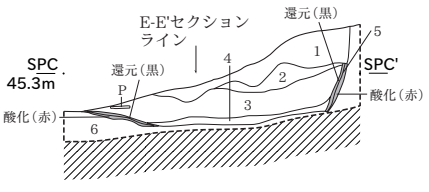
97SK17（須恵器窯）



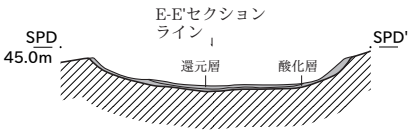
A－A'
1　褐色　しまり弱　粘性あり　窯の天井部崩壊後　くぼみに堆積した表土層（大塚跡では遺物包含層に相当）窯廃絶後崩壊した天井部
2　明褐色　しまりあり　粘性あり　均質
3　褐色　しまり弱　粘性少ない　含有物（燃料の材の破片）崩落した窯壁天井部が混在する崩落した天井部・黒壁・炭化した燃料の材の混在する層
4　黒褐色　しまりあり　含有物　炭化物を含（上面に礫　須恵器有り）4層上面が窯床面に相当（還元層）
5　明赤褐色　黒褐色　しまりあるが脆い　黒壁（外側：酸化層（赤）内側：還元層（黒））
6　褐色　しまりあり　粘性ややあり　窯掘削時の整地面（層）黄色土と黒色土が混ざり合っている
7　明褐色　しまり強　粘性あり　均質　地山の粘質土層



B－B'
1　明褐色　しまりあり　粘性あり　均質　窯廃絶後崩落した天井部
2　黄褐色　しまりあり　粘性あり　含有物　窯壁のブロックを含む
3　黒褐色　しまりゆるく脆い　含有物　窯壁天井部ブロックを主体として炭化物を含む　窯壁の焼土ブロックと炭化物が混在
4　外－明赤褐色　内－黒褐色　しまりあるが脆い　4層上面に炭化物層有り
5　A－A'7層と同じ　地山の粘質土層



C－C'
1　明褐色　しまりあり　粘性あり　均質　崩落した天井部
2　明褐色　しまりゆるく　粘性あり　含有物　窯体のブロックを含む崩落した天井部の粘土層と窯壁ブロック炭化物の混在する層
3　黒褐色　しまりゆるく脆い　粘性なし　含有物　窯体のブロックを主体とし炭化物を含む　側壁・天上部の崩落したブロックと燃料材の炭化物が混在する層
4　黒色　しまりゆるく　含有物　炭化物粒層（均質）燃料の炭化物層
5　外－明赤褐色　内－黒褐色　しまりるが脆い　窯壁
6　A－A'７層と同じ　地山の粘土層



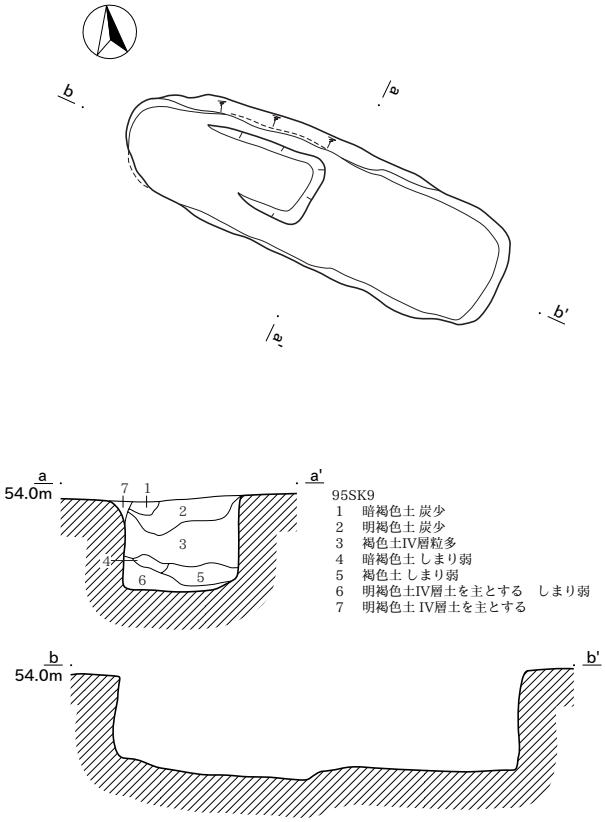
D－D'
還元層　黒褐色　しまりかたくしまる　火をうけてガリガリ窯底部（燃焼室）
酸化層　明赤褐色　固くしまるが脆い　窯底部（燃焼室）
地山層　明褐色　固くしまる　均質　地山層

0　（1：40）　2m

97SK17

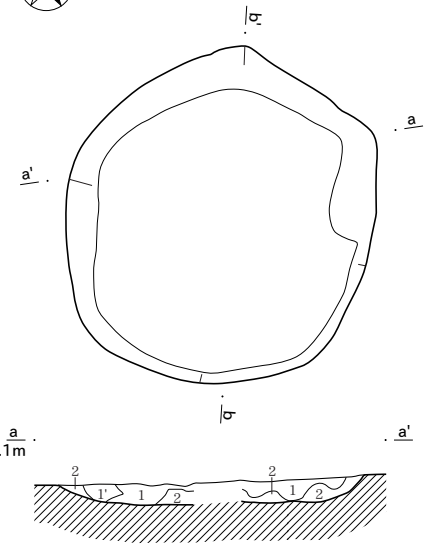
須恵器甕A
須恵器甕B
礫

95SK9



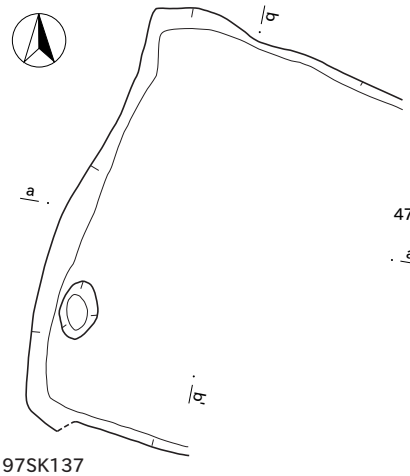
95SK9
1　暗褐色土 炭少
2　明褐色土 炭少
3　褐色土IV層粒多
4　暗褐色土 しまり弱
5　褐色土 しまり弱
6　明褐色土IV層土を主とする　しまり弱
7　明褐色土 IV層土を主とする

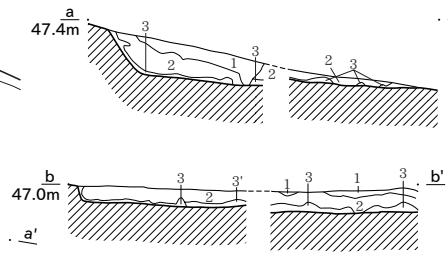
97SK111



97SK111
1　褐　しまり・粘性なし
2　明褐　しまりなし　粘性弱
1'　暗褐　1の土に炭少

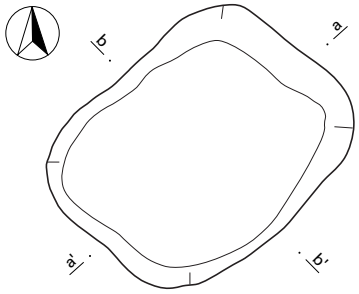
97SI10

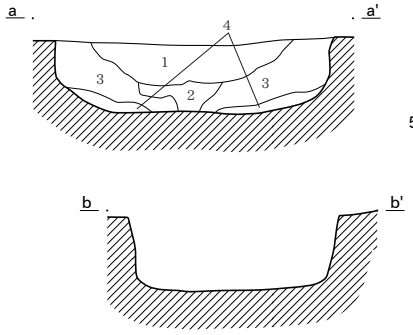


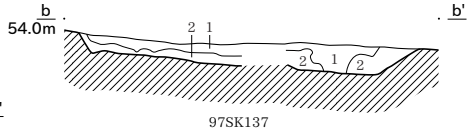


97SI10
1　黒褐　しまり弱
2　黒褐　地山土が少量混じる
3　にぶい褐　地山土多

97SK137

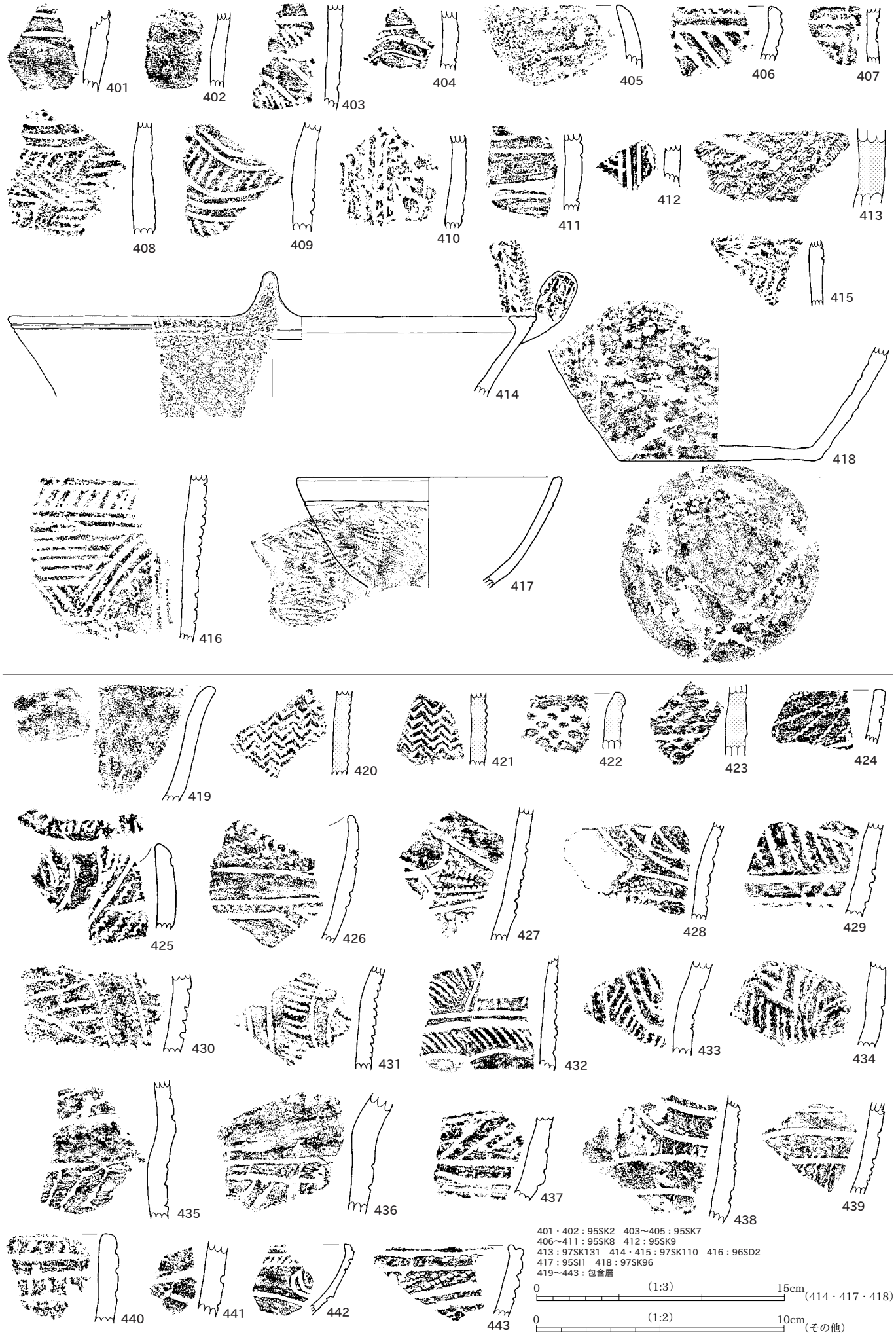






97SK137
1　暗褐　しまりなし　粘性弱　炭多　焼土少
2　暗褐　しまりなし　粘性弱　炭多　焼土少
3　黒褐　しまりなし　粘性弱
4　黒褐　炭が土化したもので構成　焼土多
　　しまりなし　粘性弱

0　(1：40)　2m

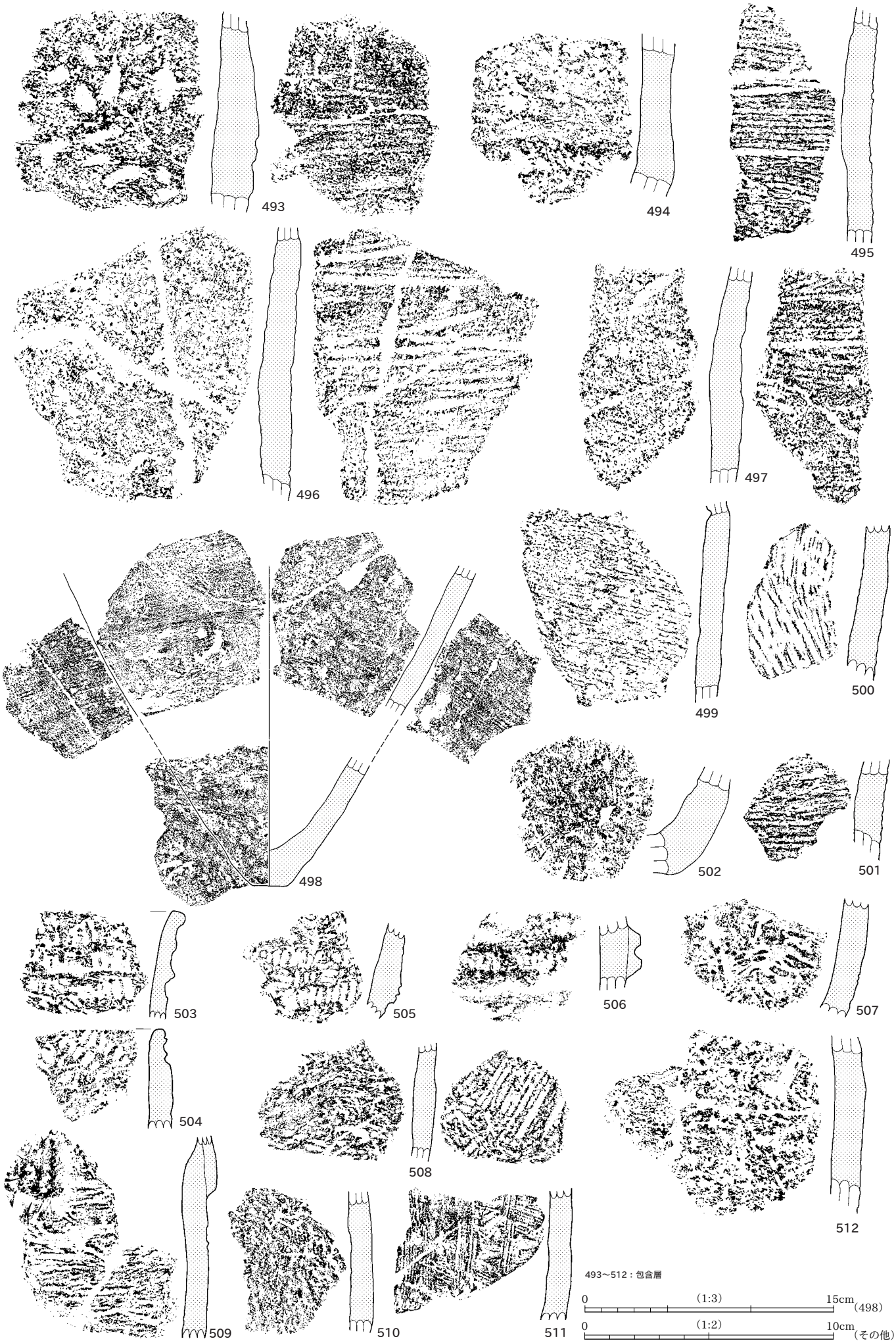


401・402：95SK2　403～405：95SK7
406～411：95SK8　412：95SK9
413：97SK131　414・415：97SK110　416：96SD2
417：95SI1　418：97SK96
419～443：包含層

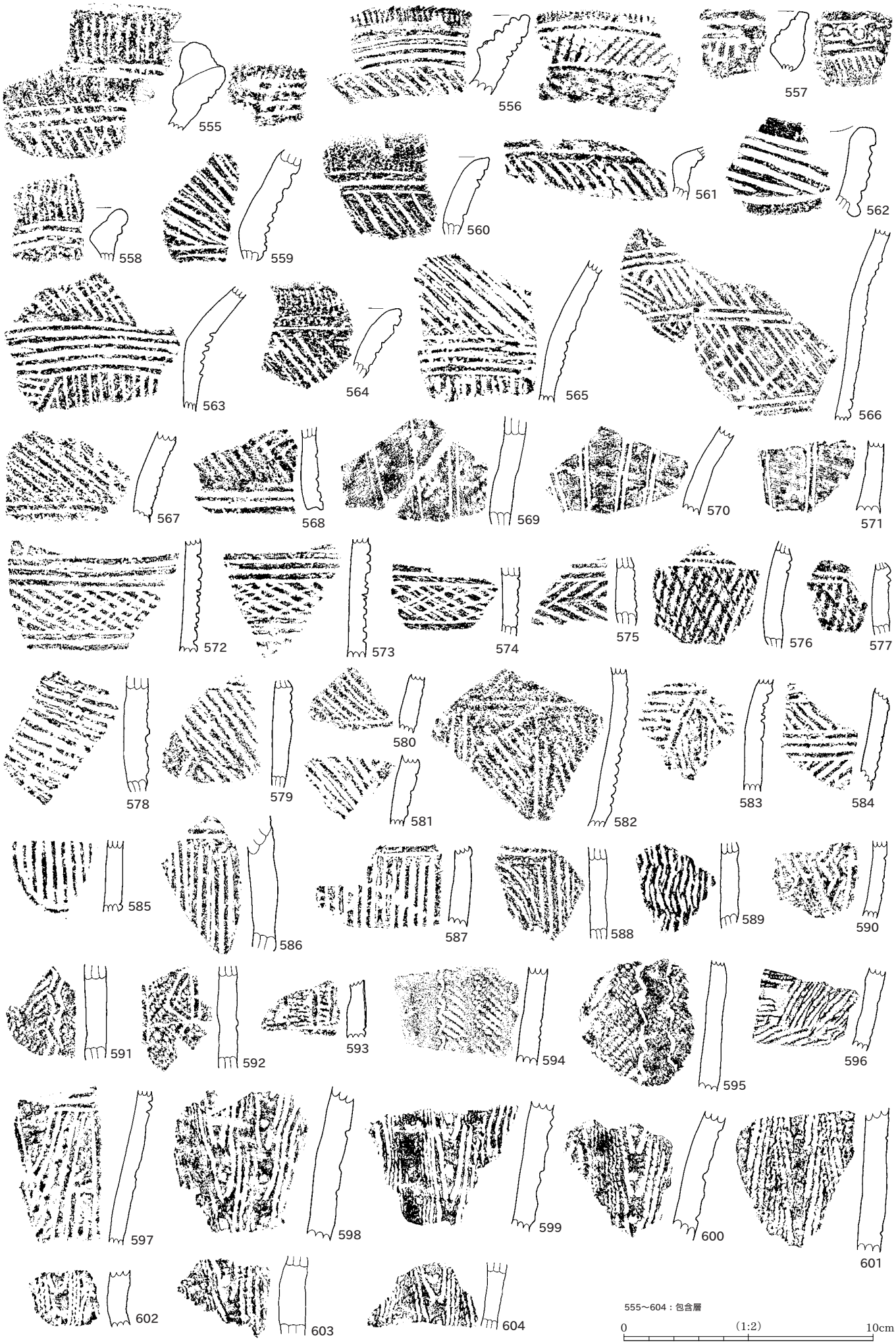
0 (1:3) 15cm（414・417・418）

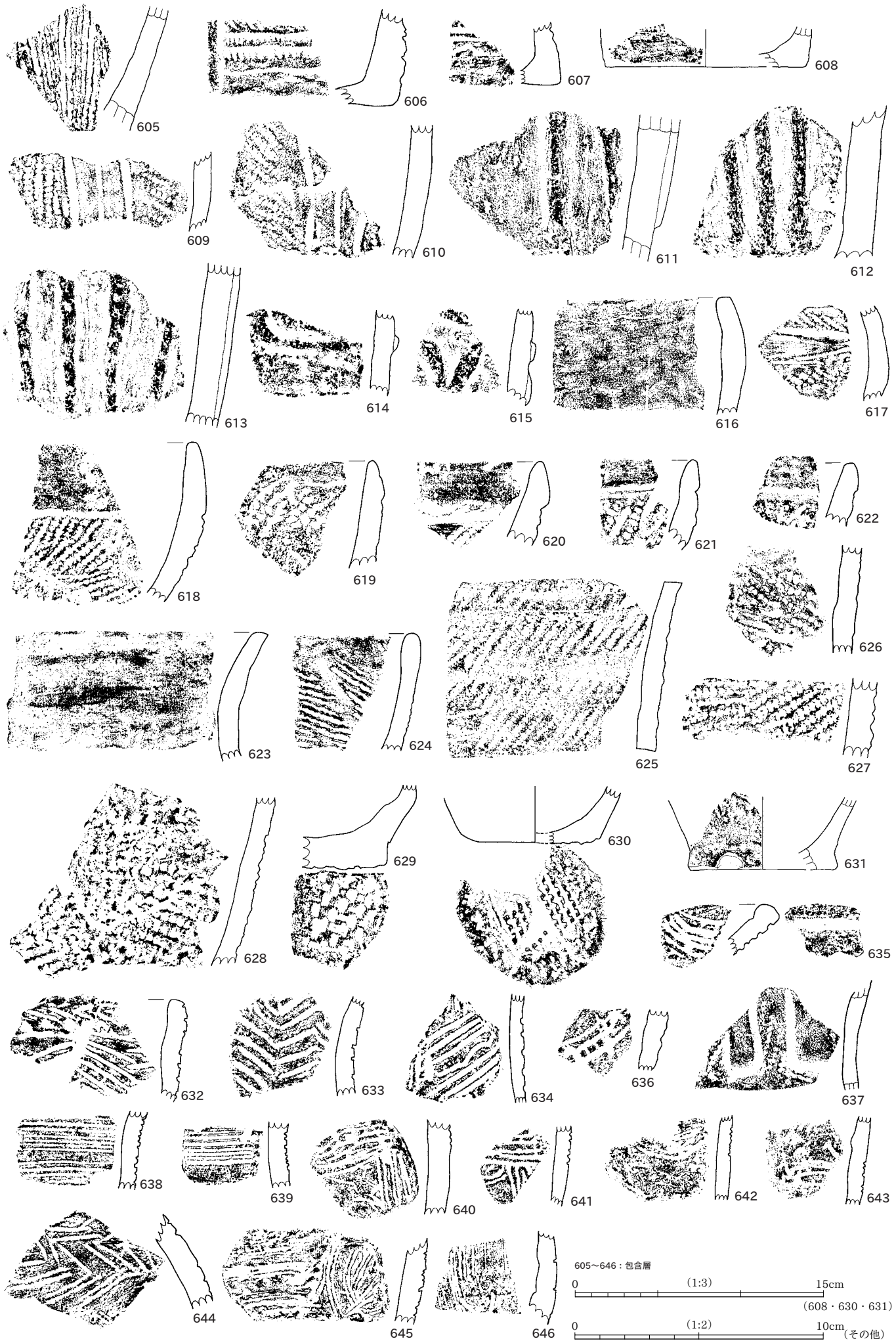
0 (1:2) 10cm（その他）

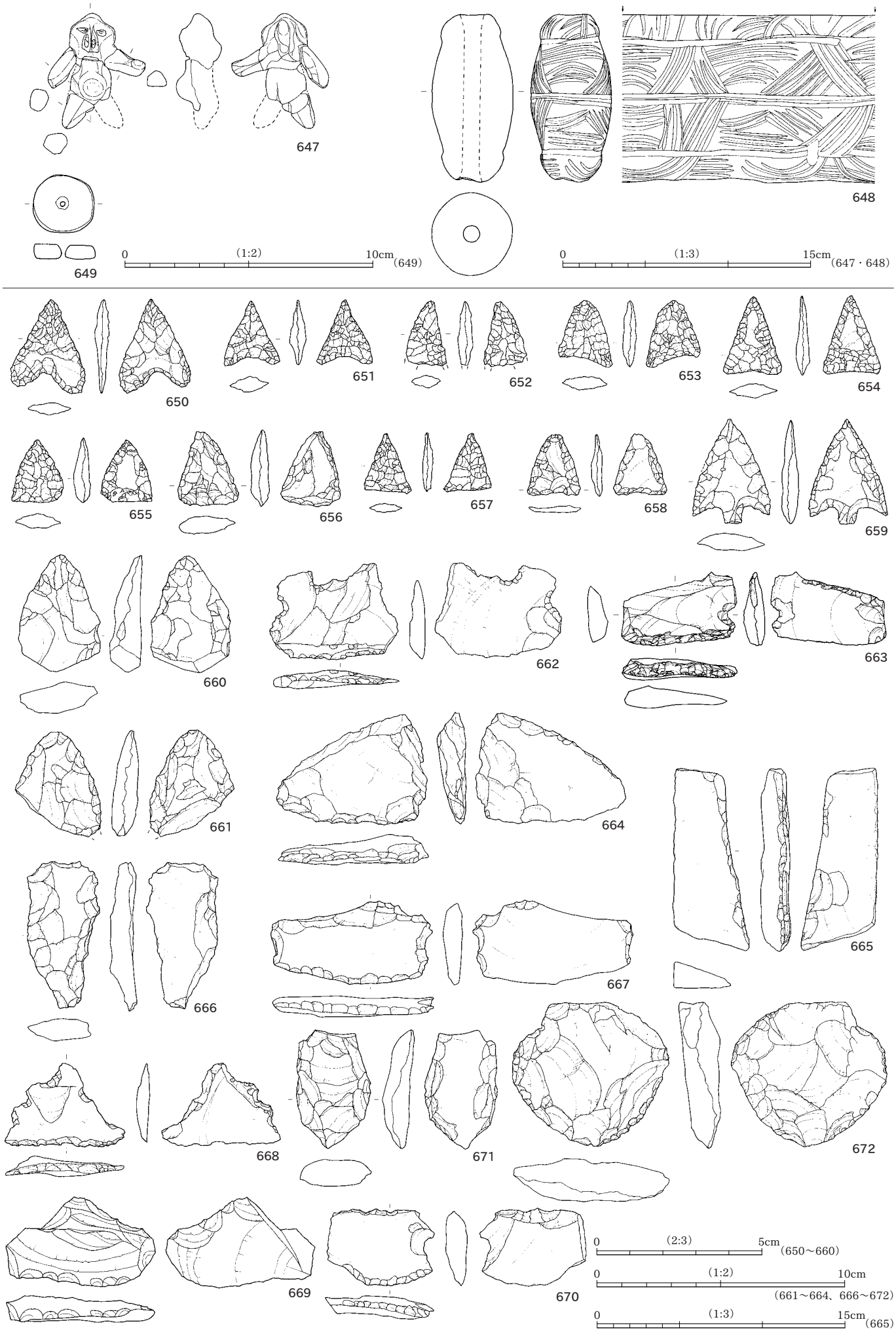
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
444～492：包含層
0
(1:2)
10cm


493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
493～512：包含層
0 (1:3) 15cm (498)
0 (1:2) 10cm (その他)

513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
513～554：包含層
0 (1:3) 15cm (531)
0 (1:2) 10cm (その他)

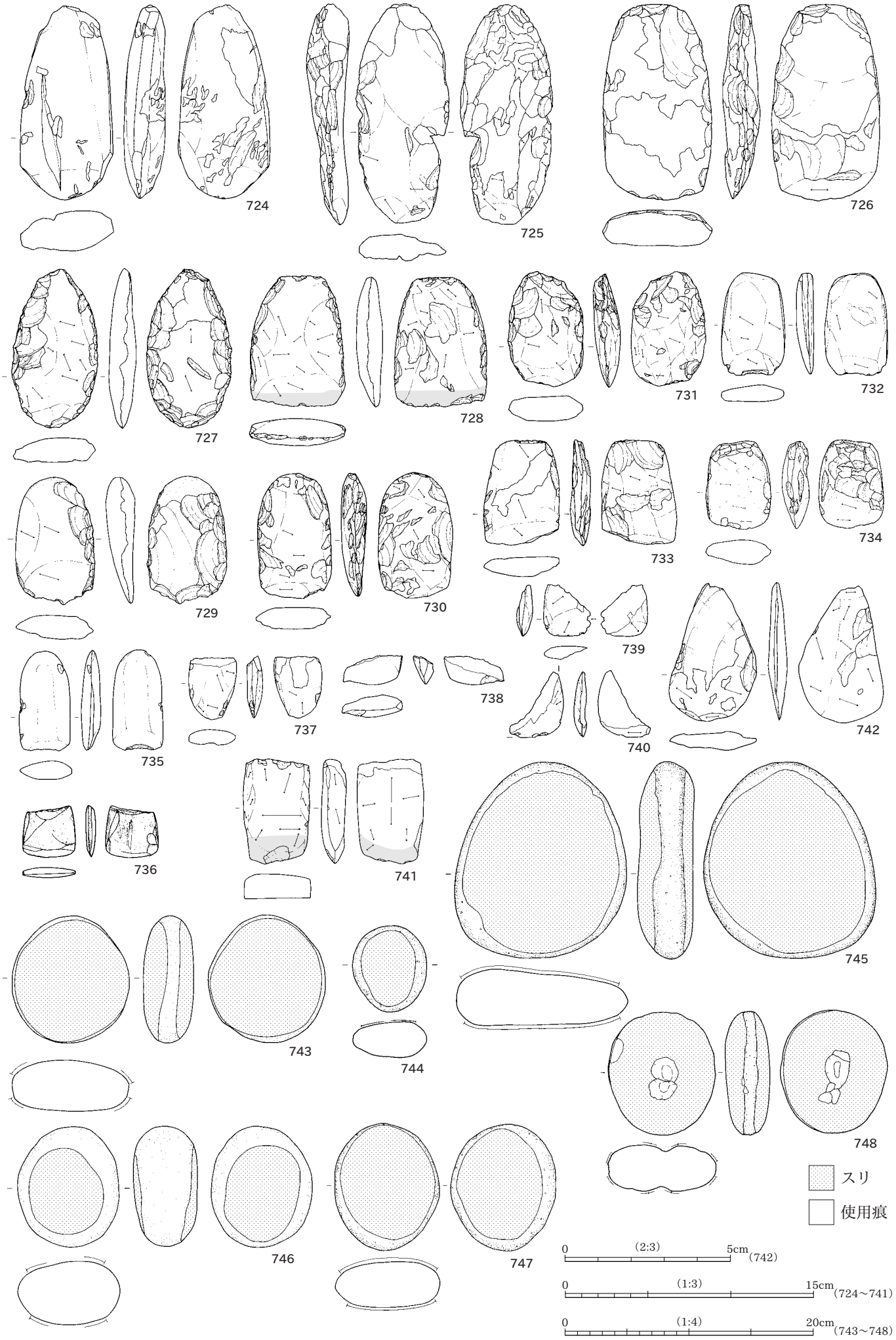

555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
555～604：包含層
0
(1:2)
10cm


605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
605～646：包含層
0
(1:3)
15cm
(608・630・631)
0
(1:2)
10cm
(その他)


647
648
649
0 (1:2) 10cm (649)
0 (1:3) 15cm (647・648)
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
0 (2:3) 5cm (650～660)
0 (1:2) 10cm (661～664、666～672)
0 (1:3) 15cm (665)

673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
タタキ
スリ
使用痕
0
(1:2)
10cm
(673～677)
0
(1:3)
15cm
(678～699)
0
(1:4)
20cm
(700)

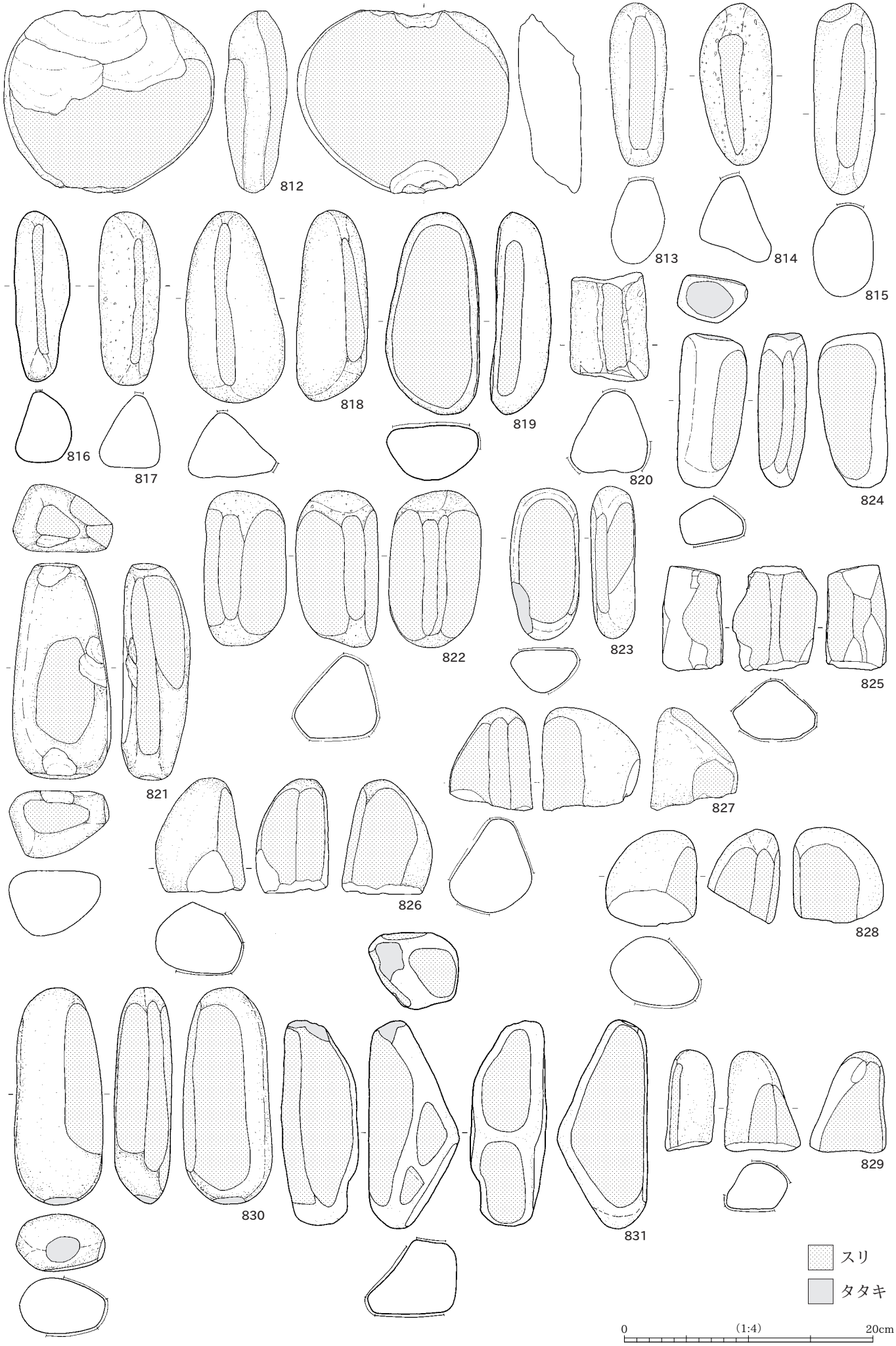
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
スリ
タタキ
使用痕
0
(1:3)
15cm

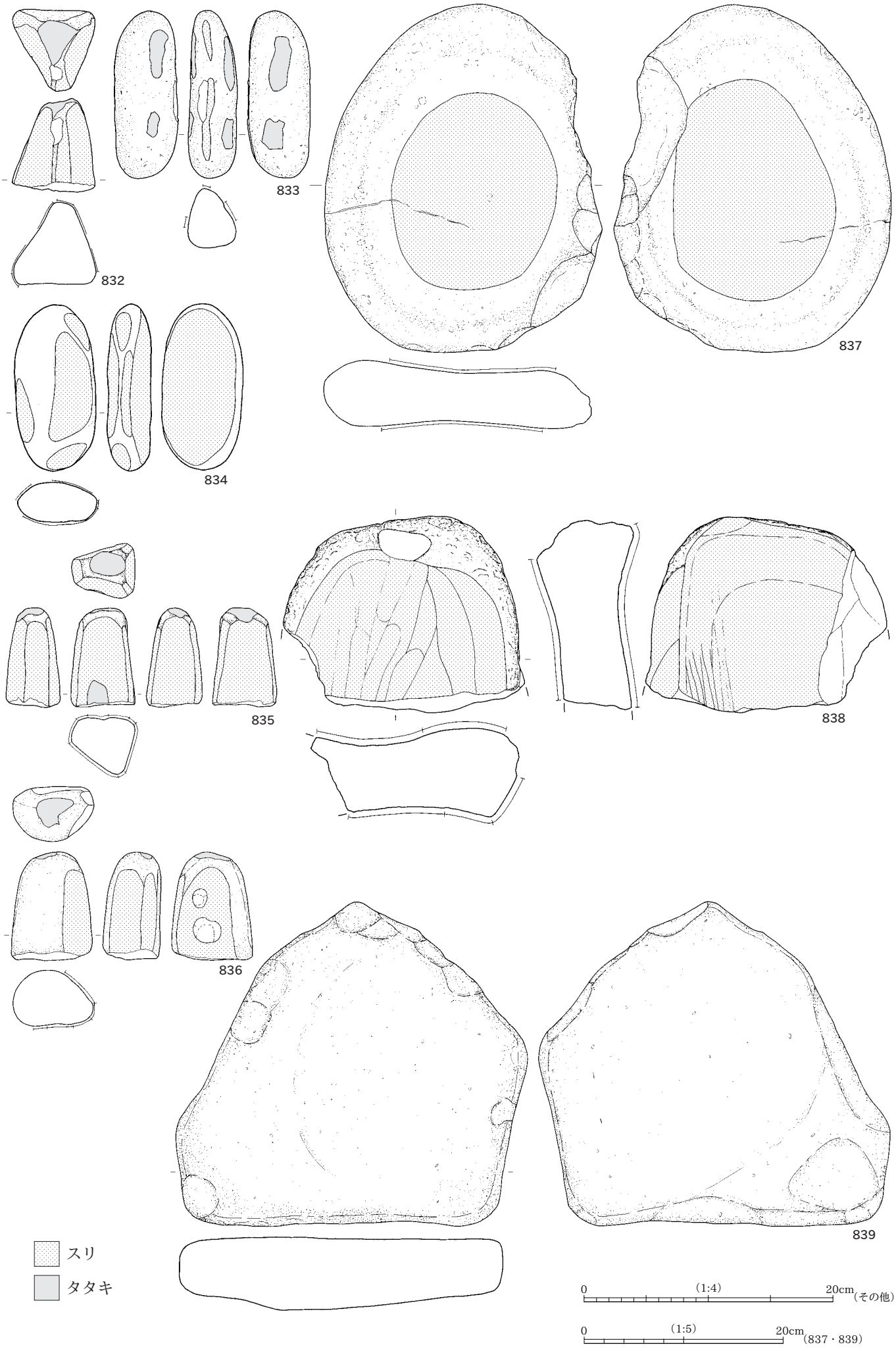

724
725
726
727
728
731
732
729
730
733
734
739
735
737
738
740
742
736
741
745
743
744
748
746
747
スリ
使用痕
0 (2:3) 5cm (742)
0 (1:3) 15cm (724～741)
0 (1:4) 20cm (743～748)

749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
スリ
タタキ
0
(1:4)
20cm

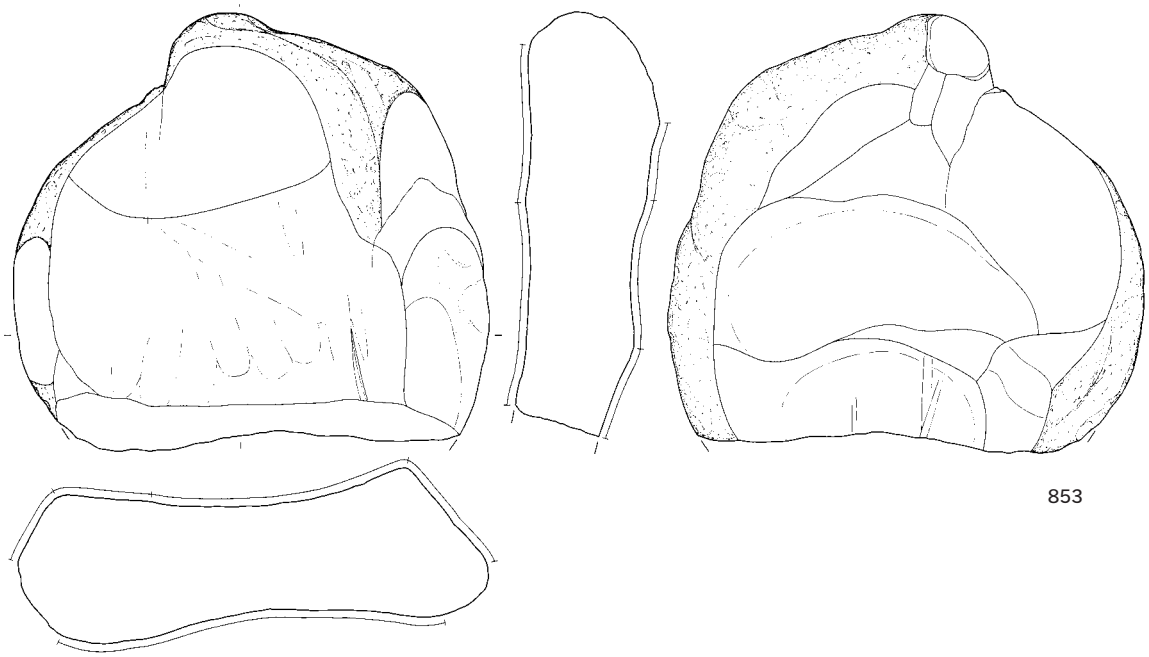
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
タタキ
0
(1:4)
20cm

793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
スリ
タタキ
0
(1:3)
15cm
(811)
0
(1:4)
20cm
(その他)

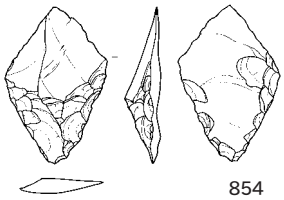

812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
スリ
タタキ
0
(1:4)
20cm


832
833
834
835
836
837
838
839
スリ
タタキ
0
(1:4)
20cm
(その他)
0
(1:5)
20cm
(837・839)

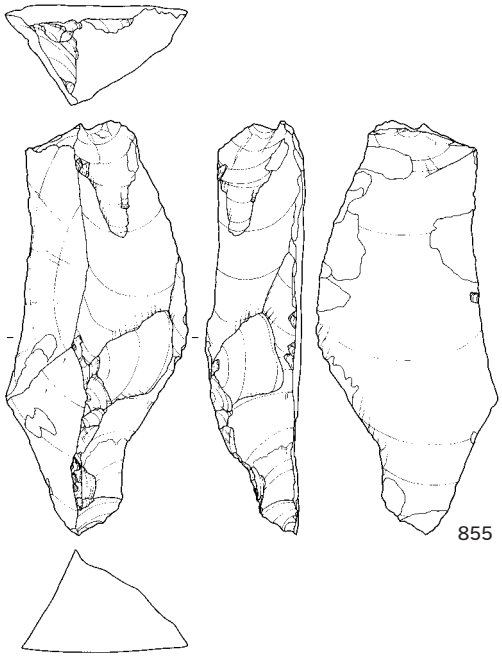
840
841
846
847
848
843
842
844
851
845
849
850
852
スリ
タタキ
0
(1:4)
20cm



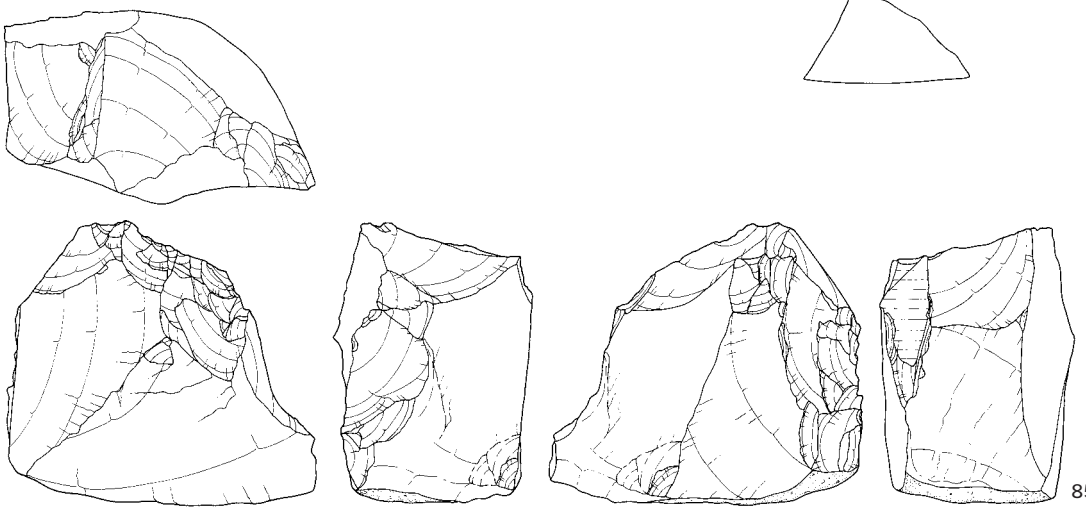
853



854



855

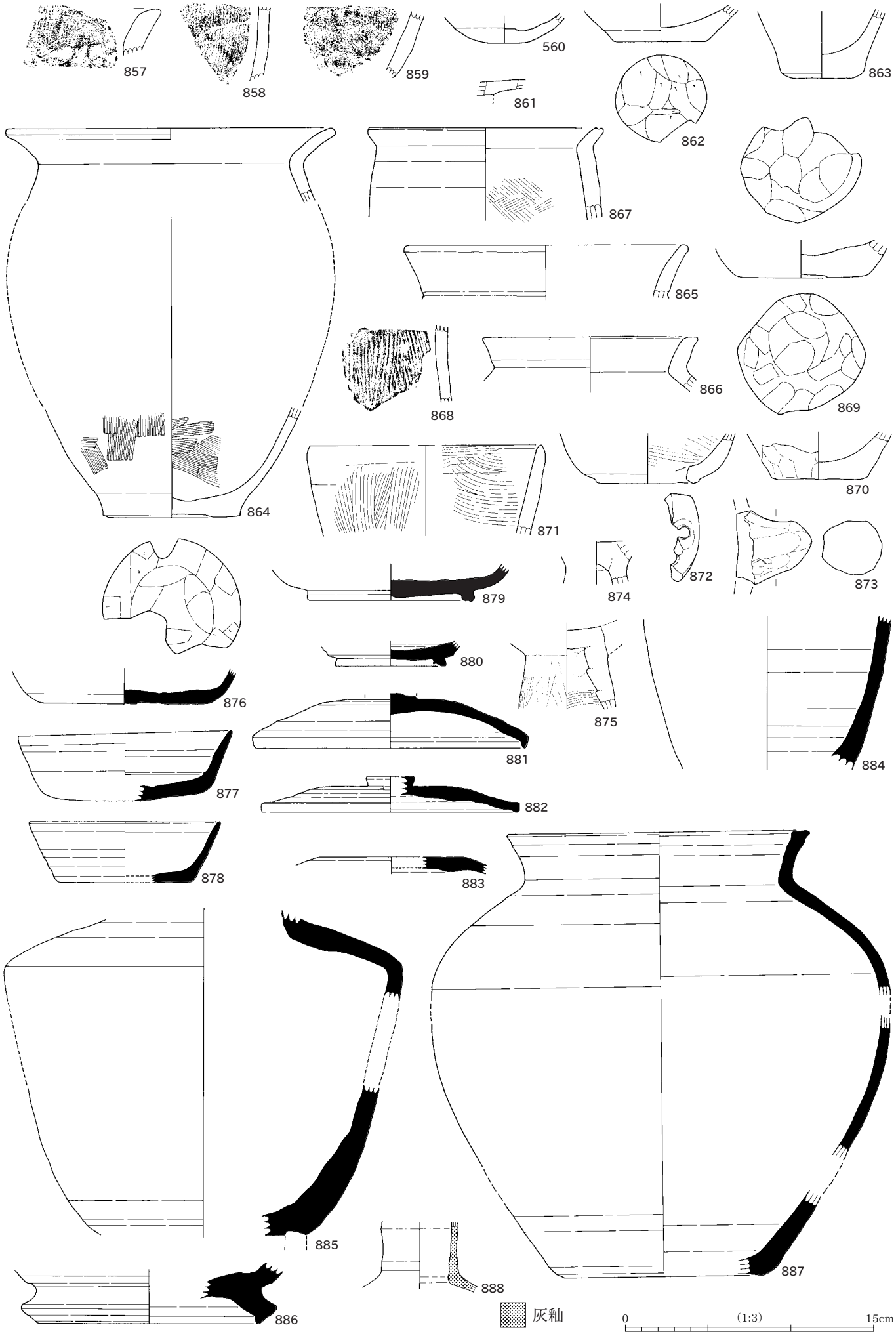


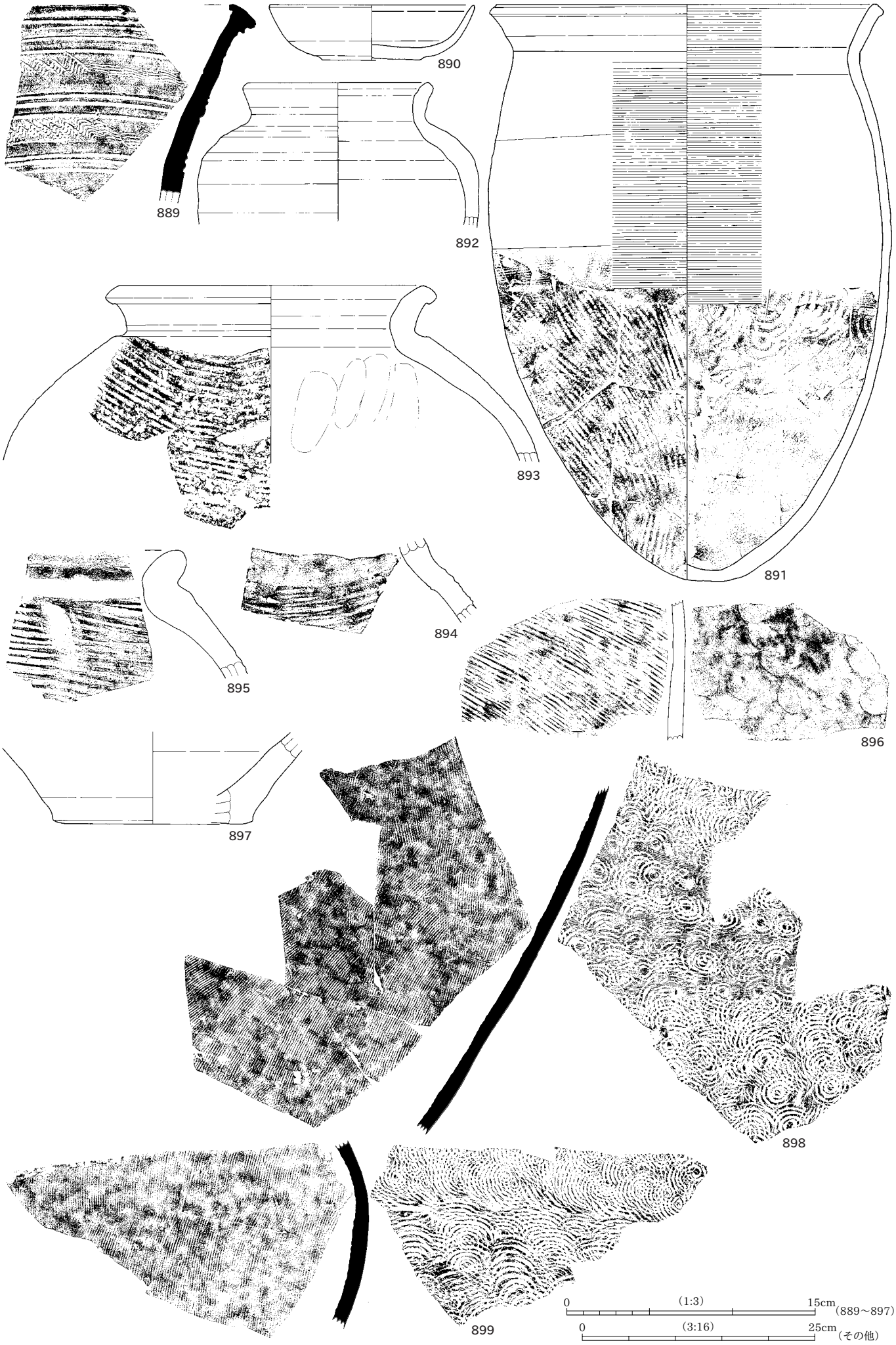
856

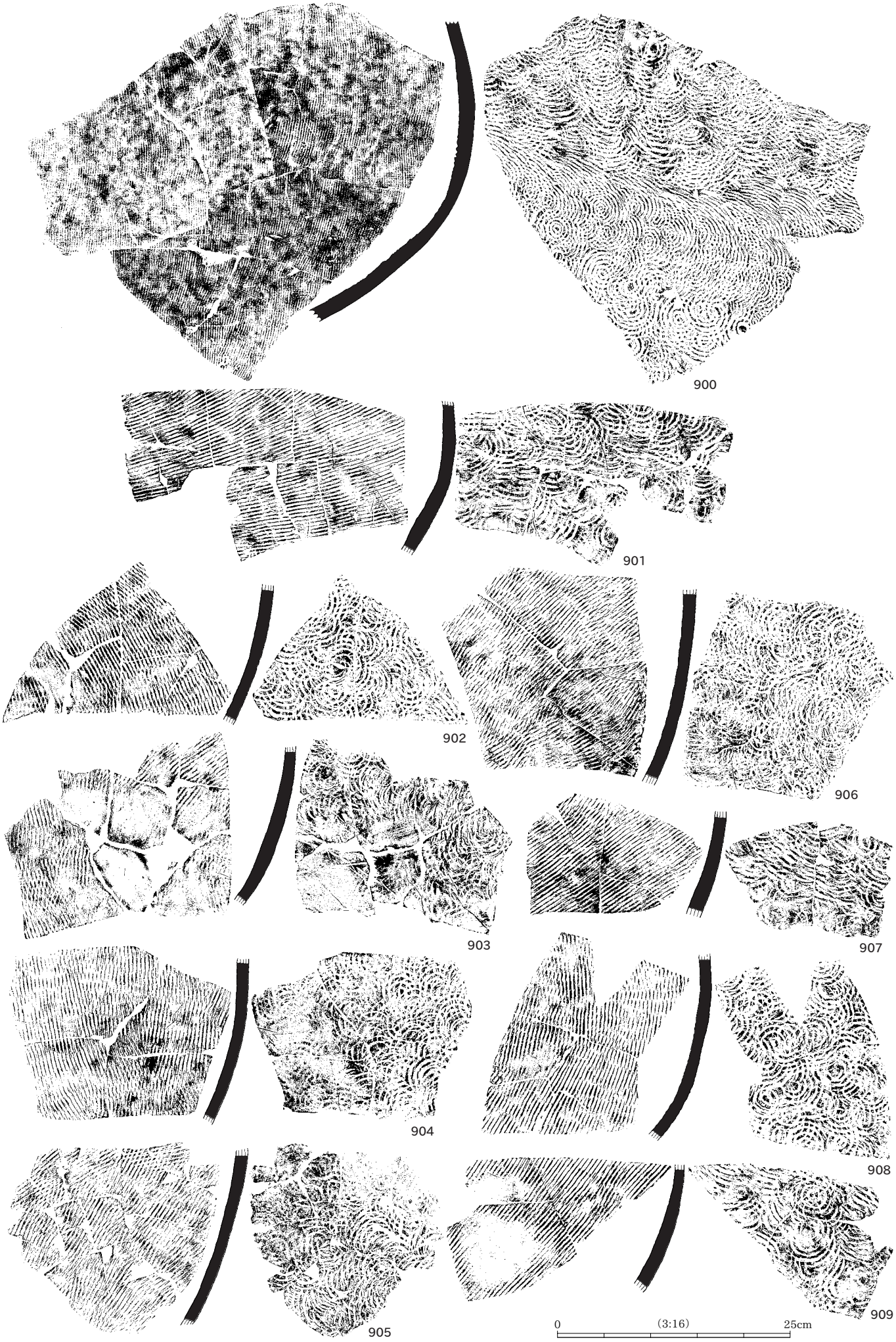
0 (2:3) 5cm (854)

0 (1:2) 10cm (855・856)

0 (1:5) 20cm (853)


857
858
859
560
861
862
863
867
865
866
868
869
864
871
870
872
873
874
879
880
875
876
881
884
877
882
878
883
885
887
886
888
灰釉
0
(1:3)
15cm


889
890
891
892
893
894
895
896
897
898
899
0
(1:3)
15cm
(889～897)
0
(3:16)
25cm
(その他)

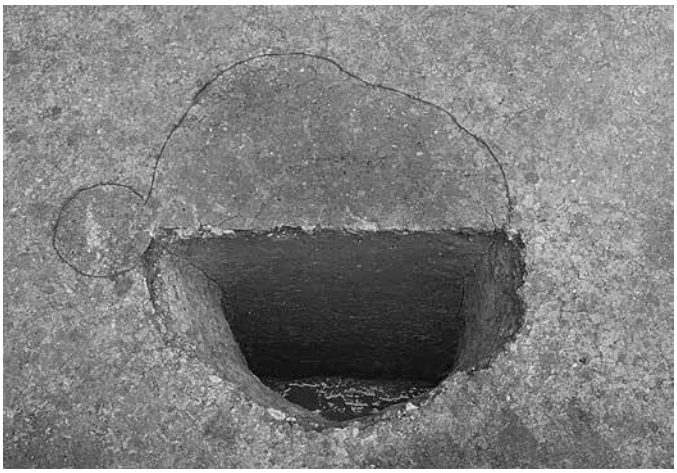

900
901
902
903
904
905
906
907
908
909
0
(3:16)
25cm

遺跡航空写真（1995年）

遺跡完掘状況　Ⅵ層（1996年）

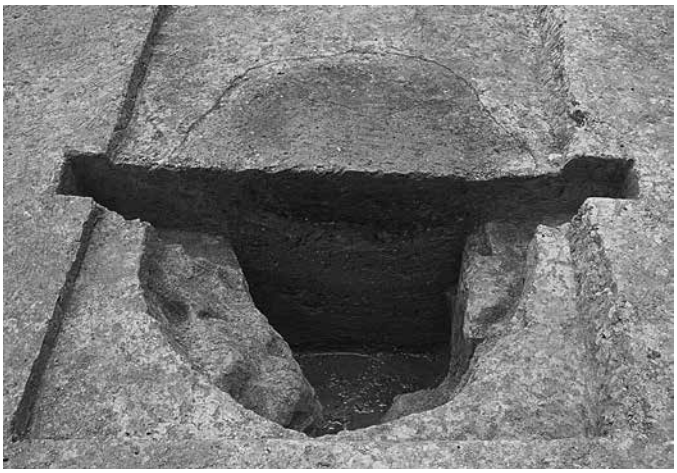
遺跡完掘状況（Ⅶ層）（1996年度）

SX1701



SE50 土層断面

SE50 完掘



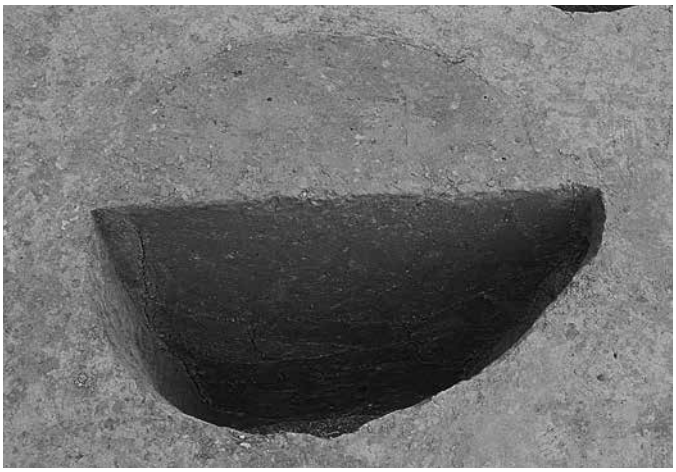
SE100 土層断面

SE100 炭層検出状況

SE100 遺物出土状況

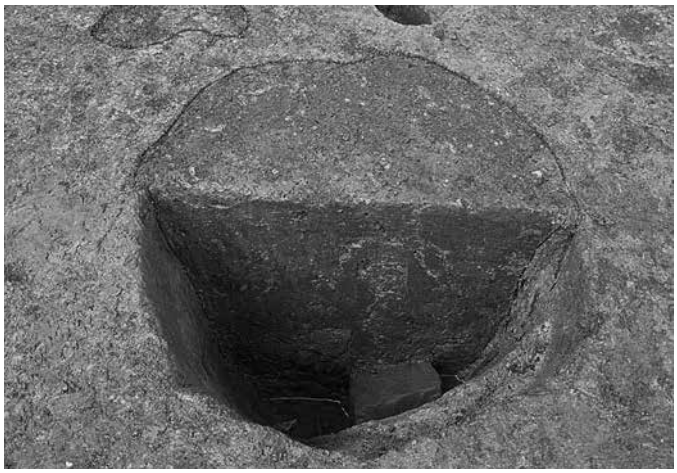
SE100 完掘

SE130 土層断面



SE346 土層断面

SE346 完掘

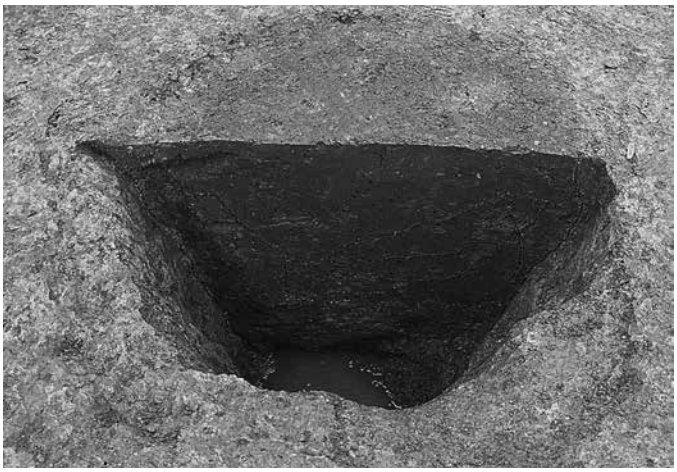

SE347 土層断面

SE347 完掘

SE385 土層断面

SE385 木製品出土状況

SE385 完掘


SE420 土層断面

SE420 完掘

SE430 遺物出土状況

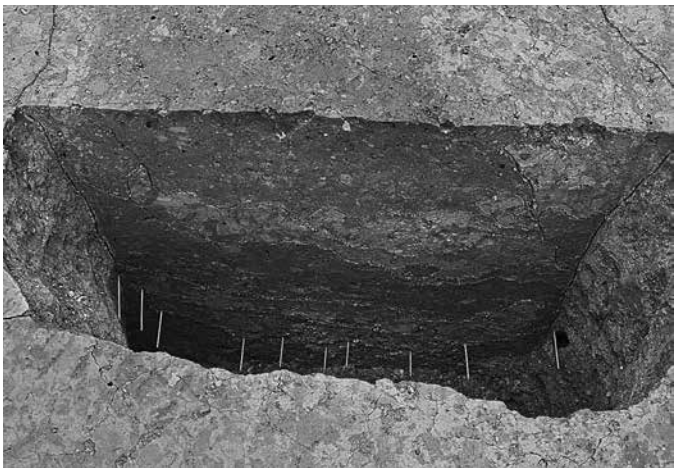
SE430 遺物出土状況

SE430 遺物出土状況

SE430 完掘

SE456 土層断面

SE456 完掘



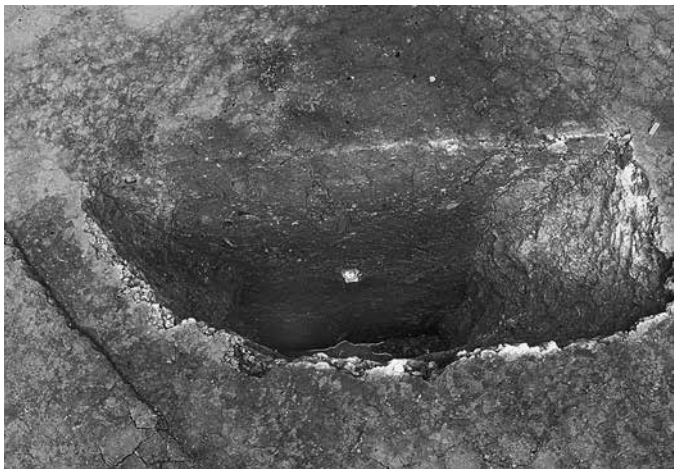
SE476 土層断面

SE476 遺物出土状況

SE476 完掘

SE487 土層断面

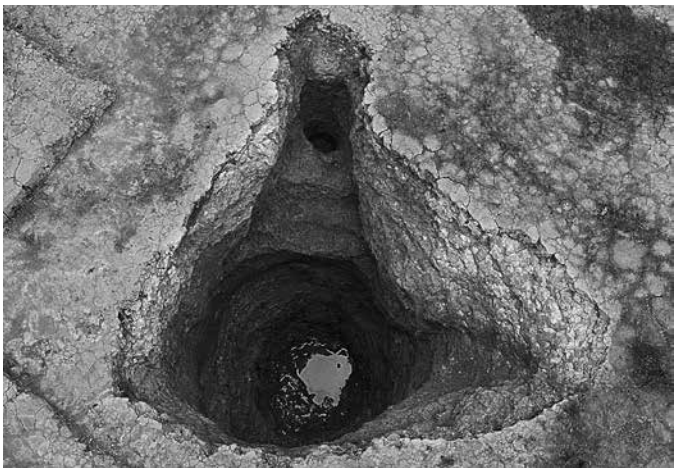
SE487 遺物出土状況



SE490 土層断面

SE490 遺物出土状況

SE490 遺物出土状況



SE490 完掘

SE496 土層断面

SE496 完掘

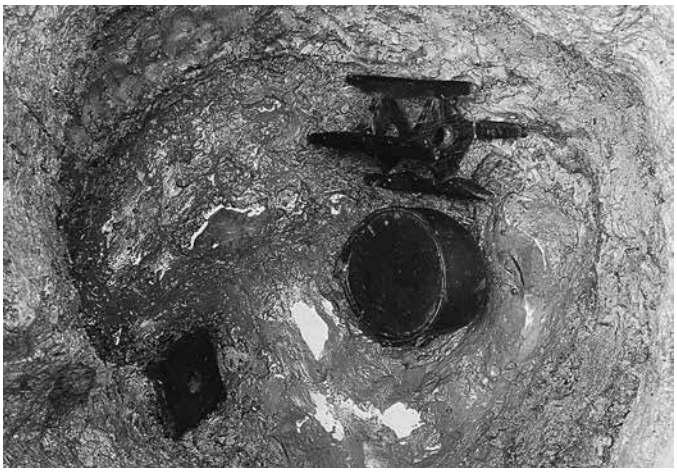
SE550 土層断面

SE550 完掘

SE560 土層断面

SE560 遺物出土状況

SE560 遺物出土状況

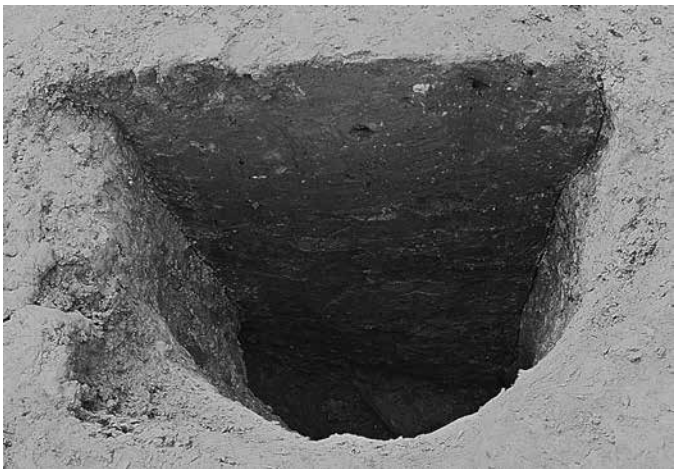


SE560 遺物出土状況

SE560 完掘

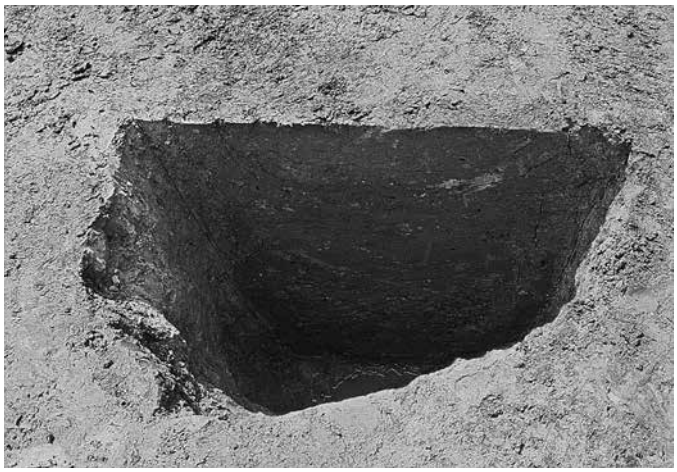
SE580 土層断面

SE580 完掘

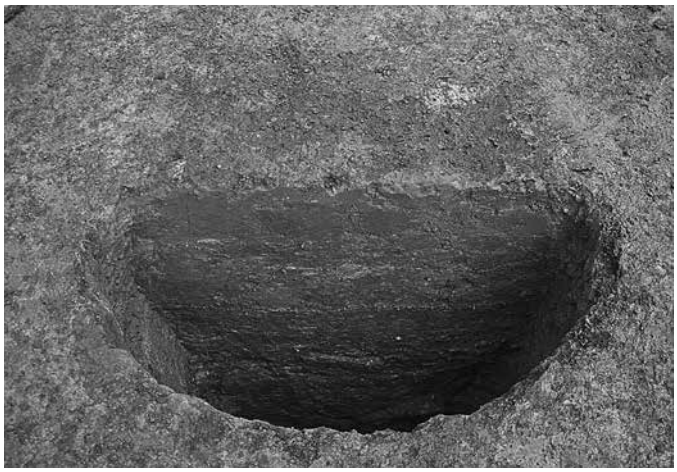

SE590 土層断面

SE590 遺物出土状況

SE590 完掘


SE600 土層断面

SE600 完掘


SE610 土層断面

SE610 完掘

SE620 土層断面

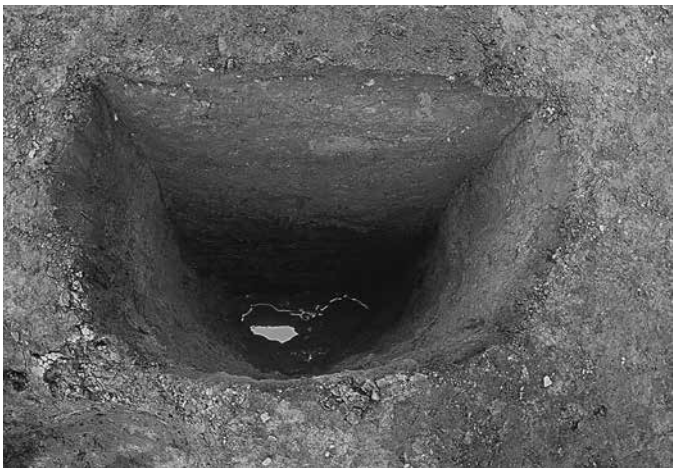
SE620 完掘

SE630 土層断面

SE630 遺物出土状況

SE630 遺物出土状況

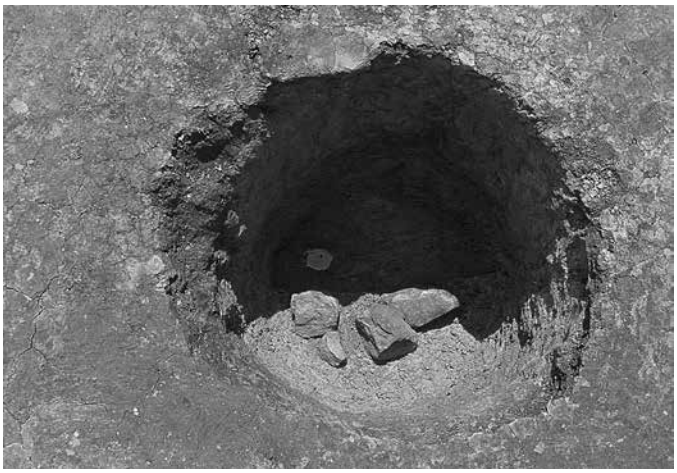
SE630 完掘



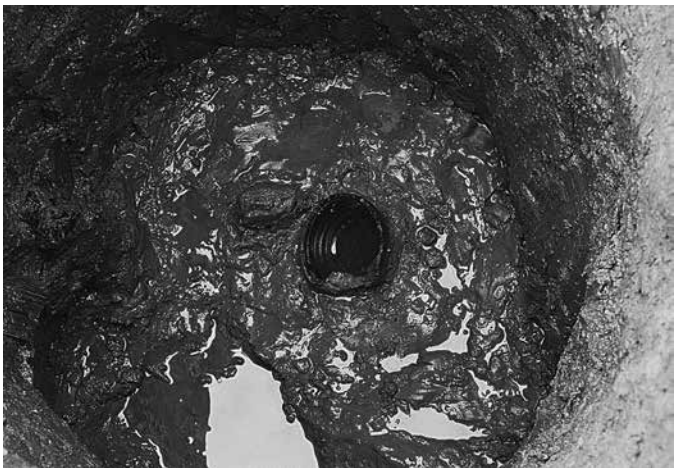
SE650 土層断面

SE650 完掘

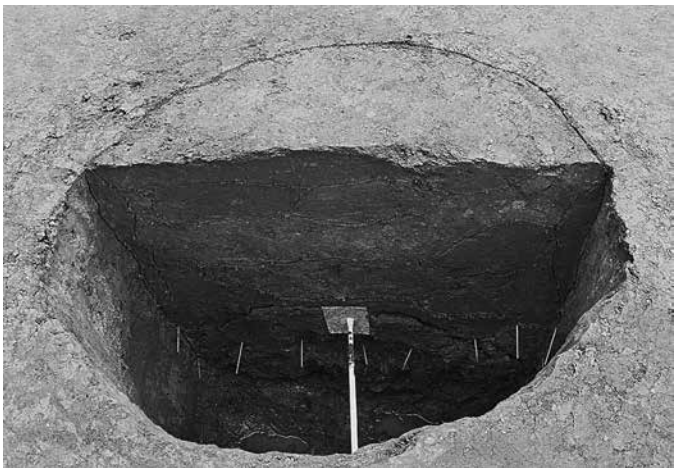
SE660 土層断面


SE660 完掘

SE670 土層断面

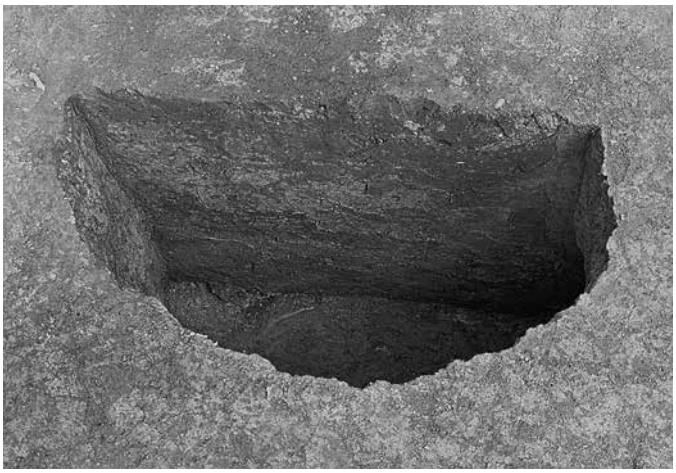

SE670 遺物出土状況

SE670 完掘


SE900 土層断面

SE900 遺物出土状況

SE900 完掘


SE1110 土層断面

SE1110 土層断面

SE1110 完掘

SE1120 土層断面

SE1120 完掘

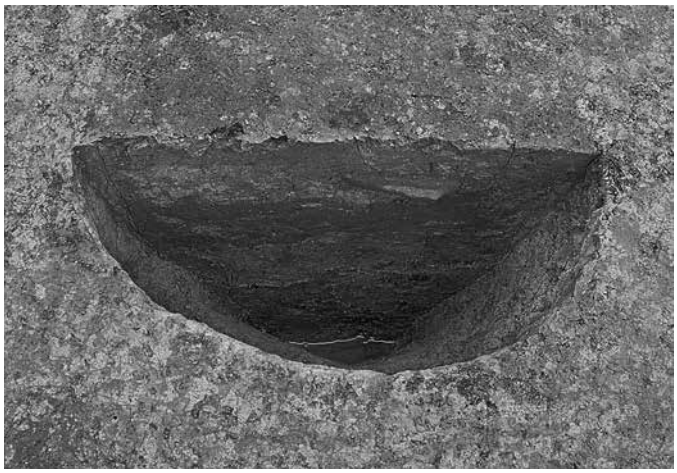
SE1240 土層断面

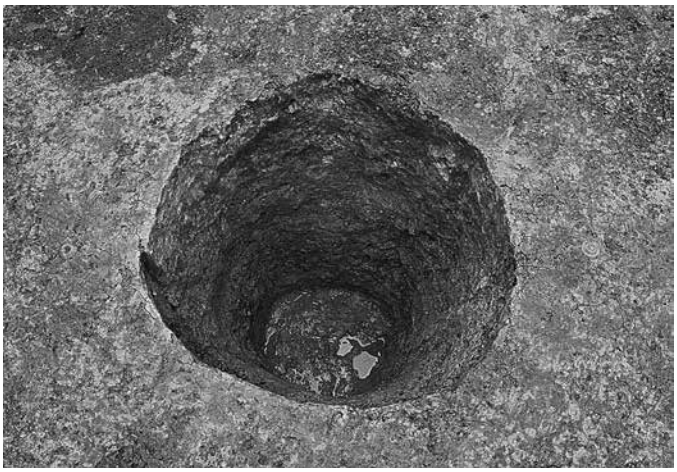
SE1240 完掘

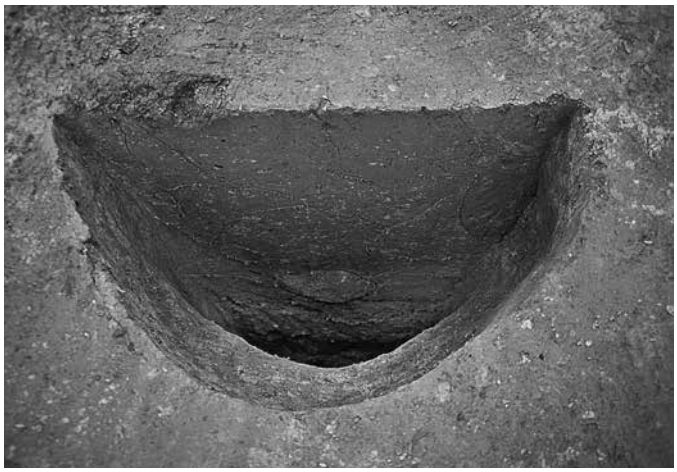
SE1241 土層断面

SE1241 遺物出土状況

SE1241 完掘


SE1244 土層断面

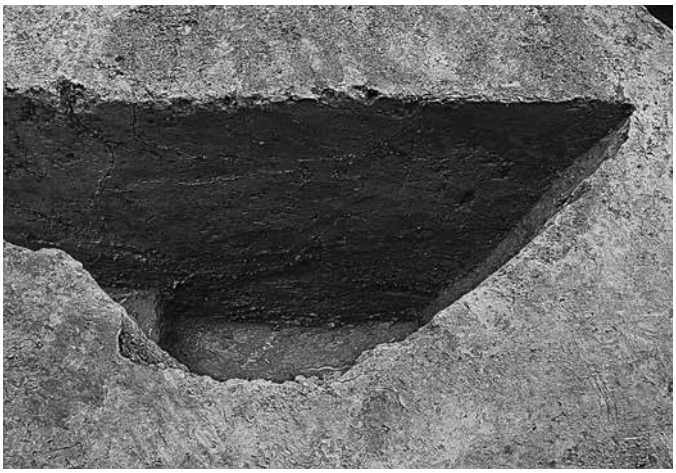

SE1244 完掘


SE1245 土層断面

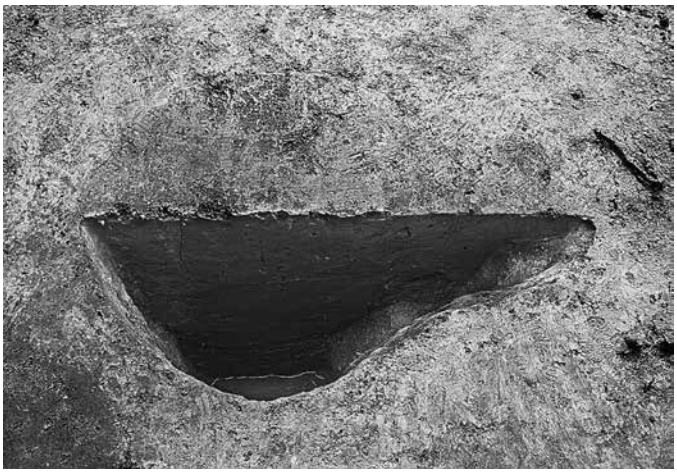
SE1245 完掘

SE1246 土層断面

SE1246 完掘



SE1247 土層断面



SE1248 土層断面

SE1248 完掘

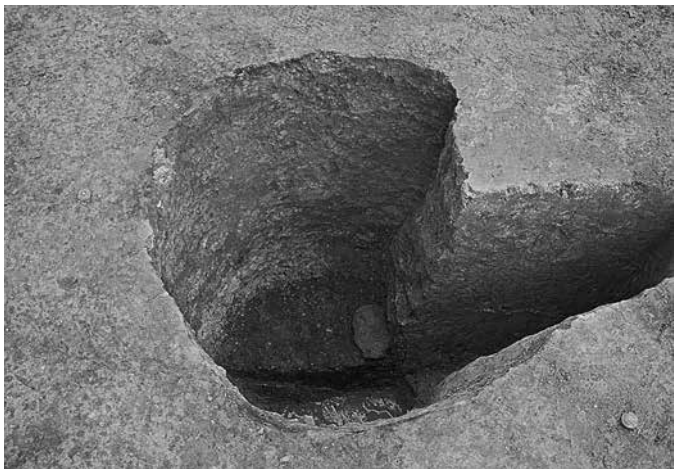
SE1249 土層断面

SE1249 完掘

SE1250 土層断面

SE1250 遺物出土状況

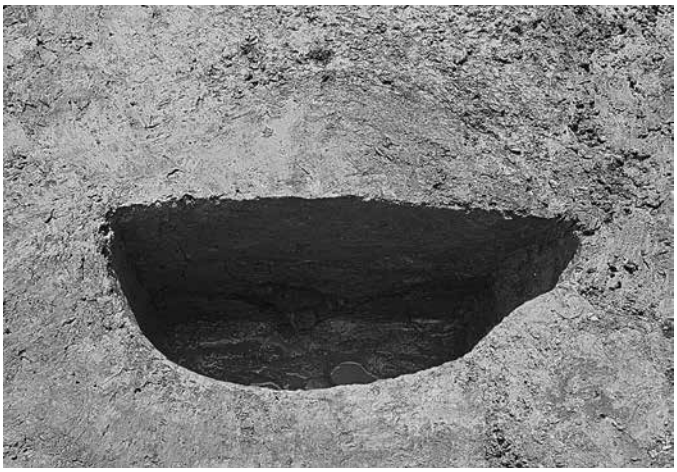
SE1260 土層断面



SE1260 完掘

SE1364 土層断面

SE1364 完掘



SE1365 土層断面

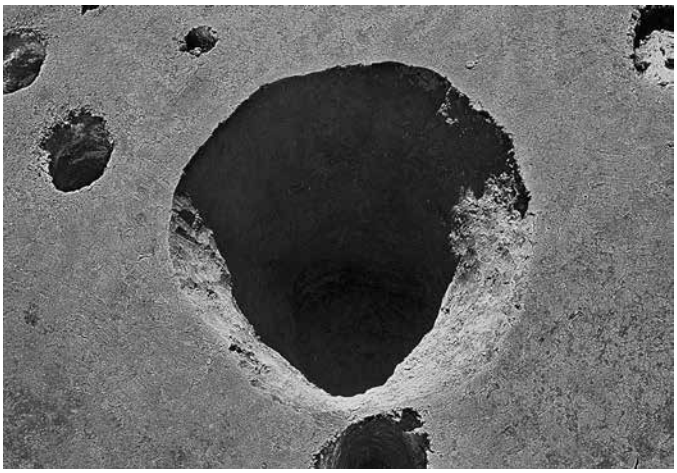
SE1365 遺物出土状況

SE1365 完掘

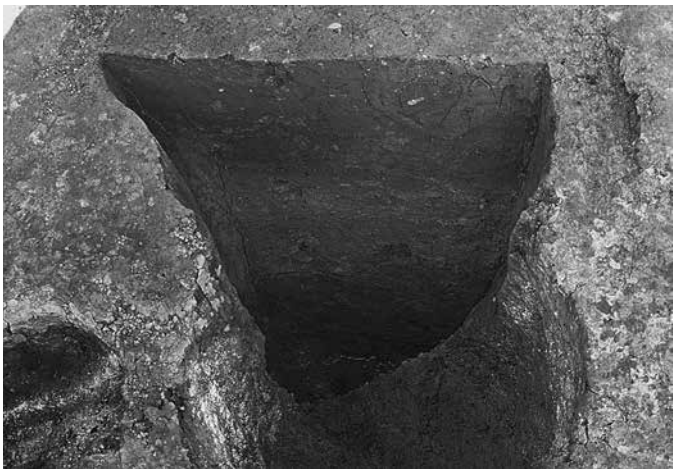
SE1385 土層断面

SE1385 完掘

SE1386 土層断面



SE1386 完掘



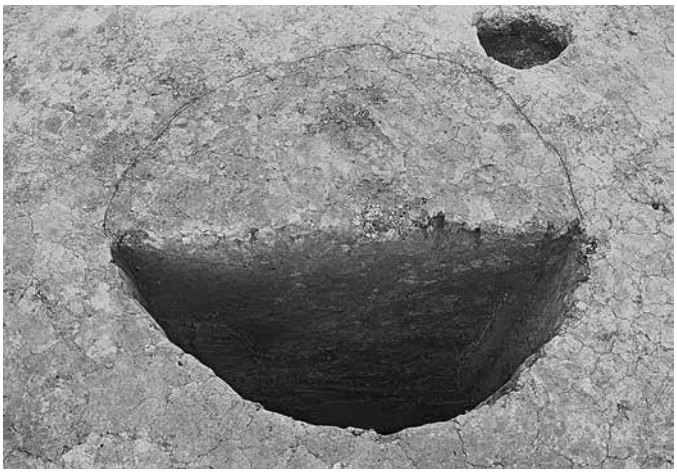
SE1387 土層断面

SE1387 完掘

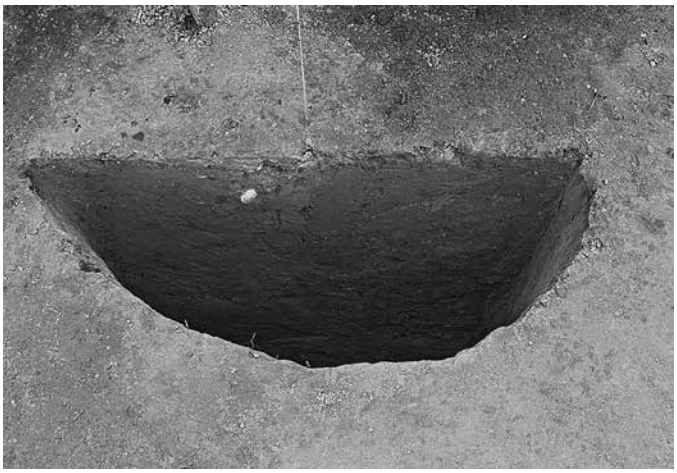
SE1389 土層断面

SE1389 焼礫出土状況

SE1389 完掘


SE1390 土層断面

SE1390 完掘


SE1500 土層断面

SE1500 完掘

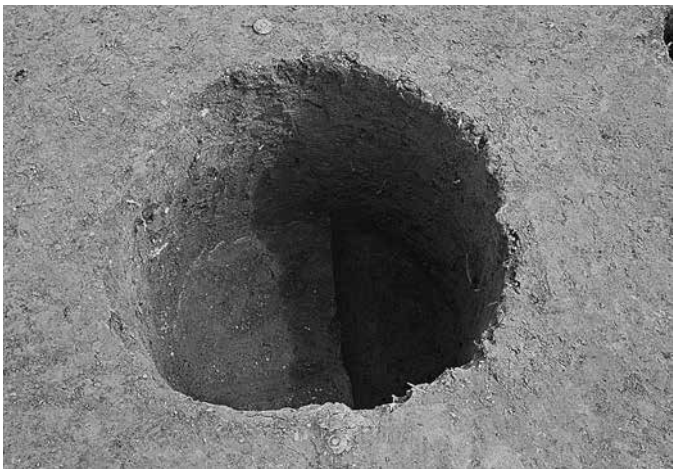
SE1501 土層断面

SE1501 完掘

SE1502 土層断面

SE1502 完掘

SE1503 土層断面



SE1503 完掘

SE1504 土層断面

SE1514 土層断面

SE1514 完掘

SE1711 土層断面

SE1711 完掘

SE1712 土層断面

SE1712 完掘

SE1713 土層断面

SE1713 完掘

SE1717 土層断面

SE1718 土層断面

SE1718 中世土師質土器出土状況

SE1718 曲げ物底板出土状況

SE1718 完掘

SE1719 土層断面

SE1719 珠洲焼鉢出土状況

SE1719 完掘

SE1720 土層断面

SE1720 完掘

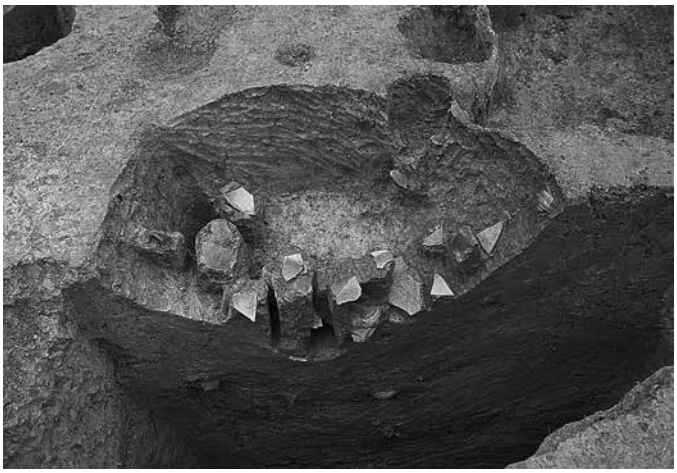
SE1728 土層断面

SE1728 完掘

SE1731 土層断面

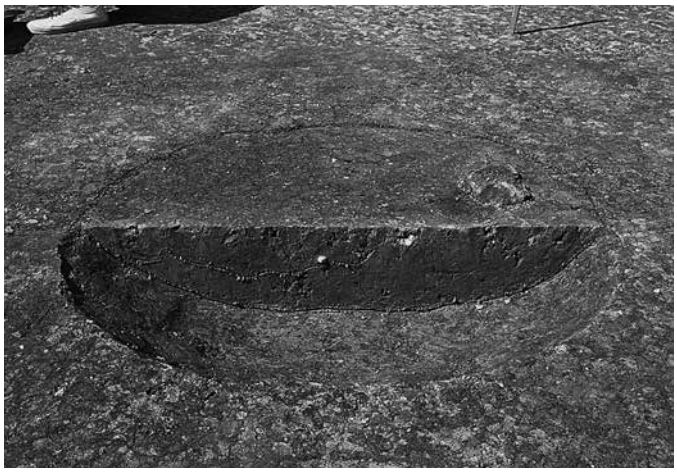
SE1731 完掘

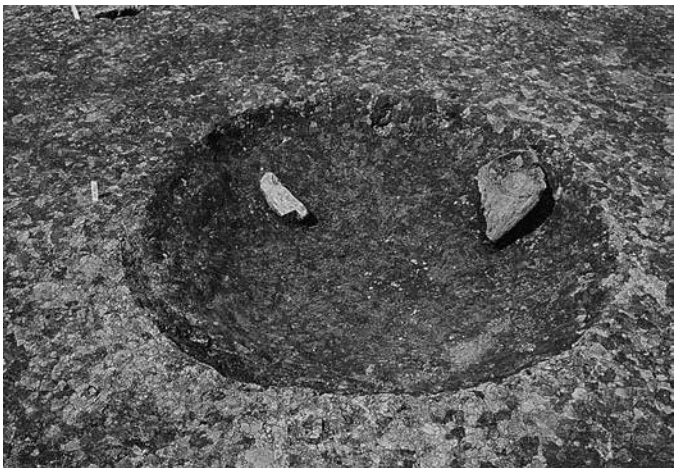
SE1732 土層断面

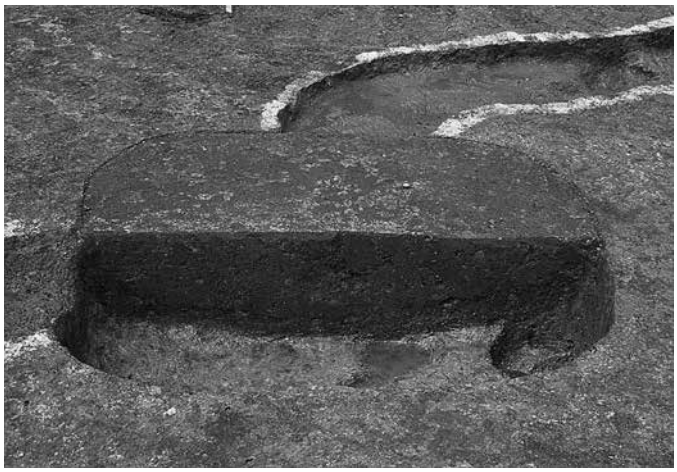

SE1732 上層遺物出土状況

SE1732 上層遺物出土状況

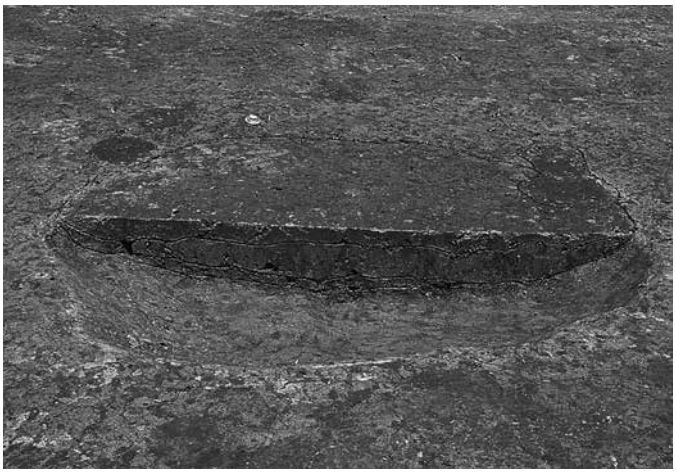
SE1732 完掘


SK401 土層断面


SK401 完掘


SK403 土層断面

SK403 完掘



SK475 土層断面

SK475 完掘

SK1130 土層断面

SK1130 完掘

SK1243 土層断面

SK1243 完掘

SK1388 土層断面

SK1388 完掘

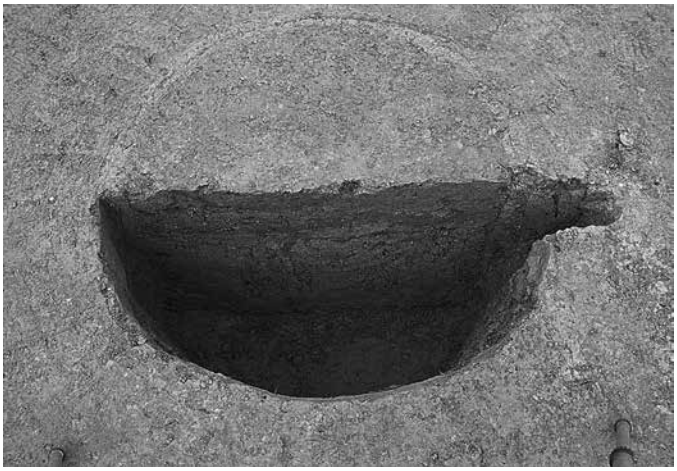
SK1392 土層断面

SK1392 完掘

SK1393 土層断面

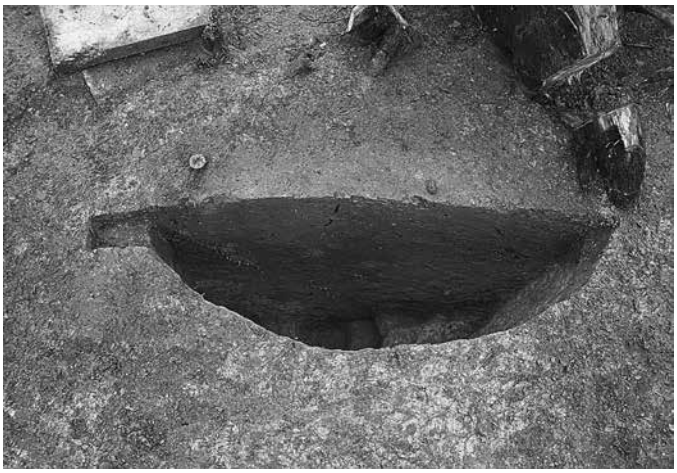
SK1384 土層断面

SK1384 完掘



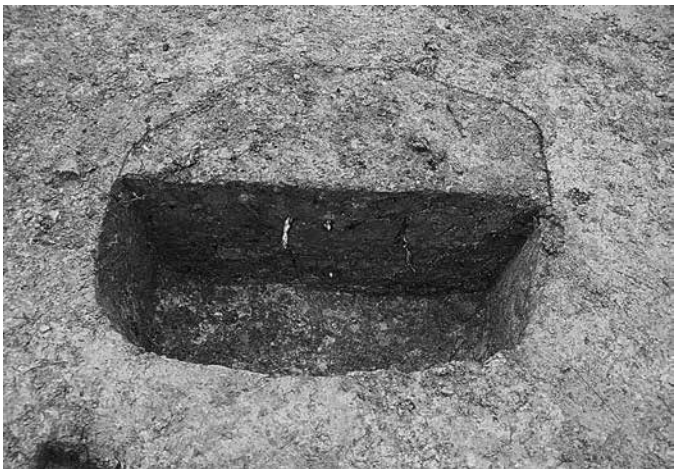
SK1505 土層断面

SK1508 土層断面



SK1510 土層断面

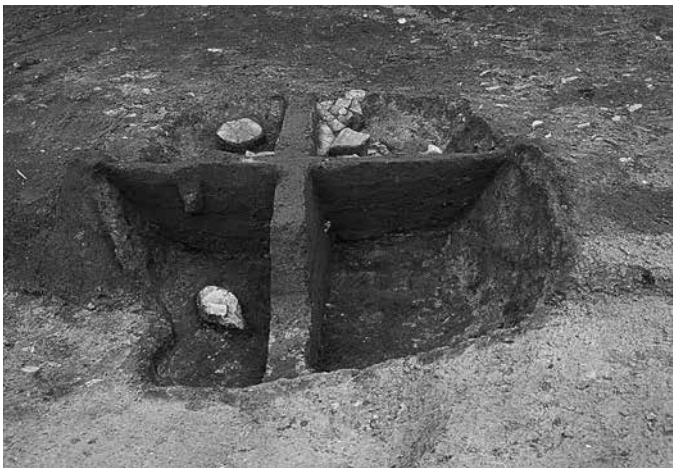
SK1510 完掘



SK1607 土層断面

SX1701 検出状況

SX1701 南北土層断面



SX1701 東西土層断面

SX1701 遺物出土状況

SX1701 遺物出土状況

SX1701 遺物出土状況

SX1701 完掘

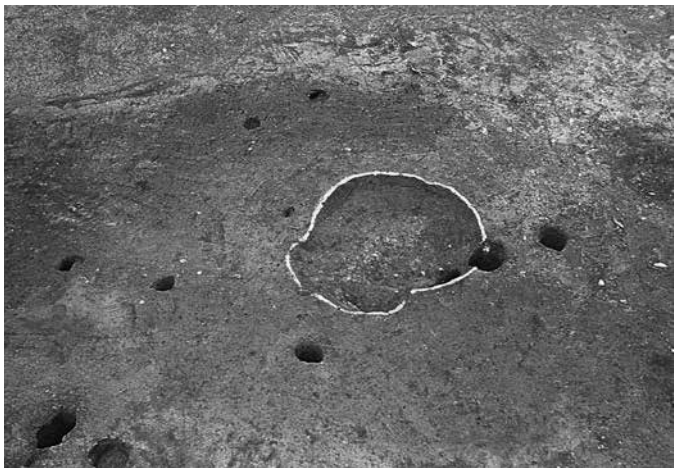
SX1701 完掘

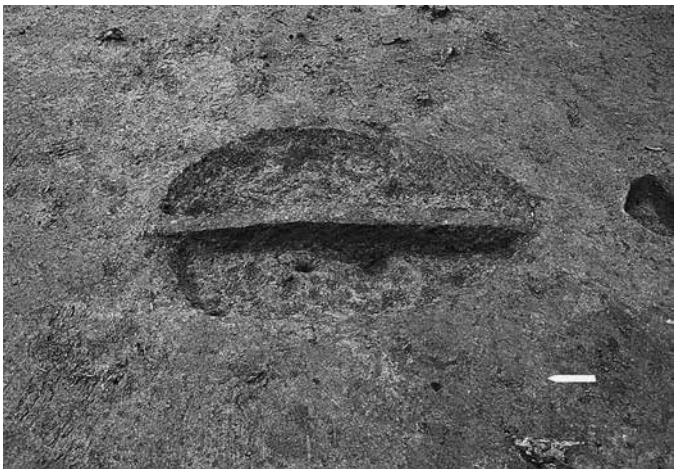
SX1702 検出状況

SX1702 遺物出土状況

SX1702 土層断面

SX1702 土層断面


SX1702 完掘



SK1706A 土層断面

SK1706A 完掘

SK1707 土層断面

SK1708 土層断面

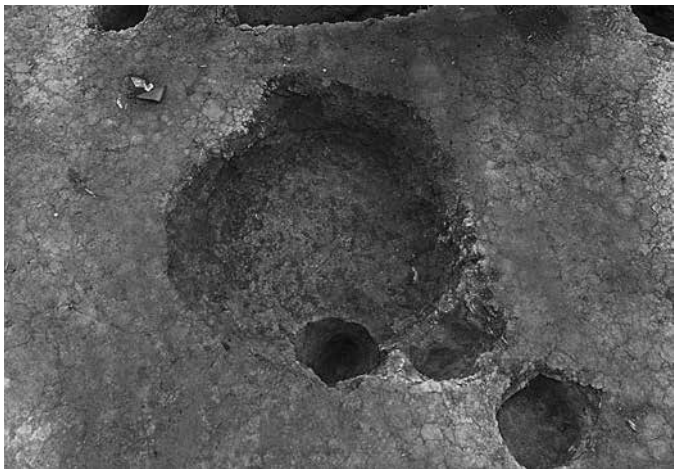
SK1714 土層断面

SK1714 完掘

SK1715 遺物出土状況

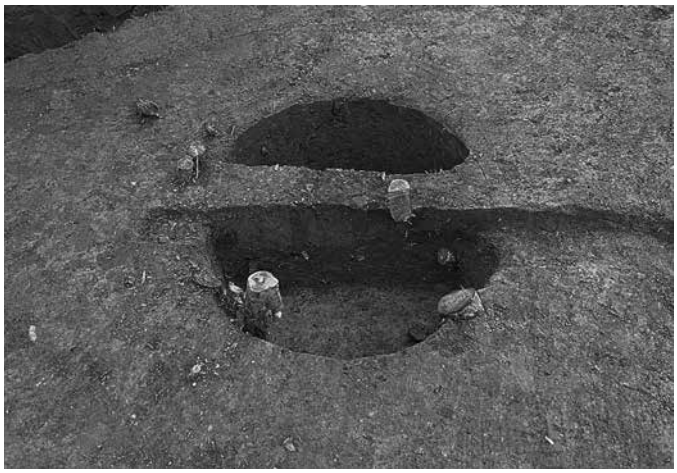
SK1715 遺物出土状況

SK1715 遺物出土状況

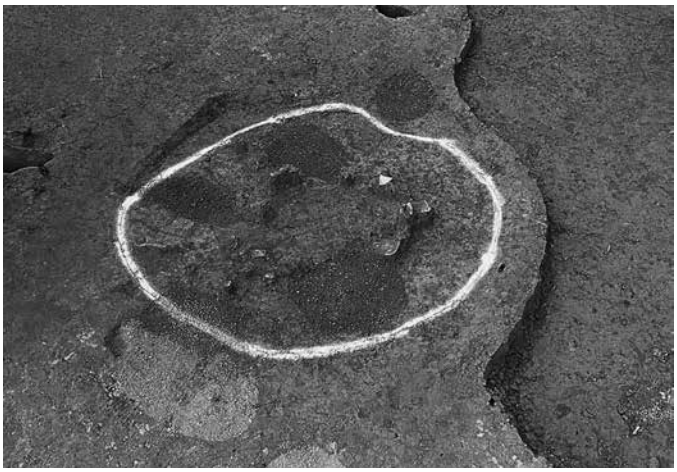


SK1715 完掘

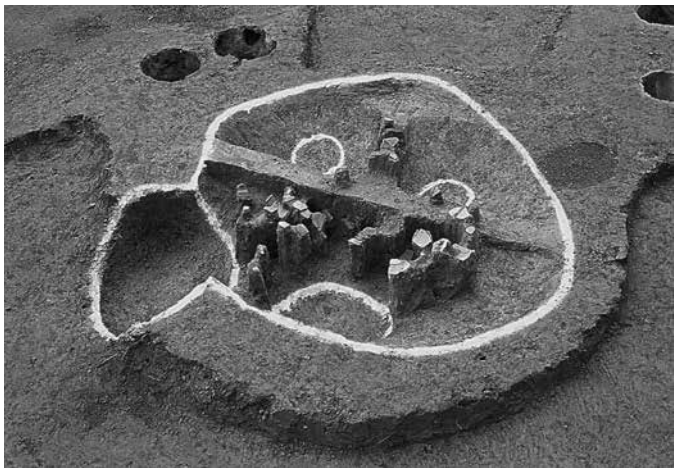
SK1722 土層断面



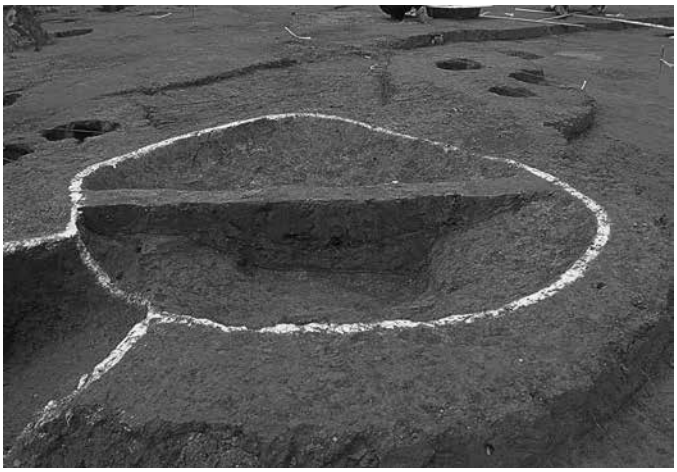
SK1723 土層断面



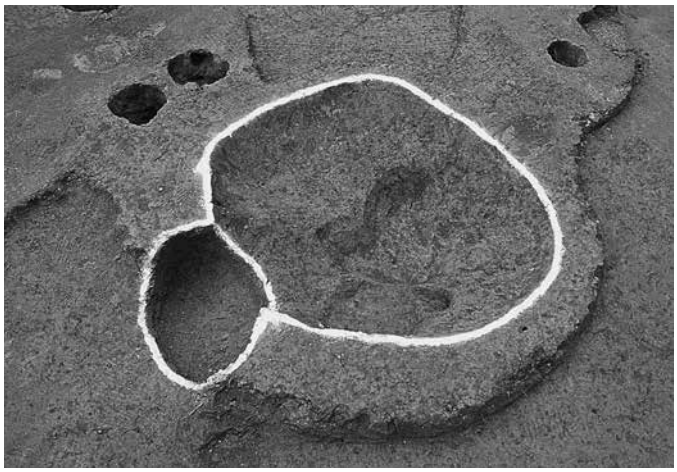
SK1820 検出状況



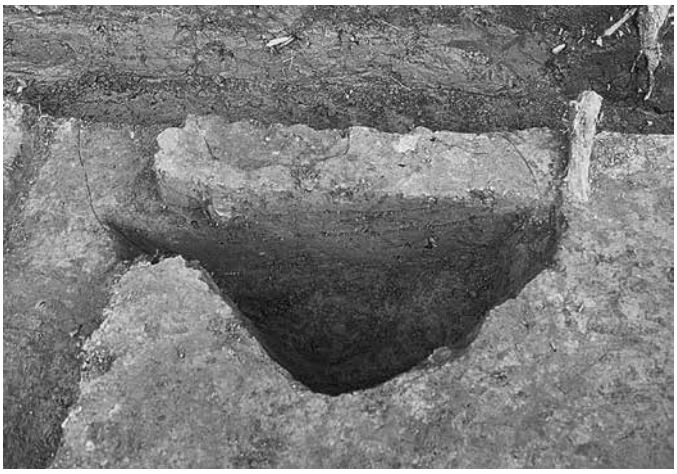
SK1820 遺物出土状況



Sk1820 土層断面

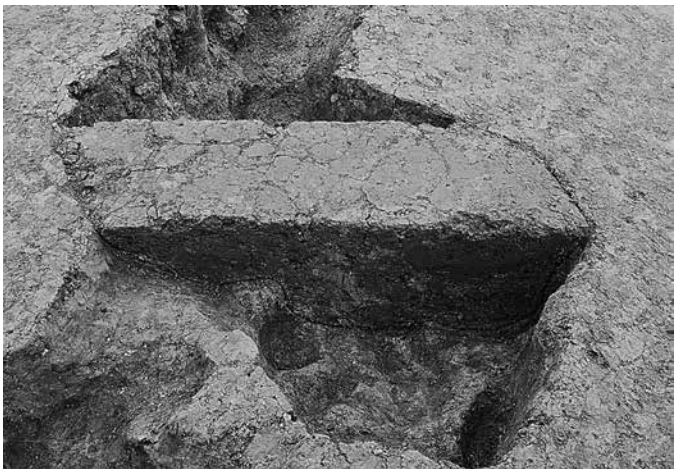


Sk1820 完掘



SK1821 土層断面

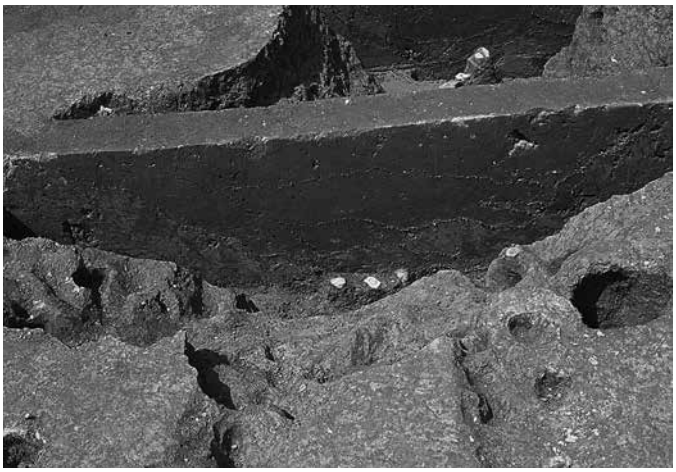
SK1821 完掘



SD480 土層断面

SD700 ー 2 土層断面

SD700 ー 3 土層断面



SD700 ー 4 土層断面

SD700 ー 5 土層断面

SD1751 土層断面

SD1752

SD1752

SD1752 土層断面

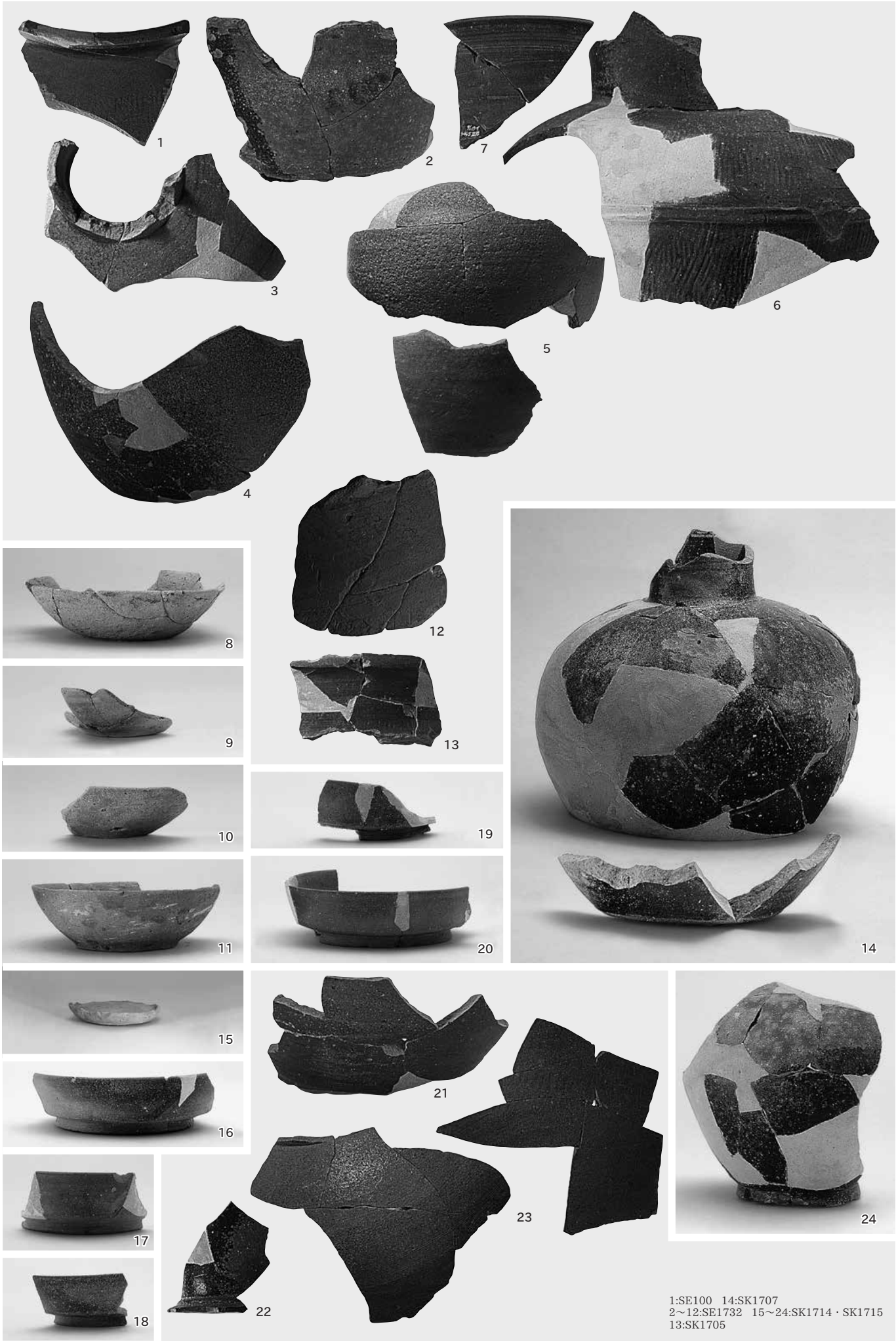
SD1752 土層断面

SD1752 遺物出土状況

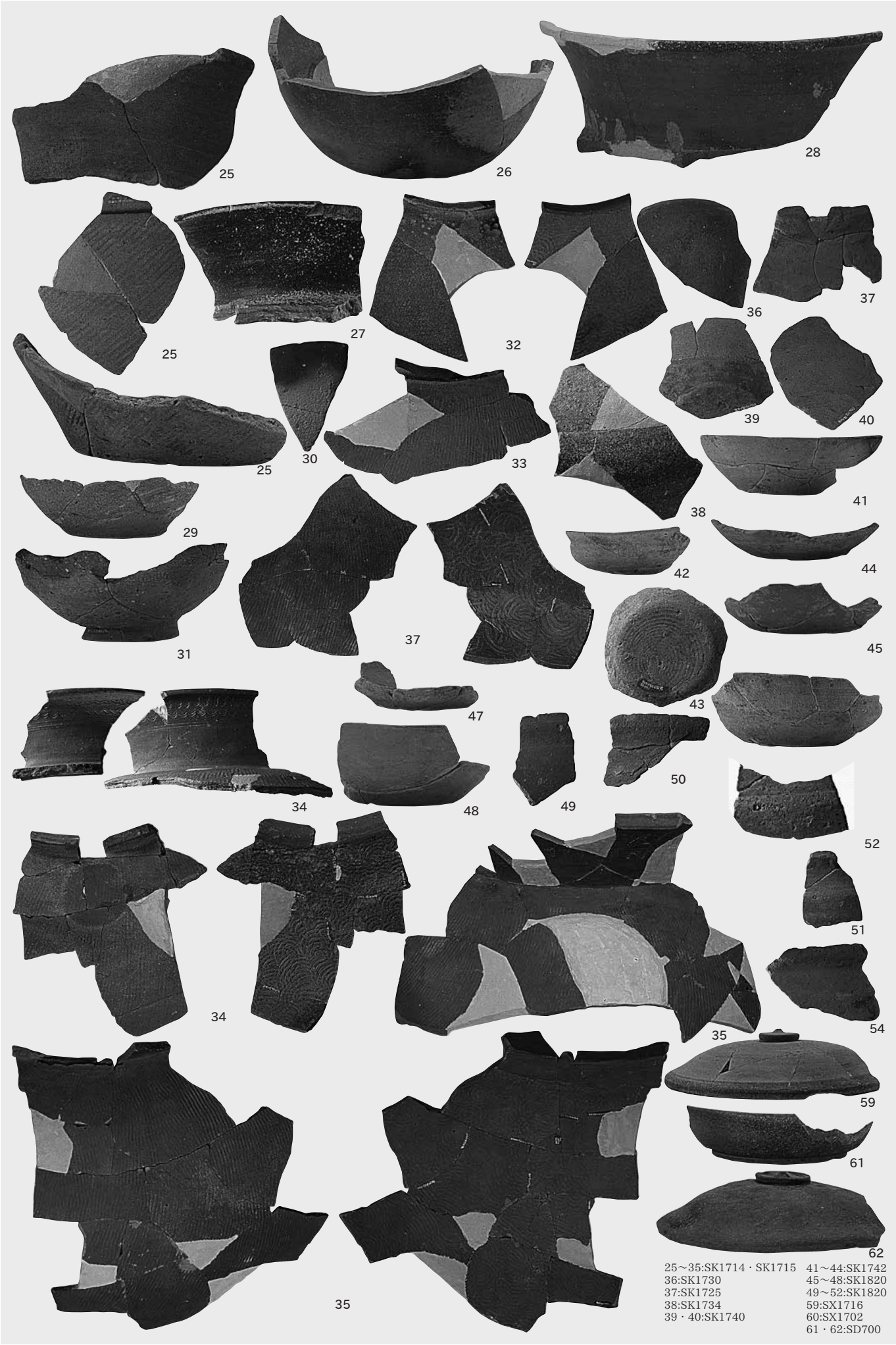
SD1753 土層断面

Ⅶ層溝群

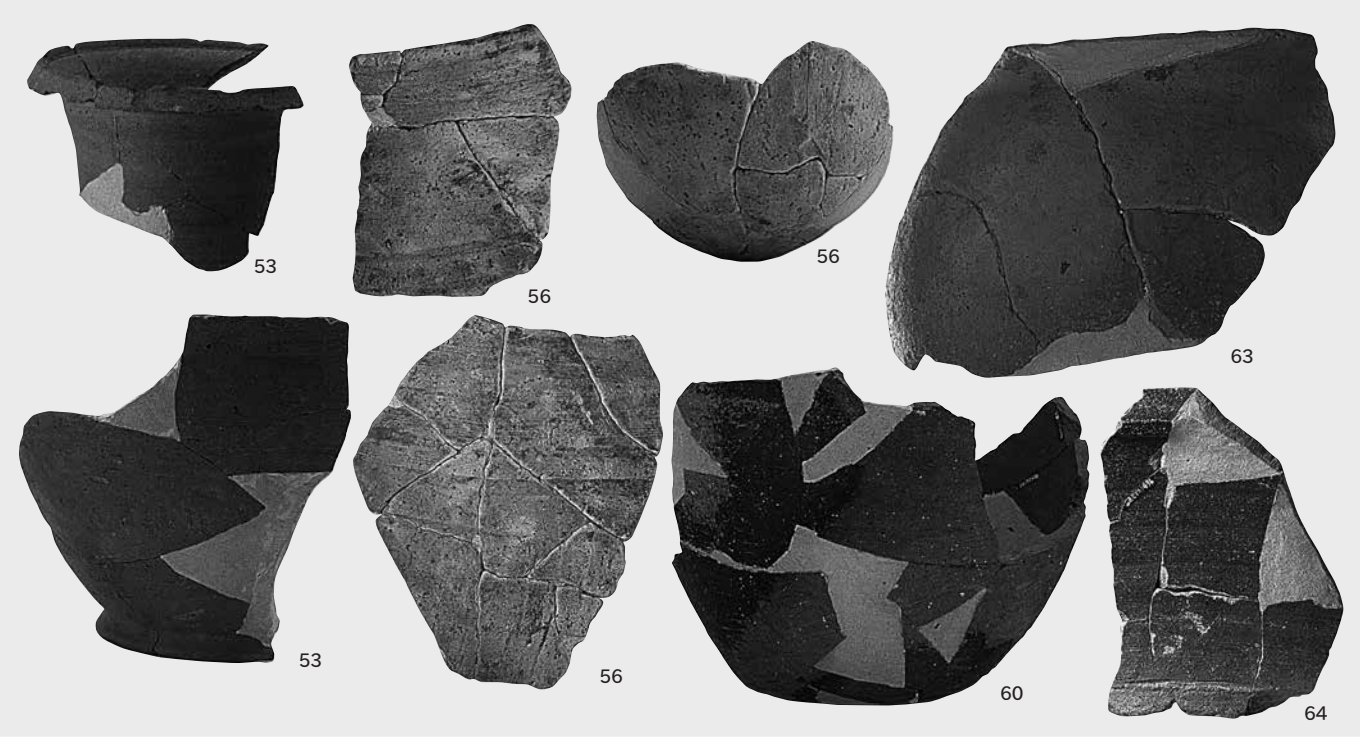
Ⅶ層溝群

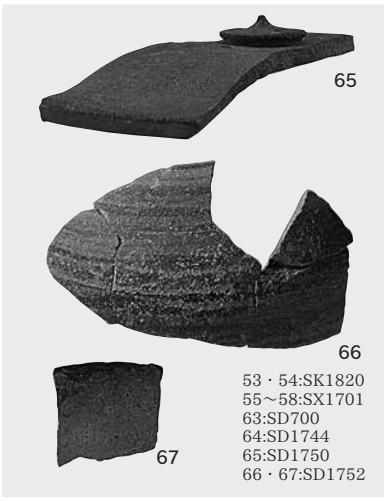


1:SE100　14:SK1707
2～12:SE1732　15～24:SK1714・SK1715
13:SK1705

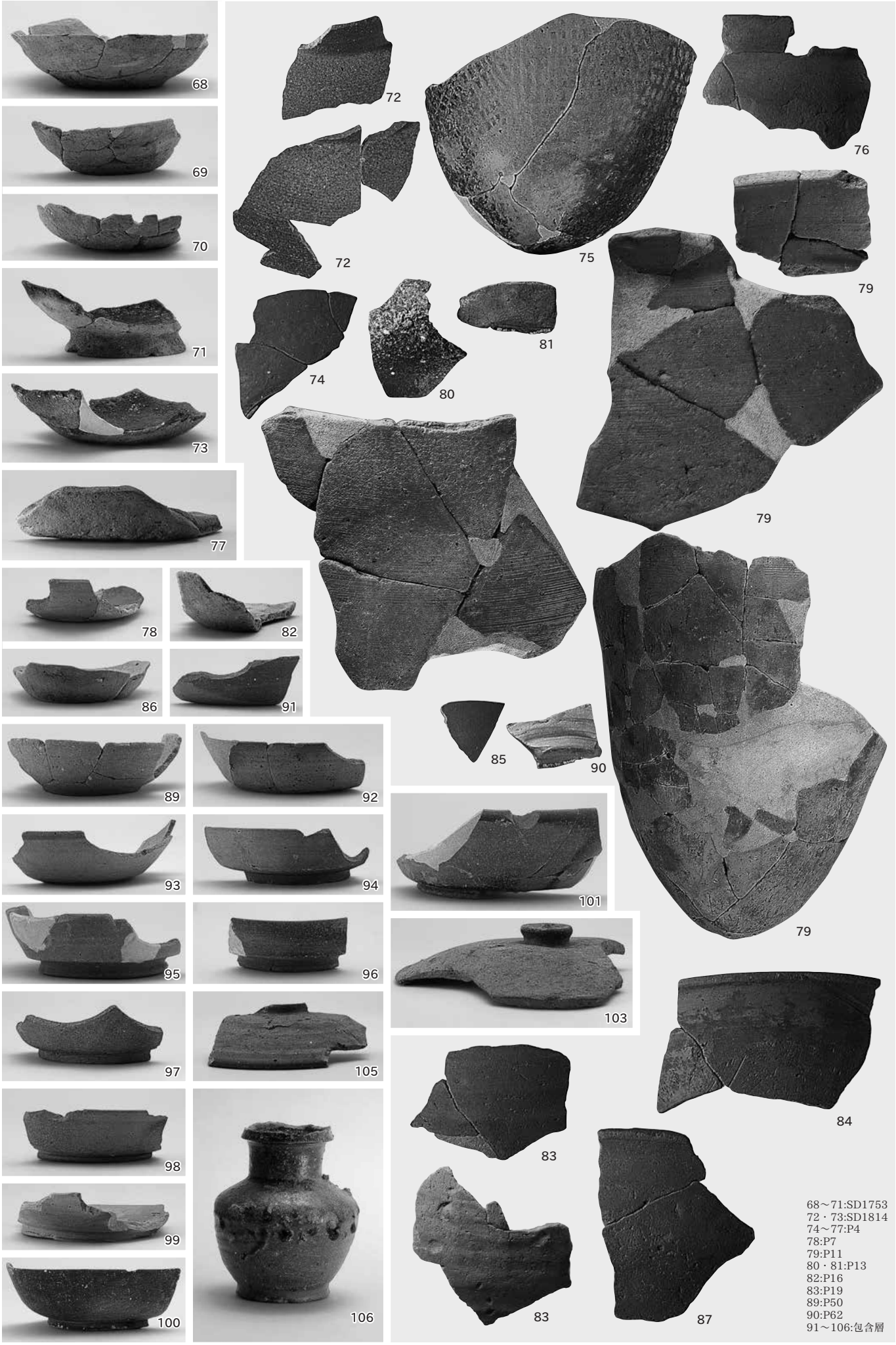


25～35:SK1714・SK1715
36:SK1730
37:SK1725
38:SK1734
39・40:SK1740
41～44:SK1742
45～48:SK1820
49～52:SK1820
59:SX1716
60:SX1702
61・62:SD700

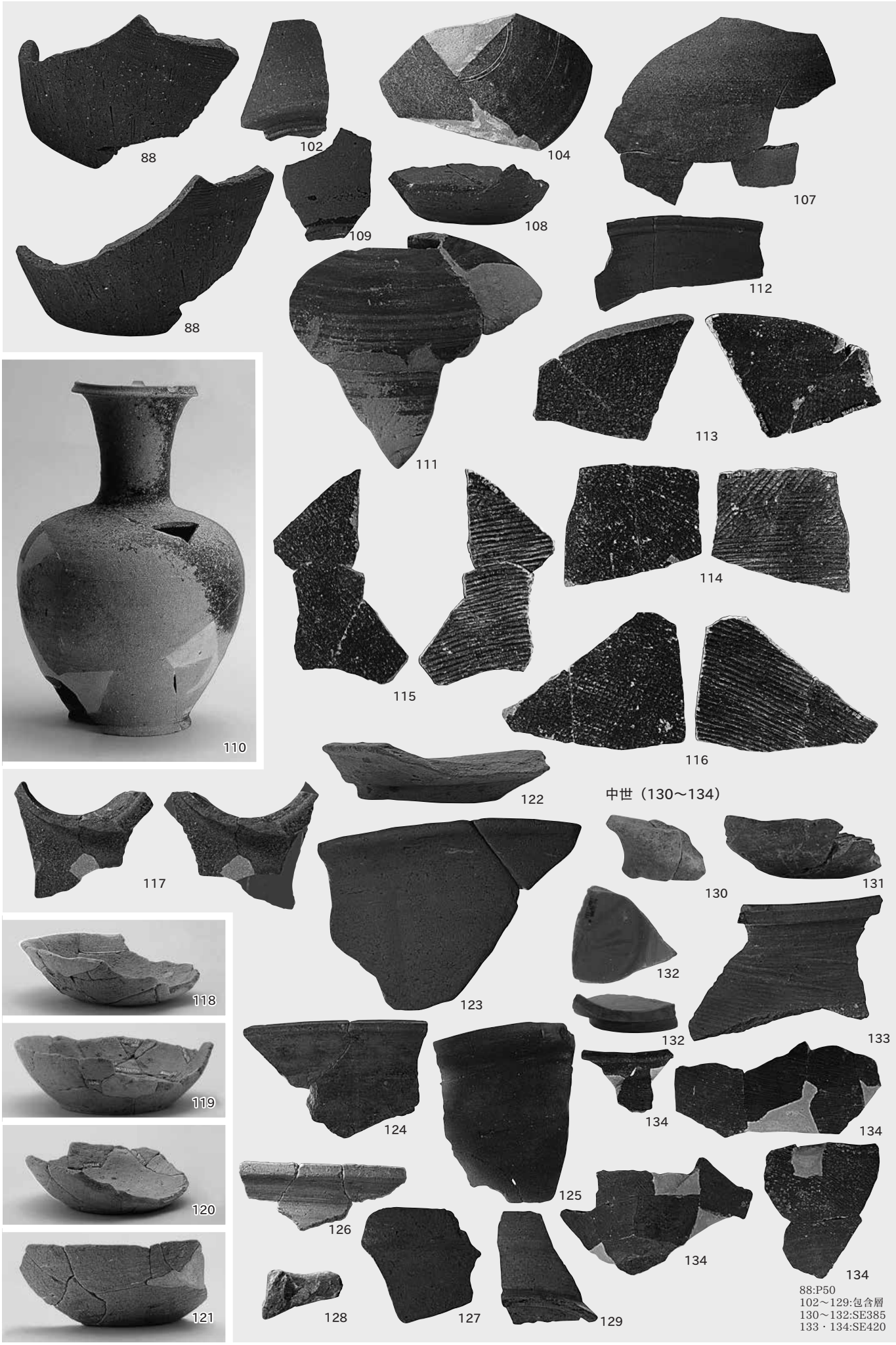




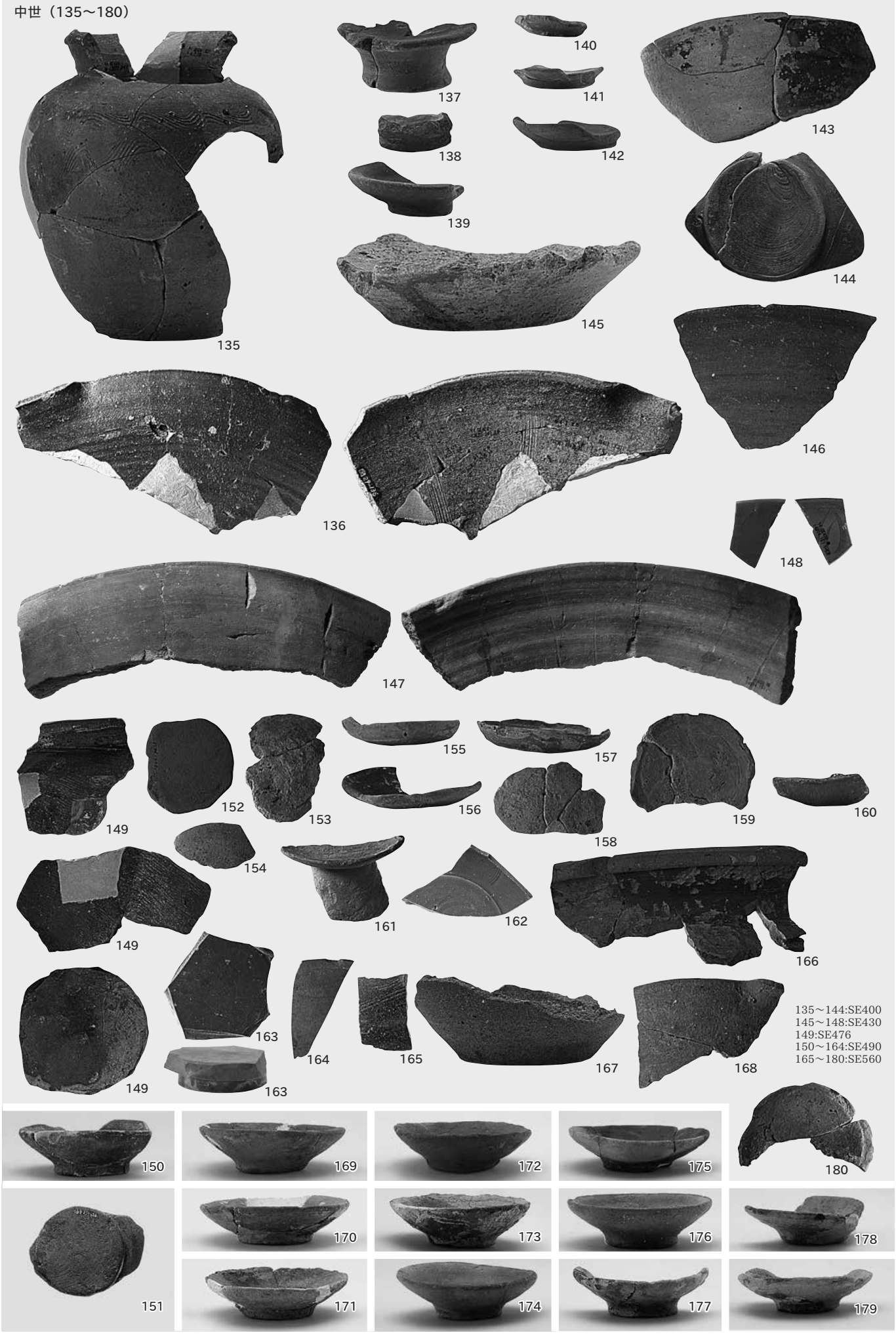
53・54:SK1820
55～58:SX1701
63:SD700
64:SD1744
65:SD1750
66・67:SD1752



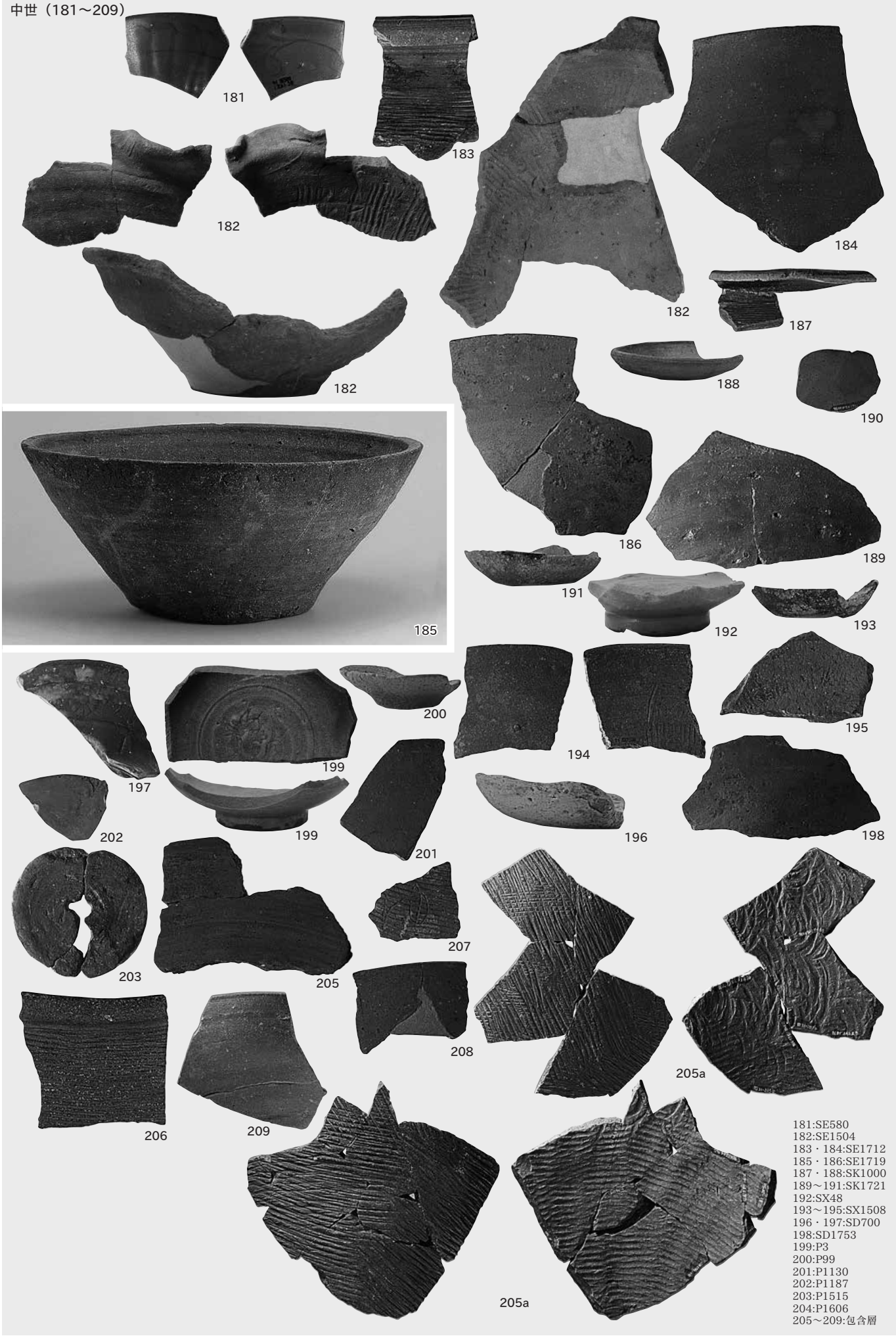
68～71:SD1753
72・73:SD1814
74～77:P4
78:P7
79:P11
80・81:P13
82:P16
83:P19
89:P50
90:P62
91～106:包含層


88
102
104
107
109
108
112
88
111
113
110
114
115
116
122
中世（130～134）
117
130
131
118
123
132
133
119
132
124
134
134
125
120
126
134
134
121
128
127
129
88:P50
102～129:包含層
130～132:SE385
133・134:SE420

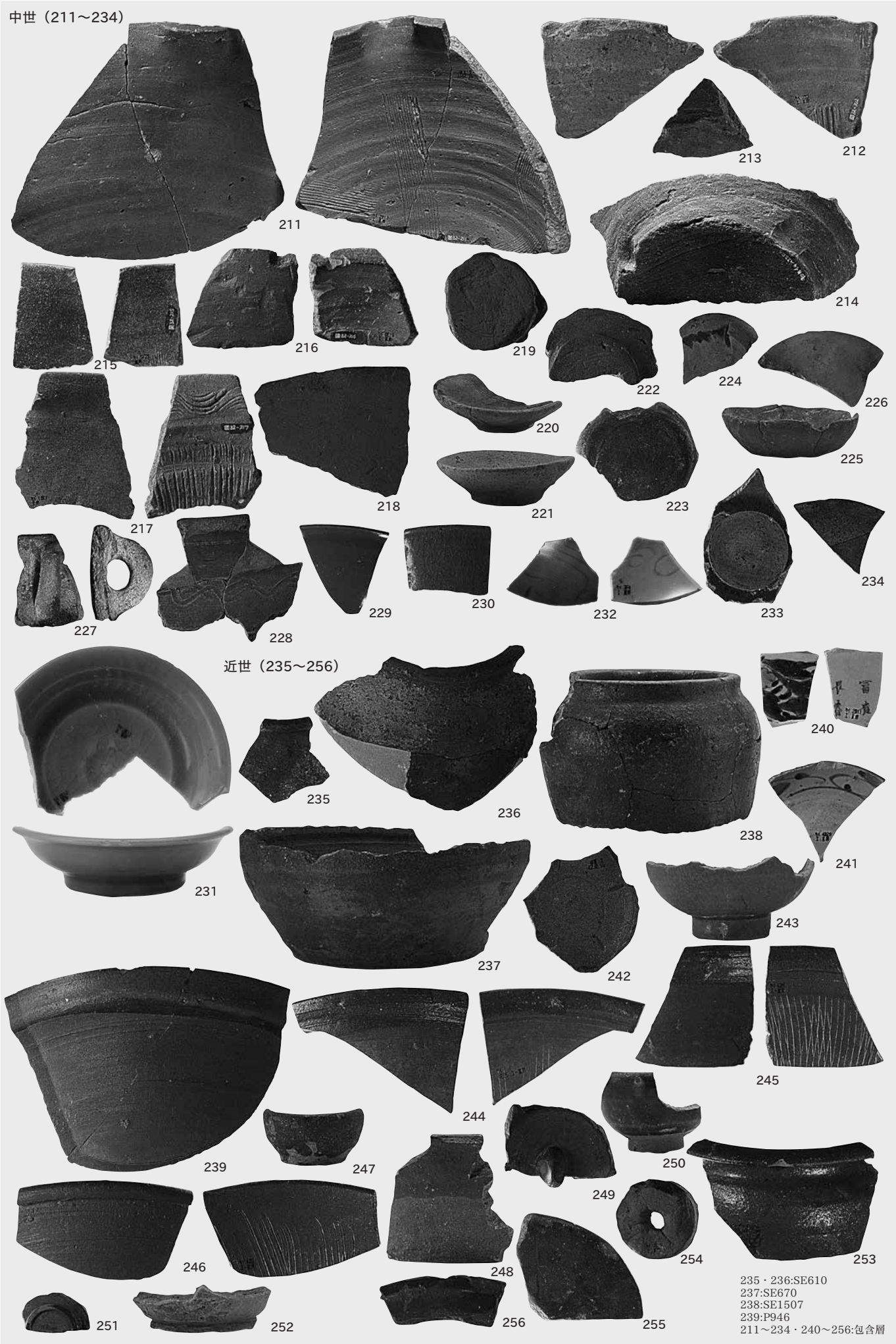
中世（135～180）


135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
135～144:SE400
145～148:SE430
149:SE476
150～164:SE490
165～180:SE560

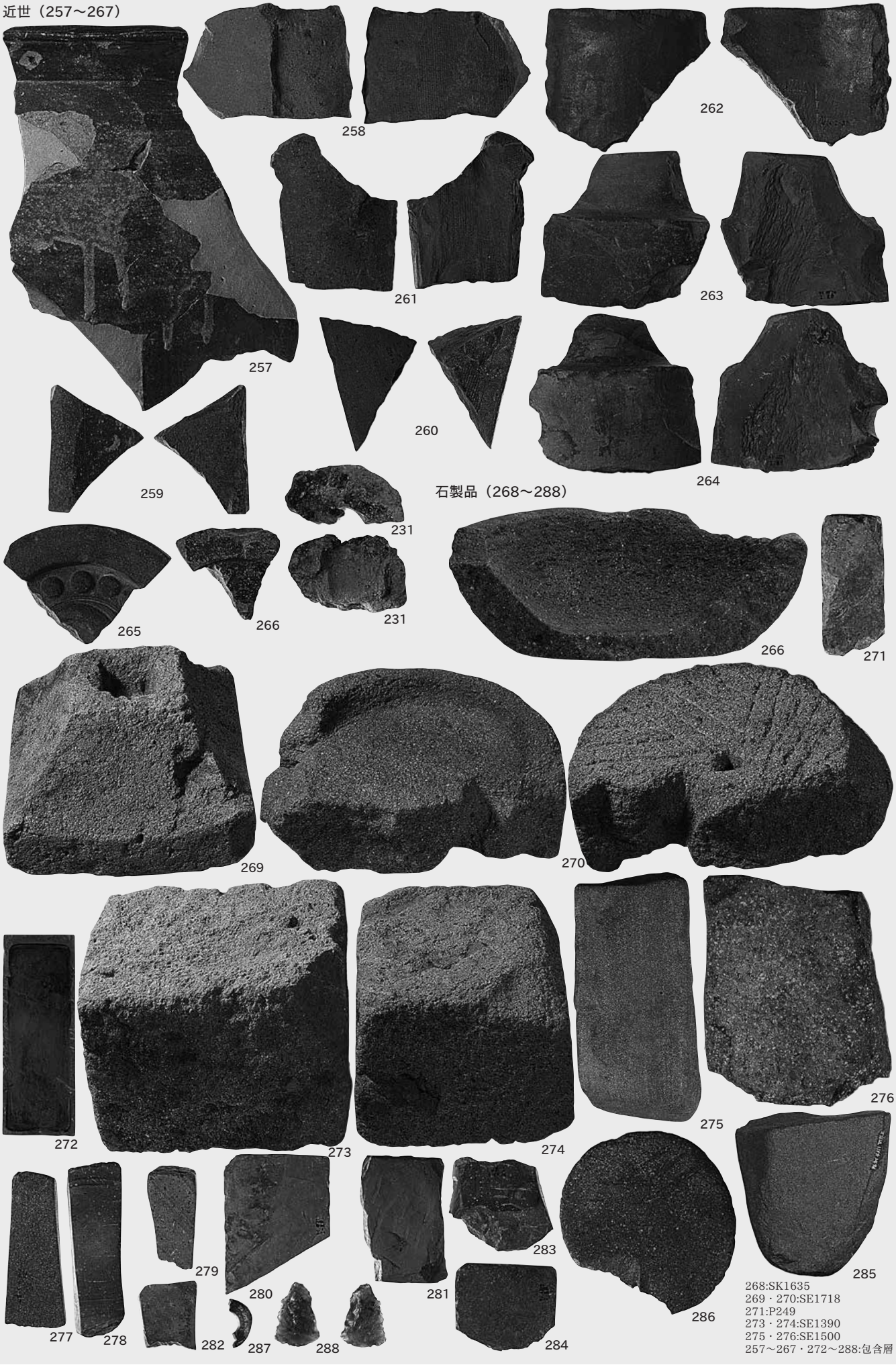
中世（181～209）



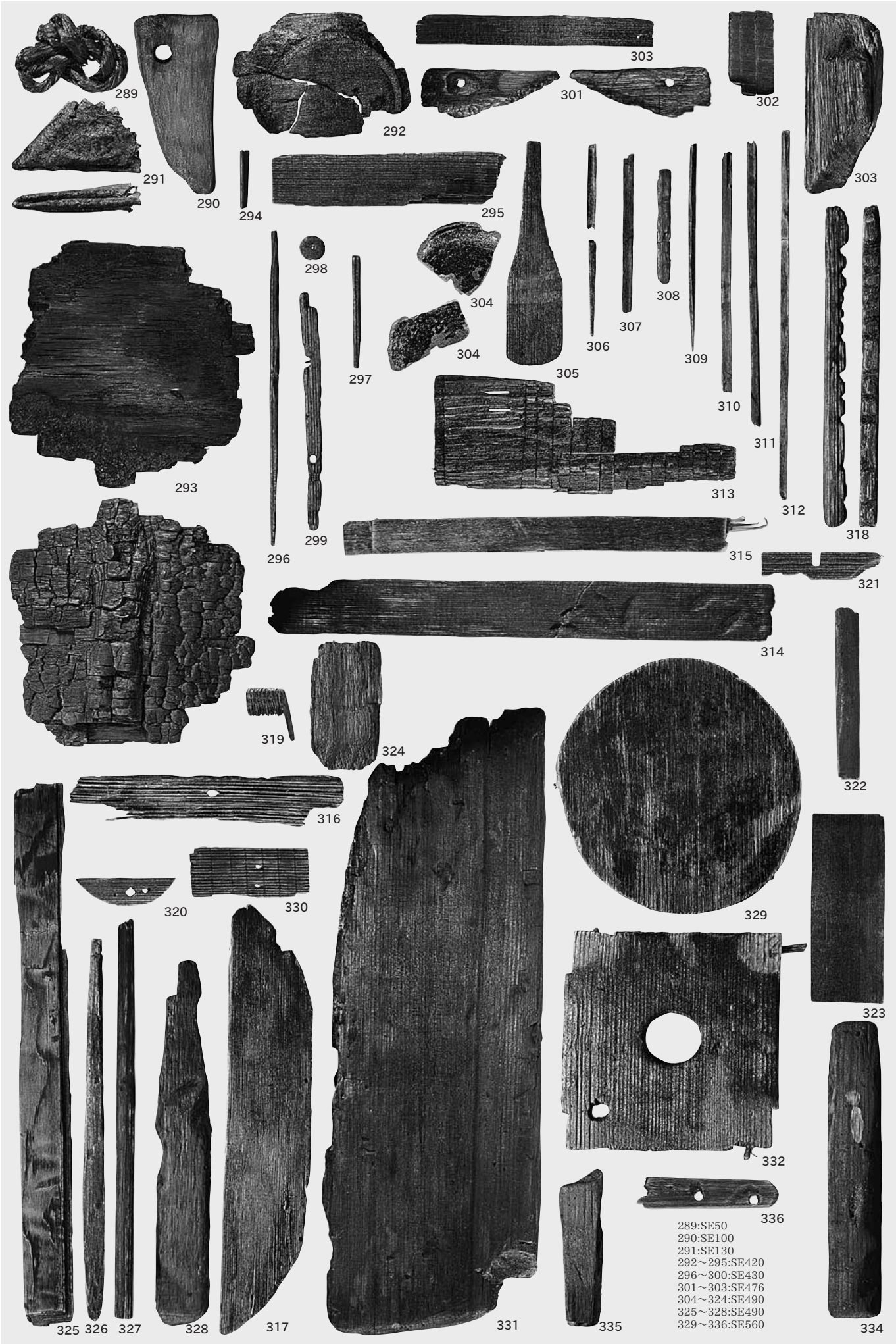
181:SE580
182:SE1504
183・184:SE1712
185・186:SE1719
187・188:SK1000
189～191:SK1721
192:SX48
193～195:SX1508
196・197:SD700
198:SD1753
199:P3
200:P99
201:P1130
202:P1187
203:P1515
204:P1606
205～209:包含層


中世（211～234）
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
近世（235～256）
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
235・236:SE610
237:SE670
238:SE1507
239:P946
211～234・240～256:包含層

近世（257～267）



268:SK1635
269・270:SE1718
271:P249
273・274:SE1390
275・276:SE1500
257～267・272～288:包含層


289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
334
335
336
289:SE50
290:SE100
291:SE130
292～295:SE420
296～300:SE430
301～303:SE476
304～324:SE490
325～328:SE490
329～336:SE560

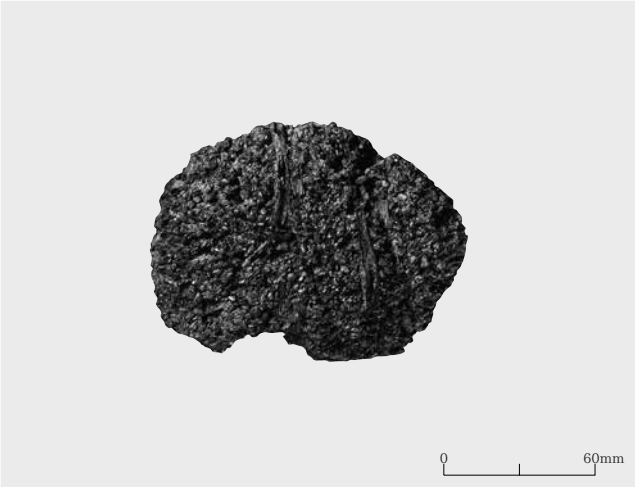
333:SE560
337～341:SE590
342～346:SE610
347～357:SE630

356:SE630
358～361:SE670
362・363:SE900
364:SE1241
365・366:SE1248
367:SE1250
368:SE1387
369:SE1500
370・372:SE1717

371:SE1717
373:P445
374:P927
375:包含層
376・377:SE560
379:SE420
380:SE1712

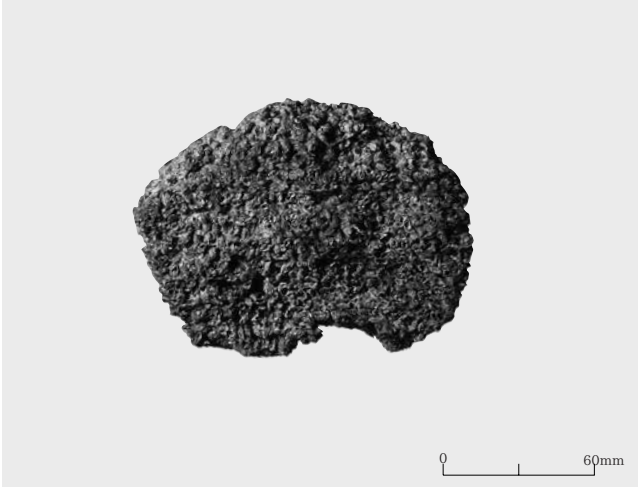
0　20mm　SE4210出土

0　20mm　SE430出土ウメ類



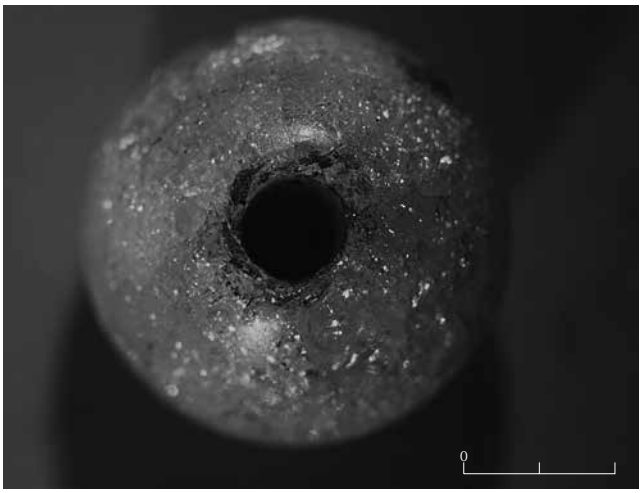
0　60mm

SE430出土炭化米（表）



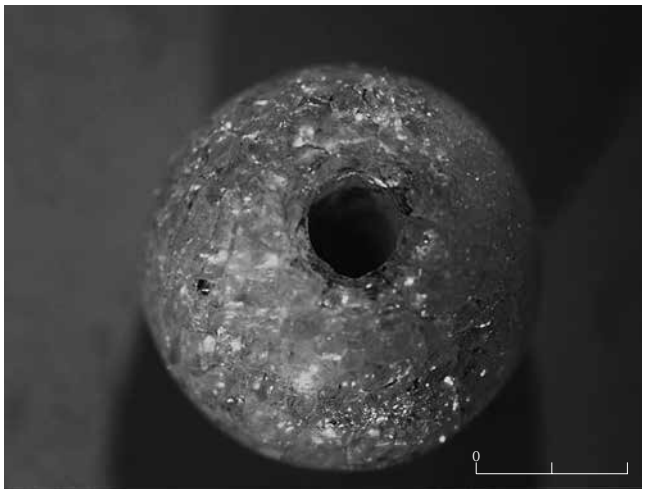
0　60mm

同左（裏）



0

SE456出土ガラス製品（数珠）（１）



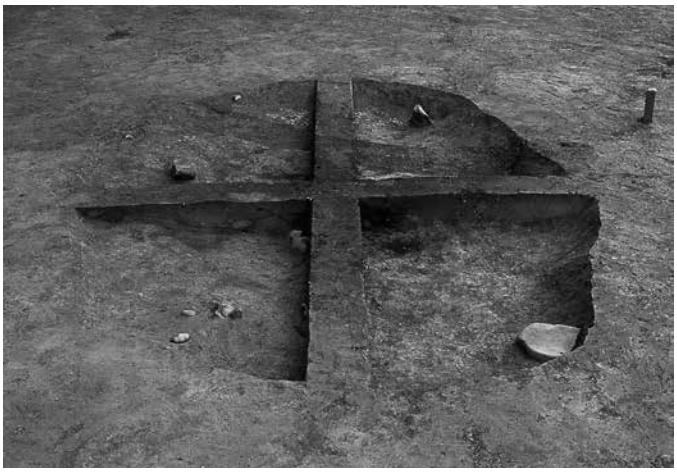
0

SE456出土ガラス製品（数珠）（２）

遺跡遠景

調査前現状

95SI1

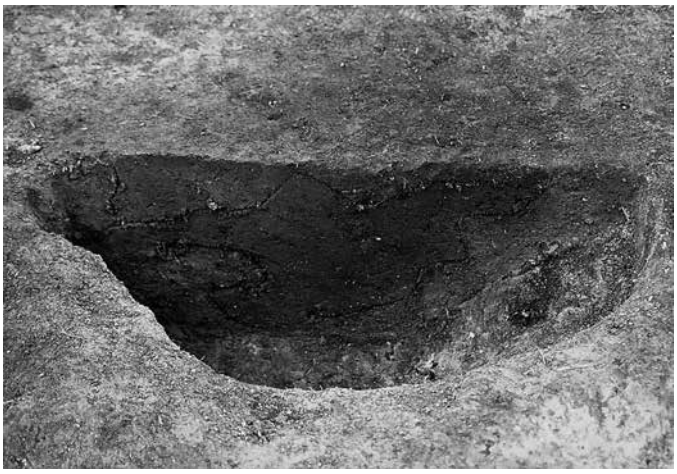


95SI1 東西セクション

95SI1 遺物出土状況

95SI1 石囲炉

95SI1 石囲炉断面



97SK4 土層断面

97SK4 完掘

97SK8 土層断面

97SK8 完掘

97SK9 土層断面

97SK9 完掘

97SK12 土層断面

97SK12 完掘

97SK117 土層断面

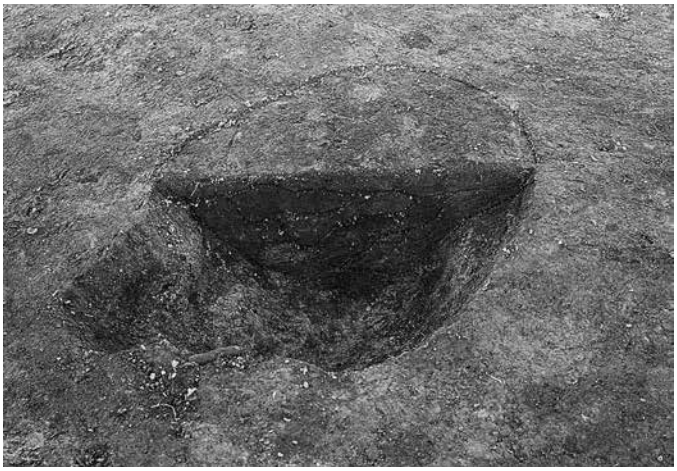
97SK117 完掘

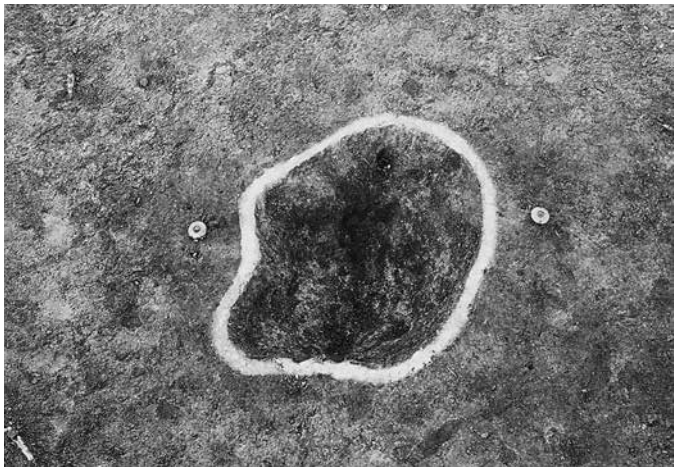
97SK110 土層断面

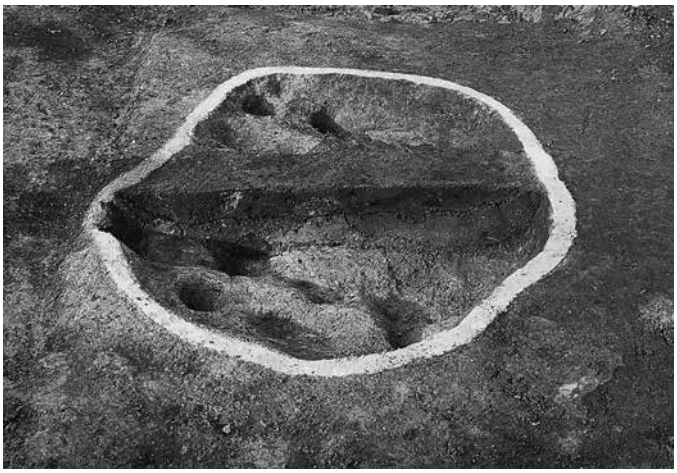
97SK110 遺物出土状況

97SK110 遺物出土状況

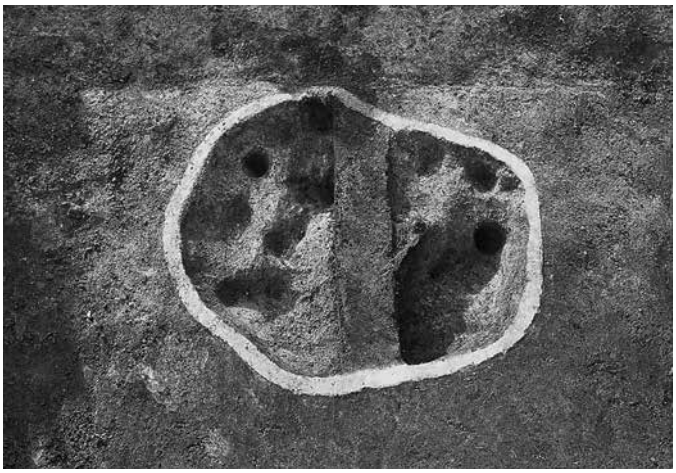
97SK110 完掘


96SK1 土層断面


96SK1 完掘



96SK2 土層断面



96SK2 完掘

97SK96 土層断面

97SK96 遺物出土状況

97SK96 遺物出土状況

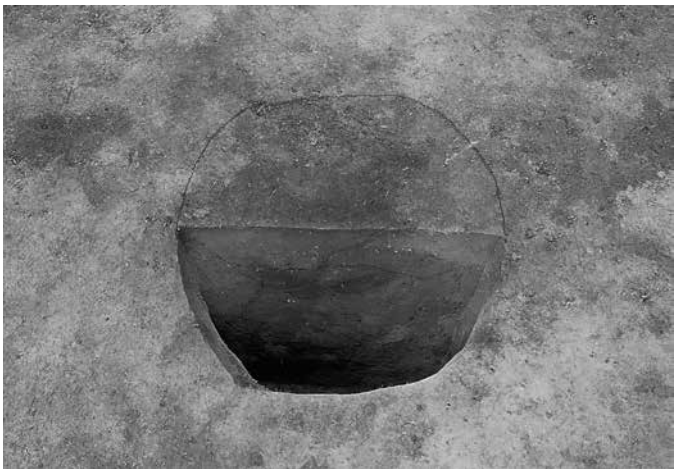
97SK96 完掘

95SK3 土層断面

95SK3 完掘

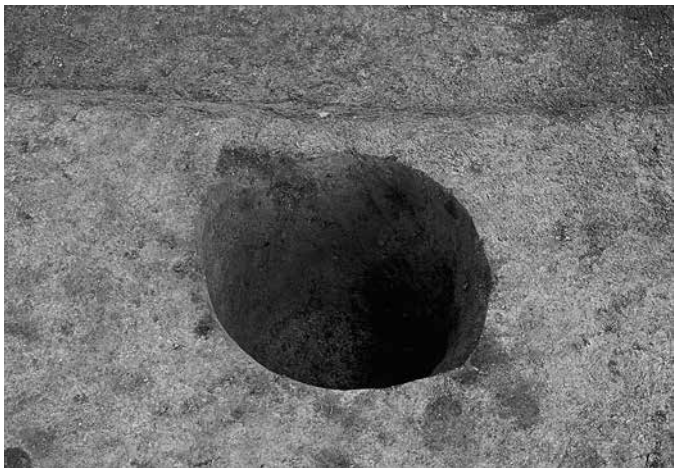
95SK4 土層断面

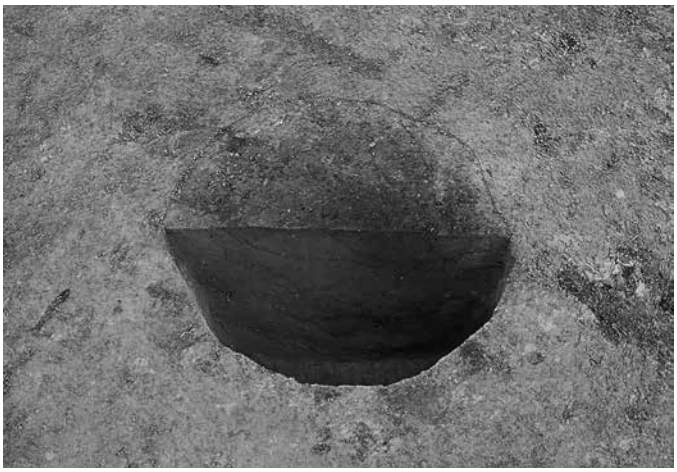
95SK4 完掘

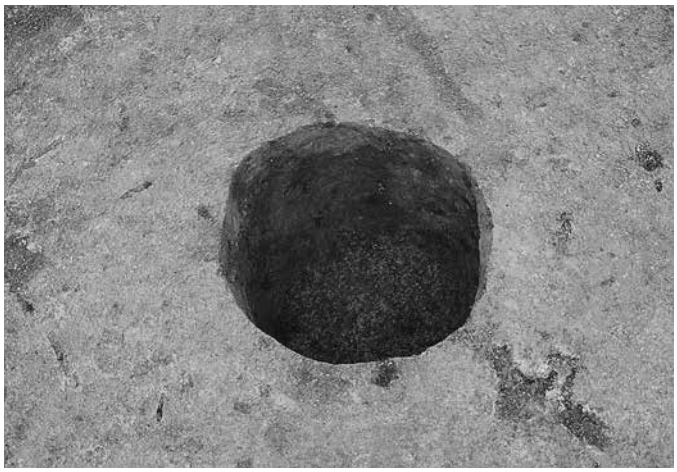

95SK7 土層断面

95SK7 完掘

95SK8 土層断面


95SK8 完掘


95SK10 土層断面


95SK10 完掘

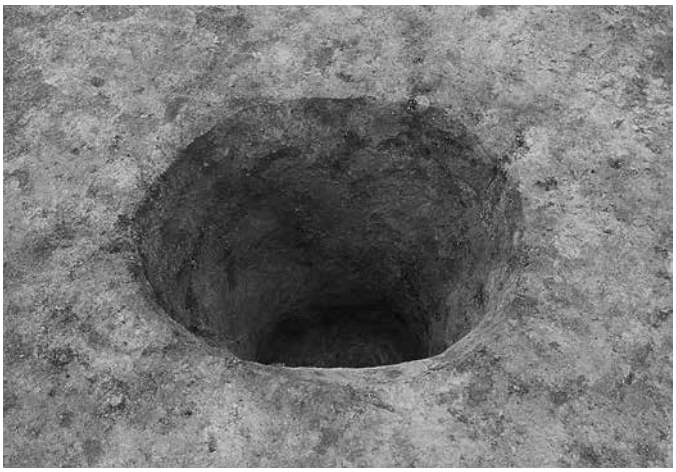
95SK2 土層断面

95SK2 完掘

95SK6 土層断面

95SK6 完掘

95SK5 土層断面



95SK5 完掘

97SK102 土層断面

97SK102 完掘

97SK98 土層断面

97SK98 完掘

97SK108 土層断面

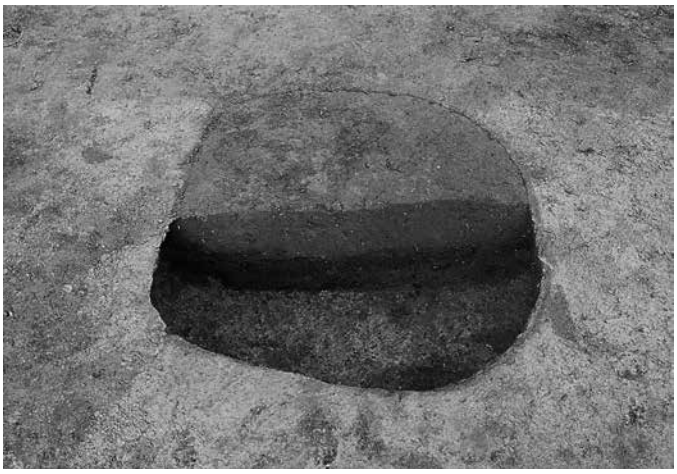
97SK108 完掘

97SK109 土層断面

97SK109 礫出土状況

97SK109 土層断面

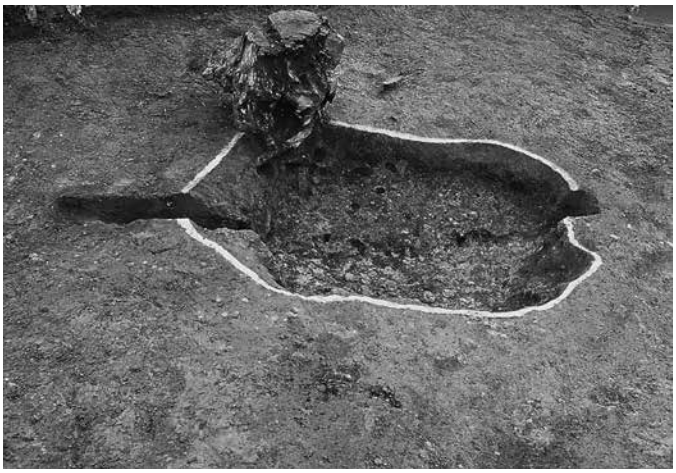
97SK109 完掘



95SK11 土層断面

95SK11 完掘

96SK3 土層断面



96SK3 完掘

97SI10 確認状況

97SI10 南北土層断面

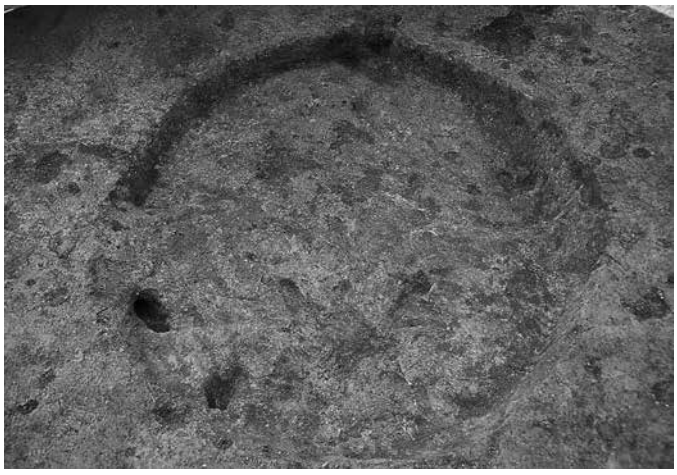
97SI10 東西土層断面

97SI10 完掘

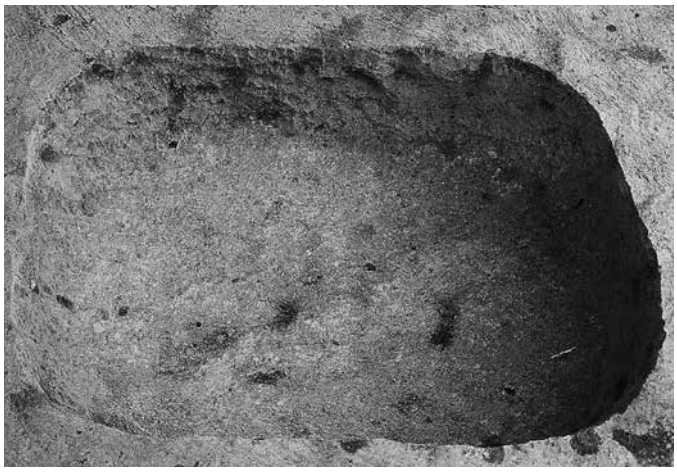
95SK9 土層断面

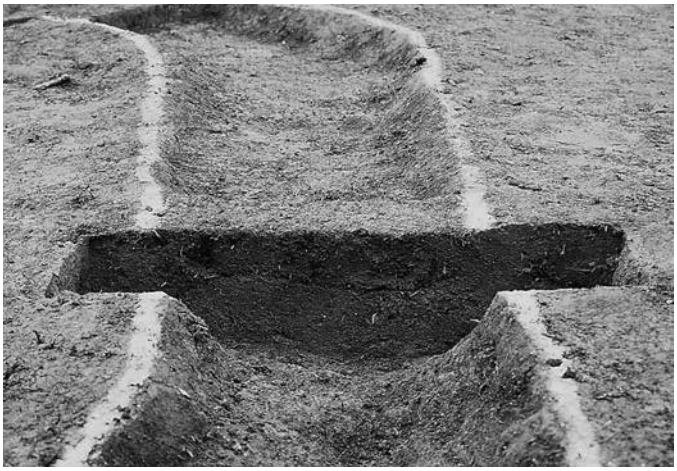
95SK9 完掘

97SK111 土層断面


97SK111 完掘

97SK137 土層断面


97SK137 完掘


96SD2 土層断面

97SD18 土層断面

97SD18 完掘

97SD13 検出状況

97SD13 土層断面

97SD13 完掘

95 全体完掘状況

97 礫出土状況

97 土器出土状況

97 旧石器確認作業

97SK17（須恵器窯跡）完掘

同上遺物出土状況

97SK17（須恵器窯）E-E'セクション

同上床面

97SK17（須恵器窯）B-B'セクション

同左 A-A'セクション

同 C-C'セクション

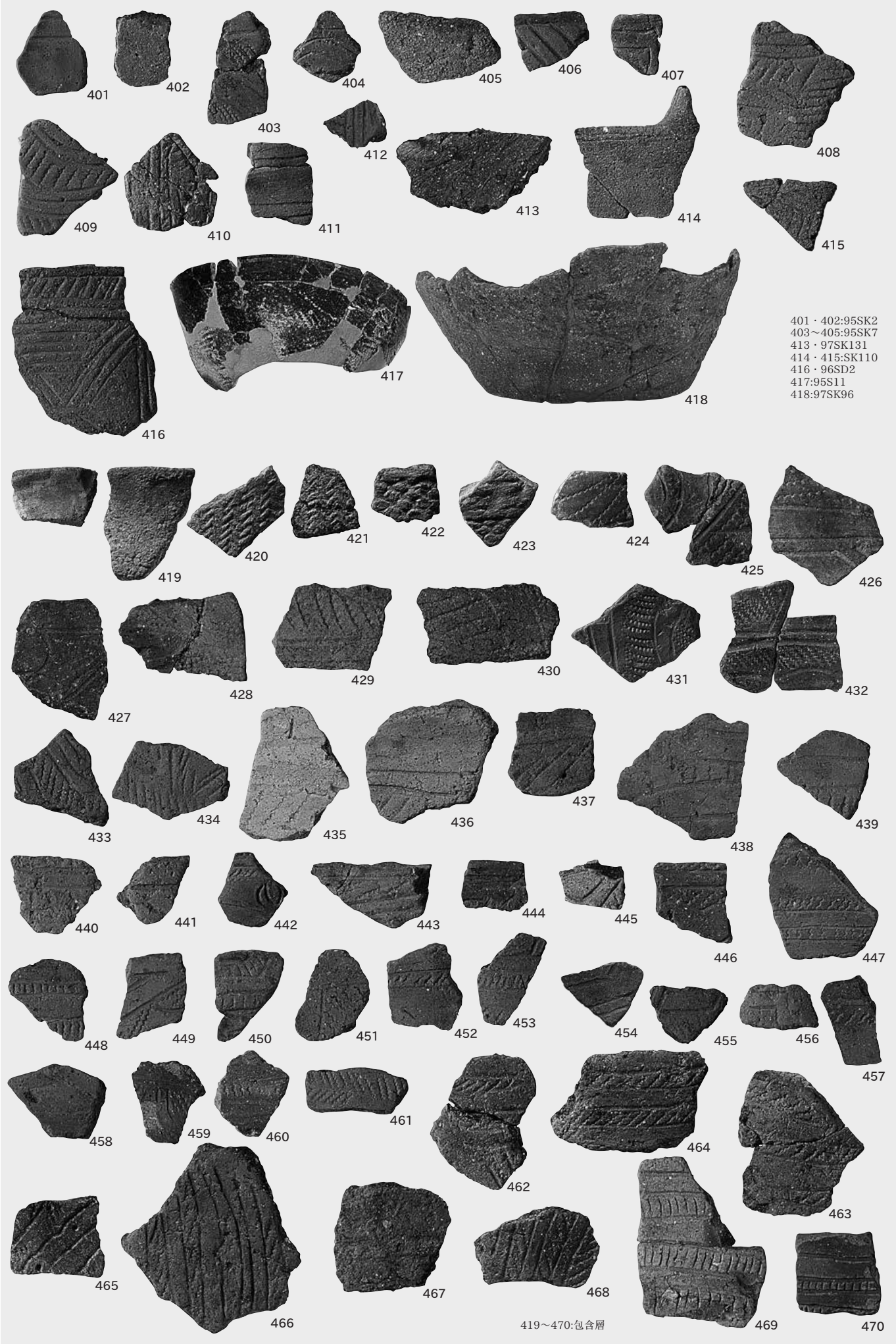
同 B-B'セクション

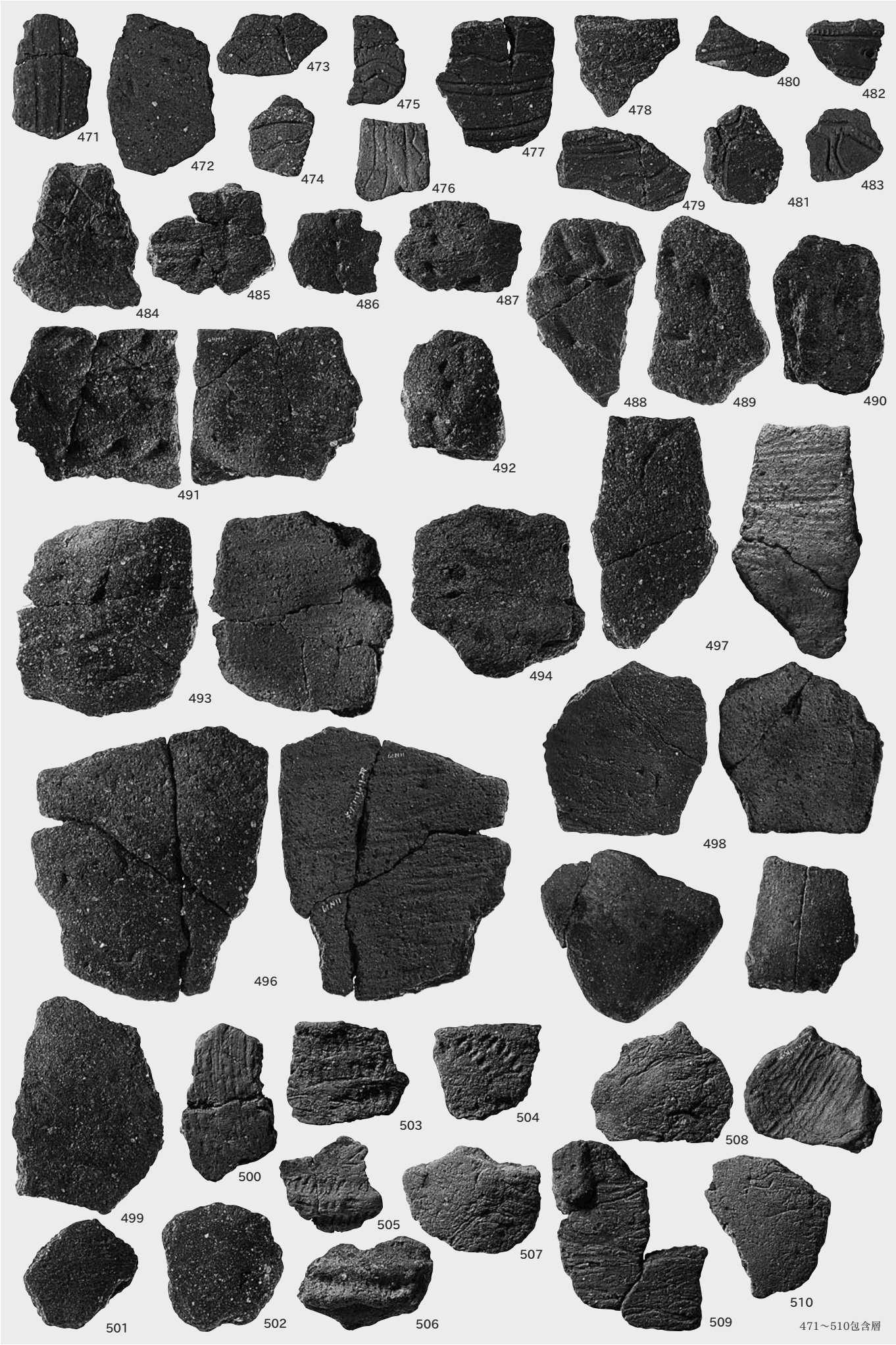
同 E-E'セクション

同 E-E'セクション

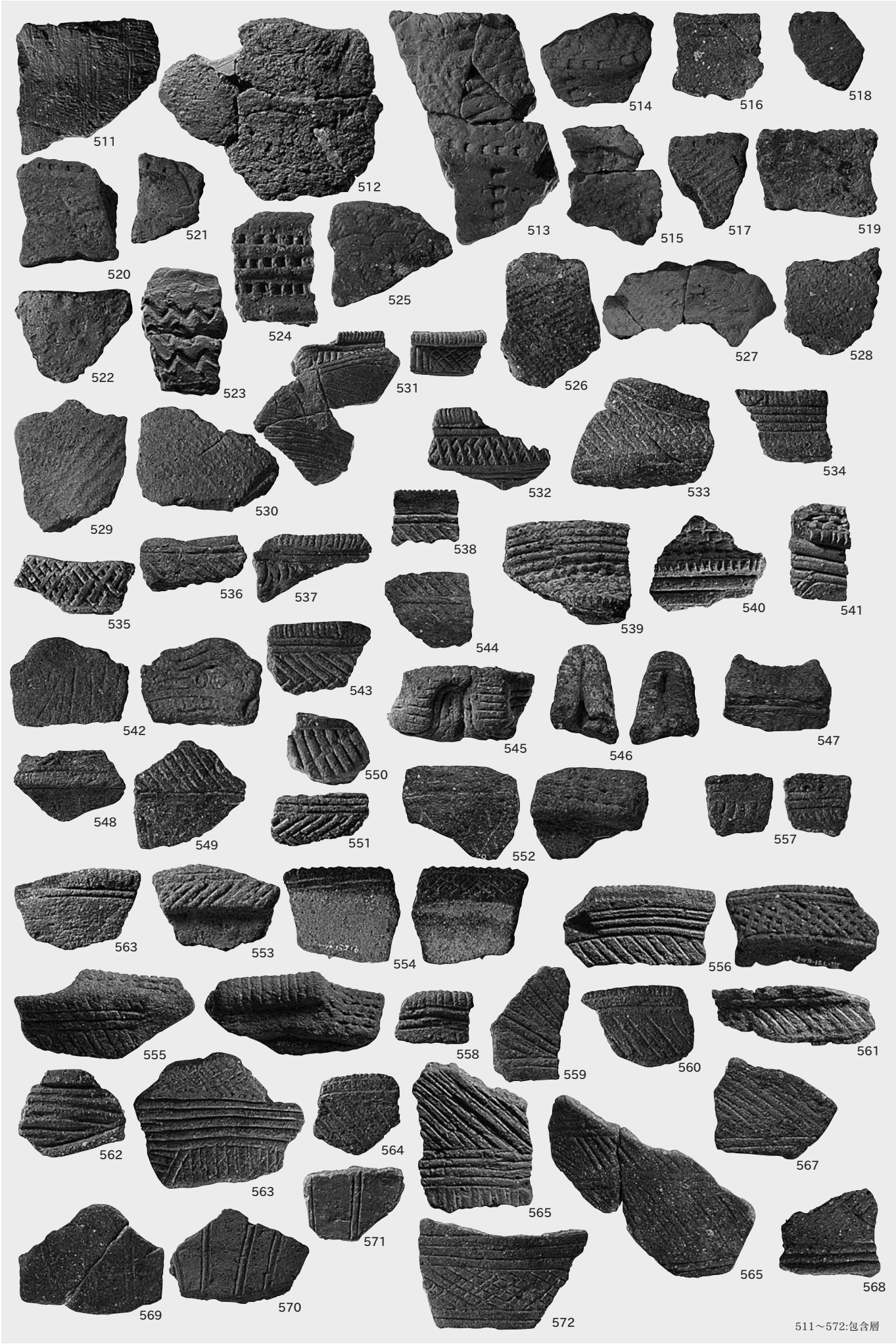
同 E-E'セクション

同 E-E'セクション

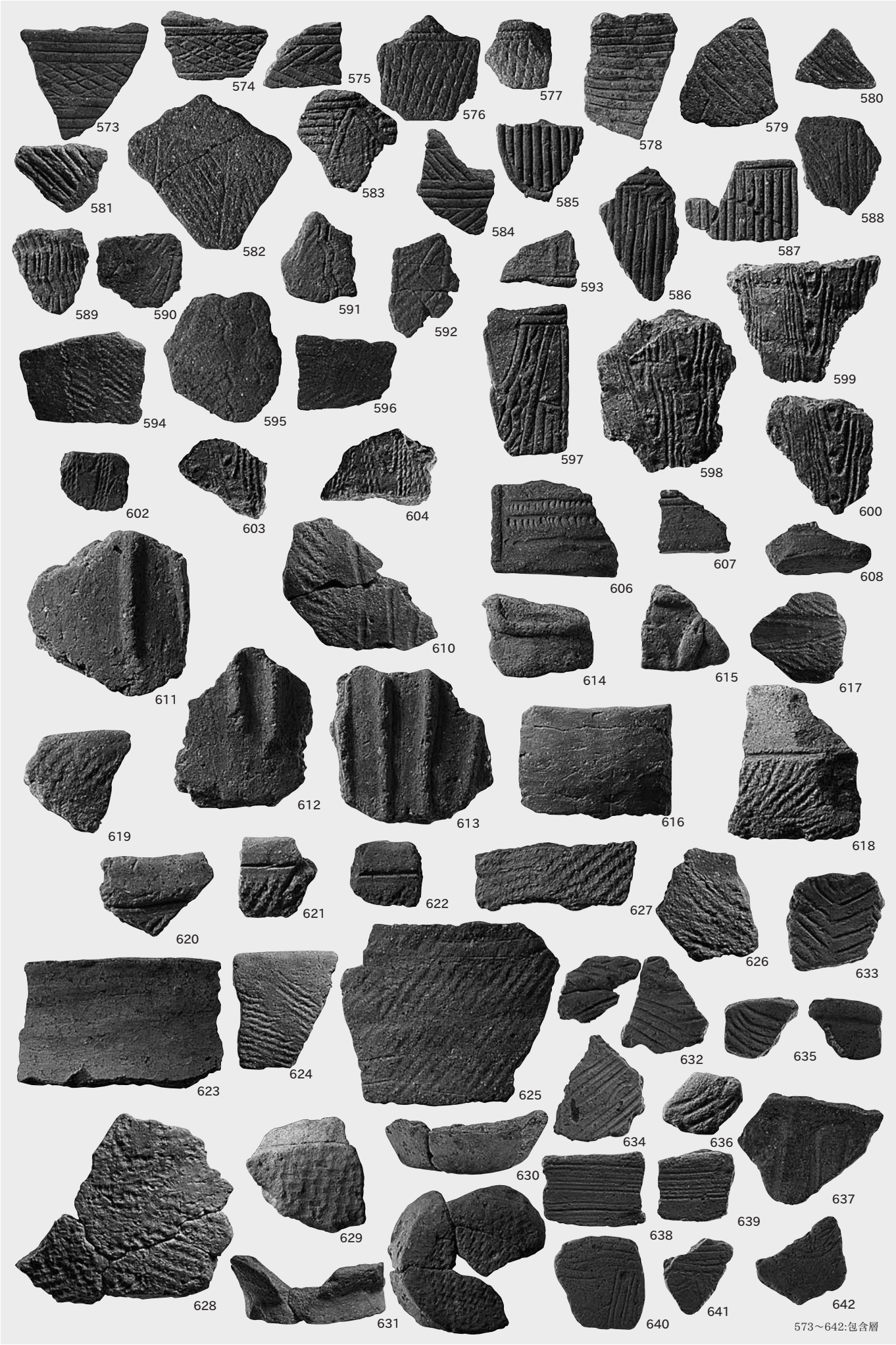

401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
401・402:95SK2
403～405:95SK7
413・97SK131
414・415:SK110
416・96SD2
417:95S11
418:97SK96
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
419～470:包含層


471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510

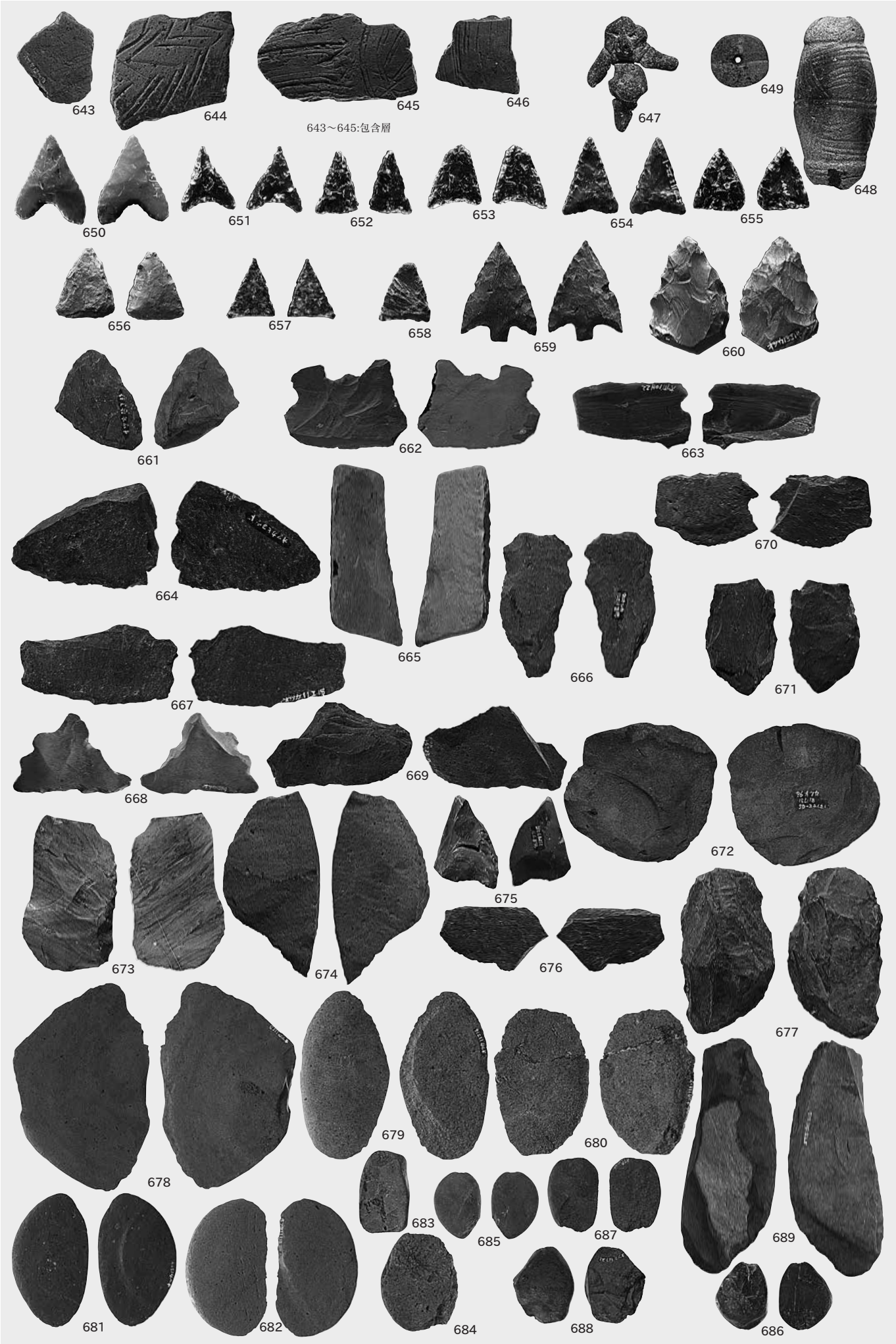
471～510包含層

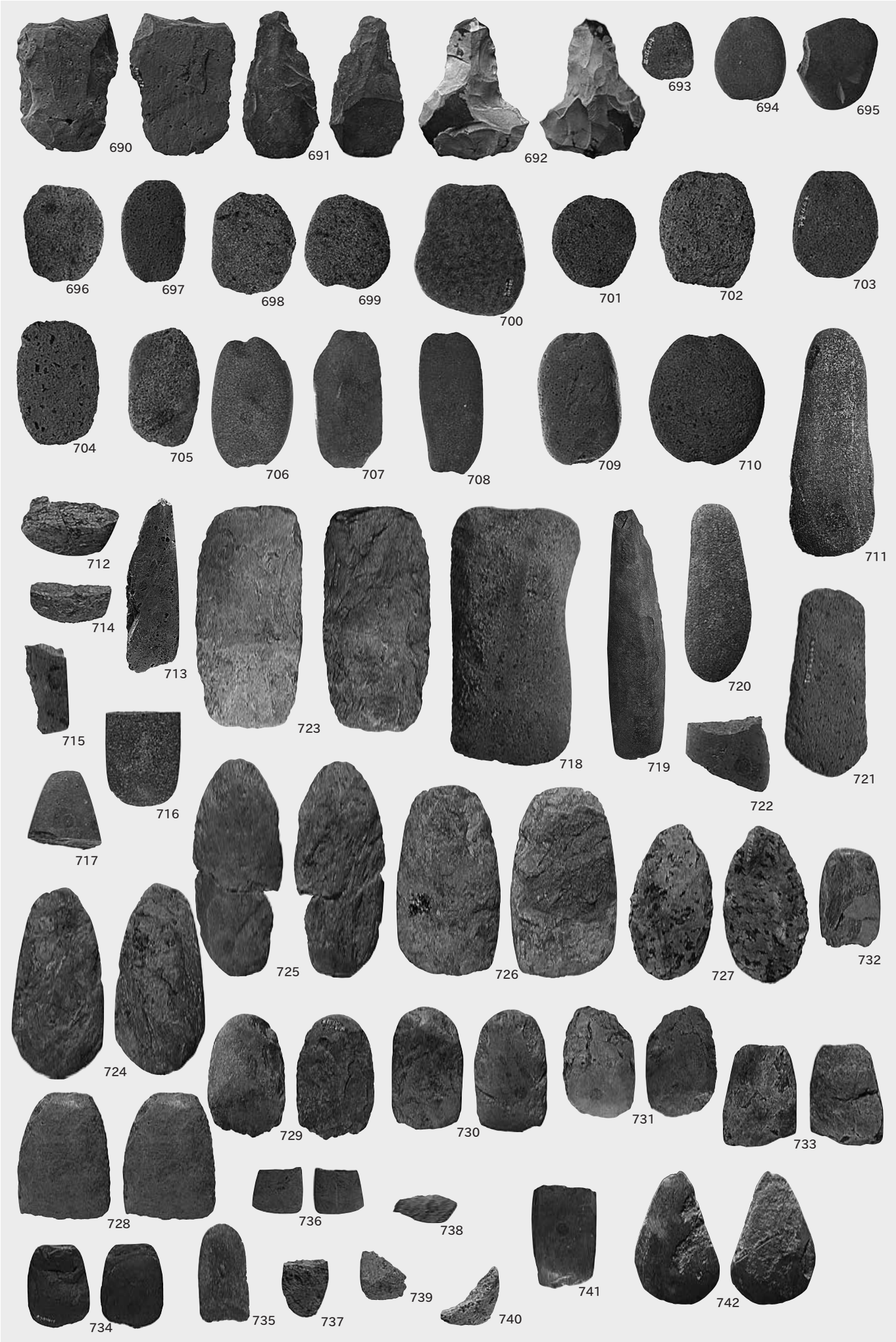

511
512
513
514
516
518
520
521
515
517
519
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
557
563
553
554
556
555
558
559
560
561
562
563
564
565
567
571
569
570
572
568

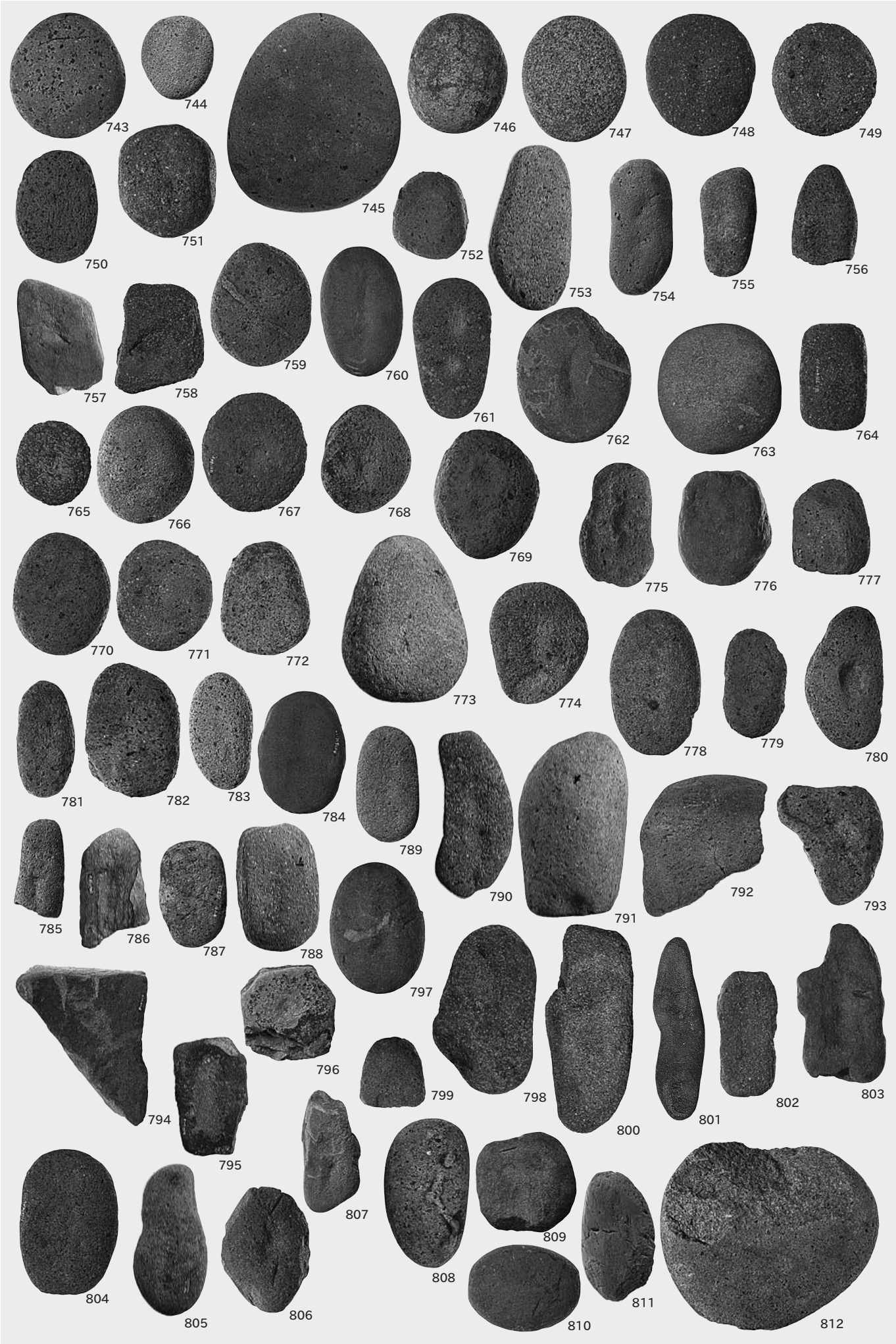
511～572:包含層

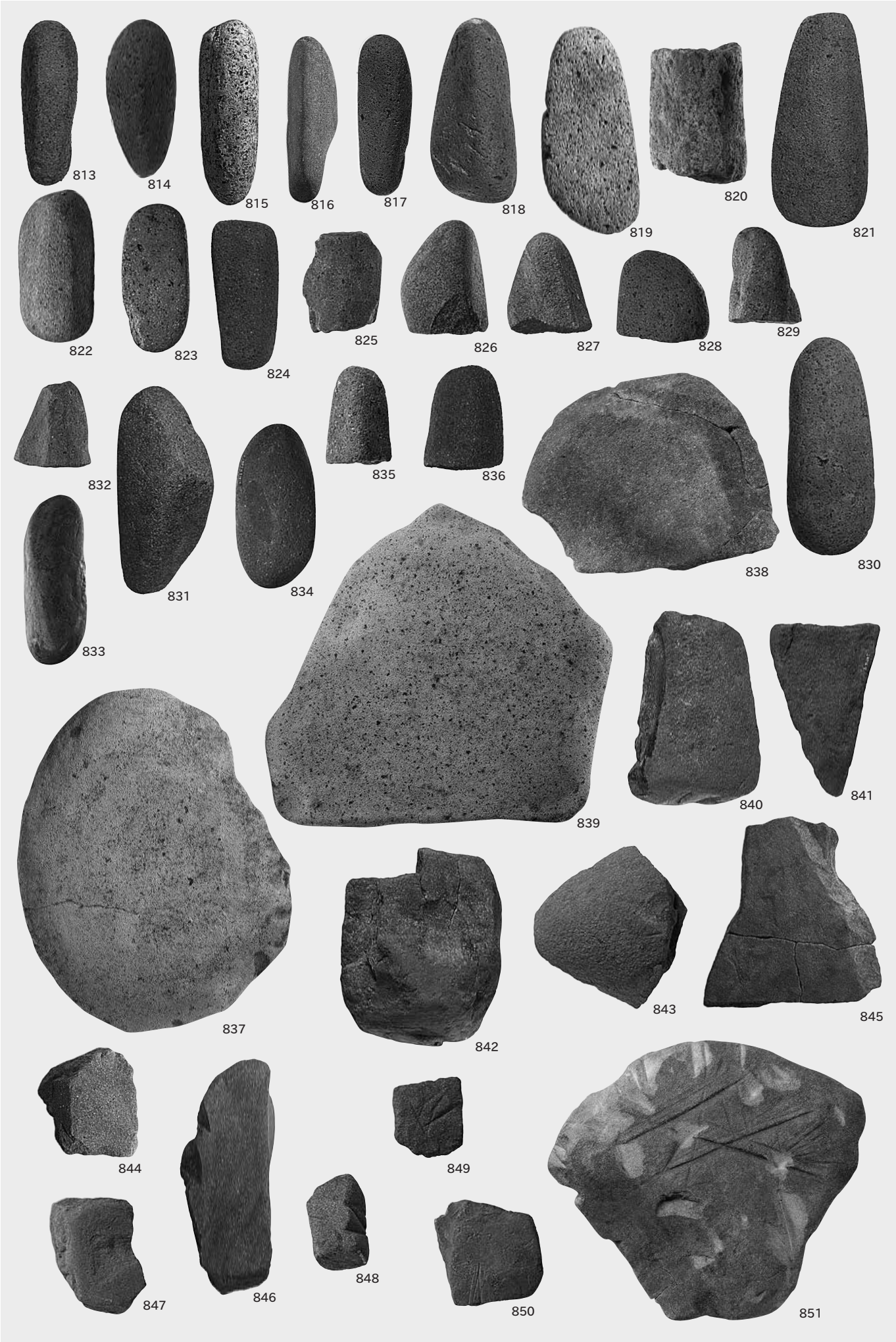

573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
602
603
604
606
607
608
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642

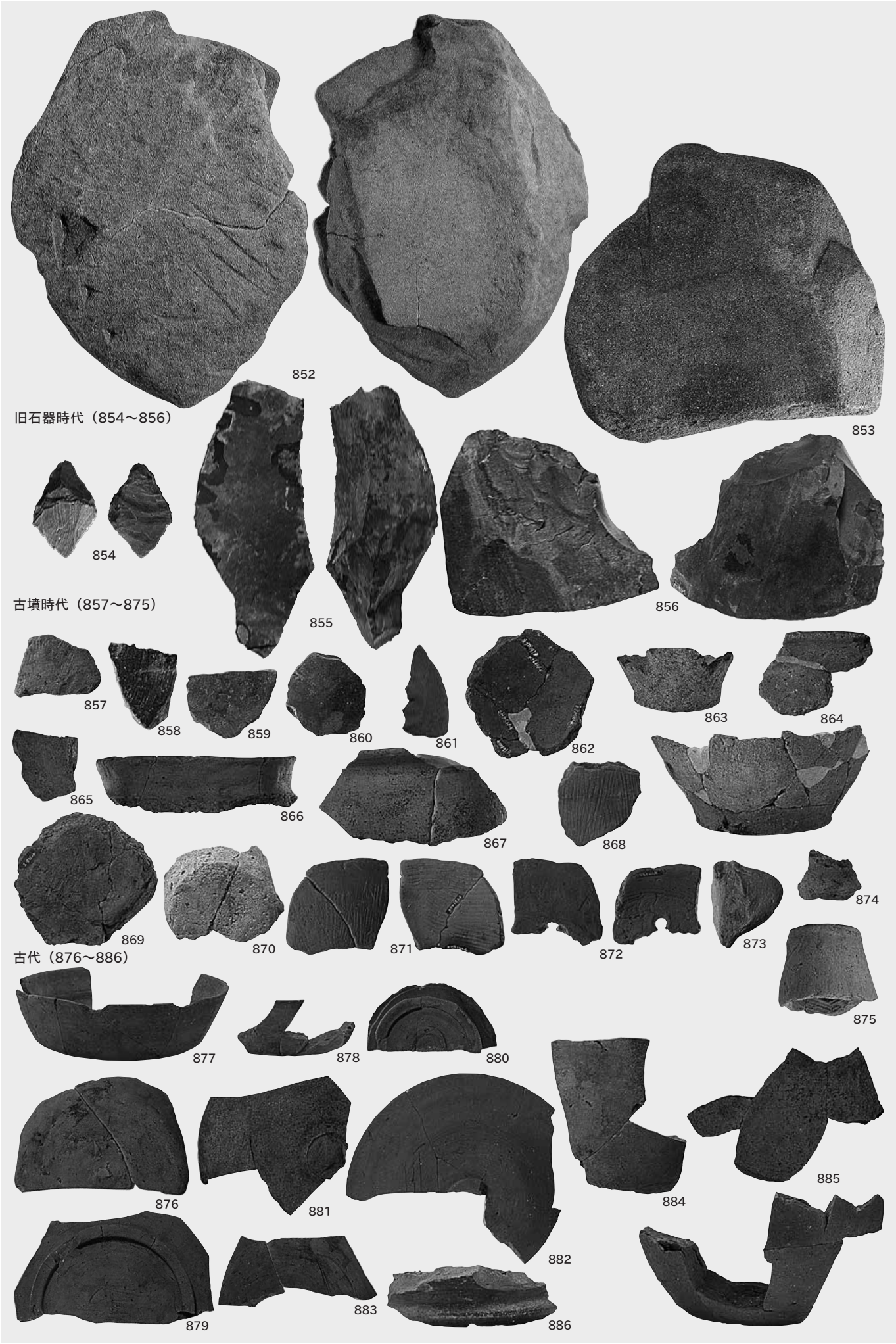
573～642:包含層


643
644
645
646
647
649
648
643～645:包含層
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689


690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742


743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812

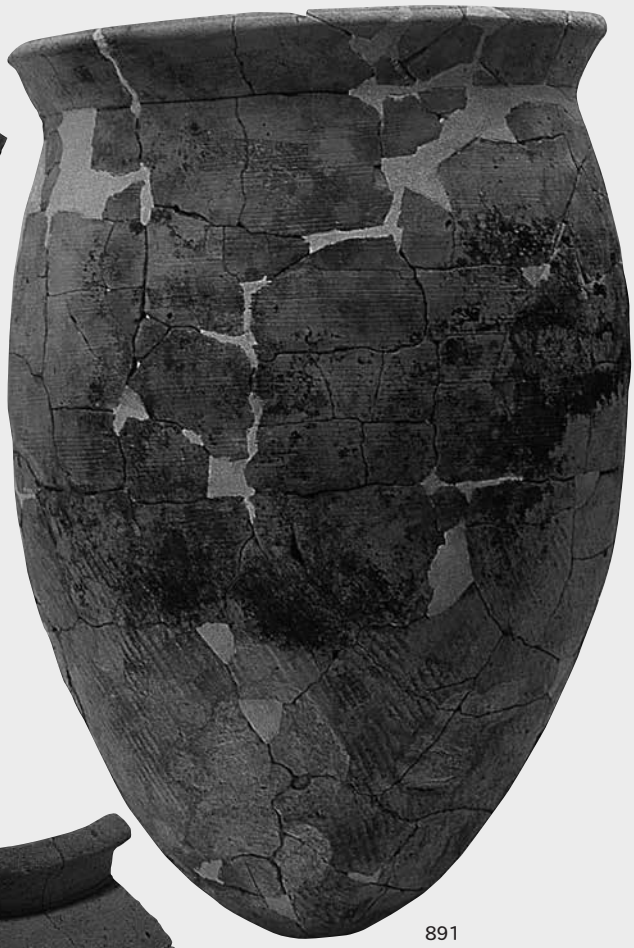

813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
841
842
843
844
845
846
847
848
849
850
851


852
853
旧石器時代（854～856）
854
855
856
古墳時代（857～875）
857
858
859
860
861
862
863
864
865
866
867
868
869
870
871
872
873
874
875
古代（876～886）
876
877
878
880
881
882
883
884
885
886
879

古代（887～891）

887

887


891

889

887

888

890

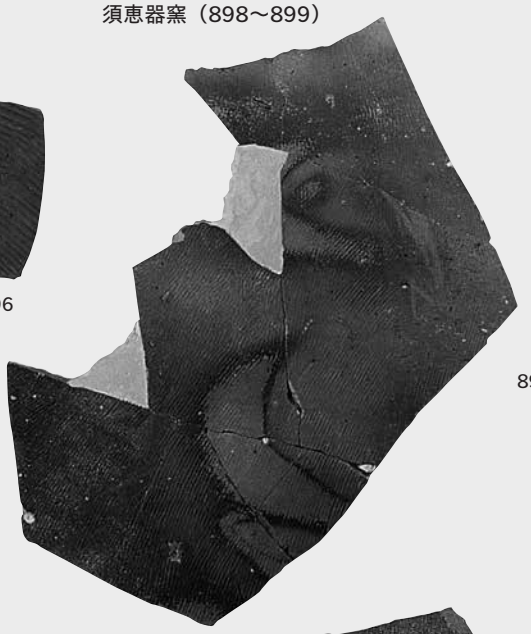
中世（892～897）

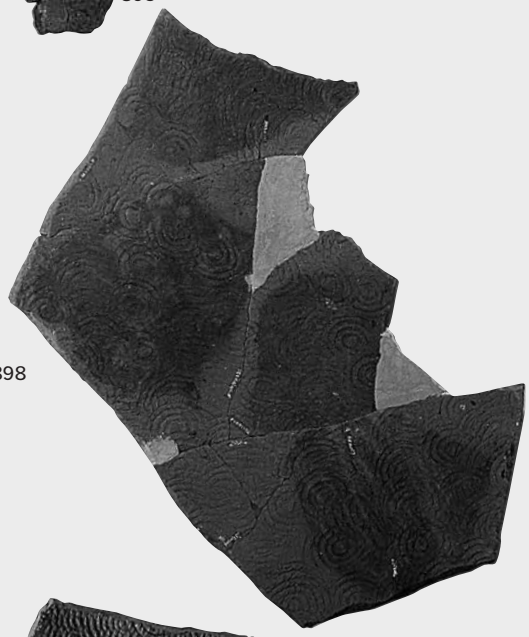
892

893

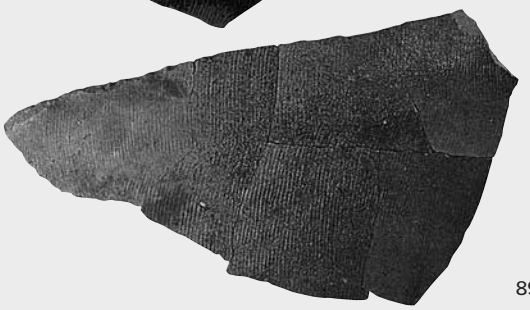
須恵器窯（898～899）

896

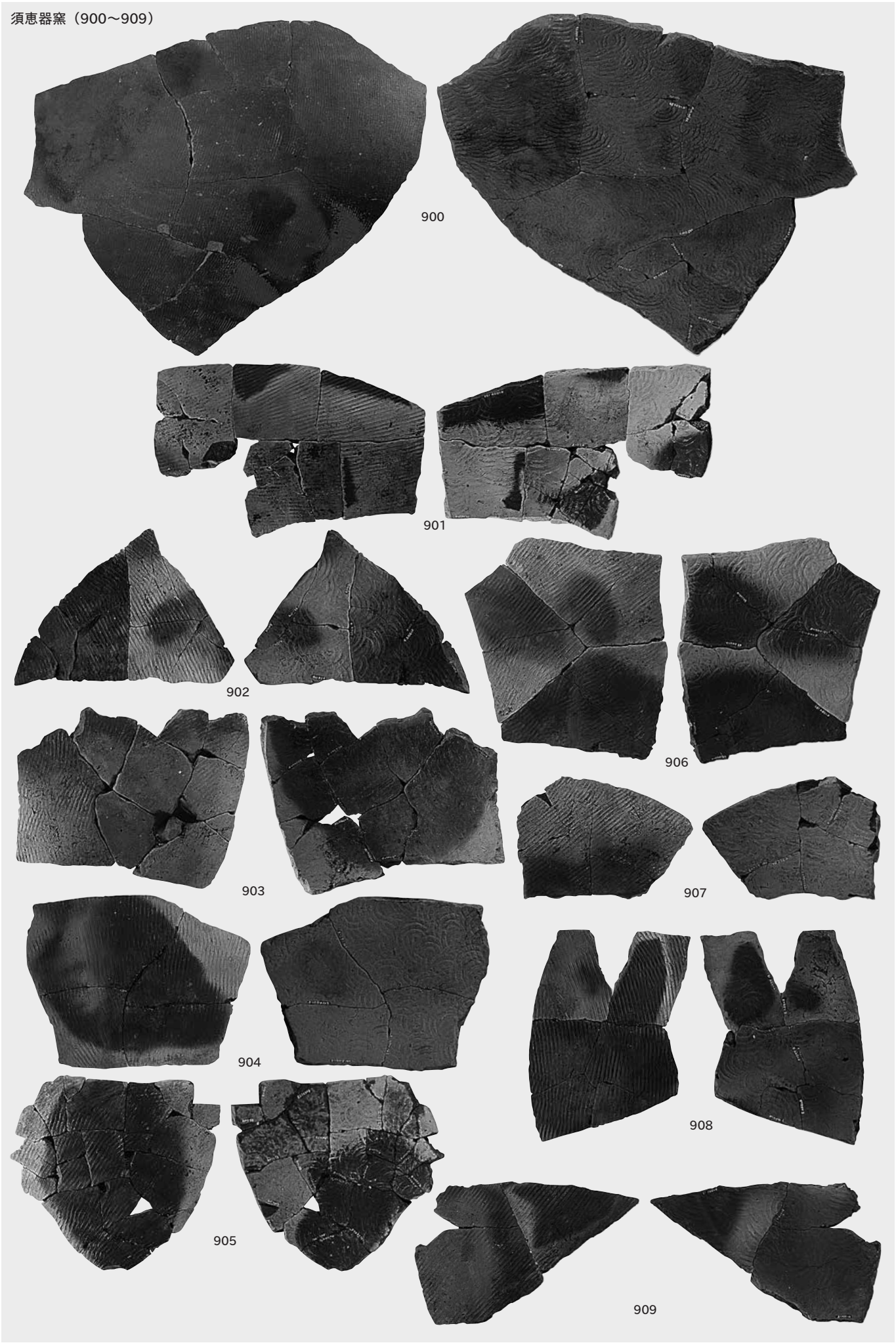

898



897


899

須恵器窯（900～909）



報 告 書 抄 録

ふ り が な	かいどういせき・おおつかいせき
書　　名	海道遺跡・大塚遺跡
副 書 名	上信越自動車道関係発掘調査報告書ⅩⅦ
巻　　次	
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第150集
編 著 者 名	高橋　保
編 集 機 関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
所　在　地	〒956-0845　新潟県新潟市金津93番地1　　TEL　0250（25）3981
発行年月日	西暦2005（平成17）年8月30日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
海道遺跡（かいどういせき）	新潟県上越市大字向橋字海道（にいがたけんじょうえつしおおあざむかばしあざかいどう） 1031－1ほか	15222	216	37度 05分 48秒	138度 13分 26秒	19950424～ 19950922 19960605～ 19960930	4,800 m²	上信越自動車道 建設工事
大塚遺跡（おおつかいせき）	新潟県上越市大字灰塚字大塚（にいがたけんじょうえつしおおあざはいづかあざおおつか） 834－1ほか	15222	244	37度 05分 22秒	138度 13分 33秒	19940725～ 19940810 19950913～ 19951110 19961028～ 19961204 19970414～ 19971114	14,300 m²	上信越自動車道 建設工事

所収遺跡名	種別	時期	主な遺構	主な遺物	特記事項
海道遺跡	集落跡	古代～中世・近世	掘立柱建物11、井戸62、土坑63、溝53、不明16、他ピット多数	土師器、須恵器、灰釉、珠洲焼、中世土師器、輸入陶磁器（白磁・青磁）、石製品（砥石・五輪塔・石鉢）、木製品、鉄製品（刀子・鏃）、植物種子（クリ、トチノキ、コメ、モモ）	
大塚遺跡	散布地	旧石器		ナイフ形石器1	
		縄文時代早期・前期・中期・後期	竪穴住居1（後期）、フラスコ状土坑6、土坑3、陥穴状土坑12	縄文土器、石器	
		弥生時代		土器	
		古墳時代中～後期		土師器	
		古代	須恵器窯1、竪穴住居1	須恵器、土師器	
		中世	溝3	珠洲焼	

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第150集

上信越自動車道関係発掘調査報告書ⅩⅦ

海道遺跡・大塚遺跡

平成17年8月29日印刷
平成17年8月30日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市新光町４番地１
電話　025（285）5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新潟市金津93番地１
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　長谷川印刷
〒950-2022 新潟市小針１丁目11番８号
電話　025（233）0321